

七 日米仲裁裁判条約ノ有効期間延長ニ関スル協約關係……………	五八〇
附録 日本外交文書大正二年第三冊日附索引	

事項一 加州ノ外国入土地法案及日本政府ノ抗議關係

一 一月六日 在桑港永井總領事ヨリ
桂兼任外務大臣宛

亞細亞人排斥協會長「トベトモ」処刑ニ関スル件

公第三号 (一月二十八日接受)

大正二年一月六日

在桑港

總領事 永井 松三(印)

外務大臣公爵 桂 太郎 殿

一昨年加州「ロスアンゼルス」市「ロスアンゼルス、タイムス」新聞社爆発薬使用破壊事件ニ発緒シ同地ニ於テ其犯罪嫌疑者ノ審判アルト同時ニ爆発物不法運搬ノ廉ヲ以テ在「インディアナ」州「インディアナ、ポリス」市合衆国法廷ニテハ同地ニ本部ヲ有スル鉄材建築工組合ノ組合長以下役員ヲ審判シ今回其多数ハ有罪ト決シ候処豫テ桑港市労働派中ノ一巨魁トシテ知ラレ亞細亞人排斥協會長ノ地位ニモアリタル「トベトモ」(O.A. [Vietmoe])ハ該不法運搬

ノ共犯者トシテ組合長ニ次ギテノ重刑禁錮六年ニ処セラル、コトト相成目下控訴手續中ノ由ナルモ既ニ一応収監サレ候亞細亞人排斥協會實際ノ事務ハ「ヨール」(Yoel)ナル書記ノ手ニテ処理サレ居候間引續キ存在可致今後「トベトモ」ニ代リ何人ガ協會長タルカハ未ダ知ラレザルモ桑港前市長タリシ「マカーシー」ガ同ジク労働派中ノ首領株トシテ「トベトモ」トハ肝胆相照シ居候事実ハ世人ノ知リ彼等モ自認シ居タルトコロニテ今回ノ処刑ハ右一味徒党ノモノニ打撃ヲ与ヘタルニ相違無之候此段及報告候 敬具

二 一月八日 在桑港永井總領事ヨリ
桂兼任外務大臣宛(電報)

外国人土地所有禁止法案ノ加州々々會提出阻止ノ為太平洋博覽会々社運動ノ件

第一号

「カリフォルニア」州々々會開會ノ為メ博覽会々社ハ前週以

一 加州ノ外国入土地法案及日本政府ノ抗議關係

来外国入土地所有權禁止法案提出防止ノ為メ議員遊説ニ全力ヲ尽シタルガ如ク昨日ノ如キ社長自ラ「サクラメント」ニ赴キ難物ト見做スベキ議員数人ト直談シタルニ州知事モ前回ノ州会ニ於テハ行懸リ上会社ト協力ノ態度ヲ示スコトヲ得ザリシガ今回ハ然ラズト内話シ其率ユル院内多数党ニテハ少数党タル「デモクラット」黨員ダニ提出セズバ会社ノ為メ有利ナル態度ヲ取ルベシト想像セラレ「デモクラット」党中ニテモ若シ桑港労働派選出議員納得セバ緘黙ヲ守ルベシト云フ議員多ク社長ハ此方面ニ手ヲ廻ハシツ、アリ幾分樂觀サルベキ模様ナルモ苦心ヲ要スベク更ニ尽力ト警戒ヲ社長ニ希望シ置キタリ

三 一月十六日 在桑港永井總領事ヨリ
桂兼任外務大臣宛(電報)

加州議會各種排日法案通過ノ見込ナシトノ豫想

ニ関スル件

別電 同日永井總領事發桂外務大臣宛電報
「バーゾオール」土地案其他排日法案要領報告ノ件

第五号

州会ニ當リ別電所載ノ以外ニ若干同種ノ法案提出セラルヘ

其他ノ法案ハ未タ内容ヲ確メ得サルモ Senator Sanford 案ハ「オクラホマ」州現行ノ法規ニ等シク市民ニ非サル者及外国人ヲ大多數ノ株主トスル会社ハ土地ヲ所有スルコトヲ得スト但現在所有ノモノハ此限ニ非ラス相續又ハ法律ノ結果トシテ土地ヲ獲得シタル者ハ五年間ヲ限り之ヲ所有スルコトヲ得ト規定シ同人カ前議會ニ提出シタルモノト大差ナク尚他ノ四案モ前二者大同小異ナリト云フ議案入手次第詳報スヘシ

四 一月二十二日 在桑港大山總領事代理ヨリ
桂兼任外務大臣宛

加州議會ニ於ケル外国入土地所有禁止、漁業税增加、隔離学校等ノ排日諸法案ニ関シ報告ノ件

公第二六号 (二月十二日接受)

大正二年一月二十二日

在桑港

總領事代理 副領事 大山 卯次郎(印)

外務大臣公爵 桂 太郎 殿

本月六日当加州々会開会后排日諸案ニ関スル情報ハ屢次電報ヲ以テ及御報告候通ニ有之当地博覧会々社ニ於テモ社長

一 加州ノ外国入土地法案及日本政府ノ抗議關係 四

二

キヤモ計リ難キモ州会内探者(日本人會書記 Walker 本年モ州会下院書記助役タリ)及ヒ其他ノ説ニ依レハ右各議員ノ選舉区ニ對スル關係上案ノ提出丈ハ止ムヲ得ザリシモ博覧會關係上數ニ於テ優勢ナル桑港議員ハ總テ反對ナルノミナラス「サンデエゴ」初メ南「カリフォルニア」州議員モ亦同様挙リテ反對スヘキ形勢ナルヲ以テ目下ノ所ニテハ先ツ通過ノ見込ナシトノコトナリ

(別電)

一月十六日永井總領事發桂外務大臣宛電報

「バーゾオール」土地案其他排日法案要領報告ノ件

(別電)

博覧會社ノ尽力忠告モ労働派及一部ノ議員ヲ説服スルヲ得ス州会上院及下院ニ土地法案各三提出セラル上院 Birdsell 案要領左ノ通り

總テ外国人ハ第一歸化證ヲ有スル者ノ外ハ土地ヲ所有スルコトヲ得ス租借地ハ此限ニアラス抵当又ハ裁判ノ結果土地ヲ所有スルコトハ妨ナキモ右ノ方法ニ依リ所有シタル土地ハ五年以内ニ売却クニアラサレハ没収セラルヘシ

以下全力ヲ注ギテ排日案殊ニ土地案ノ提出ヲ防止セント試ミタルモ其効ナク法案提出開始後最初ノ二日間ニ於テ既ニ六ケノ土地所有權禁止案ノ提出ヲ見タルハ曩ニ当方第五号別電ヲ以テ申進置候処其後モ漁業税増加隔離学校案等排日ノ性質ヲ帶ヒタル法案続出シ今日迄ノ処ニテハ左記ノ通りニ有之候

上院第五号 外国人土地所有禁止案

一月十三日「リッチモンド」選出 E. S. Birdsell 提出司法委員付托

民法第六百七十一条ノ修正案ニシテ米國市民タルノ宣言ヲナサザル即第一歸化証ヲ有セサル外国人ハ相續其他ノ方法ニ依リ土地及之ニ關スル權利ヲ取得スルコトヲ得ス但シ借地ハ本法ノ制裁ヲ受ケズ

本法ハ外国人ガ裁判ノ結果トシテ土地ヲ取得シ並ビニ土地ニ對シ抵當權ヲ設定シ又ハ差押ヘ等ニ依リ之ヲ取得スルコトヲ妨ゲザルモ右ノ方法ニ依リ取得シタル土地ハ取得後五年以内ニ之ヲ放売スルヲ要シ之ニ違反スルモノハ州ニ没収セラルト規定セリ

上院第二十七号 外国人土地所有禁止案

一月十三日「ユカヤ」選出 J. B. Sanford (民主党) 提

三

出同日司法委員付托米國法ニ依リ米國市民タルベキ資格ヲ有セザル外國人又ハ右ノ如キ外國人カ資本ノ大部分ヲ所有スル会社ハ加州ニ於テ土地ヲ所有スルコトヲ得ズ
本法ハ上記ノ如キ外國人又ハ会社ノ現ニ所有スル土地ニシテ現所有主ノ手ニ繼續所有セラル、間ハ之ヲ適用セズ
上記ノ如キ外國人又ハ会社ガ今後相續又ハ法律施行ノ結果トシテ取得シタル土地ハ其取得ノ日ヨリ五ヶ年間之ヲ所有スルコトヲ得

一、上記ノ如キ外國人又ハ会社ニシテ本法ノ規定ニ違反シテ土地ヲ所有スルモノハ檢事又ハ市民ノ告訴ニ依リ之ヲ公売ニ附シ訴訟公売等ノ費用ヲ控除シタル殘額ハ所有者ノ請求ニ依リ之ヲ還附ス

一、本法ノ制裁ヲ免レン為メニシタル不正ノ売買讓渡等ノ契約ハ無効ニシテ土地ハ州ニ沒收スト規定シアリ
前期議會ニ於テ容易ニ上院ヲ通過シ下院ニ於テ議事法ノ懸引キニ依リ稍クニ通過ヲ免レタル上院委員修正案ト全然同一物ナリトス

上院第六十條 相續

一月十三日 E. S. Birdsall (共和党) ノ提出同日司法委員付託

二ヶ年其他ノ土地ハ一ヶ年ヲ超過スルモノハ凡テ無効トスト規定セリ

下院第一百十三号

一月十四日 Yreka 選出 Wm. B. Shearer (民主党) 提出司法委員付託

「サンフオード」提出ノ上院第二十七号案即チ前期議會ノ上院委員修正案ト同一物ナリ

下院第八十三号

一月十四日 Sacramento 選出 Hugh B. Bradford (民主党) 提出司法委員付託

一、歸化權ナキ外國人及ビ如上ノ外國人カ大多數ノ株主タル会社ハ相續抵当其他法律施行ノ結果ニ依ルモノノ外土地ヲ所得所有スルコトヲ得ス

一、如上ノ外國人及会社ニシテ相續其他前項ニ於テ許サレタル方法ニ依リ土地ヲ取得シタルモノハ取得後一ヶ年又未成年者ハ成年ニ達シタル後一ヶ年迄之ヲ所有スルコトヲ得ルモ右期間經過後本法ニ違反シテ之ヲ所有スルモノハ之ヲ公売ニ処ス云々

一、如上ノ外國人及会社ニ對シテハ農業地ハ三ヶ年市内地区ハ五ヶ年以上土地ニ關スル契約ヲナスコトヲ得ズ

民法第四百〇四條外國人ノ遺産相續ニ關スル件ヲ改正シ民法第六百七十一條ノ規定ニ從ヒ相續ヲナスコトヲ得ト規定シ同人ノ上院第五号案ニ伴フモノトス

下院第十号

一月十三日 Redley 選出 L. B. Cary (共和党) 提出司法委員付託

一、外國人ハ加州内ニ土地ヲ取得所有スルコトヲ得サルモ動産ニ關シテハ米國市民カ其國ニ於テ國法又ハ條約ニ依リ享有シ得ルト同一ノ權利ヲ享有ス

一、現ニ外國人ノ所有スル土地ハ同一所有主ノ手ニ在ル間ハ本法ノ制裁ヲ受ケズ

一、今後相續讓渡売買等ニ依リ土地ヲ取得シタル外國人ハ取得後五ヶ年間之ヲ保有スルコトヲ得

一、本法ニ違反シテ土地ヲ所有スルモノハ之ヲ公売ニ付シ法廷其他ノ費用ヲ控除シタル殘額ハ地主ニ返還シ本法ノ制裁ヲ免レン為メ虚偽ノ讓渡等ヲナシタルモノハ之ヲ州ニ沒收ス

一、取締手續略ス

一、外國人トノ土地ニ關スル契約ニシテ市区内ノ土地ハ

右ノ期間ヲ超過スル契約ハ凡テ無効トス

一、本法ハ土地カ現ニ如上ノ外國人又ハ会社ノ所有スル土地ニシテ現所有主其妻及其子女ノ所有竝ニ現所有会社ノ所有ニ屬スル間ハ之ヲ適用セズ

下院第百〇一号 漁業稅增加案

一月十四日 Richmond 選出 T.D. Johnston (共和党) 提出狩漁委員付託

現行ノ漁業稅法ヲ改正シ漁業ヲ營マントスルモノハ漁業鑑札ヲ所有セザルヘカラズ鑑札ハ米國市民ハ一人二弗五十仙外國人ニシテ歸化權アルモノハ一人拾弗外國人ニシテ歸化權ナキモノハ一人百弗ト規定セントセルモノトス

下院案(号不明) 漁業稅增加

一月二十一日「ソラノ」選出 B.F. Rush (共和党) 提出狩漁委員付託

前項下院第百〇一号案ト大差ナカルベシ

議案入手ノ上再報スベシ

下院隔離學校案

提出サレタル旨新聞ニ記載アリタルモ詳細ヲ知ラズ追テ詳報スベシ

上院第四百十六号 土地所有禁止案

一月二十日 Tulare 選出 E.O. Larkins (共和党) 提出
内容未明ナルモ 他案ト大同小異ナルベク 追テ詳報スベシ

上院聯合決議案第八号

一月二十日「サンフオード」提出

合衆國議會ニ提出サレタル Raker 移民法案ノ通過ヲ希望スル旨ヲ決議セントスルモノナリ

下院聯合決議案第六号

一月二十日 Shearer 提出合衆國關係委員付托

上院決議案第八号ト同一ナリ

以上

以上諸法案中下院第十号 Cary 土地法案ノ外ハ悉ク帰化権ナキ外人ヲ主眼トシ全然排日ノ趣旨ニ出テ到底黙過スベキ性質ノモノニ無之博覧会社々長及重役ノ言ニヨレバ此種排日法案殊ニ土地法案ハ決シテ通過ノ見込ナク上下兩院多數党ノ首腦ニシテ且ツ否認権ヲ有スル知事モ決シテ之ヲ通過セシメザルベキヲ明言シ且又民主党首領株モ之ガ通過ヲ迫ラザルベキヲ明言シタル由ニ有之目下ノ狀況ニ於テハ敢テ悲觀スルノ理由ヲ認メズ候得共近來民主党ハ中央政權

ト競争ノ途ナク到底支持シ得ザルモノ大多數ナルベク特ニ同案ハ理由ナク帰化権ヲ有セル外人ト之レ無キモノトヲ區別シ偏頗ナル課税ヲナサントスルモノナレバ目下當業者モ本官間接ノ援助ノ下ニ漁獲物仲買商等本件ニ重大ナル關係ヲ有スル白人ヲ通ジテ反對運動ヲ試ミツ、アリ

最後ニ隔離學校案ハ未其内容ヲ悉知シ得ズ候ヘ共前議會ニ提出サレタルモノト大差ナキカ如ク本案ハ目下成年日本人ノ通学スルモノ殆ンドナク唯一ノ故障ノ事實消滅シタルタメ一般不人氣ノ案トシテ之ヲ顧ミルモノ少ク此際斷ジテ通過ノ恐無之哉ニ思考セラレ候モ世人ノ注意ヲ惹クコト少キニ乘シ地方的排日熱ニ驅ラル、モノ選舉民ニ對スル申訳案トシテ之カ通過ヲ試ミルヤモ難計是亦充分監視致居候

尚本期議會ハ客年十一月二十九日附機密第十八号報告ノ通り前年憲法修正ノ結果一月六日開會後第一期期ヲ三十日トシ其後三十日ヲ超エザル間休會ノ上再び開會スル事ト相成候処第一期期中ニ於テハ法案ノ提出及ビ之カ調査ノ外最終議決ヲナスヘキヤ否ヤニ関シ兩院トモ論議アリタルモ本月二十一日上下兩院トモ第一期期中ハ州憲法第四章第一条中規定ノ事項即チ選舉投票ニ関スル件徵稅州經常經費ノ査定支出並ニ公安及衛生維持ノ為メ緊急ヲ要スル件ニ関スル法

ノ掌握ト共ニ漸次勢力ヲ挽回シ當州々會ニ於テハ少數党タルニ拘ハラズ鼻息甚ダ荒ク事多數党ノ專決ニ反對ヲ試ミツ、アレバ今後党争ノ結果排日案ノ如キハ如何ナル道具立テニ使用セラルルヤモ難計其經過ニ對シテハ寸時モ注意ヲ怠ラザル処ニ有之殊ニ Cary 案ノ如ク一般外人ニ適用サレ法文上毫モ排日ノ氣味ナキモノハ往々有識者ノ間ニ於テモ之ニ左袒スルモノ多ク博覧会々社員ノ如キモ今議會ニ於テハ決シテ排日の土地所有禁止案ヲ通過セシメザルヘキモノ一般外人ニ適用サル、モノニシテ毫モ排日ノ臭氣ヲ帶ビザルモノハ通過スルヤモ不被計又此ノ如キ法律ニ對シテハ日本ニ於テモ別ニ反對ノ理由ナカルベシト稱シ居レリ勿論 Cary 案ノ如キハ法文上排日ノ言句ナク一見抗議ノ余地ナキモノノ如シト雖モ他ノ外国人ハ帰化ニ依リ容易ニ之ガ制裁ヲ免レ得ルノ方法アリト雖モ日本人ハ然ラズ結果ニ於テハ毫モ純排日案ト異ナル所ナキモノナレバ是亦充分注意監視致居リ候

尚漁業稅增加案ハ土地案ノ如ク重大ナラズト雖モ目下加州内ニテモ日本漁夫數百名ニ達シ石油發動機船漁網等ヲ備ヘ相當ノ發達ヲナシツ、アリ候処目下ノ拾弗ノ税金十倍シ百弗トナルニ於テハ税金額ノ少キ市民及帰化権アル外国漁夫案ニ對シテノミ最後議決ヲナスベキコトヲ決議セリ從テ排日案ノ如キハ第二期ニ入ラザレバ議決ノ虞全然無之コトト相成候間右機御諒承相成度尚今後提出ノ議案及委員會ノ報告等ハ隨時可及御報告候

右報告申進候 敬具

追テ本報告並ニ本件ニ関スル電報及報告ハ總テ在華府珍田大使ヘモ同時ニ報告致置候間為念申添候也

五 一月二十三日 在案港大山總領事代理ヨリ
桂兼任外務大臣宛(電報)

第九号 排日諸法案ノ加州議會議決見込及提出増加ノ件

當州上下兩院トモ第一期期中ニハ特ニ緊急ヲ要スル議案ノ外ハ之ヲ議決セサルコトヲ議決セリ從テ各種ノ排日案ハ第二期ニアラサレハ最後ノ議事ニ上ルコトナシト思考ス又上院ニ前報ト大同小異ノ土地法案一、下院ニ漁業稅增加案二個即チ市民二弗半外国人十弗帰化権ナキ外人百弗トナスモノ及離隔學校案一、上院ニ Raker 移民法案ノ通過ヲ中央議會ニ希望スル旨ノ合同決議案提出サレタリ

六 一月二十四日 桂兼任外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛(電報)

加州排日諸法案ニ関スル取扱振ニ付桑港及沙市
領事宛電訓ノ件

第一号

在桑港及ヒ「シャトル」領事ヘ左ノ通電アリタシ
州議會ニ顯ハレタル排日の諸法案ノ經過常ニ駐米大使ト本
省トニ報告セラルヘキハ勿論時々同大使ト必要ノ打合ヲ遂
ケラレ同法案ノ運命ニ関シ我レニ取り莫一ノ遺算ナキコト
ヲ期セラルヘシ尚ホ同案ニ対スル貴官ノ御見込大使及当方
ヘ電報アレ

七 一月二十五日 在桑港大山總領事代理ヨリ
桂兼任外務大臣宛(電報)

加州排日諸法案ニ対スル觀察回報ノ件

第一〇号

貴電第一一号ニ関シ博覽會会社及内探者ノ報告并ニ一般ノ
形勢ニ徴スルニ東洋人排斥ヲ目的トスル諸法案殊ニ同目的
ノ土地法案ハ目前ニ博覽會ヲ控ヘタル此際寧ロ不人氣ナレ

八 二月四日 加藤外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛(電報)

加州排日諸法案ノ運命ニ関スル所見問合ノ件

第一七号

往電第一一号ニ関シテハ閣下ニ於テモ種々御配慮中ナルヘ
キハ勿論ノ儀ナルモ此際右諸法案ノ運命ニ関スル閣下ノ御
見込承知シタキニ付キ電報アリタシ

九 二月五日 在米國珍田大使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

加州排日諸法案防止ニ関スル措置及見込回申
ノ件

第十六号

貴電第十七号ニ関シ排日諸法案ノ防止方ニ付テハ豫テ國務
省当局者ト打合ハセノ結果隨時當館ヨリ關係領事ノ報告ニ
係ル本問題ノ經過ヲ同省ニ内報シ同省ニ於テハ当方ノ希望
ニ応セン為メ及ブ限り尽力中ニテ現ニ二月三日國務長官ヨ
リ加州議會ノ某有力議員ニ書面ヲ送り從來「ローズベル
ト」及「タフト」氏ノ執リタルト同様ノ論旨ヲ以テ排日法
案防止ノ必要ヲ切言シ尚ホ若シ加州ニ於テ日本人ニ土地所

有權ヲ禁止セバ日本ハ一昨年二月二十一日付内田大使ノ國
務長官宛公文ニ明記セル留保ニ基キ米國各州ニ對シテ相互
主義ヲ執リ外國人士地所有權ニ關スル法律適用ヲ加州人ニ
拒絕スルニ至ルコトアルベシトノ点ヲモ指摘シ置キタルガ
他ノ一方ニ於テ近日桑港博覽會ノ当地駐在代表者ニ對シテ
モ夫々適當ノ措置ヲ執ル筈ナル由蓋シ當局者ノ内話ニ依レ
バ此際一昨年ト同様大統領ニ於テ加州知事ニ對シテ迫ヲ試
ムルモ中央政府ト加州トノ間ニ於ケル党派其他ノ關係上前
回ト全ク形勢ヲ異ニセル今日ニ於テ到底其功ヲ奏スル見込
ナキノミナラズ反テ州政干渉ノ端ヲ啓クモノトシテ地方ノ
反感ヲ招キ反對ノ結果ヲ生ズル虞アリト認メ成ルベク間接
ノ手段ヲ以テ目的ヲ達セントスル方針ナルガ如シ要スルニ
加州及華盛頓州ニ於ケル排日法案防遏ノ為メ中央政府ノ誠
實ニ努力シツ、アルハ疑ヲ容レザル所ニシテ尚今後本使ニ
於テモ百方手段ヲ尽スベキハ勿論ナルモ其終局ノ効果ニ至
リテハ乍遺憾懸念ニ堪ヘズ唯加州ニ關シ稍々望ミヲ屬スル
ニ足ルハ本邦ニ於テ桑港博覽會贊同ニ要スル豫算未タ帝國
議會ヲ通過セサル今日同地方一般人民ガ右博覽會ニ對スル
帝國ノ態度ヲ憚ル傾向アルヲ利用スルニアリト思考ス就テ
ハ此方面ニ於テ加州排日法案ノ氣勢ヲ牽制スルニ相当ノ方

法ナキヤ御考量ヲ仰キ度ク又國務省当局者ハ此際日本國ニ於テモ土地所有權法ノ速ニ実施セラレシコトヲ希望シ前記國務長官加州議員宛書面ニ申添ヘタル論點ハ右実施ニ依リ多少重キヲ為スニ至ルベシト云ヘリ御參考迄

一〇 二月七日 在桑港大山總領事代理ヨリ
加藤外務大臣宛

加州排日法案ニ對スル同州議會ノ形勢報告ノ件

公第三八号

(三月一日接受)

大正二年二月七日

在桑港

總領事代理 副領事 大山卯次郎(印)

外務大臣男爵 加藤高明 殿

排日案ニ對スル当州々會ノ形勢ニ関スル其後ノ模様ハ大体ニ於テ前報ト大差無之博覽會々社ニ於テ各政党ノ重立チタル者ニ對シ此際右種類ノ議案ヲ通過セシメザル様説得セルト共ニ兩院ニ於テ多數党タル共和黨進歩派ヲ率ユル当州知事ヨリモ此際斷ジテ排日案ノ通過ヲ許サザルベシトノ誓約ヲ得置キタル趣ニ有之且ツ南加州議員中ニハ大体ニ於テ排

ナル統率者アリテ特ニ同問題ニ抛リテ巧ニ排日諸案ヲ防止スルノ熱心アルニアラザレバ博覽會問題ハ始ヨリナキニ等シク排日空氣ハ遂ニ故障ナク院内ヲ風靡スベシ而シテ實際上院内ニ於テ斯ル熱心有力ナル統帥ヲ得ルコト困難ナルカ如キヲ以テ是非共真摯ナル知事ノ努力ヲ待チ其率フル多數議員ノ勢力ヲ借り出来得ベクンバ委員會ニ於テ握潰ノ策ヲ講シ置クコト肝要ナルベシ右ノ方針ヲ以テ地上充分ナル尽力ト警戒トヲ博覽會々社長ニ依頼シ尚為念政治上有力ナル關係方面ヨリ知事ニ對シ運動スベク目下其目論見中ニ有之候只茲ニ注意ヲ要スベキハ少數党タル民主黨議員ノ行動ニシテ彼等ハ本期議院内共和黨進歩派ノ專斷ニ對シ極メテ不快ノ感ヲ抱キ共和黨旧「メシン」派中ノ或ル分子ト氣脉ヲ通ジ事毎ニ反抗ノ氣勢ヲ示シ排日案ノ如キハ適當ナル攻道具トシテ之ニ利用セラル、カ如キ虞アリ或ハ本問題討議ノ場合ニ臨ミ為メニ意外ノ惡變化ヲ来スコトナシトモ難計シ然レトモ同時ニ又第二期開會中排日案討議ノ頃ハ恰モ民主黨大統領就任後ナルニ付萬一ノ場合ニハ却テ民主黨中央政府其他同黨幹部ヨリ或ル種鎮壓運動ノ余地ヲ生スベキヤトモ想像致サレ候

尚ホ市民権ヲ獲得スル能ハザル外人漁夫ニ對シ百弗ノ課

日ノ空氣ヲ有セザルノミナラズ排日ノ中心タル桑港議員ハ博覽會トノ關係上此際排日案ノ通過ニ熱心ナラザル等ノ事情モアレバ今後多少ノ曲折ハ可有之モ結局案ノ通過ハ之ヲ防止シ得ベキヤニ愚考致候尤モ議員ノ多數ハ所謂「ポリチアン」ニシテ政治ヲ以テ一種ノ商売トナスモノナレバ其決シテ常軌ヲ以テ律スベカラザル者ナル事ハ云フ迄モ無之且ツ又議院内ニ於テハ機ニ応シ變ニ臨ミ門外漢ノ窺ヒ難キ種々ノ駢引モアルコトナレバ時ニハ予期シ難キ意外ノ結果ヲ見ルコトモナキニ非ス殊ニ彼等ノ内ニハ選舉運動ニ際シ選舉人ニ對シ排日誓約ヲ為シタル者モ少カラズ是等議員ニ在ツテハ日本人ニ對シ明白ニ好意ヲ表スルカ如ク解釈セラルベキ行為ヲ為スコトハ其政治上ノ立場ニ於テ頗ル苦痛トスル所ニ有之党ノ首領ト雖モ右事情ヲ無視シ彼等ニ對シ是等個人ノ利害ヲ度外セシムル事ハ或ハ困難ナルベク時ノ模様ハ周囲ノ關係如何ニヨリ何時如何ナル變化ヲ来スヤモ難計決シテ樂觀ハ出来間敷ト被存候現ニ我内偵者(当地日本人會書記ニシテ現州會下院書記長助役「トーマス、デー、ウオーカー」)ノ語ル所ニヨレバ日本人ニ對スル議員全体ノ空氣ハ前期州會當時ニ於ケルヨリモ一層險惡ノ徵アリトノコトナレバ仮令博覽會問題アリト雖モ議院内有力

稅ヲナスベシトノ漁業法案ニ對シテハ我當業者組合長ヲシテ直接ノ利害關係者タル魚類問屋及事業地ノ商業會議所ヲ動カシ表面當國人ノ名ニ於テ別ニ運動ヲ試シシメ置キ候処目下ノ処ニテハ大抵防止シ得ヘキ形勢ナリトノ情報有之候但シ本案ハ萬一通過致候トモ日米條約及當國憲法上ヨリ爭議ノ余地充分可有之被考候將又中央議會ニ對シ支那人排斥法ヲ全亞細亞人ニ適用セントスル Raker 案ノ可決ヲ望ムトノ建議案カ上下兩院ヲ通過致候義ハ曩ニ電報セシ通ニシテ精神上甚ダ好マシカラザル次第ナルモ右ハ實際ニ於テ我ニ對シ何等直接ニ効果ヲ生スルモノニ無之博覽會々社ニ於テモ斯クノ如キ問題ニ對シ余リ積極的ニ運動致候コトハ却テ得策ニアラストナシ極メテ之ヲ輕視シタルノ觀有之現ニ同社長ハ之ヲ以テ That is nothing ト申居候当地日本人社会ニ於テモ差シタル影響ヲ認メズ

右及御報告候 敬具

一一 二月十五日 在桑港大山総領事代理ヨリ
加藤外務大臣宛

加州議會排日法案防止運動ニ関スル件

公第四〇号

(三月七日接受)

大正二年二月十五日

在桑港

総領事代理 副領事 大山卯次郎(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

排日案ニ対スル州会ノ状況ニ関シテハ本月七日付公第三八号ヲ以テ及御報告置候処同案防止方ニ関シテハ其後博覧会側ニ於テモ常ニ当方ト意志ノ疏通ヲ保チ充分尽力警戒致スベキ筈ニ有之右目的ヲ確實ナラシムル為メ今回新タニ副社長「アール、ビー、ヘール」外四名ヲ右特別委員ニ任命シ社長ヲ助ケテ専ラ排日案ノ防止ニ尽力セシムル事ニ相成候而シテ右委員長「ヘール」ハ嘗テ渡日実業団ノ一員トシテ本邦ニ渡航シタル事アリ当館トハ極メテ密接ノ關係ヲ有セル親日人物ニシテ当地ニ於テ有力ナル実業家ナルト共ニ政治方面ニモ多大ノ關係アリ殊ニ労働派トモ少カラザル關係ヲ有スル者ニシテ右委員ノ任命ハ本運動上極メテ有効ナルヘシト存候尚ホ一方ニ於テ当地商業會議所ノ主催ニテ来

八日当地商業會議所州會議案委員會ニ於テ「当州会ニ提出中ノ多數議案ハ明ニ当州在留日本人及支那人ノ現状ヲ打破セントスルモノナルヲ以テ当商業會議所ハ斯ノ如キ議案ニ反対シ其成立ヲ防止スルガ為メ適當ノ措置ヲ執ルベシ」トノ決議ヲナシ又昨二十日午後当州商業會議所及商人団体聯合会ニ於テモ東洋人土地所有禁止案ニ反対ノ旨決議致候趣ニ有之候尚ホ同會議所要部ノ者ヨリノ内話ニヨレハ今後同會議所ニ於テハ充分右議案ノ成行ニ注意シ博覧会々社ト共ニ右決議ノ趣意ヲ実行スル筈ナリトノ事ニ有之候尚右議案通過防止方ニ付当州知事ニ於テ充分ナル尽力ヲ為スベキ旨同知事ヨリ誓約ヲ得置キタル趣ハ博覧会社長及同幹部ノ者等ヨリ屢々聞ク処ニ有之間違ハ有之間敷候モ出来得ベクンバ他ノ方面ヨリ同知事ノ意嚮ヲ確メ置キ度彼是苦慮罷在候処最近当地ノ有力ナル実業家ニシテ政治上ニ於テ同知事ト關係浅カラザル「シー、エイチ、ベントレー」氏(極メテ親日ノ人ニシテ石井大使通商局長トシテ渡米ノ節当地商業會議所長トシテ歡迎ノ任ニ當レリ)ヲ通シ聞ク処ニヨレバ同知事ハ東洋人排斥案ハ今期州会ニ於テ断シテ其通過ヲ許サザルベシト云ヘリトノ事ニ有之候大体上如此形勢ニアラ以テ右議案ノ通過スルカ如キコトハ萬ナカルヘシト

方実業家代表者会有之続テ同二十日同一目的ノ為メ当州商業會議所聯合会開催ノ筈ニ付当地商業會議所議員ヲシテ右機會ヲ利用シ排日案防止ノ為メ尽力セシムルコトヲ得バ其効果少カラザルベシト存ジ会頭及書記長等ト懇談相試候処何レモ之ニ快諾ヲ与ヘ当該委員ト共ニ充分尽力スベキ旨ヲ答ヘ候

右不取敢及御報告候 敬具

一二 二月二十一日 在桑港大山総領事代理ヨリ

牧野外務大臣宛

加州商業會議所ハ排日法案ニ反対シ之ガ防止ノ

措置ヲ執ルベキ旨決議シタル件

公第四四号

(三月十三日接受)

大正二年二月二十一日

在桑港

総領事代理 副領事 大山卯次郎(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

本件ニ関シテハ続次公信及電報ヲ以テ及御報告置候処去十

ハ存候モ議院内ノ事ハ中々門外漢ニ推測シ難キ事多ク前報具申ノ如ク議場ノ駈引其他周回ノ成行等ニヨリ如何ナル變化ヲ生スルヤモ難計ニ付油断ハ決シテ難相成ト存候
右及御報告候 敬具

註 右等ハ三月二十二日付送第七二号ヲ以テ山本首相宛ニ又同時ニ松井次官ヨリ送第二一八号ヲ以テ波沢榮一及中野商業會議所会頭宛ニ参考ノ為送付

一三 二月二十六日 在桑港大山総領事代理ヨリ

牧野外務大臣宛

排日派議員「サンフォード」華府へ出張ニ付同氏ニ

対スル施策考慮方希望ノ件

附屬書 同日附大山総領事代理宛珍田大使宛機密各公

第四号等
同右件

機密公第二号

(三月十九日接受)

大正二年二月二十六日

在桑港

総領事代理 副領事 大山卯次郎(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

本件ニ関シ別紙写ノ通在華府珍田大使へ及報告置候間右様御承知相成度此段申進候 敬具

(附屬書)

写

機密各公第四号

大正二年二月二十六日

在桑港

總領事代理副領事 大山 卯次郎

在米

特命全權大使子爵 珍田 捨己 殿

民主党上院議員「サンフォード」華府へ出張ノ件

当州々会上院ニ於テ每期諸排日案ヲ提出シ今回モ亦市民権ヲ有セサル外国人士地所有禁止案ヲ提出シ所謂排日派議員ノ驍將トシテ知ラル、同院民主党議員 John B. Sanfordハ貴府ニ於テ来ル四日挙行セラルベキ新大統領就任式並ニ其翌日開催セラルベキ同党全国委員会ニ加州同党代表者ノ一人トシテ参列ノ為メ明二十七日当地出發ノ趣ニ有之候而シテ当州々会ニ於ケル排日議案ノ運命ハ主トシテ同党議員ノ活動如何ニヨルモノト信セラレ候ノミナラズ同氏ハ実ニ右活動者ノ重ナル者ト目セラレ居候ニ付若シ右ノ機会ニ於テ中央政府側ヨリ同議員ヲ動カシ同氏ヲ通シテ今期州会

一四 三月六日 牧野外務大臣ヨリ
在桑港大山總領事代理宛(電報)

加州排日諸法案ノ前途ニ関シ隨時電報方訓令ノ件

第四号

排日の諸法案ノ前途ニ関シ何等注意スヘキ新發展アラバ大体ノ模倣及御見込当方及珍田大使へ電報セラレタシ

一五 三月六日 牧野外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛(電報)

米國政府ニ對シ太平洋沿岸諸州ノ排日諸法案阻止ニ付申入方訓令ノ件

第二五号

新大統領ノ就職及政府ノ交迭ニ伴ヒ太平洋沿岸諸州ニ於ケル排日の諸法案ノ成立防止ニ関シ萬一ノ遺算ナキヲ期スル為メ閣下ハ最近ノ機会ニ於テ大統領若クハ國務長官ニ面會シ我希望ヲ披瀝シ機宜ノ措置ヲ切望スル旨申入置カレタシ

ニ於ケル同黨議員ノ活動ヲ制肘スル事ヲ得バ排日氣勢ヲ鎮撫スル上ニ於テ其効果尠カラザルベシト被存候間右ニ付何分ノ御考量ヲ煩ハシ度希望致候將又同氏今回ノ出張カ右以外ニ何等用務ヲ有スルニアラサルヤハ承知難致候ヘトモ同氏ハ過般来当地移民局長タラン事ヲ希望シ居候由風聞致居候ニ就テハ此種獵官運動モ亦或ハ右旅行目的ノ一ニアラサルヤヲ疑ハレ候尤モ同氏ノ如キ排日經歷顯著ナル人物ガ特ニ当地ノ如キ地方ニ駐在スベキ中央政府ノ官吏トシテ任用セラル、カ如キコトハ日米ノ国交ヲ重スル中央政府ニ於テ之ヲ敢テスヘントハ想像致兼候ノミナラズ如何ニ党派政治ノ当國ト雖モ現任移民局長(任期四ヶ年ニシテ今後約二年ニテ満了スベシ)ガ職務上何等ノ失態アルニアラスシテ俄ニ右運動ノ犠牲ニ供セラルベシトモ思ハレス候ヘトモ同議員ハ当州民主党員中ノ先輩ニシテ同黨中ニ可ナリノ勢力ヲ有スル趣ナレバ中央政府ノ党略如何ニヨリテハ強ガチ其拔擢ヲ見ルコトナントハ云ヒ難キヤニモ被存候
右為御參考及御報告候 敬具

一六 三月六日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州排日諸法案阻止ニ関シ新大統領へ希望申入ノ件

附記

三月十三日珍田大使發牧野外務大臣宛電報第三一号
右希望國務長官へ申入ノ件

第二九号(抄)

(前略) 次ニ大統領ハ常ニ日米ノ親交ヲ念トスル旨ヲ語レルニ付其ノ機会ニ乘シ本使ハ兩國間ノ關係カ目下極メテ親善ナル狀態ニ在ルヲ切言シ唯當國一部方面中今尚日本國ニ對スル誤見ヲ抱ク者アルハ本官ノ解スルニ苦シム所ニシテ從來日本側ニ在リテハ終始當國ニ好意ヲ有シ日本ノ桑港博覽會ニ參同ノ如キモ主トシテ國交ノ親善ヲ顧念スルノ意ニ外ナラサルニ拘ハラス太平洋沿岸ノ州議會ニ於テハ現ニ幾多排日ノ性質ヲ含ム法案ノ繫屬スルアリ若シ此等法案ノ通過スル如キコトアレハ其ノ影響ノ重大ナルヘキヲ思ヒ深く憂慮ナキ能ハス就テハ可成速カニ國務長官(「ダブリュ一、ジー、ブライアン」)トモ面會シ篤ト本件ニ関スル意見ヲ交換シタキ考ナルモ大体ニ於テ新行政部モ從來ノ行政部ト同ジク兩國ノ親交ニ顧ミ適當ノ手段ヲ尽シテ排日法案

ノ防止ニ努力セラレンコトヲ切望スル旨ヲ述ヘタルニ大統領ハ本使ノ所言ニ謝意ヲ表シ只当國々体上中央政府ハ各州ノ憲法上ノ權利ニ干渉スルコトヲ得サルモ米國政府ニ於テハ及フ限りノ勢力ヲ用テ本使ノ期待スル目的ノ為メニ斡旋スルコトヲ辭セスト答ヘタリ

〔附記〕

三月十三日珍田大使發牧野外務大臣宛電報

排日諸法案阻止ニ関シ國務長官ヘ申入ノ件

第三一號

三月十三日國務長官ニ面会ノ上往電第二九號所載ノ大統領ニ述ヘタルト同一ノ趣旨ヲ繰返シ太平洋沿岸州議會ニ於ケル諸排日法案ニ付詳細ノ説明ヲ与ヘタルニ國務長官ハ常ニ日本國ニ對シ深厚ナル好意ヲ有スルコトヲ切言シ適法ナル手段ノ範圍内ニ於テ本使ノ述ヘタル目的ノ為尽力スヘキ旨ヲ答ヘラレタリ

一七 三月七日 在桑港大山總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州排日諸法案其後ノ形勢回申ノ件

クトモ之ヲ煽動セサル様説得セシムルコトヲ得ハ最モ有効ナルベシト信スルニ付大使ニハ大統領就任式参列ノタメ当州「デモクラット」党「サンフォード」等ノ華盛頓ニ出張スルニ際シ右ノ方法ニ関シ御考量ヲ請フ旨申立置ケリ(二月二十六日機密拙信)尚拙電第一七號内地商業會議所ヨリ当地商業會議所宛排日案防止運動依頼ノ件ハ今後商業會議所ノ運動ヲ奨励スル上ニ於テ矢張有効ナルニ付御考量アリタシ迅速院内ノ情報ヲ求ムルコトニ付テハ既ニ十分ナル手配其他萬事注意シ遺算ナキヲ期ス

註 1及2共ニ省略セリ其内容ハ前掲二月二十一日付大山總領事代理發公第四四號(一二文書)ニ詳シ

一八 三月八日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州排日派議員「サンフォード」ニ對スル側面

運動ノ件

第三〇號

「カリフォルニア」州上院ニ於ケル排日派議員ノ領袖トシテ知ラルル「サンフォード」ガ現ニ当地ニ滞在中ニ之有レハ同人ヲ動カシ排日ノ氣勢ヲ鎮撫センカタメ本使ノ考量ヲ

第二一號

貴電第四四號ニ関シ休会中ハ豫期ニ反シ極ク少数ノモノカ其ノ直接關係アル問題ニ付多少研究ヲ試ミタル外多クハ棄テテ顧ミス排日案ノ如キモ拙電第一九號決議ノ外是非ノ議論ヲ聞カス大体ノ形勢ニ何等變化ナク博覽會ハ寧ロ樂觀ノ態度ヲ持シ目立チタル運動ヲナサス今後ノ成行ヲ注視シ居レル模様ナリ又聯合會ノ反對決議ハ単ニ団体トシテノ意嚮ヲ發表シタル迄ニテ參加団体個々ニ運動ヲナシタル模様ナキモ博覽會及商業會議所ハ好時機ニ於テ反對運動ノ材料トシテ使用スルニ至ルヘク第二期開始ノ上ハ各代表者ヲ「サクラメント」ニ派遣シ形勢ニ応シテ極力運動ヲ試ムルコトトナリ居リ有力者ハ決シテ偏頗ノ議案ヲ通過セシメサルヲ声言シ居レルカ二月二十一日發拙信公第四四號所報ノ通り知事モ断シテ排日案ヲ通過セシメサルヘシトノコトナリ從テ最後ノ運命ハ之ヲ確知スルニ由ナキモ大概前回同様時ニハ危險ノ状態ニ立チ至ルコトアルヘキモ結局知事及中央政府ノ鎮庄等何等カノ手段方法ニヨリ之ヲ防止シ得ヘキニ至ランカト思考スルニ付テハ此際新大統領又ハ「デモクラット」党中央幹部ヨリ「カリフォルニア」州同黨議員ヲ鎮庄シ排日主動者タル彼等ヲシテ其ノ鋒ヲ収メシムルカ諒

請フ旨在桑港總領事代理ヨリ二月二十六日附書面ヲ以テ申出タルニ對シ三月八日左ノ通り同官ニ電報セリ

桑港往電第一三三號機密第四四號貴信ニ関シ「ワシントン、ポスト」ノ主筆ニシテ「桑港博覽會ノ当地代表者タル Benet」ハ豫テ國務長官ノ内意ヲ受ケ「カリフォルニア」州排日法案防止尽力中ナルカ幣原参事官ニ於テ知合ノ間柄ナルヲ利用シ三月六日同官ヲシテ「ベンネット」ニ面会セシメ夫レトナク「サンフォード」ノ動靜ヲ探ラシメタルニ「ベンネット」ハ偶々「サンフォード」ヨリ会见ノ申込ミヲ受ケ居ル旨ヲ語り多分獵官運動依頼ノ目的ナルベシト云ヘルニ付幣原ハ本邦新聞紙ノ報スル所ニヨレハ日本ノ桑港博覽會參同ニ要スル豫算案ハ今回帝國議會ニ提出セラレタル所目下「カリフォルニア」議會ノ形勢ニ顧ミ本邦ニ於テハ該經費支出ニ對シ有力ナル反對論アルカ如ク此際加州排日法案ノ成立ヲ見ルニ至テハ右豫算案ハ否決セラルヘキ模様アリ又幸ニ可決セラルルモノトスルモ人民一般ニ熱心ナル同情ナキ以上ハ博覽會參同ハ到底満足ナル結果ヲ期シ難キ事ト思考セラルル旨一己ノ觀測トシテ述べタルニ「ベンネット」ハ至極御尤ノ次第二付直ニ「サンフォード」ニ對シ会见ノ上篤クト説得ヲ試ムヘシト答ヘタリ更ニ三月八日

「ベンネット」カ幣原ニ語ル所ニ依レハ同氏ハ豫定ノ通り「サンフォード」ニ面談シ排日運動ニ關係スルノ愚ヲ痛言シタルニ「サンフォード」ハ能ク其意ヲ諒トシ只右法案ハ「カリフォルニア」議會議員多数ノ意嚮ヲ代表スルモノナルニ付恐ラク遂ニ通過スルナラント察セラルルモ自分ハ桑港ニ帰着ノ上ハ議會カ日本人ノ疑懼ヲ挑発スルカ如キ言動ヲ防止センガタメ十分尽力スヘク又同僚カ該法案ノ握潰シニ異議ナキ限リハ自分モ異議ヲ唱ヘザルベシト答ヘタル由ナリ右「サンフォード」ノ所言ハ果シテ同人ノ真意ヲ示シタルモノナルヤ速断シ難キモ「ベンネット」ノ觀測ハ同人ニ多少印象ヲ与ヘタルコトト思ハル

一九 三月 八 日 在桑港大山總領事代理ヨリ
加州排日諸法案ノ概要報告ノ件
牧野外務大臣宛

附屬書 加州排日諸法案一覽表

公第五四号 (三月二十八日接受)

大正二年三月八日

ニシテ貸借ニ關シテハ何等言及スルコトナク上院第五号案ニハ抵当其他法律ノ結果ニ依ルモノノ外土地及之ニ對スル諸種ノ權利ヲ取得スルヲ得ストアリ相續ニ依ル取得ヲモ許ササルモ本案ハ単ニ不動産所有權トアリ又相續ヲモ許シ居レルカ被禁者中ニ外国人ヲ多数株主トスル会社ヲ含マシメタリ是又司法委員付托

上院案四百九十九号

一月二十一日「ソラン」選出 B.F. Rush (共和党)ノ提出ニ係ハル漁業税增加案ニシテ前報告ノ下院第百〇一号ト同一物ナリ狩漁委員付托

下院案第六百二十九号

一月廿二日「サン、ラフェール」選出 Charles W. Byrnes (共和党)ノ提出ニ係リ外国人漁業禁止案ニシテ加州ニ於テ漁業ニ従事セントスルモノハ鑑札ヲ所持セザルベカラズ而シテ右ノ鑑札ハ一ヶ年以上加州ニ在住シ且ツ下付出願一ヶ年前ニ米国市民タルベキ宣誓ヲナササルモノ即チ第一帰化證ヲ有セザルモノ及ビ加州ニ於テ成立セザル会社ニハ之ヲ下付セスト規定セントスルモノニシテ其影響ヲ受クルモノハ單ニ日本人ノミニアラズ他方面ノ反対モ甚シク到底通過ノ虞ナキガ如シ

一 加州ノ外国人士地法案及日本政府ノ抗議關係 一九

在桑港

總領事代理 副領事 大山卯次郎 (印)
外務大臣男爵 牧野伸顯 殿

当期加州議會ニ提出サレタル諸排日案ニ關シテハ最初入手ノ分ハ一月廿二日付第二六号信ヲ以テ其内容報告致置キ候処其後入手調査シタルモノ左記ノ通ニ有之候

下院案第百九十四号

一月十四日「ネバダシチー」選出 George B. Finnegan (民主党)ノ提出ニ係ハリ民法第六百七十一條ヲ改正シテ外国人ノ土地所有權ヲ制限セントスルモノニシテ上院第五号案ト全然同一物ナリ司法委員ニ付托セラル

上院案第四百十六号

一月廿日「チュラー」郡選出 E.O. Larkins (共和党)ノ提出ニ係リ民法第六百七十一條ヲ修正シ市民又ハ第一帰化證ヲ有スルモノハ加州内ニ動産及不動産ヲ取得シ保有シ又ハ讓与スルコトヲ得ルモ外国人及ビ外国人ガ資本ノ大多数ヲ所有スル会社ハ今後法律ニ規定セル相續抵当等ノ結果ニ依ルモノノ外加州内ニ在ル不動産ノ所有權ヲ取得スルコトヲ得ズ尚前記ノ方法ニ依リ取得シタルモノモ五年以上之ヲ所有スルコトヲ得ズト規定セントスルモノ

上院案第四百三十九号

二月三日「アラメダ」選出 George I. Hans (共和党)ノ提出ニ係リ魚類及野獸卸売業者ニ對スル營業鑑札料增加案ニシテ現行法規ニ依レバ市民又ハ第一帰化證ヲ有スルモノハ毎年五弗外国人ニハ二十弗ナルヲ前者ハ拾弗外国人及会社ハ百弗トセントスルモノニシテ之ガ為メ受クル日本人ノ影響ハ漁業税増加ノ如ク大ナラズト雖モ本件ハ明カニ條約違反ノモノト信セラレ日本人營業者ノ苦痛ハ少カラザルベシ狩漁委員付托

下院案第四百四十三号

二月一日「チロ」選出 John H. Guilf (民主党)ノ提出ニ係リ前項上院第四百三十九号案ト同一物ナリ狩漁委員付托

上院案第三百三十七号

二月一日「アラメダ」選出 George I. Hans (共和党)ノ提出ニ係リ外国人ニ商業ノ為メニスル狩獵ヲ禁セントスルモノニシテ排日ノミニ目的ニ出テタルモノニアラズ且ツ日本人トシテハ影響殆ンドナキモノナリ

下院案第七百六十九号

二月三日「ホルト」選出 H.W. Brown (共和党)ノ提

出ニ係リ前項上院第千三百三十七号案ト同一物ナリ

下院第四百六十七号

一月廿日 Helier 選出 H.W. Moorhouse (共和党) 提出
Political Code 第十六百六十二條ヲ改定シ小学校修年限ヲ改正セントスルモノニシテ其中ニ学校管理官ハ不潔又ハ伝染病等アル学生ヲ退校セシメ又「インデアン」「ニグロ」及支那人又ハ「モンゴリア」血統子女ノ為メニ隔離学校ヲ設立スルコトヲ得若シ隔離学校設立ノ場合ニハ前記ノ児童ハ普通学校ニ入学スルコトヲ得ズトノ字句アリ現行法規モ亦類似ノ句ヲ含ミ単ニ「ニグロ」ヲ加ヘタルノミ此際殊ニ排日ノ手段トシテ提出サレタルモノニハアラザルモノノ如クナルモ黑人種間ニハ盛ニ反對運動ヲ試ミツ、アリ学務委員付托

上院第四百六十八号

一月二十日「オレンデ」選出 John N. Anderson (共和党) 提出前項下院第四百六十七号案ト同一

上院第五百八十五号

一月二十二日「ロサンゼルス」選出 W. J. Cary (共和党) 提出、前記二案ト略同一ニシテ「ニグロ」ノ句ヲ削除シ是ノ点ニ於テ現行ノ法規ト同一

下院第千八百三十四号

二月四日「サンノゼ」選出 L.D. Benedict (共和党) 提出前項同様

上院第八百〇四号

一月二十七日「ユカヤ」選出 J.B. Sanford (民主党) 提出ニ係ル酒類販売取締法ニシテ本法ニ規定スル鑑札ヲ有スルモノニアラザレバ酒類ヲ販売スルコトヲ得ズ前記ノ鑑札ハ米国市民以外ニハ之ヲ発給セズトノ文句アリ全然外国人ニハ酒類販売ヲ禁止セントスルモノニシテ不法モ甚シク本案通過ノ上ハ外国人ハ条約保障ノ商業自由ノ權利ヲ蹂躪セラルルモノトス公徳委員ニ付托セラル

上院第五百六十六号

一月二十二日「サン・フランシスコ」選出 D.P. Regan (共和党) 提出、機関車自動車及四馬力以下ノ汽罐ヲ使用スルモノノ外外国人ハ機関師タルコトヲ得ズト規定セントスルモノニシテ前期議會ニ提出セラレタルモノト同一ナリ

下院第六百六十三号

一月二十三日「サン・フランシスコ」選出 J.A. Richardson (民主) 提出前項上院第五百六十六号ト同一

上院第千二百八十五号

一月三十一日「サンタ、クララ」選出 Frank N. Benson 提出、前記三案ト大差ナク末項隔離シ得ヘキ人種ノ内ヨリ「ニグロ」ヲ削キ日本人ヲ加ヘタルモノ即チ「インデアン」児童及「モンゴリアン」、日本人、支那人血統ノ児童ト明記シアリ先年問題トナリタル日本人ハ「モンゴリア」人種ナルヤ否ヤノ疑問ヲ避クル為メ日本人ト明記シタルモノニシテ萬一通過スルトモ直チニ隔離学校ヲ設立スルノ模様ハナキモ殊ニ排日ノ目的ニ出デタルモノタルヲ失ハズ

下院千四百十五号

二月一日「ダイニユーバ」ノ選出 G.V. Wylie (共和党) 提出、我ニ関スル点ハ上院五百八十五号案ト同一ナリ

下院第千五百六十六号

二月一日「アルチャラス」選出 A.F. Shartel (共和党) 提出前項同様

下院第千六百六十五号

二月三日「オークランド」選出 Wm. C. Clark (共和党) 提出前項同様

下院第八百四十号

一月二十七日「サンタマリア」選出 H.C. Bagby (民主) 提出前項同様機關師案

上院第千〇六十九号

下院第千七百七号

下院第千三百三十二号

上記三案ハ外国人ニハ秘密探偵業及武器ヲ携帯スル探偵番人等ノ鑑札ヲ下付セズトノ規定アルモ我レニ取リテハ殆ンド關係スルトコロナク且ツ又事業ノ性質モ右様ノ制裁ヲ免レザルモノナルカ如シ

上院第八百三十三号

下院第千三百五十六号

上記二案ハ人頭税額ヲ規定スルモノニシテ末項ニ本法ハ市民タルコト能ハザルモノニ対シ本法規定以上ノ人頭税ヲ課スルコトヲ妨ゲズトアレドモ現行法規中ニモ已ニ此句アリ之ガ通過ト否トハ結果ニ於テ何等ノ差違ナシ以上ハ第一会期中上下両院ニ提出セラレタル議案総數約五千ノ内ヨリ調査抽出シタルモノニ有之第二期中ニ於テハ議員總數四分ノ三以上ノ賛成者アルニアラザレバ案ノ提出ヲ許サザルノミナラズ一人二案ニ限ラルルモノナレバ偶發ノ

事件ニ関スル決議案ノ外此上排日案ノ提出多分無之ベキ事
ト被存候今日迄ノ状況ニ関シテハ公信及電報ヲ以テ屢次及
報告置候通ニ有之前記諸案ニ関シテハ今後相当防止ノ運動

ヲ試ムルト共ニ隨時其成行御報告及ブベク候
別紙排日諸案一覽表相添ヘ此段及御報告候 敬具

案 權 有 所 地 土

法 審	案 号	提 出 日	提 出 者	提 出 考 所	党 派	摘 要
上 院	5	1. 13	E. S. Birdsall	Placer	Rep.	加州民法 671 條修正案、市民又ハ第一帰化証ヲ有スルモノニアラサレバ相統其他ノ方法ニ依リ土地及之ニ關スル權利ヲ取得スルコトヲ得ス
下 院	194	1. 14	Geo. B. Finnegan	Nevada City	Dem.	借地ハ本法ノ制裁ヲ受ケズ 抵当其他法律ノ結果トシテ 今後適法ニ土地ヲ取得シタルモノハ五年間之ヲ所有スルコトヲ得
上 院	27	1. 13	J. B. Sanford	Ukiah	Dem.	帰化權ナキ外國人及如上ノ外國人ノ大株主タル会社ハ土地所有ヲ禁ス、現所有地ハ現所有主ノ手ニ在ル間不問、今後取得シタルモノハ五ヶ年間之ヲ保有スルコトヲ得
下 院	113	1. 14	Wm. S. Shearer	Yreka	Dem.	民法 1404 号修正、相統ニ依ル土地取得ヲ禁ス 帰化權ナキ外國人及会社ハ土地所有スルコトヲ得ス 現所有地ハ持主其妻及子女ノ手ニ在ル間ハ不問、今後取得ノモノハ一ヶ年間借地其他ノ契約ハ市区ハ五ヶ年農業地ハ三ヶ年 民法 671 條改正、市民及第一帰化証ヲ有スルモノニアラサレバ土地ヲ所有スル事ヲ得ス 今後取得ノモノハ五年借地ニ言及セズ 外國人ハ本法ノ規定ニ依ル外土地所有權ヲ取得スルコトヲ得ス、今後相統売買其他ニ依リ取得シタルモノハ五ヶ年間之ヲ所有スルコトヲ得、現所有主ノ手ニ在ル間ハ期限ナシ、借地市区ニケ年、其他一ヶ年
上 院	60	1. 13	Birdsall	Placer	Rep.	
下 院	183	1. 14	Hugh B. Bradford	Sacramento	Dem.	
上 院	416	1. 20	E. O. Larkins	Tulare	Rep.	
下 院	10	1. 13	L. B. Cary	Reedley	Rep.	

ノモルズニ及之業漁

下院	101	1. 14	T. D. Johnstone	Richmond	Rep.	漁業税増加案、現行法市民年 \$2.50 外国人一般十弗ナルヲ市民 \$2.50、帰化権アル外国人拾弗、帰化権ナキ外国人百弗トセントスルモノ
上院	499	1. 21	B. F. Rush	Solano	Rep.	下院案 101 号ト同一漁業税増加案
下院	629	1. 22	C. W. Byrnes	San Rafael	Rep.	外国人漁業禁止案、市民又ハ第一帰化証ヲ有シ一ケ年以上州ノ内ニ居住スルモノニアラサレハ漁業鑑札ヲ下附セスト規定セントスルモノ
下院	1443	2. 1	John H. Guilf	Chico	Dem.	漁類及野獸即商鑑札料ヲ増加シ市民十弗、外国人及会社ハ百弗トセントスルモノ、現行法ハ市民五弗外国人二拾弗ナリ
上院	1439	2. 3	Geo. J. Hams	Alameda	Rep.	同上
上院	1337	2. 1	"	"	Rep.	外国人ニハ商業ノタメニスル狩獵ヲ許サス
下院	1769	2. 3	H. W. Brown	Colma	Rep.	同上

醫學雜誌

下院	467	1. 20	H. W. Moorhouse	Heber	Rep.	Indian Negro Chinese Mongolian
上院	468	1. 20	John N. Anderson	Orange	Rep.	"
上院	585	1. 22	W. J. Cary	Los Angeles	Rep.	Negro ラ含マス
下院	603	1. 22	E. J. Gates	Pasadena	Rep.	"
上院	1285	1. 31	F. H. Benson	Santo Clara	Rep.	上記ノモノニ明カニ日本ノ句ヲ加フ
下院	1415	2. 1	G. V. Wylie	Dinuba	Rep.	Indian Chinese Mongolian
下院	1566	2. 1	A. F. Shartel	Alturas	Rep.	"
下院	1665	2. 3	W. C. Clark	Oakland	Rep.	"
下院	1834	2. 4	L. D. Benedict	San Jose	Rep.	"

以下九案ハ加州 Political Code 中第 1662 條ヲ修正シ修業年限其他ヲ定ムルモノニテ其中ニ學校管理官ハ外國人ノ爲メニ隔離學校ヲ設ケ普通學校ニ入学ヲ拒ムコトヲ得トノ文句アリ現行法亦現ニ此ノ句ヲ含ミ通過ト否トハ我ニ取リテ大シタル關係ナキモノナルモ其内ノ或ルモノハ殊ニ日本人ト明記シタルモノアリ又 Negro ラ加ヘタルモノト加ヘサルモノトアリ各案記載シ置ケリ

業 販 酒

上院	804	1. 27	J. B. Sanford	Ukiah	Dem.	外国人ニハ酒類販賣權利ヲ下付セス
----	-----	-------	---------------	-------	------	------------------

發 國 師

上院	566	1. 22	D. P. Regan	San Francisco	Rep.	} 外国人へ機関師免許ヲ受クルコトヲ得ズ、但シ機関車自働車及四馬力以下ノ汽鐘ノモノハ此ノ限りニテラス
下院	663	1. 23	J. A. Richardson	"	Rep.	
下院	840	1. 27	H. C. Bagby	Santa Maria	Dem.	

探偵ニ関スル件

上院	1668	E. F. Bryant	San Francisco	Rep.	市民ニアラサレバ秘密探偵業ヲ営ミ又武器ヲ携帯スル探偵夜番等タルコトヲ得ス
下院	1107	V. M. Collins	"	Rep.	
下院	1332	W. A. Macdonald	"	Rep.	

人頭稅

上院	833	1. 28	I. N. Anderson	Orange	Rep.	人頭税額ヲ定ムルモノニテ其内ニ本規定ハ市民タルコト能ハサル居住者ニ対シ右以上ノ人頭税ノ課スルコトヲ妨ケストノ句アルモ現行法ニモ既ニ此ノ句ヲ含ム
下院	1356	1. 31	H. V. Weisel	Anahaim	Rep.	

二〇 三月十三日 在桑港大山総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

「バーゾオール」土地法案ニ対スル加州知事ノ

意向ニ関スル件

第二三号

当地新聞「サクラメント」特派員ノ報スル所ニ依レバ公然
発表セラレタルニハアラサルモ確カナル報道ニ依レハ市民
ハ第一帰化證ヲ有スルモノ、外ハ不動産ノ所有ヲ禁ストノ
「バーゾオール」案ハ之ヲ以テ他ノ総テノ排日案ヲ代表セ
シメ他ノ土地学校其他排日的性質ノ諸法案ヲ一切通過セシ
メサルニ於テハ知事モ異存ナシト云フトアリ右ハ知事ノ立
場トシテハ有り得ヘキコトニシテ結局ハ斯ノ如キ所ニ落著
スヘシト察セラル但一般外国人ニ関スル土地案ハ他方面ノ
反対アルヘク稍樂觀ハセラル、モ結局ノ運命ハ未タ豫期シ
難シ下院ハ四月廿六日閉会ノ決議ヲ為セリ右ハ知事ノ意嚮
ニ基キタルモノニシテ上院モ之ニ同意スヘキ模様ナリ愈右
ノ通り決定セハ会期中ニ山積セル多数ノ議案ヲ議了スルコ
ト不可能ナルヘク排日案ノ握潰シ等ノ為メ有利ナルヘシ

二一 三月十四日 在米國珍田大使宛(電報)

加州議會土地法案ノ形勢ニ付在桑港總領事

代理ニ警告ノ件

第二六号

左ノ通在桑港大山総領事代理ヘ転電アレ

貴電第二三号ニヨレバ第一帰化證ヲ有スルモノ、外ハ不動
産ノ所有ヲ禁ストノ案ハ知事モ異存ナク右ハ知事ノ立場ト
シテハ有り得ヘキ義ニテ結局斯ノ如キ所ニ落着スヘシ云々
トノ事ニテ貴官ニ於テハ該法案ノ成立ヲ以テ自然不得止
事態ナリト觀察セラル、カ如キモ萬一如此決定ヲ見ルニ至
ラハ之レ本邦人ニ対シ明ニ区別的待遇ヲナスモノニシテ我
レノ蒙ル不利ノ甚大ナルハ申ス迄モ無之到底甘受シ難キ儀
ニ付貴官ハ前記貴電ヲ珍田大使ヘ転電シ此上十分警戒セラ
ルベシ

二二 三月十四日 在桑港大山総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法案ノ形勢ニ対処ノ件

第二四号

来ル月曜日土地案ニ付下院委員會開会ノ筈多分往電第二三

号前段ノ通妥協セラレ外人一般ニ適用セラルベキモノ代表案トシテ議場ニ報告セラル、ナラントノ説アリ右ハ委員會ニ於テ握潰サシムルニ如カサルニ付目下極力其運動中又比較的賛日空氣多キ南加州ニ於テ商人殊ニ土地売買譲与者及商業會議所等ヨリ十分ナル援助ヲ求メ得ル機夫々手蔓ヲ求メ当地日本人會書記長ヲ同地方ニ派遣シタリ

二三 三月十五日 在桑港大山總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法案ノ形勢ニ対処続報ノ件(一)

第二五号

拙電第二四号ニ関シ本官ハ博覽會社長ニ対シ同案防止方ニ付再応注意ヲ求メ是非委員會ニ於テ握潰ス機尽力セラレタキ旨ヲ述ヘ加州々會今後ノ行動ハ目下我議會ニ於ケル博覽會豫算ノ運命及出品人ノ熱心ニ隱然影響ヲ及スヘキ旨警告シタルニ同社長ハ其ノ意ヲ諒トシ極メテ熱心ナルハ疑ヲ容レサルヲ以テ豫テノ誓約ヲ繰返シ実ハ只今右運動方法等ニ関シ博覽會州委員重役市長等會合協議中ナルカ執レニシ

其主張ヲ排除シ自ラ責任ヲ負フノ態度ニ出ヅルコト困難ナルヘク此上他ヨリ十分ナル圧力ヲ加フルニ非サレハ新聞報ノ如キ結果ヲ見ルコトハ有リ得ヘキコトト思考シタルモ妥協案ノ成立ヲ以テ到底免カレ難キ運命ト迄觀察シタルニハ無之運動ノ余地尚アルヘク第一帰化證ヲ有セサル者ノミナラス一般外人ニ適用スル形式ニ於テモ凡テ通過スルコトナキ機夫々運動ニ手ヲ尽シ居レリ尚外國資本家ヲ排斥スル法案ニ対シテハ有力ナル反對アルヘシト云フ本件ニ付テハ其都度大使ニ電報シ御考量ニ供シ置ケリ

註 右大山來電第二六号ハ前掲牧野外務大臣宛在米珍田大使宛往電第二六号(二一文書)ニ対スル回答ナリ

二四 三月十六日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

米國國務長官加州排日法案阻止ニ尽力ノ旨
内話ノ件

第三二号

三月十五日國務長官ニ面會セルニ同官ハ排日法案ノ件ニ付大統領トモ會談ノ結果「カリフォルニア」州方面ニ於ケル「デモクラット」党ノ有力者ニ対シ内密ニ右法案防止ニ尽

一 加州ノ外国人土地法案及日本政府ノ抗議關係 二四

テモ直チニ相当防止ノ運動ヲ開始スル筈ナリ尤モ萬一形勢不可ナルトキハ一般外人ニ適用スル案ニ妥協シ以テ最後ノ解決ト為スヘシ然レトモ是レ決シテ好マシキコトニハアラスト答ヘタルニ付本官ハ一般外人ニ適用セラルヘキモノモ日本人ハ帰化スルコト能ハサルニ付其ノ実区別的待遇ヲ受クル結果トナルヘキニ付此ノ際何レノ案モ通過セサル機十分尽力ヲ希望スル旨申置キタリ右商業會議所ニ対シテモ重ネテ同様ノ依頼ヲナシタルニ是レ又「サクラメント」出張員ニ能ク能ク訓示シ置クヘシト答ヘタリ「ベントレー」モ亦タ知事ニ対シ握潰ノ依頼ヲナスト共ニ拙電第二三号ノ新聞記事ノ真相ヲ確メ呉ル、筈

第二六号

貴電第一五号ニ関シ知事ハ既電ノ通排日案ヲ通過セシメサルヘシトノコトナルモ萬一通過ノ上ハ「ヴェントレー」ヲ為ス迄ノ決心ナリヤ否ヤ明カナラス而シテ州會自体ノ狀態ハ当初ヨリ例年ヨリハ寧ろ險惡ナルコトハ是亦既報ノ通ナルガ過日來諸方面ヨリ聞ク所ト第二期開會以來排日議員等ノ動靜トニ顧ミルニ本年ハ何等カノ形ニ於テ土地案ノ通過ヲ迫ラントスル者尠カラサルカ如ク知事ノ立場トシテハ全然

力方依頼狀ヲ發スルコトニ決シ若シ此方法ニテ満足ナル効果ナキトキハ更ニ適切ナル手段ヲ講スル筈ナル旨ヲ内話シ右ハ外間ニ漏レサルコトヲ希望スル旨申添ヘタリ

二五 三月十七日 在桑港大山總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

排日法案阻止方ニ関シ「ベントレー」氏ヨリ
加州知事ニ依頼ノ件

第二九号

本官宛在米大使宛電信左ノ通
「ベントレー」ハ知事ニ対シ日本土地法ノ寛大ナル精神ヲ説明シ且ツ或ル一國ニ対シテ偏頗ナルコトハ主義ニ於テ斷シテ不可ナルコト及一般外資輸入ニ累ヲ及スカ如キハ「カリフォルニア」州ノ大問題ナレハ決シテ輕々ニ処斷スヘキニアラストノ理由ヲ以テ排日法案防止ニ尽力方依頼狀ヲ發スル旨内報シ来レリ

二六 三月十七日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛

排日法案成立防止ニ関シ大統領及國務長官ト

會談ノ件

機密公第一三三號

(四月十二日接受)

大正二年三月十七日

在米

特命全權大使子爵 珍 田 捨 己 (印)

外務大臣男爵 牧野伸顯 殿

太平洋沿岸諸州ニ於ケル排日法案ノ成立防止ニ関シ当國新大統領又ハ國務長官ニ帝國政府ノ希望申入方貴電第二五號ヲ以テ御訓示ノ次第致敬承候右ハ豫テ本使ニ於テモ當國新行政部組織後成ルヘク速ニ其向ト懇談ヲ遂ケ度考ニテ折角好機會ニ注意中ニ有之候処偶々「ウキルソン」大統領就任ニ付陛下ノ御祝辭傳達ノ為三月六日特別謁見ヲ得タルニ際シ大統領ハ右御祝辭ニ對スル一応ノ挨拶ヲ述ヘタル上語ヲ改メテ日米ノ親交ハ同大統領ノ居常念トスル所ナル旨言及シタルニ依リ本使ハ之ニ答ヘ兩國積年ノ友好關係ハ目下益々鞏固ヲ加ヘ茲ニ帝國政府及人民ノ米國ニ對スル終始渝ラサル友情ヲ保障スルコトヲ得ルハ本使ノ深ク欣幸トスル

解セリ自分ハ固ヨリ此ノ目的ノ為十分力ヲ竭クスヘキヲ言明スルニ躊躇セス思フニ余カスノ如キ案件ヲ解決スルニ公平且冷靜ナル判斷ヲ以テスヘキハ從來余ノ履歷ニ徴シ世人一般ノ許ス所ナルヲ信スルカ故ニ自分ハ本問題ニ処スルニ當リテ一種有利ノ地位ニ在ルヲ感ス唯此際一言ヲ附加スルノ必要アルハ當國ノ國體上中央政府ハ各州ノ自主權ニ干渉スルノ權能ナキヲ以テ各州ニ對シ直接威圧ノ手段ヲ用フルニ憚カルコト是ナリト相答ヘ候依テ本使ハ此等ノ事情タル固ヨリ豫テ本使ノ諒察スル所ニシテ畢竟國憲ノ條章ニ抵触セサル範圍内ニ於テ中央政府ノ威信ニ依リ適當ノ行動ヲ執ラレムコトヲ求ムルニ外ナラスト述ヘタルニ大統領ハ之ヲ首肯シ要スルニ事情ノ許ス限リ機宜ノ処置ニ出ツヘキコトヲ斷言致候

次テ三月十三日「ブライアン」國務長官ト會見シ右大統領ト交談ノ顛末ヲ述ヘ進ンテ移民問題ニ関スル從來ノ成行ヲ叙シ當國ニ於テ何等本邦労働者ノ聚集ヲ危惧スルノ理由ナキコトヲ説キ尚目下太平洋沿岸諸州議會ニ繫屬スル各排日法案ノ写ヲ手交シテ米國政府ノ考量ヲ求メタルニ同官ハ日本ニ對シテ常ニ誠実ナル友情ヲ有スルコトヲ再覆繰返シ中央政府當局者トシテ適法ナル手段ニ依リ右法案成立ノ防止

所ナリ曩ニ桑港ニ於ケル「パナマ・パシフィック」博覽會開設ノ計畫決定セラル、ニ當リ帝國カ他國ニ率先シテ之ニ贊同ノ意ヲ表シタルカ如キ固ヨリ一ハ通商ノ利益ヲ増進セムトスルノ趣旨ニ出デタルモ其ノ根蒂ニ於テハ全ク米國及米國人ニ對スル深厚ナル同情ニ基クモノニシテ畢竟國交ノ輯睦ニ拳々タル誠意ノ表彰タルハ疑ヲ容レス独リ本使ノ怪ム所ハ今尚太平洋沿岸諸州議會ニ於テ依然日本人排斥ヲ目的トスルモノト解スル外ナキ幾多法案ノ繫屬スルノ一事ニ在リ今ヤ帝國政府ハ桑港博覽會贊同ニ要スル經費豫算案ヲ帝國議會ニ提出シ該博覽會ノ成功ニ貢獻セムトスルニ余念ナキ折柄一旦前頭排日法案ノ通過ヲ見ルニ至ラムカ右豫算案ハ議會ノ重大ナル反抗ヲ受クルノ虞アルノミナラズ假令幸ニ可決セラル、モノトスルモ國民ノ該博覽會ニ對スル人氣ハ俄然冷却シテ到底熱誠ナル贊同ヲ期スヘカラズ延テ國際間ノ感情ニ及ホス不良ノ影響ハ寒心ニ堪ヘサルモノアリ以上ノ情形ニ顧ミ本使ハ新行政部當局者ニ於テモ前任者ト同様此等排日法案ノ成立ヲ防止シ以テ兩國ノ親交ヲ保全セムカ為及フ限リ尽瘁セラレムコトヲ切望ス尚本件細目ニ至リテハ追テ國務長官トモ懇談ヲ遂グル覺悟ナリト述ヘタルニ大統領ハ先ツ本使ノ所言ニ謝意ヲ表シ貴説ハ篤ト諒

ニ努力スヘキ旨申述候

追テ三月十五日國務長官ニ面會ノ節同官ハ前記三月十三日ノ會談ニ言及シ本件ニ付テハ其後大統領トモ熟議ノ上不取敢加州方面ニ於ケル民主黨部内ノ有力者ニ向ケ公然トナク排日法案防止ノ運動ヲ内囑スルコトニ決シ現ニ其ノ手續中ナル旨ヲ語り尤モ該事實ノ外間ニ露泄スルトキハ又々物議ヲ醸スノ虞アルヲ以テ日本側ニ於テモ之ヲ機密ニ附セムコトヲ求メ尚現行政部當局者ト所屬黨派ヲ異ニスル加州知事ニ對シテハ干涉ノ批難ヲ避ケムカ為當分措置ヲ見合ハス筈ナリト述ヘ今暫ク時局ノ發展ヲ注視セル上若シ右民主黨有力者ニ依頼セル運動其ノ効ヲ奏スルノ見込ナキニ至ラハ別ニ機宜ノ方法ヲ講スヘキ旨ヲ附言致候

以上大統領及國務長官トノ會談ハ其都度概要及電報置候ヘ共為念更ニ具報申進候 敬具

二七

三月十九日

在桑港大山總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

「サンフォード」土地法案ノ審議ニ関スル件

第三〇號

月曜日夜上院司法委員會ニ於テ「サンフォード」ハ同議員

提出土地案ノ審議ヲ求メタルニ「サンデアゴ」選出「ライ
ト」ハ同種ノ議案ヲ一括シ之ヲ特別委員ニ附托ノ動議ヲ提
出セルモ「サンフォード」ハ右ハ一種ノ握演シ策ナルベキ
ヲ看取シ同人ノ案ハ前期議會ニ於テ Committee Substi-
tute Bill トシテ上院ヲ通過シタルモノト同一ナルヲ以テ
此ノ上審議ノ必要ナシト主張シ他ノ民主党議員ト共ニ強硬
ナル反対ヲナシ結局米水曜迄延期シ Public hearing ニ
附スルコトニ折合ヘリ又下院ニ於テハ同夜同委員會開會
Public hearing ニ附セラレタルモ委員中ニ缺席者アリタ
ルタメ審議ニ附セス是又米水曜日迄延期セラ
ル大使ヘ電報ス

二八 三月十九日 牧野外務大臣ヨリ
在米田珍田大使宛(電報)

太平洋博覽會參同費豫算衆議院通過ニ關スル件
第二七号

豫算案ハ三月十五日衆議院ヲ通過シ且下貴族院ニテ審議中
右通過案ニハ巴奈馬太平洋博覽會參同費トシテ四年ニ亘ル
百二十萬円ノ繼續費ヲ包含ス該案衆議院ニテ討議ノ際豫算

ルヤヲ問ヒタルニ同氏ハ東洋人タケニ關スル土地法案ハ通
過スルコトナカルヘキモ一般外人ニ對スルモノハ只今ノ
処何トモ云ヒ難シト答ヘラレタルニ付然ラハ萬一兩院ヲ通
過スルトキハ知事ハ veto ヲ為スベシト思ハルルヤト糾問
シタルニ是亦疑問ナリト答ヘ次ニ Sanford カ在華盛頓博
覽會代表者ニ對シ排日運動ヲ中止スヘキコトヲ誓約シタル
事實ヲ語ラレタルニ付本官ハ Sanford ノ從來委員會ニ於
ケル態度ヲ指示シ其言行一致セサルコトヲ注意シタルニ同
氏モ其実ニ取扱難キ旨ヲ語ラレ目下ノ情況ハ逐一在華盛頓
代表者ニ申送り同人ヲシテ中央政府ノ援助ヲ仰カシメ置ケ
ルニ依リ在米大使ヨリモ同時ニ中央政府ニ對シ同機申出
デラルル様希望スル旨語リ今日ノ如キ狀態ニテハ中央政府
ニ於テ排日首唱者タル自黨議員ヲ鎮圧スルト同時ニ議案防
止尽力方ヲ知事ニ打電スルカ又ハ尠クトモ右様ノ案ハ中央
政府ノ好マサル所ナル旨ヲ議員及知事等ニ知ラシムルノ策
ニ出デ以テ知事ヲシテ幾分握演シノ責任ヲ他ニ嫁シ得ルノ
余地ヲ作り与ヘサル限り知事ノ立場ハ甚タ困難ナルヘク結
局何等カノ土地法案通過スル運命ニ至ルヤモ難計ト評言セ
リ尚本官ハ土地法案ノ何レノ形式ノモノモ其結果ニ於テ日
本人ニ区别的待遇ヲ与フルモノニシテ決シテ我ニ於テ甘受

委員長ハ豫算不成立ニ至ラバ帝國ハ該博覽會ニ參同スルヲ
得ス米國トノ國交上遺憾ナル結果ヲ招クヘキ旨ヲ演說セリ
東京商業會議所ハ右ノ演說ヲ援用シ排日法案ノ撤廃方ニツ
キ尽力ヲ希望スル旨桑港商業會議所ヘ打電ノ管本電報桑港
領事ヘ転電アリタシ

二九 三月二十日 在桑港大山總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州議會ニ於ケル排日土地法案ノ形勢報告ノ件
第三三号
左ノ通大使ヘ

土地法案ニ關シ州會ノ形勢改善ノ兆候ナク最後ノ運命自然
ノ結果不明ノ狀態ニ在リ本日博覽會社長ニ面會シタルニ同
氏モ從前ノ如ク樂觀シ居ラス會社モ為シ得ル丈ケハ十分為
シ居リ共和黨進歩派ノ首領ニシテ知事ノ親分 Fresno 郡
Rowell ニ對シテモ知事牽制方既ニ依頼シアリ本日モ重ネ
テ同氏ニ電話スベク又労働黨ニ對シテモ温和派ノ奔走ノ結
果 McC. Arthur ヨリ出来得ヘキ丈ケ尽力シ居レル由ヲ語
レルニ付本官ハ然ラハ最後ノ運命ニ付テハ如何ニ觀察シ居

スルコト能ハサル旨ヲ明言シ博覽會会社其他親日者トノ交
渉ニハ常ニ總テノ土地法案ヲ一括シ防止尽力方ヲ依頼シ居
レリ

三〇 三月二十五日 在桑港大山總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

東京商業會議所ヨリ桑港商業會議所ニ土地法案
阻止方依頼ノ件
第三五号

本官發在米大使宛電信左ノ通
桑港商業會議所ニテ聞ク所ニ依レハ東京商業會議所ヨリノ
排日案防止依頼電報ハ三月二十日到着シタルガ新聞ニ發表
スルコトハ却テ反感ヲ惹起スル虞アリトテ未タ公表セズ然
レトモ博覽會ト協議シ尽力中ノ由ナリ「ロサンジェルス」
商業會議所ハ代表者ヲ「サクラメント」ニ特派シ尽力シ居
レルガ南加州議員ニ對シ有効ナルヘン

三一 三月二十六日 在桑港大山總領事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

太平洋博覽會社長ノ排日土地法案防止運動ノ件

第三七号

本官宛在米大使宛電報左ノ通

今朝博覽會社長ニ面会シタルニ社長ハ土地法案防止方ニ付市長重役等ト協議ノ上極力尽力シツ、アルコト又同社特派員「サクラメント」ニ在リテ議員及有力者及知事ト接觸ヲ保チ萬事遺算ナキ様努メツ、アルコト及前電 Rowell ハ既ニ「サクラメント」ニ在リテ博覽會々社ニ応援ヲ与ヘツ、アルコトヲ述ヘ在華盛頓代表者 Bennett ニ対シ大要左ノ如キ意味ノ電報ヲ發シタル旨ヲ告ケタリ

(一) 土地案カ目下上下兩院共特別委員ノ手ニアルコト

(二) 委員ハ同案ノ通過ヲ好マサルモ外部ノ圧迫ニ迫ラレ委員會ニテ握潰困難ナルコト

(三) 若シ議場ニ報告セラルル時ハ多分通過スヘキ形勢ナルコト

(四) 此ノ際中央政府ハ該案ニ反対ナリトノ意嚮ヲ確カメ其旨回電セラルルトキハ該案ノ防止ニ有効ナルニ付其ノ取計アリタキコト

千九百十一年一月六日「フレンス」議員 W. A. Suther-
land 提出ノ提議シ

外國人ハ相続及法律ノ結果ニヨリ土地ヲ取得シ一ケ年ニ限り之ヲ所有スルコトヲ得
取得者カ未成年者ナル時ハ成年ニ達シタル時ヨリ一ケ年間尙之ヲ所有スルコトヲ得
右ノ規定ニ違反シテ所有スル土地ハ之ヲ公売ニ附ス
現ニ外國人ノ所有者ニ屬スル土地ハ現所有者ノ手ニア
ル間本法ノ適用ヲ受ケス
(五年以上ニ亘ル土地賃貸借契約ハ無効トス)

三三 四月三日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州排日法案阻止方ニ関シ中央政府當局ノ尽力

振報告ノ件

第五〇号

三月二十八日幣原參事官ハ「ベンネット」(註) (往電第三〇号)

ヲ訪ヒ「カリフォルニア」州排日法案問題ニ関スル形勢漸ク險惡ナルヲ告ケ其ノ注意ヲ促シタルニ同人ハ豫テ右法案防止運動方ニ付桑港博覽會社長ヨリ接セル數通ノ電報ヲ示シ國務長官帰任ヲ俟テ速カニ同官ト会见ヲ遂ケ篤ト其ノ

(四) 過去ニ於ケル中央政府ノ干涉ハ其都度排日案ノ通過ヲ防止セリ

(六) 土地案ヲ通過スルトキハ日本國政府ヨリ博覽會參同ヲ取消サルルノ處アリ結局博覽會ノ成功ニ重大ナル關係ヲ及スヘキニ付此ノ点特ニ御注意アリタキコト

三二 三月二十七日 在桑港大山總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州下院特別委員會採択ノ代表的土地法案ニ付
報告ノ件

第三八号

拙電第三十六号ノ通下院特別委員會ハ土地案「サブスチテューツ」トシテ外人一般的ノモノト帰化權ナキモノノミニ適用スルモノトノ二案ヲ司法委員ニ報告ス前者ハ前期議會下院三十四号案ニ五年以上ノ借地契約ハ無効トノ條項ヲ加ヘ後者ハ百八十三号「ブラッドフォード」案ヲ借地期限ヲ總テ五年トシタルモノニシテ多分議場ニ報告セラルヘシトノ報アリ

註 一九一一年度下院三十四号法案左ノ如シ
下院第三十四号(一九一一年度)

内意ヲ聞取ルヘキ旨ヲ語り追テ右会见ノ結果ニ関シ三十一日幣原ニ内報セル所ニ依レハ國務長官ハ此際「カリフォルニア」州議會カ排日法案ヲ討議スルノ無謀ナルヲ切言シ右ハ大統領モ全然同意ナルヲ以テ大統領及國務長官ノ所見トシテ此ノ旨「ベンネット」ヨリ博覽會社長ニ電報スルハ何等異議ナシト述ヘ中央政府カ各州ノ權利ニ干涉スルノ非難ヲ避ケンカタメ殊ニ注意ヲ加ヘンコトヲ求メ尙大統領カ二三親近者ヲ招キ排日法案ニ対スル反対意見ヲ言明シ間接ニ其ノ意見ヲ「カリフォルニア」州議會民衆黨議員ニ徹底セシムル手段ヲ執リタルコト及國務長官自身モ同一ノ意味ニテ「カリフォルニア」州方面ノ有力者ニ書面ヲ送リタルコトヲ内話シ終リニ本件ニ關スル博覽會社長ノ努力ハ大統領及國務長官ノ深ク満足スル所ナル旨ヲ述ヘタル由ニテ「ベンネット」ヨリハ右会见ノ要領ヲ社長ニ電報シ置キタル趣ナリ四月一日日本使ハ國務長官ニ面会ノ節本問題ニ言及シタルニ同官ハ右「ベンネット」ニ語レルト同趣旨ヲ繰返シ同官ノ意見トシテハ寧ロ形勢ヲ樂觀スルノ語調ヲ示シ要スルニ中央政府カ州權ニ干涉スルコトハ國体ノ許サザル所ナルモ大統領及國務長官共ニ適法手段ノ及フ限り誠意尽力中ナル旨ヲ述ヘ萬一「カリフォルニア」州議會ニ於テ中央

当局者ノ忠言及博覧会ノ利益ヲ棄テ、排日法案ヲ通過スル
カ如キコトアラハ一般民意ノ趨勢ハ最早尽力抑制シ難キ程
度ニ達シタルモノト認ムルノ外ナキ旨ヲ附言シタリ

右在桑港總領事代理ニ転電シタリ

註 珍田大使來電第三〇号ニ付テハ一八文書參看

三四 四月三日 在桑港大山總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州排日法案ニ対スル公聴会等ニ関スル件

第四〇号

水曜日夜博覧会州委員出品総長及重役等知事ト会見、知事
派ノ領袖タル上院副議長同土地案特別委員長及上下両院司
法委員長参列セリ次ニ上下両院司法委員会開会土地案ニ関
シ「パブリック、ヒアリング」アリ博覧会派数名ヨリ極メ
テ有力ナル反対演説アリ同時ニ民主党ノ首領ニテ常ニ日本
ニ反対セル前市長 *Prelan* 東洋人排斥会代表者其他数名ノ
賛成演説アリ終ツテ下院司法委員会議事開始拙電第三八号
前者ニ外国人ヲ多数株主トスル会社モ本法ノ制裁ヲ受クヘ
キ旨ノ一項ヲ加ヘタルモノヲ「コミミッチー、サブスチチ

三六 四月四日 在桑港大山總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛

加州土地法案防止ニ関シ巴奈馬博覧会重役其他

ノ州議會委員会ニ於テ為セル演説記事送付ノ件

附屬書 右新聞記事切抜

公第七四号

(四月二十四日接受)

大正二年四月四日

在桑港

總領事代理副領事 大山 卯次郎(印)

外務大臣男爵 牧野 伸顯 殿

当加州々会ニ現レタル外国人士地所有禁止案通過防止ニ関
スル博覧会ノ運動振リニ関シテハ夫々電報ヲ以テ及御報告
置候処四月二日夜開会ノ上下両院司法委員会聯合 Public
hearing ノ席上ニ於テ会社重役等並ニ反对者ノ為シタル賛
否演説ハ別紙新聞記事ノ通りニ有之候間御参考迄ニ右切抜
及御送付候 敬具

(附屬書)

排日土地法案ニ付加州議會委員会ニ於テ為サレ
タル演説ニ関スル「クロニクル」紙ノ記事切抜

ユート」トシテ議場ニ報告スルコトヲ決議セル旨「サクラ
メント」ヨリ報告アリタリ

三五 四月四日 在桑港大山總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

排日土地法案ニ対シ加州知事ハ強固ナル反対意
向ヲ表示シタル件

第四一号

拙電第四〇号前段ニ関シ右会見ノ結果知事ハ参列シタル各
領袖ノ同意ヲ得博覧会代表者ニ対シ此際断シテ土地法案ヲ
通過セシメサルヘキ旨告ケタル趣ニテ同会ニテハ大抵大丈
夫ナリト称シ居リ当地各新聞紙モ同様ノ記事ヲ伝ヘ居レリ
併シ下院ノ形勢ハ矢張穩ナラス知事ノ努力ハ主トシテ上院
ヲ目的トスルモノノ如ク若シ下院ヲ通過スルトモ上院ニ於
テ之ヲ喰止ノ策略ナルヤニ察セラレ

「ロサンゼルス」日本人会ヨリ同地商業會議所ニ対シ東
京商業會議所ヨリ排日法案防止依頼ノ發電御取計相成度旨
閣下ヘ願出タリ右ハ適當ノ申出ト思考スルニ付御考量アリ
タシ

EXPOSITION CHIEFS OPPOSE HOSTILE
LEGISLATION

Directors Ask That Anti-Alien Measures Be Not
Enacted Into Laws at This Time.

SKIFF MAKES GREAT PLEA.

Says State Should Live Up to Agreement With
Government and Foreign Nations.

Special Dispatch to the "Chronicle."

SACRAMENTO, April 2—While the exposition
directors were arguing against the passage of
alien land bills in the Senate tonight, the Assem-
bly Judiciary Committee left the chamber and in
an executive session recommended for passage the
committee's substitute for the alien land bills
that have been introduced. The anti-alien meas-
ure in its present form does not apply to prop-
erty now owned by aliens so long as the same is
held by the present owners, their wives or chil-
dren. The act in effect prevents the acquiring of
land by any one not entitled to citizenship, for

under its provisions an alien may acquire land, but can hold it but one year without becoming a citizen.

The action of the committee does not indicate that the bill will pass, although it was voted out almost unanimously. It will go on second reading tomorrow, and will probably be acted upon early next week.

SACRAMENTO, April 2—Directors of the Panama-Pacific International Exposition and members of the State Commission having in charge the expenditure of the State fund for the exposition, pleaded with the members of the Legislature tonight to refrain from passing anti-alien measures that in their opinion will make the project of 1915 not a great universal exposition but an interstate fair. The speakers appeared before a joint meeting of the Senate and Assembly Judiciary committees in the Senate chamber, but a majority of the members of both houses were present at the meeting. Speakers for and against the bills were heard, but the balance of time was taken up with the speakers from the Exposition

from the right to employ the work universal.

“Up to a very few months ago I would have upon my own experience and upon my own authority, dependent upon an experience of twenty-five years and upon an authority that I do not believe is questioned in exposition circles, held that this exposition would be in the highest degree a careful, a systematic, a complete and a scientific demonstration of the status of the world and the intellectual condition of all its people. Now that is a great task to have felt to have been practically accomplished a few months ago, but I assure you—and this is where I crave your belief that I am stating a fact—that since that time most grave doubts have entered my mind as to an accomplishment of such a high and perfect degree.

"All of the nations of this earth are not, either as governments or as producers, anxious to take part in this exposition. They realize that the success of this exposition makes a great country greater. They realize that the success of this exposition is bound to make a deep impression upon the routes of commerce, which they may not

Company. Arrayed against the exposition representatives were members of Asiatic exclusion organizations, farmers who believe the Asiatics are encroaching upon their homes, and James D. Phelan of San Francisco.

WHAT EXPOSITION MEANS.

For the exposition representatives Director in Chief Frederick J. V. Skiff made the principal address. In part he said to the assembled legislators and the crowd that packed the Senate chamber and galleries:

"I am a stranger to the domestic affairs of California. My only purpose within the next two or three years is to assist this State in demonstrating its ability to live up to the agreement it has made with the United States Government, with the Federal states and the foreign nations.

"Now, a universal exposition means an exposition in which every race and every nation of the earth shall participate. Insofar as we lack representation of all the countries and all the peoples of the earth, in just exactly that degree we depart

desire to have changed. The strong influence of the United States Government as representing the most powerful and progressive people on earth has been sufficient at this time to claim the most careful consideration of the invitation of this Government to join with it in the celebration of an accomplishment in which the people of the United States take great pride. But not all of these countries would regard unkindly a reasonable excuse not to participate.

"There is such a thing as an audience, so called, even in an exposition. The audience at this exposition is the Pacific area, and the Orient may be said to occupy the proscenium boxes."

"Let me assure you—and in this I ask your confidence—that this committee is justified in considering the effect that all legislation may have upon the prosperity of this people, upon the welfare of these institutions in this State, upon the success of the exposition which the Nation and the people of the United States have entrusted to the people of this great and progressive commonwealth."

OPPOSES ALIEN LAND BILLS.

Leon Sloss and James McNab merely voiced the sentiments expressed by Dr. Skiff and made the personal plea against the alien bills.

Matt I. Sullivan, for the Exposition State Commission, declared that were it not for the fact that an exposition of an international character is to be held, he would not appear to oppose any alien land bills.

"Will the State profit by your failing to pass this sort of legislation?" asked Sullivan. "That is for you to consider. I believe it is for the best interests of the State that you refrain."

In summing up Chester Rowell called attention to the fact that the abstract merits of the anti-alien land bills had not been discussed. It was merely the effect on the exposition of such legislation which had been taken up by the speakers.

First of the advocates of the bills was R. C. Hurst of the Anti-Japanese League, who told the amount of land owned by Japanese and what increase could be expected in two years.

alleged threats of Japan not to exhibit in 1915. If this thing goes on the people of California will rise up in the old-fashioned way and settle it alone without legislative aid, he said.

Another farmer who spoke against Japanese was M. A. Mitchell of Elk Grove, who told of Japanese having more children in school in his town than whites.

John Rees said there was but one question to decide by the Legislature and that was whether a "little fair" was more important than the welfare of the State of California.

NATIONS NOT TO BE OFFENDED.

That there will be no legislation at the present session adverse to the interests of the Panama-Pacific Exposition is evidenced by the conference held in the office of the Governor tonight. Chairman Lee C. Gates, Senator A. E. Boynton and Senator Newton Thompson of the Senate Judiciary committee and Chairman H. Stanley Benedict of the same committee of the House were called into consultation with the chief executive and R. B. Hale and other of the exposition officials.

Ralph Newman of Elk Grove spoke from the standpoint of the farmer, saying that Japanese were driving Americans from their homes in rural communities.

"I don't represent any labor organization, any political party or any one except myself," said Grove L. Johnson in speaking in favor of the anti-alien legislation. He said he did not care whether it hurt the exposition or not; it was a question for the welfare of California.

Paul Scharrenberg for the California State Federation of Labor told how labor was opposed to Asiatic immigration, and at the expense of the exposition would insist upon the passage of anti-alien land laws. He said that the farmers were more interested in the problem than any other class and that the Legislators should not be intimidated by the talk of the exposition authorities.

James D. Phelan said that the Legislature had been bottled up the same way. Also that the Japanese would drive out both whites and Chinese.

He characterized the exposition officials as men who were "buffaloed" and in a panic from the

They discussed the effect of the proposed anti-alien legislation on the big exposition. It was held that such legislation would hurt the prospects of the exposition incalculably, as it would keep Japan from making an exhibit. Also other nations, especially the manufacturing countries of Europe would withdraw their exhibits if they could not be assured that they would be able to exploit their products before the buying public of the Orient.

EXPOSITION OFFICIALS HEARD.

Following the illustrated lecture given by Louis Levy in the Senate Chamber, the officials of the exposition told that the interests of the exposition were the interests of California and that it was up to the people of the State to co-operate with the exposition.

The relation of the alien land bill was held to be the relation of Japan to the exposition, the Oriental aspect which is to be the great drawing card depending upon the action of the present Legislature.

R. B. Hale told of the appropriation made by different states, and called attention to the responsibility of California in making the exposition a success both to states of the Union and to foreign countries which were to exhibit.

Acting President Hale pointed out the fact that any legislation which affected the success of the exposition should be considered most carefully. It meant the difference between great international exposition or purely local and provincial affair like the Seattle or Portland fairs.

三七 四月五日 在桑港大山総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州知事ノ排日土地法案ニ対スル態度ノ真相ニ

付報告ノ件

第四二号

拙電第四一号ハ昨朝博覧会会社ニ到着シタル報告ニ依リタルモノナルカ實際会見ニ列席シタル委員昨夕帰着シタルニ付今朝之ト面会シタルニ前報ト異ナル所アリ主トシテ Rowell ヨリ大略左ノ如ク説明シタリ

ハ尚此上尽力ヲ希望シタルニ会社ハ今後モ有ラニル方法ヲ以テ最後迄奮闘防止ニ尽力スルハ勿論ナル旨ヲ答ヘタリ尚本日知事ハ若シ土地案通過セハ條約ト抵触セサル以上ハ署名スヘキ旨発表シタル趣内探者ヨリ報告アリタリ

三八 四月六日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

排日土地法案ニ付加州議會代表者ヨリ國務長官

ハ陳情ニ関スル新聞報報告ノ件

No. 57 More important newspapers report this morning 6/4 on the representation made to the Secretary of State yesterday by practically entire California congressional delegation in respect of Alien Land Bill. The report may be summed up as follows:—

Congressmen said in substance that the people of California were in unit in demanding such legislation, that especially those engaged in agriculture and fruit growing were determined to exclude Japanese, that in many districts Japanese operated more than one half farm, it being impossible for Americans or even Chinese to compete

(一) 知事ハ出席シタル首領ニ対シ一切土地案ヲ通過セシメサル様求メタルニ自分等ハ同意ナルモ形勢不可能ナリト答ヘタルニ付然ラハ適用範圍ヲ一般的ノモノトスルコトハ如何ト問ヒタルニ夫レハ不可能ニアラスト告ケタリ

(二) 右ノ結果知事ハ日本人ヲ直接ノ目的トセル土地案ハ通過セシメザルベキコトヲ告ケタルモ一般外人ニ対スルモノニ付テハ保証ノ地位ニ立ツ能ハス此上ハ会社ニ於テモ日本人ノ不利益ヲ最少限度ニ減少スルヲ以テ満足スルノ外ナク今日ノ模様ニテハ結局前電下院代表案類似ノモノ下院ヲ通過スルニ至ルヘク多分上院モ同一ノ結果ニ陥ルヘキ處アリ

(三) 日本人ハ市民トナル能ハサルニ付一般外人ニ対スルモノモ結局日本人丈排斥セラル、ニ至ルヘキガ之レ土地案夫レ自身ノ結果ニアラスシテ既ニ存在スル合衆國法律ノ結果ナリ尤モ議員ノ或ル者ハ表面上一般のノ文字ヲ用ヒテ實際ハ日本人排斥ヲ目的トセルコトハ之ヲ認ムルモ加州政府及多數議員ハ然ラサルニ付了承アリタシ

依テ本官ハ右ノ結果ハ甚タ満足ナラス事實上日本人ノミ排斥セラル、コト、ナル以上ハ矢張り偏頗ノ立法ト見ルノ外ナク我輿論ハ果シテ之ヲ善意ニ解釈スルヤ否ヤヲ疑フト述

with those practically coolie labourers, that in some sections a man who (datsui?) or leased his farm to a Japanese was ostracized by community, that the presence of Japanese farmers reduced value of adjoining lands as Americans refused to live near them, that Japanese were coming in continually despite passport agreement, that Japanese would own or control all the best farm lands in 25 years without some such preventive measures, that a great majority of people of the state now regretted having yielded to the wishes of Mr. Theo. Roosevelt and would resent any more federal interference, and that they favoured passage of the bill regardless of what Japan might do concerning exposition.

Chinda.

三九 四月六日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法案州議會通過ノ場合ニ於テ我方ヨリ

抗議提出ニ関シ豫メ請訓ノ件

第五八号

「カリフォルニア」州排日法案ノ防止方ニ関シテハ大統領

及國務長官ガ国体ノ許ス範圍内ニ於テ及ブ限り誠意尽力中ナルコト及ヒ博覧会々社当事者カ同会ノ利益ヲ楯トシテ極力奮闘シ居ルコトハ本使及ヒ在桑港總領事代理ヨリ累次ノ電報ニテ御承悉ノ通ナル所四月四日及ヒ四月五日同總領事代理來電第四六号及ビ第四七号並ニ昨今新聞紙ノ喧伝スル報道ニ依レハ「カリフォルニア」州ニ於ケル情況ハ極メテ不安心ナル形勢ヲ呈スルニ至レリ而シテ此形勢タルヤ一概ニ政客ノ煽動ニノミ之ヲ帰スル能ハス実ハ「カリフォルニア」州農民ノ多数カ本邦人ノ經營ニ係ル農業ノ發展ニ鑑ミ一種ノ恐怖心ヲ懷キ居ルコトハ否定スヘカラサル事實ナルヲ以テ排日運動ノ根抵意外ニ鞏固ナルガ如シ從テ中央當局ノ勢力又ハ博覧会ノ一時的利害論ヲ以テ全然之ヲ防止スルノ見込ナク一種排日案ノ通過ハ遺憾乍ラ之ヲ覺悟セサルヲ得サル義ト信セラル然ル上ハ只知事ノ不認可ヲ待ツ外ナキ次第ナルカ知事ト雖相当理由アルニアラサレハ州民ノ輿論ヲ無視シテ不認可ヲナスコト能ハサルヘキハ尤モ看易キ勢ナルニ付愈々其際ニ臨ミ我ニ於テ相当ノ理由ヲ附シ正式ニ抗議ヲ挟ムノ態度ニ出ツルコト尤モ肝要ニシテ且適切ナルヘシト思考ス今試ニ抗議ノ理由ヲ列挙スレハ左ノ如シ但シ通過案ガ豫テ委員會案ノ如ク Real Estate ニ關スル

抗議ノ基礎及ヒ知事ノ不認可ノ理由薄弱ナルノ不利益アルヲ以テ兩院ヲ通過スル迄ハ此点ニ就キ全ク沈黙ヲ守リ其好機會ニ臨ミ直チニ抗議ヲ申込ム必要アルニ付本件ニ對シ豫メ御承認ヲ得置キタシ且右ノ外何等我ニ於テ附加引用スヘキモノアレハ御訓示アリタシ尤モ最新新聞紙ノ報スル所ニ拠レハ排日案提出者ノ一人タル Birdsell ノ如キハ「カリフォルニア」州司法長官ト協議シ條約ニ抵触スル所無キ様法案訂正ヲ図リ居ルトノコトニ付愈々通過ノ際ニハ或ハ其内容ニ異同ヲ生シ我ニ於テ前記ノ次第列挙スルコト能ハサルヤモ計リ難シト雖尠クトモ第三項ヲ楯トシテ正式ノ抗議ヲ申込ミ知事ノ不認可ヲ要求ス可シ

四〇 四月 六 日 在桑港大山總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法案ニ關スル加州新聞ノ反對論
報告ノ件

第四四号

土地案ニ關シ当地「クロニクル」ハ博覧会ノ見地ヨリ極メテ有力ナル反對論ヲ掲ケ其ノ甚タ時機ニ叶ハサル事ト利

モノニシテ借地權ニモ制限ヲ付スルモノト假定ス
第一、借地權制限及ヒ家屋所有禁止ハ條約違反ナルコト
第二、若シ家屋所有ハ禁止セサル趣旨ナリトスルモ「カリフォルニア」州ニ於ケル慣習カ家屋ト土地トハ分割所有スヘカラサルモノナルニ於テハ土地ニ伴ヒ家屋ノ所有ヲモ禁止セラル、コトトナリ即チ條約ニ抵触スルコト
第三、法文ノ形式如何ニ拘ハラス其精神ニ於テ本邦人驅逐策タルコトヲ公然標榜シ外國人土地所有ヲ禁止スルハ即チ特ニ本邦人ニ對スル特別的ノ待遇ヲ目的ト為スモノニシテ其国交ヲ損フモノナルハ勿論條約ノ精神ニ違反スルコト

第四、最近新聞所報ノ如ク該法案中果シテ從來ノ所有土地ト雖西曆一千八百九十四年以後ノ取得ニ係ルモノハ之カ売却ヲ強要セラルルカ如キ條項アリトスレハ右ハ既得權ノ侵害ノ廉ヲ以テ條約違反ト認ムルコト等ヲ指摘シテ中央政府ニ對シ正式抗議ヲ申込ミ知事ノ不認可ヲ要求スルコト必要ナル措置ナリト思考ス

又抗議ヲ申込ム時機ニ關シテハ法案通過前ニ於テスルモ彼ニ於テ條約違反ノ重点ヲ變更シ而カモ事實ニ於テハ等シク我ニ不利ナル法案ヲ通過スルコトナルヘク其結果却テ我

益ノ之レニ伴ハサル事ヲ指摘シ州会ノ反省ヲ促カセリ又Call 新聞ハ州会ノ意嚮ハ本案ヲ大統領ノ責任ニ移スコトニ異議ナク尠クトモ多数党ノ首領ハ大統領ヨリノ申出ニハ喜ンテ耳ヲ傾ケ強テ政府ノ反對スル法案ヲ通過シ政府ニ差支ヲ与フルコトハ好マサルモノナリトノ意ヲ洩ラシ居リ知事モ同派議員モ過去ノ例ニ依リ中央政府ノ異議ヲ容ルルニ躊躇セサルモノナリ畢竟目下ノ危殆ナル状態ハ党派ノ關係ヨリ生レタルモノニテ党ノ利益ノタメニハ何物ヲモ敢テスル少数党ノ行動ハ多数党ヲシテ余儀ナク博覧会ノ希望ニモ副フコト能ハサラシメタルモノナレハ此際時局ヲ展開スルコトハ民主黨ノ責任ニアリ云々ト論セリ右ハ時局ノ真相ヲ解説シタルモノト思考セラル 大使濟

四一 四月 八 日 牧野外務大臣ヨリ
在米田珍田大使宛(電報)

加州土地法案代表案ノ要点確認方訓令ノ件
第五〇号

左ノ通桑港總領事代理ヘ転電アリタシ
下院ノ第一議會ヲ經タル代表案ノ要点ハ前米ノ貴電ヲ綜考スルニ

- (一) 一般外国人ニ土地ノ所有ヲ禁ス但シ現ニ外国人ノ所有
ニカ、ル土地ハ本法ノ適用ヲ受ケズ
- (二) 今後相続又ハ法律ノ結果ニヨリ土地ヲ取得シタル外国
人ハ一ヶ年間ニ限り之ヲ所有スルコトヲ得
- (三) 外国人ニ対スル五ヶ年以上ニ亘ル土地ノ賃貸契約ハ無
効トス

(四) 外国人ヲ多数株主トスル会社ハ外国人ト見做ス

トノ四点ニアルガ如キモ萬一ノ錯誤ヲ避クル為メ右代表案
御精閲ノ上前記ノ通り相違ナキヤ竝ニ此他ニ重要ナル規定
ヲ存セザルヤ至急当方及珍田大使ヘ電報アレ

四二 四月 八日 在桑港熊崎総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州下院代表の土地法案第二詔会通过竝上院
特別委員会採択ノ代表的土地法案要領報告ノ

件(一)(二)

(一)

第四八号(一)

下院代表案ハ七日第二詔会ヲ通過セリ末項会社ノ項ニハ帰
化権ナキ外国人過半数株主タル会社ハ外国人ト看做シ本法

第四 本法ノ規定ニ違反シテ取得所有スル土地ハ検事ノ告
訴ニ依リ公売ニ附セラル

第五 外国人ニシテ第一帰化證ヲ有スルモノハ本法ノ制裁
ヲ受ケズ

第六 本法ハ加州憲法第一章第十七條ノ規定ニ依リ千八百
九十四年十一月六日以前ニ取得セル外国人所有ノ土地ニ
適用セズ

第七 本法ノ規定ハ條約ニ依リ享有スル外国人ノ權利ヲ侵
害セズ

第八 本法條項中憲法違反ノ為メ無効ヲ宣告セラル、コト
アリトモ其他ノ條項ハ依然其効力ヲ失ハズ

トアリ右第六ニ関シテハ同日憲法改正前ニハ白人及亜非利
加人種ハ市民同様不動産ヲ所有スルコトヲ得トアリ改正後
ハ不動産以外ノ財産ニ関シ市民同様ノ權利ヲ与ヘ不動産モ
改正前ヨリ所有スルモノハ引続キ所有スルコトヲ得トアリ
何レモ白人及亜非利加人ニノミ関スルモノニテ目下東洋人
其他外国人ガ土地所有ヲ許サル、ハ現行民法第六百七十一
條ノ規定ニ依ル

ノ制裁ヲ受クト規定シ法案全体カ一般外人ニ適用サル、モ
ノナルニ独リ該章ノミ帰化権ナキ外国人ナル一語ヲ加ヘ帰
化権ナキ外国人ハ会社ノ名ノ下ニモ土地取得ノ道ヲ防キ傍
ヲ帰化権アル外国人即チ歐洲資本家投資ノ途ヲ開キタルモ
ノナリ多分今週中第三詔会ニ上ルヘシト云フ 大使済ミ

(二)

第四八号(二)

上院土地案特別委員ハ七日夜司法委員会ニ対シ代表案ヲ報
告セリ右ハ十三章ヨリ成リ要領左ノ如シ

第一 外国人ハ当州在住ト否トニ拘ハラズ相続贈与売買及
其他ノ方法ニ依リ土地及之ニ関スル權利ヲ取得シ一ヶ年
限り又未成年者ハ成年ニ達シタル後一ヶ年限リ之ヲ所有
スルコトヲ得

第二 外国人ガ株ノ過半数ヲ所有スル会社ハ何レノ国ノ法
律ニ依リ成立スルモノモ当州内ニ譲与売買其他ニ依リ土
地及之ニ関スル權利ヲ取得シ一ヶ年限リ之ヲ所有スルコ
トヲ得

第三 外国人及前記ノ会社ニ対スル借地及土地ニ関スル權
利ニ關係セル諸契約ハ三ヶ年ニ限り更改継続スルコトヲ
得ズ

四三 四月 九日 在桑港熊崎総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州下院第二詔会通过ノ同院代表法案要領

報告ノ件

第四九号

第二詔会ヲ通過シタル下院代表案要領左ノ通り

第一、一般外国人ノ不動産所有ヲ禁ズ但シ現所有主及其妻
子ノ手ニ在ル間ハ本法ノ適用ヲ受ケズ

第二、今後相続売買法律ノ結果ニ依リ不動産ヲ取得シタル
外国人ハ一ヶ年間、其未成年者ハ成年ニ達シタル後一ヶ
年間限り之ヲ所有スルコトヲ得

第三、本法ニ違反シテ不動産ヲ所有スル者ハ裁判ノ結果公
売ニ附ス

但シ所有主ガ右一ヶ年ノ間ニ市民トナリ又ハ第一帰化證
ヲ得タル時ハ此限りニアラズ

第四、右訴訟提起ハ検事ノ責任ナルモ若シ検事ガ其義務ヲ
尽サザル時ハ市民之ヲ為スコトヲ得

第五、外国人ニ対スル五ヶ年以上ニ亘ル農業用及ビ都市内
不動産契約又ハ賃貸ハ無効トス

第六、帰化権無キ外国人ヲ過半数ノ株主トスル会社ハ外国人ト見做ス
トノ六点ニアリ

大使へ濟ミ

四四 四月九日 牧野外務大臣ヨリ
在桑港熊崎総領事代理宛（電報）

加州排日派議員ノ操縦手段ニ関シ意見問合ノ件

第一号

排日法案ノ成行ハ帝国政府ノ深甚ナル憂慮ヲ以テ之ヲ監視シツ、アル所ナルガ右ニ関シ多少ノ運動費ヲ支出セハ自然議員ヲ操縦スルノ余地アルヘキヤニ聞込ミタル次第アリ右ハ貴官ニ於テ成功ノ望アリトノ御意見ナリヤ何分電報アリタシ本電並ニ御返電ハ珍田大使へ転電シ本大臣ノ訓令トシテ本件ニ関スル同大使ノ意見電報セラルヘキ旨御伝ヘアレ

シ居レリ蓋シ知事及同派首領ノ意嚮ハ此際土地案ヲ通過セシムルコトヲ欲セサルモ自ラ責任ノ衝ニ立ツヲ好マズ「デモクラット」党ヲシテ其責ニ任セシムルカ尠クトモ責任ヲ分担セシメントノ底意ナルヘク察セラル

四六 四月十日 牧野外務大臣ヨリ
在桑港熊崎総領事代理宛（電報）

加州上院代表法案要領ニ付問合ノ件

第二号

貴電第四八号上院代表案要領第一第五及第六ニヨレバ日本人ノ現在所有スル土地ハ今後一ヶ年以上所有ヲ繼續シ得ザルガ如シ右ノ通ニテ相違ナキヤ原文ヲモ拔萃シ至急返電アリタシ尚右貴電第四八号及本電ノ御返電ハ珍田大使へモ電報アレ

四七 四月十日 在桑港熊崎総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛（電報）

加州排日法案反対氣勢ノ新聞論調ニ関シ

珍田大使へ電報ノ件

一 加州ノ外国入土地法案及日本政府ノ抗議關係 四六

四四 四月九日 在桑港熊崎総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛（電報）

加州排日派議員ノ操縦手段ニ付意見回申ノ件

第五〇号

貴電第一一号ニ関シ当方ニ於テハ商業會議所殊ニ博覽会等ノ有力熱心ナル運動ヲ依頼スルト共ニ萬一ノ遺算ナキヲ期スル為在米日本人会長ノ特志ニ依リ同会ヨリ必要ノ費用ヲ支出セルノミナラス Butler ノ推薦ニ依リ議員外ニ於テ有力ナル運動者ヲ傭入レ尚他ノ筋ヨリモ同様ノ運動者ヲ傭入ルル等手ノ著ケ得ラル、丈ハ手ヲ尽シツ、アルモ險惡ナル議會ノ大勢ニハ抗シ難ク乍遺憾未タ効果ヲ収ムルコトヲ得サルカ此際最後ノ手段トシテ議員買収ヲ試ムルコトハ已ムヲ得サル場合ニハ一種ノ権謀ナルヘキモ本問題カ問題自身ノ価値ヲ離レ議員各人政事上ノ立場ト党派政權爭奪ノ問題ナリシ丈其成功甚タ覺束ナク却テ煩ヲ後日ニ貽スノ虞アリト思考セラル尤モ今後ノ形勢ニ応シ右様ノ手段ニ関シ何等機會ノ乗ズベキモノアラハ隨時請訓スヘキモ目下ノ形勢ハ最早中央政府ノ干渉以外ニ有効ナル防遏手段ナキモノノ如ク新聞記事等ニ徴スルモ多数黨タル知事派ハ暗ニ中央政府ヨリノ交渉ヲ期待シ之ヲ容ル、ニ躊躇セサル様子ヲ示

第五二号

珍田大使へ左ノ通電報セリ

第五七号

当地新聞紙ハ排日案ニ関シ兎角議論ヲ為スコトハ却テ反感ヲ招ク虞アリトナシ右ニ関スル一切ノ記事論說ヲ掲ゲザリシニ過般来州会ノ形勢險惡ナルニ至リタルニ付爾來其態度ヲ一變シ有力ナル反対社説ヲ掲ゲ居レリ而シテ前電後段 Chronicle ハ当国東部ノ輿論ヲ借りテ州会ノ反省ヲ促サントスルモノナルガ本件ニ関スル東部ノ批評ハ未ダ当地新聞紙ニ現ハレタルコトナシ若シ今後我レニ有利ナル論說等東部ノ有力ナル新聞紙等ニ現ハレ一般米国人ガ加州ノ行動ヲ是認セザルノ態度ニ出ツルコトアラバ前頭社説ト相待テ何程カノ効力アルベキカト思考ス

四八 四月十日 牧野外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛（電報）

加州排日法案ニ付本邦國論沸騰ノ件

第五三号

貴電第五八号ニ関シ排日法案ニツキ数日來國論沸騰ノ模様

四七 四八

四五

コレアル処四月十日会见ノ際在本邦米國代理大使ハ右國論沸騰ノ事實ヲ四月八日本國政府ヘ電報セル旨ヲ語レルニツキ本大臣ハ篤ト閣僚トモ相談ノ上四月十一日又ハ十二日ヲ以テ本問題ニ関スル政府ノ所見ヲ同代理大使ニ陳述スル所アルヘキ旨ヲ告ケ置ケリ貴電第五八号ニ對スル回電ハ一両日中ニ發スル見込ナリ

註 珍田大使來電第五八号前掲三九文書

四九 四月十日 在米國珍田大使ヨリ 加州排日法案ニ関シ四月九日國務長官ト

会谈ノ件

第六〇号

「カリフォルニア」州排日法案ノ經過益々險惡ノ状アルヲ以テ本使ハ四月六日國務長官ニ對シ此形勢ヲ叙述シ條文字句ノ如何ニ拘ハラズ事實上日本人ガ偏頗ノ待遇ヲ享クルコトトナラバ其兩國ノ親交ニ及ボス影響ニ顧ミ憂慮ニ堪ヘザルニ付大統領及國務長官ニ於テ右法案防止ノ為メ引續キ極力尽力セラレンコトヲ希望スル旨ノ私信ヲ送り置キタル処

同官ハ四月八日夜本使ニ面会ノ節本件ハ其後經過追々満足ニ向ヘル旨ヲ内話セルガ當時他ニ用務多ク本使ハ篤ト同官ノ意向ヲ突止ムル機ヲ得ズ四月九日特ニ会见ノ上前夜ノ内話ニ言及シ当方ノ接手セル報道ニ依レバ却テ形勢非ナルモノト觀測セラル、旨ヲ述ヘタルニ同官ハ右法案中直接ニ日本人ニ對スル偏頗ノ條項ハ漸次修正セラレ現ニ土地ヲ有スル者ハ本人一代ノミナラズ之ヲ相続スル妻子モ亦同様其權利ヲ保護セラル、コトトナルベキ模様アリト説明シタルニ依リ本使ハ四月六日ノ私信中ニモ指摘シタルガ如ク本案ノ修正ナルモノハ單ニ字句ノ變更ニ止マリ苟モ日本人ニ歸化權ナキコトヲ前提トシ帰化ノ手續ヲナスコトヲ許サレザル外國人ニ偏頗ナル條項ヲ存スル限りハ何等實質上ノ變更アリタルモノトシテ満足スルコトヲ得ズ又現所有者ノ妻子ニ相続權ヲ認メラル、モ其以外ノ者ニモ相続權ヲ与ヘラレザル以上ハ所有權ハ完全ナル保護ヲ享有スルモノト云フベカラズト答ヘ詳細説明ヲ加ヘタリ

同官ハ右相続ニ関スル本使ノ意見ニハ耳ヲ傾クル所アルカ如ク自分一己トシテハ修正法案ニ全然満足スルモノニアラサルモ翻テ加州方面ノ情形ヲ見ルニ日本人ハ着々有利ナル地所ヲ買収シ一種ノ殖民地ヲ作ル状アリ之ニ反抗スル人心合セ方ヲ知事ニ請求スル措置ハ中央政府ニ於テ執ルコトヲ得ルナラント答ヘタリ尚本使帰館後國務長官ヨリ本件ニ関シ大統領トモ内議ノ末大統領ハ知事ノ署名見合セ方ヲ請求スルコトヲ快諾シ法案通過ノ上ハ其寫ヲ送付スル機申送ルコトトセル旨電話ヲ以テ確答シ來レリ右会谈ハ長時間ニ互リ詳細討議スル所アリタルモ茲ニ要点ノミ電報ス

五〇 四月十日 在桑港熊崎總領事代理ヨリ 加州上院代表土地法案ノ條項ニ関シ回電ノ件

第五三三号

貴電第一二二号ニ関シ上院代表案ニハ第六ニ於テ加州憲法第一章第十八條ノ規定ニ由リ千八百九十四年以前取得ノモノハ本法ノ制裁ヲ受ケズトアルノミニテ其他ニハ現所有者ニ關スル規定ナキ故第六ニ該當セサルモノハ總テ一ヶ年以内ニ放売セザルベカラザルモノト解釈スルノ外ナキガ上院特別委員ハ九日該案ヲ撤回シ前記第六ノ條項ヲ削除シ上院第五号案修正トシテ提出シ司法委員ハ之ヲ議場ニ報告ス其要領別電ノ通り尚上院特別委員ハ前記ノ外別ニ現所有主ニ關スル法案ヲ提出スヘシトノ報アリ

テハ法定ノ期間アリ自分一己ノ意見ニテハ該期間内署名見

五一 四月十日 在桑港熊崎總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州上院委員会ノ新代表土地法案ノ條項ニ関ス
ル件

No. 54 New Senate Committee Substitute:—

Section II.

Title to real property may be acquired by aliens, resident or nonresident, under restrictions conditions herein set but not otherwise:

A. Any alien may hereafter acquire by purchase or otherwise any right, title, interest to real property and may hold same for one year after so acquiring but no longer; if minor, insane, or incompetent can hold same for one year after attaining majority, or guardian appointed, after one year be subject to escheat.

B. Any alien may hereafter acquire by descent or inheritance title or interest to real property and may hold same one year after final distribution; if minor etc.

Section III.

Any corporation, foreign or domestic, majority

sion shall not affect remaining portions.

Kumasaki.

五一 四月十一日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州ノ排日ニ関シ四月十日國務長官ト會談ノ件

第六二号

四月十日國務長官定例接見日ニ當リ同官ニ面會シ新聞紙ノ報スル所ニ依レハ Raker 下院議員等ハ日本人カ加州方面ニ於テ五萬二千「エーカー」ノ所有地及四十萬ノ借地權ヲ有スルコトヲ聲言シテ日本人排斥ノ論拠トナスカ如キモ近著加州労働年報ニ掲クル昨年未調査ニ徴スルニ右ノ論斷根拠ヨリ否認セラレタルコトヲ説明シテ尚昨日同官ハ日本人カ白人ト分離シテ自己ノ殖民地ヲ作ル傾向アルヲ述ヘタルモ該調査報告ハ日本人農園ニ白人殊ニ希臘國人ノ雇傭セララルモノ尠カラサルト稱スルヲ以テ同官ノ有スル報道ハ事實誇張セル所アリト思ハル旨ヲ說キ右年報ヲ示シタル所同官ハ此適切ナル材料ヲ得タルヲ憚ヒテ追テ加州議員ニ面會ノ節ハ之ヲ指摘シテ更ニ說得ヲ試ムヘシト答ヘタリ依テ

capital stock of which held by aliens, may acquire by purchase, bequest, title or interest to real property, may hold same one year, after that period subject to escheat.

Section IV.

No contract lease on real property any interest therein over three years be made to alien and corporation above mentioned. No renewal extension of such contract etc.

Section VI.

This act shall not apply to real property or interest held by alien declared to become citizen etc.

Section VII.

Provisions of this act shall not impair destroy rights secured by treaty.

Sections VIII IX X.

Escheated property shall be sold and price be paid owner, expenses reduced.

Section XI.

If section sentence held unconstitutional deci-

本官ハ加州排日ノ氣勢ハ實際必要ニ迫ラレタルニアラスシテ全ク一種ノ偏見ニ基クモノト云フノ外ナク日本政府及人民ニ於テ此事實ヲ顧慮シ常ニ同地方人民ノ偏見ヲ解カンコトヲ努メツツアリ博覽會參同ノ如キモ畢竟同一ノ趣旨ニ出デタルモノニシテ果シテ豫期ノ通満足ニ參同スルニ至ラハ前記ノ目的ニ資スル所アルヘキハ疑ヲ容レス然ルニ若シ此際排日法案ノ成立ヲ見ルニ於テハ此等感情ノ融和ヲ図ルノ機會ヲ失フニ至ランコトヲ虞ルト述ヘタルニ同官ハ排日法案ノ運命如何ニ拘ラス日本政府ハ博覽會參同ヲ遂行セラレンコトヲ望ムト云ヒ過日来博覽會會社カ極力本案ノ防止ニ尽シ寧ロ却テ幾分カ地方人民ノ反感ヲ挑発スルノ形跡アル迄ニ熱心ナル運動ヲナシタル実況ヲ說キタルヲ以テ本使ハ日本政府ニ於テ如何ニ苦慮スルモ昨今本邦ニ於ケル人心激昂ノ狀況ニ顧ミルトキハ自然ノ形勢ハ遂ニ右參同ヲ実行スル能ハザラシムルニ至ルヤモ難計シト答ヘ置ケリ右會談中國務長官ハ日本側ノ立場ハ同官ノ深ク諒トスル所ニテ引續キ及フ限り尽力スヘキ旨ヲ繰返シタリ

五三 四月十一日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州排日派議員ノ操縦ニ関スル件

第六三号

在桑港總領事代理發往電第五〇号ニ関シ

右ハ總領事代理意見ノ通御聞込ノ如キ手段ハ目下ノ処奏効
ノ見込立タサルモノト認ムルノ外ナカルヘシ

註 四五文書

五四 四月十一日 牧野外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛(電報)

加州議會ニ於ケル排日法案阻止ニ付米國政府ニ

懇請方訓令ノ件

別 電 同日牧野外務大臣發珍田大使宛往電第五六号
右ニ関シ米國政府ニ懇請ノ為ノ陳述振

第五五号

貴電第五八号ニ関シ日米通商條約ニハ土地ノ所有問題ハ全然規定コレナク只タ土地ノ賃借ニ関シ規定アルモ右ハ住居若ハ商業ノ為メノ規定ニシテ農業ニ関シテハ何等規定スルトコロナシ随テ今日法律ヲ改メテ事実上日本人ノ土地所有

ヲ禁シ賃借ニ制限ヲ附シ米國人ハ勿論他ノ外國人ニ比シ區別の待遇ヲナスコトアリトスルモ住居ト商業トノ目的ニ関スル限りハ土地ノ賃借ニツキテノミ條約違反ノ抗議ヲナシ得ヘキモ農業ニ関シテハ漠然條約ノ精神ニ反ストイフノ外抗議ノ根拠トスヘキ何等特定ノ條文ナシ随テ農業用土地ニ関スル區別の待遇ハ只兩國條約ノ一般の主義精神ニ悖ルトイフノ外他ニ適切ナル條約上ノ論拠ナカルヘシ去レバ法案中或点ニツイテハ当然條約違反ノ議論ヲナシ得ヘキ廉ナキニ非ルモ本問題主要ノ点タル農業用ノ土地ニ関シテハ何等的確ナル條約上ノ防護ヲ有スルコトナシ故ニ此際本件ニ関シ米國政府ニ提言ヲナスニ當リ抗議ノ形式ヲ以テシ條約ヲ楯ニ議論ヲ闘ハスハ決シテ策ノ得タルモノニアラザルベク寧ロ正義ト公道ヲ楯トシ併テ兩國條約ノ一般の主義力決シテ區別の待遇ヲ容レザルコト並ニ斯ル立法力兩國ノ歴史の親善關係ニ悖リ且ツ之ヲ危殆ニ陥ラシムルノ虞アルヲ注意シ更ニ在加州本邦人ノ窮狀ヲ挙ゲテ極力米國政府ノ同情ニ訴ヘ反覆懇請スル方却テ効果多カルヘク現ニ最近桑港總領事代理ノ來電ニヨルモ知事派ハ暗ニ中央政府ヨリノ交渉ヲ期待シ之ヲ容ルルニ躊躇セサル様子ヲ示シ居ル狀況ナルガ如シ依テ閣下ハ至急大統領又ハ國務長官ニ面会ヲ求メ現ニ

上下兩院ニ繫屬中ナル土地法案及ヒ其他ノ排日法案ニ関シ別電第五六号ノ趣意ヲ述ベ適宜本電ノ要点ヲモ加味シ當局ヲシテ十分問題ノ重要ノ程度ヲ自覺セシムルニ勉メラレ誠意ヲ披瀝シテ先方ノ同情ヲ求メ極力當局ヲ動かスコトニ最メラルベシ尚ホ大統領及ヒ國務長官ハ排日派議員ノ誇大的揚言ニ欺カレ日本人ノ加州ニ於テ土地ノ所有及賃借ニ関シテ有スル勢力ヲ過信シ居ルヤノ疑モアルニツキ場合ニヨリテハ學童問題ノ時ニ於ケル例ニ倣ヒ中央政府ヨリ人ヲ派シテ実況ヲ視察セシムルノ儀ヲ注意セラルルモ可ナルヘシト信ス本電並ニ本電ニ關聯スル貴我ノ往復電報ハ都テ其要領ヲ桑港ヘ転通アレ

(別 電)

四月十一日牧野外務大臣發珍田大使宛往電第五

六号

排日案阻止ニ付米國政府ニ懇請ノ為ノ陳述振

(第五六号)

The Imperial Government have learned with deep regret and concern of the two measures regarding alien land ownership now pending in the State legislature of California. Both meas-

ures appear to be directed against Japanese subjects and if enacted into law would undoubtedly give ground for serious complaint. The Japanese Government are well aware that the question is not at this time ripe for formal international discussion but ardently desiring that nothing shall be left undone tending to strengthen the good relations between the two countries, the Japanese Government have decided to approach the American Government on the subject at the present juncture in the hope that steps will be taken to prevent the adoption of the proposed legislation. Accordingly with this object in view you will see the President and Secretary of State regarding the matter. You will assure them that it has always been and still is the earnest desire of the Japanese Government to maintain relations of the most friendly and cordial nature with the United States. You will point out that it was in furtherance of that desire that the Japanese Government in a spirit of friendly accommodation and good neighborhood so readily and fully yielded five years ago to the wishes of

the American Government respecting Japanese emigration to the mainland of the United States and that it is in pursuance of the same desire that the Japanese Government still continue scrupulously and satisfactorily to carry out the understanding then arrived at. You will add that with a view to promote the relations of friendly intercourse with the United States, the Japanese Government hastened at once last year to accept the invitation to take part in the forthcoming Grand Exposition and are actively making all necessary preparation for the important event. You will explain that the amount of land owned by Japanese subjects in California is very inconsiderable and that such amount must in any circumstances always remain a very negligible quantity but that that fact would not lessen the hardship of those who might be called upon to suffer from unjust and inequitable legislation on the subject. Reserving for the present the question of how far and in what particulars the contemplated enactments are in violation of the existing Japanese-American Treaty and hoping that it will not be found necessary to

discuss that phase of the subject, you will impress upon the President and Secretary of State that the measures are clearly contrary to the spirit of good relations and good intercourse which Japan has done so much to foster and encourage and you will strongly urge them to take such steps as may be necessary to prevent the proposed bills from becoming law. You will say that the Japanese Government cannot but regard this question as most serious and important. The public opinion of the nation is deeply aroused and the enactment of either of the projected measures would be most unfortunate and prejudicial to the sentiments of good will and friendship which have always united the two countries, and would moreover be very injurious to their important commercial relations.

There are other anti-Japanese bills before the California Legislature which are equally objectionable. The Japanese Government are well aware that both the President and Secretary of State have exerted their endeavors to avert unfriendly legislation and it is sincerely hoped that they will continue to use their efforts in the same direction.

Makino

(右和訳文)(要訳)

帝國政府ハ目下加州議會ニ外國入土地所有ニ関スル二法案ノ繫屬スルヲ承知シ深ク憂慮ニ堪ヘズ兩案ハ何レモ排日日本のニシテ愈制定ノ曉ニハ本邦ニ於テ幾多紛擾ヲ醸スベキヤ勿論ナリ帝國政府ニ於テハ今日ヲ以テ正式ニ交渉ヲ為スノ時機ニ達シタルモノトハ思惟セサルモ須ク總テノ手段ヲ尽シ兩國親交ノ維持ニ遺算無キヲ期セザルベカラザルヲ以テ帝國政府ハ今ニ於テ米國政府ガ何等カ右懸案ノ通過ヲ防止スル手段ヲ講ゼンコトノ希望ヲ以テ本問題ニ関シ米國政府ニ交渉スルコトト決定セリ依テ閣下ハ此趣旨ヲ体シテ速ニ大統領及國務長官ニ会见ヲ求メ合衆國トノ親厚ナル國交ヲ維持センコトハ帝國政府年来ノ誠実ナル希望ナルヲ兩官ニ特言シ之アルガ故ニ帝國政府ハ厚誼善隣ノ精神ヲ以テ五年以前米大陸行日本移民ニ関シ米國政府ノ希望ニ添フヲ躊躇セザリシコト並ニ帝國政府ハ爾來常ニ同協約ノ維持ニ注意シ米國政府ノ満足トスル結果ヲ示シ来リタルノ事実ヲ指摘サルベシ尚閣下ハ帝國政府ハ更ニ合衆國トノ親厚ナル國交ヲ増進センガ為メ客年率先シテ巴奈馬大博覽會參同ノ意ヲ表明シ今ヤ其準備ニ急ナルコトヲ添言サルベク尚又閣下ハ加州ニ於ケル日本臣民所有土地ノ面積ハ極メテ些少

ニシテ如何ナル場合ニモ重要視セラルベキ程度ニ達スルモノニ非ズ而モ不衡平ナル本立法ニヨリテ蒙ル本邦臣民ノ困難ハ面積ノ小ナルニ拘ハラズ極メテ大ナル旨ヲモ説明セラルベシ

但シ現下繫屬ノ法案ガ如何ナル程度ニ於テ又如何ナル点ニ於テ日米條約ニ違反スルモノナリヤヲ論究スルハ之ヲ後日ニ保留シ又斯ル論究ヲ本件ニ加フルノ要無カラシコトヲ期待スルノ意ヲ表シツ、閣下ハ大統領並ニ國務長官ニ對シ本法案ハ何レモ日本ガ從來其維持伸張ニ尽瘁セルトコロ少カラザル兩國ノ親交善隣ノ精神ニ背馳スルコトヲ指示シ兩官ガ本法案通過ノ防止ニ必要ナル手段ヲ執ラレンコトヲ切實ニ要請セラルベシ尚閣下ハ帝國政府カ本件ヲ極メテ重大視シ居ル旨並ニ國論ノ大ニ沸騰シ居ル旨ヲ告ゲ尚ホ此等提出案ノ何レガ制定セラル、モ兩國々民ノ感情ニ不幸ナル影響ヲ及ボシ特ニ兩國ノ重要視スル商業干係ニトリ最モ有害ナル結果ヲ来スベキヲ恐ル、旨ヲ陳述セラルベシ

帝國政府ハ合衆國大統領及國務長官ガ過去ニ於テ排日本のノ立法ヲ防止スルニ尽瘁セラレタルノ事実ヲ記憶シ今日モ亦同様ノ好意ヲ示サレンコトヲ希望シテ止マサルモノナリ

五五 四月十一日 牧野外務大臣ヨリ
在米田珍田大使宛(電報)

加州排日法案ニ付国論沸騰続報ノ件

第五七号

排日法案ニ関シテハ昨今政黨員実業家新聞記者其他諸団体種々ノ会合ヲ催シ或ハ決議ヲナシ或ハ米国側ヘ電報ヲ発シ或ハ本省及ヒ米国大使館ヲ訪問スル等国論ノ沸騰愈々其度ヲ加ヘ来リ總理大臣ヲ始メ内閣員ニ於テモ種々心ヲ痛メ居ル次第ニシテ高橋大藏大臣ハ知遇ノ關係アルヲ以テ本日在桑港 Jordan 博士並ニ在紐育 Melville Stone 氏ニ宛テ本件ニツキ何等友誼の応援アリタキ旨依頼ノ電報ヲ発セリ本大臣四月十二日午前米国代理大使ニ会見ノ筈右桑港ヘモ通知アレ

五六 四月十一日 牧野外務大臣ヨリ
在米田珍田大使宛(電報)

米国東部新聞操縦ニ関スル件

第五八号

桑港ヨリ閣下宛電報第五七号ニ関シ米国東部ニ於ケル新聞論調ヲ利用シ西部ノ新聞ト相須テ何等我方ニ有利ナル効力

Section I.

No alien shall acquire or own real property by descent, devise, purchase except provided in this act.

Section II.

Alien may acquire real property by devise, descent, purchase and hold one year after acquiring; if minor one year after attaining majority. At expiration of one year, real property shall escheat unless alien owner become or declare to become citizen etc.

Section III.

District attorney shall institute suit for escheat and if he neglect any citizen may proceed being allowed fees etc.

Section V.

Condemned property shall be sold and amount received shall be paid alien owner, deducting costs etc.

Section VI.

This act shall not apply real property now owned so long held by present owner, their wives,

アルヘントノ御見込ナルニ於テハ御考次第相当ノ金円ヲ支出シ差聞無之ニ付右御含ノ上可然御取計アリタシ

五七 四月十一日 牧野外務大臣ヨリ
在桑港沼野総領事代理宛(電報)

外国人土地所有權禁止代表法案ノ原文電報方訓令ノ件

第一三三号

上下兩院ニ於ケル土地所有權禁止代表案ノ重ナル條項ノ原文電報アレ

五八 四月十一日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州下院代表土地法案條項回電ノ件

第五七号

貴電第一三三号下院代表案英文要領左ノ如ク上院案ハ拙電第五四号ノ通り尚大使ヘハ各案ノ要領電報ト共ニ其都度全文郵送シ居レリ

children etc.

Section VII.

No contract lease of real estate agricultural land or city lot longer than five years shall be made to alien etc.

Section VIII.

Corporation whose majority issued capital stock owned by aliens who are ineligible to become citizen shall be considered alien.

Kumasaki

五九 四月十一日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州議會ニ於ケル土地法案ノ形勢報告ノ件

第五八号

下院土地案三読会ヲ開始セシメントアセリ居ル者アルモ本週中ハ多分六ヶ敷カラントノ事ナリ又上院案ハ何等カノ理由ニ依リ牽制サレツ、アルガ如ク多分在華盛頓帝國大使ノ態度ニ基キ知事及上院ノ首領等協議ノ結果ナルベキモ知事ハ其理由ヲ知ラズト云ヘリトノ報アリ又拙電第五三三号現在

所有者ニ関スル別案ハ未タ起草セラレズ尚ホ外國人ヲ多数株主トスル会社ハ本問題ニ付漸次注意シ始メ昨今代表者ヲ「サクラメント」ニ派遣シツ、アリトノ報アリ

六〇 四月十二日 牧野外務大臣ヨリ
在米田珍田大使宛(電報)

加州排日法案ニ関シ「ルーズヴェルト」氏ニ友誼的援助懇請ノ可否問合ノ件

第五九号

排日案ニ関シ金子爵ヨリ「ルーズヴェルト」氏ニ対シ友誼的援助ヲ懇請スルノ電報ヲ発シ度趣ノ処氏ト現政府又ハ氏ト「カリフォルニア」州議會トノ關係其他党派間ノ懸引等ニ顧ミ右依頼ノ義ハ頗ル「デリケート」ニシテ影響ノ如何ニ依テハ反テ不測ノ結果ヲ来スノ虞ナシトセサルニツキ右ニ対スル閣下ノ御意見折返シ電報アリタシ

六三 四月十二日 在米田珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法案防止ノ為東部諸新聞紙利用ニ関スル件

別電 同日珍田大使宛在桑港熊崎總領事代理宛電報第六五号

加州地方新聞紙ノ利用方ニ関シ問合ノ件

第六四号

貴電第五八号ニ関シ東部諸新聞紙利用シテ「カリフォルニア」州議會ノ行動ヲ批難セシムルハ「カリフォルニア」州ノ人心ヲ緩和スルノ効少キノミナラズ中央当局者ノ不快ヲ招キ且ツ論調次第ニ依リテハ却テ地方的自負心ヲ傷ケ反感ヲ挑発スルノ虞アルヲ以テ本使ハ從來東部諸新聞紙ヨリノ問合セニ対シ本件ニ関スル意見ヲ述ブルコトヲ避ケ右諸新聞紙上ノ「キヤムペイン」ヲ煽動セズ只統計ニ基ク計數其他ノ事項ヲ挙ケテ排日論者ノ誤解ヲ正スニ止メ居ル次第ナル所「カリフォルニア」州ハ自ラ進ンテ排日立法反對ノ「キヤムペイン」ヲ為スハ多少同地方議會ヲ動かス結果アルコトト察セラル、ニ付既ニ在桑港總領事代理ニハ別電ノ通申送り目下同官ノ回電ヲ俟チツ、アリ其模様ニ依リテハ相当機密費支出ヲ稟請スル筈ニ付右御含ミアリタシ

六一 四月十二日 牧野外務大臣ヨリ
在桑港沼野總領事代理宛(電報)
加州労働局調査ノ日本人所有地及借地統計問合ノ件

第一五号

加州労働局本年発刊隔年年報掲載日本人所有地及借地各総面積及先年ヨリノ増加額其他該年報中此種ノ統計ニシテ参考トナルベキ重要ノモノアラバ当方並ニ珍田大使ヘ電報アレ

六二 四月十二日 在桑港沼野總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法案ニ対シ桑港不動産業者反對決議ノ件

第六〇号

土地案ノ形勢ニ関シ当館ニ於テハ豫テ当地ノ日本人会ヲ指揮シ不動産売買業者等ノ注意ヲ喚起シ置キタルトコロ桑港不動産業者組合ハ十一日極メテ有力ナル反對決議ヲ通過シタリ

(別電)

四月十二日在米田珍田大使宛在桑港沼野總領事代理宛電報加州地方新聞紙ノ利用方ニ関シ問合ノ件

第六五号

在桑港總領事代理宛第二九号

貴官宛大臣來電第一一号議員操縦費支出ノ考案ガ差当リ奏効ヲ期シ難キハ本使モ貴官ト所見ヲ一ニスル次第ナルトコロ東部諸新聞紙ニ於テ西部ノ輿論ニ圧迫ヲ加フルガ如キ筆法ヲ示ス時ハ各州ノ自負心ヲ傷ケ却テ所期ノ目的ニ反スルノ結果ヲ来スノ虞ナキニ非ルモ貴地方新聞紙ガ排日法案反對ノ Campaign ヲ為スハ此危險ナクシテ多少利益アルコトト察セラル、ニ付此際貴官ニ於テ博覽會社長ニ面会ノ上若シ貴地方新聞紙ノ Campaign 其他排日氣勢抑制ノ為必要ナル運動費ハ日本側ニ於テモ相当ノ負担ヲ為ス模考量ヲ加フベキ旨ヲ暗示セラレ同社長ト内議ヲ遂ゲラレテハ如何カト思考ス若シ貴地方ノ実況ニ顧ミ右ノ措置ヲ適當ナリト認メラル、ニ於テハ直チニ本件ニ対スル同社長ノ意向ヲ確メ結果電報アリタシ

六四 四月十二日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州排日法案ニ付「ルーズヴェルト」氏其他ヘ

ノ韓旋依頼ノ可否ニ関スル件

第六六号

貴電第五七号及第五九号本使ニ於テハ目下ノ所當國中央當局者ノ好意ニ訴ヘ其尽力ニ依頼スル態度ヲ示シ居ル折柄我國務大臣ヨリ假令個人的關係ニ基クモノトスルモ當國一私人ノ応援ヲ依頼セラレタルノ事實漏泄スルトキハ自然「ブライアン」氏等ハ自己ノ尽力足ラサルコトヲ日本國政府ニ於テ疑フモノトナシ結局自己ノ責任輕減セラレタルカ如キ感ヲ抱クコトアルヘキヲ慮ル且今ヤ大統領及國務長官ノ勢力ヲ以テスルモ尚加州議會操縦ノ困難ヲ感シツアル情勢ナルニ「ジヨルダン」、「ストーン」等ハ如何ニ日米親交ヲ念トスルモ到底目下ノ時局ヲ左右スルヲ得ルカ如キ勢力ヲ有スルモノニアラスト信ス金子子ヨリ「ルーズヴェルト」氏ヘノ依頼ハ前記不良ノ影響スヘキ理由ナカルヘキノミナラズ若シ「ルーズヴェルト」氏ニ於テ之ヲ快諾スルトキハ加州及其他ノ革進黨員ニ對シ實際効果アルコトト察セラル尤同氏ハ元來外國人一般ニ土地所有權ヲ禁止スル立法ニ

ニ至リテハ最早何等修正ノ余地ナキカ故ニ確定ノ条文ニ對シ知事ガ異議アル以上ハ其異議ハ假令單ニ重要ナラザル一小部分ノ字句ニ関スル場合ト雖全案不認可不成立トナル事ヲ豫期セサルヘカラサル義ナリ若シ我ニ於テ最後ノ手段トシテ右ノ措置ニ出ヅル方針ヲ執ルニ於テハ院議繫屬中ノ今日ニアリテハ明白ニ條約ニ違反スル点ハ特ニ我ヨリ指摘スル事ヲ避ケ是迄通り漠然タル條約ノ精神論ト正義公道トヲ楯トシ飽迄懇請の態度ヲ執ルニ止メ置ク方反テ得策ナリト認メラル、トコロ若シ帝國政府ニ於テ法案通過後ニ至リテモ尚今日ト同様大體論ヲ繰返スニ止マリ具體的ニ條約違反ノ点ヲ指摘シテ正式ニ抗議スルコトヲ非トセラル、ニ於テハ知事ニ於テモ不認可ノ口実ヲ得ズ遂ニ認可スルノ已ムヲ得ザルニ至ルベキヲ恐ル、ニ付寧ロ兩院通過前適當ノ時機ニ於テ案ノ各條ニ亘リ詳細論究シ苟モ條約違反ノ廉ハ之ヲ改メシムルハ勿論尚我不利益ノ点ハ出來得ル限り之ヲ減少セシムル方針ニ出スル必要アルベシト思考ス貴電第五五号ニテハ右法案通過後ノ場合ニ對スル御方針明白ナラザルニ付本官心得ノ為何分ノ義御電訓ヲ乞フ

異議ナキコトヲ言明シタル行懸リモアリ(四十二年二月往電第一八号参照) 同氏ニ於テ右依頼ヲ承諾スルニハ多少躊躇スヘキコトト思ハル

註 日本外交文書第四十二卷第二冊一二八〇文書

六五 四月十二日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法案加州議會通過ノ場合ニ對スル我方

針ニ付請訓ノ件

第六七号

貴電第五五号ニ関シ本使ニ於テモ御電訓ト同様ノ趣旨ニ依リ引續キ中央當局者ト折衝シ極力防止ニ努メツ、アルハ勿論ナルモ一面加州ノ形勢益非ナルニ鑑ミ諸方面ノ尽力遂ニ及バズ不幸ニシテ排日案ガ兩院ヲ通過シタル場合ト假定シ其節直チニ本使ノ執ルヘキ手段ニ関シ時機ヲ失セザランガ為往電五八号ヲ以テ豫メ請訓シタル次第ニシテ右ノ場合ニ於テ通過シタル法案中ニ明カニ條約ニ抵触スル廉アラハ之ヲ指摘シタル我抗議ハ中央當局者ヲシテ是ニ依リテ知事ノ不認可ヲ要求セシムルノ資料トナルヘク知事ニ於テモ不認可ノ理由トシテ援用スルニ便ナルベク而シテ法案通過後

六六 四月十二日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州排日法案防止ノ展開策トシテ交換の提議ニ

付請訓ノ件

第六八号

貴電第五五号御訓令ノ趣旨ハ唯今(四月十二日午後)ヨリ國務長官ニ面陳シ尚大統領ニモ可成速カニ謁見ヲ求ムル筈ナルガ右御訓令ノ趣旨ハ是迄本使ガ既ニ大統領及國務長官ト累次折衝シ來リタル趣旨ト大差ナキヲ以テ之ニ因リ直チニ的確ナル効果ヲ奏スヘキヤ本使ノ憂慮ニ堪ヘサル所ナリ實ハ累次電報ノ通り大統領及國務長官ハ出來得ル丈ノ尽力ヲ為シ居ルコトハ疑ヲ容レサル所ナルモ國体上正式ノ干涉ヲ為スコト能ハサルト根柢深キ党派上ノ監視(?)ニ依リ其運動範圍限定セラレ居ル等ハ加州ニ於ケル一般形勢ト相待テ畢竟同氏等尽力ノ效果乏シキ所以ナルベク大統領モ今ヤ是等ノ事情ニ制セラレ十分ニ当初ノ目的ヲ達スル望ナキヲ認メ加州選出議員並ニ新聞記者等(別電第六九号)ニ對シテモ多少「コムミット」セル形跡アリ素ヨリ本使ニ於テハ彼等ニ對シ及ブ限リ其趣旨貫徹ニ努ムベキモ若シ愈々奏

効ノ見込ナキニ至ラハ我ヨリ当局者ニ対シ一ノ血路ヲ与ヘ局面展開ヲ計ルノ必要アルベシト思考ス

然ルニ写真結婚婦人ノ渡来ハ兎角当国ニ於ケル物議ノ種子トナリ居ル処關係領事ノ意向ニ徴スレバ此ノ種婦人ハ最早大概行渡リ今後我ニ於テ自ラ之カ旅券下付ヲ禁止又ハ制限スルモ在留民ノ為甚シキ不便不利益ヲ生ゼザルベク統計ニ徴スルニ一般本邦移民渡航ハ大体ニ於テ減少ヲ示スモ独リ婦人ノ渡航ハ著シク増加スルノ傾向アリテ其結果自然農業ニ從事スルモノヲ増加スルコト加州人ノ唱フル苦情ノ一ナレバ此際排日案防止交換問題トシテ右自制方試ミニ提議スルハ一策ナラスヤト思考ス尚又本邦ニ於ケル外国人士地所有權ノ有無ハ本問題ト關聯シテ彼此ト問題ニ上リ動モスレハ我ニ不利益ナル感想ヲ当国人士ニ抱カシムル傾向アルニ鑑ミ場合ニ依リテハ本件ヲモ併セテ交換問題ノ一トシテ我ニ於テ直ニ右ニ關スル法律実施ヲ加州ニ提言シテハ如何カト思考ス尤右ハ單ニ本使限ノ思付ニシテ先方ニ於テ果シテ是等交換問題ノ提供ヲ以テ血路ヲ開クニ値スト認ムルヤ否ヤハ不明ナレトモ目下ノ状態ハ中央政府ニ關スル限り或ハ一種ノ「デッドロック」ニ陥リ居ルニフラスヤト疑ハルル次第第二付右提議ニ依リテ局面展開ヲ試シントスル次第ナ

ored informally use good offices in matter. Secondly that Senator Thompson California who active drafting alien land bill said, upon reading Tokio dispatches yesterday, that Japanese misinformed that bill no discrimination among aliens, that land now held by aliens might be retained forever, that restrictions referred only future acquisitions.

Chinda

六八 四月十三日 在桑港沼野總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法案防止ノ為新聞操縦費ニ關スル件

第六一号

珍田大使ヘ左ノ通り

第六四号

貴電第二九号ニ關シ当地新聞紙ハ拙電第五七号ヲ以テ既報ノ通り最近州会ニ於ケル形勢險惡ナルヲ以テ従来ノ默過的態度ヲ一変シ大ニ土地案反對論ニ努メツ、アリ右ハ全ク博覽會会社ノ指図ニ依ルモノニシテ同社ニ於テハ費用ノ為メニ必要ナル運動ヲ手控ヘ居ルガ如キコトナシト信ゼラル、

リ右ニ關シ何分ノ御意見御内訓アリタシ

六七 四月十二日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法案ニ關シ大統領言明ノ件

No. 69 Betsuden.

Relating California question newspapers April 12th report first that President in informal talk to newspapermen yesterday, spoke substantially follows: He expressed hope that pending legislation not prove objectionable Japan. He said while treaty between America Japan provided nothing regarding landownership and Imperial ordinance relative foreign landownership not yet issued, treaty guaranteed Japanese people treatment on basis most favored nation. He stated difficulties really proceeded from domestic constitutional arrangements in America. He explained Japanese Ambassador most properly and friendly requested Federal Government see if anything could be done make legislature acceptable Japan and that with that spirit Administration endeavor-

ヲ以テ此際我ヨリ運動費負担ヲ暗示スルニハ及バザルヤニ思考セラル尤モ今後当地新聞紙「キャンペーン」其他ニ關スル運動ハ博覽會々社長トモ談合ノ上適當ナ措置ヲ執ルヘク尚同社カ我ニ於テ運動費ヲ負担スルヲ希望スル氣配アルカ又其他運動費ノ支出ニ依リ幾分ナリトモ効果ヲ收メ得ベキ機會アレバ之ヲ利用スルヲ怠ラザルヘシ
右拙電第五七号トアルハ閣下宛拙電第五二二号

註1 前掲六三文書ノ別電

2 前掲四七文書

六九 四月十三日 在桑港沼野總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州在住日本人ノ所有地及借地統計ニ付回報ノ件

第六二号

貴電第一五号ニ關シ本年度加州労働局年報一九二二年三月ノAssessment rollsニ依レバ日本人所有農業地ハ一萬二千七百二十六エーカー総価格六十萬九千六百五弗(一九〇九年一萬七百九十一エーカー総価格三十九萬七千二百九十八弗)市街地二百十八ヶ所価格二十三萬五千六百七十五弗(一九〇九年度口数不明価格十七萬四千六百十四弗)借

地三萬七千八百九十エーカー(千九百九年度二萬二百九十四エーカー)トアリ右ハ幾分調査洩ノモノアレドモ多クモ前記統計ノ一二割ニ過ギザルベク右年報ハ四月十五日貴地着ノ筈尚四十三年公信一一一号ニテ進達ノ労働局調査梗概ハ当州日本人ノ地位ヲ弁護スルニ有力ナルベシ右御参考迄申進ス本件年報及ビ調査概要ハ総テ大使ヘ送附済

七〇 四月十三日 牧野外務大臣ヨリ
在米田珍大使宛(電報)

加州土地法案ニ関シ在本邦米國代理大使ニ対シ
為シタル談話要領通報及訓令ノ件

別 電 同日牧野外務大臣發田大使宛電報第六一号
右談話ニ於テ強調セラレタル排日土地法案ノ
重大性ニ関スル件

附 記 四月十二日外務大臣ノ米國代理大使ニ対スル
談話筆記

第六〇号

本大臣ハ四月十二日午前十一時米國代理大使ヲ接見シ加州
問題ニ関シ大体往電第五六号ニ均シキ趣意ヲ委敷申述ヘ就
中別電第六一号ノ部分ニハ殊ニ重キヲ置キテ陳述シ尚ホ日

ニ感知セシメ此上ナガラ極力当局ヲ動カスコトニ勗メラ
ルベシ

(別電)

四月十三日牧野外務大臣發在米田珍大使宛電報

外務大臣ノ在本邦米國代理大使ニ対スル談話ニ
於テ強調セラレタル排日土地法案ノ重大性ニ関
スル件

第六一号

帝國政府ハ數年來議會ニ於ケル絶エサル反對ト周圍各般ノ
困難トラ凌ギテ移民ノ渡航ヲ嚴制シタリ随テ現在ノ住民ハ
何レモ新來ノ移住者ニアラズ既ニ多年遵法ノ精神ニ富メル
良民トシテ安ラカニ州内ニ生計ヲ営メルモノナルノミナラ
ズ日本ノ加州資源開發ニ貢獻スル所アルハ同州政府ノ調査
之ヲ認ム然ルニ今回ノ排日案ハ本邦人ガ精勵努力ニヨリテ
贏チ得タル財産ヲ剝奪セントスルモノニシテ殆ト日本人ノ
加州ニ居住スルヲ不可能タラシメントスルモノナリ
而シテ本件立法ノ結果ハ雷ニ大博覽會參同事業ノ遂行ニ害
アルノミナラズ兩國民一般感情ノ上ニ極メテ悲ムベキ傷痕
ヲ与ヘ之ガ為メ將來長ク兩國ノ通商交通關係ニ好マシカラ

米ノ親交ニ鑑ミ目下本邦ニ於ケル國論沸騰ノ実状ヲ米國政
府ニ知悉セシメ其考慮ヲ促スハ本大臣並ニ同代理大使ノ責
務ナル旨ヲ附加シタルニ代理大使ハ本大臣ノ談話ヲ充分領
得シ同情ヲ以テ之ヲ解釈シ尚ホ本國政府ニ電報シタキ趣ヲ
以テ右談話ノ筆記ヲ得度旨申述べタルニ付本大臣之ヲ諒シ
談話ノ儘筆記シテ之ヲ渡シ同時ニ往電第五六号ノ「バラフ
レーズド、コピー」ヲモ交付シ置キタリ

將又排日法案ニ対スル國論ノ沸騰ハ昨今漸ク頂点ニ達セン
トシツ、アルモノノ如ク上下兩院議員、政黨員、學者、新
聞記者、東京其他重ナル都市ノ商業會議所等昨今愈活動ノ
度ヲ高メ新聞紙ノ如キ何レモ本件ヲ以テ紙面ノ不少部分ヲ
埋メ概シテ真面目ナル論調ヲ以テ四民平等一視同仁ヲ標榜
スル米國カ人種の僻見ニ驅ラレ本邦人粒々辛苦ノ地面ヲ
奪ヒ將來立脚ノ基礎ヲ覆サントスルハ只ニ條約違反ノ行動
タルノミナラス人道ニ悖リ正義ニ反クノ曲事ナリトシ筆ヲ
揃ヘテ其不當ヲ責メ反省ヲ求メサルナシ

以上報スル所ニヨリ閣下ハ往電第五六号ノ外何等適切ト御
考ノ点モアラハ御裁量ニテ可然追加セラレ一方ニ於テ加州
ニ於ケル日本人ノ勢力ニ関スル當局ノ過信ヲ正シ他方ニ於
テ當局ヲシテ日本ガ如何ニ此問題ヲ重大視シ居ルカラ十分

ザル影響ヲ及ボサンコトヲ憂ヘザルヲ得ズ故ニ政府ハ深ク
大統領並ニ國務長官ノ正義衡平ノ精神ニ信賴セント欲ス今
ヤ日本ノ輿論ハ著敷激發サレ太平洋岸同胞ノ運命ニ同情ス
ルコト深甚ナリ

政府ハ米國ノ當局カ先以テ十二分ニ本件ノ重要ノ程度ヲ了
解セラレテ後本件ヲ処理セラレンコトヲ切望ス

(附記)

四月十二日外務大臣ノ米國代理大使ニ対スル談

話筆記

Private

The friendly relation between Japan and
America has been traditionally most cordial and
Japan attaches supreme importance to its
maintenance and cultivation. The emigration
question has been the only disturbing cause of
this relationship, and for this reason, inspite of
great sacrifice, internal difficulties and constant
opposition in the Parliament, the Government
have taken upon themselves to practically stop
the emigration.

It is now with grave concern Japan is watching

the development of alien land bill in California. She earnestly hopes and trusts it will not pass. The aim of the bill appears to be to practically render impossible the continued sojourning of the Japanese in that State. These are the people who are no new arrivals; they have been established for some years and have enjoyed hospitality and protection there until now and have pursued peaceful callings and are known as law abiding. It is by their sheer industry and labor that they have come to acquire land and property. It must be admitted that they have contributed towards the development of the resources of the localities they have toiled in. The result of special inquiry instituted by the State of California, frankly admitted as such.

If the bill becomes law it is out of these possession that they shall be ultimately deprived of.

The Japanese Government do not desire nor deem it opportune to enter now into the legal consideration of the case, but wish most earnestly to appeal to the high sense of justice and equity which they know the President and the Secretary

should not present additional cause of apprehension for the future.

The Imperial Government feeling the great responsibility which they are bound to take in maintaining the traditional relationship between the two nations intact, have at this turn of events, no other means but to make this solemn appeal to the United States Government to make the matter a subject of further consideration and take suitable means to prevent such development of affairs which may lead to a very serious misunderstanding between the two peoples.

We hope the United States Government having in view the import of this affair will make the matter subject of special and careful attention.

註 右筆記ハ同日米國代理大使ニ交付セラレタリ

七一 四月十三日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州排日法案ニ関シ四月十二日國務長官ト会見
ノ上訓令執行及懇談ノ件

一 加州ノ外國入土地法案及日本政府ノ抗議關係 七一

of State are both imbued with to take such proper steps as will remove the cause of these unfair and discriminate treatment of the Japanese.

Public opinion in Japan on the present situation is unprecedentedly aroused, their heartfelt sympathy for the fate of their compatriots across the Pacific finds continued expression in the Press and other constituted organs and bodies. It is feared the passage of the bill will have the most deplorable consequences not only on the satisfactory realization of such pending enterprise as the Panama Exposition, but on the entire national feeling in regard to the general intercourses of the Japanese with the American people. Its manifestation is bound to be shown on all the future relations of the two countries in matter of commerce and travel and is not likely to be soon forgotten.

As the Imperial Government intend to observe the letter and spirit of the emigration regulations, it is only natural to expect that the number of the Japanese in California will not increase but rather the reverse, so that the situation in that State

第七一号

四月十二日國務長官ト会見シ貴電五六号全文ヲ読上ケ其写ヲ同官ニ手交シタル上尙進ンテ從來日米兩國間ニ於ケル互信友愛ノ關係ハ由来スルトコロ遠ク且極メテ深厚ナルハ貴官ニ於テモ認メラルノ通ナルニ因ラス本問題ニ関スル本邦ノ國論沸騰如斯ニ至リタルハ事態ノ頗ル容易ナラサルヲ證スルモノニシテ元來排日案出現ノ動機及精神ハ關係者カ公信シテ憚ラサルカ如ク日本人ヲ「カリフォルニア」州ヨリ驅逐シ去ラントスルニ依ルナレハ仮令該案カ議會繫屬中ニ其形式ニ於テ如何ナル改竄ヲ經ルニセヨ其精神依然トシテ日本人驅逐ニ存スルコトハ掩フヘカラサル実状ナルヲ以テ日本国民ハ之ヲ以テ國民的侮辱ト認メ到底忍フヘカラサルモノトシテ憤激シ居ルヲ説明シテ帝國政府ニ於テハ偏ニ人心ヲ慰撫シテ米國政府ノ好誼ニ信頼セシムル様努力中ナルモ愈々排日法案成立ヲ見ルガ如キコトアラバ益々國論ノ沸騰ヲ來タスニ至ランコトヲ恐ルル旨ヲ述ベタルニ長官ハ此大勢ノ深ク顧念スベキモノアルヲ承認スルト同時ニ「カリフォルニア」州ニ於ケル事態ニ就テモ本使ノ注意ヲ請フコトアリトテ本日在加州一有力ノ政友ヨリノ來電ヲ読聞カセ就中過日委員會審理ニ於テ農業借地中日本人ノ為メ

著々我利益ヲ侵害セラル、ノ窮状ヲ説キ号叫シテ之ヲ救済方ヲ哀訴セルモノアリテ痛ク委員ヲ感動セシメタル事實ヲ挙げ右政友ノ名ハ之ヲ洩ラスコトヲ得ザルモ常ニ公平且冷静ニ事態ヲ判断スルノ性格ヲ備ヘ充分信頼スルニ足ルモノナリト云ヒ同地方ニ於テ日本人ニ対シ極端ナル恐怖心ヨリ行ハル、事實ノ最早否認シ難キヲ指摘シ此事態ハ政治家トシテ不問ニ付スルコト能ハザル所ナリト説キ尚本使カ過般写真結婚婦人渡航ニ付帝国政府ニ於テ嚴重ニ制限ヲ加ヘツツアル事實並ニ移民力婦人ヲ呼寄せ家庭ヲ作ルコトナリタルカ為メ著実永住ノ氣風ヲ養成シ地方ノ繁榮ニ対シテ共通ノ利害關係ヲ有スルニ至レル情況ヲ指摘セル説明ニ言及シ政府ノ意志ガ如何ニ善良ナルモ事實ニ於テ往々意想外ノ現象ヲ呈スルコトアリト云ヒ一例トシテ右ノ夫カ当国ニ於テ土地ヲ所有スルトキハ之ヲ以テ本人ハ旅券交付ノ資格ヲ有スルモノト認メラル、結果著シク日本人ノ土地所有ヲ奨励スルノ傾向ヲ来タシタリト述ヘ兎ニ角米國側ノ立場モ實際非常ニ困難ナルヲ以テ本件解決ニ関シ何等名案ナキヤトノ問ヲ發シタルニ対シ本使ニ於テハ目下何等成案ヲ有セザルモ右写真結婚ニ関スル件ハ篤ト考量ヲ加フヘク尚苟クモ我威信ヲ損セズシテ実行シ得ベキモノアラバ

ニ信頼シテ其成功ヲ期スル次第ナルモ萬一本法ガ兩院ヲ通過スル場合ニ至ラバ中央政府ニ於テハ如何ナル措置ヲ執ラル、ノ方針ナリヤト問ヒタルニ若シ愈々兩議院ヲ通過スルニ至リ尚ホ同案中不都合ノ廉アリト認ムレバ其時コソ知事ニ対シ請求スル (Request) 所アルベシ尤モ之ヲ命令 (Require) スルコトハ憲法上其権能ナキ旨特ニ説明ヲ加ヘタリ且ツ其節本問題解決ニ関スル方法ヲ必要トスルニ付何トカ考量アリタシト答ヘタリ本使ハ右ニ対シ其好意ハ十分之ヲ諒トスルモ可成兩院ヲ通過前ニ之ヲ防止スルコト切望ニ堪ヘザル旨ヲ述ベ此上モ尚極力尽力セラレ度旨重ネテ要望シタル処同官ハ之ヲ了知シ引続キ十分努力スベキ旨繰返サレタリ

会谈要領右ノ通ニシテ先方ニ於テモ本問題解決ノ為メ一生面ヲ開クコトノ極メテ必要ナルヲ認メ居ルニ付往電第六八号御参照相成至急御詮議ノ上御回訓アリタシ尚ホ大統領ニ謁見ノ事ハ國務長官ニ申込ミタル処直ニ其手續ヲ執リ呉レタルニ付一兩日中ニ謁見ノ筈ナリ

長官ヨリ提議アルニ於テハ喜ンデ考量ヲ加フベキ旨ヲ答ヘタルニ長官ニ於テモ差当リ格別具體的ノ成案ヲ有セサレドモ先年移民問題ニ関シ兩國ノ立場ガ極メテ困難ニ陥リタル際帝国政府カ旅券發給ノ自制ヲナシタルヨリ時局ヲ救済シ得タル先例ニ鑑ミ此際本邦ニ於テ旅券發給ノ際米國ニ於テ土地ヲ所有セザルベキコトヲ條件トナスガ如キ方法ナキヤ又日本人ヲ一地方ニ集中セシメズシテ之ヲ幾多少数ノ集團ニ分チ各州ニ散布スルコトヲ得ザルヤト申出タルニ付右ハ艱クトモ当国内ニ於ケル取締不可能ノ点ヨリスルモ到底実行スベカラザルモノト思考スル旨ヲ答ヘ置キタリ

尚ホ本使ハ昨今「カリフォルニア」州知事一派ガ中央ヨリ交渉ヲ期待シ之ヲ容ルル形勢ナル趣内聞セルニ付此際州ノ權利ニ干渉セザル限り中央当局者ノ活動範圍ヲ拡張シ知事ニ対シテモ何等申送ラル、コトアラバ極メテ有効ナルベキ旨ヲ告ゲ之ガ実行ヲ切望スル旨申述ベタルニ中央当局ニ於テハ本件ニ付本日迄及ブ限り日本側ノ希望ニ副ハンコトヲ努メ尚ホ今後モ同一ノ目的ニ尽力スルコトヲ辭セズト雖モ敵党ニ屬スル知事ニ意見ヲ内示シテ説得ヲ試ムルコトハ党争上ノ關係ヨリ到底実行シ難シトテ其内情ヲ縷述スル所アリ因テ本使ニ於テハ固ヨリ中央当局者ノ誠意ト尽力ト

七二 四月十四日 牧野外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛 (電報)

加州排日法案阻止ニ関シ金子子爵ヨリ「ルーズヴェルト」氏宛援助依頼ノ電報發送ノ件

別電 右金子子爵電報

第六二号

貴電第六六号ニ関シ四月十四日金子子爵ヨリ別電第六三号ノ通り「ルーズヴェルト」氏ヘ打電セリ

(別電)

四月十四日金子子爵發「ルーズヴェルト」氏宛電報

排日法案阻止ニ関シ援助依頼ノ件

Theodore Roosevelt

Oyster Bay, N. Y.

The land ownership bill now before California legislature is discriminatory against Japanese and is giving us very grave concern. If passed and enacted, it will not only be a severe blow to the Japanese in California, but is greatly feared will estrange the most cordial sentiment happily maintained ever since our intercourse with America. The people in this country gratefully remember

the debt we already owe you for your earnest effort in our behalf under similar circumstances in California a few years ago. Relying upon my personal relation with you, and also having been prompted by the sincere desire which, as you already so well know, I always cherish, to spare no effort to foster the friendly relations between the two countries I earnestly pray you to kindly employ once more your influence to check such measures which are entirely incompatible with our traditional friendship. A satisfactory settlement of this question is of vital importance to us.

Kaneko

十三 四月十四日

在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州排日土地法案ニ對抗ノ唯一ノ手段ハ知事ノ

拒否権以外ニ無キ件

第六七号

本官発在米大使宛電信左ノ通

昨十三日「ロスアンヂェルス」ノ有力者ニシテ青物市場会
社支配人「デヨンソン」ナル者同地日本人会ノ依頼ヲ受ケ

七四

四月十五日

牧野外務大臣ヨリ
在米国珍田大使宛(電報)

加州排日法案防止ノ展開策トシテノ交換的提

議ニ付回訓ノ件

第六四号

貴電第六八号及第七一号末段ニ関シ写真結婚婦人ノ渡航制限方提言ノ件ハ移民制限ニ関シ既ニ殆ド極度迄譲歩シタル
今日更ニ譲歩ヲ重ヌルハ帝国政府トシテ頗ル困難ヲ感ズル
トコロナルノミナラズ国論モ亦容易ニ之ヲ許容セザルベキ
ニツキ本問題ハ当方ヨリ提議スルコトハ之ヲ避ケ先方ヨリ
提言アリタル際之ニ考量ヲ加フルコトニイタシタシ又外国
人ノ土地所有問題ハ尚ホ考究ヲ要スル点アリテ此際直ニ勅
令ヲ發布スル如キ運ビニハ到底至リ難キモ本問題ニ相当ノ
考量ヲ加フルノ儀ハ固ヨリ妨ゲサル次第第二付若シ此問題ノ
提供ガ多少本件解決ノ助トナルベキ御見込ナルニ於テハ日
米条約改正ノ際ニ於ケル我証言ニ「レファア」シ提言セラ
レ差聞ナシ

土地案防止運動ノ為メ「サクラメント」ニ行キ途次来桑セル
ルニ依リ之ト会谈シ又本十四日新任ノ挨拶旁々博覧会社長
ヲ訪問シタル機会ニ於テ夫々土地案防止ニ関スル意見ヲ叩
キタルニ何レモ時局ノ困難ナルニ手古摺リ果テタル様子ニ
テ各般ノ運動ニ手ヲ尽シタルニ拘ハラズ本案両院通過ノ恐
レアル今日新聞操縦ノ如キモ同社長ノ説ニ依レバ現在同社
ノ指揮ニ依リ我レニ対シ友好的態度ヲ取リツ、アル新聞以
外労働派各新聞ニ手ヲ付クルモ差当其効果甚覺束ナキノミ
ナラズ寧ロ多少危険アリ今後直接唯一ノ手段トシテハ何等
カノ方法ニ依リ中央政府ノ介入ヲ催起シ同案通過ノ曉知事
ハVetoノ辞柄ヲ与フルノ外ナシ右ハ現政府当局ト当州知
事トノ關係其他ニ顧ミ事ノ至難ナルベキハ明ナルガ差当リ
他ニ名案ナシト云フニ一致セリ(但シ日本人ヲ米国市民ニ
Irigibleトナス根本的ノ解決ハ之ヲ除ク)本官ニ於テモ大
勢挽回ニ努力シツ、アルモ本問題ノ解決上新生面ヲ開キ得
ザル限り現状ニ於テハ遺憾ナガラ前記ノ所見ヲ是認セザル
ヲ得ズ

外務大臣ヘ電報ス

七五

四月十五日

牧野外務大臣ヨリ
在米国珍田大使宛(電報)

加州土地法案州議會通過ノ場合ニ於ケル抗議

提出ニ関シ訓令ノ件

別 電 同日牧野外務大臣発珍田大使宛電報第六六号

右抗議ノ論拠

第六五号

貴電第六七号ニ関シ排日案ノ通過ヲ防止スル為メ此上ナガ
ラ閣下ノ十分ナル御尽力ヲ期待スルハ申ス迄モナキコトナ
ガラ萬一不幸ニシテ同案両院ヲ通過スルコトモアラバ凡ソ
条約違反ノ廉々ハ悉ク之ヲ列挙シテ嚴重ナル抗議ヲ提出シ
知事ノ不認可ヲ要求セラルベシ尤モ右抗議ハ畢竟スルニ該
案ノ成立ヲ妨グルニアルヲ以テ通過以前ト雖モ最早何等ノ
余地ナキコトヲ御確メノ場合ハ抗議ノ最モ有効ナルベキ時
期ヲ見計ヒ機ヲ失セズ提出方可然取計ハルベシ而シテ抗議
ノ論拠ハ別電第六六号ノ通ニツキ豫メ御承知ノ上此外ニモ
尚御気付ノ点モアラハ御申越アリタシ

(別 電)

四月十五日牧野外務大臣発珍田大使宛電報

加州土地法案ニ対スル抗議ノ論拠

第六六号

条約違反ノ議論ハ大体貴電第五八号ノ通ニシテ

(第二) 将来農業用地所ノ所有及ヒ賃借ヲ事実上日本人ニ
限リ禁止若ハ制限スル(両院案共)ハ明カニ日本人ニ区
別的待遇ヲ与フルモノニシテ日米兩國間ニ於ケル条約ノ
根本的主義精神ニ悖ルモノタルコト

(第二) 現ニ所有シ居ル不動産ノ所有權ヲ現所有主及其妻
子ノ手ニ在ル間ニ限ル(下院案)ハ之レ既得權ヲ侵害制
限スルモノニシテ明カニ条約第一条第三項ニ違反スルモ
ノタルコト

(第三) 住居及ヒ商業用不動産ノ賃借權ヲ制限スル(両院
案共)ハ条約第一条第一項ニ違反スルモノタルコト

(第四) 家屋ニ関シテハ不動産(Real property)ハ家屋
ヲ含ムニヨリ(両院案共)農業用タルト否トヲ問ハス条
約第一条第一項及ヒ第三項ニ違反スルモノタルコト

(第五) 会社ニ関シテハ両院案共事実上日本人ヲ区別的ニ
待遇スルモノニシテ自然将来不動産所有ヲ禁シ既得權ヲ
モ侵害シ不動産ノ賃借ヲモ制限スヘキニヨリ間接ニ前記
各項ノ議論ヲ其儘適用セサルヘカラス

七七

四月十五日

在桑港沼野總領事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法案防止ノ為上院方面へ運動中ナル旨

報告ノ件

第六八号

土地案防止ニ関シ労働派議員ヲ牽制セントスルコトニ関
シテハ日本人会ヲシテ同会使用ノ運動者前当州上院議員
Wolfe(往電第五〇号「其他運動者」ノ中労働派ニ密接ノ関
係ヲ有ス)ノ意見ヲ徵セシメタルニ同人ハ其ノ甚ダ望ミ少
ナキ旨述べ此際之ニ手ヲ付クルハ却テ危険ナル結果ヲ来ス
處アリト語レル由ナルガ此点ニ付テハ博覧会社長等ノ所見
モ略同様ニシテ右実行ノ為メ未ダ有効ナル方法ヲ発見スル
コト能ハズ次ニ議員ニ対スル直接運動ハ成功ノ見込不確実
ナルコト屢次所報ノ通りニ付形勢益切迫セル今日ニ於テハ
最後ノ手段ノ一トシテ日本人会ヲシテ同会使用ノ各運動者
ヲ督勵シ主トシテ上院議員ニ対シテ更ニ一層ノ運動遊説ニ
努メシメ既得ノ味方ノ變節ヲ防ク為嚴密ニ監視ヲ附スルト
共ニ進ミテ新シキ味方ヲ獲得スルコトヲ試ミシメ居レリ

大使へ電報ス

尚右ノ外各種排日法案ノ内二読会ヲ経タリトノ公報アル漁
業稅法案ハ条約第一條第二項ニ酒類販売ニ関スル法案ハ同
上第一項ニ夫々違反スルモノナリトス

註 右別電ノ英訳ニ付テハ四月二十一日牧野外務大臣發珍
田大使宛往電第七八号(一一二文書ノ別電一參看)

七六

四月十五日 在米田珍大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

米国民權獲得試訴ノ新聞電報ニ付問合ノ件

第七三号

本十五日各新聞ニ頭ハレタル十四日發東京電報ニ依レハ我
内閣ハ加州土地立法ニ対スル大統領ノ非干涉ノ決定ハ我ヲ
シテ日本人カ蒙古人種ニ屬セス從ヒテ米国民權ヲ獲得シ
得ヘキモノナルコトノ「テスト・ケース」トシテ米國大審
院ニ提訴スルヲ必要ナラシメタル旨陛下ニ上奏セリトアリ
右ハ何等根拠アル風説ナルヤ本官心得迄ニ御電報ヲ請フ

註 右ニ対シ四月十六日牧野外務大臣發往電第六七号ヲ以
テ「貴電第七三号ノ件ハ全然無根ナリ」ト回答セラレ
タリ

七八

七月十五日 在桑港沼野總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州下院土地代表法案同院通過ノ件

第六九号

下院土地代表案ハ本十五日午後十五ニ対スル六十ノ多数ニ
テ同院ヲ通過シタリ

七九

四月十六日 在米田珍大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地問題ニ付英國大使館參事官來訪ノ件

第七四号

Innes 英國大使館參事官四月十五日幣原ヲ訪ヒ本國政府ニ
於テハ排日問題ニ関スル時局ヲ懸念シ當館ニ於テ之ヲ確ム
ベキ旨申越タリト語リタルニ依リ幣原ハ本件ノ來歴及現状
ヲ説明シタル処 Innes ハ土地法案ニ付テハ日本人ニ於テ
土地所有權ヲ禁止セラルル時ハ當國ノ法制上家屋ヲモ所有
スルコトヲ得サル結果トナリ條約違反ノ嫌アルモ仮ニ農業
地ヲ限リテ本法ヲ適用スルコトトシ且一般外國人ニ齊シク
之ヲ及ホストキハ何等條約ヲ根拠トシテ抗議スルノ理由ナ
キ次第ナリヤヲ問ヒタルニ付外國人ハ内國人ト同一ノ權利

ヲ享受センカ為ニハ当国ニ帰化スルノ途アルモ日本人帰化権ニ関シテハ当国ノ現行法律解釈上反対アルヲ以テ右法案ノ條文ガ如何ニ修正セラルルモ實質ニ於テハ日本人ハ依然偏頗ノ待遇ヲ受クルコトナリ是レ加州議員ノ目的トスル所ニシテ日本人ノ憤懣スル所以亦茲ニ存ス尤モ法案未タ確定セサル今日ニ際シ具体的ニ法理上ノ講究ヲ尽ス運ビニ至ラサル旨ヲ答ヘタルニ然ラバ日本国政府ニ於テ当国帰化法ノ改正ヲ請求セラル、意嚮ナキヤヲ問ヒタルニ対シ幣原ハ此点ニ関スル政府ノ意嚮ハ自分ノ承知セザル所ナルモ右請求ハ其裏面ニ於テ母国ニ対スル服従關係ヲ拋棄スルコトヲ奨励スルノ意味ヲ含ムガ故ニ政府ノ立場トシテ差当リ輕卒ニ決定シ難キコトト思ハル旨ヲ答置ケリ

ハ〇 四月十六日 牧野外務大臣ヨリ
在米国珍田大使宛（電報）

加州土地法案ニ関シ第三国側ノ反対運動ニ付
問合ノ件

第六八号

新聞電報ニヨレハ加州土地法案ニ関シ外国政府ニ於テ何等

アルニ付本件ノ成効ヲ博スルニハ一方ニ於テ現場ニ在ル貴官ノ最善ノ努力ト我居留民自身ノ奮勵トニ須タサルヘカラス而シテ貴官並ニ在留民奮勵ノ次第ハ逐次ノ電報ニテ承知シ居ルモ尚此上一層力ヲ尽シ遺憾ナキコトヲ期セラルヘシ或ハ貴地労働組合基金ニ対シ此際若シクハ将来ニ涉リ日本人会等ヨリ金錢ノ寄贈ヲナスコトモ一策ニアラスヤト当省ヘ申出ツルモノアリ何等本件ノ為メ助ケトナルノ御見込ナルニ於テハ是亦一方法トシテ可然取計ハルヘシスベテ右等ノ儀ニツキ必要ノ金ハ御申越ニヨリ支出スヘシ

ハ三 四月十六日 在米国珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛（電報）

加州土地法案ニ関シ四月十五日大統領及
國務長官ト会谈願末報告ノ件

第七五号

四月十五日豫定ノ通大統領ニ謁見貴電第五六号ノ全文ヲ読上ケ往電第七一号國務長官ニ対シ陳述セル所ヲ繰返シタル後種々談話ヲ交換シタルカ其要領ヲ綜合スレハ概略左ノ如シ

「ステップ」ヲ取リタルモノノ如シ右ハ事實ナルヤ又外国人中何等反対運動ヲナス者ハナキヤ電報アレ

八一 四月十六日 牧野外務大臣ヨリ
在桑港沼野總領事代理宛（電報）

加州議會ノ閉会及外国人中ノ反対運動ニ付
問合ノ件

第一八号

加州々議會ハ愈何日ヲ以テ閉会スルヤ又外国人中是迄御電報ノ外ニ何等反対運動ヲナスモノハナキヤ電報アレ

八二 四月十六日 牧野外務大臣ヨリ
在桑港沼野總領事代理宛（電報）

加州土地法案阻止ニ関シ現地官民一層ノ尽力要請ノ件

第一九号

排日案ノ沮止ニ関シ中央政府ノ斡旋ハ当方ノ目的ヲ達スルニ極メテ有力ナル一手段タルニ相違ナキハ勿論ナルモ現中央政府ノ加州議會ニ対スル威望乍遺憾十分ナラサル事情モ

本使ハ先ツ此際未タ法案各條ニ亙リテ條約上ノ議論ヲ試ミントスルモノニアラス只兩國ノ親交ニ顧ミ正義公道ニ訴ヘ排日案ノ絶対的防止方ヲ懇請スル義ナル旨ヲ申述ヘ

(一) 帝國政府ニ於テハ夙ニ加州ニ於ケル排日感情ノ緩和ヲ図リ国内事情上尠カラサル困難ヲ忍ヒテ移民禁止ヲ断行継続シタル結果在留日本人數著シク減少セル事實

(二) 在加州日本人ガ從來ノ出稼ノ状態ヲ脱シテ永住の生業ニ傾注シタル結果實際在留地方ノ開發ト繁榮ニ貢獻スル所尠カラサルコト

(三) 在留日本人ノ賃金ハ殆ト白人ニ匹敵シ最早低廉労働者トシテ排斥セラル、理由ナキコト

(四) 日本人ノ經營ニ係ル農業ノ發展ハ主トシテ白人ノ不得意ナル種類ニ屬シ白人ノ生業ニ対シ直接競争ノ地位ニアラサル事實

等ヲ説明シ最早加州ニ於ケル今日ノ日本人ハ排斥セラルル何等正当ナル理由ヲ発見スルコトヲ得サル次第ナリ況ンヤ關係者カ日本人驅逐策タルコトヲ公然標榜スルニ於テハ全然之ヲ人種の偏見ト見ルノ外ナシ以上ノ事實ヲ考量スルトキハ今回本邦民論甚タシク沸騰シテ容易ナラサル形勢ヲ呈スルニ至リタルハ已ムヲ得サルモノアルヲ見ルベシ尤右排

日感情ノ発現ハ之ヲ米國側ヨリ見ルトキハ中央当局者カ直接其衝ニアラザルハ勿論ナルモ苟モ事外國ニ關涉スル以上ハ中央政府ハ結局其實ヲ免カルコト能ハサルヘク又日本側ニ於テハ加州当局者ト直接折衝スヘキ何等手段ヲ有セサルニ顧ミルモ此際我ニ於テハ是非中央当局者ノ尽力ヲ請ヒ之ニ信賴スルノ外ナキ次第ヲ述ヘ今日迄ノ大統領及國務長官ノ苦心ハ之ヲ諒トスルモ尚一層有効ナル尽力アラシコトヲ要望シタリ

大統領ハ我諸般ノ事情ニ對シテハ一々之ヲ諒トシ自分一個人トシテハ本案ノ正義ニ適セサルヲ認ムルモ一般外國人ノ土地所有ヲ禁止スルト否トノ問題ハ各國ニ於テ自由ニ決定スルノ權利アルト等シク米國ノ一州モ完全ニ其決定權ヲ有スル次第ニシテ偶々日本人カ帰化權ナキ為不利ノ地位ニ立ツノ結果トナルモノナレハ到底中央政府トシテ右立法ヲ制止スルノ權能ヲ有セスト述ヘラレタルニ付本使ハ今回ノ法案ハ日本人ニ帰化權ナキヲ前提トシタルモノナレバ區別の待遇ハ偶然ノ結果ニハアラズシテ本案唯一ノ趣旨ナルコト明白ナリ其目的タルヤ日本人生業ノ立脚地ヲ覆シ之ヲ州外ニ放逐セントスルモノニシテ人種の迫害トモ稱シ得ヘク其正義公道ノ外ナルコト一点ノ疑ヲ容レズト述ヘタルニ大

ニ於テ兩院ヲ通過スルニ至ランコトヲ虞ルト述ヘラレタルニ付本使ハ形勢愈切迫シ最早知事ノ感情ヲ顧慮スルノ必要ヲ見サル場合ニ至ラハ同官ニ對シテモ機宜ノ交渉ヲ開カルヘキハ勿論ノ義ト信スト念ヲ押シタルニ苟モ機會ノアラン限りハ何時ニテモ之ト交渉スルヲ辭セサルベキ旨説明セラレタリ

終リニ臨ミ大統領モ我方ノ事情及立場ハ十分ニ同情ヲ以テ之ヲ考量シ從來同様今後ニ於テモ能フベキ限り尽力ナスベキ決心ナルガ故此態度ハ能ク日本國政府ニ貫徹スル様本使ヨリ傳達センコトヲ求メラレタリ

右帰途國務長官ヲ訪問シ謁見ノ顛末ヲ告ゲ重ネテ同官ノ意見ヲ叩キタルニ大統領ト殆ンド同様ノ趣旨ヲ申述ヘタリ尚ホ同官ヨリハ本使ニ對シ四月十四日付公文ヲ以テ本件ノ上院案ヲ送付シ來レル処右ハ同官ニ於テ往電第六〇号末段所載打合セヲ誤解シ此際直ニ該上院案ニ對スル本使ノ意見ヲ求ムルモノナルヤノ疑モアリタルニ依リ本使ハ追テ法案ノ兩院ヲ通過ノ上更ニ同官ヨリ其寫ヲ送り以テ知事ノ署名前確定案ニ付篤ト講究スル機會ヲ与フベキコトト了解シ差支ナキヤト問ヒタルニ同官ハ素ヨリ其趣意ニテ右上院未確定案トシテ単ニ豫メ本使心得迄ニ通報シタルニ過ギズト答

統領ハ更ニ語ヲ繼キテ行政部ハ決シテ冷淡ニ本問題ヲ看過スルモノニアラス州權ニ干渉セサル範圍内ニ於テ能フヘキ限りノ尽力ハ十分ニ之ヲ施シツ、アリ現ニ日々加州ニ於ケル政友ト消息ヲ通シ居リ苟モ機會アル毎ニ之ヲ逸セサル積ナリトテ上院案中効力ヲ既往ニ遡ラシメ又ハ契約上ノ權利義務ヲ變改スルノ嫌アル條文ハ合衆國憲法ニ違反ストノ理由ヲ以テ之ヲ修正セシメ又外國人ノ條約上ノ權利ハ該法ニ依リ毀損セラレサル旨ノ規定ヲ設ケシメタル等ノ事實ヲ例示セラレタリ本使ハ假令形式ニ於テ如何ナル改竄アリトモ土地所有禁止ノ大綱ニ於テ改メラレザル限りハ依然トシテ不都合ノ存スル次第ヲ說キ此際行政部ニ於テ活動ノ範圍ヲ其政友ニ限ラス州知事一派ニモ之ヲ及ボスコトヲ切望スル旨ヲ述ベタルニ對シ大統領ハ國務長官前日ノ談話ト同様ノ趣旨ヲ以テ答ヘタル上今日ノ場合此方面ニ向ヒテ何等運動ヲ試ムルコトハ「ジョンソン」氏ノ感情的ニ成リ行ク性格ニ顧ミ成功ノ見込ナキノミナラス却テ事態ヲ困難ナラシムルノ虞アリト説明シ尚大統領ガ此頃加州選出国會議員等ノ意見ヲ徵シタルニ何レモ該案成立ノ必要ヲ認ムルコトニ一致シタルコトヲ說キ事態今日ノ如クナル上ハ其能フ限りノ尽力モ遂ニ該案ヲ全然防止スルコト能ハス現在ノ形式

ヘタリ右大統領及國務長官ノ談話ニ関スル本使ノ所見ハ別ニ電報スベシ

八四 四月十六日 在桑港沼野總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州州議會閉會日ニ関スル件

第七〇号

州會々期ニ関シ四月廿六日ヲ以テ閉會日ト定メタル下院決議案ハ上院ニ於テ五月三日ト變更スル修正說起リ再ビ同院財政委員ニ附托サレ其儘トナリ居レリ右ハ今後議事ノ都合ニ依リ伸縮ノ余地ヲ存スル為メ特ニ決定ヲ見合ハセ居ルモノナルベシ

八五 四月十六日 在桑港沼野總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法案ニ對スル外國人ノ反對運動ニ

關スル件

第七三号

貴電第一九号ニ関シ Rowell 氏リ聞ク所ニモレバ既報ノ外

Balfour Guthrie & Co. 及び Los Angeles Lynch 某等英國資本ヲ代表スルモノ Sacramento ニ人ヲ派シテ反對運動ヲ試ミ居レリ支那人ニ関シテハ当地ノ日本人ガ之ト聯合スルハ却リテ面白カラザルモ支那人トシテ独立ノ運動ヲ開始スルコトハ幾分効果アルベキニ付之ヲ催起セントシ当地支那六大会社及總領事ノ態度ヲ探ラシメタルニ近ク在華盛頓同國公使ニ本件ヲ具報スル筈ナリナド申居ル有様ニテ差当リ恃ムベカラズ若シ南清ニ於テ本案反對運動ヲ開始セシメ得バ當國ノ輿論ヲ喚起スルニ与リテ力アリト思考セラ

ル大使ヘ電報ス

八六

四月十七日

在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法案同州議會通過後ノ処置ニ付意見

開陳及請訓ノ件

第七六号

四月十五日大統領トノ会見並國務長官累次ノ談話ニ依レハ中央当局者ハ成ルヘクハ土地法案ヲ防止センカ為誠意苦慮セルニ拘ハラシ今や地方ノ大勢ニ顧ミ其望ヲ絶ツノ外ナキ

外国人士地所有權法ヲ施行スルニ付曩ニ條約改正談判ノ際一九一一年二月二十一日附内田大使公文申留保シタル權利ヲ加州ニ對シ行使スルノ已ムヲ得サルニ至ルコトアルヘキコトヲ正式ニ聲明シ加州官憲ノ再考ヲ促スコトヲ致シタク尤此聲明トモ果シテ適切ノ効果ヲ奏スヘキヤ俄ニ豫斷スヘカラサルモ最早此ノ以上ニ策ノ講スヘキモノアルヲ認メ難キニ付御考量ノ上何分ノ義御電訓ヲ請フ

八七

四月十七日

牧野外務大臣ヨリ
在英國小池代理大使宛(電報)

米國加州議會ニ於ケル排日法案阻止ノ為ノ

努力ニ拘ラズ形勢非ナル狀況通報ノ件

第六一号

目下開會中ノ米國加州議會ニ於テハ種々ノ排日の法案提出セラレ居リ就中最モ重大ナル關係アルハ外國人不動產所有禁止法案ニシテ下院ニ提出セラレタル法案ノ要点ハ (一) 一般外國人ノ不動產所有ヲ禁ス但シ現所有者及其妻子ノ手ニ在ル間ハ本法ヲ適用セズ (二) 将来不動產ヲ取得シタル一般外國人ニハ一ヶ年ニ限り之カ所有ヲ許シ之ニ違反スルトキ

ヲ覺悟セルモノノ如シ蓋シ加州ニ於ケル「ウィルソン」大統領ノ地盤ハ甚タ鞏固ナラス其率フル「デモクラット」黨ト加州知事ニ屬スル革進黨トハ殆ント互角ノ勢ヲ示シ同州ニ於ケル地歩ヲ確立スルハ兩黨ノ党略上最重要ヲ措ク所ナルカ故ニ大統領ガ同州ニ對シ斷乎タル措置ヲ執ルトキハ直ニ州權ニ干渉スルノ非難ヲ招キ該方面ニ於ケル民主黨ノ勢力失墜ヲ来シ人心激昂到底現政府ノ堪フル能ハサル義ト觀測セラル事茲ニ至リテハ唯一ノ望ハ懸リテ加州知事ノ決心ニ在ルモノト云ハサルヘカラス元ヨリ同知事トモ自黨ノ利益ヲ犧牲ニ供シ無條件ニ法案ノ認可ヲ拒ムガ如キ果斷ニ出ヅベキヲ望ムベカラズト雖其從來ノ態度ニ徴スルニ一個人トシテハ土地法案ノ成立ヲ喜ブモノニアラザルガ如ク果シテ然ラバ我ヨリ進ンテ局面展開ヲ圖リ同官ニ与フルニ口実ヲ以テスルトキハ或ハ積極的ニ否認權ヲ行使スルコトヲ避クルモノトスルモ期間經過ニ依リ消極的ニ否認即チ「ボケツト、ヴェートー」ハ之ヲ斷行スルヤモ知ルヘカラス右局面展開策トシテハ往電第六八号稟請ノ意見御採納相成難キニ於テハ斷クトモ法案通過後我ヨリ抗議ヲ提出スルニ方リ若シ愈々立法成立ノ咍ニハ (一) 帝國政府ガ博覽會參同ヲ遂行スルニ重大ナル困難アルヘキコト及 (二) 追テ本邦ニ於テ

ハ該不動產ヲ公売ニ附ス但シ所有者カ右一ヶ年以内ニ歸化ノ意思ヲ表示シタルトキハ此限ニアラス (三) 外國人ニ對スル五ヶ年以上ニ亘ル不動產賃貸契約ハ無効トス (四) 歸化權ナキ外國人ヲ過半数株主トスル会社ハ外國人ト見做ストイフニアリ上院案ハ右ノ中(一)ノ但書ヲ存セス(三)ノ五ヶ年ヲ三ヶ年トセル外大体同様ニシテ現ニ所有スル土地ニ對シテハ別ニ規定スル筈ナリト云フ右下院案ハ四月十五日大多數ヲ以テ下院ヲ通過セリ

本件排日案ノ提起ハ既往屢次繰返サレタル問題ナルヲ以テ政府ニ於テハ当初ヨリ十分警戒スル所アリ大統領ノ就任当初ヨリ珍田大使ニ訓令シ大統領及國務長官ニ注意スル所アリ桑港總領事ニモ豫テヨリ必要ノ訓令ヲ發シ博覽會々社ニ於テモ十分ノ手配ヲナシ聊カモ遺算ナキヲ期シ各方面ノ報告亦大体ニ於テ好望ノ「イムプレッション」ヲ与ヘツ、アリシトコロ本月初頃ヨリ突如トシテ形勢ニ變化ヲ来シタルヲ以テ政府ハ珍田大使ヲシテ米國政府ニ對シ條約上ノ見解ヲ細論スルハ姑ク之ヲ後日ニ譲ルモ該法案ハ正義公道ノ大義ニ反シ日米兩國ノ歴史の親交ヲ阻害シ延テ通商其他ノ關係ニ悲ムヘキ影響ヲ来スヘキヲ述ヘ中央政府ノ斡旋ニヨリ右ノ如キ立法ヲ阻止セラレタキ旨屢次申入レシメタルカ

米國政府ニ於テモ十分我意ヲ諒シ及フ限り尽力スル処アルヘキ旨反覆言明セルモ「デモクラット」党ノ黨義上苟モ州權ニ干渉スル嫌アル行為ハ一切之ヲ避ケントシ加フルニ加州ハ「ルーズヴェルト」派ノ地盤ニ屬スルヲ以テ中央政府ハ加州ニ對シ從來共和黨政府カ執リタル如キ威圧ヲ加ヘ難キ事情アリテ事態我レニ取り頗ル不利益ナリ又加州ニ於テハ總領事及在留民ハ博覽會々社ノ外アラユル勢力ヲ利用シ極力防止ニ勗メ居ルモ形勢決シテ樂觀ヲ許サス尚本邦ニ於テハ目下國論著敷沸騰シツ、アルモ政府ハ今後十分ノ取締ヲナス覚悟ナリ

右在歐各大使公使ヘ転電アレ

八八

四月十七日 牧野外務大臣ヨリ
在桑港沼野總領事代理宛(電報)

下院通過ノ土地法案内容及同法案上院議事
進行ノ豫想等問合ノ件

第二〇号

下院ヲ通過シタル土地案ハ貴電第四九号ノ内容ニ何等修正ヲ加ヘラレタル点ナキヤ並ニ上院ニ於ケル本案ニ對スル贊

ルハ本案今後ノ成行ハ一ニ中央政府ノ決意如何ニアリト
附言シタリ

右大臣ヘ電報ス

九〇

四月十七日 在桑港沼野總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州下院通過土地法案ノ成行及上院案ノ

修正案ニ関シ回報ノ件

第七六号

貴電第二〇号ニ関シ

(一) 下院ヲ通過シタル土地案ハ往電第四九号ノ内容ニ何等修正セラレタル点ナシ

(二) 上院ニ於ケル本案贊否議員數ハ四月十七日我運動者ノ調査ニ依レハ反對十三賛成二十一不明六

(三) 下院通過案ハ昨十六日上院ニ廻附サレ司法委員附托トナレルカ「ローウェル」ノ語ル所ニ依レハ今後議事進行上先ツ兩院有力者間ノ内協議ニヨリ執レノ案ヲ採ルヘキヤヲ決スヘキ筈ナルカ多分下院案ハ採用セラレサルヘシト

成反對ノ數ハ略々幾何ノ見込ナリヤ尚ホ下院通過案ノ上院ニ於ケル議事進行ノ豫想並ニ上院案其後ノ經過ニ関シ電報アレ

八九

四月十七日 在桑港沼野總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州知事ヨリ國務長官ヘ加州土地法案ノ議會
審議經過ヲ報告シ指示ヲ求メタル件

第七五号

本官發在米大使宛電信左ノ通

第七九号

当州知事秘書官ヨリ「ローウェル」宛來書ニ依レハ知事ハ國務長官ヘ電報ヲ發シ兩院土地案全文ヲ添ヘ同案議事ノ進捗シタル現況ヲ報告シ右ニ関シ中央政府ニ於テ何等異存アラハ本案通過前速ニ來示ヲ希望スル旨ヲ附加シタリ右ニ依ルモ知事ニ於テ本案防止ニ異存ナキハ明カニシテ同官トシテハ事若シ國交ニ關スルトセハ外交權アル中央政府ニ於テ其責ニ任スルコトヲ希望シ居ルモノト認ム尚「ローウェル」

(四) 上院案ハ去ル十二日二讀會通過後往電第七三号ノ如キ英國資本家其他ノ強硬ナル反對起リタル為同院有力者間ニ於テ大要左ノ如キ修正ヲ加フルコトヲ多分數日後ニ豫期セラルル本會議ニ提出スルコトニ下相談纏マリタル趣ナリ

甲、法人ニ關スル制限ヲ緩メ株主ノ過半数カ帰化權ヲ有スルモノナルトキハ外國法人ト雖モ本法ノ適用ヲ免カルコト下院案ト同シ

乙、主トシテ油田、鉍山、森林、波止場、工場、倉庫等ノ為ニ使用セラルル土地ハ本法ノ適用ヲ受ケス

丙、外國人又ハ外國法人カ抵當權行使ノ結果獲得スル土地ニハ本法ノ適用ナシ

大使ニ電報ス

九一

四月十八日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州排日土地法案阻止問題ニ付四月十七日

國務長官ト會談ノ件

第七七号

四月十七日定例ノ接見日ニ於テ國務長官ト會見加州「フロ

リン」地方人士ヨリ本使宛來電（在桑港總領事來電第七四号参照）ヲ援引シ日本人ノ蚕食最顯著ナリト称セラル、同地ニ於テ斯ノ如キ意見ヲ抱クモノアルヲ以テ見レハ先日來同官ガ累次本使ニ對シ加州ニ於テ日米人ノ軋轢ノ為メ生シタル難局ハ最早之ヲ事實トシテ考量スルノ外ナキ旨ヲ述ヘタルモ其報道タル極メテ事實ヲ誇張シタル所アルヲ指摘シ此点ニ付同官ノ注意ヲ喚起シタルニ同官ハ電文ヲ熟讀ノ上日本人ニ對シ多少ノ賛成者ハ素ヨリ無之ニアラサルヘシト雖一般民心ノ趨勢ヨリ云ヘハ反對ノ氣焰旺盛ニシテ之ニ對シ何トカ緩和の方法ヲ講スルノ必要ハ依然之ヲ認メサルヲ得サル旨主張シタリ尚本使カ万一本件法律成立シテ日本人ヲ農業ヨリ驅逐スル場合ニハ目下田園地方ニ比較的散在セル日本人ハ自然都市ニ集合シテ白人労働者ト競争ノ地位ニ立戻ルコトトナルヘク斯クテハ今日ヨリ一層困難ナル事態ヲ生スヘキニ付本件ハ此等利害關係ヲモ併セテ篤ト考量アラシコトヲ求メタルニ對シテハ同官ニ於テモ既ニ此点ニ付多少寒心スル所アリ大西洋沿岸都會ニ集合スル迄ニハ多少ノ年月ヲ要スヘキニ付其間自然之ヲ緩和スルニ足ルヘキ事態ノ發生スルヤモ計リ難ク要スルニ現實ノ事態ニ從ヒテ隨時其解決方ヲ定ムルノ外ナシトノ意見ヲ述ヘタル末本日

購買者ニ法定ノ資格ヲ必要トスル結果取引上多大ノ困難ヲ生スヘキ趣ヲ以テ該案ニ對シ目下大ニ反對運動ヲ為シ居ル趣ヲ語リ尚上院案ノ会社ニ關スル右規定ニ對シテハ帰化權ヲ有スル外国人關係者側ニ於テハ之ヲ下院案ノ如ク帰化權ノ有無ニ依リ區別スル様ニ要求スルモノアルヘシト雖右ノ要求ハ下院案ニ對スル帰化權ナキ外国人側ヨリ生スル異議ニ比シテ其理由甚タ薄弱ナルヲ以テ到底之ヲ容ル、コト能ハサルヘシト述ベタリ

九二 四月十八日 牧野外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛（電報）

写真結婚婦人渡米制限等ノ条件ニ依リ土地法案
加州議會通過阻止ニ尽力スル様國務長官ニ要請
方訓令ノ件

第七〇号

貴電第七六号ニ關シ我ヨリ抗議ヲ提出スルニ方リ（一）博覽會參同ノ遂行ニ關スル困難（二）日本ニ於ケル外国人土地所有問題ニ關シ曩ニ我大使ノ保留シタル權利ヲ加州ニ對シ行使スルコトアルヘキ旨ヲ正式ニ声明スルノ件ハ御意見通り実行

加州運動者ヨリ入手セル電報ナリトテ読聞カセタル所ニ依レハ本件ニ付大統領ガ是迄更ニ高圧手段ヲ執ラサリシコトハ地方ノ感情頗ル良好ニシテ吾人ノ言ハ何等反撥ヲ受ケス運動上甚タ便ナリトノコトナリ尚國務長官ハ語ヲ繼キ同官ニ於テハ目下斯ノ如ク着々尽力中ナルノミナラス此上ニモ十分此ノ尽力ヲ繼續スヘク尚法案通過後ニ至リテモ更ニ十分尽力スル所アルヘキニ付帝國政府ニ於テモ是等事情ヲ篤ト諒察セラレンコトヲ望ムト申出タリ本使ハ右ニ對シ帝國政府及民間有識者ニ於テハ本件カ素ヨリ一地方ニ於ケル感情ノ發動ニシテ米國一般ノ輿論ニ基クモノニアラサルコトハ十分了解シ且米國行政部ノ誠意ニ信賴囑望スルヲ以テ國論緩和方ニ付テハ出來得ル限り努メ居ルハ勿論ノ義ナルモ本件ハ其性質上法文ノ形式乃至變改位ニテ解決セラルヘキ問題ニアラス事茲ニ至リタルハ諸般ノ事情及歴史ニ鑑ミ國民的ニ与ヘラレタル一大侮辱ト看做サザルヲ得ザルカ故ニ此ノ國論沸騰ヲ來シタルヲ繰返シ説明シ置キタリ尚本件進行ニ關スル州會ノ内情ニ付試問シタルニ長官ハ実ハ州會ニ對シテハ昨今各方面ヨリノ運動頻リニ起リ旁上院案ノ如キハ其後何等ノ進捗ヲモ見サル次第ニシテ現ニ紐育株式關係者ノ如キハ上院案成立ノ曉ニハ加州会社株式ニ付テハ

セラレ差聞ナシ

尤モ右ノ声明ハ最後ノ手段タルコト勿論ナルニツキ法案通過阻止ノ方法トシテ閣下ハ直ニ國務長官ニ會見シ閣下一個ノ意見トシテ（一）將來写真結婚婦人ノ渡米ヲ制限スルコト（尤モ此問題ハ排日案防止ノ目的ヲ貫ク能ハサル場合ニ質言トシテ他日ニ残ラサル様御注意ノコト）（二）日本ニ於ケル外国人土地所有ニ關スル制法ノ手續ヲ急グコトヲ條件トシテ加州官憲ノ再考ヲ求ムル様尽力アラシコトヲ乞ハレ度ク尚ホ右ノ外米國側ニ於テ何等帝國政府ニ求メラル、儀モアラバ其要求ニシテ苟モ相当ノ畛域ヲ越脱シタルモノニアラサル以上帝國政府ニ之ヲ取次クヘキ旨ヲ附加ヘラルヘシ

九三 四月十八日 牧野外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛（電報）

加州排日法案阻止ニ關シ金子子爵ヨリ再ビ「ル
ーズヴェルト」氏へ依頼ノ件

第七一号

四月十八日再ヒ金子子爵ヨリ「ルーズヴェルト」氏ニ對シ左ノ通打電セリ

We confidently rely upon your highest sense of justice and equity to save this grave situation.



九四 四月十八日 在米國珍田大使ヨリ
加州土地法案ニ對スル外國政府ノ措置及外國人
ノ反對運動ニ關シ回報ノ件

第七八号

貴電第六八号ニ關シ四月十七日國務長官ト會見ノ際外國政府ヨリ本件ニ付何等申入タル事實ノ有無夫レトナク探リタルトコロ同官ノ談話ニ依レハ本日米國駐劄伊國大使來省其一己ノ意見トシテ「カリフォルニア」州土地法案ハ一般外國人ノ權利ニ消長ヲ及ホス所アルヤニ伝ヘラルルガ果シテ然ラハ伊國人モ本問題ニ利害關係ヲ有スルコトヲ指摘シ國務長官ノ注意ヲ促シタル趣ニテ之ニ對シ同官ハ法案ノ條文力如何ニ確定スヘキヤ今ヨリ豫測スヘカラサルモ若シ兩院ヲ通過スルニ至ラハ其寫ヲ伊國大使ヘモ送付シ共ニ攻究ヲ加フヘキ旨ヲ答ヘ置キタリ(右長官ノ談話ハ本使力直接伊國大使ヨリ聞キタル所ト一致ス)其他ノ大使ヨリハ未タ

何等開談セルモノ無シトノコトナリ本件ノ形勢ニ關シテハ往電第七四号英國大使館ヨリ本國政府ノ訓令ニ基キ問合セアリタル外露、埃、伊等ノ大使館ヨリモ其館長一己ノ心得迄ニ當館ニ問合セ來レル処其内伊國大使力前記ノ措置ヲ執リタルノミニテ他ハ當分何レモ米國政府ニ何等申入ルヘキ意向アルモノト見受ケラレズ將又當國東部地方ニ於テハ往電第七七号國務長官ノ談話中ニ言及シタル紐育株式取引ニ關係アル一派並ニ博覽會ニ利害ヲ有スル米國人ニ於テ法案反對運動ヲナス事實アルモ其他ノ外國人中特ニ本件ニ尽力スルモノアルヲ聞カス西部方面ノ運動者ニ就テハ在桑港總領事代理ヨリ直接稟報方御訓令アリタルコト察ス



九五 四月十八日 在桑港沼野總領事代理ヨリ
加州土地法案阻止ニ關シ博覽會会社ニ多ク期待
シ難キ件

第七七号

博覽會会社ニ於テ土地案ニ關シ日本ノ人心激昂セルヲ憂慮シ之力鎮靜ノ為現ニ州會ニ於テ議事ニ上リ居ル議案ハ種々

訂正セラレタルモノニシテ外國人ノ既得權ヲ侵害シ又ハ日本人ニノミ區別のニ適用セラル、モノニアラザルコトヲ説明スル電報ヲ當地商業會議所ヲシテ東京商業會議所宛發送セシムル趣ニテ四月十七日會見ノ際 Moore ハ右ニ關スル

本官ノ意見ヲ尋ネタルニ付本官ハ右電報ノ發送ハ異存ナキ旨答ヘタルモ本官一己ノ意見ニテハ兩院土地案現在ノ條文中ニモ尚區別の規定アリト認ムル旨ヲ留保シ置キタリ尚其節同席ノ Rowell 曰ク州會本期ノ大勢ヲ察スルニ現狀ノマ、推移セバ外國人土地所有ヲ制限スル法案ハ何等カノ形ニ於テ結局兩院ヲ通過スルニ至ルヘキコト殆ンド疑ヲ容レヌ斯ノ如キ略ホ豫見シ得ベキ事態アルニ不拘日本國ニ於テ人心激昂ヲ奔逸スルカ儘ニ放任スル時ハ日本國政府ハ後日甚ダ困難ナル立場ニ陥ルノ恐アリ是レ前記ノ電報ヲ東京商業會議所ニ發シ當地ノ事情ヲ日本ニ伝ヘントスル所以ナリト云ヘリ本官惟フニ右電報ハ左ノ三点ニ關シ形勢推移ヲ示スモノナリ

- (一) 博覽會々社ハ土地案防止ニ努力シタルニハ相違ナキモ大勢ノ如何トモシ難キヲ見形式上僅カニ日本ヲ discriminate セサル程度ノ法案通過ヲ勸誘セントスルコト
- (二) 上院第二誂會通過案ヲ以テ僅カニ日本ヲ discriminate

セサル程度ノモノナリト為スコト即本法ニ依リ日本人ガ土地ヲ所得シ能ハザルコトアルモンハ Federal law タル歸化法ノ結果ニ過ギズトナスコト

- (三) 實際ノ事情ニ藉口シテ本案兩院通過ノ曉博覽會会社ハ其責任ヲ免レントシ依然日本ノ参加ヲ請フ下心アルコト要之博覽會会社ハ州議會ニ於ケル機微ヲ探ルニハ依然必要ナル仲介者ナルモ阻止運動ニ關シテハ今後多大ノ希望ヲ繫グベカラズト思考ス

大使ヘ電報ス



九六 四月十八日 在桑港沼野總領事代理ヨリ
加州土地法案ノ修正及本案ニ關スル新聞論
調報告ノ件

第七八号

- (一) 上院案ハ十七日夜遽カニ Committee of one ノ手ニ渡リ大要拙電第七六号ノ通修正セラレタリ修正ノ詳細ハ議案入手次第電報スベシ
- (二) 当地多數ノ新聞紙及 Rowell 其他ノ有力ナル米人中日本ガ外國人土地所有法ノ未ダ施行セザルコトヲ論ジ日

本国ハ自ラナサザル所ヲ以テ之ヲ加州ニ強イントスルハ不当ナリトスルモノ多シ

- (三) 十七日当地「クロニクル」ハ上院案ノ憲法上無効ナリトノ「ジョルダン」博士ノ長文議論ヲ掲載シタルカ同博士ハ別ニ本官ニ対シ書面ヲ以テ屢々此議論ヲ寄セタリ又同日 Call モ同案ノ違憲ナル旨ヲ論スル Cator 氏ノ憲法論ヲ掲ゲタリ又 Stockton Evening Mail ノ排日的論調ハ牛島ヲ通ジ機密費支出ノ結果沈黙スルニ至レリ
- (四) 我運動者ノ言ニ依レバ目下上院ニ於テ法案反对者十四名トナリタル見込但シ大勢ハ動カスベカラズ

大使ヘ済

九七 四月十八日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州上院土地法案全院會議ニ附議ノ件

第八〇号

拙電第七八号上院修正案ハ来ル二十一日月曜日全院ノ議事ニ附セラルヘク而シテ右修正案内容ハ下院ニ於テモ異議ナキ模様ナリトノ情報ニ接シタリ大使ニ電報ス

第六、本法力既得權ヲ侵害セザルコトノ明文ヲ設ケタルコ

(別電)

四月十九日在桑港沼野総領事代理發牧野外務大臣宛電報第八二号

加州上院土地法案修正案ノ第十三條第十四條及

第五條ノ一部分

No. 82.

Section XIII.

Prohibitions in this act shall not extend to lands, any interest therein which are valuable chiefly for mines, minerals which are being operated as mines; nor to lands chiefly valuable for production of oil or which are being used for production of oil; nor to timber lands; nor to lands owned used as sites for warehouse, wharves, refineries, factories, for treatment, refining, reduction, processing manufacturing, shipping, storing, otherwise handling, disposing products of such lands; nor to pipe lines for conveyance of oil, other fluid substances except water; nor to rights

九八 四月十九日 沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州上院土地法案ノ修正案要領報告ノ件

別電 同日沼野総領事代理發牧野外務大臣宛第八二

号

右修正案ノ第十三條第十四條及第五條ノ一部

分

第八一号

上院修正案修正ノ要領左ノ通

第一、本法ノ適用ヲ受クルモノ一般外国人ノ外ハ資本ノ過半ガ(前電株主ノ過半数トアルハ誤リ)帰化權ナキ外国人ノ出資ニ係ル法人

第二、借地期限ノ最長期三年トアリシヲ四年ト改メシコト

第三、旧案ニハ本法ノ規定ガ Existing treaty ニ抵触ス

ルトキハ其部分ノ規定ハ之ヲ無効トストアリシ処其中ヨリ Existing ナル文字ヲ削除シ單ニ Treaty ニ抵触スル場合ハ云々ト訂正シタルコト

第四、別電「セクシヨン」十三追加セラル

第五、「セクシヨン」十四追加セラル

本條違反ノ場合ノ制裁トモ思ハルルハ「セクシヨン」五
中別電ノ規定アリ

of way for such pipe lines, and any alien, any corporation may take hold, dispose of any such lands, pipe lines, rights of way, any interest therein.

Section XIV.

This act shall not apply to acquisition by aliens or corporations of lands, any interest therein which are now or may hereafter become subject to deed of trust, mortgage, other lien, to secure debt, other obligation to any alien or corporation where such lands, interest therein are acquired at sale under such deed of trust, mortgage, other lien for default of debtor, in debt obligation secured thereby or upon judicial sale upon foreclosure of such deed of trust, mortgage, other lien.

Section V.

If any such conveyance, mortgage, encumbrance, lease shall be made with intent or for purpose of evading provisions of this act and not in good faith or for substantial consideration, such conveyance, mortgage, encumbrance, lease shall render property thereby conveyed, mortgaged, encumbered, leased, subject to escheat to state of California for benefit of state school fund and

such conveyance, mortgage, encumbrance, lease may, in proceedings, taken as hereinafter provided for purpose of declaring such escheat, be declared null and void.

Numano.

九九 四月十九日 牧野外務大臣ヨリ
在米田珍田大使宛(電報)

日本人ノ米國帰化權問題ニ関スル幣原参事官ノ
説明訂正方ノ件

第七四号

貴電第七四号末段ニ於テ幣原参事官カ日本人ノ帰化問題ニ
関シ個人トシテ「インネス」ノ問ヒニ答ヘタル趣意御報告
相成タルガ政府ハ今回ノ排日案ニ鑑ミ根本問題トシテ他
日適當ノ機会ニ於テ適當ナル方法ニヨリ日本人帰化問題ヲ
提起スルコトアルヘキニヨリ右幣原ノ答ハ可然機會ニ於テ
訂正シ置ク様御取計アリタシ

註 七九文書

ルト同時ニ「ワシントン」政府ニ於テモ亦目下知事ヨリ意
見ヲ問ハレ何等回答ヲナサザルベカラザル時機ニアルヲ
以テ是亦我レヨリ更ニ「レブレゼンテーション」ヲ繰返ス
ヘキ機會ヲ提供シツ、アルモノト認メラル就テハ此際閣下
ハ國務長官ニ面会シ往電第六六号ノ我抗議ヲ非正式ニ國務
長官ニ示シ最モ嚴重ニ先方ノ注意ヲ喚起セラレナバ恰モ中
央政府ニ向テ知事ニ對スル返答ノ材料ヲ与ヘ本案通過ヲ阻
止スル方法トシテ或ハ機宜ニ適シタルモノナランカト思ハ
ル尤モ閣下ノ御意見ニテ未タ我ヨリ法案ニ對スル異論ノ廉
々ヲ陳述スルノ時機ニ達シ居ラスト御認定アラハ其趣為念
電報アリタシ

一〇一 四月十九日 牧野外務大臣ヨリ
在桑港沼野總領事代理宛
(電報)

土地法案成否ノ鍵ヲ握ル加州知事ヲ動カシ同案
ヲ阻止スル様訓令ノ件

第二二号

貴電第七五号ニ関シ中央政府ハ加州ノ当局及ヒ議會ニ對シ
威望兎角ニ足ラサルノ遺憾アリ而シテ又加州議會ノ大勢ハ

一 加州ノ外國人土地法案及日本政府ノ抗議關係 一〇一

一〇〇 四月十九日 牧野外務大臣ヨリ
在米田珍田大使宛(電報)

加州土地法案ニ関シ加州知事ガ中央ノ意見ヲ求
メ居ル此際國務長官ニ非正式抗議ヲ提示スル様
訓令ノ件

第七五号

閣下宛沼野發第七九号電報ニヨレハ知事ハ排日案ノ署名及
ヒ否認兩様ヨリ生スル責任ヲ全然中央政府ニ嫁シ自分ハ全
ク政府ノ意志ニヨリ署名若ハ「ビトウ」ヲナセルモノナリ
ト言ハントスルノ意ナルカ如ク又一面ニハ日本トノ国交上
中央政府ニ於テ若シ本案ノ成立ヲ希望セサル次第ナレハ大
統領ヨリ自分ニ向テ其意味ノ依嘱ナカルヘカラストナシ中
央政府ヨリ明カニ其依頼ナキニ自ラ進テ本案ノ否認ヲナス
如キ態度ハ自分ニ於テ取ル能ハサル所ナリトノ意ニテ結局
党爭ノ掛引ヲ為シツ、アルモノノ如ク又下院ヲ通過セル法
案ハ急速上院ニ於テ議了セラル、ニ至ラス又上院ノ案モ同
院ヲ通過セサルニ知事ハ事情ヲ具シテ之ヲ中央政府ニ報告
シ其意見ヲ求メタル点ヨリ察スルニ知事ハ貴見ノ如ク本案
ノ成立ト否トニ関シテハ敢テ熱心ナル意見ヲ懷キ居ル次第
ニハアラザルベク随テ知事ニ對シテハ尚當方運動ノ余地ア

既ニ略ボ定マリタルモノアルモノノ如ク結局本案ノ死活ハ
知事ノ署名スルト否トニヨツテ分ルヘク本問題ノ「キー」
ハ殆ント知事ノ手中ニアルカ如シ而シテ前記貴電ノ趣ニ依
レハ知事ハ本案ノ運命ニ関スル責任ヲスベテ中央政府ニ嫁
セントシ大統領ヨリノ依嘱ヲ須テ始メテ署名若ハ否認セン
トスルモノノ如シ而シテ下院ノ通過案ハ急速上院ニ於テ議
了セラル、ニ至ラス又上院ノ案モ同院ヲ通過セザルニ知
事ハ事情ヲ具シテ之ヲ中央政府ニ報告シ其意見ヲ求メタル
点ヨリ察スルニ知事ハ本案ノ成立ト否トニ関シテハ敢テ熱
心ナル意見ヲ懷キ居ル次第ニハアラザルベク随テ知事ハ單
ニ本件ノ「キー」ヲ握リ居ルノミナラス其態度ニハ尚ホ我
ヨリ運動ヲナスヘキ余地アリト認メラル依テ貴官ハ篤ト右
ノ消息ヲ了シ「ジョンソン」氏ニ最モ親善ニシテ且ツ同氏
ノ上ニ「インフルエンス」ヲ有スル人ノ内ニテ何人ニマレ
貴官カ最モ適當ト認メラル、人ヲ利用シ貴官最善ノ「ディ
スクレション」ヲ用キ間接ニ知事ヲ動カシ本案成立ノ防止
ニ極力尽瘁セラルヘシ尚ホ金子子爵ヨリ「ルーズヴェル
ト」氏ニ對シ本件ニツキ同氏ノ援助ヲ希望スル旨電報アリ
タリ右ハ堅ク貴官限リノ御含迄

1011 四月十九日 在米田珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法案ニ反対ノ「プレス、キャンペーン」ヲ行フ為ノ費用ニ関スル件

第八一號

往電第六四号ニ関シ目下ノ事態ニ於テ直ニ「プレス、キャンペーン」ヲ初ムルハ加州地方ノ自負心並ニ中央当局者ノ感情ニ顧ミ未タ得策ナラスト認メラルル処今後最早地方ノ反感ヲ顧慮スルノ必要ナキ時機ニ達スルコトアルヘク其際新聞紙ノ代表スル世論ハ中央当局者ノ決心輕減ノ効果ナキニアラスト思考ス依テ四月十八日「ウキリアム、ベヤード、ヘール」本使來訪ノ節本使ハ同氏カ平素大統領ト親近ノ關係アルニ依リ先ツ帝國政府ニ於テハ大統領及國務長官ノ終始同情アル尽力ニ全然信頼スルモノナルヲ反覆説明シタル後追テ適當ノ時機ニ於テ有力ノ新聞紙ニ通報シ中央政府ノ態度ヲ擁護センカ為法案反対ノ「キャンペーン」ヲナスノ可否ニ付内々意見ヲ徴シタルニ同氏ハ之ヲ至極適當ナリトシ今後事態ノ發展ニ依リテハ不取敢自分ニ於テ右「キャンペーン」ヲ試ムヘント云ヘリ就テハ不日時機ヲ見計ヒ「ヘール」其他二三信任スヘキモノヲ利用シ各地ノ有

1014 四月二十日 在米田珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法案ニ付中央ヘノ抗議提出時機ニ関シ
國務長官ト談合ノ件

別電一 同日珍田大使發牧野外務大臣宛電報第八四号、國務長官ヨリ加州知事宛電報亨

二 同右外務大臣宛電報第八五号、加州土地法案ニ對スル大統領ノ措置ニ関スル新聞記事

第八三號

貴電第七五号ニ関シ加州知事ヨリ中央政府ニ法案ヲ報告シ其意見ヲ求メタル趣旨ハ果シテ御推測ノ通大統領ニ於テ本案ノ成立ヲ希望スルヤ否ヤヲ確メ其希望ニ依リテ署名又ハ否認ヲ決セントスルニアルモノトセハ此際我ヨリ直ニ非正式ニ抗議ヲ申込ムコト得策ナルヘント雖本使ノ推測スル所ニ依レハ知事ハ斯ノ如キ大体問題ニ関シテハ中央政府ノ意見ヲ求メタルニアラス蓋シ目下加州上院ニ於ケル主要ノ論点ハ如何ナル法人ニ本法ヲ適用スヘキヤノ問題ニアリテ二議會通過案ニ依レハ株主ノ多数カ第一帰化證ヲ有スル外國人ナルトキハ本法ヲ適用セサルコトナリ居ルモ其後歐洲資本家並株式關係者ノ運動激甚ナルニ動カサレ第一帰化證ヲ有スルト否ヤトニ拘ラス苟モ帰化權ヲ有スル外國人カ

力ナル新聞紙ト連絡ヲ通シ法案反對運動ヲ開始スヘキコト(不明)之カ為相當ノ運動費ヲ要スヘキニ付此目付以テ米金壹萬弗内外支出方特別御詮議ノ途アリヤ返電ヲ請フ

註 六三文書

1013 四月二十日 牧野外務大臣ヨリ
在桑港沼野總領事代理宛(電報)

加州土地法案ニ関シ同州在留邦人ノ輕挙妄動
取締方訓令ノ件

第二三號

貴電第七七号ニ関シ政府ハ日本ニ於ケル人心ノ激昂ヲ傍觀シ居ル次第ニアラス相當ノ取締ヲナシツ、アルハ勿論ナリ尚ホ貴地方面ニ在留スル本邦人ニ於テモ萬一局面ノ推移ニ連レ徒ニ輕挙暴動ニ流レ米國人ト無用ノ衝突ヲナス如キコトアリテハ本問題ノ關係上我ニ大ナル不利ヲ与フルモノナルニツキ其辺ニツキ周到ナル御注意ト御取締アリタシ尚又加州地方實際ノ狀況ニ鑑ミ特ニ必要ト御認アラハ州ノ當該官憲ニ對シテモ本件ニ関シ米人ノ日本人ニ對スル挙動ニ粗暴ナキ様注意方可然御取計アレ

註 前掲九五文書

株主ノ多数ヲ占ムルトキニ其会社ニ對シ本法ノ適用ヲ除外スル修正説起リ此点ニ関シ議論一致セサル為中央政府ノ意見ヲ徴スルニ至リタル次第ナルヘク果シテ然ラハ右ハ我ニ取り枝葉ニ亘ル問題ニシテ之カ為急速ニ抗議ヲ申込ムハ得策ナラスト思ハルルニ付一応知事來電ノ趣旨ヲ確メタル上ニテ我態度ヲ決定スルヲ当然ノ順序ト考ヘ四月十九日國務長官ト会見セリ本使ハ先ツ往電第八五号新聞記事中法廷判決云々ノ件ヲ指摘シ萬一大統領ノ方針此ニアルモノトセバ之レ即チ中央行政部カ本件ノ關係ヨリ脱退セントスルモノニシテ從來本使ガ大統領及國務長官ノ談話ニヨリ諒解セル所ト兩立セザル旨ヲ述ベタル処長官ハ全然此記事ヲ否認シ中央政府ハ決シテ斯ノ如キ冷淡ノ態度ヲ執ルモノニアラサルコトヲ言明シ現ニ昨夜加州知事ヘモ電報スル所アリタリトテ其寫ヲ示シ(別電第八四号)タルニ付本使ハ加州知事ヨリ本件ニ関シ中央政府ノ意見ヲ求メ來レル趣旨ナルカ右電報ハ之ニ對スル回答ナリヤト問ヒタルニ然リト答ヘタリ次テ本使ハ右電報ヲ一読ノ上假令本案ニシテ中央政府ノ意見通修正セラルコトスルモ帝國政府ニ於テ満足スルコト能ハサル所以ハ既ニ幾回トナク開陳セル所ニシテ最早繰返スノ必要ナキモ右電報ニ徴スルニ若シ帰化權有無ヲ基

礎トスル差別的待遇ノ規定ヲ除ケハ行政部ニ於テ該法案ニ満足セラルル義ナリヤト聞糾シタル処長官ハ決シテ然ラス中央当局者ニ於テハ此以外ニモ尚尽力ヲ繼續中ナルコトヲ斷言シタルヲ以テ本使ハ右中央政府ノ趣意ハ前記電文ニ照シ知事ニ於テ誤解ヲ懷クノ虞ナキヤト問ヒタルニ長官ハ前後ノ行懸上斷シテ斯ノ如キ誤解アルヘキ理由ナシト答ヘタリ依テ本使ハ若シ此際知事ノ真意カ中央政府ヲシテ本案全体ニ対スル異議ノ有無ヲ言明セシムル機会ヲ与フルニアリトセハ行政部ヨリ知事ニ回答ヲ發スルニ當リ我ヨリ抗議ヲ提出シ置クノ必要アルヘク尤モ法案ノ確立セサル今日各條ニ涉リテ詳論スルコトヲ得サルモ法案大綱ニ関スル抗議ハ何時ニテモ提出スルコトヲ得ル旨ヲ述ヘ抗議ノ時機ニ関シ長官ノ意見ヲ求メタルニ同官ハ知事ノ問合セカ本案全体ニ渉ルモノニアラサルコトヲ説明シ從テ抗議提出ハ暫ク之ヲ見合ハスト同時ニ今ヨリ其準備ヲ整ヘ追テ時機ノ熟スルヲ待テ直ニ之ヲ提出セラルルヲ得策ト思考スル旨ヲ答ヘ更ニ語ヲ次キテ行政部カ此上執ルコトアルヘキ方法ニ付目下折角考量中ノモノアリ未タ成案ヲ得サルニ付本使ニ於テモ熟考アリタク追テ篤ト意見ヲ交換スルノ必要ナルヘキ時機到來スヘキニヨリ其節何等成案ヲ得ルコトニ致シタシト

Department is greatly to be preferred: that bill limited ownership to citizens and to those who had declared their intention to become citizens.

Chinda.

(別電二)

四月二十日珍田大使發牧野外務大臣宛電報第八五号

加州土地法案ニ対スル大統領ノ措置ニ関スル新

聞記事

No. 85.

Several papers publish report 19/4 in which following appears:—

President said every effort was being made to keep in communication informally with California legislature. It is unlikely President will communicate views directly or take step that will interfere legislative process but he hopes through members of Congress here prevent obvious violation treaty obligations. Should treaty rights be violated, he hopes Japan will withhold judgement until American courts have dealt question. Officials here regard popular outbursts in Tokio unwarranted at this time, as Federal Government

述ヘハ解ケテ談話セリ当日会談ノ要領ハ右ノ通ニシテ細目ニ渉ル抗議ハ非正式ノ形ニ於テモ未タ提出セサル方得策ト思考スルニ付暫ク之ヲ見合ハスコトト致シタシ尚本電末段懇話ノ要領ハ別電ニ譲ル

(別電一)

四月二十日珍田大使發牧野外務大臣宛電報第八四号

國務長官ヨリ加州知事宛電報寫

No. 84

The President directs me to say that while he fully recognizes right of people of California to legislate according to their judgement on the subject of land tenure, he feels it his duty to urge recognition of international character of such legislation. Being anxious to preserve and strengthen long standing friendly relations existing between this country and the nations of Orient, he very respectfully but most earnestly advise against the use of the words "ineligible to citizenship". He asks that you bring this view to the attention of the legislators. He believes that Senate Bill as telegraphed to the State

intends give Japanese residents every protection granted foreigners under favoured nation principle.

Chinda.

一〇五 四月二十日 在米國珍田大使ヨリ 牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法案阻止ノ方案ニ関スル國務長官ノ

懇話報告ノ件

第八六号(極秘)

(註)

貴電第七〇号ニ関シ國務長官ノ都合上即日会见スルコト能ハサリシ処四月十九日会談中尚長官ハ此上更ニ執ルコトアルヘキ方法ニ関シテハ折角考量中ノモノアル旨ヲ述ハラル右考案ハ未タ十分ノ成算ナキヲ以テ公然之ヲ提議スル運ニハ至ラサル次第ナルモ極メテ打解ケタル内話トシテ試ミニ之ヲ申述ヘンニ仮ニ今回ノ法案有効期間ヲ一先限定シ例ヘハ五六年間ト為シ其間ニハ自然排日感情緩和スルニ足ル局面展開ヲ待ツコトトシテハ日本國政府側ノ満足ヲ得ラレ間敷ヤト申出デタルニ付本使ハ右ハ到底我ニ於テ満足シ難キモノナリト答ヘ其理由ヲ詳述シタルニ長官ハ稍失望ノ

体ニテ然ラハ本使ニ於テ何等考案ナキヤト本使ノ意見ヲ求メタリ前段會談中長官ノ談話ニ依レハ目下ノ処現ニ行政部ノ執リツツアル手段ノ外ハ何等高圧の態度ニ出ヅルコト能ハサルハ勿論到底此際ニ於テ法案ヲ全然防止ノ途ナキモノト認メ居ルコト明瞭トナレルヲ以テ本使ハ此際御電訓ノ件ヲ提示スルハ時機尚早キカ如ク成ルヘク最後迄留保シタシト思考シタルモ既ニ長官ニ於テハ其考案ヲ打明ケタルノミナラス切ニ本使ノ意見ヲ求メタルニ付本使ハ全然沈黙ノ態度ヲ持ストキハ誠意ヲ缺ク所アルガ如キ感想ヲ呈スベキニ因リ過日ノ長官ノ案ニ基キ種々考量ヲ尽シタル後漸ク一ノ考案ヲ得タリト雖右ハ単ニ本使一己ノ私案ニ止マルニ付極メテ内密且非公式ノ案トシテ聴取ナル、ニアラザレハ開陳ヲ躊躇スル旨述ヘ以テ他日ノ言質トナラサル様念ヲ押シ長官ノ然諾ヲ得タル上抑モ加州排日感情ノ發生ハ素ヨリ之カ正當ノ理由ヲ看出シ能ハズト雖妻女呼寄ト土地所有トノ關係ニ付過日長官ノ言ノ如キ全ク我ニ於テ豫期セサル結果ヲ生シタルモノナリ又女子ノ増加ハ出生兒ノ増加ヲ來シ從テ移民制限ニ拘ハラス在米日本人増加ノ結果トナルハ爭フベカラザル所ナリ加州人民ガ此等ノ事實ニ基キ將來日本人ノ勢力激増ヲ杞憂スルコトガ今日排日熱發生ノ原因ノ一

ニ於テ之レヲ利用スルコトヲ得ル場合モアルベキニ付本使ハ殊更ニ真面目ニ受ケ右對案モ又一考スベキモノナリト答ヘ置キタリ尚又當日會談中國務長官ハ本邦ニ於テハ今尚外國人ニ土地所有ヲ許サザルニ拘ハラス之レヲ他ニ求ムルハ其ノ意ヲ得難シト謂ハレン計リノ諷示ヲナシタルニ付本使ハ本邦ト「カリフォルニア」州トニ於ケル土地問題ノ性質及事情ノ全然異ナレル点ニ關スル説明ヲ繰返シ尚此ノ際本邦ニ於テ土地ニ關スル法律實施ヲ急グコトガ本問題解決上ニ貢獻スル所アルベシトノ國務長官ノ意見ナルニ於テハ是亦前案ト等シク排日案全然防止ノ條件トシテ併セテ帝國政府ニ傳達スヘギ旨ヲ述ベタル処國務長官ハ前段ニ付テハ過日本使ノ説明ニテ十分了解シ居レルヲ弁シ此ノ際法律實施ヲ急クコトハ時局救済上此又考量ニ値スル問題ト思考スルニ付他ノ考案ト併セテ熟考スベキコトアル旨ヲ答ヘ尚本使ニ於テモ此ノ上篤ト救済案ニ付考量センコトヲ求メタリ終リニ臨ミ國務長官ハ法律ノ効力ヲ數年ニ限定スルハ單ニ同官一己ノ腹案ニ過キスシテ大統領ニモ計リタルコトナキ次第ナルニ付キ嚴ニ秘密ニ付セラレタク之レヲ帝國政府ニ報告スルコトモ見合セラレタシト繰返シ懇囑シタリ

以上ハ往電第八三号中ニ併記スヘキ答ナルカ國務長官力其

ナリトスレバ此ノ原因ヲ除去スル為我ニ於テ自ラ写真結婚婦人ノ渡米ニ制限ヲ加フルコトハ時局救済上頗ル有力ナルモノアルベキカト思考スト説キ起シ尚右ハ排日案ニシテ全然防止スルコトヲ條件トスルハ勿論ナルコトヲ十分諒得セシメタル上更ニ語ヲ繼キ帝國政府ニ於テハ既ニ移民問題ニ付テハ極度ノ讓歩ヲ為シタル今日ナルヲ以テ更ニ本考案ノ如キ讓歩ヲ為スコトハ殆ソド不可能トモ稱スベキ難事ニ屬スルハ明瞭ナルニ付本使ヨリハ之ヲ帝國政府ニ提議スル能ハザルモ若シ長官ニ於テ該考案ガ能ク本案ノ成立ヲ防止シ得ルト思考セラル、ニ於テハ長官ヨリ之ヲ要求セラレタク然ル上ハ本使ニ於テモ極力其貫徹ニ尽力スヘキ旨申出デ一層後日ノ言質トナラサル形式ヲ採レリ

國務長官ハ右ニ對シ成程之レハ交換條件ノ一トシテ考量ニ値スヘシト述ベタル後斯ノ如キ一般写真結婚婦人ノ渡米ヲ制限スル代リニ彼等ニ對スル旅券交付條件中ヨリ夫ノ米國ニ於ケル土地所有權ヲ除クハ勿論尚進テ土地所有者ノ妻ニ對シテハ旅券交付ヲ拒絕スルコトトナサバ一層有効ナルヘキカト述ヘタリ右ハ本使ノ提案ノ對案トシテハ頗フル奇妙ナル申出ニテ國務長官ニ於テモ素ヨリ咄嗟ノ間ノ思付ニ過ギザレバ追テ再考スルニ至ルコトト思ハルルモ或ハ將來我

ノ提言ニ對シ特ニ嚴秘ヲ懇望セルヲ以テ態ト分割セル次第ナルニ付右様御了承アリタシ

註 前掲九二文書

一〇六 四月二十日 在米國珍田大使ヨリ 牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法案中帰化權ノ有無ニ依ル差別の規定

案ニ對スル中央當局ノ反對ニ關スル件

第八七号

加州排日案ノ件ニ關シ是迄屢次電報ニテ御承知ノ通り從來本使ニ於テハ法文ノ細目ニ涉リ論議ヲ試ムルコトハ態ト之ヲ避ケタリシモ過日國務長官ヨリ帰化權ノ有無ニ依リ差別の規定ノ件ニ言及シ本使ノ意見ヲ求メタル際本使ハ右ハ人種の區別ノ最モ顯著ナル規定ニシテ極メテ不都合ノコトト切言シタルコトアリ其節國務長官ハ此点ニ付テハ全然本使ト同感ナル旨ヲ述ヘタリシカ其後去ル四月十五日會見ノ際國務長官ハ該規定ヲ變更シタル上院案ヲ示シ之レナラハ満足ナリヤト尋ネタルニ付本使ハ上院案ノ當該規定ニテモ尚人種の區別タルヲ免レサルコトヲ詳細説明シ從テ右ニテ

モ尚満足スルコト能ハサル旨ヲ答ヘタルニ國務長官ハ之レ以上ハ何トモ致シ方ナキ旨ヲ述ヘタリ依テ本官ハ該規定ノ如キハ要スルニ枝葉ノ問題ニ屬スル次第ニテ結局本件ハ條項ノ添削位ニテ解決ヲ望ムヘキモノニアラストノ趣ヲ繰返シ説明シ置キタリ行政部ニ於テハ其當時ヨリ此点ニ関シテハ加州關係者ニ対シ固ク主張スル所アリ今尚之ヲ支持シ居ルコトハ往電第八四号加州知事ヘノ返電ニ徴スルモ明カナル次第ナリ然ルニ歐洲人及法人關係者等カ昨今上院案ニ反対スル理由ハ主トシテ此点ニ在ルモノノ如ク之レ恰モ行政部ノ主張ト相容レサルモノニシテ加州議員等ハ此間ノ調和ヲ取ルコト能ハス遂ニ知事ヲシテ特ニ此点ニ関シ行政部ノ意見ヲ求メシメタルヤニ推測セラル、ノミナラス今後モ尚有力ナル法人關係者ト行政部トノ間ニ此確執ノ継続セラ、ル、コトハ即本案進行上ノ一大難関ニシテ或ハ延テ本案全体ノ成敗ニモ關係スルニ至ルコトナキヲ保シ難ク右ハ是迄枝葉問題ナルヲ以テ電報セサリシモ今日ニ於テハ我ニ取リテモ頗ル重大ナル關係ヲ有スルコトナリタルヲ以テ茲ニ從來ノ經過併テ報告ス

又加州知事ヲ動カスニハ「ルーズベルト」氏ノ力ニ依ルヲ最モ有効ト認メタルモ目下ノ処金子子ノ尽力ノ外更ニ新渡戸博士ヲシテ「メービー」博士ト相談セシメ「メービー」博士ニ於テ「ルーズベルト」氏ヲ動カスニ足ルベキ見込アルニ於テハ同氏ノ手ヲ藉リ運動ヲ試ムルモ一策ナルベシ

右御參考迄ニ申進ス

一〇八 四月二十日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

日本人ノ帰化権問題ニ関スル幣原参事官ノ

「インネス」ニ対スル説明ノ件

第八九号

貴電第七四号ニ関シ「インネス」ハ何故ニ日本政府ニ於テ此際直ニ帰化権ヲ請求セザルヤ怪シムモノノ如キ口氣ヲ示シタルヲ以テ幣原ハ本問題ハ種々ノ觀察点ヨリ攻究スルコトヲ要スルモノトシ其觀察点ノ一トシテ本國トノ服從關係ノ拋棄云々ヲ挙げ是等ノ事情ニ顧ミ差当リ輕卒ニ決定シ難キコトト思ハル旨ヲ答ヘタルニ止マリ貴電ノ通他日

一〇七 四月二十日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)
加州排日法案防止ノ為大統領及加州知事ニ
対スル側面運動ニ関シ稟申ノ件

第八八号

加州事件ノ状況ニ顧ミ此際大統領ヲシテ可成堅硬ノ態度ニ出デシムルコト有要ト認ムル処其性行ニ鑑ミルトキハ宗教學者方面ヨリ正義公道ノ見地ヨリ排日法案防止方ヲ請求スルコト最モ有効ナルベシト信スルニ付テハ其方法トシテ

(一) 我各派基督教有力者ヨリ目下滞京中ノ「モット」氏ニ依頼シ同氏ヨリ直接大統領ニ發電セシムルコト

(二) 右各派ノ基督教會ヨリ各自所屬教派ノ在米伝道本部ニ去就ヲ決セシメ各本部ヲシテ右ト同様ノ措置ヲ執ラシムルコト

(三) 新渡戸博士ヲシテ其知己ノ米國教育家ニ向ヒ同趣意ノ電信ヲ發セシムルコト

(四) 成瀬仁藏氏ヲシテ Concordia 教會創立計畫ニ關係セル米國ノ同志ニ対シ同様取計ハシムルコト若シ同氏未タ帰朝セサルニ於テハ渋沢男ガ右計畫ニ深キ關係ヲ有スル趣ナルニ付同男ヨリ發電スルモ然ルベシ

適當ノ機會ニ於テ適當ノ方法ニ依リ本問題ヲ提起スルコトトハ何等抵觸スル次第ニハアラサル趣ナリ就テハ「インネス」ニ於テ帝國政府ノ御意嚮ヲ誤解スヘキ理由ナシト思ハルルモ追テ幣原ヨリ「インネス」ニ面談ノ節何等誤解アルヲ認ムルトキハ訂正方取計ハシムヘシ

註 九九文書

一〇九 四月二十日 在桑港沼野總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

國務長官ノ加州知事宛電報ニ対シ土地法案

修正ノ各派意向情報ノ件

第八四号

今回大統領ノ旨ヲ受ケ國務長官ヨリ当州知事宛土地案ニ関シ國交上州會ノ注意ヲ喚起スヘキ旨ノ電報ハ四月十九日知事ヨリ直チニ州會ニ廻附公表セラレタルカ右ニ関シ諸新聞ノ報道ヲ綜合スルニ右來電ノ結果上院修正案ハ更ニ修正ノ上往電第八一号中(四)及(四)ノ事項ノ外ハ略原案ト同様ノ内容ニ復歸スヘシト伝ヘラル即チ大統領ノ趣意ニ遵ヒ帰化権ナキ外國人ニ対スル制限ナル文句ヲ廢シ代ユルニ土地ニ関ス

ル権利享有ヲ合衆国民及帰化ノ意志ヲ宣明シタル外国人ニ限ルノ文句ヲ以テスルナランモ邦人ニ関スル制限ニ付テハ尚多大ノ議論アリトノコトナリ本案成否ノ豫想トシテハ

(一) 上院案ニ上記ノ修正ヲ加フル時ハ行政部ノ賛同ヲ得ヘキモ斯クテハ一般外国人ニモ適用セラレ日本以外ノ外国資本ヲモ排斥スルコトナルニ付一部議員ノ強硬ナル反對アルヘシ

(二) 下院案ハ帰化権ナキ外国人ニ差別的待遇ヲ与フル明文アルニ付國務長官ノ訓電ヲ可トスル議員反對スヘク仮令通過シタル場合モ行政部ノ賛同ヲ得サルヘシ

(三) 上院中別ニ総テノ土地案ニ反對ナル一派アリ主トシテ南カリフォルニア州選出ノ議員ニシテ其数六名ヲ下ラス知事派ノ有力者モ其内ニアリ

(四) 賛否ノ数ニ付テハ(三)ニ記載ノ者ヲ除キ賛否略相匹敵シ孰レモ過半数ニ達セスト観測セラル

(五) 故ニ本案ノ運命ハ「バランス、オブ、パワー」ヲ握ル(三)ノ一派ノ決スル所トナリ兩院各案トモ結局不成立ニ了ルナラント云フニ在リ

我内偵者ノ所報ニ依レハ今日曜日知事ハ本件ニ付院内有力

首領等ハ中央政府ヨリノ知事宛返電ニ拘ハラス最近修正説ヲ採用シテ議事ヲ進行セシムルコトニ決定セル趣「カリフォルニア」州ヨリ本日其ノ筋ニ來電アリタル由ニテ大統領モ右ニ對シ失望シ居ル趣ナリ尚其ノ筋ニ於テハ右「カリフォルニア」州知事ヘノ返電中「ブレファード」云々ノ一句ハ少シ強キニ失シタルカ故ニ「カリフォルニア」州側ノ反感ヲ惹起シタルモノナラント評シ居ル趣ナリ

一一二 四月二十一日 牧野外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛 (電報)

加州土地法案等ニ関シ米國政府ヘ抗議ノ論点

英訳文電送ノ件

別電 一同日牧野外務大臣發珍田大使宛電報第七八

号

右英訳文

二 同右珍田大使宛電報第七九号

米國ガ人種ニ依リ外国人間ニ差別待遇ヲ為スコトニ関スル抗議

第七七号

往電第六六号当方抗議ノ論点英訳為念別電第七八号ヲ以テ送附ス

尚又法案中第一帰化證ヲ得タル外国人ハ土地ノ所有ヲ妨ゲ

一 加州ノ外国入土地法案及日本政府ノ抗議關係 一一二

者ト会談シタリトノコトナルカ委細ハ精探ノ上電報ス大使ヘ電報シタリ

一一〇 四月二十一日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛 (電報)

加州土地法案防止ノ為ノ宗教家ニ依ル運動ハ
國務長官ニ對シテモ行ハレタキ件

第九〇号

往電第八八号中宗教家ノ運動ハ大統領ノ外「ブライアン」
國務長官ニ向ヒテ之ヲ試ミシムル方可然ト思考スルニ付右
御含アリタシ

一一一 四月二十一日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛 (電報)

加州知事一派ノ國務長官勸告電報ニ對スル

態度ニ関スル情報ノ件

第九一号

四月二十一日在京中ナル「ヘール」カ大統領秘書官ヨリ内
聞スル所ニヨレハ「カリフォルニア」州知事一派ノ多数党

ザルノ規定アリ右第一帰化證トハ畢竟帰化ノ手續ニ過キス
依然トシテ外国人タルニ拘ラス恰モ帰化シタル者ノ如ク取
扱ヒ一方ニ於テ日本人ヲ飽迄モ外人トシテ待遇セントス
右ハ仮令實際帰化スルトモ尚且事實上日本人ヲ區別待遇ス
ルモノナルニ均敷外国人ニテアリナカラ一方ニ与ヘテ我レ
ニ与ヘサルハ区別的待遇タルヲ免カレス且ツ単ニ特權獲得
ノミノ目的ヲ以テ帰化ノ宣言ヲナシ其以上何等ノ手續ヲモ
履マシテ止ム者モコレアルヘシ依テ此点ニ関シ別電第七
九号ノ「ステートメント」ヲ送附スルニツキ御見込ニテ抗
議ノ論点ニ追加セラル、モ差支ナシ尚又法案ノ合衆國憲法
及ビ加州ノ憲法ニ違反スル点等ニ関シテハ既ニ夫々御研究
アリタルコト、信ス

註 右對米抗議ノ論點ニ関シテハ前掲七五文書別電參照

(別電一)

四月二十一日牧野外務大臣發珍田大使宛電報

加州土地法案等ニ関シ米國政府ヘ抗議ノ論点英

訳文

第七八号

1. The anti-alien land-ownership measures which

are now before the California legislature are admittedly aimed at Japanese owners and occupiers of real property. Those measures being in clear discrimination against Japanese subjects are inconsistent with the spirit and fundamental principles of friendship and good neighbourhood of the existing Treaty between Japan and America.

2. The restriction of the rights of property to actual owners and to their wives and children in case of real property held by aliens, is in impairment of the rights of property of Japanese subjects, which are fully protected by the third clause of Article I of the Treaty.

3. Considering that the term "real property" applies to "houses" as well as to "land", it follows that the restriction above-mentioned, is also in disregard of the first and third clauses of the said Article, which accord to Japanese subjects the right to own houses, manufactories, warehouses and shops, as well as the right to constant protection for their property.

4. The reduction to a short term of years of the right of aliens to lease real property is equally

contrary to clause I aforesaid, since that stipulation extends to Japanese subjects national treatment in the matter of such leasing.

5. The provision of the proposed enactments by which corporations a majority of whose stock is owned by aliens, are considered as aliens, being in impairment of the duly acquired rights of Japanese subjects, is in conflict with the Treaty stipulations above referred to.

6. Finally, the various other anti-Japanese measures now before the same legislature, such as the fishing license bill and the bill relating to the sale of liquor, are equally repugnant to the first and second clauses of Article I of the Treaty, which grant to Japanese subjects in reciprocity the full right to reside in the United States and impliedly the equal right to labour for their living. Those clauses also protect such subjects against all charges and taxes other or higher than are paid by Americans.

Makino.

(別電二)

四月二十一日牧野外務大臣發珍田大使宛電報

米國ガ人種ニ依リ外國人間ニ差別待遇ヲ為スコ

トニ関スル抗議

第七九号

The United States, in the matter of certain political rights and privileges, draws a distinction based upon arbitrary racial characteristics between alien peoples who are equally entitled in the United States under her commercial treaties, to national and most favored nation treatment in matters of commerce, navigation and industry, and upon that arbitrary racial distinction she exceptionally accords, and permits the various States to exceptionally accord to such politically favored peoples, without any change in their political status, certain civil rights and privileges which would ordinarily be transferable under the parity and most favored nation engagements in her treaties.

Makino

一一三 四月二十一日 牧野外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛 (電報)

加州土地法案反對運動費ニ関スル件

第八〇号

貴電第八一号ノ件ハ今後必要ニ応シ御申越ラ須テ支出ス
シ

一一四 四月二十一日 牧野外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛 (電報)

加州排日土地法案阻止ニ関スル金子子爵「ルー

ズヴェルト」氏間往復電報通報ノ件

別電一 同日牧野外務大臣發珍田大使宛電報第八二
号

「ルーズヴェルト」氏ヨリ金子子爵宛電報

二 同右珍田大使宛電報第八三号

金子子爵ヨリ「ルーズヴェルト」氏宛電
報

第八一号

「ルーズヴェルト」氏ヨリ別電第八二号ノ通り金子子爵ニ返
電アリタルニ付同子ヨリ更ニ別電第八三号ノ通り發電アリ
タリ

(別電一)

四月二十一日牧野外務大臣発珍田大使宛電報

「ルーズヴェルト」氏ヨリ金子子爵宛電報

第八二号

Am doing all I can but Japanese war threat for such inadequate reasons embarrasses Japan best friends.

Makino

(別電二)

四月二十一日牧野外務大臣発珍田大使宛電報

金子子爵ヨリ「ルーズヴェルト」氏宛電報

第八三号

Very highly appreciate your noble and friendly effort and pray for your further endeavors. I can most strongly assure you those irresponsible utterances a few worthless agitators have not slightest sympathy of good majority of people here who confidently rely upon high sense of justice and fairness of American people in bringing question to satisfactory solution.

Makino.

一 一 十 四月二十一日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法案上院修正ノ現在案報告ノ件

第八八号

貴電第二六号上院修正案ノ照

Section I.

No alien shall acquire title own hold real property within this State or any interest therein or take acquire hold same by devise, descent, purchase or otherwise, except in this Act provided.

Section II.

Title to real property situated in this State may be acquired held by aliens whether resident, non-resident under restrictions, terms, conditions set forth in this Act but not otherwise:

A. Any alien may hereafter acquire by purchase or otherwise excepting by devise or descent which hereinafter provided for any right, title, interest in any real property situated in this State and may hold same for period one year after date acquiring such right, title, interest but no longer,

一一五 四月二十一日 牧野外務大臣ヨリ
在桑港沼野総領事代理宛(電報)
加州土地法案ニ関スル上院修正ノ現在案原文
電報方訓令ノ件

第二六号

貴電第八二号ノ諸條ヲ除キ上院ニ於テ修正セラレタル現在案原文逐條電報アレ尙帰化ノ意思ヲ表示シタル外国人ニハ本法ヲ適用セストノ規定ハ修正案ニテ削除サレタルヤ直ニ確メ電報アレ

註 前掲九八文書ノ別電ナリ

一 一 六 四月二十一日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州上院修正ノ土地法案ニ於テ帰化ノ意思表示ヲ為シタル外国人ニ関スル規定残存ノ件

第八六号

貴電第二六号末段ニ関シ帰化ノ意思ヲ表示シタル外国人ノ所有地ニハ本法ヲ適用セストノ規定ハ修正案中第七條トシテ残存ス

provided, however, that if any such alien be minor, insane incompetent at date acquiring title he may hold such title for one year after guardian his estate appointed by Court having jurisdiction thereof or in case minor if no such guardian appointed prior time said minor shall have attained majority then he may hold such title for period one year after attaining majority. At expiration one year in any cases above stated, all real property so held by such alien and all right, title, interest therein so held by such alien shall be subject escheat to State California. and proceedings for such purpose shall be taken hereinafter provided.

B. Any alien may hereafter acquire by devise, descent any right, title, or interest in any real property situated this State and may hold same for period one year after date final distribution thereof to such alien, provided however that if any such alien be minor insane incompetent person at date such final distribution and no guardian his estate has been previously appointed by Court having jurisdiction thereof he may hold such title for

period one year after guardian his estate is appointed by Court or in case minor if no such guardian appointed prior time such minor shall have attained his majority then he may hold such title for one year after attaining majority. At expiration one year in any cases above stated all real property so held by such alien and all right title interest therein so held by such alien shall be subject to escheat State California. Proceedings for such purpose shall be taken hereinafter provided.

Section III.

Any corporation whether formed under provisions of laws of State any other State country majority of issued and outstanding capital stock of which shall be owned held by any aliens ineligible to citizenship under naturalization laws United States may hereafter acquire by purchase devise any right title interest in any real property situated this State and may hold same for one year after date so acquiring such right title interest but no longer provided however that if such right title interest acquired by such corporation

by devise same may be held for one year after date of final distribution thereof to such corporation. At expiration one year in any cases above stated all real property so held by such corporation and all right title interest therein so held by such corporation shall be subject to escheat State California.

Proceedings for such purpose shall be taken hereinafter provided.

Section IV.

No contract agreement lease whereby real property any interest therein is hereafter let leased rented for longer period than four years shall be made to any alien any corporation of class described in section III this Act and no renewal extension of any such contract lease agreement shall be made extending said period of four years hereinabove specified and any such contract agreement lease hereafter made to any alien any such corporation contrary provisions of this section shall be null void.

Section V.

Any alien any corporation of class described in

section III this Act hereafter acquiring owning holding real property any right title interest therein in State California in contravention provisions of this Act or subject to escheat State California under provisions of this Act, may nevertheless convey either by way security otherwise mortgage or otherwise encumber or devise and let same any time before commencement of escheat proceedings and recording of notice of pendency of such proceedings as this Act provided and in such case any such conveyance or mortgage encumbrance or lease shall not be impaired affected by provisions this Act, provided however that if any such conveyance mortgage encumbrance or lease be made to any alien any corporation of class described in section III this Act then such alien corporation shall take acquire title under restrictions and subject to terms conditions set forth in sections II III this Act respectively, provided further however that (拙電第 82 号 section V ノ抜萃挿入) and in such case grantee lienholder lessee in any such conveyance mortgage encumbrance lease if he be alien shall not be entitled to right

given by section VI of this Act to prevent escheat by becoming citizen United States or by filing declaration of intention to become such citizen, provided further however that if no proceedings brought to have any property affected by conveyance mortgage encumbrance lease of character mentioned in this section declared escheated to State within one month after any such conveyance has been duly recorded in office of county recorder of county wherein land so attempted to be conveyed mortgaged encumbered leased is situated, then it shall be conclusively presumed that such conveyance mortgage encumbrance lease was made in good faith not with intention of evading provisions this Act and thereafter no escheat proceedings for such purpose by reason of such conveyance mortgage encumbrance lease shall be commenced, provided further however that if any such conveyance mortgage encumbrance lease be to alien or corporation of class mentioned in section III title thereby conveyed shall nevertheless be subject to escheat under provisions this Act as though such alien or corporation had

acquired such title in any other manner.

Section VII.

Nothing in this Act shall apply any real property any right title interest therein lien thereon acquired owned held by any alien who shall have declared intention becoming citizen United States according law or who shall have become citizen United States and if any proceedings for escheat to State California of any real property acquired held owned by any such alien shall have been commenced prior such declaration intention or prior such alien owner becoming citizen United States, such proceedings shall upon proof of such fact be discontinued and judgment in accordance with facts shall thereupon be entered and recordation in office of recorder of county wherein real property situated of certified copy of such declaration intention by any such alien or of proof of citizenship duly certified by officer having custody control of original or of certified copy of judgment entered in such action shall establish right to own hold real property free from restrictions limitations

this Act provided.

Section VIII.

Provisions this Act shall not impair destroy any right secured to alien under provisions of treaty between United States and country of which such alien shall be citizen subject.

Section XV.

This Act shall apply to corporations of class described in section III and to none other.

Section XVII.

If any section sentence clause phrase this Act is for any reason held unconstitutional such decision shall not affect validity of remaining portions. Legislature hereby declares that it would have passed this Act and each section sentence clause phrase thereof irrespective of fact that one or more other sections sentences clauses phrases unconstitutional.

Section XVIII.

All Acts parts of Acts in conflict herewith hereby repealed.

Numano.

一一八 四月二十一日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法案ノ上院修正ハ民主党政府ニ対スル

共和党一派ノ画策ナル件

第八九号

往電第八四号ヲ以テ当地新聞ニ関シ報告後州会土地案ノ形勢ハ急転直下シ俄ニ樂觀ヲ許サザルモノアリ即チ四月二十一日博覧会社長ト会谈ノ結果得タル情報左ノ通

屢次既報ノ通知事等ハ土地案ヲ以テ「デモクラット」党ニ対スル党争ノ武器ト為シ若シ同案ヲ不成立ニ終ラシムヘキ必要アリトセハ其責任ハ中央政府ニ負担セシメントノ底意ナルカ如ク拙電第七五号所報ノ知事ヨリ中央政府ニ対スル催告ハ上記ノ目的ニ出デタルニ外ナラザルベキモ國務長官発知事宛電報ハ州権干涉ノ非難ヲ避ケンガ為ニ処スルニ用意セラレタル丈單純ナル勧告のモノトナリタレバ之ニ藉口シテ軟化スルニハ不十分トナリ且中央政府ニ土地案不成立ノ全責任ヲ帰スル能ハザルニ付知事派ハ此際同案ヲ寧ロ極端ナル排日的ノモノニ修正シ中央政府ニ於テ遂ニ強硬ナル介入ヲ為スノ止ムナキニ至ラシメンコトヲ画策セルモノ如ク他ノ諸報ヲ綜合スルニ本官ノ所見モ亦此ニ一致ス

唯今接手セル「アッソシエーテッド」「サクラメント」通信ニ依レハ知事派領袖協議ノ結果(往電第八一号末段)更ニ上院案ヲ修正シテ適用範圍ヲ東洋人ノミニ限り市民権ヲ有スル総テノ外国人ヲ除外スルコトニ一致シ知事モ之ヲ承認シ同案通過ノ上ハ直ニ之ニ署名スベシトノコトナルガ是亦上記ノ所見ヲ支持スルモノニシテ中央政府ニ対スル一種ノ威嚇ナルベキカ

大使ヘ電報シタリ

一一九 四月二十一日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州上院土地法案ノ修正案ヲ院議ニ上程ノ件

第九〇号

曩ニ「コムミッテ、オブ、ワン」ノ手ニテ修正セラレタル上院案ハ(別電第八八号参照)豫定ノ通り四月二十一日院議ニ附セラレ右修正ノ動議採用セラレタル後多少ノ討議アリシモ採決ニ至ラサリキ

一一〇 四月二十一日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州上院土地法案修正現在案原文ニ関スル件

第九一号

貴電第二六号上院修正現在案原文逐條別電第八八号ニテ報告ス但シ原文中重要ナラサル字句ハ省略ニ從ヒ尚「セクシヨシ」六、九、十、十一、十二ハ保證及購買手續ニ関スル冗長ナル規定ナルノミナラス近々法案全体ニ一大修正アルヘキ模様ナルヲ以テ報告ヲ差控ヘ置ケリ

一一一 四月二十一日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法案ニ付國務長官ヨリ加州知事ニ送レ
ル電報ノ効果ニ関スル件

第九二号

本官発在米大使宛電信左ノ通

第九二号

國務長官ノ Message カ加州々会ニ与ヘタル印象ニ関シ只今接受シタル「サクラメント」派遣館員ノ報告ニ依レハ上記 Message ノ効果ハ兩院議員間ニ何等印象ヲ認メ難キ

一一三 四月二十二日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州知事ノ土地法案ニ関スル声明書末段全文追
報ノ件

第九四号

往電第九三号知事ノ「ステートメント」トシテ四月廿二日当地朝刊諸新聞ニ現ハレタルモノヲ見ルニ其末段全文左ノ如シ

加州州会カ通過スヘキ法律ハ加州ノ自衛ノ為メ絶対必要ナルモノ(ノミ)ナルベキハ現州会ノ性質ニ鑑ミ(之ガ?)保證ナリ云々而シテ之ヲ法律トナスニ就テハ僻見偏頗ヲ避ケ慎重且正当ニ審議セラルヘシ

一二四 四月二十二日 牧野外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛(電報)

加州土地法案ニ関スル上院修正案ノ排日の性質
ヲ対米抗議論拠ノ補足トシテ指摘ノ件

第八四号

最近上院案ニ修正ヲ加ヘラレタル諸点ハ沼野総領事代理ノ

程薄弱ナリトノコトナリ右ニ関シ華盛頓ニ於テ貴電第三九号ノ如キ批評アルハ中央ノ意志カ州権干涉ノ困難ナルヲ示サンカ為故ラニ流布セシメタルモノニアラスヤトモ思ハル

一二二 四月二十一日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州知事土地法案擁護ノ声明書發表ノ件

第九三号

「アッソシエーテッド、プレス」ノ報スル所ニ依レハ加州知事ハ四月二十一日夜長文ノ「ステートメント」ヲ發表シ土地案制定ニ関スル州会ノ地位ヲ弁護シ加州ハ敢テ條約ヲ蹂躪シ國交ヲ阻害セントスルモノニアラス帰化権ノ有無ヲ標準トスル土地所有制限法ハ合衆國自身及他州ニモ其例乏シカラス且何等ノ故障モ無ク実施セラレ居ルニ独リ加州ノミ今次同種ノ法律制定ニ当リ且下ノ如キ論難攻撃ヲ受ケ自己本来ノ権能ヲ妨ケラル、謂レナキヲ痛論シ本案ハ州ノ自衛上必要欠クヘカラサルモノナレハ結局成立スルニ至ルヘキ旨ヲ声明セリト云フ大使ヘ濟ミ

電報ニヨリ御承知ノ筈ナルガ右修正條項中重ナルモノヲ見ルニ本法ノ適用ヲ受クルモノヲ一般外國人(帰化ノ意志ヲ表示シタル者ヲ除ク)ノ外資本ノ過半カ帰化権ナキ外國人ノ出資ニ係ル会社トナスハ事實上並ニ文字上明ニ日本人ヲ区別的ニ待遇スルモノナルノミナラス油田、鉱山、森林、工場、倉庫、荷揚場其他ニ用ヒラル、土地並ニ外國人ニ對スル債務ノ担保トナレル地所及ヒ債務不履行ノ結果トシテ得タルモノ等スベテ外國人若ハ外國法人カ利害關係ヲ有シ又ハ有シ得ヘキ土地(日本人ニハ事實上關係少キモノ)ヲ本法ノ適用ヨリ取除キタルハ之ニヨリテ巧ミニ外國資本金ノ故障ヲ避ケ單ニ日本人ノ農業用地所ノ所有ノミヲ禁遏セントスルモノタルヤ論ヲ須タス尚ホ法人ノ場合ニ限り帰化権ナキ外國人ト明記シタルハ之ニ依リテ外國人側一般ノ故障ヲ避クルト同時ニ此除外例ヲ通シテ歐州人ハ会社ノ形式ヲ以テセハ農業地トイヘドモ所有シ得ルコトトナシ益歐洲資本金ノ欲心ヲ得其方面ノ異議ヲ除カントスルノ意ニ出デタルモノトモ解釈スルヲ得ベシ要スルニ右ハ日米兩國通商條約ノ根本の主義精神ニ悖リ諸條約國人中独リ日本人ノミニ區別の待遇ヲ与ヘントスルモノニシテ修正ニヨリ愈其

排日の性質ヲ發揮シ来リタルモノトイワサルヘカラス
以上義ニ送附セル我抗議ノ論点ノ補足トシテ申進ス

註 前掲七五文書ノ別電参照

一二五 四月二十二日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法案ニ関スル國務長官来電後ノ加州州

会形勢ニ付報告ノ件

第九六号

州会ノ形勢引続キ急速ニ遷転シツ、アリ國務長官来電ノタ
メ中央政府ニ対スル反感ト認ムヘキモノハ依然顯著ナラサ
ルモ党略上各派ノ態度ハ右来電アリタルヲ一期トシテ一見
奇怪ナル転化ヲ示シタルニ四月二十二日「サクラメント」
新聞電報ニヨレハ知事派ノ多数党ハ遽カニ過激ナル態度ヲ
示シ土地案ヲシテ單純明白ニ東洋人ヲ目的トナサントシ
「デモクラット」党ハ之レニ反対シ穩和ノ説ヲ唱ヘ帰化権
ナキ外国人云々ナル文句ノ使用ヲ避ケントスルモノノ如ク
従前ニ比シ主客所ヲ異ニシタルノ感アリ以テ本案カ夫レ自
身ノ価値以外ニ寧ロ党争ノ武器トシテ弄バレツ、アルヲ窺
フニ足ル

一二七 四月二十二日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法案ニ関スル大統領電報ニ対スル加州

知事返電要領報告ノ件

第九八号

四月二十二日大統領ヨリ加州知事ニ宛テタル電文ハ同日州
会ニ於テ朗読セラレタルガ知事ハ自派領袖ト協議ノ上左ノ
要領ノ回電ヲ発シタリ
加州々会ハ中央政府ノ迷惑トナルベキ立法ヲナシ又條約ニ
依リテ保障セラレタル權利ヲ侵害セントスルモノニ非ズ今
後若シ土地案ニシテ通過スルモノナラバ其規定ハ帰化権ナ
キ外国人ニ関シテハ一般的 (General in character
relating to aliens ineligible to citizenship) ニシテ其
用語ハ当国立法ノ先例ニ遵フモノタルベシ中央政府ト一致
協調ヲ期シ惡意又ハ偏頗ナク自己ノ権能内ニ於テノミ行動
スベキハ少クモ上院ノ多数及ヒ知事ニ於テ断言スルトコロ
也

註 後出沼野総領事代理発牧野外務大臣宛来電第一〇四号
(一三七文書) 参照

将来ノ予想トシテハ上院現在案ニ対シ両党派ヨリ夫レ夫レ
反対ノ修正説提出セラルヘク知事派領袖内相談トシテハ前
記ノ如キ極メテ過激ナル修正ヲ主張スル趣ナリ尚「コー
ル」ニ依レハ「ルーズベルト」氏ヨリ来電アリタルモ其ノ
内容ニ付テハ知事ハ沈黙シ居ル趣ナリ
大使ヘ電報ス

一二六 四月二十二日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法案ガ條約違反トナラザル様要請セル

大統領ヨリ加州知事宛電報ノ効果ニ関スル件

第九七号

四月二十二日大統領ヨリ加州知事宛電報ノ効果ニ就テハ未
タ確報ヲ得サルモ只今博覽会社長ヨリ聞知シタル所ニ依レ
ハ大体ニ於テ良好ナル効果アルベク博覽会側ニ於テモ此機
ニ乗シ土地案ニ対スル抗議提出ノ議アル由「フレスノ」ニ
帰省中ナリシ「ローウェル」モ此新ナル形勢ニ応スル為
「サクラメント」ニ急行セリ委細後電
大使ヘ電報ス

一二八 四月二十二日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

大統領ヨリ加州知事及州会ニ対シ外国人土地法

案ニ於テ外国人間ニ差別待遇ヲ為サザル様要請

ノ件

第九三号至急

The President sent April 22nd the following
message to the Governor of California and the
presiding officers of the Senate and the House of
the California Legislature:—

I speak upon the assumption which, I am sure,
is well founded that the people of California do
not desire their representatives—and that their
representatives do not wish or intend—in any cir-
cumstances to embarrass the Government of the
United States in its dealing with a nation with
whom it has most earnestly and cordially sought
to maintain relations of genuine friendship and
good will and that, least of all, do they desire to do
anything that might impair treaty obligations or
cast doubt upon the honour and good faith of the
nation and its Government. I therefore appeal
with the utmost confidence to the people, Governor

and the Legislature of California to act in the matter now under consideration in a manner that cannot from any point of view be fairly challenged or called in question. If they deem it necessary to exclude all aliens who have not declared their intention to become citizens from the privilege of landownership, they can do so along lines already followed in the law of many of other States and of many foreign countries including Japan herself. Invidious discrimination will inevitably draw in question treaty obligations of the United States Government. I register my very earnest and respectful protest against discrimination in this case, not only because I deem it my duty to do so as the chief executive of the nation but also and the more readily because I believe that people and the legislative authorities of California will generously respond the moment the matter is frankly presented to them as a question of national policy and of national honour. If they have ignored this point of view it is, I am sure, because they did not realize what and how much was involved.

Chinda.

惹起ス可シ余ハ此場合ニ於ケル区別の待遇ニ対シ最モ熱心ニ且鄭重ナル抗議ヲ提出スルモノナリ是レ暫ニ米國ノ行政首長トシテ爾スルノ余ノ義務タリト考フルノミナラズ更ニ進ンデ加州人民及立法部ノ本問題カ米國ノ國是及名譽ノ問題タル所以ヲ腹藏ナク指摘セラルルニ於テハ必スヤ之ヲ諒得スルニ客ナラザル可キヲ信ズルガ故ナリ若シ加州当局ニシテ此ノ見地ヲ閑却セリトセハ余ハ信ス是レ彼等ニ於テ問題ノ果シテ如何ナルモノニシテ又其ノ如何ニ重大ナルカラ會得セザリシガ為メナラント

一一九 四月二十三日 牧野外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛 (電報)

加州土地法案阻止ノ為ノ民間側面運動ニ付通
報ノ件

附 記 加州土地法案阻止ノ為ノ民間側面發電 (一)
(一) (三) (四)

第八七号
(註¹)
貴電第八八号及九〇号ニ関シ既報ノ外内外人ヨリ米國側ハ
打電セルハ (一)「メービー」ヨリ大統領「アウトトルック」

一 加州ノ外國人土地法案及日本政府ノ抗議關係 一一九

(右和訳文)

(註 外務本省作成)

大統領ハ四月二十二日ヲ以テ左ノ通り加州知事及同州議會上下兩院議長ニ電照セリ
余 (大統領) ハ加州人民ノ代表者ガ如何ナル場合ニ於テモ米國中央政府ヲシテ其ノ最モ切実ニ純良ナル友好關係ヲ支持存続セントスル一友邦トノ交渉上ニ迷惑ヲ感ゼシムルガ如キ措置ニ出ヅルコトヲ欲スルガ如キハ加州人民ノ意ニ非ズ加州代表者モ亦タ斯ル措置ニ出デントスルノ意思ヲ有スルモノニアラス特ニ其ノ條約上ノ義務ヲ毀損シ或ハ國民及其ノ政府ノ名譽信義ニ疑惑ヲ挾マシムルガ如キ措置ニ出ヅルハ決シテ加州人民又ハ其ノ代表者ノ素志ニ非ズト断定スルニ於テ過ナキヲ信ズ故ニ余ハ衷心以テ加州ノ人民知事及議會ニ訴フルニ其目下討論中ノ問題ニ対シ他ヲシテ何等正當ノ批難ヲ加ヘ又ハ疑義ヲ生ゼシムルガ如キコトナキ様行動セラレンコトヲ以テス若シ加州ニシテ市民トナルノ意志ヲ表明セザル総テノ外國人ヲ排斥スルノ必要アリトセバ既ニ他ノ諸州又ハ日本其他諸外國ノ法律ニ於テ採用セラレタル立法例ニ則リ之レヲ為スコトヲ得ベキナリ漫ニ忌ハンキ區別ヲ設クル時ハ必然米國政府ノ條約義務如何ノ問題ヲ

及ビ「ルーズヴェルト」ヘ各別ニ (二)「モット」ヨリ加州知事ヘ (三)高平大使ヨリ「ルート」ヘ (四)大隈伯爵ニ會合セル内外伝道師ノ重ナル者ヨリ大統領ヘ (五)「ハリス」ヨリ加州議會ヘ (六)「ハーバート」俱樂部ヨリ「エリオット」ヘ發シタルモノ等ナリ此他ニモ發電シタルモノ少ナカラス尚ホ前記貴電御注意ノ方面ニ関シテハ目下手配中ナリ

註 1 一〇七文書
2 一一〇文書

(附 記)

加州土地法案阻止ノ為ノ民間側面發電 (一) (二)

(三) (四)

(一)

四月十四日「メービー」博士ヨリ「アウトトルック」社宛電
報

Outlook,

New York.

Pending anti-foreign legislation in California most seriously taken here. Very grave complications may follow. Every influence should be used

to delay legislation until authoritative investigation Japanese holdings can be made. Far reaching international policy must not turn on local conditions.

Mable.

(11)

四月二十一日高平男ヨリ「ルー」氏宛電報

Mr. Elhu Root

In view of the attitude of the California legislature in regard to the land ownership bill we are deeply concerned as to the undesirable consequence which might follow. As a private citizen who cherishes the sincere desire for the maintenance of the cordial relations between our two countries may I be permitted to appeal to your high sense of justice for some action which may tend to save the situation. Any effort which you may be disposed to use in that direction, consistent with your official position will be most highly appreciated.

Kogoro Takahira

of the present situation.

Buei Nakano

Chairman

Tokyo 23rd April 1913

(四)

四月二十三日中野東京商業會議所会頭ヨリ米國商業會議所宛電報

Chamber of Commerce of the United States of America Washington D C

Representatives of all the Chambers of Commerce in Japan held this day an extraordinary meeting at Tokyo and resolved that the possible adoption of any Anti-Japanese laws by California would impair the good friendship and hamper the commercial relations between America and Japan. We earnestly seek your sympathetic cooperation towards a satisfactory solution.

Buei Nakano

Chairman

(111)

四月二十三日中野東京商業會議所会頭ヨリ「ウィルソン」大統領宛電報

Mr. Woodrow Wilson

President of the United States

White House

Washington D C

Representatives of all the Chambers of commerce in Japan assembled this day at Tokyo in a special conference voicing the general opinion of the Empire are deeply concerned in the possible passing of the Anti Japanese bills now pending in the Legislature of the State of California and deem the adoption of any laws with discriminatory spirit to be inimical to the traditional good friendship existing between America and Japan and detrimental to the ever-growing commercial relations between the two countries.

We therefore respectfully and earnestly appeal to you to exercise your sympathetic and influential intermediation towards a satisfactory relief

一三〇 四月二十三日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

米国市民トナリ得ザル外國人ニノシ適用ノ加州

土地法案上院ニ附議ノ件

第九九号至急

四月二十二日夜半在「サクラメント」「アッソシエーテッド・プレス」通信員ガ在何地当館々員及我孫子ニ対シ態々来報セル所ニ依レハ知事派ニ於テハ大統領ノ意志ニ反シ(alien ineligible to citizenship)ニノシ適用セラルベキ土地案ヲ四月二十四日上院議事ニ附スル豫定ナルガ同案ハ多分通過スベク右ハ下院ニ於テモ異議ナキ模様ナリトノコトナリ委細確メ中
大使ハ電報ス

一三一 四月二十三日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法案ニ関スル上院四月二十一日ノ議事

ノ模様報告ノ件

第一〇〇号

四月二十一日上院土地案議事ノ模様ハ往電第九〇号既報ノ

通多少ノ討議アリタルモ特ニ重要ナルモノナク前電ノ修正採用セラレタル外ハ拙電第一〇一号ノ小修正アリタルノミ夫レ以外ハ議事日程ノ都合ニ依リ議案淨書印刷後ニ譲ルコトトナリ修正セラレタル本案ハ直ニ印刷所ニ廻付セラレタル次第ナリ又其採用ニ至ラザリシ理由ハ前記議事日程上ノ理由以外本案ニ対スル各派ノ評議未ダ纏マラザリシニ依ルモノナルベシ尚閉会期ニ関シテハ往電第七〇号ノ下院決議案ハ上院ニ於テ五月三日ト修正サレ下院ニ廻付サレタルモ下院ハ未ダ之ニ *Concur* セズ更ニ五月十日トスルノ議アリ何分ノ義ハ四月二十五日決定セラルヘシト云フ

一三二 四月二十三日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

四月二十一日加州上院ニ於テ土地法案ニ加ヘラ
レタル小修正報告ノ件

第一〇一号

上院土地案第十四條ノ内 *may hereafter become* ナル三語ヲ削除シ之ヲ現存ノモノノミニ適用スルコトトナシ同條末端ニ左記ノ通添加シタリ

得ルニ於テハ当地ニ於ケル緊急ノ事務ヲ取纏メ可成速ニ出發スヘキ旨ヲ答ヘタル由ナリ又大統領ハ知事宛電報ト同意義ノ電報ヲ別ニ加州上下両院議長ニモ發セリトノコトナリ尚右電報ハ本日中ニ發表セラルル趣ナリ

(別電)

四月二十三日珍田大使發牧野外務大臣宛電報第九六号

加州土地法案ニ付協議ノ為國務長官派遣ニ関シ

大統領ヨリ加州知事宛電報

No. 96.

Thank you for your patriotic telegram. We find it so difficult from this distance to understand fully situation with regard to sentiments and circumstances lying back of the pending proposition concerning owning land in the State that I venture to enquire whether it would be agreeable to you and the legislature to have Secretary of State visit Sacramento for the purpose of counselling with you and members of the legislature and co-operating with you and them in the framing of a law which would meet views of people of the State and

Provided however where such deed of trust mortgage other lien attaches to said land interest therein after this act take effect said land interest therein may be held by any alien or corporation of class described in section three for four years from date of acquisition and no longer and if not disposed within four years shall be subject to escheat proceedings pursuant sections nine ten eleven twelve.

一三三 四月二十三日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法案ニ付協議ノ為國務長官派遣ニ関シ
大統領ヨリ加州知事宛電報ノ件

別電 同日珍田大使發牧野外務大臣宛電報第九六号
右大統領電文

第九五号

四月二十三日「アッソシエーテッド、プレス」ノ Hood ノ内報ニ依レハ大統領ハ本日加州知事宛別電ノ通電報ヲ發シタル趣ナリ尚國務長官ハ同氏ノ問ニ對シ加州官憲ノ同意ヲ

yet leave untouched international obligations of the United States.

Chinda.

一三四 四月二十三日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法案ニ関シ國務長官ノ来加ヲ歡迎スル
旨加州両院決議ノ件

第九八号

往電第九五号ニ関シ只今四月二十三日午後「フッド」内密ノ統報ニ依レハ加州両院ハ喜ンテ國務長官ノ出張ヲ俟ツヘキ旨並ニ閉会期切迫ノ際ナレハ出来得ル限り速ニ来ラルルコトヲ希望スル旨ヲ決議セル趣ナリ

一三五 四月二十三日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

國務長官ノ加州首都派遣ヲ同州知事承諾ノ件

第一〇二号

情報ニ依レハ大統領ハ土地案ニ関シ親シク協議セシムル為メ國務長官ヲ「サクラメント」ニ派遣セントストノ電報ヲ

知事宛発シタルニ知事ハ四月廿三日朝自党領袖ト協議ノ結果右承諾ノ旨大統領ニ返電シタリト云フ不取敢

一三六 四月二十三日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法案擁護ノ知事声明要領報告ノ件

第一〇三号

四月二十一日知事ハ「ステートメン」要領左ノ通り

Californians unable to understand why alien land bill creates confusion criticism why this local act becomes international question. Of course legislature would not attempt contravene treaty nor do more than has been done by Federal Government itself many other States. (中略) Our legislature now considering alien land bill in general language not discriminatory. If terms used declared discriminatory those very terms long since made so by many enactments by laws of nation itself. (各州立法ノ実例ヲ挙グ) We ask should California be singled out for attack when exercis-

"I may assure you that it is desire of majority of legislature to do nothing in alien land bill that shall be embarrassing to our Government or offensive to other. If any Act be passed will be general in character relating those ineligible to citizenship and language employed be that has precedent sanction in statutes now exist. I speak for majority Senate when I convey you our purpose to cooperate fully with national Government, do only that within our province without intended offence invidious discrimination."

一三八 四月二十三日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法案ニ関シ國務長官加州出張ニ賛同ノ旨上院決議ノ件

第一〇五号

國務長官加州出張ニ関スル上院決議案要領左ノ通り

"Be it resolved that while Senate respectfully maintains right of legislature State California to legislate land ownership within State it will be

ing same right Japan until 1910 had absolute law against alien ownership and has yet. What done United States may States union. What done by Japan is now attempted by California. No reason logically exist for hysteria for sundering friendly relations with any power for offensive threats by any nation. Character present California legislature is guarantee that only legislation deemed absolutely essential for preservation States and protection people will be passed. Such measures as been acted be considered thoroughly calmly judicially without prejudice discrimination.

Numano.

註 前掲一二二及一二三ノ両文書参照

一三七 四月二十三日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州州議會ハ土地法案ニ関シ中央政府ノ迷惑トナルンキ立法ヲ為スノ意無キ件

第一〇四号

四月二十二日知事発大統領宛電報要領

entirely agreeable Secretary of State visit Sacramento for purposes indicated in President's telegram."

一三九 四月二十三日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法案ニ対スル知事派ノ党略の画策

報告ノ件

第一〇六号

拙電第九八号第九九号第一〇三号等ヲ以テ報告シタル通り知事及同派ノ土地案ニ対スル意気込ミ甚タ險惡トナリシ模様アルニ付本官ハ四月廿三日博覧会社長ノ意見ヲ徴シタルニ同氏ノ所言左ノ如シ

最初知事派議員ハ土地案ノ通過ヲ重要視セサリシモ「デモクラット」党議員ノ同案ニ関スル「エジテーション」ト選舉区民ニ対スル面目上勢之下同案ノ急先鋒タル名ヲ競ハサルヘカラサルニ至リシカ中途知事派ハ形勢ノ益々不利ナルヲ見反噬ノ態度ニ出デ此問題ヲ利用シテ「デモクラット」党ヲ鎬地ニ陥レ其声望ヲ傷ケ同時ニ自派ノ party capital ヲ作ラントスルニ至リ中央政府カ形勢ノ重大ナルヲ認メ進ン

テ手ヲ下スニ及ヒ知事派ハ其劃策ノ適中シタルヲ看取シ益強硬ナル態度ヲ示シ中央政府ノ介入ヲ余儀ナカラシメ以テ大ニ名声ヲ売ラントスルノ勢ヲ馴致シタリ云々

惟フニ之レ往電第九六号所載ノ如キ局面転化ヲ見タル所以ナルヘク從テ貴電ノ件ハ本官ニ於テ爾來機會アル毎ニ「ローウェル」ヲ通シ其知事ニ對スル親善ナル（關係？）ト「インフリュエンス」ヲ利用シ正義公平ノ見地ヨリ知事ヲ動かサントシタルモ遺憾ナカラ今日迄未タ目的ヲ達セス蓋シ知事トシテハ今日ノ場合事理ノ是非ヲ問ハス日本人ニ左祖スルハ党略上害アルモ利ナキヲ思フナルヘシ

今回國務長官ノ出張ニ關シテハ知事派ハ兩院ニ於ケル多数ヲ頼ミ之ヲ好機會トシテ同官ヲ苦メントスルナランモ博覽會社長ノ言ニ依レハ國務長官ノ出張ニ依リ結局解決ヲ見ルニ至ルヘシト

尚「デモクラット」黨議員ハ昨今態度ヲ一變シ中央政府ノ希望ニ副ハン為メ（不明）由又同党上院議員「カートライト」ハ若シ州會カ大統領ノ意思ニ反シ日本人ヲ目標トスル土地案ヲ制定セハ大統領ハ赫怒シ現ニ国会ニ於ケル「デモクラット」黨ノ多数ナルニ乗シ或ハ日本人ニ市民權ヲ与フル法律ヲ新タニ制定スルニ至ラント公言セリ

点其他法案各條ニ亘リテ大統領ノ意見ニ從ヒテ修正ヲ加フルガ如キコトアラハ法案全体ノ大勢（？）ヲ益々困難ナラシムルニ至ル虞アルニ付本使ハ國務長官出張ニ先チ更ニ會見ヲ遂ケ今一応当方ノ態度ヲ声明シ置クノ必要ヲ認メ四月二十三日同官ヲ訪ヒ右出張ハ米國政府カ本問題ヲ最重要視スルヲ示スモノナルカ故ニ帝國政府ニ於テモ深く憚フ所ナルヘシトテ謝意ヲ表シタル上本案ノ字句如何ナル修正ヲ見ルモノトスルモ日本人カ事實ニ於テ所有權ヲ禁止セラルル限リ到底我ニ於テ満足スル能ハサル所以ヲ反覆聲明シタルニ同官ハ日本國政府ノ希望ハ疾ニ能ク了解シ居ルモ加州ノ大勢ニ鑑ミ能ク本案防止ノ効ヲ奏スヘキヤ憂慮ナキ能ハズ若シ不幸ニシテ本案全体ヲ不成立ナラシムルヲ得サルモノトスルモ尚及フ限リ不都合ノ点ヲ除去センカ為百方努力スヘシト答ヘ要スルニ加州民心ノ傾向ハ之ヲ一ノ事實ト認メ之ニ応スル方法ヲ講スルコトヲ要スル旨ヲ述ヘタルニ付本使ハ腹藏ナク國務長官カ所謂民心ノ傾向ナルモノハ勞働組合ノ勢力ニ左右セラルル一派政客ノ運動ニ基クニ過キスト痛言シタル処國務長官ハ直接之ニ答ヘズ只若シ昨今新聞紙ノ唱道スルカ如ク一般被選舉權者ノ直接投票（レファレンダム）ニ訴ヘテ之ヲ決スルコトナラバ之レ地方全体ノ

大使ヘ電報ス

一四〇 四月二十三日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛（電報）

加州土地法案ニ付國務長官加州出張ニ際シ
我方ノ態度ヲ聲明ノ件

第一〇〇号

目下中央当局ト加州知事及議會トノ間ニ討論中ノ問題ハ土地所有權ノ許否ハ歸化ノ意志ヲ表明セル事實ノ有無ヲ標準トスルヤ將タ歸化權ノ有無ヲ標準トスルヤノ点ニ在リテ我ニ取リテハ寧ロ枝葉ノ問題ニ屬シ其孰レノ標準ニ依ルモノトスルモ素ヨリ我ヲ満足セシムルニ足ラサルニ付國務長官ヘハ其旨明言シ置キタル処右中央当局者ノ主張ハ歐洲資本輸入ニ重大ノ障害ヲ与ヘ加州ニ於テ容易ニ之ヲ容ルルコト能ハサルト同時ニ大統領ニ於テモ最早其態度ヲ一變シ難カルヘク其結果全案不成立ヲ来スノ奇効ヲ奏スルヤモ計リ難キ次第ナルニ付本使ハ大統領及國務長官ト知事トノ間ニ於ケル電報ノ往復ニ對シテハ殊更ニ傍觀ノ態度ヲ執リ来リタルカ今回國務長官加州出張ノ件愈々決定シタリトノ報ニ接スルヤ追テ同官ニ於テ加州当局者ト會談折衝ノ結果右爭

輿論ヲ示スモノトシテ尊重スルノ外勿カルヘシト述ヘタルニヨリ本使ハ之レ或ハ地方ノ輿論ヲトスルニ足ルヘシト雖モ苟クモ其行動ニシテ條約及正義ト兩立セザルニ於テハ中央政府ノ對外責任ヲ免除スルニ足ラズト思考スル旨ヲ答ヘ置キタリ尚國務長官ガ加州以外諸州並ニ District of Columbia ニ於テ同趣旨ノ法律アルコトヲ指摘シ本邦ノ法制ニモ言及シタルニ對シ本使ハ右米國諸州ニアリテハ最初ヨリ外人ニ土地所有權ヲ許与セザリシ次第ニシテ從來許可シアルモノヲ今日俄カニ禁止スルトハ利害關係ニ於テ同一ニ論ズベカラザルコトヲ述べ本邦ノ法制ニ就テモ詳細弁明ヲ加フル所アリタリ又國務長官ノ出發豫定期日ニ關スル本使ノ問ニ對シテハ國務長官ハ追テ大統領ト協議ノ上ナラデハ決定シ難キモノ一日モ速ニ出發シ度考ナル旨答ヘタリ次ニ新聞紙所報ニ徵スルニ加州知事ハ本案通過ノ上ハ直チニ署名スル意向ナルヤニ見ユル処國務長官ハ往電第七五号ノ通本案通過後知事ノ署名迄ニハ本使ニ於テ篤ト攻究ヲ加ヘ意見開陳ヲ為ス機會ヲ与フヘキ旨繰返シ述ベラレタリ右談話中國務長官ハ終始深ク憂慮ニ沈ムモノノ如ク見受ケラレタリ

一四一 四月二十三日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

國務長官加州首都到着迄土地法案院議延期ノ件

第二〇七号

情報ニ依レバ國務長官ハ来週月曜日頃「サクラメント」着
ノ豫定ナル由ニテ州会ハ夫迄土地案ニ関スル院議ヲ延期ス
ル由

一四二 四月二十四日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

國務長官四月二十四日加州向ケ華府出發ノ件

第一〇四号

四月二十四日國務長官ハ本使ト會見ノ際愈同日午後当地発
「サクラメント」ニ向フコトニ決シタル旨ヲ告ゲ之レカ為
メ同官一身上ノ不便又ハ一時國務ノ渋滞ヲ来スハ同官ノ意
トスル所ニアラス全力ヲ尽シテ本件ノ満足ナル解決ヲ計ル
覚悟ナルモ遂ニ能ク其ノ使命ヲ果スコトヲ得ベキヤ痛心ニ
堪ヘズト語レリ尚本使ハ同官「サクラメント」著ノ上ハ在
留日本人代表者ヲモ引見シ篤ト其ノ陳情ヲ聞キ取ラレンコ
トヲ求メタルニ同官ハ之レヲ快諾シタリ

tional and treaty limitations ナル字句ヲ插入セントノ
動議モ九對二十七ヲ以テ敗レタルヲ以テ民主党ハ反對ノ無
益ナルヲ察シ結局原文ニ賛成シ殆ント全院一致ヲ以テ通過
シタル次第ナリ

一四五 四月二十四日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

博覽会会社ト抗議發表並國務長官加州知事及
両院議長ハ右送達ノ件

第一一〇号

往電第九七号博覽会々社ノ土地案ニ對スル抗議ハ四月二十
三日同社重役會決議ノ形式ヲ以テ發表セラレ決議全文ハ電
報ヲ以テ翌廿四日國務長官州知事及上下両院議長ニ送達セ
ラレタリ

一四六 四月二十四日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

四月二十四日加州知事發表ノ土地法案擁護声
明原文要領電報ノ件

第一一一号

四月二十四日知事ノ發表シタル statement 原文要領

一四三 四月二十四日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

外国人土地所有及取得ニ関スル本邦ノ法規慣例

公表ニ関シ請訓ノ件

第一〇八号

「サクラメント、ビー」新聞ヨリ當館ノ「オフィシャル、
ステートメント」トシテ公表ノ目的ヲ以テ本邦ニ於ケル外
國人ノ土地所有及取得ニ関スル法規慣例ヲ問合セ来レルガ
此際右公表シテ然ルベキヤ為念御回訓ヲ請フ

一四四 四月二十四日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

國務長官来加贊同決議案ノ加州上院審議ノ状況

報告ノ件

第一〇九号

四月二十三日國務長官出張ニ関スル電報上院ニ到達スルヤ
知事派院内総理 Boynton ハ民主党議員ニ計ルコトナク往
電第一〇五号決議案ヲ起草シ右電報ト共ニ之ヲ院内ニ発表
シタルニ土地所有ニ関スル州立法権云々ノ文句ヲ削除スハ
シトノ動議ハ八對二十八票ヲ以テ敗レ又 under Constitu-

Am not predicating action merely defending
legal moral State to act. Would not affront dig-
nity Japan but must uphold dignity California.
Eligibility for citizenship determined by United
States laws. Line against Japan not drawn by
California. Constitution California declares that
foreigners ineligible citizenship are dangerous
and authorizes Legislature discourage their im-
migration. Similar laws enacted by Washington
Arizona without protest. California follows pre-
cedent question not new. Objects to hysteria
while Legislature is nearly deliberating. State
will do nothing to which there can be just objec-
tion either national or international.

一四七 四月二十四日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法案ニ関シ桑港「クロニクル」紙ノ
利用ニ付請訓ノ件

第一一二号

当地「クロニクル」ハ今回ノ土地問題ニ付テモ当初ヨリ我
ニ對シ親善公平ナル態度ヲ持シ居レル次第ハ屢次拙電ノ通

大使ハ電報ス

一四八 四月二十四日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
加州上院ニ於ケル國務長官米加賛同決議ハ専ラ

党利ニ基キタル件

第一一三号

往電第一〇九号ニ関シ議場ノ形勢ヨリ察スルニ本問題ニ対スル議員賛否別ハ往電第七六号及第八四号所報ノ時トハ全然異ナレル基礎換言スレハ問題自身ノ可否ヲ離レテ党ノ利害ノミヲ標準トスル党派別ヲ基礎トスルニ至レルヲ示ス即チ院内多数党タル「レパブリカン」党革新派對「デモクラット」党及「レパブリカン」党旧派ノ党争トナレリ大使ハ電報ス

一四九 四月二十四日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

牛島日本人会長ヨリ近ク米加ノ國務長官ニ

日本人ノ所見ヲ開陳シ得ル機取計方願出ノ件

第一一四号

本官発在米大使宛電信左ノ通

リナル処四月二十四日同新聞社長 Deyoung ノ旨ヲ受ケタリトテ同社広告主任 Butler ナルモノ本官ヲ訪問シ語ル所ニヨレハ此度國務長官加州出張ニ付テハ同官ヲシテ時局ニ對スル公平ナル判断ヲナサシムルタメニハ日本人ノ立場ヲ誠実ニ弁明スル新聞ヲ必要トスベシ故ニ「クロニクル」ニ於テハ國務長官滞在中機宜ニ応シ同紙ニ數欄又ハ數頁ニ互リ前記趣旨ノ記事論說ヲ掲ゲタキ希望ナルガ之レガ為メ費用トシテ六千弗乃至八千弗ヲ要ス云々若シ右費用仕払ニ付キ本官ニ於テ相当ノ心当アレハ社長來談スルモ可ナリトノコトニ付キ本官ハ右ハ甚タ妙案ト存ズルモ熟考ノ上追テ回答スヘキ旨答ヘ置キタリ惟フニ「クロニクル」ノ如キ当地方ニ勢力アル新聞カ上記ノ如キ計畫ヲ実行スルハ屢次御來示ノ如ク將又大使往電第一〇〇号中國國務長官カ referendum ニ言及シタル次第モ有之輿論ノ喚起上我ニ取リ頗ブル有利且必要ナルベクト存ゼラルルニ付右申出ノ金額ノ範圍内ニ於テ直ニ交渉ヲ進メ差支ナキヤ國務長官ノ來著切迫シ居ルノミナラス二十五日中ニ先方ヘ回答ノ都合モアリ至急何分ノ御電訓アリタシ猶同新聞ハ知事派ニ對シテハ反對ノ地位ニ立チ且ツ絶エズ攻撃の記事ヲ掲載シ居ルモノナリ為念申添ユ

四月二十三日第一〇三号

在米日本人会長牛島ヨリ本官ニ對シ國務長官加州來着ノ上公平ナル米國人及代表的日本人ノ所見ヲ親シク同官ニ開陳スル機会ヲ与ヘラルル様閣下ニ於テ豫メ御配慮ヲ請フ旨願出タルニ付可然御取計ヲ請フ尚國務長官旅行ノ日取及道筋確定次第御回示アリタシ前記牛島願出ハ一九〇七年學童問題ノ為當時商工務長官 Metcalf 氏來桑ノ節同様ノ機会ヲ与ヘ極メテ好良ノ結果ヲ収メタル先例アリ為念申添ユ

一五〇 四月二十五日 牧野外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛(電報)

國務長官加州出張中我方ヨリ何人カラ同州

首都ヘ派遣スルノ必要ニ関スル件

第九〇号

貴電第一〇〇号ニ関シ「ブライヤン」氏ト加州知事及ヒ兩院領袖株トノ交渉ノ發展及ヒ曲折如何ハ本件ノ運命ニ甚大ナル關係アルニヨリ我ニ於テ十分其經過ヲ監視シ機宜ノ措置ヲ窺フサルヲ期スヘキハ勿論ナリ而シテ又一方ニ於テハ國務長官ノ不在ハ短クモ半月ニハ亘ルヘク其間華盛頓ハ

事實上閣下ノ相手ヲ欠キ局面ノ中心ハ暫ク華府ヨリ「クラメント」ヘ推移スルモノトイワサルヘカラス随テ「ブライヤン」氏ノ同地滞在中問題ノ發展如何ニヨリ時々我ヨリ同氏ヘ申入ル、ヲ必要トスル事柄モ生スベク又同氏ヨリ我レニ交渉ヲ要スル点モ表ハレ來ルヘク旁我方ヨリモ誰カ一人「サクラメント」ヘ出張スルコト必要ナリト信ス而シテ其出張者ハ幣原參事官ト沼野領事ノ内ニテ選定スルヲ可トスヘク尤モ右ハ極メテ「デリケート」ナル事柄ニテ場合ニヨレハ米國官民ノ誤解ヲ招キ若ハ内政干涉、議員操縱等ノ冤罪ヲ受ケ排日派ニ攻撃ノ口実ヲ与ヘ却テ彼等ニ利用セラル、ノ虞モコレアルベキニツキ本件決行ニハ豫メ米國當局者ト十分打合ノ上先方ノ同意ヲ得ルハ勿論形式ニ於テハ事件ノ進捗ニ便スル為メトノ理由ノ下ニ出來得ベクンハ國務長官ノ招致ニヨリ出張セルコトナス方安全ナルヘク而シテ幣原若ハ沼野出張ノ場合ニハ本件ニ関シ特ニ國務長官ト應對スルヲ得ルノ了解ヲ得置クコト必要ナルベシ右ハ重大ナル問題ニツキ閣下ニ於テモ御熟考ノ上別ニ故障ノ理由ヲ見出サレザルニ於テハ大体前述ノ趣意ニ拠リ御裁量ニテ至急打合方可然御取計アリタシ尚ホ帝國政府抗議ノ論点提示ノ件ニ関シテハ曩ニ「ブライヤン」氏ノ意見御報告

ノ次第アリシモ此場合右ノ論点ヲ米國政府ニ内示シ本案ニ對スル帝國政府ノ立場ヲ更ニ十分明カニシ置クコト此際ノ事情ニ鑑ミ当方ノ利益ト信スルモ此点ニ關シテハ閣下ノ「デイスクレション」ニ一任スルコト前電ノ通ニシテ只ダ為念申進ズ

一五一 四月二十五日 牧野外務大臣ヨリ 在桑港沼野總領事代理宛(電報)

加州土地法案ニ關シ桑港「クロニクル」紙 利用ニ付回訓ノ件

第三〇号

貴電第一一二号ニ關シ貴官ニ於テ社長 Deyoung ノ誠意ヲ認メラルル上ハ御申越通り先方申出ノ金額範圍内ニ於テ交渉ヲ進メ差支ナシ

一五二 四月二十五日 在桑港沼野總領事代理ヨリ 牧野外務大臣宛(電報)

在桑港支那人ヨリ土地法案ニ對スル抗議ヲ 加州兩院議長ニ提出ノ件

第一一五号

在桑港支那人商業會議所六大会社及商人組合ハ土地案ヲ以

テ支那人ノ條約上ノ權利ヲ侵害シ且兩國ノ親交及商業ヲ阻害シ加州在留支那人ノ生業ヲ剝奪スルモノナリ云々ノ抗議ヲ一議員ノ手ヲ經テ四月二十二日上下兩院議長ニ提出シタリ

一五三 四月二十五日 在米國珍田大使ヨリ 牧野外務大臣宛(電報)

國務長官加州首都出張中館員ヲ同地ニ派遣スルコト及抗議ノ細目ヲ提示スルコトハ不得策ト思量スル旨稟申ノ件

第一〇五号

貴電第九〇号ニ關シ當館員若クハ沼野領事「サクラメント」出張ノ件ハ豫テ本官ニ於テモ一応考量セルコトアリシカ右ハ御來示ノ如ク帝國政府力加州内政ニ干渉セントノ非難ヲ招キ地方ノ反感勃發シテ「ブライアン」氏ノ立場ヲ益々困難ナラシムルノ虞アリ殊ニ出張ハ一般ノ注意ヲ惹キ右危險極メテ多カルベク結局目的ノ遂行上不得策ト思ハルルノミナラス四月二十四日國務長官ト会見ノ際同官ハ其出發後ハ本使ニ於テ大統領又ハ「ジョン、バセット、ムーア」氏(當日國務省參事官ニ任命セラレ「ブライアン」氏

求ノ地歩ヲ作ルコトセル次第ナリ右御含アリタシ

一五四 四月二十五日 在米國珍田大使ヨリ 牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法案ニ關シ邦人ガ國務長官ニ陳情スル場合ノ態度及内容ニ付沼野總領事代理ニ注意ノ件

第一〇六号

本官発在桑港總領事代理宛電信左ノ通 第四五号

外務大臣宛第一一四号末段ニ關シ「ブライアン」氏「サクラメント」著ノ上ハ本邦人ヨリモ篤ト其陳情ヲ聴取ル意嚮ナル処是等本邦人ニ於テ猥リニ條約又ハ法律上ノ議論ヲ述べ恰モ同官ト直接ニ本件ヲ交渉スルガ如キ態度ヲ示スカ如キハ不穩當ナルノミナラス實際ニ於テ不快ノ感触ヲ与ヘ問題ノ解決ニ有害ナリト思考スルニ付陳情者ハ単ニ実況ヲ述ベテ窮狀ヲ訴フルニ止メ議論ニ涉ラザル様致シタク尚「ブライアン」氏ハ熱心ナル宗教家ナルコトヲモ考量ヲ加ヘラ

レ面会ヲ求ムルモノ及其陳述要旨ニ付テハ貴官ノ裁量ヲ以テ可然指導方御注意アリタシ

一五五 四月二十五日 在米田珍大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

「ヘール」氏加州土地法案反対ノ「プレス」、

キャンペーン」開始ノ件

第一〇七号

往電第八一号ニ関シ「ヘール」ハ本使ノ内囑ニ応シ四月二十日ヨリ各所ニ書面及電報ヲ発シ「プレッス、キャンペーン」ヲ始メ尚四月廿二日紐育帰著ノ上「ラッセル」ト協議ヲ遂ケ「ラッセル」ヨリハ Seiz Foord Holt 三名ニモ計リ右諸氏ハ孰レモ日本協会々員タル關係上本件ハ同協会有志者ノ發意トシ本使トノ關係ハ嚴ニ之ヲ秘密ニ附シテ運動スルコトトナリタルガ右ハ固ヨリ諸新聞紙ヲ買収スルノ趣意ニアラス唯公平穩健ナル新聞紙ノ同情ニ訴ヘテ中央當局及輿論ヲ鼓舞セントスルモノナルガ故ニ例ヘハ「ヘールスト」一派ノ新聞紙ノ如キハ之ヲ度外視スル筈ナリ四月廿四日紐育發「ヘール」ヨリノ内報ニ依レハ右運動ハ既ニ効

一五七 四月二十五日

在桑港沼野總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法案防止ノ為桑港「クロニクル」紙ニ

記事掲載ニ関シ談合ノ件

第一一七号

貴電第三〇号ニ関シ四月二十五日「クロニクル」社長ノ來訪ヲ需メ種々協議ノ上土地法案防止ノ為當方供給ノ材料ニ依リ在米日本人ノ地位ヲ公平ニ解説シ本件ノ真相ヲ世人一般ニ徹底セシムヘキ記事ヲ毎号半頁又ハ一頁ニ亘リ掲載シ來ル日曜日(四月二十七日)ヨリ國務長官滞在中約四五日間継続セシムルコトトシタリ尚本官ハ同新聞ノ社説ニ言及シタルモ先方ニテハ之ヲ好マス単ニ同新聞從來ノ態度ハ本官ニ於テモ承知ノ筈ナレハ信頼アリタシト申居タルモ前電ノ通同新聞ハ從來親ノ態度ヲ示シ居リ現ニ本日ノ如キモ社説ニ於テ土地案ヲ論シ在米日本人ニ関スル世論ノ誇張セラレタルヲ弁難シ博覽会モ控ヘタル今日本案ヲ云為スル如キハ絶対的ニ取ラス云々ノ趣旨ヲ論シ居ル程ナレハ此点モ先ツ以テ信頼シ得ヘシト存ス尚又本官ハ談合ノ際本件同新聞ノ記事論調ハ決シテ知事派ノ「ブライド」ヲ傷ケス公正中庸ヲ旨トシ感情ヲ害セス寧ロ該案撤回ノ口実ヲ与ヘ

果ヲ挙ケツツアリ四月廿六日ヲ以テ全国新聞紙トノ聯絡ヲ通スルニ至ル豫定ナリト云フ以上ノ次第ナルニ付運動費ハ未タ正確ニ豫算ヲ立ツルコトヲ得サルモ電報料旅費雇員給料運動者ヘノ報酬等ヲ合算シテ既電ノ通り一萬弗内外ニ止マル見込ナリ

一五六 四月二十五日 在桑港沼野總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法案ノ規定ヲ肯定的表現トシ起草中ナル旨新聞報道ノ件

第一一六号

四月二十五日当地新聞ノ報道ニ依レバ從來ノ土地案ハ總テ禁止的ナルヲ affirmative ニ改メ日米條約第一條第一項ノ字句ヲ其儘採用シ帰化權ナキ外人ハ右等ノ權利ヲ享有スト列記的ニ規定スル方針ヲ以テ Francis Heney 之ガ起草ニ当リ居ルト云フ

以テ穩便ノ落著ヲ見ル様尽力方特ニ注意シ置キタリ報酬ニ関シテハ其額ヲ變更シ且資金ノ出所ヲ明サス単ニ在米日本人有志者ヨリ集メ得タリトテ社長ニ四千弗ノ仕払ヲ約シ別ニ五百弗ヲ關係員ニ分与ノ筈ニ付合計四千五百弗至急電送アリタシ尤モ右ハ差當リノコトニシテ今回同新聞ト連絡ヲ通シタルヲ好機會トシ將來機宜ニ応シ利用スルノ必要ヲ認ムルニ付州会土地案落著迄ノ間ニ本官ノ必要ト認ムル場合ニハ前電ノ範圍内ニ於テ更ニ送金ヲ仰クコトアルヘキニ付豫メ御含アリタシ

一五八 四月二十五日 在米田珍大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

ヘール氏國務長官ニ面会シ排日論ノ不可ナルヲ

痛言ノ件

第一〇八号

「ヘール」ノ内報ニ依レハ同氏ハ四月二十二日夜当地發ニ先チ大統領ト会見シテ内閣員ヲ「サクラメント」ニ派遣スルノ要務ヲ説キ尚大統領ノ依囑ニ依リ「ブライヤン」氏ト面会シテ排日論ノ不理ヲ痛言シ置キタリト云フ同氏カ大

一 加州ノ外国入土地法案及日本政府ノ抗議關係 一五九
統領ト特ニ密接ノ關係ヲ有スルニ顧ミル時ハ其運動ハ相當ノ効果アルモノト察セラル

一五九 四月二十六日 牧野外務大臣ヨリ
在桑港沼野總領事代理宛(電報)

外国人ノ土地所有ニ関スル日本法規ノ公表ニ付
回訓ノ件

第三一号

貴電第一〇八号ニ関シ

明治四十三年四月法律第五一号ヲ可然摘要ノ上公表セラル
ヘシ尚右施行ニ関シテハ未タ勅令ノ發布ニ至ラサルモ追テ
何等決定スヘキ旨附加ヘラルヘシ

註 前掲一四三文書

一六〇 四月二十六日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

國務長官加州出張中我館員ノ同地派遣ハ不可ナ
ル旨「モーア」氏談話ノ件

第一一〇号

往電第一〇五号ニ関シ四月二十六日「モーア」氏ト会見シ

一六二 四月二十八日 在桑港沼野總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

「ルーズヴェルト」氏ノ加州知事宛電報要領
報告ノ件

第一一二号

四月廿七日「コール」ハ「ルーズヴェルト」ノ知事宛電報
要領ナルモノヲ掲ケ加州々会ハ外国入土地所有ニ関スル合
衆國法律ノ制定ヲ要求スル國會宛建議ヲ為ス迄本問題ヲ延
期スベシ又加州々会ニ繫屬中ノ土地案ハ違憲ナルヘク他州
ニ於ケル同様ノ既制法律モ亦「テスト」セラルルニ於テハ
違憲判決ヲ受クルナラン又巴奈馬運河工事及防備未タ完成
セサル間ハ之ヲ破壊シ得ヘキ外國ヲ激発セサルヲ得策ナリ
トス戰爭ノ勝利ハ結局米國ニ歸スヘキモ其軍費莫大ナルヘ
シ云々尚知事ハ右ニ対シ固ク口ヲ緘シ一切ノ論議ヲ避ケ居
レリト云フ

大使ヘ電報ス

國務長官ニ於テ事務ノ都合上我方ヨリモ何人カラ「サク
メント」ニ出張セシメ置クコト便宜ト認メラルルニ於テハ
憚ンテ右機取計フヘキ旨申出デタルニ同氏ハ必要ヲ認メザ
ルノミナラス斯ノ如キハ却テ政友ノ誤解ヲ招クノ虞アリト
ノ趣旨ヲ以テ結局之ヲ可トセザル旨ヲ答ヘタリ依テ本件ハ
更ニ之ヲ必要トスル新事態ノ發生セザル限りハ此儘ト致シ
置クノ外ナシト思考ス

一六一 四月二十七日 在桑港沼野總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

在留日本人ノ行動ニ関シ注意シ置キタル件

第一一九号

貴電第二三三号ニ関シ本官ハ当地在留日本人ニ対シ屢次新聞
其ノ他ヲ利用シ此ノ際輕率妄動セサル様又米國人ト無用ノ
衝突ヲ来サ、ル様注意シ置キタル結果今日迄ノ所毫モ憂フ
ヘキ現象ナシ尚今後モ十分ノ注意ヲ怠ラサルヘシ

註 前掲一〇三文書

一六三 四月二十八日 在桑港沼野總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法案ノ成否ニ関スル「ローウェル」氏
及知事ノ觀測報告ノ件

第一二三号

四月二十五日博覽會社長ノ許ニ於テ土地案ノ成行ニ関シ
「ローウェル」ノ試ミタル觀測談ニ依レハ上院側ニ於テ目下
二種ノ法案ヲ起草シツ、アリ一ハ全然大統領ノ趣旨ニ反シ
歸化權ナキ外國人ナル字句ヲ用ヒタル「サンフォード」案
ニ近キモノニシテ他ハ日米條約第一條ノ字句ヲ其儘採用シ
歸化權ナキ外國人ハ同條ニ列記ノ權利ヲ有スト規定スルモ
ノニシテ(往電第一一六号参照)先ツ之ヲ「ブライアン」
氏ニ示シ協議スル所アリ多少ノ曲折ヲ經タル後恐ラク議會
ニ於ケル大論戰ニ移ルヘシ然レトモ兩案トモ僅少ノ差ニ
テ破レ遂ニ通過ニ至ラサルヘク又上院ニ廻附中ナル下院案
モ兎角スル内時日ヲ經過シ遂ニ議決セス閉會ニ至ルヘシト
ノコトナリ右果シテ事實ナレハ我ニ取り甚タ好都合ナルモ
其說ノ余リニ樂觀的ニシテ輕信シ難キニ付他ノ方面ヲ確メ
中ノ所廿七日「エリオット」(「ペントレ」)ノ紹介セル
我運動者)ガ知事ヨリ直接聞知シタル所ニ依レハ知事モ亦

土地案ノ成立ヲ信シ居ラス同案ノ将来ニ付テハ下院案ハ尚上院ヲ通過セサルヘカラス上院案ハ仮令上院ヲ通過スルモ更ニ下院ニ廻附サレザルヘカラス而シテ各案ニ付両院折衝ノ為時日ヲ空過シ遂ニ閉会ニ至ルヘシ云々ト述ヘタル趣ナリ彼此比較スルニ其落着点ニ於テ符節ヲ合スルモノアリ下院議長「ヤング」ノ所説ノ如キ之ト正反對ナル情報ナキニアラサルモ往電第一二二二号「ルーズヴェルト」氏勸告ノ次第モ有之右果シテ事実ナレハ陽ニ強硬ヲ装フハ党略ニシテ知事派ノ真意ハ上記ノ通りナルヤモ計リ難シ右未タ俄カニ信シ得ヘカラサルモ一説トシテ御参考迄ニ申進ス
大使ヘ電報ス

一六四 四月二十八日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

國務長官加州首都到着並加州議會両院協議会
開催ノ件

附記 四月二十九日沼野総領事代理宛牧野外務大臣
宛電報第一二二八号
同右件

第二二四号

「サクラメント」ヨリノ情報ニ依レハ今朝六時國務長官来

一六五 四月二十八日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州議會両院協議会ニ於テ國務長官演説ノ件

第二二五号

「サクラメント」情報ニ依レハ往電第一二四号秘密両院協議会ニ於テ國務長官ハ二時迄ノ長演説ヲ試ミ「デモクラット」党ハ亜細亞人排斥ヲ標榜シテ當選シタルヲ以テ斯ル土地案ヲ提出スルハ止ムヲ得サルヘシ然レトモ院内多数党タル革進党ハ斯ル標榜ノ下ニ選出セラレタルニアラサルニ付尠クトモ今期州会ニ於テ斯ル土地案ヲ制定スルハ明カニ民意ニ適ヘルモノト為スヲ得ス云々ノ趣旨ヲ述ヘ又万ニ斯ル土地案ヲ制定スルトセハ「イリノイス」州外国人士地所有法ノ如キモノヲ懲憑セリ四時再ヒ協議会ヲ開ク由
大使ヘ電報シタリ

一六六 四月二十八日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

桑港日本人会ハ國務長官ニ陳情ノ為「ジョンソン」牧師ヲ派スルコトシタル件

一 加州ノ外国人士地法案及日本政府ノ抗議關係 一六五

著知事ト会談後十一時頃ヨリ両院開会上院ニテハThompsonノ行政ニ関スル(特ニ立法ニ關係ナキ)コトヲ明言スル由上下両院協議会開催ノ動議成立下院ニテモ同様ノ動議成立直チニ下院ニ於テ両黨員協議会ニ移リ目下秘密協議中議員以外ノ傍聴ヲ許サス

註 右ニ関シ四月二十九日牧野外務大臣宛沼野総領事代理宛往電第三三三号ヲ以テ「貴電第一二四号全文意味不明ニ付取調ノ上再電アレ」ト電命シ之ニ對シ左掲附記ノ通り回電アリタリ

(附記)

四月二十九日在桑港沼野総領事代理宛牧野外務大臣宛電報

第二二八号

拙電第一二四号要領再電

「サクラメント」ヨリノ情報ニ依レハ今朝六時國務長官来著知事ト会談シタリ議會ニ於テハ國務長官ノ説明ヲ聴ク為両院 Joint Executive Meetingヲ開クヘキ動議成立國務長官ハ知事ト共二十一時半ヨリ之ニ臨ミ秘密會議中ナリ

第二二七号

往電第一一四号ニ関シ当地日本人会ニ於テハ最初牛島安孫子ヲ派遣スル豫定ナリシカ其ノ後我内偵ノ情報ニ依レハ日本人カ此ノ際國務長官ニ面会スルハ格別ノ利益ナク反ツテ議員政客等ノ猜忌ヲ招ク虞アルニ付全然之レヲ見合セ其ノ代リトシテ「ジョンソン」牧師ヲ派シ只日本人ノ実情ト公平ナル新聞紙ノ批評トヲ記載シタル小冊子ヲ國務長官ニ提出シ閱覽ヲ請フコトトセリ

一六七 四月二十八日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

米國上院民主党有力議員ノ加州問題ニ関スル
意見新聞紙報道ノ件

第一一三号

新聞ノ所報ニ拠レバ加州問題ニ對スル上院ニ於ケル民主党有力者ノ意見左ノ如シ

副大統領ハ州ガ中央政府ニ條約締結權ヲ譲リタルハ同時ニ其權利行使上必要ナル総テノモノヲ与ヘ自己ハ其行使ヲ妨ケサル自制ヲナシタルモノナルガ故ニ州ハ條約ニ反スル立

法権ナシトシ「オゴルマン」ハ立法者カ州ニ留保シタル權利ヲ犯スガ如キ條約ノ締結ニ協賛スルハ越権ナリト言ヒ「ミシシッピー」選出「バルダマン」ハ加州ハ法律及道德上自州民保護ノ責任ヲ有シ加州人ノ解決セントスル所ハ政治、商業以上ニ重大ナル根本問題ニシテ「アングロサクソン」人種ヲ純潔ニ保存スルノ意味ヲ含ムモノナリ故ニ東洋トノ全貿易ヲ失フガ如キハ之ニ比シテ殆ト論ズルニ足ラザル瑣事ナリトシ「ペーコン」ハ加州土地法ハ帰化権ナキ人民ニ適用スルニ限ラズ第一帰化證ヲ有セザルモノニ適用スル一般のモノトスベシト「ブライアン」氏ノ忠言ハ當ヲ得タルモノニシテ加州ハ其權利ヲ行使スルト同時ニ自己ノ權利ヲ害セザル限り国家ノ利益ヲ顧慮セザル可カラズトセリ又共和黨議員中「ルート」ハ日米條約ハ日本ニ農業用ノ為土地ヲ購買シ或ハ所有スル權利ヲ与ヘズトシ「ロッチ」モ之ト同一意見ニシテ日本人ノ益執拗トナルハ看過スベカラズトシ居ル由ナリ

一六九 四月二十九日

在桑港沼野總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

日本移民ノ真相ニ関スル特別寄稿「クロニクル」紙掲載ノ件

第二一九号

往電第一一七号ニ関シ「クロニクル」豫約ノ通り四月廿七日其第一頁全紙ニ亘リ日本移民ノ真相ニ関スル特別寄書ヲ掲ケタリ然レトモ其欄外ニ極メテ細字ナルモ Advertisment ナル文字ヲ挿入シアリテ本官ノ所期ニ反スル所アルニ付全然之ヲ同社自身ノ記事トシテ記載センコトヲ要求シタルニ先方ニテハ若シ当方希望ノ通り全然同社自身ノ記事トシテ記載スルニ於テハ裏面ニ何等醜關係アルモノト想像セラレ大ニ記事ノ価値ヲ損スヘキノミナラス為メニ同業者其他ノ反感ヲ挑発シ却テ面白カラサル結果ヲ来スヘク若シ又同社ノ記事トシテ他ノ反感疑惑ヲ招カサル程度ニ於テ記述スルトセハ遂ニ記事本来ノ目的ヲ達スル能ハサルヘク感スルニ付同社カスル記事寄書ヲ掲クル以上ハ其相当代価ヲ得タルモノナルコトハ世人カ想像ニ難カラサル所ナレハ寧ロ是等ノ危険ヲ避ケ公明ナル態度ヲ示ス為メ Advertisment ナル文字ヲ挿入シタルニ過キササルニ付了承アリタシ

一六八 四月二十八日 在米田珍大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州問題ニ関シ民主黨議員「シッソン」米国下院ニ於テ演説ノ件

第一一四号

「ミシシッピー」選出民主黨議員 Sisson ハ四月廿八日下院ニ於ケル関稅法案討議ノ際加州問題ニ論及シ一、州權ハ国体上最モ尊重スベキモノニシテ中央政府モ飽迄之カ擁護ニ任セサルヘカラサルコト
二、日米條約上米國ハ土地所有權ニ関スル義務ヲ有セサルコト
三、米國ノ土地ハ其國民ニ比シテ程度低キ日本人ノ如キ競争者ニ向テ解放セラル、ノ極メテ危険ナルコト
四、以上ノ事情ノ下ニアリテ吾人ハ日本ノ強硬ナル要求ニ屈從センヨリハ寧ロ戰ハントミトノ趣旨ニテ長時間ノ演説ヲナセリ

トテ縷々弁疏スルトコロアリ右ハ当初ノ了解ト異ナル所アルモ同社ノ申立ニモ一応尤モノ点アルノミナラス元來当方ノ目的ハ正確公平ナル材料ヲ挙ケ以テ在留日本人ノ実情ヲ明カニシ輿論ノ公平ナル判断ト同情ニ訴ヘントスルモノニシテ今回ノ計畫モ畢竟 Educational Campaign ノ第一歩ニ過キス此意味ヨリ云ヘハ上記方法ヲ以テ記述セシムルハ反對論者ノ反噬ヲ買フノ虞ナクシテ公正ナル我立場ヲ示シ米國公衆ニ事ノ真相ヲ理解セシムル機会ヲ与フルモノトシテ却テ有利ナルヤニ考ラル、ノミナラス此機ニ於テ有力ナル「クロニクル」ト密接ノ關係ヲ作り置クコトハ將來ノ為メ極メテ緊要ナルニ付此際同社ノ申立ヲ応諾スル代リニ必要ニ応シ相当掲載期日ヲ延長スルコトニ折合ハシメ且右ノ外不自然ナラサル方法ニ於テ別欄ニ純然タル新聞社自身ノ記事トシテ相当ナル親日的報道ヲ掲ケ及ヒ有力ナル特別寄書ヲ周旋掲載セシムルコトニ取計置キタルニ付右御承認アリタシ

尚日曜日及月曜日記事ノ内容ハ前電所述ノ通り攻撃の論鋒ヲ避ケ単ニ事実ノ真相ヲ極メテ巧ミニ記述シタルモノニシテ其結構配置等申分ナシ

一七〇 四月二十九日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
加州議會両院協議会ニ於テ知事等州権説主張

ノ件
第二三〇号

「サクラメント」情報ニ依レハ拙電第一二五号四時ヨリ開
会ノ両院「ジョイント、ミーチング」ハ七時迄継続シタル
ガ会議中知事ハ國務長官ノ説ニ反対シ州権説ヲ主張シテ下
ラス又下院議員「エモンス」ノ如キハ開戦ヲ賭シテモ此ノ
主張ヲ貫カント迄極論セリト云フ其結果國務長官ハ一応華
盛頓ト電報ニテ照会ノ上更ニ「ジョイント、ミーチング」
ヲ開クコト、ナレリ
大使ヘ電報ス

一七一 四月二十九日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
加州両院協議会ニ提議セル國務長官ノ四解決案

要領新聞報竝「ジョンソン」牧師ノ國務長官会
見ニ関スル件

一七二 四月二十九日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
國務長官ノ動静及日本側トノ接触ニ関スル件

第一三二号

國務長官ハ四月二十九日午前中ハ教会ニテ演説シタル外格
別ノコトナク経過シタリタ刻ニハ多分協議会開カルヘシト
伝ヘラル

四月三十日ニハ桑港ニ来リ大博覧会々社重役ト午餐ヲ共ニ
シ夫レヨリ「プレシデヲ」ニ於ケル閱兵式ニ臨ミ四時半頃
迄大博覧会敷地ヲ検閲ノ筈夜ハ大博覧会社主催「パブリッ
ク、パンケット」ニ出席ノ豫定ナリ日本人有志及本官等モ
出席ノ筈日本人代表者ハ多分同日五時ヨリ六時ノ間ニ於テ
陳情ノ機会ヲ与ヘラルベシ

一七三 四月二十九日 在米田珍田大使ヨリ
國務長官ノ加州両院協議会ニ提議セリト伝ヘラル

ルル解決案ニ付國務長官代理ト会谈ノ件
第一一五号

「プライアン」氏カ四月二十八日両院協議会ニ提議シタリ

第一三一号

四月二十八日國務長官カ土地案ニ関スル時局救済ノ為現在
ノ差別的法律制定ニ代フル目的ヲ以テ最後ニ至リ提議シタ
ル要領トシテ新聞紙ニ伝ヘラルモノ左ノ通

一、差当リ処置ヲ猶豫シ條約改正ニ依リ所期ノ目的ヲ達ス
ル様國務省ヲシテ日本ト交渉セシムルコト

二、外国土地所有ニ関シ調査委員ヲ任命シ将来本案解決
上大統領ト共同ノ步調ヲ取ルコト

三、「イリノイス」法律ノ如ク外国土地所有期間ヲ六年
トシ且外国人一般ニ適用スル法律ヲ制定スルコト

四、外国人一般ニ適用スルコトD、C、(「ヂストリクト、
オブ、コロムビア」)ヲ管轄スル合衆国法律ト同様ノ法律
ヲ制定スルコト

四月二十九日「ドクトル、ジョンソン」ハ「ドクトル、
ジョルダン」及副知事ノ紹介ヲ以テ國務長官ニ面会シ加州
日本人ノ地位ヲ弁明シ日本人会其他ニ於テ編述セル各種ノ
有利ナル印刷物ヲ贈呈セリ

ト伝ヘラルル四個解決案ニ付テハ在桑港総領事代理ヨリ電
報シタル筈ナルカ四月二十九日本使ハ國務長官代理「ムー
ア」氏ヲ訪ヒ右報道ノ真偽ヲ探リタルニ同官ハ明答ヲ避ク
ル状アリタルモ要スルニ其事実ヲ否認セス同官ノ口氣ニ依
リ察スルニ大体ニ於テ右報道ハ事実ナルカ如シ次ニ本使ハ
知事カ同協議会ノ席上「ワシントン」及「アリゾナ」兩州
ニ於テ歸化権ノ有無ニヨリ外国人ニ対スル土地所有権ノ
許否ヲ決スル法制アルヲ指摘シ此等法制ハ何等日本國政府
ヨリ抗議ヲ受ケタルコトナキヲ以テ見レハ加州ニ於テ同様
ノ法制ヲ設クルモ其自由ナルコトヲ論シ右ニ関シ國務長官
中央政府ニ回訓ヲ求メタル旨ノ新聞電報ニ言及シ「ワシ
ントン」及「アリゾナ」兩州ノ法制カ假令今回加州ノ採用セ
ントスル條款ト全然一致スルモノトスルモ右兩州ニアリテ
ハ最初ヨリ未タ日本人ニ土地所有権ヲ許シタルコトナク事
實ニ於テ我ト直接ノ利害關係ヲ生セサリシ故ニ今日迄抗議
セサリシ次第ニシテ之カ為日本國政府カ右法制ノ正当ナル
コトヲ承認シタル證據トナスヲ得ス若シ兩州ノ法制カ實際
ニ日本人ノ利権ヲ侵害スル具体的事実ヲ認ムルトキハ今日
又ハ今後ト雖抗議ヲ提出スルノ自由ヲ留保スルモノト了解
セラレタシト述ヘ尚「ワシントン」州ニ付テハ前期州会ニ

於テ日本人ニ対スル区別の待遇ヲ規定スル條款ヲ提出セラレタルモ中央政府ノ好意的尽力ニヨリ該規定ハ終ニ否決トナリ却テ市街地ニ於ケル日本人土地所有權ヲ認許スル法律ノ制定ヲ見ルニ至リタルコト又「アリゾナ」ニ付テハ昨年制定セラレタル外国入土地所有權法ハ今ヤ加州ノ採用セントスル所ト同一ナラス其全文ヲ通読スルトキハ帰化ノ意志ヲ表明セルト否トニ依リテ所有權ノ許否ヲ決スル趣意ナルカ如ク現ニ新聞紙ノ報スル所ニ依レハ墨西哥資本家等ハ此法制ニ満足セサル為モ帰化權ヲ有スル以上ハ帰化ノ意志ヲ表明スルト否トニ拘ラス所有權ヲ許スル様修正スル考案アルカ如ク見受ケラルルコトヲ指摘シ右新聞紙ノ報道及「アリゾナ」法制ヲ手交セル所「ムーア」氏ハ本使ノ所信ニ耳ヲ傾ケ自分ハ就任日浅キカ為全ク此等ノ事情ヲ知悉セス篤ト講究ヲ加フヘキ旨ヲ答ヘタリ將又本使ハ「プライアン」氏出発ノ際其不在中ハ本使ニ於テ大統領又ハ「ムーア」氏ト隨時面談スル様「プライアン」氏ノ注意アリタルコトヲ述ヘ目下中央議會ニ於テモ本問題ニ付物議騷然トシテ日本政府ノ友好的態度ヲ誤解スルモノアル実況ニ鑑ミ本使ヨリ此際公然ノ手続ヲ以テ大統領ニ謁見ヲ求ムルトキハ偶々世人ノ誤解ヲ深カラシムル所以ナルヲ顧慮ス

新聞ハ帝國政府及國民ノ態度ガ既ニ極端ニ達セルモノナルコトヲ頻リニ揚言シテ我ニ対スル米人ノ反感ヲ煽動シ以テ加州ニ対スル同情ヲ引カンコトヲ勗メ居ル次第ナレバ我ニ於テ聊カタリトモ彼等ニ好辭柄ヲ与フルガ如キコトアラバ益々其乘スル所トナリ遂ニハ一般ノ形勢ヲ轉シテ我ニ不利益トナラシムル虞ナキヲ保セス莫一斯ノ如キ情勢トナルニ至ラバ愈々問題ヲ紛糾セシメ中央当局者ヲシテ本件解決上一層困難ノ地位ニ陥ラシムベシ然ルニ本件落著迄ニハ尚形勢時々転化シテ行悩トナルコトアルヘシト思考スル処右ニ対スル本邦人一般ノ言動當国ニ於ケル反應極メテ「デリケート」ナルニ顧ミ此際本邦新聞論調其他一般民間ノ言動特ニ慎重ナラシムルコト甚タ緊要ト思考スルニ付勿論右ハ既ニ夫々御取締ノコトナルベキモ此上ニモ十分ノ御注意アラシムコトヲ切望ス

一七五 四月三十日 牧野外務大臣ヨリ
在桑港沼野總領事代理宛（電報）

加州両院協議會ノ議事内容詳細適確ニ
電報方ノ件

ルニ付何トカ内密非公式ニ大統領ニ謁見スルノ途ナキヤト問ヒタルニ「ムーア」氏ハ本日本使ノ開陳セル所ハ委細直ニ大統領ニ伝フヘシ尚將來ニ於ケル非正式謁見ノ件ハ熟考ノ上何分ノ確答ヲナスヘキ旨ヲ述ヘタリ右會談中本使ハ本案今後ノ形勢ニ関シ百方「ムーア」氏ノ見込ヲ探ランコトニ努メタルモ同官ハ慎重ノ態度ヲ持シ將來ノ見込ハ到底今ヨリ豫測スルコトヲ得スト云ヒ意見ヲ述フルコトヲ避ケタリ

一七四 四月二十九日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛（電報）

米國ニ於テ反日言論出現ノ傾向ニ鑑ミ本邦新聞
論調及一般民間ノ言動ニ付注意方進言ノ件

第一一七号

當國有力者間ニアリテモ往電第一一四号「シスソン」演說ノ如キ加州側ニ同情セル言論ヲ弄スル者最近多少出現セル傾向アリ右ハ主トシテ本件ニ関スル我ノ對米態度力如何ニモ強硬ヲ極メ既ニ穩當ノ程度ヲ超エタルモノナリトノ推定ニ基ケルガ如ク思考セラルル所「ハースト」氏一派ノ如キ

第三四号

廿八日ノ秘密協議會ノ模様ニ関シ貴電第一二五号、一三〇号、一三一号ニテ一応御報告アリタルモ右ニテハ尚詳細ト正確ヲ欠クノ感ナキ能ハス該秘密會及今後開カルヘキ同僚ノ會議ノ内容ヲ知ルハ極メテ緊要ノ義ニ付貴官ハ此上トモ適當ノ米國人ヲ利用シ出來得ル限り詳細適確ノ報道ヲ得迅速ニ電報方充分御尽力アリタシ

一七六 四月三十日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛（電報）

加州土地法案ニ関シ同州知事ノ真意内探方在桑
港總領事代理宛訓令ノ件

第一一八号

本官発在桑港總領事代理宛電信左ノ通
第五四号

排日案ノ運命ハ結局知事ノ態度ニヨリテ決セラルヘキ次第ナルカ同官ノ真意ハ今ニ判然セス貴電第一一九号ニ依レハ知事自ラ法案ノ通過ニ確信ヲ有セサルカ如ク果シテ然ラハ同官カ今日強硬ノ態度ヲ示スハ全ク党略上ノ駈引ニ止マル

モノナルヤニモ察セラルル所「ニューヨーク、タイムス」通信員ノ所報ニ依レハ四月二十八日秘密協議会ニ於テ「ブライアン」氏ノ演説ハ議員ヲ感動セシメ本件立法ノ適否ニ関シ新ニ審査委員会ヲ設ケテ同会ノ意見ヲ徴スルニ至ル迄処置ヲ延期スヘシト「ブライアン」氏ノ提案ニ対シ知事派議員中同意ヲ表スルモノアリタルヲ見テ知事ハ憤慨シ最モ強硬ナル意見ヲ述ヘタルカ為議會ノ大勢ハ知事ノ意見ニ傾キ法案ノ運命ハ茲ニ決セラルルニ至リタルカ如ク伝ヘラル此報道ニ徴スルトキハ知事ハ真実法案通過ニ熱心ナルヤニ察セラル就テハ貴官ハ知事ノ真意内探方御尽力ノ上其結果本省並ニ当館ニ隨時電報アリタシ

一七七 四月三十日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州新土地法案両院ヲ通過スメント革進黨員

揚言ノ件

別 電 同日在桑港沼野総領事代理發牧野外務大臣宛

第一三四号

右新土地法案原文要領

3. Any corporation whose majority members are aliens other than section 1 or majority issued capital stock owned by such aliens may acquire convey real property in manner extent purposes prescribed treaty existing between America countries such members stockholders belong not otherwise.

4 及 5 ハ没収及競売規定

6. Leasehold other interest real property less than fee hereafter acquired violating this act by aliens corporations of sections 2 3 shall escheat state.

7. Nothing this act construed limiting power California enact laws regarding real property.

8. All acts conflict herewith repealed.

Numano

一七八 四月三十日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州両院秘密協議会ノ結果新土地法案ハ「バー

ゾル」案ノ修正トシテ採用ニ決定ノ件

一 加州ノ外国人士地法案及日本政府ノ抗議關係 一七八 一七九

第一三三号

四月廿九日午後「サクラメント」情報ニ依レハ往電第一三二号午後ノ協議会ハ今夜ニ延期セラレタリ尚別電原文要領ノ如キ土地案新タニ起草セラレ且下 Boynton ノ手ニ入り上下両院ノ多数ハ此案ニ賛成ニテ「ブライアン」氏出立後直チニ両院ヲ通過知事ノ署名ヲ得ル見込アリト革進黨員ハ揚言シ居レリト云フ尚精探中

(別 電)

四月三十日在桑港沼野総領事代理發牧野外務大臣宛電報

加州新土地法案原文要領

第 134 号別電

検事総長 webb 修正案

Sections 1. Aliens eligible citizenship may acquire transmit inherit real property in same manner extent as citizens except otherwise provided by laws.

2. Aliens other than section 1 may acquire transfer real property in manner extent for purposes prescribed treaties existing between America country such aliens belong not otherwise.

第一三五号

四月二十九日午後十一時「サクラメント」情報ニ依レハ今夜秘密協議会ノ結果拙電一三四別電原文ヲ五月一日上院ニ於テ目下三読会繫屬中ナル「バアゾル」第五号案ノ修正トシテ採用スルニ決メタリ内探者ノ観測ニ依レハ右ハ「アドミニストレーション、ビル」ナレバ或ハ通過スルニ至ルヤモ難計ト

閉会ノ件ハ四月二十九日下院ノ議事ニ上ボリシモ何等決定ニ至ラサリシ
大使ハ電報ス

一七九 四月三十日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法案ニ関スル「クロニクル」紙掲載

記事ノ効果及右拡大ニ関スル件

第一三六号

往電第一二九号新聞記事ノ効果ニ関シテハ既電ノ通本計画ハ「エデュケーション、カンペーン」ノ第一歩ニシテ直ニ多大ノ風潮ヲ豫期シ難キ次第ナルモ差当リ右記事直接ノ効果ト認ムヘキモノ左ノ如シ

(一) 四月二十七日「クロニクル」ニ該記事頭ハルルヤ当地ニ於ケル多数ノ新聞雜誌ハ争ヒテ日本人会又ハ当館ニ來訪シ排日ノ愚ヲ罵詈シ自身ノ親日ナルヲ誇張シ同様ノ記事掲載ノ依頼ヲ受ケンコトヲ求メテ已マス依テ当館ニ於テハ「クロニクル」ノ記事ハ或ハ二三有志ノ計画ナルヘシトシテ彼等ヲシテ日本人会ニ赴カシメ同会ノ手ヨリ二三小口依頼ヲナスコトトシ四月二十九日ヨリハ「デーリー」「ジョーナル」「コムマース」「コール」其他ニモ同様ノ記事掲ケラル

(二) 各新聞論調ハ四月二十七日以来俄ニ著シク日本ニ順調ニナリタルヲ認ム現ニ「コール」「ポスト」其他一二雜誌ノ如キハ俄ニ親日ノ社説ヲ掲ケ社員ヲシテ之ヲ携帯來訪セシメ前記ノ提供ヲナサシメタル程ナリ即チ「エキザミナー」ヲ除キ桑港諸新聞ハ時局ノ最モ紛糾セル昨今ニ拘ラス事実報道以外排日論ヲナスモノナキニ至レリ右ハ排日熱力鬱クトモ当地新聞界ニ於テハ根柢極メテ薄弱ナルヲ示スモノニシテ此機ニ於テ之ヲ操縦スルトキハ案外小額ノ費用ヲ以テ多数新聞紙ノ論調ヲ一変シ得ヘキ様思ハルルニ付日本人会ヲ通シ之ヲ「ブレチン」「ポスト」其他

一八一 四月三十日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州両院協議会ノ審議情況報告ノ件

別 電 一 同日沼野総領事代理發牧野外務大臣宛電報
第一三九号 國務長官宛大統領回答
二 同右第一四〇号 「ウエップ」案ニ関スル
國務長官ノ意見
三 同右第一四一号 加州知事ノ声明

第一三八号

「サクラメント」ノ情報ニヨレハ四月二十九日夜協議会ニ於テ國務長官ハ「インエリジブル、シチズンシップ」ナル語ノ挿入ニ対スル大統領ノ回答(要領別電第一三九号)ヲ読上ゲ議員ノ反省ヲ促シ又拙電第一三四号「ウエップ」案ニ付同官賛否ノ意見ヲ問ハレタルニ同長官ハ別電第一四〇号ノ通要領ヲ答ヘタルカ結局知事派ハ毫モ反省ノ色ヲ示サス知事ハ拙電第一四一号要領ノ「ステートメント」發表セリ

大使ヘ一三〇ニテ電報ス

(別 電一)

四月三十日在桑港沼野総領事代理發牧野外務大臣宛電報第一三九号

ニモ試ミタキニ付三千弗至急電送アリタシ尚排日問題解決ノ為ニハ將來ニ於テモ其都度新聞操縦ノ為相當費額支出スヘキハ当国ノ事情ニ照ラシ当然且必要ノ義ト思考スルモ徒ラニ過大ノ費用ヲ投スルカ如キ惡例ヲ貽スハ甚タ不利益ニ付此点ニ付テハ特ニ注意シ居レリ

一八〇 四月三十日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州上院本會議ハ「ウエップ」案ヲ「バーゾル」案ノ修正トシテ採用ノ件

第一三七号

往電第一三五号秘密協議会終了後上院ハ直ニ本會議ヲ開キ數分間ニ全会一致ヲ以テ往電第一三四号「ウエップ」案「バーゾル」五号案ノ修正内容トシテ採用シ五月一日第三読会ニ附スル趣情報アリ

國務長官宛大統領回答

No. 139. Betsuden.

Can only say I can not assume representations heretofore made Governor legislature and which your presence Sacramento must necessarily have greatly emphasized will be disregarded so render necessary to consider that question.

Numano

(別 電二)

四月三十日在桑港沼野総領事代理發牧野外務大臣宛電報第一四〇号

「ウエップ」案ニ関スル國務長官ノ意見

No. 140. Betsuden.

President deems inadvisable sanction particular form legislation this or that emphasize Federal Government acting merely as friend wishing of service California in serious matter.

Numano

(別 電三)

四月三十日在桑港沼野総領事代理發牧野外務大臣宛電報第一四一号

加州知事ノ声明

No. 141.

Bryan conferences concluded. Respectful attention given him. Legislature desires to aid not embarrass national Government, still no sufficient reason presented for change policy. Law if enacted observe treaty not single out Japanese. Federal naturalization law be followed. Such enactment our legal moral right, not justly offensive discriminatory.

Numano

一八二 四月三十日

在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州排日土地法案ニ関連シ「クロニクル」紙

操縦方法説明ノ件

第一四二号

「クロニクル」トノ取極ハ既電ノ通ナルガ同新聞ハ四月二十九日三十日トモ当方指定ノ記事以外特ニ土地案反対ノ社説ヲ掲ゲ居レリ本官ハ往電第一三六号諸新聞ノ態度ニ顧シ

Sections 4. Whenever appears to court in pro-
bate proceeding that by this Act heir devisee can
not take real property, court instead ordering
distribution such real property to such heir devi-
see, shall order sale in manner provided by law,
and proceeds shall be distributed such heir devisee
in lien such real property.
5. Real property hereafter acquired in fee
violation this Act by alien corporation mentioned
section 2, 3 shall escheat. Provisions of sections
2, 3, 5 shall not apply to real property hereafter
acquired in enforcement or satisfaction of lien now
existing or interest in such property, so long as
such real property so acquired shall remain prop-
erty of aliens corporations acquiring same in
such manner.

Numano

註 右電報ハ五月一日午後二時十分外務省到着

将来ノ操縦方法ヲ講究スルノ好期ナルヲ認メ四月二十九日
「クロニクル」社長ノ来館ヲ求メ夫レトナク其意向ヲ探リ
タルニ先方ニテハ当方ノ希望ニ依リテハ引続キ操縦ニ従フ
ベキ存意ニテ其方法ニ就テモ申出ヅル所アリタリ尚記事ニ
「広告」ノ文字ヲ附スルコトハ昨年八月廿四日ヨリ施行セ
ラレタル合衆国法律規定ニ基クモノナリ惟フニ今回ノ如キ
公明ナル記事ヲ掲グル場合ニハ「広告」ナル文字ヲ附スル
モ其効果、体裁ニ於テ格別不利ナキノミナラズ同法制定以
来此形式ヲ以テ Political campaign ヲナスハ普通ノコト
ニシテ且斯ル記事ヲ掲グル新聞ハ其営利上顧客ノ意ヲ繫ク
為上述「クロニクル」ノ如ク別項ニ時々之ニ照応スル記事
論説ヲ掲グルカ又ハ尠クトモ之ニ反対スル記事ヲ差控フル
ヲ以テ其新聞ハ事実上依頼者ノ操縦ニ帰シタルモノト見ル
ヲ得ベシ

一八三 四月三十日

在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

「ウエップ」案第四條第五條ニ付追報ノ件

No. 143

若電第134号 web 添付

一八四 五月一日

牧野外務大臣ヨリ
在桑港沼野総領事代理宛(電報)

「ウエップ」案ノ内容疑義ニ付問合ノ件

第三五号

貴電第一三四号ハ「ウエップ」案ノ全部ナリヤ又本案第二
條、三條ニハ土地ノ賃借及其他ノ權利ニ関スル規定ナク第
六條ニ至テ本法ニ違反シテ土地ヲ賃借云々ノ規定アリ右ハ
本邦人ニハ條約ニ保障アルモノノ外借地権等ヲ一切許与セ
サル主意ト解釈サル、ガ右ニ相違ナキヤ回電アレ

註 右電報ハ五月一日午後一時二十分發送

一八五 五月一日

牧野外務大臣ヨリ
在米田珍田大使宛(電報)

「ウエップ」案中條約違反ノ諸点指摘ノ件

第九三号

沼野領事ヨリ閣下ヘ電報アリタル筈ナル「ウエップ」修正
案ニ対シ條約ノ根本主義精神ニ悖反ストノ議論ノ外條約違
反ノ点左ノ如シ

(第一) 法案第一條ニ於テ帰化権アル外国人ニハ不動産ノ
相続権ヲモ許シナガラ第二條ニ於テ帰化権ナキ外国人ニ

ハ相続權ヲ認メズ随テ現ニ日本人ノ所有スル不動産ハ其子ヲシテ相続セシムル能ハス尚ホ第四條ノ遺産処分ニ關スル規定モアリ明カニ既得權ノ侵害ニシテ條約第一條第三項ニ抵触ス

而シテ右様ノ地所ニ建テラレタル家屋ハ事実上之カ所有ヲ繼續スル能ハサルヲ以テ此点ニ關シテモ亦同敷既得權ノ侵害ナリトイハサルヘカラス

(第二) 本案ハ其第二條及第三條ニ於テ不動産賃借ノ点ヲ毫モ規定セズ第六條ニ於テ突然此法律ニ逆テ不動産ノ賃借云々ト規定シ居リ大体ニ於テ賃借ノ問題ニ關シテハ規定不十分ナルモ若シ此規定ノ精神ニシテ不動産所有ノ場合ト同シク賃借其他土地ニ關スル權利ノ場合ニ於テモ帰化權ナキ外国人ニハ其權利ノ相続ヲ認メサルモノトセハ日本人カ現ニ賃借シ居ル地所ニ關シテハ直チニ既得權ノ侵害トナルノミナラス将来ニ亘リテモ居住又ハ商業用ノ賃借地所ニ關シ條約上ノ權利ヲ侵スモノニシテ條約第一條第一項ニ違反スルモノナリ而シテ又右様ノ地所ノ上ニ建築セラレタル家屋ノ關係前段第一ノ場合ニ同シ

(第三) 法案第三條ニ關シ將來会社ノ或特別ノ場合(假令ハ解散等)ニ於テ会社ガ從前ヨリ所有セル地所ヲ株主ニ

一八七 五月一日 在桑港沼野總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

「ウェニップ」案ノ疑点ニ付回報ノ件

第一四四号

貴電第三五号ニ關シ

(一) 往電第一四三号「ウェニップ」案第四條第五條中重要ト認メタルモノヲ追報シタル次第ナリ

(二) 原文ニハ第一條第二條第三條トモ real property ナル語ノ後ニハ何レモ or any interest therein トアリ右ニ拠レハ土地賃借及其ノ他ノ權利ヲ認メザルニアラス然レトモ第二條第三條ニヨレハ本邦人ニハ條約ノ保障アル權利ノミヲ享有セシムルヲ主意トスルモノト解釈セラ

一八八 五月一日 在桑港沼野總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州知事ノ声明要領電報ノ件

第一四五号

四月三十日夜知事ノ發表シタル「ステートメント」要領左ノ通り

分配セントスルニ際シ法案第四條ノ精神ニヨリ帰化權ナキ外国人タル株主ハ地所ノ分配ヲ受クル能ハサルヘシ是レ亦タ既得權ノ侵害ナリ右等地所ニ建テラレタル家屋ノ關係亦前ニ同ジ

本法案ニ關シテハ尚ホ多少沼野領事ヘ問合中ノ廉アルモ右ノ点不取敢申進ズ

一八六 五月一日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法案ノ議事見合及國務長官ノ動靜ニ

關スル件

第二二〇号

五月一日「フード」ノ内報ニ依レハ本日ハ「ブライアン」氏「フロリン」地方巡視ノ為州会ニ於テモ土地案ノ議事ヲ見合ハスコトニ決定セル趣又同人ガ「ブライアン」氏秘書官ヨリ内聞セル所ニ依レバ「ブライアン」氏ハ其夫人ガ当地ニ於テ病氣ニ罹リタルガ為何等新事態ノ發生セサル限り五月一日ニ帰華ノ途ニ就ク豫定ナル旨同秘書官宛來電アリタル由

Is substantially true Japanese Chinese ineligibility citizenship keynote of Webb Bill. If Courts determine them eligible, Act become inoperative. Heretofore Japanese ineligible under clear language federal statutes. Terms of Bill general in character, following federal law.

Numano

一八九 五月一日 在桑港沼野總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州上院土地法案議事延期ノ件

No. 146.

Report from Sacramento. In Senate further action land bill postponed until eleven to-morrow morning. Senator Curtin introduced resolution to delay all action until federal Government arranges ownership question by diplomacy. Resolution sent to federal relations committee. Secretary Bryan Governor Johnson visited Florin this morning.

Numano

一九〇 五月一日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

博覧会主催晩餐会及國務長官ノ動静ニ付

報告ノ件

第一四七号

四月三十日國務長官ハ往電第一三二号「プログラム」ノ通
七時半大博主催晩餐会ニ臨席席上社長「モーア」知事代理
「ローウェル」市長「ロルフ」前市長「フヘルプ」等ノ演
説アリ何レモ「エキスポジション」ノ見地ヨリ東西兩洋世
界萬邦ノ協賛ヲ熱望シタルニ止マリ一語モ國務長官ノ使命
又ハ土地案ニ言及セシモノナシ長官ノ演説モ主トシテ前記
ノ趣旨ニ則リ日本支那ノ急速ナル進歩ニ論及シタルコトア
ルノミニテ他ニハ特記スヘキコトナシ長官ハ同夜十二時
「サクラメント」ニ向ケ出發五月一日早朝知事同伴「フロ
リン」地方日本人状態ヲ視察シタリ

一九一 五月二日 在桑港沼野総領事代理宛(電報)
「ウェップ」案ノ全文電報方ニ關スル件

第三七号

新聞報ニシテ著シキ誤ナシトスレバ知事ノ意向ニモ多少変
化アリタルモノ、如ク左スレハ本案ハ通過スルモノト思ハ
レ自分ノ豫想の中セサリシヲ遺憾トス尤モ再ヒ知事ト面会
ノ上ナラサレバ萬事斷言シ難シ云々
又四月三十日本官在米日本人會長牛島ヲ帶同シテ「フェア
モント」ニ於テ國務長官ニ敬意ヲ表シタル際同長官ハ牛島
ニ對シ日本農民土地所有ノ概況ニ付種々質問シ又日本人部
落中ニハ私生児ノ多数ナルヲ聞知シタリトノ言ニ對シ牛島
ハ逐一応答シ最後ニ携帶シタル英文加州日本移民実況ヲ記
載シタル印刷物ヲ呈シ長官ノ閲覽ヲ請ヒタリ告別ノ際長官
ハ加州州会ノ行動ヨリ日本人ノ被ムルヘキ影響ヲ「ミニマ
イズ」セント努メツ、アル誠意ヲ諒トセラレタリト語ラレ
タリ對話中博覧会社長同席シタリ
大使ハ往電第一三七号ヲ以テ報告ス

一九三 五月二日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

米國大統領及加州知事間往復電報公表ノ件

第一四九号

五月一日大統領ハ知事宛左記要領ノ電報ヲ發シ其ノ注意ヲ
喚記シタルニ

貴電第一四四号ニ關シ

貴電一三四号及一四三号ハ「ウェップ」案ノ全部ナリヤ尚
ホ該法案中貴電ニ於テ省略セラレタル字句ヲ各條ニツキ残
ラズ電報アレ

一九二 五月二日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法案ノ成行ニ關スル「ローウェル」氏
ノ觀測並國務長官ト在米日本人會長トノ對話模
樣報告ノ件

第一四八号

四月三十日桑港「フェアモント」ニ於ケル國務長官歡迎晚
餐会ニ知事代理トシテ來桑セル「ローウェル」ニ就キ往電
第一二三号同氏ノ觀測豫想ニ關シ再ヒ意見ヲ求メタルニ同
氏ハ第一回協議会(拙電第二二五号)ハ勿論第二回協議会
ノ前半迄ハ自身豫想ノ如ク經過シ革新黨員中ニモ國務長官
ノ忠告ヲ容レントスルモノ鮮カラザリシカ第二回協議会ノ
後半ニ於テ知事ガ激越ナル州權説ヲ主張シタル為議員等
ハ再ヒ騎虎ノ勢ニ驅ラル、ニ至リタルモノニシテ自分ハ其
後未タ知事ト直接此点ニ付意見ヲ交換スル機会ナカリシモ

Webb bill would involve appeal courts relative
treaty rights. Perhaps long delicate litigation.

知事ハ直ニ要領左ノ如キ返電ヲ發セリ

Thank your suggestion. Bill endeavours pre-
serve affirmatively existing treaty. Matter refer-
red Attorney General Ask President for sugges-
tions avoiding objection you mention.

右往復電報ハ知事ノ「ロムメント」ヲ附シ公表セラレタリ
「ロムメント」ノ要領左ノ通

After consulting Attorney General unable find
language not ultimately subject President's objec-
tion. Any bill passed would rigidly endeavour
from our standpoint preserve existing treaty
obligations and national good faith.

一九四 五月二日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

「ウェップ」案成行ニ關シ國務長官代理ト会谈
ノ件

第一二二号

「ウェップ」案ニ關シ中央当局者ハ「ブライアン」使命ノ

多少効果アリタルモノト思考シ居ルカ如キ新聞記事アリタルニヨリ五月一日國務長官代理ト会見シ該案ノ実質ハ区別の待遇ヲ益々顯著ナラシムルモノナルコトヲ切言シ我ニ於テ到底同意シ難キ旨ヲ言明シ置キタリ本使ハ更ニ最近國務長官ヨリ大統領宛電報中形勢有望ナリトアリタル趣ナル新聞記事ニ関シ質問シタルニ同官ハ該電報ヲ接受シタルコトハ事実ナルモ右ハ議會(?)ノ形勢ニ対スル見込ナリヤ又ハ何等他ノ事項ニ関スルモノナリヤ何分電文簡單ニシテ其真意ヲ解シ兼ね居ル次第ナル趣答ヘタリ右ニ対シ本使ハ自分一己ノ觀察トシテハ是迄知事一派ニ於テハ中央政府ノ緩和策ニ対シ法案ヲ益々峻酷ノモノト改メタル事蹟ニ徴スレハ本件ヲ以テ全然党争上ノ問題トナシ責任ヲ中央政府ニ転嫁シ以テ実現ノ党利ヲ占ムルノ用ニ供セントスルニアラスヤト思考セラルル所若シ果シテ然ラハ中央政府ニ於テ国交ノ重大ナル鑑ミ今一步ヲ進メテ干渉ヲ加ヘナバ或ハ満足ナル解決ヲ見ルヘキヤト思考スルニ付中央政府ニ於テ右様ノ措置ニ出テラルルノ途ナキヤト申出タルニ同官ハ頻リニ州権關係上干渉不可能ヲ説明シタルニ付本使ハ「ルーズベルト」氏ノ先例ヲ引キタルニ同官ハ「ルーズベルト」氏時代ニ於テ日本側ヨリ一ノ退讓ヲ得タルコトハ問題解決

別の待遇ヲナスノ件同地議會ノ問題トナリ居ル趣ノ新聞記事ニ関シ國務長官代理ノ注意ヲ惹キ若シ事実ナルニ於テハ我ヨリ中央政府ニ対シ相当手段ヲ執ルノ要アルヘキ旨述べタルニ同官ニ於テハ本件ハ未タ何等承知スルトコロナキニ付直チニ問合ノ上何分ノ義通報シ呉ルルコトニ約束シタリ

一九五 五月二日 在桑港沼野總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

「ブラッドグード」土地法案加州下院ニ提出ノ

件

第二五〇号

五月一日午後「プログレッシブ」「ブラッドグード」ヨリ第二千百十九号土地案下院ニ提出セラレ第一読会ヲ通過シタリ今週中ニハ第二読会ニ上ル見込其内容ハ別電第一五二号セクシヨン二及三ノ末段ニ左記ノ字句ヲ如ヘタルモノナリト委細一五二ニテ報告ス

May in addition thereto lease lands in this state for agricultural purposes for a term not exceeding three years.

上頗ル有効ナリシ次第ナルカ今回行政部ノ執レル方法ハ其用語ニ於テコソ「ルーズベルト」氏ノ如ク過激ナラサレトモ態々國務長官ヲ出張セシムル等其實質ニ於テハ「ルーズベルト」氏及「タフト」氏以上ノ手段ニ出テ既ニ一種ノ干渉ヲ加ヘツ、アル義ナレハ若シ本件ニシテ全然党争問題ナルニ於テハ最早解決ヲ了シタル筈ナリト弁明シタルヲ以テ本使ハ新聞ニテ承知スルトコロニ依レハ國務長官ノ加州側ニ対スル態度ハ恰カモ一ノ相談役ノ如キニ止マリ極メテ円滑ナル結果知事一派ヲシテ責任ヲ転嫁スルノ機会ヲ捕フルニ由ナカシムルニアラスヤト述べタルニ同官ハ新聞紙ノ報スル所ニ依レハ如何ニモ右ノ通ナリト雖事実ハ之ニ反シ知事其他有力者ニ対シ充分説得ヲ試ミタル次第ニシテ之ヲ要スルニ行政部ハ既ニ出来得ル限り尽力ナシツ、アルニ不拘末タ其効果ヲ奏スルコト能ハス又国体上此以上ノ干渉ヲ為スノ権能ヲ有セス從テ本件結局ノ成行ニ就テハ未タ何等見据ヲ付クルコト能ハストノ趣旨ヲ申述ヘタリ本日会谈ノ概要右ノ通ニシテ今後局面ノ展開ナキ限りハ目下ノ処中央当局者ヲシテ更ニ加州側ニ対シ施サシムヘキ何等別個ノ手段無之ニ付遺憾ナガラ暫ク形勢ヲ觀望スルノ外ナシト思考ス尚又此頃「アラスカ」ニ於ケル漁業ニ関シ日本人ニ区

一九六 五月二日 在桑港沼野總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

「ウェップ」案全文回電ノ件

附 記 沼野總領事代理發牧野外務大臣宛電報(一)

(一)(三)

「ウェップ」案中ノ或ル句読点確認ノ件

第一五一号

貴電第三七号ニ関シ

不要ノ冠詞ヲ除キタル「ウェップ」案全文左ノ通り

Amended Senate Bill.

Section 1. All aliens eligible to citizenship under laws of United States may acquire, possess, enjoy, transmit and inherit real property or any interest therein in this State, in same manner and to same extent as citizens of United States, except as otherwise provided by laws of this State.

Section 2. All aliens other than those mentioned in Section 1 of this Act may acquire, possess, enjoy and transfer real property or any interest therein in this State in manner and to extent and for purposes prescribed by any treaty now existing between Government of United States and

nation or country of which such alien is citizen or subject and not otherwise.

Section 3. Any company, association or corporation organized under laws of this or any other State or nation of which majority of member are aliens other than those specified in Section 1 of this Act or in which majority of issued capital stock is owned by such aliens may acquire, possess, enjoy and convey real property or any interest therein in this State in manner and to extent and for purposes prescribed by any treaty now existing between Government of United States and nation or country of which such members or stockholders are citizens or subjects and not otherwise.

Section 4. Whenever it appears to court in any probate proceeding that by reason of provisions of this Act any heir or devisee can not take real property in this State which but for said provisions said heir or devisee would take as such court instead of ordering distribution of such real property to such heir or devisee shall order sale of said real property to be made in manner provided by law for probate sales of real property

real property less than fee hereafter acquired in violation of provisions of this Act by any alien mentioned in Section 2 of this Act or by any company, association or corporation mentioned in Section 3 of this Act shall escheat to State of California. Attorney General shall institute proceedings to have such escheat adjudged and enforced as provided in Section 5 of this Act. In such proceedings court shall determine and adjudge value of such leasehold or other interest in such real property and enter judgment for State for amount thereof together with costs thereupon. Court shall order sale of real property covered by such leasehold or other interest in manner provided by Section 1271 of Code of Civil Procedure. Out of proceeds arising from such sale amount of judgment rendered for State shall be paid into State Treasury and balance shall be deposited with and distributed by court in accordance with interest of parties therein.

Section 7. Nothing in this Act shall be construed as limitation upon power of State to enact laws with respect to acquisition, holding or dis-

and proceeds of such sale shall be distributed to such heir or devisee in lieu of such real property.

Section 5. Any real property hereafter acquired in fee in violation of provisions of this Act by any alien mentioned in Section 2 of this Act or by any company, association or corporation mentioned in Section 3 of this Act shall escheat to and become and remain property of State of California. Attorney General shall institute proceedings to have escheat of such real property adjudged and enforced in manner provided by Section 474 of Political Code Title 8 Part 3 of Code of Civil Procedure. Upon entry of final judgment in such proceedings, title to such real property shall pass to State of California. Provision of this Section and of Sections 2 and 3 of this Act shall not apply to any real property hereafter acquired in enforcement or in satisfaction of any alien now existing upon or interest in such property, so long as such real property so acquired shall remain property of alien company, association or corporation acquiring same in such manner.

Section 6. Any leasehold or other interest in posal by aliens of real property in this State.

Section 8. All acts and parts of acts inconsistent or in conflict with provisions of this Act are hereby repealed.

Numano

(附記)

在桑港沼野総領事代理発牧野外務大臣宛電報(一)(一)(三)

「ハニャン」案中ノ或ル句読点確認ノ件

(一)

五月十九日沼野総領事代理発電

第一八九号

往電第一五一号「ウニャン」案 Section five alien company ノ間ニ「コンマ」ノ有無ニ関シ本案ニ関スル州会ノ印刷物中之ヲ具備スルモノト然ラザルモノトアリシメ多少ノ疑アリシモ今回入手シタル enrolled bill (知事ニ提出サレタルモノニテ法律ノ原本トナル)ニヨリ其「コンマ」ナキヲ確メタリ念ノ為

(二)

五月二十四日沼野総領事代理発電

第二〇一号

「ハニャン」案 Section 5 末段 alien と company トノ

間ノ Comma ニ関シテハ曩ニ入手シタル Enrolled Bill
ニ依リ Comma ナキモノ正確ナル旨往電第一八九号報告
ノ通ナルガ今回知事署名後 State Secretary ノ印刷頒布
スル Copy ニ依レハ明カニ右二字ノ間ニ Comma アリ再
ヒ執レガ真ナルヤ不明ニ付最終ノ正確ヲ期スル為メ直接
State Secretary ニ問合せノ電信ヲ発シタリ不日回答ニ接
シ次第電報スヘキモ右不取敢大使済

(三)

五月二十九日沼野総領事代理発電

第二〇六号

拙電第二〇一号

Secretary of State ヨリ移牒ノ結果

Secretary of Senate answered May twenty-
ninth. Comma should appear between word alien
and company, etc.

一九七 五月二日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州上院ニ於テ「ウェップ」案ニ借地規定追加
ノ件

一九九 五月二日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州上院ニ於テ土地法案ニ関スル議決ヲ猶豫ス
ベントスル決議案否決ノ件

第一五四号

「サクラメント」情報

五月二日午後二時開会セラレタル上院ニ於テ民主党議員
Curtin ヨリ(提出ノ)土地案ハ外交手段ニヨリテ解決ス
ル為 Action ヲ猶豫スベシトノ resolution ハ同氏力長時
間ニ亘ル演説ヲ試ミタルニモ拘ハラズ十対二十六ニテ否決
セラレ六時半散会シタリ猶八時ヨリ議事再開「ウェップ」
案最終ノ裁決アルベシト豫期セラル

二〇〇 五月三日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

「ウェップ」案加州上院通過ノ件

No. 155

Webb land bill passed Senate one o'clock Satur-
day morning by 35 against 2. Only one Democrat

一 加州ノ外国入土地法案及日本政府ノ抗議關係

一九九

二〇〇 二〇一

一五三

第一五二号

上院ニ於テハ「ウェップ」案ニ対シ下院「ブラッドグー
ド」案中借地ニ関スル規定ト同一ノ規定ヲ追加スルノ動議
五月二日午前「プログレシブ」議員「ボイントン」ヨリ
提出十三対二十五ノ多数ヲ以テ採用セラル是レニテ上院
「ウェップ」案ハ下院「ブラッドグード」案ト同一トナレ
リ尚午後二時ヨリ右修正ヲ加ヘタル案ノ全体ニツキ討議ノ
筈又「ブラッドグード」案ハ五月二日午前后院第二議會ヲ
通過セリ

一九八 五月二日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

土地法案決定迄國務長官加州滞在ノ件
第一五三号

新聞紙ノ報スル所ニ依レハ國務長官ハ土地案ノ決定ヲ見ル
迄「サクラメント」ニ滞在スヘシト云フ

and one Taft Republican voted against bill.

Numano

二〇一 五月三日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛

加州土地法案送付ノ件

附屬書一 加州下院議員「ブラッドグード」氏提出ノ
土地法案

二 加州上院議員「バーゾール」氏提出ノ土地
法案

附記 加州土地法要領

公第一一九号 (五月二十二日接受)

大正二年五月三日

在桑港

総領事代理 沼野安太郎(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

拙電第一五〇号下院 Bloodgood 案及同第一五一号 Bird-
sall 案(所謂 Webb 案ノ事ナリ)各式通茲ニ及御送付候
間御査閲相成度此段申進候 敬具

(附屬書1)

加州上院議員「ヘンリックソン」氏提出ノ土地
法案

ASSEMBLY BILL

No. 2119

INTRODUCED BY MR. BLOODGOOD,

May 1, 1913.

Referred to Committee on Judiciary.

AN ACT

Relating to the Rights, Powers and Disabilities of Aliens and of Certain Companies, Associations and Corporations With Respect to Property in This State, Providing for Escheats in Certain Cases, Prescribing the Procedure Therein, and Repealing All Acts or Parts of Acts Inconsistent or in Conflict Herewith.

The people of the State of California do enact as follows:

Section 1. All aliens eligible to citizenship under the laws of the United States may acquire, possess, enjoy, transmit and inherit real

state, in the manner and to the extent and for the purposes prescribed by any treaty now existing between the Government of the United States and the nation or country of which such members or stockholders are citizens or subjects, and not otherwise, and may in addition thereto lease lands in this state for agricultural purposes for a term not exceeding three years.

Sec. 4. Whenever it appears to the court in any probate proceeding that by reason of the provisions of this act any heir or devisee can not take real property in this state which, but for said provisions, said heir or devisee would take as such, the court, instead of ordering a distribution of such real property to such heir or devisee, shall order a sale of said real property to be made in the manner provided by law for probate sales of real property, and the proceeds of such sale shall be distributed to such heir or devisee in lieu of such real property.

Sec. 5. Any real property hereafter acquired in fee in violation of the provisions of this act by any alien mentioned in section two

property, or any interest therein, in this state, in the same manner and to the same extent as citizens of the United States, except as otherwise provided by the laws of this state.

Sec. 2. All aliens other than those mentioned in section one of this act may acquire, possess, enjoy and transfer real property, or any interest therein, in this state, in the manner and to the extent and for the purposes prescribed by any treaty now existing between the Government of the United States and the nation or country of which such alien is a citizen or subject, and not otherwise, and may in addition thereto lease lands in this state for agricultural purposes for a term not exceeding three years.

Sec. 3. Any company, association or corporation organized under the laws of this or any other state or nation, of which a majority of the members are aliens other than those specified in section one of this act, or in which a majority of the issued capital stock is owned by such aliens, may acquire, possess, enjoy and convey real property, or any interest therein, in this

of this act, or by any company, association or corporation mentioned in section three of this act, shall escheat to, and become and remain the property of the State of California. The attorney general shall institute proceedings to have the escheat of such real property adjudged and enforced in the manner provided by section 474 of the political code and title eight, part three of the code of civil procedure. Upon the entry of final judgment in such proceedings, the title to such real property shall pass to the State of California. The provisions of this section and of sections two and three of this act shall not apply to any real property hereafter acquired in the enforcement or in satisfaction of any lien now existing upon, or interest in such property, so long as such real property so acquired shall remain the property of the alien company, association or corporation acquiring the same in such manner.

Sec. 6. Any leasehold or other interest in real property less than the fee, hereafter acquired in violation of the provisions of this act

by any alien mentioned in section two of this act, or by any company, association or corporation mentioned in section three of this act, shall escheat to the State of California. The attorney general shall institute proceedings to have such escheat adjudged and enforced as provided in section five of this act. In such proceedings the court shall determine and adjudge the value of such leasehold, or other interest in such real property, and enter judgment for the state for the amount thereof together with costs. Thereupon the court shall order a sale of the real property covered by such leasehold, or other interest, in the manner provided by section 1271 of the code of civil procedure. Out of the proceeds arising from such sale, the amount of the judgment rendered for the state shall be paid into the state treasury and the balance shall be deposited with and distributed by the court in accordance with the interest of the parties therein.

Sec. 7. Nothing in this act shall be construed as a limitation upon the power of the

Cases, Prescribing the Procedure Therein, and Repealing All Acts or Parts of Acts Inconsistent or in Conflict Herewith.

The people of the State of California do enact as follows:

Section 1. All aliens eligible to citizenship under the laws of the United States may acquire, possess, enjoy, transmit and inherit real property, or any interest therein, in this state, in the same manner and to the same extent as the citizens of the United States, except as otherwise provided by the laws of this state.

Sec. 2. All aliens other than those mentioned in section one of this act may acquire, possess, enjoy and transfer real property, or any interest therein, in this state, in the manner and to the extent and for the purposes prescribed by any treaty now existing between the Government of the United States and the nation or country of which such alien is a citizen or subject, and not otherwise.

Sec. 3. Any company, association or corporation organized under the laws of this or any

state to enact laws with respect to the acquisition, holding or disposal by aliens of real property in this state.

Sec. 8. All acts and parts of acts inconsistent, or in conflict with the provisions of this act, are hereby repealed.

(附圖解1)

加州土地議員「バーナム」氏提出ノ土地放棄

Amended in Senate April 29, 1913.

Amended in Senate April 21, 1913.

SENATE BILL No. 5

INTRODUCED BY SENATOR BIRDSALL,

January 13, 1913.

Referred to Committee on Judiciary.

AN ACT

Relating to the Rights, Powers and Disabilities of Aliens and of Certain Companies, Associations and Corporations With Respect to Property in This State, Providing for Escheats in Certain

other state or nation, of which a majority of the members are aliens other than those specified in section one of this act, or in which a majority of the issued capital stock is owned by such aliens, may acquire, possess, enjoy and convey real property, or any interest therein, in this state, in the manner and to the extent and for the purposes prescribed by any treaty now existing between the Government of the United States and the nation or country of which such members or stockholders are citizens or subjects, and not otherwise.

Sec. 4. Whenever it appears to the court in any probate proceeding that by reason of the provisions of this act any heir or devisee cannot take real property in this state which, but for said provisions, said heir or devisee would take as such, the court, instead of ordering a distribution of such real property to such heir or devisee, shall order a sale of said real property to be made in the manner provided by law for probate sales of real property, and the proceeds of such sale shall be distributed to such

heir or devisee in lieu of such real property.

Sec. 5. Any real property hereafter acquired in fee in violation of the provisions of this act by any alien mentioned in section two of this act, or by any company, association or corporation mentioned in section three of this act, shall escheat to, and become and remain the property of the State of California. The attorney general shall institute proceedings to have the escheat of such real property adjudged and enforced in the manner provided by section 474 of the political code and title eight, part three of the code of civil procedure. Upon the entry of final judgment in such proceedings, the title to such real property shall pass to the State of California. The provisions of this section and of sections two and three of this act shall not apply to any real property hereafter acquired in the enforcement or in satisfaction of any lien now existing upon, or interest in such property, so long as such real property so acquired shall remain the property of the alien company, association or corporation acquiring

and distributed by the court in accordance with the interest of the parties therein.

Sec. 7. Nothing in this act shall be construed as a limitation upon the power of the state to enact laws with respect to the acquisition, holding or disposal by aliens of real property in this state.

Sec. 8. All acts and parts of acts inconsistent, or in conflict with the provisions of this act, are hereby repealed.

(附記)

加州土地法要領

(外務省作成)

第一條 合衆國法ニ依リ合衆國市民タルヲ得ル外國人ハ州法ニ他ノ規定無キ限リ市民ト同一ノ方法並ニ範圍ヲ以テ不動産若クハ不動産上ノ權利ヲ取得、所有、使用、讓渡及相続ヲ為スコトヲ得

第二條 第一條ノ種類ニ屬セザル外國人ハ合衆國並ニ当該外國人本國間ニ締結セラレタル條約ニ依ル方法範圍目的ヲ以テノミ不動産若クハ不動産上ノ權利ヲ取得保有使用及讓渡スルコトヲ得但シ三箇年ヲ超エザル期間ナルニ於テハ農業用ノ目的ヲ以テ土地ヲ賃借スルコトヲ得

the same in such manner.

Sec. 6. Any leasehold or other interest in real property less than the fee, hereafter acquired in violation of the provisions of this act by any alien mentioned in section two of this act, or by any company, association or corporation mentioned in section three of this act, shall escheat to the State of California. The attorney general shall institute proceedings to have such escheat adjudged and enforced as provided in section five of this act. In such proceedings the court shall determine and adjudge the value of such leasehold, or other interest in such real property, and enter judgment for the state for the amount thereof together with costs. Thereupon the court shall order a sale of the real property covered by such leasehold, or other interest, in the manner provided by section 1271 of the code of civil procedure. Out of the proceeds arising from such sale, the amount of the judgment rendered for the state shall be paid into the state treasury and the balance shall be deposited with

第三條 會員ノ多数ガ第一條ノ種類ニ屬セザル外國人ナル団体並ニ株式ノ過半ガ此ノ種外國人ノ所有ニ係ル会社ハ其内國法人タルト外國法人タルトヲ問ハズ合衆國並ニ当該會員株主本國間ニ締結セラレタル條約ニ依ル方法範圍目的ヲ以テノミ不動産若クハ不動産上ノ權利ヲ取得保有使用及讓渡スルコトヲ得但シ三箇年ヲ超エザル期間ナルニ於テハ農業用ノ目的ヲ以テ土地ヲ賃借スルコトヲ得

第四條 遺言執行ノ手続中裁判所ニ於テ当該相続人及受遺者ハ本法ニ依リ不動産ヲ取得スルヲ得ザルモノナリト認メタルトキハ裁判所ハ該不動産ヲ相続人受遺者ニ分配セシメズ不動産遺産処分売払ニ關スル法規ノ定ムル手続ニ依リ売払ヲ命スベク而シテ其売払代価ハ相続人受遺者ニ分配セラルベシ

第五條 第二條第三條ノ外國人、会社若クハ団体ニシテ本法ノ規定ニ反シ今後不動産ノ所有權ヲ取得シタルトキハ該不動産ハ沒收セラレ州ノ所有ニ帰屬スベク檢事総長ハ沒收ニ關スル法規ノ定ムルトコロニ依リ之ヲ処分スルノ手続ヲ執ルヘシ

第二條第三條及本條ノ規定ハ不動産上ノ既存担保權ヲ

行使スルノ結果今後取得セラルベキ不動産若クハ該不動産上ノ權利ニ対シ該不動産ガ前記外國人会社若クハ団体ノ所有ニ屬スル限り適用セラレズ

第六條 第二條及第三條ニ掲ゲラレタル外國人会社若クハ団体ガ今後本法ノ規定ニ反シ不動産賃借權若クハ所有權ニアラザル不動産ニ關スル權利ヲ取得シタルトキハ州ニ没収セラルベシ檢事總長ハ第五條ニ定ムルガ如ク没収ニ關スル法規ニ依リ手續ヲ踐ムベシ而シテ裁判所ハ先ヅ當該賃借權及其他ノ權利ノ價格ヲ判定シ而シテ後當該不動産ノ売却ヲ命ズベク売却代価中ヨリ前記州有ニ歸スベキ判定額ヲ控除シ殘額ハ利害關係者ニ分配セラルベシ

第七條 外國人ニヨリ州内不動産ノ取得、保有及処分セラ、場合ニ關スル本州ノ法律制定權ハ本法ニヨリ制限セラルベキモノニ非ズ

第八條 本法ノ規定ニ抵触スル法規ハ總テ之ヲ廢ス

1101 五月三日 在桑港沼野總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州上院通過ノ「ウェップ」案下院ニ回附ノ件
第一五六号

「サクラメント」情報往電第一五五号上院ノ通過シタル

見込無キ迄モ一応修正ヲ試ミタルモノト認メラル修正動議第一ハ「タフト、レバブリカン、ライト」提出「イリノイス」立法ノ例ニ倣ハントスルモノニシテ五對二十九ニテ破レタリ修正動議第二ハ「デモクラット、サンフォルド」提出借地期間三年ヲ一年ニ改メントスルモノニテ十一對二十三ヲ以テ否決、動議第三「デモクラット、カミネッチ」提出

After one lease another could not be made to alien until six years elapsed 右ハ十對二十五ニテ破レ動議第四「カミネッチ」提出帰化權ナキ外國人ハ其本国ニ於テ帰化權アル外國人ニ對シ「カリフォルニア」ノ許与サルルト同様ノ土地ニ關スル權利ヲ米國臣民ニ認ムル場合ヲ除キ第二條第三條ノ規定ニ依ルト改メントスルモノナリシカ一對三十六ニテ破レタリ動議第五ハ「デモクラット、シャナハン」提出帰化權ナキ外國人ニ對スル借地期間ヲ三年以上ニ

繼續延長スヘカラストセントスルモノニテ九對二十三ニテ破ラル最后ニ「ウェップ」案ハ往電第一五二号前段ノ修正ヲ經タル儘ノ形ニ於テ三十五對二ノ大多數ニテ上院ヲ通過セリ即チ民主黨ハ結局勝算ナキヲ見テ「カートライト」ノ外悉ク同案ニ賛成スルニ至リシモノニテ反對者ハ「ライト」「カートライト」ノ二名ノミナリ國務長官ハ終始傍聴

「ウェップ」案ハ五月三日朝直ニ下院ニ回附サレ下院ニテハ第一第二議會ヲ省略特別日程ニ依リ同日午後一時半ヨリ第三議會ニ附セラル、趣右不取敢報告ス

1103 五月三日 在桑港沼野總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州上院ニ於ケル「ウェップ」案討議狀況報告
ノ件

第一五七号

五月二日ヨリ五月三日午前一時ニ亘ル討議ノ結果「ウェップ」案ハ遂ニ上院ヲ通過スルニ至リタル次第ハ往電第一五四号及ヒ第一五五号ヲ以テ不取敢報告置キタルモ尚五月二日午後八時以後討議ノ詳細左ノ通り

当夜傍聴席ハ殆ント満員ノ姿ニテ論戰長時間ニ亘リ激烈ヲ極ム右討論ニ加ハリタルモノハ主トシテ民主黨議員ニシテ知事及ヒ革進黨員ノ態度ヲ攻撃シタルカ革進黨議員ハ一般ニ沈黙ヲ守リ討議ニ加ハリシモノ「ポイントン」「トンプソン」等二三名アルノミ討論中五種ノ修正動議提出セラレ何レモ少數ニテ否決右等動議ハ國務長官ノ意見ヲ「エンボデー」シタルモノニテ中央行政部ノ立場ヨリスレハ通過ノ席ニアリシモ採決前二時間退席シタリ

1104 五月三日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法案同州議會通過後米國政府ニ抗議ノ提出時機及内容ニ關シ請訓ノ件

第一一四号

「ウェップ」案カ多少ノ修正ヲ加ヘラレタル上大多數ヲ以テ上院通過ノコトハ沼野往電ニテ御承知ノ通りナルカ今日ノ形勢ヨリ推セハ各方面ノ尽力直チニ其効ナク該案ノ容易ニ下院ヲ通過スヘキコトハ最早何等疑ヲ容レサル次第ト思考セラル、所本件ノ如キ重大ノ事件ニ關シ直チニ帝國政府ノ趣旨ヲ貫徹シ難キ形勢ニ陥リタルハ甚タ遺憾ニシテ本使ノ慚愧ニ堪ヘサル所ナリ然ルニ該案ニシテ憲法律トナリタル際ニ処スヘキ善後策ニ關シテハ本使モ種々考量中ニシテ右ハ重ニ其節ニ於ケル行政部ノ態度ニ鑑ミ案ヲ要スル義ナルニ付篤ト其態度ヲ見極メタル上追テ請訓スル所有之ヘキモ差當リ該案下院通過後我ヨリ抗議ヲ提出スヘキ時機ニ關シテハ通過ノ際直チニ之ヲ提出スルモ之カ為知事ノ態度ヲ動カス見込ナキハ明瞭ナル所國務長官ノ帰華ヲ待チテ

提出スルコト、スレハ同官カ今回其使命ヲ果スコト能ハサ
リシ心情ニ鑑ミ幾分我ニ有利ノ感想ヲ以テ迎ヘラル、ノ利
益アルヤモ計リ難ク且右ノ手段ヲ執ルニ於テモ我抗議提出
前知事ニ於テ署名ヲ為スカキコトナカルヘク其間相当ノ
余裕アルヘキハ往電第六〇号末段ノ通りナルヲ以テ今後特
ニ急速提出ヲ必要トスル事態發生セサル限り右様取計フヘ
キニ付御了承アリタシ又抗議ノ内容ニ関シテハ往電第七
六号末段声明ノ件ハ当時接手シ居リタル知事ノ態度ニ関ス
ル報道ニ顧ミ知事ヲシテ成ルヘク其立場ヲ容易ナラシメン
為我ヨリ特ニ口実ヲ提供セントスル趣旨ニ外ナラサリシト
雖モ知事ノ態度既ニ明確ニシテ最早之ヲ動カス望絶無トナ
リタル今日ニ於テハ何等ノ用ヲ為サ、ルノミナラス中央政
府ニ対スル談判上格別利益ナク寧ロ不得策ナリト思考スル
ヲ以テ今回ノ抗議中ヨリハ之ヲ取除クヘキニ付併セテ御了
承アリタシ尚又條約論ニ関スル抗議ノ内容ハ通過案ノ内容
如何ニ依リ当然改更ヲ要スル義ナル所請訓ノ暇ナキニ於テ
ハ便宜本使限リ添削ヲ加ヘテ提出シタキニ付是亦豫メ御承
認アリタシ

々御苦心心中ノコト、承知シ居ル次第ナルガ右ハ同官ノ声言
シ居ルトコロニヨレハ殆ト何等ノ疑ヲ容ル、余地ナキカ如
キモ知事ハ果シテ最後ニ於テ其声言ノ趣意ニヨリ断行スル
ノ真意ナルヘキヤ貴官精査ノ結果確メラレタル所電報アレ
又國務長官カ本案ノ運命若ハ知事ノ態度ニ関シ其後何等特
殊ノ行動ヲ取り居ルコトアラハ併テ電報セラルヘシ

二〇七 五月 四 日 在桑港沼野總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法案ニ関シ同州両院協議会ニ於ケル国
務長官ノ演說要旨報告ノ件

No. 159. Bryan addressing Saturday afternoon
open joint session two Houses, Governor present,
said in part: Words eligible citizenship sub-
stituted for ineligible are clearly discriminatory
objectionable, Japan property rights described in
bills defined in treaty. This may lead irritating
protracted law suit. Although unable secure
President's answer owing absence, I suggested

二〇五 五月 三日 在桑港沼野總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州下院ニ土地法案ノ議決猶豫案提出並國務長
官ノ行動ニ関スル件

第一五八号

「サクラメント」情報五月三日午後二時開会サレタル下院
ニ於テハ五月二日上院ニ於テ「カルテン」ガ提出シタルト
同様ニ土地案ノ決定ハ之ヲ中央政府ノ外交手段ニ依ルコト
トシ当面ノ「アクシヨン」ヲ猶豫セントスルノ「レゾリュ
ーション」「デモクラット」「シーラア」ヨリ提出セラレタ
リ又國務長官ハ午後三時再ヒ両院協議会ヲ要求シ之ニ出席
シテ本案ノ通過ハ国交上重大ナル結果ヲ生スベキヲ説述セ
ル文書ヲ朗読シ両院ノ反省ヲ求メタルモ其効顯著ナラス国
務長官ハ午後五時半同地發東帰ノ筈

二〇六 五月 四 日 牧野外務大臣ヨリ
在桑港沼野總領事代理宛(電報)

加州土地法案ニ関スル同州知事ノ真意及國務長
官ノ行動探報方訓令ノ件

第三八号

排日案ニ関スル知事ノ真意確メ方ニシキテハ貴官ニ於テ種

time limit upon bill reducing unfavourable in-
fluence to minimum, for instance limit operation
for two even four years giving opportunity for
diplomatic effort with hope that situation im-
proving render reenactment unnecessary, am au-
thorized suggest instead of words eligible ineli-
gible, line be drawn between those whose land
ownership right defined by treaty and those not so
defined, former allowed own land according treaty,
latter allowed on same terms as citizens. Presi-
dent prefers however if consistent your views
defer all actions until diplomatic means employed.
While recognizing State responsibility emphasize
international relations interests responsibility. If
you decide enact land bill at this time, people
California may pass judgment upon your action by
referendum. Having performed duty represent-
ing President I leave for Washington etc.

Numano

二〇八 五月 四日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

「ウェップ」案加州議會下院通過ノ件

No. 160. Webb land bill passed Assembly eleven
thirty Saturday night by seventy two against
three. Only two Taft Republicans and one Demo-
crat voted against bill.

委細後報

Numano

二〇九 五月 四日 牧野外務大臣ヨリ
在米田珍田大使宛(電報)

加州知事ノ土地法案署名時期確メ方訓令ノ件

第九六号

貴電第一一四号ニ関シ排日案兩院通過後知事ノ署名迄ニ相
当ノ期間ヲ与ヘラルヘキ儀ニ関シテハ豫テ十分閣下ト國務
長官ノ間ニ打合済ノ次第ナルモ知事昨今ノ氣勢ニ鑑ミルニ
自然通過後法案ヲ形式的ニ中央政府ニ示スノミニテ事実上
咄嗟ニ署名スル如キコトハナキヤト憂慮ナキ能ハスツイテ

二一一 五月 四日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法案成立ニ関スル同州知事ノ声明報告
ノ件

No. 161

Substance Governor's Statement.

We accomplished big thing. Prevented Japa-
nese driving root their civilization into California
soil. Hasn't been inch recession by Senate or
administration. Three years leasing clause done
in interests our people give time to adjust their
affairs. Big thing California set out to do done
without swerving. I resent imputations backing
down with situation because of influence what-
soever. In presentations by Wilson. Bryan not
world concerning leases. Attitude national admin-
istration not made known on this phase of ques-
tion. Bill heretofore introduced contained leasing
provisions from one to fifteen years. First time
California standing firm for one right we mean
have it.

Numano

ハ閣下ハ國務長官代理ニ会见シ為念右ノ点今一応御確メ置
キアリタシ

二一〇 五月 四日 在米田珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州知事ノ土地法案署名時期ニ関スル件

第一二六号

貴電第九六号ノ件ハ過日國務長官代理ト会谈ノ際本使ヨリ
曩ニ國務長官ト打合ノ次第ニ言及シタル処同官ニ於テハ更
ニ承知スル所ナカリシニ付委シク其顛末ヲ説明シテ萬一ノ
錯誤ナカラシコトヲ要望シ置キタルコトアリ然ルニ其後新
聞所報加州知事ノ言明中ニモ知事ハ署名前確定案ヲ大統領
ニ送り若シ異議アルニ於テハ其申出ヲ為スニ相当ナル期間
ノ猶豫ヲ与フヘキヲ大統領及國務長官ニ約束シタリトアル
ニ見ルモ本件ハ既ニ中央政府ヨリ(一語不明)打合済ミト
思考セラルルモ尚為念月曜日御訓令ノ通り取計フベシ

二一二 五月 四日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

「ウェップ」案加州下院通過ノ概況報告ノ件

第一六二号

五月三日「ウェップ」案通過ノ概況左ノ通

当日下院ニテハ憲法ノ規定ヲ臨時停止シ同日内ニ第一第二
第三読會ヲ行フコトナリ午後早々開會ト共ニ第一第二読
會ヲ了ハリ(前電読會省略トアルハ誤)直チニ第三読會ニ
入り民主党ヨリハ決議又ハ修正ノ動議ヲ出シ議事ノ進行ヲ
妨ケントシ知事派ハ只管之ガ否決ニ努メ相当論議アリタル
コト前日ノ上院ト同シカリシモ前日程ノ感興ナク議事中両
院聯合會議アリ國務長官ノ告別辭アリタルモ本案通過ノ大
勢ハ夙ニ定マリテ動かズ午後六時一度休會ヲ宣シ八時ヨリ
再ヒ討論ヲ続ケ十一時半ニ至リ採決ノ結果ハ既電ノ如シ尚
当日ノ議事中排日的及「ウォアライク」ノ議論殊ニ著シカ
リキ

二一三 五月 四日 在米国外務大臣宛(電報)
加州土地法案ニ対スル「レフェレンダム」提起

運動ニ関シ査報方沼野総領事代理ニ訓令ノ件
第二二七号

在桑港沼野総領事代理ヘ

第六三三号

新聞紙ノ報スル所ニヨレハ博覧会々社及加州各地商業団体ニ於テハ土地案ニ対シ「レフェレンダム」提起運動ヲナサントスルモノノ如ク又貴地方日本人各種団体ニ於テモ加州一般人民ニ訴フル措置ヲ執レル趣ナルカ貴電第一五二号國務長官演説中ノ「レフェレンダム」ニ対スル議員側ノ意嚮ト共ニ是等ノ報道ニ関スル事実及其形勢御取調ノ上本件ノ「レフェレンダム」ニ関シ果シテ規定数ノ署名者ヲ得ラルル見込ノ有無ニ関スル貴官ノ御意見併セテ本省及当方ヘ電報相成リタシ

二一四 五月 四日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

土地法案兩院通過後ニ於ケル知事ノ署名問題ニ
付報告ノ件

第一六三三号

貴電第三八号知事ノ真意ニ関シテハ往電第一四八号前段ヲ以テ「ローウェル」ノ所見ニ応報告シ置キタルカ其後牛島ノ依頼ニヨリ「ウェップ」案ニ対シ借地規定挿入運動ノ為「サクラメント」ニ赴キタル川下地方運動者中知事ト最モ親交アリ且次期知事候補者ニ擬セラレツツアリトノ評アル「ウエインストック」ノ女婿カ知事ニ面会ノ節借地規定ニ関シ知事ノ援助ヲ得ヘキコトヲ確メ得タル所更ニ進ンテ該案兩院通過後知事署名如何ヲ質問シタルニ知事ハ州会通过ノ上ハ之ニ署名スヘシト答ヘタリトノコトナリ蓋シ知事ノ真意ヲ推測スルニ最初ハ貴電第二二二号御来示ノ通該案ノ成否ニ関シ左迄熱心ナラサリシモ往電第一〇六号ヲ以テ報告ノ如キ形勢ノ変化ニ乗シ之ヲ党争ノ具ニ供セントスル勢ヲ馴致シ爾來知事ハ國務長官「サクラメント」出張ノ頃ヨリ滞在中ニ涉リ累次強硬ノ「ステートメント」ヲ發表シ又兩院協議会ニ於テモ往電第一三〇号及第一四八号ノ如キ激烈ナル主張ヲ為シタルノミナラス更ニ五月三日往電第一六一号原文要領「ステートメント」ヲ發表シタル今日知事ニ於テ当初ノ所説ヲ翻スカ如キ行動ニ出ツルハ余程重大ナル新事由發生スルカ又ハ州会ニ於ケル賛否匹敵シテ民意ノ帰嚮

後段ニ関シテハ國務長官ハ前電告別演説ノ後帰東ノ途ニ就キタリ

二一五 五月 四日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

桑港労働組合「ウェップ」案是認決議及知事署名猶豫ニ関スル「ロール」紙記事ニ付報告ノ件

No. 164

1. Resolution San Francisco Labor Council:
Resolved we endorse Webb land bill. Further
heartily commend Governor Johnson's courageous
stand upholding California right legislation dignity.

2. Governor Johnson said: I assured Bryan
when bill comes me will wait reasonable time for
his protests. Unable say how long President and
Bryan wish submit bill Tokio Government before
signing. That be done by cable fifteen minutes.
Expect not objections from President.

Numano

分明ヲ缺クカ如キ場合ナラサルヘカラス然ルニ州会ニ於テハ舊ニ上院ノミナラス下院ニ於テモ殆ント全院一致ヲ以テ該案ヲ通過シタル有様ニテ知事ノ立場トシテ此際「ウエイト」スルカ如キハ自己ノ政事の生命ヲ断滅スルモノナルヲ自覺セルナルヘク現ニ往電第一六四号(一)ニ示シタル五月二日桑港労働組合ノ知事頌徳ノ決議ヲ見ルモ労働派ニ対スル知事ノ立場益々本案ニ対シ強硬ナラザルヲ得ザルヲ示スニ足ルモノアリ前段「ウエインストック」ノ女婿ノ語レル所ハ蓋シ的確ナル知事ノ態度ヲ示スモノト見ルヲ得ベシ更ニ「サクラメント」派遣館員安孫子、米国人運動者等ヨリノ情報ヲ綜合スルニ知事ノ署名ハ只時期ノ問題ニシテ殆ント疑ヲ挾ムヘキ余地ナシトスルニ一致ス又署名ノ時期ニ関シテハ往電第一六四号(一)要領ノ如キ「サクラメント」通信五月三日「コール」ニ發表セラレタルアリ往電第一二三号樂觀説ハ今ニ至リ之ヲ見レハ知事ノ真意ヲ以テ其態度ヲ計ルニ出テタル誤謬ト云フノ外ナク本官トシテハ知事ノ真意ハ仮令今尚該案其モノニハ熱心ナラストモ州会今日ノ形勢ニ鑑ミ中央政府ノ干渉其他重大ナル事由アルニアラサルハ知事ノ署名ハ殆ント疑ヲ容レスト思考ス尚貴電第三〇号

二一六 五月 五日 牧野外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛(電報)

加州土地法ニ対シ米國法廷ニ訴訟提起ノ手續時

機方法等査報方訓令ノ件

第九七号

排日案愈々法律トナリタル場合ノ善後策ニ就テハ種々考慮中ニシテ追テ米國政府トモ協議ヲ遂クル必要アルヘキ処第一條約違反ヲ理由トシテ之ヲ公平ナル仲裁裁判ニ付スルノ案ハ暫ク別問題トシテ第二之ヲ米國法廷ニ訴フルノ案ニ付目下当方ニ於テ考究中ナルカ右第二ノ方法ニ関シテハ一日本人ヨリ「テスト、ケース」ヲ合衆國地方裁判所ニ提起スル外合衆國政府ヨリ同様ノ訴訟ヲ提起シ得ルノ方便モ有之ヘク寧ロ合衆國政府ヨリ提起スル方實際ニ便宜多カルヘキ様認メラレ之カ為メニハ合衆國政府ノ同情アル幫助ヲ受クル事諸事好都合ナルヘク現ニ先年學童問題ノ場合ニ於テ合衆國政府ニテ「テスト、ケース」ヲ提起シタル事モアリタルニ付今後ノ方針ヲ決定スルカ為メ豫メ右訴訟提起ノ手續、時機、方法等ヲ承知シ置ク事極メテ必要ナリ就テハ貴官ニ於テ至急此等ノ点ニ関シ十分ノ研究ヲ遂ケラレ必要ナレハ専門家ヲシテ取調ヲナサシメ結果可成速ニ電報セラル

借ノ点ニ関シテモ夫々規定スルトコロアリ帰化權ナキ外人ニ対シテハ右賃借權ノ相續ヲ許サザルコト明瞭トナリタルニ付前記九三号往電中第二項ニ必要ノ修正ヲ加フルト同時ニ更ニ閣下御參考ノ為メ第四項ノ論點ヲ加ヘタリ依テ右第二項及第四項ヲ別電第九九号ヲ以テ送附ス

註 牧野外務大臣宛珍田大使宛往電第九三号ニ付テハ前掲一八五文書參看

(別電)

五月五日牧野外務大臣宛珍田大使宛電報

「ウェップ」案ノ條約違反點追加

第九九号

(第二) 本案ハ帰化權ナキ外人ニ対シ不動産賃借權并ニ不動産ニ関スル所有權以外各種ノ權利ノ相續權ヲ附与セス随テ日本人カ現ニ賃借シ居ル地所及ヒ其上ニ在ル建物ニ関シテハ直ニ既得權ノ侵害トナルノミナラス将来ニ亘リテモ住居又ハ商業用賃借地所ノ相續ニ関シ條約上ノ權利ヲ侵スモノニシテ條約第一條第一項及第三項ニ違反スルモノナリ而シテ如此地所ノ上ニ建テラレタル建築物ノ條約關係亦同シ

(第四) 本案ハ帰化權ナキ外人ハ単ニ現行條約ノ規定

一 加州ノ外国土地法案及日本政府ノ抗議關係 二二七

ヘシ尚又当方ノ調査ニヨレハ訴訟ヲ提起シ裁判所ヨリ「インジャンクション」ノ命令ヲ發スルニ於テハ實際關係法律ノ施行ヲ停止セラルル事トナリ「テスト、ケース」審理中ハ同様ノ位置ニ在ル他ノ日本人ハ一々訴訟ヲ提起セスシテ依然現状ノ儘其位置ヲ妨ケラルル事ナキ様承知シ居ルカ此辺モ亦確實ナル調査ヲ遂ケラレ其結果電報アレ右ハ今後政府ノ採ルヘキ方針ヲ決定スルニ当リ心得置クヘキ必要事項ニ付其御含ヲ以テ取調ヲ急カレタシ尚桑港總領事ニモ本電ヲ転電シ同地ニ於テモ必要ノ調査ヲナサシメ其結果電報セシメラルヘシ

二一七 五月 五日 牧野外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛(電報)

「ウェップ」案ノ條約違反點追加ニ関スル件

別電 同日牧野外務大臣宛珍田大使宛電報第九九号
右「ウェップ」案ノ條約違反點追加

第九八号

往電第九三号ニ関シ其後沼野領事ヨリ「ウェップ」案ノ全部電報アリ之ニヨレハ其第二條三條共 *real property* ノ次ニ *or any interest therein* ナル字句アリ随テ不動産賃

ニ依テノミ不動産ニ関スル權利ヲ享有スルコトヲ得ルノ規定ナルガ國際間ニ於テハ双方ノ間ニ何等ノ敵意アルコトナク依然極テ親善ナル關係ニアリナガラ唯關稅其他ノ問題ニ関スル意見ノ不合致ヨリ無條約國トナルノ実例決シテ乏シカラス日米兩國ノ關係ニ於テモ現行條約ノ期限ニ至リ又ハ何時ニテモ来リ得ヘキ六ヶ月ノ豫告ヲ以テスル終了期ニ於テ萬一米國又ハ日本ノ都合ニヨリ一時無條約關係トナル如キコトアラハ其瞬間ニ於テ本邦人ハ不動産ニ関シ獲得シ得ヘキ總テノ權利ヲ失フコト、ナルヘシ即チ歐洲人ハ條約ノ有無ニ拘ラス不動産ニ関シテハ米國人同様常ニ完全ナル權利ヲ有スルニ拘ラス日本人ハ單ニ現行條約ノ存続スル期間ノミ僅ニ其條約ノ許ス範圍内ニ於テ或權利ヲ享有スルコトヲ得苟モ其條約ニシテ終了スルニ於テハ全然何物ヲモ与ヘラレザルコト、ナルベク要スルニ日本人ハ歐洲人ニ比シ極テ不安ノ地位ニ置カル、モノニシテ此ノ如キハ只ニ日本人ニ対シ区别的待遇ヲナス等ノ議論ニ非ズシテ根底ニ於テ日本人ヲ無視スルモノナリト云ハザルベカラズ是本案中断シテ看過スベカラザル点ナリトス尤モ本案中農業用地所ノ賃借ヲ許スノ点ハ本項議論ノ除外タルヘキコト勿論ナリ

二一八 五月 五日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

「ウェップ」案ハ知事之ガ接受後十日間ヲ経過

スレバ知事ノ署名ナクトモ法律トナル件

第一六六号

州会閉会期ハ未定ナルモ了ノ議案極メテ多数ナレハ多分
本月十七日以後ナルヘシトノコトナリ「ウェップ」案ハ
五日朝下院ヨリ上院ニ回附サレ今明日中ニハ上院ヨリ更ニ
知事ニ差出サルル由ナレハ若シ州会カ前記ノ如ク継続ノ場
合ニハ知事ハ中央政府ノ沙汰ヲ俟チ相当ノ期間其署名ヲ猶
豫スヘシト云フモ(往電第一六四号参照)当州憲法第四章
第十六條ニヨリ同案ハ知事カ之ヲ接受後十日ヲ経過
(Sundays excepted) スレバ知事ノ署名ナシトモ法律トナ
ル次第ナリ云々

註 加州憲法第四章(案)第十六條(節)ノ規定左ノ通

Article IV Legislative Department

*Bills to Be Presented to Governor—Veto—Pro-
cedure*

Section. 16. Every bill which may have passed

to one or more items, while approving other por-
tions of the bill. In such case he shall append to
the bill at the time of signing it, a statement of
the items to which he objects, and the reasons
therefor, and the appropriation so objected to shall
not take effect unless passed over the Governor's
veto, as hereinbefore provided. If the Legisla-
ture be in session, the Governor shall transmit
to the house in which the bill originated a copy
of such statement, and the items so objected to
shall be separately reconsidered in the same man-
ner as bills which have been disapproved by the
Governor.

(Amendment adopted November 3, 1908)

二一九 五月 六日 牧野外務大臣ヨリ
元田通信大臣宛

米国加州排日の立法又ハ支那問題等ニ関シ本邦
及外国間来往電報取締ニ関スル件

機密送第二五号

米国加州議會ニ於ケル排日の立法事件又ハ支那問題其他ニ
関連シ国交上不利ノ影響ヲ豫防スル為メ本邦ト外国間来往

一 加州ノ外国入土地法案及日本政府ノ抗議關係 二一九 二二〇

the Legislature shall, before it becomes a law, be
presented to the Governor. If he approves it,
he shall sign it; but if not, he shall return it, with
his objections, to the house in which it originated,
which shall enter such objections upon the Journal
and proceed to reconsider it. If after such recon-
sideration, it again pass both houses, by yeas and
nays, two-thirds of the members elected to each
house voting therefor, it shall become a law,
notwithstanding the Governor's objections. If any
bill shall not be returned within 10 days after it
shall have been presented to him (Sundays ex-
cepted), the same shall become a law in like man-
ner as if he had signed it, unless the Legislature,
by adjournment, prevents such return, in which
case it shall not become a law, unless the Governor,
within 30 days after such adjournment (Sundays
excepted), shall sign and deposit the same in the
office of the Secretary of State, in which case it
shall become a law in like manner as if it had
been signed by him before adjournment. If any
bill presented to the Governor contains several
items of appropriation of money, he may object

ノ電報殊ニ新聞電報ニ対シ取締ヲ加フルノ必要有之候様被
認候ニ付該事件等ニ関スル電報ニシテ公安国交ニ害アルモ
ノ、人心ヲ挑発スル恐アルモノ又ハ徒ニ事実ヲ捏造シタル
モノ等ニ対シテハ法規ノ許ス範圍内ニ於テ之ガ通信又ハ送
達ヲ停止シ又ハ不都合ノ字句ハ之ヲ改竄削除セラレ候様致
度尚右等ノ処分ヲ執ラレタル電報ノ内容ハ其都度直ニ御回
示相成候様致度此段及照会候也

追テ該事件等ニ関シ本邦ヨリ外国へ通信セル新聞電報写
ハ從來其都度配布ヲ受ケ居候処右ハ今後共成ルヘク迅速
ニ御配付相成候様致度此段申添候

二二〇 五月 六日 在米国外務大臣宛(電報)
加州議會通過ノ土地法案ヲ米国政府ヨリ送付

越ノ件

第一二九号
國務長官代理ハ五月五日附半公信ニ加州議會ヲ通過シタル
土地法案全文ニ付大統領ノ接手セル電報ヲ添付シ最近会
談ノ際ニ於ケル約束ニ從テ茲ニ之ヲ送付ストノ趣旨ノミヲ
単簡ニ申越シタリ

二二二 五月 六 日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法案ニ対スル抗議書案ニ付請訓ノ件

別 電 同日珍田大使宛牧野外務大臣宛電報第一三二
号

右抗議書案

第一三〇号

往電第一二四号ニ関シ法案ニ対スル異議ノ理由ニ付テハ
「貴電ノ趣旨ヲ体シ」之ニ二三ノ論点ヲ附加シ別電第一三
一号覚書ノ形式ヲ以テ申入ル、コト、致シタク右ハ「ブラ
イアン」氏帰京(五月八日ノ豫定)ヲ待シテ提出スル考ナ
ルモ或ハ其以前ニ提出ノ必要ヲ生スルコトフルヘタ而シテ
右異議書ノ掲タル所ハ今後ノ帝國政府ノ立場ニ重大ナル影
響ヲ及ボスヘキニ付別電御査閲ノ上修正ヲ要スル点アラハ
可成速カニ御訓示アリタシ

(別 電)

五月六日在米國珍田大使宛牧野外務大臣宛電報第一三二号

加州土地法案ニ対スル抗議書案

No. 131

Imperial Government have been informed with
painful disappointment of the land ownership bill

2. The wording of Section 2 of the Act, in con-
tradistinction to that of Section 1, seems to indi-
cate that the right of inheriting real property of
any interest therein will be denied to aliens other
than those who are eligible to citizenship. Such
restriction of property rights to actual owners or
holders is believed to be in impairment of vested
rights of the Japanese subjects fully protected by
the third clause, Article 1 of the treaty and in so
far as it affects leasehold for commercial and
residential purposes, it is also inconsistent with
provisions of the first clause of the same article.
3. Considering further that conformably to the
principles of laws obtaining in United States, all
structures fixed on soil form integral part of and
are inseparable from the real property unless
otherwise agreed to, it is presumed that upon the
escheat of any real estate, the Japanese heirs or
 devisees will be incapacitated by virtue of the new
legislation to own houses, manufactories, ware-
houses and shops on the land so escheated. Such
restriction enforced in respect of the Japanese sub-
jects involves, it seems, disregard of stipulations

as passed by California legislature May 3rd and
communicated by the Honorable the Acting Secre-
tary of State to the Japanese Ambassador May
5th. They have submitted provisions of Act to a
careful examination, and they feel constrained to
offer most respectfully their objection to the enact-
ment, inviting attention of American Government
more especially to the following points:-

1. Act under examination contemplates clear
and serious discrimination against aliens ineligible
to United States citizenship. It draws distinction
between aliens eligible to citizenship and other
aliens, and having in view all the circumstances
which have led to the passage of bill as well as
public utterances of some of responsible Califor-
nian legislators, it admits of no doubt the present
legislation is primarily aimed at Japanese subjects.
In the opinion of Imperial Government, such dis-
crimination cannot be accounted for except on the
ground of race prejudice and is wholly irrecon-
cilable with the spirit and fundamental principle
of friendship and good neighbourhood testified in
the existing treaty between Japan and United
States.

contained in first clause of Article 1 of the treaty
as well as infringement of their vested rights
assured under the third clause of the same article.

4. Should any association coming under Section
3 of the Act decide as in case of its dissolution
to distribute among its members real property now
owned by it, provision of the enactment appears
to be calculated to exclude its Japanese members
from such distribution, thus operating as an
abridgment of the vested rights of those members
in violation of treaty stipulations.

5. Section 2 of the Act provides in effect that
aliens ineligible to citizenship may acquire, pos-
sess, enjoy or transfer real property or any interest
therein in the manner and to the extent and for
purposes prescribed by any treaty now existing
between the United States and country of which
such aliens are subjects or citizens. Apart from
the question of whether the term any treaty now
existing is designed to cover any treaty which
may hereafter be concluded in supplement or in
supersession of existing compact, it frequently
happens that two friendly nations cease to have

any commercial treaty in force between them without impairing in the least their mutual relations of amity and good-will. Should such contingency present itself in the intercourse between Japan and United States, Japanese subjects will be deprived of all rights relating to real property in California now guaranteed by treaty whereas Europeans are placed on the national footing in the matter of such property rights independently of treaty engagements. It will thus be observed that security of the rights acquired lawfully and in good faith by the Japanese subjects will, under the new enactment, be in constant and serious danger from which Europeans are safely guarded. Those just rewards of long and honest toil upon which so many Japanese families depend for their livelihood will become liable any moment to forfeiture by causes for which they are in no way responsible.

While reserving for the future exhaustive analysis of the Act which may bring to light many other features equally objectionable, Imperial Government desire to make it clear that they at-

tion with a view to removing objectionable features of the Act under examination, and they are not unmindful of actual difficulties which surround Federal Government in the way of securing desired end. Nevertheless having in view present situation they feel themselves justified in taking exception to legislation which will undoubtedly affect to a considerable extent and in practical manner legitimate rights and interests of the Japanese subjects in California.

Sympathetic and accommodating disposition with which American administration has invariably extended its helping hands to Japanese Government in the cause of justice and international good understanding encourages them in the hope that present difficulties will be set at rest in a manner satisfactory to all parties alike.

Chinda

二二二 五月六日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州排日問題ノ根本的解決策ニ付「オランダ

ン」氏ヨリ大統領ニ献策ノ件

一 加州ノ外國人土地法案及日本政府ノ抗議關係 二二二

tach utmost importance to that phase of the legislation which savours of discrimination based upon arbitrary racial distinction, and that unless such poignant injustice is completely removed both in letter and in spirit, the whole enactment will remain essentially unsatisfactory.

It may be contended by the framers and supporters of the bill that in the event of any concrete causes arising in which rightful claim of the Japanese are distinguished, it will be open for aggrieved parties to have recourse to ordinary process of law for remedy. Considering however that the process necessarily involves more delay of time and great hardship for the parties in interest, and that those disadvantages will be wholly unknown in respect of aliens whose eligibility to citizenship has never been called in question, it will be readily conceded that the enactment will operate in effect as discrimination against Japanese subjects whose right to become American citizens has not yet been definitively established.

Imperial Government highly appreciate friendly and assiduous efforts of the American administra-

第一三三二号

過日 Oaughlin 来訪加州排日問題ニ談及シタルニ付本使

ハ本件ノ我國民の威厳ニ関スルモノニシテ性質頗ル重大ナルコトヲ説明シタルニ同人ハ極メテ同感ノ意ヲ表シタル上本件ノ根本的解決ハ日本人ニ帰化権ヲ与フルニアリト論断シ此見地ニ基キ自ラ進テ大統領ニ献策シタシト思考スル旨ヲ申出テ本使ノ意見ヲ求メタルニ付本使ト同氏トノ打合せノ厳ニ秘密ニ附セラルヘキコトニ念ヲ押シタル上同氏カ自己ノ発意トシテ献策ヲナスハ本使ニ於テ異議ナキ旨ヲ答ヘ置キタル所五月六日同氏ノ来談ニ依レハ同氏ハ最近大統領ニ謁見ノ上先ツ本問題ノ性質ノ重大ナルヲ説キ此際之カ根本的解決策トシテ日本人ニ帰化ヲ許スノ立法手段ヲ取ルノ極メテ緊急ナルコトヲ献策シ尚先年「ルーズベルト」氏カ右ニ関シ「メッセージ」ヲ送リタル先例ヲモ引照シ議會ニ於ケル「デモクラット」党ノ優勢ナル現状ニ顧ミ此際是非之カ成効ヲ計ラレタシトノ趣ヲ勸メタルニ大統領モ「ルーズベルト」氏ノ先例ニ付テハ追テ精査ヲ遂クヘキ旨ヲ告ケ尚該献策ヲ以テ極メテ重要ナルモノトナシ右ハ熟考ノ上國務長官ノ帰来ヲ待テ篤ト協議ノ上更ニ閣議ニモ掛ケテ審議ヲ遂クヘキ旨ヲ答ヘタル趣ナリ尚同氏ニ於テハ加州排日

問題ニ関スル大統領ノ態度ハ頗ル熱心ニ見受ケタル趣ニ付
以上ノ談話ハ極メテ秘密ニ附センコトヲ同氏ニ於テ要望シ
タリ

二二三 五月 七日 在米国珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法案ノ効力消滅ノ為ノ裁判上ノ手段ニ

関スル決議案米国下院ニ提出セラレタル件

第一三四号

「イリノイス」選出共和党議員「ブリッテン」ハ加州土地
案條約違反ナルヲ以テ其効力ヲ消滅セシメンガ為國務省
及司法長官ヲシテ Judicial test ニ必要ノ手段ヲ執ラシ
ムヘキ決議案ノ提出ヲ司法委員ニ求ムトノ趣旨ノ決議案ヲ
五月六日下院ニ提議シ即日司法委員会ニ付託セラル

二二四 五月 七日 在米国珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州知事ハ土地法案署名ノ相当期間猶豫ニ異議

ナキモ我方抗議書ハ早急準備ノ必要アル件

二二五 五月 七日 在桑港沼野總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法案ニ対スル「レフエレンダム」提起

運動ニ関スル件

第一六九号

本官発在米大使宛電報左ノ通

第一六二号(要領)

貴電第六三号ニ関シ

(一) 土地案ニ関シ博覧会々社ニ於テ「レフエレンダム」提
起云々トハ単ニ新聞所報ニ止マリ同会社ニ於テモ幹部ハ
何等確定シタル意見ナシ商業団体等ニモ其ノ意嚮アルヲ
聞カズ

(二) 在米日本人会ニ於テモ亦「レフエレンダム」ニ関シ未
タ確定シタル意見ナシ

(三) 國務長官演説中「レフエレンダム」云々ニ付下院ニ於
テ「ウェップ」案ハ弱過グテ之レヲ「レフエレンダ
ム」ニ問ハント云ヘル議員アリシモ親日の意味ノ「レ
フエレンダム」説ハ極メテ稀レナリ我カ「レフエレンダ
ム」ノ提起ニ必要ナル署名ニ莫ハ親日有志ニ運動ヲ依頼

一 加州ノ外国人士地法案及日本政府ノ抗議關係 二二五

第一三五号

往電第一二六号ニ関シ本使ハ五月五日國務長官代理宛内申
ヲ送り本案通過後知事ノ署名前本使ニ異議提出ノ機会ヲ与
フルコトニ「ブライアン」氏ト打合セアリタル次第ヲ繰返
シ注意ヲ喚起シタルニ「ミラー」ハ國務長官代理ノ命ニ依
リ來館大統領カ「ブライアン」氏帰京ノ上篤ト協議ヲ遂ク
ル迄知事ニ於テ署名ヲ見合ハス趣意ナリヤニ付為念知事ニ
直接問合ス様「モア」氏ヨリ大統領ニ建言シ置キタル旨
ヲ語リ尚五月七日「ミラー」ノ内話ニ依レハ大統領ハ右
「モア」氏建言ノ趣旨ニ依リ知事ニ問合セノ電報ヲ發シ
タルニ知事ハ相当期間署名ヲ猶豫スルコトニハ異存ナク既
ニ「ブライアン」氏ヘモ之ヲ約シ置キタル旨返電アリタル
趣ニテ其所謂相当期間トハ幾日間ヲ指シヤ明白ナラサルモ
「ブライアン」氏帰京ノ上ハ何時ニテモ我ヨリ異議書ヲ提
出シ得ルコトニ用意ヲ整フ方安全ナルニ付往電第一三〇号
ニ対シテハ可成速カニ御回訓ヲ得タシ

セハ之レヲ得ルコト敢テ困難ナラサルヘシト雖愈「レ
フエレンダム」ヲ提起セハ(甲)土地案ハ大多數ヲ以テ
両院ヲ通過シタルモノナレハ之ヲ覆スニハ民論ノ強大ナ
ル後援ヲ要ス然ルニ衆愚ハ排日ニ傾キ易ク「ハルスト」
ノ一派ハ之ニ乗スルノ虞アリ(乙)過大ノ運動費ヲ要ス
(丙)「レフエレンダム」ハ普通次期ノ総選挙ニ於テスル
モノナルモ憲法上知事ハ自由ニ其時期ヲ定ムルコトヲ得
ルニ依リ我レニ運動ノ暇ヲ与ヘサルヤモ難計(丁)我不
利ナル結果ニ陥ラハ動カスヘカラサル民意ヲ宣明スルコ
トトナリ若シ当時「テスト、ケース」繫屬中又外交談判
中トセハ一大惡影響アルヘシ(戊)「レフエレンダム」
ヲ日本人労働組合ノ「エデュケーショナール、キャンペ
ーン」ノ器械トスヘシトノ説アルモ過レリ本案ハ政事の
ノモノナレハ「カウンター、キャンペーン」ヲ惹起スヘ
シ要スルニ「レフエレンダム」採否ハ輕卒ニ決ス可ラ
ス

二二六 五月八日

牧野外務大臣ヨリ
在米国珍田大使並に在米国
各総領事代理及各領事宛

日米同志会派遣代表者渡米ニ関スル件

附屬書一 日米同志会代表者渡米目的ニ関スル覚書

二 加州在留民ニ対スル注意事項要領

在米国

珍田大使（機密送第五八号）

在紐育

斎藤総領事代理（機密送第一一号）

在市俄古

阿部領事（機密送第一〇号）

在桑港

沼野総領事代理（機密送第一〇号）

在「ポートランド」

井田領事（機密送第八号）

在「シアトル」

高橋領事（機密送第一一号）

曩ニ加州々会土地案ノ通過防止運動ノ目的ヲ以テ当地ニ日米同志会ナルモノ組織セラレ洪沢男爵ヲ會長トシ中野武營氏ヲ副會長トシテ頻ニ活動致居候処今回添田寿一氏隨員神谷忠雄氏ヲ其代表者トシテ米國ニ派遣シ親シク加州ニ在留

將又添田氏閣下訪問ノ上ハ其心得方及萬事ノ行動ニ就テハ総テ閣下ノ指揮ヲ仰クヘキ旨注意致置候間御含置相成度此段申添候

註

追書ハ珍田大使宛ト沼野総領事代理宛ノ分ノミニ限ラレ且追書後段ノ將又以下ハ珍田大使宛ノ分ノミニ附加セラレタリ

（附屬書一）

別紙写甲号

日米同志会代表者渡米目的ニ関スル覚書

第一、加州土地法案ノ成立ヲ見ル將ニ遠キニアラサルヘシ之ヲ州民ノ投票即チ「レフエレンダム」ニ問フガ如キ其劣多クシテ実行モ亦容易ナラズ故ニ差当リ政府ヨリ相当抗議ヲ申込マル、ハ勿論ナルガ尚ホ該法案ノ実施ヲ延期スルノ策トシテ起訴シ結局ノ勝敗ヲ最高法院ニ於テ決スルノ手段ヲ講スルコト

第二、右ノ決定如何ニ拘ハラズ現行日米條約ニ於ケル兩國々民土地所有權ニ関スル規定ノ不明ヲ補ヒ且ツ其他ニ就キ今後日米兩國間ノ紛擾ヲ一掃スル為メ兩國政府間ニ相互的協定ノ交渉ヲ開始スルコト

前記目的遂行上必要ナリトセハ明治四十三年法律第五十

スル同胞ヲ慰問スルコト相成来月十日横浜出帆ノ春洋丸ニテ桑港ニ向ケ出發致候同氏ハ太平洋岸ニ於ケル各本邦人在留地ヲ歴訪シテ其實狀ヲ目撃シ親シク彼等ヲ慰問スルノ外桑港商業會議所ヲ始メ他ノ米國人トモ会晤シ将来日米人ノ親善關係ヲ増進スルノ目的ヲ以テ可成其他ノ地方ヲモ旅行シ華府ニ於テ我大使ヲ訪問スル筈ニ有之候本件ハ固ト民間一団体ノ企ニ過キスシテ政府ニ於テハ別段ノ關係ヲ有スル次第ニハ無之候得共事柄ハ政府ノ全然賛成スル所ニシテ其目的遂行ノ為ニハ相当応援ヲ与ヘタキ考ニ有之候間一行貴地方ヘ到着ノ節ハ前陳ノ趣旨貫徹ノ為メ十分ノ便宜御供与相成候様御取計相成度尤モ米國官民ヲシテ政府ト何等カノ關係有ルカ如キ疑念ヲ懷抱セシムルコト無之様特ニ御注意相成度

（大使ヘハ）此段御通知旁申進候 敬具

（領事ヘハ）此段御通知旁申進候也

追テ添田氏出發ノ際同氏渡米ノ目的ニ関シ日米同志会ヨリ別紙写甲号ノ如キ覚書ノ提出有之尚ホ当方ヨリ添田氏心得ノ為メ渡米後在留邦人ニ注意スヘキ事項ノ要領別紙写乙号ノ通同氏ヘ手交致置候ニ付為御參考右茲ニ及添附候

一号外國人士地所有ニ関スル法律ニ改正ヲ加ヘ之ヲ一層寬大ニシ且其實施ノ勅令ヲ發布スルコト

第三、先ツ日米兩國民論ノ合致ヲ見テ帰化ニ関スル協定ノ交渉ノ開始ヲ兩國政府ニ請求スルコト

前記ノ目的遂行上必要ナリトセハ米國ニ於ケル日本人ノ出生児ガ同時ニ二個ノ国籍ヲ有スルガ如キ奇觀矛盾ヲ避クル為メ本邦国籍法ニ改正ヲ加ヘ其他本件ニ関シ他日日米兩國々法上ノ難問ヲ生セサル様必要ノ協定ヲ為スコト

第四、目下ノ難問ヲ円満ニ解決スル為メニモ將又將來一切ノ紛擾ヲ防止スル為メニモ兩國人ノ意志ヲ充分ニ疏通セシメ兩國ノ輿論ヲ善導シ相互ノ了解ヲ完全ナラシメンガ為メ一ノ國交調和機關ヲ設置シ内外ニ信望アル有力者ヲ其主腦ト為シ本部ヲ東京ニ支部ヲ桑港、紐育其他米國內樞要ノ各地ニ置キ適當ナル人物ヲ米國ニ常住セシメ此機關ニヨリ大凡左記ノ如キ事業ヲ為スコト

(イ) 我國ヨリ時々有力者ヲ米國ニ派遣シ米國全般ニ互ル親親の觀念ノ涵養ニ努ムルコト

(ロ) 絶ヘス米國ニ於ケル新聞雜誌ニ日本ノ実情ヲ通信紹介スルコト

(ハ) 我国ノ学者ヲシテ各種學術上研究ノ結果ヲ米國ニ於テ盛ニ發表セシメ我カ學術上貢獻スル所ニヨリ邦人一般ニ對スル米人ノ尊敬ヲ得ルニ努ムルコト

(ニ) 在米邦人ノ秩序アル文明の發展ヲ促シ一層之ヲ善導シテ以テ米人トノ調和ヲ増進スルコト

之ニ要スル費用ハ多々益々辨スルコト勿論ナルモ差当リ年額拾五萬円位アラバ可ナルヘク此範圍内ニテ上記ノ計畫ヲ実行シ得ヘシト思考ス費用ノ出所ハ本邦内ノ米國關係者、有志者、在米邦人並ニ政府ノ四者ニ於テ適宜分担スルコト

第五、桑港ニ到着ノ上ニテ為スヘキ事項ハ左ノ如シ

(イ) 慰問ノ誠意ヲ伝フルコト

(ロ) 目下重大ノ場合ナレバ慎重ナル態度ノ必要ト文明的動作ノ急要ナルヲ説クコト

(ハ) 本國ノ狀況ヲ告ケ在米同胞ノ實況及ヒ米國ノ狀況ヲ調査スルコト

(ニ) 實況調査ノ上必要アラハ尚ホ東方ニ赴キ必要ノ策ヲ講スルコト

ル福祉ト利益トハ共同ノ力ニヨリテ初メテ得ラル、コトヲ會得シ常ニ同胞相助ケテ業ヲ励ムコトヲ忘ルヘカラズ

六、在留民ガ一致團結ヲ必要トスルハ濫ニ米國人ト對立スヘシトノ謂ニアラズ徒ニ兄弟牆ニ闢グノ愚ヲナスベカラズトイフノミ而シテ一方ニ於テハ宜シク氣宇ヲ大ニシ米國人ニ對シテ隔意ヲ抱カズ相携ヘテ福利ヲ進ムルヲ以テ覺悟トナサバ爾ヘカラズ

七、身海外ニ在テ計ヲ立ツルノ人ハ其ノ國ノ恵ヲ忘ル、コト無ク善ク其國ノ制度ヲ遵奉シ自家ノ本業ヲ励ムト同時ニ地方ノ開發ト發展ニ応分ノ貢獻ヲナスノ覺悟ナカルヘカラズ

八、子弟ノ教育ハ邦人トシテ必要ナル事項ノ外ハ在留地特殊ノ現況ニ適應セシムルノ目的ヲ以テ之ヲ施スコト必要ナルヘク矧ンヤ米國出生児ニアリテハ其多クハ將來永ク其地ニ在リ米國人間ニ伍シテ生計ヲ営ムモノナルヘキニヨリ上記ノ点ニ注意スルコト特ニ必要ナルベシ

九、立法其他ニヨリ本邦人ニ不利益ナル待遇ヲ受クルコトアリトモ在留民ハ終始慎重ノ態度ヲ採リ苟クモ輕率妄動ヲ敢テシ却テ反對者ニ利用セラル、ノ愚ヲナサス飽迄モ

(附屬書二)
別紙寫乙号

加州在留民ニ對スル注意事項要領

一、在留國々語ノ知識ヲ欠クハ意志疏通ノ一大障害ナリ在留民ハ日用語ノ平易ナルモノナリトモ英語ヲ用ユルノ習練ヲ為スヘク本邦語ノミニ偏セサルヲ要ス

二、隣保ノ和親ハ四海融和ノ淵源ナリ人種ヲ異ニシ風俗習慣ニ差異アリトモ誠意ヲ以テ臨メバ終ニハ親和セサルノ理ナシ故ニ在留民ハ居常努メテ在留地ノ米國人ト往来シ交誼ヲ開拓スルコトヲ懈ルヘカラズ

三、在留民ノ社会生活狀態ハ近時大ニ改良ヲ加ヘラレタルヲ認ムルモ尚ホ未ダ足ラサルモノアリ苟クモ風俗ヲ異ニシ習慣ヲ異ニスル異郷ニ在リテハ所謂郷ニ入りテハ郷ニ從ヘノ古語ヲ學ビ將來一層ノ注意ヲ払ヒ服裝及言語舉動ニ關シ米人ニ非難ノ材料ヲ供スルナキヲ期スヘシ

四、在留民ハ常ニ契約ヲ尊重スルノ念ヲ高ムルコト肝要ナリ又タ在留民中ニ非違者アリタル場合合同國人タルガ故ニ濫ニ庇護スルノ性癖ハ之ヲ除斥セサルヘカラス

五、在留民中漫ニ党与ヲ樹テ同胞間ニ紛擾ノ因ヲ醸スガ如キハ邦人ノ平和的發展上最モ嫌忌スヘキ現象ナリ円満ナ

正義ト公道トニ訴ヘ忍耐ヲ以テ有終ノ果ヲ収ムルニ留意スベシ

十、土地案不幸ニシテ法律トナルモ現在所有ノ農業地ハ直チニ売却ヲ要スルニ非ズ又借地農業ノ途モアリ矧ンヤ本問題我ニ有利ノ解決ヲ見ルノ日モアルヘキニヨリ農業ニ関シ多少ノ注意ヲ為スモ亦全ク無用ニハアラサルベシ

イ、在留民ハ都會市部ニ群居スルノ傾向ヲ避ケ地方郡部ニ散ジ農耕園芸ニ従事スルノ風ヲ奨励スルコト

ロ、技術家ノ講和書籍等ニ就キ農業上ノ智識ヲ弘ムルニ努メ農業收入ヲ増進スルヲ謀ルコト

ハ、収益上幾分ノ減損ハ明ナルモ永遠ノ利害ヲ図リ勤メテ地方米國人ト事業經營ヲ共同シ利害ヲ分担スルノ途ヲ開キ置クコト

ニ、所得金ハ必スシモ悉ク之ヲ本邦ニ送ラズ其幾分ハ在留地ノ事業ニモ投シ又之ヲ地方米國銀行ニ預入ル、ノ方針ヲ採ルコト

ホ、農業被傭労働ニ従事スルニ當リテハ眼前賃銀ノ増進ニノミ焦心セズ雇主ノ利益ヲモ慮リ農作物ノ取扱ヲ叮嚀ニスルコト

二二七 五月 八 日 牧野外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛 (電報)

加州土地法案ニ対スル抗議提出方訓令並抗議書

中注意スベキ点指摘ノ件

第一〇一号

貴電第一三一号ニ関シ大体右ニテ異論ナキニ付閣下ニ於テ必要ト認メラル、機會ニ於テ何時ニテモ正式ニ抗議ノ提出方取斗ハルヘシ只左ニ少シク注意ノ点ヲ申述フベシ

(第一) 抗議書第二項ノ末段賃借ノ場合ハ現ニ賃借シ居ル不動産ノ相続ヲ禁セラル、ハ既得権ノ侵害ナルニヨリ條約第一條第一項及ヒ第三項ニ違反スルモノナリ

(第二) 抗議書第五項ノ末段ニ関シ兩國無條約關係トナリタル場合ニ於テ「ウェップ」案ノ解釈上本邦人ノ失フ所ノ權利ハ将来ニ係ルモノニシテ必然のニハ既得権ヲ侵害スルモノニハアラサルベシ

尚当方ニ於テモ且下英文抗議書調整中ニツキ出来次第電報スヘキモ決シテ之ヲ待タル、ノ必要ナシ

右御含送ニ申進ス

二二八 五月 八 日 牧野外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛 (電報)

外務本省ニ於テ作成ノ対米英文抗議書案

電送ノ件

別 電 同日牧野外務大臣發珍田大使宛電報第一〇三

号

右英文抗議書案

附 記 対米抗議書和文案

第一〇二号

往電第一〇一号ニ関シ当方ニ於テ作成シタル英文抗議書別電第一〇三号ヲ以テ送附ス尤モ右ハ必スシモ一々文字通りニ提出方ヲ意味スル次第ニハアラサルニ付貴電第一三一号未ダ提出前ナレバ閣下ノ「ディスクレション」ニヨリ双方可然取合セ提出サレ差聞コレナク若又右御提出後ニテモ別電ニヨリ相当追加セラレ妨ナキニツキ愈御提出ノ上ハ全文改メテ電報セラルベシ

尚ホ別電中今回ノ法律カ本邦人ノ会社ノ株券買入及ヒ所持ノ權利ヲ奪フハ則チ營業ノ自由ヲ奪フモノニシテ條約第一條第一項及ヒ條約第十四條ニ違反スルモノナリトイハサルハカラス右御注意迄ニ附加ス

(別 電)

五月八日牧野外務大臣發珍田大使宛電報第一〇三号

外務本省ニ於テ作成ノ対米英文抗議書案

It becomes my duty, in pursuance of instructions from my Government, to lodge with you an urgent and explicit protest against the law recently passed by the legislature of the State of California on the subject of alien land ownership.

The Act in question is essentially unfair and discriminatory and it is impossible to ignore the fact that it was primarily directed against my countrymen. Accordingly, this protest is based upon the proposition that the measure besides being unjust and inequitable is not only in impairment of the existing rights of Japanese subjects, but is inconsistent with the provisions of the Treaty now existing between Japan and the United States and is also opposed to the spirit and fundamental principles of amity and good understanding upon which depend the conventional relations of fair and equal treatment and good neighborhood of the two countries.

The enactment in effect deprives my country-

men of the right to transmit to their legal heirs, their already lawfully acquired landed property. The full right of such transmission was a right running with such property when so acquired and consequently the annulment of that right at this time is clearly in conflict with the third clause of Article I of the said Treaty, which guarantees to Japanese subjects, in reciprocity, the most constant protection for their property. And so in its relation to house property, the law is, in a much wider sense, repugnant to the existing treaty engagements, since by clause I of Article I of that instrument, Japanese subjects are granted, in reciprocity and upon the same terms as Americans, the right to own houses, manufactories, warehouses and shops. Accordingly, all exceptional limitation and restrictions upon or in respect of that right, either in the matter of its transmissibility or otherwise, are irreconcilable with Article I, clauses one and three of the Treaty.

Again, in the matter of the right of my countrymen, to lease land for residential and commercial purposes, all limitations and restrictions,

upon the right, contained in the law, which do not apply equally to American lease-holders, are also contrary to the treaty provisions last above referred to.

It should also be pointed out, that the provisions of the enactment relating to companies, associations and corporations appear to be still more objectionable. Thus in the event of dissolution of any company, association or corporation and the distribution among its members of any real property now owned by it, all Japanese members would, in discrimination, be excluded from such distribution in abridgment of their already acquired right. Other instances of grave injustice in disregard of the already existing rights of my countrymen, may readily be imagined, more especially in cases of institutions whose stocks are purchasable in the open market. For instance, the lawful interests of Japanese subjects in such an institution might become liable to escheat without any unlawful act on their part, since the innocent purchase of its stock by aliens of other nationalities laboring under the same disabilities

classification or distinction appearing in the Statutes of the United States on the subject of certain political rights, has found it possible to pass this unworthy and unjust law by which important civil rights are denied to Japanese subjects. Fortunately, however, the Imperial Government have to look to the Federal Government for relief, and having in view the historic relations of cordial friendship and good neighborhood that have so long united the two Countries, as well as the well recognized high sense of right and justice of the American Government, the Imperial Government feel well assured that their appeal will not be in vain. On the contrary, they entertain the confident hope that the United States will take all necessary steps to have the measure annulled or rendered nugatory, before any wrong or injustice can be done by it.

(附記)

対米抗議書と文案

以書柬致敬上候陳者帝國政府ハ曩ニ外國人土地所有問題ニ関スル法律案ノ加州議會ヲ通過シタルノ報道ニ接シテ遺憾

as Japanese, might lead to that result, but practically speaking, the putting into force of the measure in question would have the effect of depriving my countrymen of the right to own any stock in any company, association or corporation, liable to become possessed in California of any real property or any interest therein.

The Imperial Government, while reserving for future consideration the other objectionable features of the law in question, desire to have it made entirely clear that they attach the utmost importance to that phase of the legislation by which unfair and obnoxious discrimination is imposed on Japanese subjects in those affairs of ordinary international commercial concern in which nations usually accord to friendly nations, equal treatment either as a matter of comity or by application of the principle of the most favored nation clause.

I hasten to add that the Imperial Government are well aware that the American Government is not responsible for the present state of things. California, by a wrongful use of an unfortunate

措ク能ハス遂ニ米國政府ニ向テ割切ナル抗議ヲ提出スルノ不得已ニ至レリ乃チ本使ハ茲ニ其訓令ヲ奉シ謹テ之ヲ貴官ニ呈スル次第ニ有之候

帝國政府ノ所見ニ拠レハ該法案タル其本質ニ於テ不當且差別的ニシテ我邦人ノ排斥ヲ主眼トスルモノタルノ事實ハ之ヲ蔽ハントスルモ得可ラス随テ本抗議ノ論拠ハ該法案ノ正義公道ニ悖リ實ニ日本臣民現有ノ權利ヲ傷害スルノミナラス又日米現行條約ノ規定ニ牴觸シ且西國條約關係ノ基礎タル修好親善ノ精神又本義ニ背反スルモノナリトスルノ点ニ存スル次第ニ有之候

抑モ右ノ立法タル我邦人ノ適法ニ取得シタル土地ノ所有權ヲ其正当相続人ニ移転スルノ權利ヲ褫奪スルノ結果ヲ来ス可シ然ルニ元來財産權移転ノ完全ナル權利ハ財産ノ適法ニ取得セラレタル時ニ於テ之ニ伴隨スル所ノモノナルヲ以テ今ニ於テ之ヲ無効トスルハ明ニ日米條約第一條第三項中相互主義ニ依リ日本臣民ハ米國內ニ於テ其財産ニ對シ常ニ保護及保障ヲ享受ス可シトノ規定ニ牴觸スルモノニ有之更ニ又所有家屋ニ関スル点ニ於テ該法案ハ條約ノ規定ニ牴觸スルコト一層甚シキモノアリ乃チ日本臣民ハ相互のニ合衆國人民ト同一條件ノ下ニ家屋、製造所、倉庫及店舗ヲ所有

スルノ權利ヲ享有スルヲ以テ該權利ニ關スル特殊ノ制限ハ其取得及ヒ移転ニ關スルモノタルト其他ニ關スルモノタルトヲ問ハス總テ條約第一條第一項及第三項ト相容レサルモノニ有之候

次ニ住居及商業ノ目的ノ為ニ土地ヲ賃借スルコトヲ得ル我邦人ノ權利ニ關シテモ亦該法案ノ規定中一様ニ合衆國人民タル賃借權者ニ適用セラレサル一切ノ制限ハ均シク前頭條約ノ規定ニ反スルモノト被相認候

將又該法案中會社ニ關スル規定ニ就テモ同様異議ヲ挾ム可キモノアリ即チ會社ノ解散ニ際シ其現ニ所有スル不動産ヲ其社員ニ分配スルコトニ決シタル時ニ於テハ總テノ日本社員ハ差別的ニ右分配ヨリ除外セラレ其既得權ヲ毀損セラルルコトナル可ク其他ニ於テモ我邦人現有ノ權利カ該規定ノ結果極メテ不當ニ傷害セラルル場合アルハ想像ニ難カラサル可シ殊ニ其株券ノ一般市場ニ於テ売買セラルル會社ノ場合ニ於テ然リトス例ヘハ日本臣民カスル會社ノ株券ヲ購入シ其結果トシテ適法ニ右會社ノ財産ニ對スル一部ノ利益ヲ有スルコトナリタル後ニ至リ若シ歸化能力ヲ認メラレサル点ニ於テ日本人ト同一ノ地位ニ在ル外國人カ善意ニ右會社ノ株券ヲ購入スルトキハ為ニ曩ニ日本人ノ適法ニ取得

ニ拘ラス該法ノ下ニ加州ニ於ケル不動産所有ノ權利享有ニ關シ米國人ト同一ノ待遇ヲ与ヘラルルニ反シ独リ日本臣民ハ之カ為ニ同州ニ於テ現ニ條約ニ依リ保證セラルル不動産ニ關スル一切ノ權利ヲ奪ハルコトナル可シ隨テ日本人ノ適法ニ且善意ニ取得シタル權利ハ新法ノ為ニ歸化能力ヲ有スル外國人ニ在リテハ曾テ懸念ノ要ナキ重大不斷ノ危險ニ曝サルコトナル可ク如斯ニシテ多數日本人カ其家族生計ノ為ニ多年ノ勤勞ニ依テ得タル正当ナル報酬ハ該法ノ下ニ彼等ノ何等關知スル所ナキ原因ニヨリ凡テノ保護ヲ失フニ至ル可キ次第ニ有之候該法案ノ起草者及賛成者或ハ言ハン若シ日本人ニシテ其正当ノ權利カ傷害セラレタリトスル何等具體的事件ノ發生シタル場合ニ於テハ被害者ハ普通法定ノ手續ニ依リ之カ救済ヲ求ムルノ途アルニアラスヤト然リト雖斯ル手續ハ必然多クノ時日ヲ要シ當時者ニ少カラサル苦痛ヲ与フルモノニシテ而モ斯ル不利不便ハ歸化能力ヲ有スル外國人ノ夢想タモセサル所ナルヲ考フルトキハ該法カ米國市民タルノ能否未タ確定セサル我邦人ニ對シ差別の待遇ヲ与フルノ結果ヲ生スルモノタルハ容易ニ認識セラ

ル可キ儀ト被存候

シタル利益ハ彼等ニ於テ何等不法行為ナキニ拘ラス沒收セラルルコトアル可シ更ニ適切ニ之ヲ言ヘハ該法案ノ実行ハ我邦人ノ加州ニ於テ不動産又ハ之ニ關スル利益ヲ所有スルコトアルヘキ會社ノ株券ヲ所有スルノ權利ヲ奪フノ結果ヲ生スルモノナリ蓋シ普通ノ營業の頭腦ヲ有スル者ハ何人ト雖漫ニ沒收ノ危險ヲ冒スカ如キコトコレナカル可ケレハナリ苟モ如斯危險ノ伏在スルモノトセハ該法案ノ規定ハ日米條約第一條商業ニ關スル兩國人均等待遇ノ規定及同第十四條通商ニ關スル最惠國條款ノ規定ニ反スルモノト被致思考候

更ニ又該法案ハ歸化能力ヲ有セサル外國人ハ合衆國ト斯ル外國人ノ本國トノ間ニ現ニ存在スル條約ニ規定セル方法、範圍、目的ニ限り不動産又ハ之ニ關スル利益ヲ取得、占有、享有又ハ移転シ得ルコトヲ規定セル所右「現ニ存在スル條約」ナル語ノ果シテ現行條約更訂ノ為又ハ其補足トシテ今後締結セラル可キ如何ナル條約ヲモ包含スルノ趣旨ニ出デタルヤ否ヤノ問題ハ暫ク措キ二個ノ友好國カ其間ニ存スル親善關係ヲ毫モ損傷スルコトナクシテ無條約狀態ニ陥ルコトハ往々ニシテ起ル所ノ現象ニ有之若シ斯ル事態ニシテ日米間ニ生センカ歸化能力ヲ有スル外國人ハ條約ノ有無

後日ノ考量ニ讓ルコトトシ此際最モ重キヲ置クハ普通國際間商業事項ニ關シ各國何レモ平和友好ノ關係ヲ有スル外國人ニ對シ或ハ國際禮讓ノ一義トシテ或ハ最惠國條款ノ適用ニ依リ均等ノ待遇ヲ与フルヲ常則トスルニ反シ該立法ニ於テ特ニ叙上ノ差別的待遇ヲ設ケタル点ニ存スルコトヲ十分明瞭ナラシメンコトヲ欲スルモノニ有之候

帝國政府ハ人道及國際的好誼ノ為ニ米國政府カ從來日本政府ニ對シ常ニ懇篤ニシテ同情アル幫助ヲ与ヘタル其好意ニ顧ミ今次ノ問題モ亦兩隣邦ノ間ニ存スル歷史的親交關係ニ適合ス可キ解決ヲ見シコトニ多大ノ希望ヲ屬スルモノニ有之候

本使ハ茲ニ貴官ニ向テ重テ最高ノ敬意ヲ表シ候 敬具

二二九 五月 八 日 在桑港沼野總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州上院閉會期決議ノ件

第一七一號

五月七日上院ハ五月十二日閉會ノ決議案ヲ可決シタリ多分下院モ之レニ同意スヘシト信セラ

二二〇 五月 八日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法案ニ関スル抗議提出ニ付國務長官ニ

豫告ノ件

第一三六号

五月八日國務長官帰京セル所同官ハ更ニ紐育ヘ赴ク筈ナルコトヲ確メタルニ付其ノ以前ニ会見スルノ必要ヲ認メ其ノ旨申込ミタル所午後四時三十分ヲ指定シ来レリ然ルニ貴電第一〇三号ハ未タ全部接到セサルニ付抗議書調製ヲ了セサレトモ右提出ノ豫告ヲナサンタメ会見シタルニ同官ハ先ツ加州問題ニ関シテハ帰京早々ノ際トテ未タ本使ニ対シ何等申述フヘキコトナキヲ以テ実ハ本日ノ会見ヲ延期シタシト思考シタルモ斯クテハ世間ヲシテ何等カ誤解ニ陥ラシムル虞アルニ付努メテ繁忙ノ時間ヲ割キ大統領ヘ報告モ半ニシテ未了ノ儘「ホワイト、ハウス」ヨリ立歸リ接見シタル次第ナル旨ヲ述ヘ次テ同日ハ閣議後即チ正午ヲ以テ会見シタシト申出タリ依テ本使ハ本件抗議提出方ニ関シテハ唯今帝國政府ヨリ訓電接受中ナルニ付明日之ヲ提出スヘキ旨ヲ豫告シタルニ同官ハ其ノ意ヲ諒シ結局明朝閣議前九時半ニ会見シ其ノ節抗議書ヲ提出シ閣議後即チ正午ニモ再会ノコ

二二二 五月 九日 在桑港沼野總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

民主党前加州知事候補ノ同州土地法案解決意見

並右ニ対スル加州知事ノ反駁報告ノ件

第一七二号

前回ノ総選挙ニ於テ民主党知事候補者タリシ「ベル」氏ハ五月七日各新聞紙上ニ後段原文要領ノ意見ヲ發表シ最後ニ解決方法トシテ第一凡テノ外国人ニ等シク適用シ得ヘキ土地案第二「ウェップ」案中ヨリ借地ニ関スル明文ヲ除キタルモノノ制定ヲ initiative トシテ民意ニ問ヒ更ニ今回ノ「ウェップ」案ヲ referendum ニ問ヒ以上三案ニ就テ民意ノ存スルトコロヲ明カニスヘシト論シタルニ対シ翌日知事ハ是レ民主党カ凡テノ土地案ヲ不成立ナラシメントスル苦肉策ニ外ナラストナセリ

Bill permitting agricultural leases harmful, satisfies nobody. No renewal restrictions implies assent immigration. Governor failed grasp fundamental necessity stop Asiatic immigration race problem. Bill may justify abrogation gentleman's agreement.

トニ打合セヲ了シタリ

二二二 五月 九日 牧野外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛(電報)

加州土地法案ニ関スル英文抗議書案補足ノ件

第一〇五号

往電第一〇三号会社ノ場合ニ関スル項ノ末段 any real property or any interest therein ノ次ニ左ノ語句ヲ加フ、右念ノ為メ

"For no business man of ordinary business acumen and prudence would take the hazard of confiscation; nevertheless such hazard would exist in view of that Act, notwithstanding the parity engagement on the subject of trade contained in Article I and the most favored nation stipulation regarding all that concerns commerce, appearing in Article XIV of the Treaty."

二二三 五月 九日 在桑港沼野總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法案ニ対スル國務長官ノ意嚮並同法

成立後ノ善後策上申ノ件

第一七三号

往電第一五九号國務長官ノ意嚮及土地法成立後執ルヘキ方策ニ関聯シテ本官氣付ノ点御参考迄左ニ開陳ス

(一) 國務長官ハ土地法制定ノ最大動機ヲ以テ加州農業界ニ於ケル日本人ノ勢力激増ニアリトナスカ如キモ右ハ事実ヲ誇張シタルモノニ過キサルノミナラス若シ農園ヨリ日本人ヲ驅逐スルトキハ日本人ハ再ヒ都会ニ集中シ労働者等ノ反感ヲ惹起スルニ至ルヘシ此点ニ付テハ次第二ヨリ米國政府ノ再調査ヲ要求スルコト亦一策ナルヘキカ

(二) 國務長官ハ日本婦女渡来ト本邦人土地所有トノ間ニ密接ノ關係アリトナシ之ヲ好マサルヤニ察セラルルモ右ハ家庭維持風紀改善ニ必要缺クヘカラサルモノニシテ結局日本人ヲ太平洋沿岸ヨリ驅逐セントスルニアラサレハ米國側ヨリ觀察スルモ寧ロ之ヲ奨励スヘキモノト思考セラ

(三) 州會議員濫リニ議場ニ於テ公言スル所ヲ見ルニ其目的

日本人ヲ全然太平洋沿岸ヨリ驅逐スルニアルカ如キモ之レ実ニ日米両国々交ノ歴史ニ鑑ミ到底容認スヘカラサルモノトス米国ニシテ若シ之等ノ言ニ聽カハ我ハ已ムヲ得ス墨西哥ニ移民渡航ヲ奨励シテ之ニ応スル外ナカルヘキカ

(四) 加州日本農民ノ多数一ヶ所ニ集合セル地方ノ状態ヲ改善シ排日論者ニ藉口ノ余地ナカラシムル為之ヲ加州内適當ノ地又ハ他州ニ移住セシムル方法ヲ講スルコト必要ナルヘシ

大使ヘ電報シタリ

二三四 五月 九日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
加州下院閉会期決議ノ件 (電報)

第一七五号

五月八日下院ハ曩ニ上院ヨリ廻附サレタル五月十二日正午ヲ以テ閉会期トスル決議案ヲ可決シ閉会期ヲ確定シタリ

ラバ、ソレハ法律トナラナイ。但シ、知事ガ、議會ガ休会シテカラ三十日以内ニ、日曜ヲ除キ、署名シテ、ソノ法案ヲ州務長官ニ預ケタ場合ニハ、休会前ニ知事ガ署名シタト同様ニ法律トナル。

(以下略)

尙前掲二一八文書ノ註参照

二二六 五月 九日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
加州下院ニ於ケル「ウェップ」土地法案討議速

記録送付ノ件
機密公第六号 (五月二十八日接受)

大正二年五月九日

在桑港

総領事代理 沼野 安太郎 (印)
外務大臣男爵 牧野 伸顯 殿

本月三日午後下院ニ於テ上院土地案第五号 (即 Webb 案) 討議ノ際我内偵者ヲシテ特ニ速記者ヲ傭入レ其討議ヲ速記セシメ候間為御参考右写老通及御送附候條御查收有之度此段申進候 敬具

二二五 五月 九日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
加州下院閉会期決議ノ件 (電報)
「ウェップ」案知事ニ送達及同案ノ法律トナル場合ニ付報告ノ件

第一七六号

拙電第一六六号ニ関シ「サクラメント」情報ニ依レハ「ウェップ」案ハ多分五月九日夜知事ノ手許ニ送達セラルヘシト從テ「カリフォルニア」州憲法 Article IV Section 16 (註)ニ依リ知事カ閉会迄ニ署名セサル場合ニ於テモ閉会後三十日以内ニ署名シ之ヲ「カリフォルニア」州「セクレタリ、オブ、ステート」ニ廻附セハ法律トナル次第ナリ

大使ヘ第一六八号ヲ以テ電報ス

註 加州憲法第四條第十六節前段大体左ノ通り
議會ヲ通過シタ法案ガ法律トナルニハ、知事ニ提示スル必要ガアル。知事ハ承認スルツモリナラ署名スル。デナケレバ反對ノ理由ヲツケテ、ソレヲ發議シタ議院ニ返却スル。ソノ院ハ、議事録ニ、知事ノ反對理由ヲノセ、ソノ法案ノ再審議ヲ進メル。モシ再審議ノ後、三分ノ二ノ多数デ兩院ヲ通過シタ場合ニハ、知事ノ反對ニ拘ラズ法律トナル。知事ニ法案ガ提示サレタ後、日曜ヲ除キ、十日以内ニ返却シナイ場合ハ法律ニナル。シカシ議會ガ休会シテイテ、ソノ返却ヲ妨ゲタナ

追テ上院ニ於ケル同案討議速記録ハ反訳出来次第可及御送附候也

註 討議速記録省略ス尙後掲二五六文書ノ追書参照

二二七 五月 九日 在米田珍田大使ヨリ
加州土地法案ニ対スル抗議書案字句訂正並該抗議書公表方ニ付請訓ノ件 (電報)

加州土地法案ニ対スル抗議書案字句訂正並該抗議書公表方ニ付請訓ノ件

別 電 同日珍田大使發牧野外務大臣宛電報第一三八号
右抗議書案

第一三七号

抗議書ハ大体貴電第一〇三号ニ依リ之ニ往電第一三一号中無條約トナリタル場合及争点決定ヲ裁判所ニ讓ル場合ニ於ケル不利益ノ結果ヲ揭ケタル部分ヲ加ヘ調製シタル処正式抗議書提出前國務長官ニ於テ可成速ニ草稿写ニテモ入手シ度キ旨要求アリタルニ付五月九日早朝右草稿写ヲ送附シ置キタル処其後貴電第一〇五号接到シタルヲ以テ右追加ノ為メ第一回会见ノ際ハ之ヲ交付スルコト能ハス第二回会见ノ際愈々之ヲ交付セムトシタルニ之ニ先タチ同官ハ全然個人

ノ資格ヲ以テ内密ニ本使ノ注意ヲ惹キ度キコトアリ即チ抗議書ノ用語中稍激調ニ走リタル点アリ仮令ハ California by a wrongful use.....this unworthy and unjust measure ニタト云フガ如キ徒ラニ加州人民ノ激昂ヲ招クノ虞アリ又 Stops to have the measure annulled or rendered nugatory. 云々ノ要求ハ中央政府ニ対シテモ憲法上ノ不可能ヲ強ヒムトスルノ嫌アル廉ナキニアラストノ旨ヲ述ヘ且同官ニ於テハ素ヨリ之カ改訂ヲ要求スル次第ニアラスシテ単ニ個人トシテ本使ノ注意ヲ促スニ過キサル旨ヲ再三繰返シタリ本使ハ加州側ニ対スル用語ニ関シテハ我主旨ヲ枉ゲザル範圍ニ於テ単ニ形式ヲ緩和スル為メ之ニ多少ノ改竄ヲ加フルハ異議ナシト雖中央政府ニ対スル請求ノ点ニ付テハ我主張ノ趣旨ハ全ク右用語通ナルニ付用語變更ニ伴ヒ趣旨變更ヲ来ス如キハ本使ノ躊躇スル所ナル旨ヲ答ヘ置キタルガ結局明日再ヒ同官ト会見スルコトニ打合せタリ其後篤ト熟考スルニ抗議書公表セラレタル場合萬一用語ノ激調ニ依リ世間ノ物議ヲ醸シ延イテ米國政府ノ立場ヲ困難ナラシムル如キ虞ナキヲ保シ難キ事情ニモ鑑ミルトキハ此際用語ノ末節ニ拘泥スルハ結局不得策ト認メラルルニ依リ米國政府ニ対スル請求ノ点ニ関シテモ多少婉曲ノ辭

加州土地法案ニ対スル我抗議書案

Sir:

I have the honor to acquaint you that my Government have learned, with painful disappointment, of the measure recently passed by the Legislature of the State of California, on the subject of alien land tenure, and that they feel constrained to offer to the American Government, their urgent and (註) explicit protest, which, in pursuance of their instructions, I now respectfully beg to lodge with you, against the new legislation.

In the opinion of the Imperial Government, the Act in question is essentially unfair and discriminatory, and it is impossible to ignore the fact that it was primarily directed against my countrymen. Accordingly, this protest is based upon the proposition that the measure is unjust and inequitable, and that it is not only prejudicial to the existing rights of Japanese subjects, but is inconsistent with the provisions of the treaty actually in force between Japan and the United States, and is also opposed to the spirit and fundamental principles of amity and good understanding, upon

令ヲ用フルヲ以テ得策ナリト思考シタル所此際改メテ請訓ノ暇ナキニ付豫テ経同ノ往電第一三一号末段ノ趣旨ニ則リ變更ヲ加ヘ全文ハ別電ノ通トナシ明日之ヲ提出スル積ナリ尤モ其節右ハ單ニ字句ノ修正ニ止マリ請求ノ目的ニ變更アルニアラス飽迄モ米國政府カ本法実施ヲ防止セムコトヲ希望セル次第ナル旨ヲ念ノ為メ繰返シ言明シ置クヘシ又國務長官ハ本日ノ会見ニ於テ我抗議書ノ公表方ニ関シテハ勿論異議ナカルヘシトノ旨ヲ申出デタルニ付本使限リノ意見トシテハ成ルヘク發表セサルコトヲ希望スト雖右ニ関シテハ何等訓令ヲ受ケ居ラサルニ付請訓ヲ要スル所若シ帝國政府ニ於テ異議ナシトスルモ之カ發表ハ日米同時ニ為スノ必要アリト信スルニ付何分ノ回訓アル迄ハ米國側ノ發表ヲ見合ハセラレタキ旨申述ベタルニ同官ハ此意ヲ領シ夫レ迄ハ發表セサルヘキ旨ヲ答ヘ且若シ米國政府ニ於テ該抗議書ヲ加州知事ニ送ルカ如キ場合アランニハ到底秘密ヲ守ルコト能ハサル旨ヲ申述ヘタリ右様ノ次第ニテ結局之ヲ秘密ニ附スルコト望ナキニ付寧ロ本邦ニ於テモ發表セラルヘキ時期ヲ定メ御回示アリタシ

(別電)

五月九日珍田大使發收野外務大臣宛電報第一三八号

which the conventional relations of the two countries depend.

It seems to the Imperial Government that the enactment in effect deprives my countrymen of the right to transmit to their legal heirs their already lawfully acquired landed property. Full right of such transmission was a right running with such property, when so acquired, and consequently the annulment of that right, at this time, is clearly in conflict with the third clause of Article I of the treaty, which guarantees to Japanese subjects, in reciprocity, the most constant protection for their property. Moreover, in its relation to house property, the legislation appears to be, in a much wider sense, repugnant to the provisions of the first clause of the same Article, by which Japanese subjects are granted, in reciprocity, and upon the same terms as American citizens, the right to own houses, manufactories, warehouses and shops. All exceptional limitations and restrictions upon or in respect of that right, either in the matter of its transmissibility or otherwise, are thus believed to be irreconcilable with the first and third clauses

of Article 1 of the Treaty.

Again, in regard to the right of my countrymen to lease land for residential and commercial purposes, all limitations and restrictions upon the right contained in the Act, which are not equally applicable to American leaseholders, are, it seems, also contrary to the treaty provisions above referred to.

I beg further to point out that the provisions of the enactment relating to companies, associations and corporations appear to be no less objectionable. Thus, in case an association, in proceeding to dissolution, decides to distribute among its members any real property now owned by it, all Japanese members would, in discrimination, be excluded from such distribution in abridgment of their vested rights. Other instances of grave injustice in disregard of already existing rights of my countrymen may readily be imagined, more especially in case of an institution, whose stock is purchasable in the open market. For instance, lawful interests of Japanese subjects in such an institution might become liable to escheat without

try of which such aliens are subjects or citizens. Apart from the question as to whether the term "any treaty now existing" is intended to cover any treaty which may hereafter be concluded in supplement to, or in supersession of, the existing compact, it frequently happens that two friendly nations cease to have any commercial treaty in force between them, without impairing in the least their mutual relations of amity and goodwill. Should such contingency present itself in the intercourse of Japan and the United States, Japanese subjects will apparently be denied all rights relating to real property in California, now guaranteed by the treaty, whereas aliens eligible to citizenship are placed on the national footing, in the matter of such property rights, independently of treaty engagements. Accordingly, the security of the rights acquired lawfully and in good faith by the Japanese would, under the new enactment, be in constant and serious danger, from which aliens eligible to citizenship are safely guarded. Those just rewards of long and honest toil, upon which so many Japanese families depend for their

any unlawful act on their part, since the innocent purchase of its stock by aliens of other nationalities laboring under the same disabilities as the Japanese might lead to that result. But, practically speaking, the enforcement of the measure in question would have the effect of depriving my countrymen of the right to own any stock in any company, association or corporation liable to become possessed in California of any real property or any interest therein, for no business man of ordinary business acumen and prudence would take the hazard of confiscation. Nevertheless, such hazard would exist in view of that Act, notwithstanding the parity engagement on the subject of trade contained in Article I and the most favored nation stipulation in all that concerns commerce appearing in Article XIV of the Treaty. Further, the Act provides in effect that aliens ineligible to citizenship may acquire, possess, enjoy or transfer real property or any interest therein, only in the manner, and to the extent, and for the purposes prescribed by any treaty now existing between the United States and the coun-

livelihood, might be deprived of all protection under the Act, by causes for which they are in no way responsible.

It may be contended by the framers and supporters of the Bill, that in the event of any concrete cases arising, in which the Japanese find that their rightful claims are disregarded, it will be open for the aggrieved parties to resort to ordinary process of law for remedy. Considering, however, that such process necessarily involves much delay of time and great hardships for the parties in interest, and that those disadvantages will be wholly unknown in respect of aliens whose eligibility to citizenship has never been called in question, it will be readily conceded that the enactment will operate in effect as a discrimination against my countrymen whose right to become American citizens has not yet been definitively established.

The Imperial Government, while reserving for future consideration other objectionable features of the enactment in question, desire to have it made entirely clear that they attach the utmost importance to the discriminatory phase of the

legislation in those affairs of ordinary international commercial concern, in which nations usually accord to peaceful and friendly aliens equal treatment either as a matter of comity or by application of the principle of the most favored nation clause.

The sympathetic and accommodating disposition, with which the American Administration has invariably extended its helping hands to the Imperial Government, in the cause of humanity and international good understanding, encourages them in the hope that the present difficulties will be set at rest in a manner worthy of the historic relations of cordial friendship between the two neighboring nations.

Accept, Sir, the renewed assurances of my highest consideration.

註 右抗議書案ノ最初ノ節ニ於テ their urgent and explicit protest ヲアルハ結局 their earnest protest ト改メラレタリ其ノ事由ニ付テハ後出二四一文書參看

尙右抗議書ハ五月十日附ヲ以テ提出セラレタリ

ルニ外ナラスト答ヘタリ第二回会見ニ於ケル彼我ノ談話ハ主トシテ往電第一三十七号具報事項ニ係ハリ本件ニ関スル米國政府ノ向後ノ方針ニ関シテハ本日ノ閣議ニ於テ未タ決定ヲ見ルニ至ラザリシ趣ヲ以テ何等の確ノ陳述ヲ聞取ルコト能ハサリシガ同官ノ語調及態度ハ第一回会見ノ際ニ比スレハ著シク悲觀的ナリシ事實ヨリ見レハ商議ノ模様ハ同官ノ立場ニ取り頗ル不利ノ形勢ヲ呈シタルモノナルヤニ察セラ

二二九 五月十日 在桑港沼野總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法制定前ノ借地契約等ノ効力ニ関シ法
律家ノ意見ヲ徵スル為ノ報酬ニ付稟申ノ件

第一七七号

「ウェップ」土地法制定前日本人ノ契約セル三年以上ノ借地契約及年賦払込土地売買契約ハ該法実施後ト雖有効ニ存続スヘキハ論ヲ俟タスト思考スルモ当地日本人ノ動搖狼狽ヲ未然ニ防ク為有力ナル法律家ノ意見ヲ徵シ之ヲ日本人会ヲシテ発表セシメタシ尙右ノ外同法ト關聯スル法理上ノ疑

二三八 五月十日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法案ニ對スル抗議書ニ関シ國務長官ト
会見模様報告ノ件

第一四〇号

五月九日國務長官ト第一回ノ会見ニ於テハ本使ハ先ツ往電第一三十七号前段ニ掲クル理由ニ依リ正式抗議書ヲ提出スルコト能ハサル次第ヲ述べ且曩ニ送附シタル草稿写ハ其實質ニ於テハ正式抗議書ト齊シク見做シ本日ノ閣議ニ於テ右ニ基キ審議セラルルモ差支ナキ旨ヲ告ケタル末本件ニ関シ從來屢次陳弁セル事由ノ要領ヲ繰返シテ抗議ノ趣旨ヲ敷衍シ尚排日法案ガ合衆國ノ憲法修正第十四條第一項末段ノ保障ニ違反スルニアラスヤトノ点ニ付注意ヲ促シタルニ同官ニ於テハ州權ノ獨立關係ガ本問題ノ解決ヲ困難ナラシムル事情及加州ニ於ケル事態ニ對シ何等解決ノ方法ヲ求ムルノ必要等ニ関シ縷述スル所アリタルモ之ヲ綜合スルニ前來屢々本使ニ語リタル所ヲ繰返セルニ過キス之ヲ要スルニ加州ヨリ歸來後ノ同官ノ態度ハ以前ト毫モ異ナル所ナキカ如シ又憲法第十四條第一項ニ関シテハ同官ハ篤ト其適用ノ範圍ヲ攻究スヘキモ該條項修正ノ本旨ハ畢竟黑人ヲ目的トシタ

義ニ関スル鑑定ヲモ徵シタキニ付報酬千五百弗内外ノ見込ニテ法律家ヲ雇入方御許可相成リタシ尙日本人會ハ該法ヲ和文ニ反訳シ法律上權利ノ保證確實ナル諸点ヲ説明シタル印刷物ヲ各支部ニ配付シ又新聞ニモ發表シ人心鎮撫ニ努メ居レリ

二四〇 五月十日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法ニ對スル米國法廷提訴ニ関スル調査
ハ知事署名問題解決迄見合方稟申ノ件

第一四一号
(註)
貴電第九七号ニ関シ

本件精査ハ何ノ途専門家ノ手ニ掛クル必要アル所「カリフォルニア」州土地法ハ縱令知事署名ヲ經ルモ同州憲法ノ規定ニヨリ議會閉會後九十日ヲ經過セサレハ効力ヲ發生セサルニ付當館及「チューピン」調査ニ依レハ右期日前ニ於テハ「テスト、ケース」ヲ提起スルノ途ナシト認メラレ從テ本件研究實際ノ効果モ右期日以後ノ問題ニ屬スル次第ト思考セラル然ルニ若シ調査ヲ急クタメ此ノ際當館ヨリ此ノ

種ノ調査ニ従事スル事実外間ニ洩ルルトキハ我ニ於テ進ンテ「テスト、ケース」ヲ提起スルノ意嚮ヲ有スルガ如キ誤聞ヲ伝播セシムル虞アリ斯クテハ我交渉ニ対シ米國政府ヲシテ多少責任軽減ヲ自覺セシムルガ如キ不利益ヲ招ク懸念モアルニ付尠ナクトモ知事署名問題解決迄ハ外部ヘノ諮問ハ之レヲ見合セタシト思考ス右ニテ差支ナキヤ

註 前掲二一六文書

二四一 五月十日 在米國珍田大使ヨリ
加州土地法ニ対スル抗議書國務長官ニ手交ノ件

第一四二号

往電第一三七号ニ関シ

五月十日國務長官ニ面会シテ往電第一三八号ノ公文ヲ手交シ其ノ末尾ノ一節ハ本使ノ責任ヲ以テ曩ニ同官ニ内示セル原案ニ變更ヲ加ヘタルモ之レ全ク文句ノ修正ニ止マリ我請求ノ目的ハ依然今回ノ法案実施ヲ防止スルニアル旨ヲ明確ニ言明シタル所同官ハ全文通読ノ上右字句ノ修正ニ満足ノ

二四二 五月十日 在米國珍田大使ヨリ
加州土地法ニ対スル抗議書ニ関シ加州知事ヘ電

照ノコトニ決定ノ旨國務長官ヨリ電話ノ件
第一四三号

五月十日夕刻國務長官ノ電話ニ依レハ往電第一三七号書方修正ハ大統領ニ於テ頗ル満足ノ意ヲ表シ此際加州知事ヘ電報ニテ照会スルコトニ決シタル趣ナリ依テ本使ハ右電報ハ何時頃發送セラルヘキヤヲ問ヒタルニ國務長官ハ電文案ハ今ヨリ起草セラルル筈ニテ明日カ明後日迄ニハ發送ノ遲ヒニ至ルヘシト答ヘタリ不取敢報告ス

二四三 五月十一日 牧野外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛 (電報)

加州土地法ニ対スル抗議書公表問題ニ付回訓ノ件

第一〇六号

貴電第一三七号末段ニ関シ抗議書ヲ發表スルト否トノ利害ハ当方ニ於テ考究中ナルノミナラス閣員モ其全文ヲ視ズ殊ニ未タ御手許ヘモ差出シ居ラサル次第ニシテ其以前ニ米國

意ヲ表シ帝國政府ノ希望ハ同官ノ能ク了解シ居ル所ナル旨ヲ述ヘ尚冒頭ノ一節中ニ urgent and explicit protest アルハ実ハ昨日閣議ニ於テ問題トナリタル字句ノ一ニシテ中央行政部ニ在リテハ素ヨリ日本國政府ノ友好的態度ニ付何等疑念ヲ懷クモノナキモ追テ本文發表ニ至ラハ此ノ一句ハ或ハ物議ヲ生シ恰モ最後ノ通牒ノ意義ヲ暗示スルカ如キ曲解ヲ試ムル者ナキヲ保シ難シトノ意見モアリタリト語レルニ依リ本使ハ右ノ字句ハ日本國力如何ニ本件ヲ重要視スルカラ示スモノニシテ何等危険ナル意義ヲ含ムモノト解スルノ謂ハレナキコトヲ弁明シタルニ同官ハ之レヲ首肯シ右公文ハ直チニ大統領ニ提出スヘキ旨ヲ答ヘタリ大統領ニ於テ如何ナル意見ヲ有スルヤ未タ豫斷シ難キモ若シ尚右 urgent and explicit ノ字句カ衆人ニ誤解ヲ与フル虞アルモノト認ムルニ於テハ必スシモ強テ字句ノ末ニ拘泥スルノ必要ナキコトト思考スルニ付國務長官ノ談話中暗示セルカ如ク earnest ト改ムル考ナリ

右御含アリタシ

ニ於テ發表セラル、如キコトアリテハ穩当ナラサルニ付當方ヨリ何分申進スル迄ハ發表ノ件決定ナキ機其筋ト打合セ置カレタシ又貴電一四一号ノ件ハ御意見ノ通ニテ差開ナシ

二四四 五月十一日 在米國珍田大使ヨリ
加州土地法ニ対スル抗議書ノ公表期日至急決定

方稟請ノ件
第一四五号

貴電第一〇六号ニ関シ御承知ノ通當國ノ実狀トシテ正式ニ提出セラレタル抗議書ヲ久シク秘密ニ附スルコト到底行ハレ難ク又中央行政部カ右抗議ノ要点ヲ加州知事ニ通知セントスルニ当リ日本國政府ニ於テ之ヲ阻止スルコトハ不必要且ツ不得策ト思考ス既ニ一旦知事ニ通知スルニ至ラハ知事ハ直チニ之ヲ發表スヘキコトヲ覺悟セサルヘカラス國務長官モ右發表ノ期日ニ関スル日本國政府ノ都合ニ付テハ其後再三問合セノ次第モ有之本使ハ貴訓貫徹ニ尽力スヘキコト勿論ナルモ以上ノ事情御高察ノ上可成速カニ期日御決定御電報相成タシ

二四五 五月十一日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

「ウェップ」案五月十日加州知事へ送達ノ件

第一七八号

「ウェップ」土地案ハ五月十日附ニテ十一日朝知事ノ手許
ニ廻附サレタリ

二四六 五月十二日 牧野外務大臣ヨリ
在米国珍田大使宛(電報)

加州土地法ニ対スル抗議書ノ發表当分見合方回

訓ノ件

第一〇七号

貴電第一四五号ニ付キ抗議書ヲ直ニ發表スルハ我内政上本
件ニ関スル影響面白カラサル恐アルノミナラス問題ハ目下
懸案中ニ屬スルモノナルニツキ旁当分ノ間發表ヲ見合セ置
キタキ切望ナルニヨリ米国政府ニ於テモ我カ見地ヲ諒セラ
レ同政府及加州知事ニ於テ同様秘密ヲ守ル様米国政府へ御
申入ノ上何分電報アレ但相当時期ニ到リ發表スル場合ハ貴
電ノ通り同時ニスルハ極メテ必要ナリ又貴電第一四四号ノ

ナク要スルニ何等確定ニ至ラス但シ從來知事ノ態度ニ徴ス
ルトキハ如何ニ強キ句調ヲ以テ之ニ臨ムモ到底知事ヲ動
カスニ足ラサルコトト思ヘル從テ今回ノ電報ハ只中央政府
トシテ尽スヘキ手續ノ一階段ニ過キスト語レルニ付本使ハ
帝国政府ハ中央政府カ知事ノ非認可ヲ請求セラレンコトヲ
希望スルモノナルカ故ニ此希望ニシテ結局貫徹スルノ見込
ナシト云ハルハ頗ル失望スル所ナリ事茲ニ至レハ中央政
府ハ大体如何ナル方針ヲ採ラルヘキヤト重テ質問シタルニ
同官ハ本法案カ知事ノ署名ヲ了スルニ至ルモ中央政府ノ努
力ハ素ヨリ其時機ヲ以テ終結スルニアラス將來ノ方針ニ至
リテハ未タ一定ノ成案ヲ得ス更ニ攻究ヲ遂ケ追テ本使トモ
商議スル所アルヘシト答ヘタリ

尚同官ハ之ニ次キ談話中「レファレンダム」ニ言及シタル
ヲ以テ本使ハ今日ノ時局ニ際シ「レファレンダム」ノ方法
ニ依リ直接ニ民意ヲ問フカ如キハ偶々双方人民ノ激昂ヲ挑
発スルノミニテ遂ニ満足ノ結果ヲ期シ難キコトナルヘキ旨
一己ノ意見トシテ述ヘタルニ長官ハ之ニ同感ノ意ヲ表シ実
ハ自分ハ過日加州滞在中「レファレンダム」説ヲ述ヘタル
コトアリシガ其後再考ノ上本使ノ指摘シタルカ如キ危険ア

件ハ御意見通り取計ハルベシ

註 後掲五一九文書

二四七 五月十二日 在米国珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

國務長官ハ我対米抗議書ノ發表見合ニ同意並加
州知事宛電報ノ要旨「レファレンダム」及法廷

提訴問題ニ付談話ノ件

第一四六号

往電第一四三号ニ関シ五月十一日國務長官ヲ其私邸ニ訪ヒ
先ツ貴電第一〇六号ノ趣旨ヲ略述シ追テ帝國政府ヨリ申出
アル迄抗議書ノ發表ヲ見合サンコトヲ求メタルニ同官ハ之
ヲ承諾シタリ尚本使ノ問ニ応シ内話セル所ニ依レハ今回加
州知事ニ宛テラルヘキ電報ノ要旨ハ抗議書記載ノ大体論ニ
基キ知事ノ反省ヲ促スニアリトノコトナルニ付本使ハ帝國
政府ノ希望スル如ク又昨今新聞紙上ニ散見スルカ如ク果シ
テ知事ノ非認可ヲ請求セラルル意嚮ナリヤト問ヒタル所同
官ハ成ルヘク強キ語句ヲ以テ右反省ヲ求ムル筈ナルモ其ノ
語句ハ目下立案中ニテ又豫メ大統領ノ同意ヲ經タルコトモ

ルニ心附キ昨日閣議席上ニモ「レファレンダム」ノ結果却
テ過激ナル排日案ヲ見ルノ虞アリトノ説モ出デタル旨ヲ
告ケ又今回ノ法案ノ合衆國憲法違反ヲ法廷ニ争フノ考案ナ
キニアラサルモ果シテ違憲ナリヤ否ヤハ行政部トシテ断言
スルコトヲ得スト語レリ終リニ臨ミ長官ハ本件ノ解決ハ尚
時日ヲ要スル次第ナルガ加州議會ノ行動ハ米國一般ノ輿論
ヲ代表スルモノニアラサルコト及加州内ニ於テモ日本ニ凌
辱ヲ与フルノ意ナク畢竟經濟政策問題ニ止マルコトハ日本
國政府ヨリ篤ト國民ニ説得セラレタキ旨ヲ述ヘタルニ付本
使ハ右第一ノ点ハ日本ニ於テ能ク之ヲ了解シ尚政府ヨリモ
其趣意ヲ以テ人心慰撫ヲ試ムルヲ辭セサルヘシト雖第二ノ
点ニ至リテハ到底日本人ヲ承服セシムルニ足ラスト思考
スル旨答ヘ置ケリ尚長官ハ知事ヘノ電報ヲ發送スルコト、
セハ其写ハ新聞社ニ与フルニ先チ本使ニ通知スヘキ旨ヲ約
束シタリ

二四八 五月十二日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛（電報）

加州土地法ニ関シ國務長官ヨリ同州知事宛電報

報告ノ件

No. 147.

Secretary State addressed May 11th following telegram to Governor Johnson:—

President directs me express his appreciation your courtesy in delaying action on land bill now before you until its provisions could be communicated Japanese Government and considered by it. Baron Chinda has on behalf his Government presented earnest protest against measure. As you have before you but two alternatives, viz to approve or to veto, it will avail nothing to recall your attention amendments suggested to legislature and as President has already laid before you his views, it is unnecessary reiterate them. He passes over questions affecting treaty rights for two reasons, first because bill passed by legislature is avowedly intended conform treaty obligations and second because any conflict complained would be matter for courts, but President feels justified

expressing again his desire that action be deferred for this session, and he expresses desire more freely because legislature can be reconvened any time if welfare of State requires it. He is fully alive to importance of removing root of discord which may create antagonism between American citizens and subjects of oriental nations residing here, but he is impelled by sense of duty to express hope that you see fit to allow time for diplomatic effort. Nations affected by proposed law are friendly nations that have shown themselves willing cooperate in establishment of harmonious relations between their people and ours. If postponement commends itself to your judgment, President will pleased cooperate in systematic effort to discover and correct any evils that may exist in connection land ownership by aliens.

Chinda

（右和訳文）（註 外務本省作成）

第一四七号

國務長官ハ五月十一日加州知事「ジョンソン」氏ヘ左ノ電報ヲ発セリ

目下貴官ノ手許ニ在ル土地法案ノ條項ヲ日本政府ニ通告シ其考量ヲ經ル迄ノ内之ニ対スル措置ヲ延期セラレタル貴官ノ好意ニ対シ大統領ハ感謝ノ意ヲ表スルモノナリ珍田男ハ該法案ニ対シ日本政府ノ熱誠ナル抗議ヲ提出セリ此際貴官ノ執ルヘキ方法ハ同法案ヲ裁可スルカ或ハ之ヲ拒否スルカ二者其一ツ択フノ外ナキヲ以テ曩ニ立法部ニ提言シタル修正ニ付更ニ貴官ノ注意ヲ喚起スルモ何等益スル所ナカルヘク又大統領ノ意見ハ既ニ貴官ニ提出セラレタル所ナルヲ以テ茲ニ之ヲ繰返スノ必要ナシ大統領ハ條約上ノ權利ヘ影響スル問題ハ左ノ二個ノ理由ニ依リ此際之ヲ提起セサルヘシ即チ

第一、立法部ノ通過シタル法案ハ條約上ノ義務ニ違反セサル主意ニ出テタルコトヲ標榜セルコト

第二、右法案ノ何等條約ニ抵触ストセル問題ノ提起セラレタルトキハ裁判所ニ於テ之ヲ決スヘキモノタルコト

是ナリ然レトモ大統領ハ右法案ニ対シ何等ノ措置ニ出ツルコトヲ今開會期中丈ハ猶豫センコトヲ茲ニ再ヒ希望スルノ敢テ不当ナラサルヲ感スルモノナリ特ニ州ノ安危之ヲ必要トセハ何時ニテモ再ヒ立法部ヲ召集スルヲ得ヘキ

ヲ以テ大統領ハ一層遠慮ナク此希望ヲ表白スルモノナリ大統領ハ米國人ト当國在任東洋諸國人トノ間ニ敵対心ヲ誘起スヘキ不和ノ原因ヲ除去スルノ必要ヲ十分感知ス只外交上ノ折衝ノ為スニ時日ヲ以テセンコトヲ希望スルハ職責上已ムヲ得サルモノアリト信ス蓋シ今回ノ法律ニ依リ影響ヲ被ムルヘキ各國ハ何レモ從來其國人民ト當國人民トノ和諧の關係ヲ存続スルニ協力ヲ咨マサル友好國ナリ故ニ措置延期ノ件貴官ノ容ル、所トナルニ於テハ外國人土地所有ニ關聯シ存スルコトアルヘキ何等ノ害惡ヲ發見シ之ヲ矯正スル為共ニ秩序的斡旋ヲ為スハ大統領ノ辭セサル所ナリ

右依命申進ス

二四九 五月十四日 牧野外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛（電報）

國務長官ノ加州知事宛電報ニ関シ問合ノ件

第一〇八号

貴電第一四六号及一四七号ニヨレハ大統領ハ知事ニ対シ我抗議ノ大体ヲ示シタルノミノ趣ナルガ右ハ当方ニ於テハ無

論全部ヲ示サル、モノト豫期セシノミナラスクスレハ知事ノ反省ヲ促スニ多少ノ効果アルヘシト信スル所大統領ニ於テ故ラニ全部ヲ示サルハ如何ナル理由ニヨル儀ナリヤ其間ノ消息電報アレ

二五〇 五月十四日 在桑港沼野總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州議會閉会ノ件

第一八〇号

既報ノ通加州州会ハ五月十二日正午ヲ以テ閉会期ト定メタルモ事實上同時刻ニ事務ヲ終了スルコト能ハス議場内ノ時計ヲ止メ依然十二日午前中トシテ議事ヲ継続シ十三日午後十一時ニ至リ五月十二日正午ノ名義ニテ閉会セリ

二五一 五月十四日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

新任英國大使來訪ノ上加州土地法問題ニ関連シ

英國側ノ所見陳述ノ件

第一五二号

五月十三日新任米國駐劄英國大使「スプリング、ライス」

本問題ノ前途ニ對シ幾分カ憂慮スル所アリ本件ニ關スル同政府ノ態度ヲ豫メ間接ニ我ニ暗示セントスル意嚮アルカ如ク揣摩セララルル廉ナキニアラサルニ付為念御參考迄ニ申進ス

二五二 五月十四日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

國務長官ノ加州知事宛電報ニハ不満ナルモ其儘

トシ置キタル理由竝土地法案成立後ノ對策ニ關

スル件

第一五四号

五月十一日國務長官知事宛電報中我ニ取り不満足ナルモノ二点アリ第一抗議ノ要点ニ涉リテ知事ノ反省ヲ促ス処置ニ出テサリシコト第二若シ本案延期ノコトニ決スルトキハ外國入土地所有ニ伴フ弊害ニ對シテハ中央政府ニ於テ外交手段ニヨリ之ヲ匡正スルノ意アル旨ヲ言スルコト之ナリ右第二ノ点ハ國務長官カ五月十一日本使會見ノ際何等言及セサリシカ其影響スル所極メテ重大ニシテ萬一知事ニ於テ中央政府ノ希望ニ応シ外交手段ヲ以テ本件立法ノ目的ヲ達セシコトヲ條件トシテ本案不認可ニ同意スル如キコトアラハ

來訪余談ノ末加州問題ニ言及シ從來米國カ列國ニ對スル條約違反ノ行為ヲ敢テスル例ハ決シテ尠ナカラス歐洲諸國中其ノ災ニ掛ラサルモノ殆ント之レナキ位ニテ現ニ英國ニ關シテハ巴奈馬運河通過料問題懸案トナリ居ルアリ然レトモ英國ニ於テハ如何ナル事件ノ下ニアリテモ米國ニ對シ干戈ヲ執ルカ如キハ絶対ニ無之方針ナルニ付條約違反ノ行為ニ對スル同國々情ノ已ムヲ得サルモノトシテ冷静ニ之レヲ觀察シ他ノ一方ニ於テ相當ナル報復手段ヲ講スルヲ最モ得策トナシ居ル次第ヲ述ヘ我ノ加州問題ニ對スル方針モ結局何等カ報復手段ニ依リ米國ヲ苦シムル外良策ナカルヘシト論シ更ニ米國ニ限ラス何レノ國ニ於テモ外國移民カ農業地ニ根底ヲ固ムルコトヲ好マサルハ自然ノ形勢ナルヘシトノ旨ヲ申述ヘタリ之レニ對シ本使ハ本件カ單純ナル經濟問題又ハ條約問題ニ止マラス其ノ沿革及目的ニ徴シ國民の名譽問題ヲモ包含スル所以ヲ説明シ置キタリ右ハ過般同大使カ未タ國書捧呈ノ手續ヲ了セサル際本使ニ對シ非公式會見ヲ求メテ雜談的ニ陳述シタル所并ニ曾テ前任大使時代ニ「インネス」參事官カ反覆幣原ニ語レル所ト同趣旨ニシテ英國側ニ於テ斯クノ如ク再三之レヲ繰返ス点ヨリ考フレハ右ハ或ハ英國大使一己ノ私論ニ止マラス英國政府ニ於テモ

果シテ帝國政府ニ於テ我利權ヲ毀損セサル方法ヲ以テ右趣意ニ基ク宣言又ハ協定ヲナス途アルヤ又假令之アリトスルモ全然加州議會及知事ノ満足ヲ得ルコトハ到底其望ナカルヘク事茲ニ至ラハ知事ハ何時ニテモ臨時議會ヲ召集シテ更ニ激烈ナル法律ヲ制定スルノ手段ヲ執リ今日ヨリモ一層難局ヲ生スルコトアルヲ覺悟セサルヘカラス從テ本使ハ此際前記ノ條件附延期ヨリ寧ロ知事ノ執拗ニ中央政府ニ反抗スルヲ以テ我將來ノ立場ニ便ナリトシ右第一点ニ對シテモ不満足ヲ唱フルコトハ暫ク之ヲ差控ヘ今後時局ノ發展ヲ注視スルコトセル次第ナリ

追テ愈々本案成立ノ上ハ先ツ中央政府ヲシテ我要求ニ依ラスシテ自ラ任意ニ法廷ニ出訴シ本法ノ無効判決ヲ求メシムル様ニ仕向ケ以テ他日日本側ニ不利ナル判決アル場合ニ於テ我ニ對スル米國政府ノ責任解除セサルノ豫防策ヲ講シ置キ若シ右判決不利ナレハ帰化權問題ヲ提出シ以テ帝國臣民ヲシテ本法偏頗待遇ノ適用ヲ免カレシムル方法ヲ執ルヲ得策ト思考ス尤モ此方針ニ依ルトキハ問題ノ解決遲延スルヲ免カレサルヘキモ之ヲ除キテ差當リ適當ノ策アルヲ認メ難キニ付篤ト御考量ノ上何分ノ義御電訓ヲ請フ

二五三 五月十四日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

國務長官ノ加州知事宛電報ニ関シ回答ノ件

第一五五号

貴電第一〇八号ニ関シ中央政府ヨリ知事ニ我抗議書ヲ送附スルトキハ到底秘密維持ヲ保シ難キハ國務長官ノ豫テ本使ニ語レル所ニシテ由来知事ノ態度ハ成ルヘク中央政府ヲ窮地ニ陥レ以テ党争ノ利ヲ占メントスルニアルニ顧ミ帝國政府ニ於テ本邦内政上ノ事情ニヨリ右抗議書發表ヲ不得策トセラルル以上ハ當國政府ヨリ知事ニ對シテモ其全文ヲ通報セサルコトスルノ外ナク且往電第一四六号本使カ國務長官ト五月十一日会见當時ハ未タ貴電第一〇七号ニ接セザリシヲ以テ当日会见ニ際シテハ本使ハ閣下ニ於テ右知事ニ對スル全文ノ通報ヲ希望セラレサルモノト推測シ國務長官カ單ニ抗議ノ大体論ニ基キテ知事ニ照会セントスルノ意志ナル旨ヲ述ヘタルニ對シ異存ヲ唱ヘサリシ次第ナリ然ハニ同夜國務長官カ大統領ト協議ノ結果知事ニ宛テタル電報ヲ見ルニ我抗議ノ要点サヘ示サス本使ノ諒解トハ少シク異ナル所アルニ付其内情ハ國務長官ニ会见ノ上探聞ヲ試ムル考ナリシモ未タ会见ノ機ヲ得サル次第ナルカ成ルヘク速ニ右

sponsible. Call attention immigration law now pending Congress which contain terms eligible etc. without protest. Three States enacted similar laws without protest. We insist no nation justly offended more particularly Japan who prevents aliens acquiring land. I voice sentiment majority state legislature.

Numano

註 加州憲法第十九條第四節(即チ沼野總領事代理來電中ニハ省略セラルタルモ加州知事ヨリ國務長官宛電報ニ於テ引用セラルンモノ)ノ正文左ノ通り

Article XIX

Chinese

Immigration of Foreigners Ineligible to Citizenship Discouraged

Section 4. The presence of foreigners ineligible to become citizens of the United States is declared to be dangerous to the well-being of the State, and the Legislature shall discourage their immigration by all the means within its power. Asiatic coolieism is a form of human slavery, and is forever prohibited in this State, and all con-

探聞ヲ努ムヘシ

二五四 五月十四日 在桑港沼野總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法ニ関シ同州知事ノ國務長官宛返電報

告ノ件

No. 182.

Gogatsu juushichi gogo chiji wa Kokumuchokan ate saki yooroo no toori henden seri;—

For years grave problem little understood in East confronted California. Present constitution adopted thirty years ago contains following kashu-ukempoo article (註) nineteen section four inyoo.

Of late agitation continuous regarding agricultural lands, finally action solution become imperative passed alien land bill. Objection based first upon treaty obligations second assertions offensive discriminatory law embody treaty add lease agricultural lands. Extraordinary care exercised preserve honor good faith international contract not violate treaty rights. If discrimination ever made not California but Federal legislature re-

tracts for coolie labor shall be void. All companies or corporations, whether formed in this country or any foreign country, for the importation of such labor, shall be subject to such penalties as the Legislature may prescribe. The Legislature shall delegate all necessary power to the incorporated cities and towns of this State for the removal of Chinese without the limits of such cities and towns, or for their location within prescribed portions of those limits, and it shall also provide the necessary legislation to prohibit the introduction into this State of Chinese after the adoption of this Constitution. This section shall be enforced by appropriate legislation.

(右和訳文)(註 外務本省作成)

第一八二号

五月十四日午後知事ハ國務長官宛左記要領ノ通返電セリ加州ハ多年ノ間東部地方人民ノ知ラサル重大ノ問題ヲ控ヘタリ三十年前ノ制定ニ係ル加州憲法中ニハ実ニ左ノ如キ規定アリ

合衆國ノ市民タルコトヲ得サル外国人ノ在留ハ当州ノ福

社ニ危険ヲ及ホスモノナルヲ以テ立法部ハ其権限内ニ有
スル凡ユル手段ヲ以テ之カ移入ヲ防遏スヘシ重細重苦力
ハ奴隸ノ一種ニシテ当州ノ永久ニ禁止スル所ナリ而シテ
苦力労働ニ関スル一切ノ契約ハ無効タルベシ斯種労働ノ
移入ヲ目的トスル会社ハ其当国内ニ於テ組織セラレタル
モノト外国ニ於テ組織セラレタルモノトヲ問ハス総テ立
法部ノ制定スル所ニ依リ処罰セラルルモノトス立法部ハ
当州内ノ市又ハ町ニ委任スルニ其管轄地域外ニ支那人ヲ
退去セシメ又ハ該地域内一定ノ部分ニ之ヲ隔在セシムル
ニ必要ナル一切ノ権限ヲ以テスヘシ且立法部ハ本憲法採
用後支那人ノ当州ニ移入スルヲ禁止スル為必要ナル法律
ヲ制定スヘシ

近年ニ至リ農業用土地ニ関スル喧騒絶ニル間ナク遂ニ解決
手段ヲ講スルノ必要ニ迫リ此ニ外国人士地所有法案ヲ通過
シタルモノナリ之ニ対シ第一條約上ノ義務ニ違背シ第二忌
ハンキ差別的待遇ヲ設クルモノナリトノ異議アルモ該法ハ
條約上ノ規定ヲ包容スル上ニ農業用土地ニ関スル賃借ノ一
項ヲ附加シタルモノニシテ國際契約ノ名譽信義ヲ保持シ
條約上ノ權利ヲ侵害セサルニ就テハ非常ノ注意ヲ用キタル
モノナリ若シ差別的待遇ニシテ設ケラレタリトセハ其責ハ

異存ナキ限り直ニ其全部ヲ知事ニ示サル、様申入アリタシ
尚ホ本件ハ懸案中ノ問題ニツキ知事ニ於テ当分ニテ秘密ニ
附シ置クコトニ注意アル様致シタシ尤モ右注意ニ拘ラス知
事ニ於テ之ヲ公表スルトモ不得止コトトイフノ外ナカルヘ
シ

二五六 五月十五日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
加州上院ニ於ケル「ウェップ」土地法案討議速

記録送付之件
（六月二日接受）

機密第八号
大正二年五月十五日

在桑港

総領事代理 沼野 安太郎（印）

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

下院ニ於ケル「ウェップ」土地案討議速記録ニ関シテハ五
月九日附機密第六号ヲ以テ已ニ及御送附候処今回同様ノ方
法ニ依ル上院當時ノ速記録入手致シ候ニ就テハ右一部茲ニ
及御送付候條御査閱相煩度此段申進候 敬具

追而上院ニ於ケル「ウェップ」土地案討議速記録ハ記事

加州ニ在ラスシテ中央政府立法部ニ存スヘシ現ニ目下中央
議會ニ懸案中ナル移民法中ニハ「帰化シ得ル」云々ノ語ヲ
存シテ何等ノ異議ヲ生セサルモノノ如シ加州以外三個ノ州
ハ已ニ同様ノ法律ヲ制定シテ異議ヲ招カサリキ吾人ハ何レ
ノ國民ト雖本法ニ対シ発怒スヘキ正当ノ理由ヲ有スヘキ筈
ナント主張スルモノナリ況ンヤ自ラ外国人ニ土地所有ヲ許
ササル日本ニ於テオヤ余ノ言フ所ハ当州立法部多数ノ感想
ヲ代表スルモノナリ

註 右和訳文ハ加州憲法第十九条第四節ノ正文ガ沼野総領
事代理來電中ニ現実ニ挿入セラレアルモノト看做シ作
成セラレタリ

二五五 五月十五日 牧野外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛（電報）

加州土地法ニ対スル我抗議書全部ヲ加州知事ニ
内示スル様米國政府ニ申入方訓令ノ件

第一〇九号

貴電一五五号ニ関シ當方ニ於テ抗議ノ内容ヲ秘密ニ附シ置
クヲ希望スルハ勿論ナルモ其全部ヲ知事ニ示スコトハ知事
ノ反省ヲ促ス為メ必要ト認ムルニツキ米國政府ニ於テ特ニ

ニ多少脱漏ノ点有之且決議文及修正動議ノ要旨等モ亦記
載無之次第ニ候ヘバ右様御了承有之度尚又曩キニ及御送
付候下院ニ於ケル「ウェップ」土地案討議速記録ニ関シ
テハ記事ノ内容上院ノソレニ比シ脱漏極メテ多ク加フル
ニ発言者ノ氏名ノ記載ナキモノアリ時トシテ又発言者ノ
氏名ニ誤記アルモノサヘ発見セラル、次第ニテ其等ノ結
果トシテ下院ニ於テハ排日的上院ニ比シ過激ヲ極メタル
有様ナリシニモ係ラズ其真相ヲ其儘ニ伝フルコト能ハザ
ラシメタルハ残念ノ次第ニ候條是亦御査閱ノ際御含迄前
信補遺トシテ申添候

註 速記録省略

二五七 五月十五日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛（電報）

抗議書ノ全部ヲ加州知事ニ示サザル理由ニ付国
務長官代理説明ノ件

第一五六号

往電第一五五号末段及貴電第一〇九号ニ関シ國務長官地方
出張中ニ付五月十五日朝「モーア」氏ヲ訪ヒ本使ニ於テハ
中央政府力勤クトモ我抗議ノ要点ヲ知事ニ申送ラルヘキコ

トト豫期シ居リタルカ國務長官知事宛電報中ニハ右要点サ
ヘ示サレサリシハ本使ノ失望スル所ナル旨ヲ述ヘ尚知事ニ
於テ未タ法案ノ署名ヲ了セサル事實ヲ指摘シテ貴電第一〇
九号帝國政府ノ希望ヲ説明シ是等ノ点ニ付成ルヘクハ大統
領ニ謁見ヲ遂ケタク若シ其ノ都合付カサルニ於テハ「モー
ア」ヨリ大統領ノ意嚮ヲ確メ本使ニ通報アラシコトヲ求メ
タル所「モーア」氏ハ大統領ノ命ニヨリ同日午後本使ニ対
シ大統領ハ本日本使ヲ接見スルノ繰合付カサルコトヲ述
ヘタル上右抗議ノ内容ヲ知事ニ示ササリシ理由ハ第一抗議
ノ主要論点ハ既ニ「ブライアン」氏ヨリ再三知事ニ切言ス
ル所ニ係ル事第二今般更ニ之レヲ繰返スハ徒ラニ「カリフ
オルニア」州人ノ反抗ヲ甚シカラシムルニ止マリ何等実益
ナカルヘキコト第三國際問題ヲ処理スルハ中央政府ノ権限
ニ專屬シ加州官憲ヲシテ外交文書ニ付容喙論議セシムル機
会ヲ与フルヲ好マサル事之レナリト答ヘ既ニ知事ハ中央政
府ノ勸告ヲ容レヌ法案ニ署名ノ意志ヲ回電セル今日ニ於テ
ハ假令我抗議ノ全文ヲ示スモ其ノ実益ナキコト一層明瞭ト
信スル旨ヲ語レリ

二五八 五月十六日 牧野外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛(電報)

我抗議ヲ加州知事ニ示ス様申入方指令ノ件

第一一〇号

貴電一五四号ニ関シ此際ノ処置トシテハ兎ニ角我抗議ヲ知
事ニ示ス様申入レラルヘシ委細追テ電報致スベシ

二五九 五月十六日 在桑港沼野總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州知事ノ國務長官宛返電ノ末尾追報ノ件

第一八三号

知事返電ハ十四日夕刊新聞ニ發表ノ儘往電第一八二号ニテ
要領報告シタル所十五日入手全文ニ依レハ右ハ返電ノ末尾
ヲ缺クモノナルヲ發見セルニ依リ其末尾全文左ニ追電ス尚
大使ヨリ知事返電全文閣下ヘ電報方申越サレタルモ全文ハ
千五百語以上ノ長文ナルノミナラス要領前電及本電ノ通ニ
付何分ノ御下命ヲ待シコトノセリ

We of California believe firmly that in our
legislative dealings with this alien land question,
we have violated absolutely no treaty rights. We
have shown no shadow of discrimination. We

have given to no nation right to be justified in
taking offence. So believing with strong reliance
on justice and righteousness of our cause and with
due deference and courtesy with proper considera-
tion for feelings and views of others, we had hoped
authorities at Washington would have seen ques-
tion as we in this state have been forced to see it,
as we must see it or be blind, and with all respect
and courtesy, State of California feels it its
bounden duty to citizens to defend? that which
interests of its people demand, that which con-
science of its people approves, that which violates
no treaty rights, that which presents no discrimi-
nation and that which can give no just cause for
offence.

You have suggested to me delay but this ques-
tion was very earnestly and fully presented by
you to our legislature and legislature determined
to proceed. My province is to approve or disap-
prove law as presented. Our people as represented
in legislature have overwhelmingly expressed
their desire for present alien land bill. Vote in
Senate was 35 to 2 and in Assembly 72 to 3. With

such unanimity of opinion even did I hold other
views, I would feel it in my plain duty to sign
bill unless some absolutely controlling necessity
demanded contrary action. Apparently no such
controlling necessity exists. It is with highest
respect for yourself and President that I feel my
duty to my state compels me to approve action of
legislature.

二六〇 五月十七日 牧野外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛(電報)

加州土地法成立直後ノ善後策及根本的解決策ニ

関シ訓令ノ件

第一一二号

知事署名ノ上ハ貴電第一五四号後段ノ通り米國政府ヲシ
テ直ニ訴訟提起ノ手續ヲ採ラシムル様御尽力相成ル様致度
シ
次ニ本問題ノ根本的解決策ノ一トシテ米國ト「セルビヤ」
トノ條約ニ倣ヒ土地ノ所有權ニ関シ双方ノ國法ニ遵拠シ相
互的ニ最惠國ノ取扱ヲ与フルノ條約ヲ訂結スル意見モ有之

処右ハ「ウェップ」案ノ如ク市民トナリ得ル事ヲ條件トシ又ハ「ワシントン」州ノ如ク帰化ノ意志表示ヲ以テ土地所有權ノ條件トナス州ニアツテハ米國側ニ於テモ種々ノ議論アリテ直ニ最惠國ノ取扱ヲ受クル事能ハサルヘク斯ル條約ノミニテハ到底我目的ヲ洞徹スル能ハス結局根本問題ニ立入り帰化權ヲ收メ以テ本問題ヲ始メ一般排日問題ノ解決ヲ計ルノ外他ニ良策ナキカ如シ尤モ帰化權ヲ得タリトテ必スシモ排日問題ヲ根底ヨリ解決シ得ヘシトモ思ハレス又之ヲ得ルハ決シテ容易ノ業ニアラス

米人中之ニ異論ヲ唱フル者モ随分多カルヘキニ付之カ提議ノ方法時機等ニ関シテハ十分慎重ノ考慮ヲ要スル儀ナルモ米國政府ハ中央議會ニ於テ十分ノ「マジヨリテイ」ヲ有シ居ルニツキ若シ彼レニ本問題ニツキ根本的ニ反對ノ意見ダニナクバ適當ノ時機ニ帰化問題ヲ提起シテ其同意ヲ取付クルコト必スシモ絶望ニハアラサルヘキカト思考セラル閣下ハ大審院ノ判決我ニ不利ナル曉ニ於テ始メテ本問題ヲ提出スルヲ得策トスルノ御意見ナルカ如キモ必スシモ其判決ノ下ルヲ俟ツニ及ハス一面ニ於テ土地所有法ノ理否ヲ法廷ニ爭フト同時ニ他面ニ於テ外交上ノ手段ニヨリ帰化權ヲ獲ル事ニ力ヲ竭シ以テ排日問題ノ解決ヲ求ムルコト毫モ妨

互主義ニ依ルノ公平ナルヲ述ベタルダケニテ其趣意ハ明瞭ナラザルモ或ハ相互主義ヲ基礎トシテ西國間ニ協定ヲ設ケ加州ニ於テ日本人ニ土地所有ヲ禁止スル以上ハ日本國ニ於テモ米國人一般又ハ加州人ニ土地所有ヲ許サザル事トスル意ナランカト云ヘリ本使ハ之ニ對シ果シテ然ラバ是レ名義上ノ相互主義ニ止マリ米國人ニシテ日本ニ農業ヲ經營セントスルモノナキカ故ニ事實上不對等ノ結果ヲ免レズト述ベ置キタリ尚同大使ハ本件ニ付何等尽力スヘキコトモアラバ欣然其勞ヲ辞セズト述ベ今後ノ方針ニ付本使ノ意向ヲ問ヒタルニヨリ本使ハ同大使内密ノ含迄ニ我抗議ノ要点ヲ打明ケ一己ノ所感トシテ當國政府ガ法廷ニ起訴シ本法ノ無効ヲ申立ツルコトハ自然ノ順序ト思考スル旨ヲ語り又同政府ニ於テ日本人ノ帰化權ヲ確定スル措置ヲ執ルコトモ一ノ満足ノ解決方法ナルベシト述ベ右ハ或ハ根本的ニ將來本問題ノ發生ヲ杜絶スルニ足ラザルベキモ當國政府ニ於テ誠意前記ノ目的貫徹ニ努力スルニ至ラバ日本國ニ於テ極メテ良好ナル感觸ヲ生スヘク若シ之ニ反シ當國政府ノ態度冷淡ナルカ如キコトアラバ兩國親交上寒心ニ堪ヘズト説キタルニ英國大使ハ當國政府ガ本法無効ノ訴訟ヲ提起スルコトハ必ズシモ不可ナラザルベキモ帰化權ヲ確定ヲ目的トスル現

ナシト思考ス兎モ角帰化權獲得ニ関スル米國政府ノ意嚮ヲ探クル事今日ノ急務カト思考セラル、ニ付更ニ御考量ノ上御意見電報アリタシ

尚ホ本邦ニ於ケル外國人土地所有ニカ、ル法律ハ相当ノ改正ヲ施スコト自然必要ナルヘキニツキ目下右ニ関シ研究中ナリ

二六一 五月十七日 在米國珍田大使ヨリ 牧野外務大臣宛(電報)

英國大使來訪シテ加州土地法ニ関シ尽力ノ意向アル旨申出デタル件

第一五七号

五月十七日英國大使來訪昨日國務長官ハ同大使ト會見ノ際自ラ進ンデ加州問題ニ言及シ之ニ對シ所見ヲ問ヒタルニ付同大使ハ往電第一五二号本使ノ談話ノ趣旨ニ基キ右問題ハ國交上極メテ重要ナル意義ヲ含ムコトヲ説キタル処長官ハ本件ヲ以テ畢竟一種ノ經濟問題ニ外ナラザルモノトシ加州ニ於テモ何等ノ日本人ヲ劣等人種トシテ之ヲ輕侮スルカ如キ意志ナキコトヲ弁明シタルカ解決方法ニ就テハ只漠然相

行法律改正ハ頗ル困難ナルベシト察ス何レニスルモ同大使一己ノ意見トシテ米國政府當局者ノ内意ヲ叩キ其結果ヲ本使ニ通報スベシト約シタリ

二六二 五月十七日 在桑港沼野總領事代理ヨリ 牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法ノ「レフエレンダム」中止方稟申ノ件

第一八八号

本官發在米大使宛電信左ノ通

第一七九号

往電第一七二号ニ関シ当地「コール」ノ伝フル所ニ依レハ「ベル」ハ「ウェップ」土地案数日内ニ知事ノ署名ヲ終ヘ次第直ニ「レフエレンダム」ヲ提起スヘク既ニ必要ナル文書起草ヲ終リ目下印刷所ニ廻附中ナリ云々ト云ヘリトアリ惟フニ「レフエレンダム」ノ結果ハ日本人ニ一層ノ不利益ヲ惹起スルノ虞アルニ付成ルヘクハ中央政府ヲシテ斯カル舉ヲ中止セシムル機致シタシト存ス御參考迄大臣へ第一八八号ヲ以テ電報ス

二六三 五月十七日 在米國珍田大使ヨリ
加州時局ニ鑑ミ疑惑ヲ招クベキ米國軍事行動中

止ノ旨新聞紙報道ノ件
第一五九号

五月十五日当國陸軍長官ハ海岸防備砲兵二中隊ヲ布哇ニ派遣スル命ヲ發シタル由ナルカ右ハ前行政部時代ニ陸軍大臣ノ報告シタル豫定計畫ヲ遂行シタルニ過キスシテ素ヨリ加州時局トハ關係ナキ趣ノ処又々装甲巡洋艦「メリーランド」号「サンデイエゴ」ヨリ桑港ニ回航スルコトナリタルノ報アリ為ニ是等ノ事實ヲ曲解シ不穩ノ風説ヲ伝フルモノアルヘキヲ慮リ大統領ハ此際何等加州時局ト關係アルカ如キ疑惑ヲ招ク陸海軍行動ハ一切之ヲ中止スルコトト決シタル旨新聞紙上ニ見ユ

二六四 五月十七日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

日本人ニ帰化權許与ニ反対スル上院議員ニ関シ
新聞報道ノ件

カ條約ノ主義及明文ニ牴觸スルノミナラス國內法ノ問題トシテモ憲法ノ條章ニ違反セル所アリト思惟スル旨ヲ述ヘ又加州ノ実況ニ照スモ日本人カ經濟上白人ト競争スルモノニアラサルコトヲ詳細説明シタルニ同官ハ若シ條約違反ノ廉アリトスレハ關係個人ヨリ私法上ノ救済ヲ求ムル外ナカルヘシト云ヘリ右ニ對シ本使ハ往電第一四六号會見ノ際ニ於ケル同官ノ談話ヲ援用シ追テ本件解決ノ処置ニ付テハ本使ニ協議スル所アルヘキコト、了解シ居ル次第ナルカ若シ利害關係個人ノ出訴ニ任スヘクトノコトナラハ之レ當然個人ノ權利ニ屬スルコトニシテ米國政府ノ措置ニアラサルハ勿論ナリ果シテ政府トシテハ如何ナル措置ヲ執ラルヘキ意向ナリヤト問ヒタルニ米國政府ハ是迄百方考量ヲ尽クシタルモ此上取り得ヘキ手段ヲ按出スルニ苦シム次第ナルカ本使ニ於テ何等適當ナル考案アラハ開示セラレタク右ニシテ実行シ得ヘキモノナルニ於テハ大統領ニ獻策シ十分ノカ支持ニ尽力スヘシト答ヘタルヲ以テ本使ハ御意見ノ通本法成立ノ咍ニハ米國政府ハ之カ効力ヲ消滅セシメンカ為メ自ラ進ンテ訴訟ヲ提起スルノ措置ニ出ツヘキハ是迄ノ行懸ニ照スモ自然ノ順序ト思考スル旨ヲ述ヘタルニ同官ハ既ニ條約又ハ憲法違反ノ廉アリト認メサル以上ハ米國政府ヨリ

第一六〇号

New York American ハ五月十六日日本人ニ帰化權ヲ許ス條約締結ノ可否ニ関シ上院議員ノ意見ヲ求メタルニ回答ヲ与ヘタル三十九名ノ議員中一名ヲ除キテハ悉ク右帰化權許与ニ反対シタル旨ヲ發表シ其内ニハ Smith (Georgia) Burton Root 氏等有力者ノ名モ見ユル処右所報ハ全然正確ナリトモ思ハレス又右回答者ハ多クハ南部及太平洋沿岸地方選出議員ナリ不取敢御參考迄

二六五 五月十八日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法ノ善後策ニ関シ國務長官ト會談ノ件

第一六二号

往電第一六一号國務長官ト會見ノ際話頭ハ直轄シテ加州問題ニ移リタルカ同官ハ先ツ加州知事最後ノ返電ハ立論鞏固ニシテ土地法案ヲ條約違反ト見做スヘキ余地ヲ發見シ難キヲ述ヘ且本問題ハ決シテ人種の問題ニアラスシテ純然タル經濟上ノ問題ニ止マルコトヲ指摘シ加州ニ於ケル見聞ノ次第ヲ例示セルニ付本使ハ抗議書ニ開陳セル趣旨ニ依リ該案

起訴スルコト能ハスト答ヘ次ニ本使ヨリ試ミニ帰化法改正意見ヲ提出シタルニ對シテハ同官ハ右ハ単ニ日本人ノ關係ニ止マラス進テ支那人印度人等ニモ及ボス大問題ナルヲ以テ到底考量ニ上ホスコト能ハスト答ヘタリ依テ本使ハ從來帝國官民ハ排日問題ハ加州ノミニ限ラレ米國政府及ヒ米國人一般ノ否認スル所ナリト認メ随テ結局米國政府ノ正義ニ信賴シテ本件ノ満足ノ解決ヲ期待シ之カ為メ國論モ稍鎮靜セル次第ナルトコロ米國政府ノ態度斯ノ如キニ於テハ帝國ノ國論ハ米國政府ハ今ヤ加州当局者ト意見ヲ同フシ其主張ヲ支持スル地位ニ轉シタルモノトナシ益々激昂ヲ極ムルニ至ルヘク大局上甚タ寒心ニ堪ヘサル次第ヲ述ヘ最後ニ本使ハ右ハ米國政府ノ本件ニ關スル最終決定ナリヤト尋ネタルニ對シテハ同官ハ決シテ最終ノモノニアラス追テ米國政府ヨリノ回答ニ對シ帝國政府ニ於テ何等意見ヲ回示セララルニ於テハ喜ンテ考量ヲ加フヘキ旨ヲ答ヘタリ尚我抗議書ニ對スル回答ハ知事ニ於テ法案ニ署名シタル上我ニ送り越ス趣ナリ右會談ハ長時間ニ亘リ已ニ深更ニ達シタルヲ以テ已ムヲ得ス引取りタリ

二六六 五月十九日 牧野外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛(電報)

加州土地法ノ「レフエレンダム」中止方ノ件

第一一三号

閣下宛沼野發電一七九号ニ関シ「レフエレンダム」ハ御意見ノ通我ニ不利益ト思考スルニヨリ「ベル」氏ニ於テ果シテ右ノ手續ヲ採ルトセハ出来得ル限り思ヒ止マラシムル様致シタキニツキ適當ノ方法アラハ右中止方可然御取計アリタシ

二六七 五月十九日 在桑港沼野總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法同州知事署名ノ件

第一九〇号

五月十九日朝知事ハ土地案ニ署名セリ

二六八 五月十九日 在桑港沼野總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

亜細亞人排斥同盟会ハ「ウェップ」案ヲ「レフエレンダム」ニ附スヘキ旨決議ノ件

強硬ニシテ此上之ヲ動かサシコトヲ試ムルモ無益ナルノミナラス中央政府ノ立場ニ有害ナルヲ認メタルコト第二加州ノ実況ニ於テ白人ノ經濟上著々日本人ノ為ニ庄倒セラルル傾向アルニ顧ミ今ヨリ此事態ノ救済方法ヲ講スルノ必要ヲ認ムルニ至レルコト第三「ブラフリン」ノ本使ニ対スル内話ニ依レハ閣員中「アットルネー・ゼネラル」「マクレール」ノ如キハ日本ノ主張ヲ支持スルモ内務長官「レーン」(加州出身)其他二三ノ閣員ハ加州ノ行動ニ反対スルノ不利ヲ痛論シ閣議ノ大勢遂ニ之ニ傾クニ至レルモノト思ハルルコト第四中央政府自ラ訴訟当事者トナリテ本法ノ條約及憲法違反ヲ争フニ於テハ政府ノ内外ニ対スル責任益々重ヲ加ヘ之カ為ニ党略上ノ不利ハ暫ク措キ辛ニシテ勝訴ニ帰スルトキハ國際上ノ紛議ハ著シク緩和スルノ効アルヘキモ若シ敗訴センカ中央政府ハ内政外交共ニ進退ニ窮スルニ至ルヘキコト第五帰化法改正問題ハ南方及太平洋沿岸選出議員ノ強硬ナル反対アルヘク之ニ対シ行政部ハ制止スルコトヲ得ルノ望ナク徒ラニ國論ノ沸騰ト党内ノ紛争ヲ招クニ止マルヘキコト(五月十七日本使ハ國務長官ト会見ノ際帰化能力ニ付日本人ト其他ノ外國人トノ間ニ差別ヲ設クル理由ナキコトヲ述ヘ曩ニ「ルーズベルト」大統領ノ本件ニ関ス

第一九一号

五月十八日亜細亞人排斥同盟会ニ於テ「ウェップ」案ヲ「レフエレンダム」ニ附スヘキ旨議定セル由尚同会頭「トヴァイトモー」ハ右運動ヲ臨時選舉ニ依リ單ニ「ウェップ」案ノ廢棄ヲ目的トスルノミナラス同時ニ「イニシアチーブ」ニ依リ更ニ峻酷ナル新法制定ヲ目的トスルモノナリ「ウェップ」案ニ借地ノ規定アルハ東洋人ヲ誘引スルニ異ナラス又「コングレス」ニ於ケル「イミグレーション・ビル」ノ通過ヲ妨クルモノナリ云々ト語レル由尚同会執行委員長ハ五月十九日「レフエレンダム・ペチション」ノ起草ニ取掛ル由右ニ関スル措置ニ就テハ且下攻究中

二六九 五月十九日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法ニ関スル國務長官ノ態度變化ノ事情

觀測ノ件

第一六三号

往電第一六二号ニ関シ國務長官ノ態度我ニ不利ナルニ至レル事情ヲ考察スルニ第一同官ハ加州議會及知事ノ意嚮頗ル

ル教書ヲ指摘シ現行法ヲ改正シテ日本人ノ帰化能力ヲ明確ナラシムルカ為當國政府ニ於テ力ヲ尽ストキハ極メテ良好ナル感触ヲ日本國ニ与フヘキコトヲ切言シタルモ國務長官ハ右改正ノ案ハ當國ノ形勢ニ徴シ此際断念スルノ外ナキコトヲ明言セリ)以上ノ事情ヨリ當國政府ハ愈々土地法成立ノ上ハ我抗議ニ対シテ寧ロ加州ノ行動ヲ弁護スルノ方針ニ出テ以テ將來同政府ノ地歩ニ及ホス危險ヲ避クルヲ得策ナリト感シタルモノノ如ク此方針ハ我抗議書提出以來隱微ノ間ニ諸新聞紙ニ散見セル所ナリシカ果然五月十七日ノ会見ニ於テ國務長官ハ之ヲ本使ニ暗示スルニ至レルコトト觀測ス

二七〇 五月二十日 牧野外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛(電報)

加州土地法ノ條約違反ニ付米國政府ニ再考方

要請ノ件

第一一四号

貴電第一六二号ニ関シ米國政府ノ正式回答到達前ナレハ閣下ハ直ニ國務長官ニ会見シ左ノ意味ヲ陳述セラルヘシ

帝國政府ハ國務長官ノ談話ヲ承知シ極メテ深甚ナル失望ノ念ヲ以テ之ニ接セリ帝國政府ハ土地法カ條約違反ナリトノ主張ハ飽迄之ヲ維持スルモノニシテ米國政府ニ於テ再考スルニ於テハ該法カ歸化權ノ有無ヲ以テ區別ノ標準トナシ日本入ニ差別的待遇ヲ与フルコト其他我抗議書ニ列記セル諸点カ體カニ條約違反タルノ事實ヲ發見スルニ苦シマサルヘキハ米國政府今日迄ノ態度ニ徴スルモ明瞭ナリト信ス依テ帝國政府ハ此点ニ関シ切ニ米國政府ノ再考ヲ促カシ且ツ本件ニ関スル訴訟ヲ米國政府自ラ提起センコトヲ懇請ス右ハ米國政府正式ノ回答發送前ニ我主張ノ正当ナル事ヲ今一応示シオコト必要ト認メタルニヨル

二七一 五月二十日 牧野外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛(電報)

米國政府ニ再考方要請ニ関シ追補ノ件

第一一五号

往電一一四号ニ関シ國務長官ニ對スル陳述中ニ本件ハ國家ノ「デイングニティー」ニ関スル問題ナルノ意味ヲ適當ノ場所ヘ挿入セラルベシ

不動産ノ所有權ヲ有シ歸化權ナキ外人ハ單ニ條約規定ノ範圍内ニ於テノミ之ヲ許サレ不動産ノ相續ヲ禁セラル又歸化權ナキ外人カ過半数ノ株券ヲ有スル会社亦之ニ準ズ尚農業用借地年限ヲ三ヶ年ニ制限セルモノニシテ前來ノ案ニ比シ一層排日の性質ヲ發揮シタルモノナリ大統領ハ更ニ知事ニ對シ注意スルトコロアリ電報ノ往復アリシガ結局同案ハ上院ニテハ五月二日下院ニテハ五月三日何レモ大多數ヲ以テ通過シ議會ハ十二日閉會セリ珍田大使ハ屢次當局ト會見論議ノ后帝國政府ノ訓令ニヨリ國務長官歸華ノ後五月十日ヲ以テ長文ノ抗議書ヲ提出セリ右抗議ノ大要ハ本案ノ區別の待遇ハ條約ノ主義精神ト全然相容レサルモノナルヲ痛論シ尚日本人ガ現ニ所有スル地所又ハ賃借權ノ相續ヲ禁スルハ既得權ノ侵害ニシテ條約第一條第三項ニ悖ルコト如此地所ニ建テラレタル家屋ニ関シテモ同様條約違反ナルコト並ニ会社ノ場合ニ於テ株券買入ノ自由ヲ奪フハ營業ノ自由ヲ妨クルモノニシテ條約第一條及第十四條ニ違反スルモノナリトイフニアリ右内容ハ兩國政府ノ合意ニヨリ当分公表セサル事トセリ大統領ハ更ニ加州知事ニ電照シ外交手段ニヨリ本件ヲ解決センタメ署名ヲ見合セン事ヲ懇請セシモ知事ハ重テ該案ノ正当ニシテ民意ヲ代表セルヲ述ベ署名

二七二 五月二十日 牧野外務大臣ヨリ
在英國小池臨時代理大使宛(電報)

加州土地法ノ成立經過通報ノ件

第九六号
往電第六一号ニ関シ

上院案ノ二讀會通過後大統領ハ加州知事ニ電報シ法文中市民トナルヲ得サルモノトノ文字ヲ用ユル勿ラン事ヲ勸告セリ珍田大使ハ屢次國務長官ト會見シ本立法カ歸化權ヲ有セサル云々ノ字句ヲ用ユルト否トニ拘ラズ事実上日本人ニ區別の待遇ヲ与フル以上ハ兩國條約ノ根本義ニ悖反スルモノナルヲ縷述シ米國政府ノ注意ヲ促セリ其後知事ト大統領間ニ二三電報ノ往復アリシカ大統領ハ形勢ノ益々急ヲ告クルヲ見ルヤ遂ニ國務長官ヲ加州ニ特派スルニ決シ同長官ハ廿八日加州首都ニ着シ兩院秘密協議會ニ臨ミ本件ヲ外交の交渉ニ委ネンコト其他二三ノ提議ヲナシタルモ知事等ハ州權說ヲ固持シ國務長官ノ注意ヲ顧ミサルノミナラズ却テ加州檢事總長「ウェップ」ノ起草セル新法案ヲ上院繫屬案ノ修正トシテ採用スルニ決シ兩院ニ同一ノ議案ヲ上ボスニ至レリ右法案ノ主眼トセル處ハ歸化權アル外人ハ市民同様

ノ不得止旨回電シ十九日署名ヲ了セリ
右在歐各大使公使ヘ転報アレ

註 前掲八七文書

二七三 五月二十日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法ニ関シ英國大使ヨリ「モア」氏ノ

意見ヲ尋ネタル件

第一六四号

往電第一五七号ニ関シ五月十九日英國大使來訪五月十七日本使國務長官ト會談セル事ニ付テハ同大使ニ於テ「モア」氏ト面談セル所アリタル旨ヲ告ケ其節同大使ヨリ先ツ日本人ノ歸化權問題ニ付「モア」氏ノ意見ヲ問ヒ若シ此際中央政府ニ於テ歸化法改正ニ尽力スルトキハ日本ノ米國ニ對スル感情大ニ融和スルナラント察セラルル旨ヲ述ヘタル所「モア」ハ本問題ハ到底考量ヲ加フルノ余地ナキコトヲ斷言シ假令中央政府ニ於テ右改正ヲ試ムルモ事實上其目的ヲ達スルノ望ミ絶無ナルヘク既ニ成效ノ見込ナキヲ知リツ、之ヲ議會ニ勸奨スルハ不真面目ニシテ(humbug)何

人ヲモ満足セシムルニ足ラサルヘント答ヘ次ニ中央政府カ本法無効ノ判決ヲ受ケンカヲメ自ラ法廷ニ訴フル問題ニ付テハ「モーア」ハ訴訟ヲ提起スルニハ被告ノ行為ニヨリ現実ニ權利ヲ侵害セラレタル具体的事実ヲ指示スルコトヲ要ス単ニ法律制定又ハ実施セラレタル事実ノミヲ原因トシ同法カ追テ当事者ノ權利ヲ侵害スルコトアルヘキヲ豫想シテ出訴スルコトヲ得スト談リ尚本件ノ性質ニ顧ミ中央政府ニ於テ訴訟当事者トナルハ其當ヲ得スト思考スト述ヘタル由ナリ右ノ外英国大使カ本使ニ通報シタル「モーア」ノ談話ハ大体國務長官五月十七日夜本使ニ述ヘタルトコロト同趣意ニ付茲ニ略ス同大使ノ語氣ヨリ察スルニ國務省ニ於テハ本使ト同大使ノ間ニ意見ノ交換アリタルコトヲ了知シ同大使ノ好意的ノ仲介ヲ利用セントスル如ク本使ニ於テモ今後尚同大使ノ仲介ニ依ルヲ便宜トスル事項アラハ隨時其斡旋ヲ利用スル考ナリ

二七四 五月二十日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法ノ善後措置ニ関シ國務長官ヨリ提案
内示ノ件

claim for damages that may arise in the actual enforcement of the law and so far as administration can (remembering that the cooperation of Congress is necessary) save subjects of Japan from pecuniary loss. Federal Government will facilitate in so far as it can recourse to the courts and hasten final adjudication.

China

二七五 五月二十日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

我抗議書ニ対スル米國政府ノ回答書受領ノ件

別 電 同日珍田大使宛牧野外務大臣宛電報第一六八

号

右回答書

第一六七号

五月十九日國務長官ト会見ノ際加州知事ニ於テ本日法案ニ署名シタル趣ヲ以テ我抗議書ニ対スル回答書(別電第一六八号ノ通)ヲ手交シタリ

(別 電)

五月二十日珍田大使宛牧野外務大臣宛電報第一六八号

別 電 同日珍田大使宛牧野外務大臣宛電報第一六六号
右國務長官ノ提案

第一六五号

五月十九日國務長官ト会見シ五月十七日ノ続談トシテ尚我主張ヲ反覆説明シ就中往電第一四六号同官談話ノ言責ニ重ヲ措キ先夜談話ノ如ク此際米國政府カ何等進ンテ手段ヲ執ラサルニ於テハ右言責ニ背ク次第ニアラスヤトノ意味ヲ切言シタルニ同官ハ別電第一六六号ノ二点ヲ開陳シ且ツ之ヲ筆記セシメテ本使ニ手交シタリ尚同官ハ右ハ單ニ本使限リニ対スル内話ニ過キサレハ之ヲ帝國政府ニ報告セサランコトヲ希望スル旨申添ヘタル上本案ハ当分ノ内兩人限リニテ攻究ヲ加ヘ十分懇談ヲ試ムル基礎トシタキ旨申述ヘタリ本使ハ右提案ニ対シテハ我抗議書ニ対スル回答書ト共ニ篤ト研究考量ヲ加ヘタル上何分ノ意見ヲ申述フヘキ旨答ヘ置キタリ

(別 電)

五月二十日珍田大使宛牧野外務大臣宛電報第一六六号

加州土地法ノ善後措置ニ関スル國務長官ノ提案

No. 166. Federal Government will consider any

我抗議書ニ対スル米國政府ノ回答書

No. 168

I have the honor to acknowledge the receipt of your note of May 9th, laying before my Government representations of the Imperial Government of Japan with regard to the law just adopted by the State of California concerning the holding of Agricultural lands by aliens. The Government of the United States regrets most sincerely that the Imperial Government of Japan should regard this legislation as an indication of unfriendliness toward their people. Being apprised while that measure was still under consideration by the legislature (?) of California that that might be the feeling of the Imperial Government, the President and I very earnestly attempted to induce the legislative authorities of California to reconsider or to modify their plans in the matter urging that the State should not act as a separate unit in this case but, rather, in co-operation with the Federal Government. Under the Constitutional arrangements of the United States we could do no more than that.

At the same time, we feel that the Imperial Government has been misled in its interpretation of the spirit and object of the legislation in question. It is not political. It is not part of any general national policy, which would indicate unfriendliness or any purpose inconsistent with the best and most cordial understanding between the two nations. It is wholly economic. It is based upon the particular economic conditions existing in California as interpreted by her own people, who wish to avoid certain conditions of competition in their agricultural activities.

I have not failed to observe that your Note calls attention to certain provisions of the California law which you conceive to be inconsistent with and to violate existing treaty stipulations between the two countries, and thus to threaten to impair vested rights of property.

The law, however, in terms purports to respect and preserve all rights under existing treaties. Such is its declared intent. But in case it should be alleged that the law had in its operation failed to accomplish that intent, Your Government is no

Your Excellency raises, very naturally and properly, the question how the case would stand should explicit treaties between the two countries expire or cease to be in force while, nevertheless, relations of entire amity and good will still continue to exist between them. I can only reply that in such circumstances, the Government of United States would always deem it a pleasure, as well as a manifest dictate of its cordial friendship for Japan and the Japanese people to safeguard rights of trade and intercourse between the two peoples now secured by treaty. I need not assure Your Excellency that this Government will co-operate with the Imperial Government in every possible way to maintain with the utmost cordiality the understandings which bind the two nations together in honour and in interest. Its obligations of friendship would not be lessened or performed in negligardly fashion in any circumstances. It values too highly the regard of Japan and her co-operation in the great peaceful tasks of the modern world to jeopard them in any way; and I feel that I can assure Your Excellency that there is no

doubt advised that by the constitution of the United States the stipulations of treaties made in pursuance thereof are the supreme law of the land, and that they are expressly declared to be binding upon State and federal courts alike to the end that they may be judicially enforced in all cases. For this purpose, the Courts, federal and State, are open to all persons who may feel themselves to have been deprived of treaty rights and guarantees; and in this respect the alien enjoys under our laws a privilege which to one of our own citizens may not be in all cases available, namely, the privilege of suing in the federal courts in precisely the same way, our citizens resort and are obliged to resort to the courts for the enforcement of their constitutional and legal rights. Article XIV of the Treaty, to which Your Excellency refers, appears to relate solely to the rights of commerce and navigation. These the California statute does not appear to be designed in any way to affect. The authors of the law seem to have been careful to guard against any invasion of contractual rights.

reason to feel that its policy in such matters would be embarrassed or interfered with by the legislation of any State of the union. The Economic policy of single State with regard to single kind of property cannot turn aside these strong and abiding currents of generous and profitable intercourse and good feeling.

In conclusion let me thank Your Excellency for the candour with which you have dealt with this Government in this matter and express the hope that this episode in the intercourse of two great countries which we represent will only quicken our understandings of one another and our confidence in the desire of each to do justice to the other.

(Signed) W.J. Bryan.

Chinda

(右和訳文)(註 日本外務省作成)

第一六八号

以書翰啓上致候陳者外國人ノ農業用土地所有問題ニ関シ近者加州ニ於テ制定セラレタル法律ニ対シ日本帝國政府ノ所見ヲ開陳セル五月九日附貴翰正ニ領収致候

帝國政府カ件ノ立法ヲ以テ其ノ人民ニ対スル非友好的態度ヲ示スモノナリト認メラントスルハ合衆國政府ノ最モ誠實ニ遺憾トスル所ニ有之義ニ該法ノ尚加州議會ノ討議ヲ經ツ、アリシニ當リ帝國政府ノ所感或ハ如斯モノアラシコトヲ慮リ大統領及本官ハ此際加州ノ一個獨立ノ州トシテ單獨ニ行動ス可ラス寧ロ合衆國政府ト協力スヘキモノナル所以ヲ切言シ極メテ熱心ニ加州立法当局者ノ本案ヲ再考シ又ハ更改センコトヲ求メタル次第ナルカ其ノ以上ハ合衆國ノ憲法組織ニ於テハ吾人ノ為スヲ許サ、ル所ニ有之候同時ニ又本官ハ該立法ノ精神竝ニ目的ニ関シ帝國政府ニ於テ誤解セル所アルヲ虞ル抑モ右ノ立法タル政治の意味ヲ有スルモノニアラス随テ兩國間ニ於ケル最良ノ了解ト相容レサル何等ノ目的又ハ非友好的態度ノ存在ヲ示ス可キ何等一般の國是ニ基キテ企テラレタルモノニアラス問題ハ全然經濟のニシテ農業經營上ノ競争ヲ避ケントスル加州人民ノ見テ以テ同州ニ存在ストセル特殊ノ經濟事情ニ基クモノニ外ナラス候

貴翰ハ該法中ノ規定ニシテ貴方ノ認メテ以テ兩國間現行條約ノ規定ニ牴觸シ違反ストセル点ニ付注意ヲ喚起セラレタリト雖該法ノ意思カ現行條約上ノ一切ノ權利ヲ尊重シ之ヲ

好關係ノ依然トシテ其ノ間ニ存続スル場合ニハ如何ニス可キヤトノ問題ヲ提起セラレタルカ右ハ實ニ尤モナル問題ニシテ本官ハ之ニ對シ唯斯ル場合ニ於テハ合衆國政府ハ必スヤ條約ニ依リ現ニ保證セラレタル兩國民間通商交通ノ權利ヲ擁護スルヲ以テ其ノ欣幸トシ且日本及日本臣民ニ對スル其ノ誠實ナル友誼ノ命スル当然ノ義務ナリト思惟ス可シト答フル外無之米國政府カ名譽及利益ニ於テ兩國國民ヲ連結スル所ノ交誼ヲ最モ誠實ニ維持スルカ為メニ飽迄帝國政府ト協力セントスルモノナルハ余ノ今更メテ閣下ニ證言スル迄モナキ所ニシテ米國政府ハ如何ナル事情ノ下ニ於テモ其負ヘル友誼上ノ義務ヲ履行スルニ吝ナラントシ又ハ之ヲ減少セントスルモノニハ無之日本ノ敬意及近世々界ノ偉大ナル平和事業ニ於ケル其ノ協力ハ我政府ノ深ク尊重シテ苟クモ失ハサラント欲スル所ニ有之而シテ余ハ如斯國交ノ方針カ当合衆國內纔ニ一州ノ立法ノ為メニ妨害セラル可シトスル何等ノ理由ナキコトヲ閣下ニ保證スルヲ得可シト信スルモノナリ僅ニ一種ノ財産ニ對スル一州ノ經濟政策ハ豈能ク斯ノ寛大ニシテ有利ナル國際交通及好情ノ強固不變ナル潮流ヲ転スルヲ得ンヤ

終ニ臨ンテ本官ハ貴大使ノ本件ニ関シ率直誠意以テ我政府

保持スルニ在ルハ法文ノ明示スル所ナリ而モ尚該法カ實施ノ結果其意思遂行ヲ愆レル場合有之ニ於テハ合衆國憲法上右憲法ニ遵由シテ締結セラレタル條約ノ規定ハ國內ノ最高法律ニシテ其ノ拘束力ハ均シク州及合衆國裁判所ニ及ヒ總テノ場合ニ於テ司法上ノ手段ニ依リ之ヲ強制スルコトヲ得ルモノナルコトハ疑モナク帝國政府ノ知了セラルル所ニシテ為之ニ合衆國裁判所及州裁判所ハ條約上ノ權利又ハ保障ヲ奪ハレタリトスル何人ニ對シテモ公開セラレ居ル次第ニ有之此点ニ関シ外國人ハ我法律ノ下ニ於テ我國人ノ必スシモ總テノ場合ニ於テ有セサル一種ノ特權即チ我國人カ憲法上又ハ法律上ノ權利ヲ執行スル為メニ訴訟ヲ提起スルニハ普通州裁判所ニ於テセサル可ラサルニ反シ外國人ハ內國人ト全然同様ノ手續ニ依リ而カモ直ニ合衆國裁判所ニ出訴スルヲ得ルノ特權ヲ有スルモノニ有之候

貴大使ハ又條約第十四條ニ言及セラレタリト雖右ハ專ラ通商航海上ノ諸權利ニ関スルモノナルカ如ク加州ノ法律ハ此等ノ諸權利ニ如何ノ影響ヲ及ボスノ意圖アリトモ不被存該法起草者ハ契約上ノ權利ニ何等ノ侵害ヲ來スコトナキ様注意シタルモノノ如クニ被致思料候

次ニ貴大使ハ兩國間條約ノ終止又ハ消滅セルニ拘ラス尚友

ニ對セラレタルヲ感謝シ且我等ノ代表スル兩大国ノ交際上ニ生シタル此事件ハ會々以テ相互ノ了解及互ニ正義ヲ以テ応酬セントスル貴我双方ノ冀望ニ對スル吾人ノ信頼ヲ促進スルノミナラント希望スルモノニ有之候本官ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

二七六 五月二十日 牧野外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛(電報)

加州土地法成立ニ関シ在本邦米國代理大使トノ

會談通報ノ件

別 電 同日牧野外務大臣兼珍田大使宛電報第一一七

号

米國國務長官ヨリ在本邦同國代理大使宛電訓

第一一六号

五月廿日米國代理大使本大臣來訪國務長官ヨリノ電訓ノ主意ヲ述ヘ其電報(別電第一一七号ノ通り)ヲ示セリ本大臣ハ之ニ對シ米國政府ノ過去ノ努力ヲ謝シ且ツ本件ハ帝國國民ノプライドニ関スル問題ニシテ自分ガ特ニ重キヲ本問題ニ置クトコロ米國政府カ今後モ引續キ本件ノ友好的解決ニ尽力スベシトノコトハ自分ノ最モ満足スル所ニシテ自分ハ

米國政府ノ誠意ト努力ニ信頼シ本件ノ満足ナル解決ヲ期待スルモノナル旨答ヘ置キタリ右御参考迄

(別電)

五月二十日牧野外務大臣宛珍田大使宛電報

加州土地法成立ニ関シ米國國務長官ヨリ在本邦

同國代理大使宛電訓

第一一七号

Following telegram received in plain.

We are gratified that California law is being discussed calmly and that no feeling is being shown toward America in conversation with Japanese government. Emphasize the extraordinary efforts made by the Washington government to prevent passage of law. Explain freedom of action allowed states under our constitution, advise restraint and calmness, suggest that nothing is final between friends and express confidence that a satisfactory solution can be found for all questions if the parties approach the subject with patience and in the right spirit.

Bryan

二七七 五月二十日 在米國珍田大使ヨリ 牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法ノ「レフエレンダム」中止方ニ関シ

國務長官談話ノ件

第一六九号

貴電第一一三号ニ関シ往電第一六五号会见ノ節國務長官ヨリ本件ニ言及シ加州ニ於ケル「レフエレンダム」提起運動ハ愈々実現セラルヘキ形勢ト見受ケラルル所アルモ右ハ曾テ口談セシ通り好マシカラサル次第ナルニ付同官ト氣脈ヲ通セル方面ニ對シテハ既ニ注意ヲ与ヘタルニ付其ノ運動ヲ中止スヘシ然ルニ中央政府ノ權威及ハサル方面ノ運動ニ對シテハ如何トモ詮方ナキ旨ヲ申述ヘタルニ付右ニ御承知アリタシ

二七八 五月二十日 在米國珍田大使ヨリ 牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法ノ條約違反ニ関シ米國政府ニ提訴方

要請ノ件

第一七〇号

貴電第一一四号及第一一五号ハ米國政府正式回答接手ノ翌

朝到達シタリ尤モ右貴電ニ掲ケタル同一ノ趣旨ハ五月十七日國務長官トノ會談ニ際シ本使一己ノ意見トシテ反覆切言シ置ケリ其當時本件ニ付キ米國政府自ラ訴訟當事者トナリテ起訴センコトヲ促シタルニ當リ之ヲ本使限リノ希望トシ帝國政府ノ請求タルコトヲ明言セサリシ所以ハ若シ米國政府ニ於テ帝國政府ノ請求ニ応シ起訴スルコトトナラハ判決不利ノ場合ニ米國政府カ我ニ對スル責任ノ輕減ヲ感スル虞アルニ付キ我將來ノ立場ニ執リテハ成ルヘク當國カ單獨責任ヲ以テ任意ニ起訴スルコト得策ナリト思考シタルカ為メナリ

二七九 五月二十日 在米國珍田大使ヨリ 牧野外務大臣宛(電報)

加州問題ニ関シ英國大使來談ノ件

第一七一号

五月二十日英國大使來訪過刻「モーア」ト食事ヲ共ニセル旨ヲ述ヘ國務長官再三本使ニ述ヘタルト同一ノ趣意ヲ以テ加州問題カ單一ニ地方ノ經濟問題ニ外ナラサルコトヲ説キ同大使カ太平洋沿岸地方選出議員ヨリ聞ク所ニヨレハ何レ

ル所ナリト述ヘ置キタリ尚英國大使ハ談話中此際日米兩國人ヲ以テ委員會ヲ組織シ本件ニ關スル一切ノ論点ヲ調査セシメ其ノ報告ヲ徵スルコトトスルノ考案ニ言及セラレタル所(本案ハ同大使一己ノ私案ニ止マルカ又ハ國務省ノ内意ヲ受ケタルモノナリヤハ推断シ難シ)本使ハ右委員會報告ハ何等加州立法ノ結果ヲ動カス効果ナカルヘク從テ右考案カ實際ニ於テ問題ノ解決ニ資スル所アルヘキヲ信スルコト能ハスト答ヘ置ケリ

二八〇 五月二十日 在桑港沼野總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法ノ一般投票ニ關シ民主党ノ勸誘及亜細亞人排斥同盟会ノ運動報告ノ件

第一九五号

知事署名後ノ形勢ニ關シ新聞紙ノ報スル所ニ依レハ「デモクラット」党領袖 Bell ハ自黨員ニ對シ本法ヲ一般投票ニ附スヘキ旨ノ勸誘ヲ發セリ又 Asiatic Exclusion League ニ於テモ五月十九日夜本法ヲ一般投票ニ附スヘキコトヲ宣言シタリ其理由トスル所ハ孰レモ既報ノ通り本法ヲ寬ニ過

二八二 五月二十一日 在獨国杉村大使ヨリ
在獨国杉村大使宛(電報)

日米時局ノ經過ニ關シ回答ノ件

第二九号

貴電四五号ニ關シ經過ハ在英代理大使ヨリ転電セル管尚ホ本件ニ關シ兩國關係切迫云々ハ跡方モナキ捏造說ニ過ギザルハ勿論ナリ

二八三 五月二十一日 在桑港沼野總領事代理宛(電報)

加州土地法ノ「レフェレンダム」提起運動ニ

關シ電報方ノ件

第四七号

「レフェレンダム」提起運動ノ件ハ貴見ノ通り望マシカラサルニツキ目下珍田大使ヨリ米國政府ヘ申入レ中ノ儀モコレアルニヨリ貴官ハ右運動ニ關シ充分御注視ノ上機ヲ逸セス其經過電報セラレタシ

クルモノトスルニ在ルモ Bell ハ右ノ外此種ノ立法カ中央政府ヲ「エムバラッス」スルコトヲ理由トセル由

右ニ關シ Asiatic Exclusion League カ此種ノ運動ヲ開始セルハ若シ本法ニシテ此儘施行セラル、ニ至テハ排日問題ハ一先ツ落著シ彼等ハ重要ナル衣食ノ途ヲ失フニ至ルヘキヲ憂フルカ為ナリト言フモノアリ
大使ヘ電報シタリ

二八一 五月二十一日 在獨国杉村大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

日米時局ノ經過電報方稟請ノ件

第四五号

目下日米時局ニ關シ当地新聞紙中兩國間關係切迫セルヤニ流伝スルモノアリ右ハ独逸当局又ハ外交団中ニ於テモ本件ニ關シ質問ヲ試ムルモノ尠カラサルニ付テハ本件ノ經過本使含迄御電報アリタシ

二八四 五月二十一日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法ノ善後措置ニ關スル國務長官提案ノ

取扱ニ付請訓ノ件

第一七三号

往電第一六六号國務長官ノ提案ニ關シテハ既報ノ通兩人ニテ攻究スル管ナルモ右提案ノ儘ニテハ到底我ニ於テ承諾スルコト能ハサルハ勿論ナルカ本件ノ商議開始ニ先チ我ニ於テ篤ト法律上ノ研究ヲ遂ケ置ク必要アルヲ以テ最早往電第一四一号所載ノ不利益ナル事情モ發生ノ虞ナシト認ムルニ付目下専門家ニ就キ不取敢差当リノ問題トシテ憲法修正第十四條ノ適用「インジャンクション」ノ効果及米國政府訴訟當事者タルト intervener タルトノ差別其他ノ事項ニ關シ調査ヲナサシムル手続中ニシテ其結果ヲ待テ我意見ヲ定メ然ル後愈々協議ニ移ル順序ナルカ斯克テハ今後尚多少ノ時日ヲ要スルコトト思考セラルル所右ニテ差支ナキヤ米國政府ノ回答書ニ對シ再ヒ我ヨリ文書ヲ送ラルル御都合ニモ關係アルヘシト察セラルルニ付何分ノ義御電訓ヲ請フ

二八五 五月二十二日 在米田珍田大使ヨリ

牧野外務大臣宛(電報)

國務長官提案第二点及帰化法改正ニ関スル

米田政府ノ意向ニ付英国大使來談ノ件

第一七五号

五月二十二日米田駐劄英国大使來訪昨夜國務長官ト會談ヲ遂ケタリトテ同大使ノ語ル所ニ依レハ國務長官ハ其ノ提案ノ第二ノ点ニ付テハ米田政府ハ出來得ル限り便宜ヲ与ヘントスル意嚮ナル旨ヲ述ヘタレトモ具体的ニ如何ナル方法ヲ採ルカニ付テハ言明セサリシ趣又本使ノ申出ニ係カル帰化法改正ノ件ニ付テハ國務長官ハ且下米田一般特ニ東部地方ニ於テハ移民制限ノ必要ヲ感シ居リ現ニ「デリングハム」移民法案數年間懸案タルカ如キハ全ク右ノ必要ニ応センカ爲メニ外ナラサル形勢ナル所此際日本人ヲ目的トスル帰化法修正ノ如キモ一度提起セラレンカ對移民熱ハ忽チ本問題ニ集中シ日本ニ對スル不必要ナル議論ヲ誘發シ結局両國民間ニ不快ナル論戰ヲ弄スルカ如キ極メテ面白カラサル結果ヲ生スヘキニ付此際日本側ヨリ本問題ノ提起ナカラシコトヲ切望スル旨語レル趣ナリ右ニ関シ本使ハ日本人ニ帰化ノ資格ヲ与フルコトナルモ移民ニ関スル帝國政府從來ノ自

シテ好意的斡旋ノ勞ヲ執リツツアルコトニ関シテハ同大使ニ對シ本使ヨリ帝國政府ニ報告スヘキ旨ヲ告ケタル行懸リモアルニ付若シ御差支ナケレハ貴大臣ヨリ御序ノ節在日本英國大使ニ對シ右ニ関スル謝意ヲ表セラルルカ或ハ帝國政府ノ訓令トシテ本使ヨリ米田駐劄英国大使ニ挨拶スルカ此際何レカノ方法ヲ執リテハ如何カト思考ス右ニ関シ何分ノ義電報アリタシ

二八七 五月二十三日 牧野外務大臣ヨリ
在米田珍田大使宛(電報)

加州土地法善後措置ニ関スル國務長官提案ノ取

扱ニ付回訓ノ件

第一二二号

貴電一七三号ニ関シ目下當方ニ於テ米田政府ノ回答ニ對スル弁駁書調製中ニ有之同政府ヲシテ土地法ノ條約違反ナルコトヲ認メシメ自ラ訴訟ヲ提起セシムル様仕向クルノ覚悟ナルニヨリ右御舍ノ上御申越ノ通り必要ノ諸点ヲ研究シ我意見ヲ決スルコト然ルヘシト思考ス

制ハ何等變更ヲ来スモノニアラサル事ヲ指摘シ以テ移民問題ト帰化法改正問題トノ決シテ混同スヘカラサル次第ヲ説明シ置キタリ

二八六 五月二十二日 在米田珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州問題ニ對スル我立場ニ関シ在本邦英國大使

ニ内話方並在米田英國大使ニ謝意表示方ニ付稟

請ノ件

第一七六号

米田駐劄英国大使ノ加州問題ニ関スル举措ハ累次電報ニテ御承知ノ通ナルカ其毎々ノ談話ニ依レハ英國政府ニ於テハ同盟關係上本問題ニ関シ配慮スル所アルヲ以テ同大使ヨリ隨時其見聞ヲ報告シツツアリトノコトナレハ國務長官ノ談話ニ基キ米田側ノ立場ハ同大使ヨリ詳細英國政府ニ報告セラレ居ルコトト認メラルル所我立場ニ関シテハ本使ニ於テ出來得ル限り同大使ニ説明ヲ努メ居レトモ尚格別御差支ナケレハ貴大臣ヨリ在日本英國大使ニ適當ノ機會ヲ以テ御内話相成リテハ如何ヤト思考ス又米田駐劄英国大使カ個人ト

二八八 五月二十四日 牧野外務大臣ヨリ
在米田珍田大使宛(電報)

加州問題ニ付英国大使ニ謝意表明方回訓ノ件

第一二四号

貴電一七六号ニ関シ當方ニ於テモ時々在本邦英國大使ニ我立場ノ説明ヲ試ムルノミナラス在米英國大使ノ個人トシテノ好意的斡旋ヲ十分「アプレシエート」シ居ル旨ヲ繰返し且ツ感謝ノ意ヲ表シ居ル次第ナルガ貴方ニ於テモ此上形勢ノ進ムニ連レ益我立場ヲ英國大使ニ會得セシメラルヘキハ勿論此際本大臣ノ訓令トシテ同大使ニ對シ帝國政府ノ好意ヲ表シ尚ホ此上ノ斡旋ヲ請ヒ置カルベシ
英國政府ハ加奈陀濠洲等ノ關係上本件ニ関シ頗ル「デリケート」ナル立場ニアリ随テ帝國政府ハ本問題ニ関シ英國政府ヨリ十分ノ支持ヲ期待シガタキ事情ナキニアラサルモ尚本件ノ進行中同國ノ斡旋ニヨリテ利スル所多々アルハ申ス迄モナキ儀ニ付御舍アリタシ
右為念申添ユ

二八九 五月二十四日 在米國珍田大使ヨリ
加州問題ニ関スル「シッソン」ノ演説穩和トナ

リタル件
第一七八号
往電第一一四号ニ関シ

右ニ関シテハ當時本使ヨリ夫レトナク「モア」ノ注意ヲ喚起シタルコトアリシカ過日 Sigon カ議會ニ於テ再度演説ヲナサントスル手續ヲ執リタルトキ大統領カ同人ヲ招キテ懇諭スル所アリタル趣駐米英國大使ノ談話ニテモ承知シ居リタル所果シテ五月二十三日下院ニ於ケル同人ノ演説ハ大要別電第一七九号ノ通其論鋒極メテ穩和トナレリ

註 前掲一六八文書

二九〇 五月二十四日 在米國珍田大使ヨリ
加州權尊重ニ関スル「シッソン」ノ演説要領及

「バーゾルト」ノ憲法改正決議案報告ノ件
第一七九号

「シッソン」ハ前回所説ノ決シテ好戰的ナラサリシコトヲ

二九一 五月二十六日 牧野外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛 (電報)

加州土地法ノ條約又ハ憲法違反ニ該当スル「ケース」講究方ノ件
第一二九号

貴電第一七三号ニ関シ萬一日本人ヨリ起訴スルノ止ムヲ得サル場合ニハ訴訟ヲ起ス原因タル實際ノ事件アルヲ要スルカ如ク随テ土地法ノ條約又ハ憲法ニ違反スル点ニ該当スル適切ナル「ケース」ヲ特ニ構成スル儀ニツキ豫メ講究シ置クコト必要ト思考ス而シテ右ハ目下貴方ニ於テ御研究中ノ大体ノ諸点明瞭次第漸次右等ノ辺迄モ研究ヲ進メラル、コトトハ思考セラル、モ同時ニ桑港ニ於テモ為念如何ナル「ケース」ヲ構成スヘキヤニツキ内密専門家ニツキ研究シオクヘキ様沼野領事ヘ可然訓令シ置カレタシ

二九二 五月二十七日 牧野外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛 (電報)

加州土地法ニ関シ米國政府ノ回答ニ対スル弁駁
書案電送ノ件

別電 同日牧野外務大臣發珍田大使宛電報第一三五

号
右弁駁書案

一 加州ノ外国人士地法案及日本政府ノ抗議關係 二九一 二九二

弁明シ次テ米國各州ノ州權ハ米國政府及上院ノ有スル條約締結權ヲ以テ侵害スヘカラサルコトヲ論シ米國ニ於テハ各州法ヲ以テ法人(「ジュジシアル、パアソン」)ノ土地所有ヲ禁止スルコトニ努メ以テ個人ヲ保護スルノ傾向ニ言及シ低廉労働者タル外国人ノ競争ニ對シテモ之ガ防止ノ必要ヲ説キ若シ條約ニ依リ外国人ニ土地所有權ヲ与ヘ得ヘシトセバ法人ニ對シテモ同様ノ結果ヲ生シ得ヘシトノ趣旨ニテ結局州權尊重論ト市民ニ對スル土地平等分配論トヲ主張スルニ止メ且右ノ論旨ハ問題ノ相手國ガ歐洲列國タルト日本タルトニ依リ決シテ差別アルヘカラザルコトヲ切言セリ尚「ミソリー」州選出共和黨下院議員「Bartholdt」ハ右ノ演説ニ對シ州權ガ條約締結權ノ活動ヲ掣肘スルハ國家ノ障害トナルヲ以テ此際憲法ノ修正ヲ必要トスルノ趣旨ヲ演述シ米國內ニ在ル外国人ノ權利及特權又ハ米國ノ涉外事項ニ関スル立法權ハ米國議會ニ專屬ストノ趣旨ニテ憲法改正ニ関スル兩院決議案ヲ提出シ司法委員ニ附託セリ

第一三四号

米國政府ノ回答ニ對スル弁駁別電第一三五号ヲ以テ送附ス尤モ右ハ未ダ確定ノモノニアラサルニツキ追テ何分申進スル迄御手許ニ止メ置キ何時ニテモ米國政府ヘ提出セラル、様準備シ置カルヘシ

(別電)

五月二十七日牧野外務大臣發珍田大使宛電報第一三五号

加州土地法ニ関シ米國政府ノ回答ニ對スル弁駁

書案

No. 135-1.

I did not fail to transmit to my Government at once by cable a copy of the note which you did me the honor of addressing to me under date of the 19th inst. in reply to mine of the 9th idem with regard to the law recently enacted by the State of California on the subject of alien land tenure.

That reply did not, I regret to say, have the effect of lessening the sense of disappointment and grave concern experienced by the Imperial Government in consequence of the legislation to which it had reference. Having in view the at-

itude and action of deep sympathy expressed and taken by the American Administration in the matter, while the measure was still pending in the legislature of California, the Cabinet at Tokio had good reason, it was thought, to expect some initiation of willingness, on the part of the American Government, to cooperate with the Government of Japan in the endeavor to find a satisfactory solution of the problem, instead of the suggestion that the Courts of the United States were open to those of my countrymen who might feel themselves to have been deprived of treaty rights and guarantees. The persons prejudicially affected by the enactment complained of are expressly limited to those aliens who are not eligible to citizenship. Considering that Japanese subjects are, as a nation, apparently denied the right to acquire American nationality, that they are the principal sufferers from that enactment, and that the avowed purpose of the law was to deprive my countrymen of the right to acquire and to possess landed property in California, the Imperial Government are unable to escape the conclusion that the measure

which they again appeal in this communication.
(To be continued)

No. 135-2.

Japanese people own real property, and other interests therein, in California under the existing treaty, as well as in accordance with law. Such property, having been duly acquired, is beyond question, entitled in virtue of the treaty, to the same "most constant protection and security" as similar property belonging to citizens of the United States.

Efforts were no doubt made to bring the measure into accord with existing treaty stipulations, so far as that could be done consistently with the real purpose of the enactment. But having regard to the pronouncement contained in Section 7 of the Act, it may be doubted, whether the legislature of California considered it essential to respect treaty engagements bearing on the subject of alien land ownership in so far as those engagements could not be reconciled with the wishes of the State in the matter.

In these circumstances, it becomes my duty,

is unfair and intentionally racially discriminatory, and, looking at the terms of the treaty between our two countries, they are equally well convinced that the Act in question is contrary to the letter and spirit of that compact, and they moreover believe that the enactment is at variance with the accepted principles of just and equal treatment upon which good relations between friendly nations must, in the final analysis, so largely depend. Nor can my Government find in the new law, as you have done, any declaration of the intention to respect and preserve all rights under existing treaties. It is quite true that Section 2 of the Act provides in effect that aliens not eligible to citizenship may acquire, possess, enjoy and transfer real property, or any interest therein, to the extent and for the purposes prescribed by any treaty now existing between the United States and the country of which such alien is a citizen or subject, and not otherwise. But, in the opinion of the Imperial Government, that provision cannot be reconciled with the treaty stipulations to which they appealed in my former note, and to

under instructions from my Government, to announce to you that the Imperial Government are compelled, much to their regret, to maintain, in its integrity, the protest contained in my previous note on this subject. I beg to point out in this connection, that my Government cannot regard as responsive to the actual situation the suggestion contained in your note to the effect that Japanese people are at liberty to appeal to the courts of the United States for the enforcement of their constitutional and legal rights. My countrymen who may suffer wrong in consequence of the enactment will, no doubt, look to those tribunals for relief. But I venture to make it entirely clear to your appreciation that the Imperial Government are firmly convinced that the phase of the controversy now under discussion, is only appropriately amenable to ordinary diplomatic processes. The question at issue is a question between the Government of Japan and that of the United States, as to the true intent and meaning of their existing treaty, and the extent to which the rules and principles of fair and

equal treatment may, in comity and good conscience be invoked in the present case. The wrong complained of is directed against my countrymen as a nation. It was committed by the authorities of a single State of the Union, contrary to the expressed wish and advice of the Federal Government. It is, nevertheless, to that Government alone, that Japan must look to have the wrong undone, since it is with that Government alone that the Imperial Government hold diplomatic intercourse. (To be continued.)

No. 135-3.

The number of my countrymen actually affected by the discriminatory legislation complained of is small, and the quantity of landed property in California actually held by them, is very inconsiderable (being, I am informed, less than one fourth of one per cent of the area of the State.) On the other hand it is a recognized fact that, as a result of a careful and conscientious enforcement of the existing understanding on the subject of labor emigration from Japan to America, the Japanese population in the United States has,

from my Government, to invite your attention to a phase of the present question, to which, in the situation as it existed at the time my former note was addressed to you, it was not deemed either necessary or advisable to advert.

I refer to the matter of Japanese naturalization in America in its relation to the question of Japanese land ownership. The provisions of law, under which it is held that Japanese people are not eligible to American citizenship, are very distasteful to the Government and people of Japan, since the objectionable racial distinction inferable from those provisions is hurtful to their national susceptibility. The question of naturalization, however, is a political question of national, and not international, concern. So long, therefore as the distinction referred to was employed in relation to rights of a purely political nature, the Imperial Government had no occasion to approach the Government of the United States on the subject. But when that distinction is made use of, as in the present case, for the purpose of depriving Japanese subjects of rights and privileges of a

since that understanding took effect, shown an annual decrease. Accordingly, if the object of the legislation in question was wholly economic, then the conclusion is natural, it seems to the Imperial Government, that the apprehensions, upon which the enactment were based, were unjustifiable and without sanction of good reason, and, I trust, I may be permitted in the present context to add the suggestion that the law under discussion does not concern itself exclusively with agricultural lands.

But, even if the basis of the Act had been wholly economic, that fact could not, in the opinion of my Government, be advanced, as a valid and sufficient reason, for annulling or abridging the vested rights of property of my countrymen, and I beg to assure you that the Imperial Government have too high an opinion of the sense of right and justice of the American Government to believe for a moment that that Government will permit a State to set aside the stipulations of a treaty or to impair the obligations of reciprocal friendly intercourse and good neighborhood.

In conclusion I beg, in pursuance of instructions

civil nature, which are freely granted in the United States to other aliens, it becomes the duty of the Imperial Government, in the interest of the good relations and good understanding between the two countries, to frankly express their conviction that the racial distinction, which at best is inaccurate and misleading, does not afford a valid basis for the discrimination on the land tenure.

(右和訳文)

以書翰啓上致候陳者曩ニ加州ニ於テ制定セラレタル外國人土地所有法ニ関スル本月九日附本使ノ公文ニ對シ同月十九日附貴翰御回答ノ趣聞悉本使ハ直ニ之ヲ本國政府ニ電達致置候

然ルニ右御回答ハ未タ以テ該法ニ関シ帝國政府ノ懷ケル憂慮ノ念ヲ減少スルニ足ラサルモノナルハ本使ノ遺憾トスル所ニ有之候先是該案ノ尙加州議會ニ於テ討論セラレシツアリシニ當リ米國政府カ本件ニ関シ軫念措ク能ハサルノ態度ト行動ニ出テ且同情ヲ表シタルノ事實ニ顧ミ帝國政府ハ本問題ノ満足ナル解決ヲ得ンカ為メニ米國政府ノ喜ンテ帝國政府ト協力セントスルノ意嚮ヲ有スルモノナルコトヲ示ス

ニ咨ナラサル可キヲ期待スルニ於テ好箇ノ理由アリト思惟シタル次第ニテ若シ我邦人ニシテ條約上ノ權利及保障ヲ奪ハレタリトスル場合ニハ合衆國ノ裁判所ニ於テ之カ救済ヲ求ムルノ途アルニアラスヤト云フカ如キ弁疏ニ遇ハントハ固ヨリ其ノ豫期シタル処ニ無之抑モ該法ノ為メニ不利ナル影響ヲ被ルモノハ帰化能力ヲ有セサル外國人ニ限レルヲ以テ米國ハ日本國臣民ニ其國籍ヲ取得スルノ權利ヲ附与セサルコト及該法ノ為メニ主トシテ苦痛ヲ感スルモノハ日本臣民ナルコト且又該法本来ノ目的カ加州ニ於テ土地ヲ獲得所有スルノ權利ヲ我邦人ヨリ奪ハントスルニ在ルコトヲ考フル時ハ帝國政府ハ該法ヲ以テ不公平ニシテ且故意ニ人種的差別ヲ設クルモノナリトノ結論ニ到着セザラントスルモ能ハス又該法ハ之ヲ兩國間條約ノ規定ニ照スモ其字句及精神ト相容レサルモノアルノミナラス更ニ又友好國間ニ於ケル親善關係ノ根本義タル公正ニシテ均等ナル相互待遇ノ原則ニ悖ルモノナルハ帝國政府ノ齊シク信シテ疑ハサル所ニ有之將又我政府ハ右法律中貴官ノ認メラレタルカ如ク現行條約上ノ一切ノ權利ヲ尊重保持スルノ意思ヲ宣明セル点アルヲ發見スル能ハス該法カ第二條ニ於テ帰化能力ヲ有セサル外國人ハ其本國ト米國トノ間ニ於ケル條約ノ規定セ

ニ合衆國ノ裁判所ニ出訴スルノ自由ヲ有スルニアラスヤトノ貴官ノ弁疏ハ我政府ノ見テ以テ当面ノ時局ニ適応セリト思惟シ難キ所ニ有之我邦人ニシテ該立法ノ結果不当ノ損害ヲ被ルモノノ之カ救済ヲ合衆國ノ法廷ニ求ム可キハ論ヲ竣タスト雖帝國政府ノ確信スル所ニ依レハ本件ノ性質タル普通ノ外交手段ニ依リテノミ適當ニ之ヲ処理スルコトヲ得可キモノニ有之若シ本使ニ於テ斯点ヲ十分明カニ貴官ニ了解セシメサリシトセハ本使ハ未タ貴官ニ對シ帝國政府ノ所見ヲ正確ニ疏述スルノ責ヲ尽ササリシモノナリ今日係争中ノ問題ハ日米兩國政府間ノ問題ニシテ現行條約ノ真正ナル意思及意義ニ關シ又公平ニシテ均等ナル相互待遇ノ原則カ國際禮儀及良心上幾許迄本件ノ場合ニ援用セラル可キカニ關スルモノニ有之斯ノ問題ヲ惹起スニ至レル不当行為タルヤ一國民トシテ我邦人ヲ目的トスルモノニシテ其合衆國政府ノ翼望及勸告ニ反シ同國內一州ノ官憲ニ依リテ遂行セラレタルモノナルハ事實ナリト雖而カモ日本ハ該政府ニ對シテノミ之カ取消ヲ求メ得可シ蓋シ帝國政府ハ合衆國政府トノミ外交關係ヲ有スルモノナルカ故ニ有之候

件ノ差別的立法ニ依リ實際影響ヲ被ル我邦人ノ數ハ多カラス又加州ニ於テ現ニ彼等ノ所有シ租借セル土地ノ面積モ極

ル範圍内ニ於テ不動産ヲ取得所有シ又ハ讓渡スコトヲ得ト規定セルハ事實ナリト雖帝國政府ノ所見ニ依レハ右ノ規定ハ本使前回ノ公文ニ於テ援用シ今復タ茲ニ援用セントスル條約ノ規定ト調和スルコトヲ得サルモノニ有之候

日本臣民ノ加州ニ於テ不動産又ハ其中ニ存スル利益ヲ所有スルハ独リ現行條約ニ由ルノミナラス又併セテ法律ニ由ルモノナルヲ以テ斯ノ正当ニ取得セラレタル財産ハ條約ノ規定上米國市民ノ所有ニ係ル同種財産ト同様ニ常ニ保護及保障ヲ受ク可キモノタルハ疑ヲ容ルルノ余地ナキ儀ニ有之候

右ノ法律ヲシテ立法ノ真目的ト両立シ得ル限り現行條約上ノ規定ト調和セシメンコトニ尽力ノ試ミラレタルハ疑ナシト雖該法第七條ニ包含セラレタル声明ニ顧ミル時ハ加州議會ハ果シテ外國人土地所有問題ニ關シ條約ノ規定カ同州民ノ冀望ト添ハサル場合ニ於テモ尚之ヲ尊重スルノ必要アリト思惟シタルモノナルヤ否ハ疑問ノ存スル所ニ有之候事情如斯ナルヲ以テ本使ハ茲ニ本國政府ノ訓令ニ依リ帝國政府ニ於テハ乍遺憾本使前回ノ公文所陳ノ抗議全部ヲ支持スルノ不得已所以ヲ貴官ニ宣言スルノ義務ヲ有スル者ニ有之候抑モ日本臣民ハ其憲法及法律上ノ權利ヲ強行スル為メ

メテ小ナルモノニシテ本使ノ聞ク所ニ依レハ合計纔ニ同州ノ面積ノ一分ノ四分ノ一ニ足ラスト言ヒ他方ニ於テハ又米國行移民ニ對スル帝國政府ノ嚴重ニシテ誠実ナル取締ノ結果トシテ在米日本人口ノ年々減少シツツアルノ事實ハ疑ヲ容レサル所ナルヲ以テ若シ該法律ノ目的ニシテ果シテ全然經濟的ナリシナランニハ之カ制定ハ実ニ理由ナキ一片ノ杞憂ニ基キタルモノナリト言フテ不可ナキカ如ク尚斯点ニ關シテハ該法ノ専ラ農業用土地ノミニ關スルモノニアラサルコトモ亦閑却ス可ラサル儀ト思料致候將又仮リニ該法ノ全然經濟的理由ニ基キテ制定セラレタルモノナリトスルモ其事實ハ以テ我邦人既得ノ財産權ヲ無効トシ又ハ毀害スルノ正当ナル理由ヲ構成スルモノナリトハ我政府ノ思惟スル能ハサル所ニ有之由來正義ノ感念ニ富メル米國政府カ其管内ノ一州ヲシテ苟モ條約ノ規定ヲ没却シ又ハ修好善隣ノ相互の國際義務ヲ蔑視スルカ如キ行為ヲ敢テセシムルモノナラントハ帝國政府ノ夢想タモセサル所ナルハ本使ノ貴官ニ向テ證言スルヲ憚ラサル所ニ有之候

終リニ臨ンテ本使ハ本國政府ノ訓令ニ遵ヒ本使前回ノ公文提出ノ當時ニ於テハ未タ言及スルノ必要モナク又得策ナリトモ思ハレサリシ現問題ノ一局面即チ米國ニ於ケル日本人

土地所有權問題トノ關係ヨリ生スル日本人帰化問題ニ付貴官ノ注意ヲ請ヒ置度抑モ日本臣民ハ米国籍ヲ取得スル能ハストセル米国籍ノ規定ハ日本政府及人民ノ快トセサル所ニ有之是レ右規定ノ根底ニ蟠ル忌ハシキ人種上ノ差別カ自然ニ彼等ノ国民の自負心ヲ損傷スルモノアルカ故ニ有之候唯タ帰化ノ問題タル国内政治ノ問題ニシテ國際政治ノ問題ニアラサルカ故ニ右ノ差別カ純然タル政治上ノ權利ニノミ適用セラルル限リ帝國政府ハ本問題ニ關シ米國政府ニ迫ル可キ何等ノ機會ナカリシナリ然リト雖本件ノ場合ニ於ケルカ如ク右ノ差別カ他國ノ人民ニハ自由ニ附与セラレ居ル私權ノ享有ヲ日本臣民ヨリ褫奪スルノ目的ニ使用セラルルニ及ンテハ帝國政府ハ兩國ノ好誼親善ノ關係ニ顧ミ本来不精確ニシテ且誤解ヲ招キ易キ斯ノ人種上ノ差別タル以テ我異議ノ存スル所タル私權享有上ノ差別ヲ設クルノ正當ナル理由ヲ供スルモノアラスト確信スル所以ヲ率直ニ表明セサル可カラサル次第第二候

(本使ハ茲ニ貴官ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候 敬具)

註 右和訳文ハ概訳ナリ

国民ハ本件ヲ以テ國家ノ「ディグニティ」ニ關スル重大問題ト認メ居ルノ事實ヲ十分會得セシメ極力前記ノ目的ヲ達スルニ勗メラルヘシ尚ホ閣下ハ右弁駁書ニ關シ必要ノ説明ヲ与ヘラル、ニ際シ米國政府ノ回答書中矛盾ノ個処及ヒ駁論ト注意ヲ加フルヲ利益ト思考セラル、其他ノ諸点ニシテ我弁駁書ニ洩レタルモノニ關シ附加ヘテ國務長官ノ注意ヲ喚起セラル、コト亦可然ト思考ス尚又閣下ハ最近ノ機會ニ於テ大統領ニ謁見シ國務長官ニ對シテ述ヘラレタル所ヲ繰返シ切ニ大統領ノ正義ノ念ニ訴ヘラルベシ

二九五 五月二十八日

牧野外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛(電報)

加州問題根本解決ノ前提トシテ日本人ノ区別的待遇回避方ニ關シ大統領ノ注意ヲ喚起セラレ度
キ旨訓令ノ件

別電 同日牧野外務大臣宛珍田大使宛電報第一四〇

号

米國大統領ニ陳述スベキ右前提趣意

第一三九号

往電第一三八号ハ要スルニ当面ノ問題タル土地法ノ條約違

一 加州ノ外国人士地法案及日本政府ノ抗議關係 二九五

二九四

五月二十八日 牧野外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛(電報)

米國ノ回答ニ對スル弁駁書案中一部修正ノ件

第一三六号

往電第一三五号ノ三前段 actually held by them ノ次ニ both as owners and leaseholders ヲ加フ又末段帰化權ノ場所ニ於テ very distasteful ニ代フルニ mortifying ヲ以テシ其下ノ Since the objectionable racial distinction ノ内 objectionable ヲ削ル

二九四

五月二十八日 牧野外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛(電報)

米國ノ回答ニ對スル弁駁書提出方訓令ノ件

第一三八号

往電第一三五号ノ弁駁書確定ノモノトナリタルニ付直ニ米國政府ヘ提出セラルヘシ右弁駁ハ要スルニ米國政府ヲシテ土地法ノ條約違反タル事實ヲ容認セシメ同政府ヲシテ自ラ訴訟ヲ提起セシムルヲ以テ目的トスルモノナルニヨリ閣下ハ善ク此意ヲ体シ速ニ國務長官ニ會見シ更ニ條約違反ノ点ヲ詳細ニ指摘セラル、ト同時ニ同長官ヲシテ帝國政府及ヒ

反タル事實ニ關シ差向キ我レニ有利ナル解決ヲ得ントスルモノナルモ同時ニ往電第一二二号ヲ以テ申進シタル如ク本問題ノ根本的解決策ニ關シ十分研究スルコロアルハ亦極メテ緊要ナルニツキ追テ当方ヨリ何等提議スルコロアルヘキモ差当リ閣下ハ最近大統領ニ謁見ノ際本問題ノ前提トシテ大要別電第一四〇号ノ意味ヲ閣下ノ裁量ニテ可然取捨ヲ加ヘ大統領ニ陳述セラルヘシ右別電ニ述フル如キ論旨ハ「ウイルソン」氏ノ人物性格ニ照ラシ相当同氏ニ「アップル」スルコトト信スルニツキ閣下ハ其御含ヲ以テ十分我趣意ノ貫徹ニ勗メラレ最モ切實ニ大統領ノ注意ヲ喚起セラルヘシ尚本件ノ趣旨ハ為念文書ニ認メ大統領ノ手許ニ残シ置カルル方可然又序ヲ以テ同様ノ趣意ヲ國務長官ニモ口述シ置カレタシ

註 前掲二六〇文書

(別電)

五月二十八日牧野外務大臣宛珍田大使宛電報
米國大統領ニ陳述スベキ加州問題根本解決ノ前提趣意

第一四〇号

帝國ト米國トハ太平洋ヲ隔テ、相隣シ通商ニ航海ニ社会的

ニ両国民ノ互ニ相接触スルハ地理上天然ノ配置ノ然ラシムルトコロニシテ両国共ニ国民ノ平和的發展ノ著大ナルコト他ニ比類少ナク随テ両国民ノ接触愈其度ヲ加フルハ勢ヒ自然ノ数ナリトイハサルヘカラス然ルニ右接触ニ際シ偶々何等不快ノ現象ヲ発見シタレハトテ相互ニ其地理上ノ位地ヲ改ムベキニアラス其隣国ノ自国ニ快適タルト否トニ拘ラス永久ニ隣同士タルハ到底免カルヘカラス而シテ米国力其隣人ノ無理ヲ甘受セサルト均シク日本モ亦決シテ隣人ノ不公平ヲ容認スルモノニアラス故ニ両国互ニ他ヲ適當ニ待遇スル間ハ何事モナク両々相携テ国運ノ發展ト福祉ノ増進ヲ期シ得ヘキモ若シ両国ノ一方カ他ノ一方ニ対シ不公平ノ待遇ヲ与フル如キコトアルニ於テハ両国ノ間ニ始終物議ノ絶ユル間ナク經濟上社会上迷惑ヲ感スルハ双方同様ニシテ為ニ直接間接両国ノ失フ所尠少ナラス、左レハ苟モ両国間ニ生スルコトアルヘキ物議ノ種ヲ除キ永ク和平ノ基礎タルヘキ方法ヲ発見スルノ必要ハ両国ノ均敷最モ切実ニ認メサルヘカラル所ニシテ両国国交ノ大局上極テ喫緊重要ノコトニ屬ス而シテ此点ハ單ニ兩國政府ノ当局者ノミナラス兩國議會及ヒ識者ノ間ニ於テ最モ慎重ナル注意ヲ払フヘキ國家百年ノ長計ニ關スル重大問題ナリト信ス而シテ如斯方

二九六

五月二十八日

牧野外務大臣ヨリ
在米國珍田大使並ニ在紐育來栖及
在桑港沼野兩總領事代理宛

排日運動ノ背後ニ第三國アルヤノ風説ニ關シ内
密真相探知方訓令ノ件

機密送第六四号(華府)

〃 一二〃(紐育) 各通

〃 一二〃(桑港)

米國ニ於ケル排日運動ノ背後ニ第三國アルヤノ風説ハ數年來當省ノ密ニ聞及居候儀ニ有之候処今回加州ニ於ケル土地法ノ成立ニ關聯シテモ亦歐洲ノ某々強國ガ密ニ煽動又ハ教唆ヲ試ミ右運動ニ対シ多少ノ幫助及ヒ後援ヲ与ヘ居ルモノト察セラル、趣内外相當ノ筋ヨリ本大臣カ再三内報ヲ受ケタル所ニ有之右ハ事ノ性質上決シテ輕卒ニ揣摩難致ハ勿論ノ儀ニ有之候得共萬一日米ノ關係ニ対シ第三國又ハ移民事業ニ利害關係ヲ有スル第三國ノ会社等ニ於テ直接ト間接トヲ問ハス離間中傷ヲ試ミ兩國々交ノ乖離ヲ事トシ又ハ我移民事業ニ妨害ヲ加フルカ如キ企画アルニ於テハ帝國ノ外交上容易ナラザル事柄ニシテ決シテ看過スルヲ許サス如此風聞ノ確否ニ關シ相當ノ探查ヲ遂クルハ極テ緊要ノ儀ト相

法ヲ発見セントスルニハ兩國國民須ク虚心坦懷苟モ他ノ正當ニシテ尤ナル請求ヲ容ル、ニ客ナルコトアルヘカラス若シ一方ニシテ他ヲ遇スルニ僻見ヲ以テシ之ニ区别的待遇ヲ与ヘ他ノ正當ナル要求ニ応スルヲ躊躇スルニ於テハ決シテ如此方法ノ発見セラルヘキ道理ナシ日本人ハ偶々歐米人ト人種ヲ異ニスルモ國民トシテ聊カ自ラ期スル所アリ世界文明ノ進歩ニ応分ノ「コントリビューション」ヲナサンコトヲ心掛クルモノニシテ区别的待遇ハ國家ノ「ディグニティー」ニ關スル問題トシテ帝國國民ノ決シテ容認スル能ハサル所ナリ矧ンヤ帝國臣民ニ対シ加州ノ労働界ニ出入スル歐洲ノ某々國ノ労働者ニ対スルヨリモ劣等待遇ヲ与ヘントスルニ於テテヤ帝國國民ノ要求スルコロハ單ニ他ノ外國人ト同等ノ待遇ヲ受ケントスルニアリテ断シテ其レ以上ヲ求ムルモノニアラス日米兩國關係ノ根本問題ニ關シテハ漸次米國政府ノ親切ナル考量ヲ乞ヒタキ儀モ有之ニヨリ大統領ニ於テ兩國ノ為メ豫メ前述ノ趣意ニ熟慮ヲ与ヘ置カレシコトヲ切望ス

認メ候ニ付 閣下
貴官ハ善ク此意ヲ体シ居常此点ニ關シ周到ナル
注意ヲ払ハレ適當ノ方法ニヨリ事ノ真相ヲ探知スル機十分
御配慮相成度此段及訓令候 敬具

二九七

五月二十八日

在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

弁駁書所載ノ日本人所有地及借地面積計數根拠
問合ノ件

第一八二号

貴電第一三五号ノ三ニハ在米日本人所有地及借地面積ハ併セテ加州總面積ノ one fourth of one percent トアル所當館ノ調査ニ依レハ昨年末ニ於ケル所有地三三二、七二六「エーカー」(加州労働局調査)ニシテ加州總面積ハ一五八、三六〇方哩即一〇一、三五〇、四〇〇「エーカー」又加州農業地ノ總面積ハ二七、九三一、四四四「エーカー」ナルヲ以テ日本人關係地ノ面積ハ其何レニ対シテモ御申越ノ如キ割合トナラス貴電計數ハ如何ナル根拠ニ依ラレタル次第ナルヤ折返シ返電アリタシ

二九八 五月二十八日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

米國回答ニ對スル弁駁書及大統領宛電書同時

提出ニ付稟請ノ件

第一八三號

貴電第一四〇号ニ關シテハ当地現下ノ実情ニ照ラシ貴電ノ趣ニ遵ヒ新ニ一ノ覺書ヲ調製シ之レヲ大統領ニ面交スルコトト致シタク且右覺書ハ其ノ關係スル所極メテ重大ナルニ顧ミ調製ノ上ハ豫メ貴大臣ノ御承認ヲ經タント思考スル所若シ之レカ提出ニ先チ貴電第一三五号弁駁書ノミヲ提出スルニ於テハ米國政府ニ於テ直ニ右ニ對スル措置決定ヲナスニ至ル處アルニ付弁駁書ト右覺書提出ハ殆ンド相前後スルヲ必要トスル次第ナリ米國政府起訴ノ件ハ縱シ先方ノ承諾スル所トナルニ於テモ來ル八月迄實際起訴ノ途ナキ儀ナルヲ以テ之レカ提出ハ必ズシモ一日ヲ爭フ次第ニモ無之從テ覺書提出準備完了迄之レカ提出ヲ延期シ差支ナカルヘシト思考セラルルモ若シ他ニ何等急速提出ヲ必要トセラルル事情アリヤ何分ノ儀御電訓ヲ請フ

ノコトニ取斗ハレ差問ナシ又貴電第一八一号ニ關シ当方ニ於テハ我抗議及ヒ米國政府ノ回答并ニ我弁駁書ノ内容ハ何人ニモ内示シ居ラサルニ付貴方ニ於テモ秘密ニ附シ置カルヘシ但シ經過ノ大体ニツキ差問ナシト御考ノ程度ニ御話アルハ妨ナシ

三〇一 五月二十九日 在桑港沼野總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法ニ關スル桑港労働組合ノ意見分裂ノ

旨新聞報道ノ件

第二〇三號

新聞紙ノ報スル所ニ依レハ土地案ニ關スル桑港労働組合ノ意見ニ派ニ別レ「サンフランシスコ、レーボル、カウンシル」ハ今回通過ノ土地案ハ外國入土地所有禁止ノ一進歩ニシテ之ヲ「レフェレンダム」ニ附スルハ徒ラニ本法ノ施行期ヲ遅延セシメ其間東洋人ニ土地買得ノ機會ヲ与フルモノナレハ絶対ニ之ニ反對シ尚一層峻嚴ナル法律ヲ希望スルモノハ須ラク「イニシアティーヴ」ニ依ルヘキモノナル旨ヲ決議シタルモ「アジアティック、エキスクリエーション、

二九九 五月二十九日 牧野外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛(電報)

在加州日本人所有地及借地面積算定ノ根拠

回答ノ件

第一四二號

貴電第一八二号ニ關シ最近発刊ノ加州労働局第十五回年報(沼野領事ヨリ曩ニ閣下ヘ送付シタル筈)第六三三頁ニヨレバ日本人所有地面積ハ昨年三月調査ニテ一二、七二六「エーカー」トアルモ現在ニテハ二萬「エーカー」内外ニ増加シタルモノト看做サレ又借地面積ハ登記済ト登記未済ヲ合セ實際廿萬「エーカー」内外ト看做サル、ヲ以テ兩者ヲ合シ「パーセント」ノ四分ノ一以内トナシタル訳ナリ

三〇〇 五月二十九日 牧野外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛(電報)

弁駁書及大統領宛覺書同時提出並關係文書ノ

秘密保持ニ付回訓ノ件

第一四三號

貴電第一八三号ニ關シ貴見ノ通覺書ト弁駁書ヲ同時ニ提出

リーグ」及「サンフランシスコ、ビルデング、トレーズ、カウンシル」ノ一派ハ今回ノ土地法ハ借地ノ條項ヲ含ミ全然主要ノ目的ヲ失フニ至リタルモノトシ「レフェレンダム」及「イニシアティーヴ」ノ兩者ヲ同時ニ行ハントシ「エキスクリエーション、リーグ」ハ十一萬余ノ會員ヲ有スルヲ以テ容易ニ多数ノ署名者ヲ得ヘシト称シ居レリ又当州「サンタクララ、カウンティー、レーボル、カウンシル」ハ桑港「レーボル、カウンシル」同様「レフェレンダム」反對ノ決議ヲ為シ之ニ對シ知事ハ其態度ヲ賞讃シ今回ノ土地法ハ州民多年ノ宿望ヲ遂ケタルモノニテ禁制或ハ嚴ナラサルノ嫌アリト雖而カモ我目的ニ向テ一步ヲ進メ其一部ヲ遂ケタルモノナルニ此際土地法ニ賛成シナカラ「レフェレンダム」ニ署名スルモノアルハ痴漢ニ非サレハ利ノ為ニ買取セラレタルモノナルヘシ云々ノ書面ヲ送レリト云フ

大使ヘ第一九三号ニテ電報ス

三〇二 五月二十九日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛（電報）

加州問題根本解決ノ前提ニ関スル大統領宛

覚書案ニ付請訓ノ件

別 電 同日珍田大使發牧野外務大臣宛電報第一八五

号

右大統領宛覚書案

第一八四号

往電第一八三号ニ関シ覚書案別電第一八五号ノ通り調製セ
ルニ付御査閲ノ上何分ノ饒御電訓ヲ乞フ

貴電第一四〇号ニ依レハ根本問題ハ追テ米國政府ノ考慮ヲ
求メラルコトナルハク差当リ其ノ前驅トシテ豫メ大局論
ニ付キ大統領ノ注意ヲ促スヘキノ趣旨ト察セラルル所此ノ
際之レヲ豫告スルトキハ米國政府ニ於テハ追テ帝國政府ヨ
リ至難ナル問題ヲ提議セラルヘキ（ヲ豫想シ）米國ノ名
ヲ以テ出訴スル件ハ右ノ内容ヲ確マル迄何分ノ決定ヲ見合
ス處アリト思考シ覚書案中ニモ前記豫告ノ意ヲ明記スルヲ
避ケタル次第ニ付右御承認アリタシ

（別 電）

五月二十九日珍田大使發牧野外務大臣宛電報第一八五号

grieved to witness that the legislature of that
State has lent itself to measures adverse to Japa-
nese subjects without due regard to lawful rights
and natural susceptibilities of a friendly neighbor.
From the standpoint of Japan, the question is not
one of mere pecuniary or economic importance. It
involves a question of broader principles. It im-
prints indignity and stigma upon Japanese sub-
jects as a nation, since in the enjoyment of civil
rights, they are placed on an inferior and unfavor-
able position because of their race and nationality.
Such discrimination would naturally afford just
and reasonable ground for general resentment in
Japan. The action complained of was committed,
it is true, by a single factor of the union. That
it has no sympathy or support of Federal Govern-
ment and of the overwhelming mass of the Ameri-
can people is profoundly felt and appreciated in
Japan. The question would have no doubt as-
sumed incomparably greater magnitude had the
measure been openly approved and upheld by the
pronouncement of the Government and people of
the whole union. The Imperial Government con-

加州問題根本解決ノ前提ニ関スル大統領宛覚
書案

NO. 185. Betsuden.

Having in view geographic propinquity of Japan
to the United States and the growing expansion of
both countries in all branches of peaceful pursuits,
it seems natural that the two nations should come
into wider and closer contact with each other, com-
mercially, industrially and socially. It is essential
to their common benefit and material well-being
that they should maintain between themselves
relations of genuine friendship and good neigh-
borhood, and such relations are assumed so long
as each of them extends to other fair and equitable
treatment in the field of legitimate activities. The
Imperial Government are ready to observe that
the mutual intercourse of the two nations has
always been of an especially agreeable and cordial
character, and that it has constantly been growing
in strength and solidity. In this situation, they
are unable to view recent development of affairs
in California without a keen sense of disappoint-
ment and concern. They are particularly ag-

idently hope that the position which they feel con-
strained to take in regard to the new California
enactment will commend itself to the full apprecia-
tion and endorsement of the American administra-
tion.

Chinda

三〇三 五月二十九日 在桑港沿野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛（電報）

在米日本人会時局特別委員決議報告ノ件

第二〇四号

在米日本人会時局特別委員ハ五月二十七日大要左ノ決議ヲ
為セリ

第一、時局問題ニ付陳情ノタメ牛島安孫子ノ阿氏ヲ華盛頓
ニ派遣スルコト

第二、帰化権獲得ニ付テハ陳情委員ハ我大使ト談合ノ上適
当ノ方法ヲ講スルコト

第三、本会ハ添田博士ニ大使ト協議ノタメ華盛頓出張ヲ依
頼スルコト

第四、「エデューケーションナル、キャンペーン」ニ依リ米國
人ノ誤解ヲ解除シ同胞社会ノ改善進歩ヲ計ルコト

第五、日米ノ親交ヲ計リ時局解決ノタメ全米在留民ヲ網羅スル中央団体ヲ組織スルコト
第六、右ノ中央団体ノ主腦者ハ本国ヨリ招聘スルコト
第七、時局費ハ一年十五萬弗ト見積リ三萬弗ハ在米日本人会聯絡団体ニ於テ負担シ十萬弗ハ母国ノ援助ニ仰キ二萬弗ハ他ノ方法ニ依リ募集スルコト
第八、五名ノ專任委員ヲ置キ実行ノ任ニ当ラシム
大使ヘ第一九四号ニテ電報ス

三〇四 五月二十九日 在桑港沼野總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

在米日本人会時局特別委員会ノ決議発表ニ関シ
請訓ノ件

第二〇五号
五月二十七日夜在米日本人会時局特別委員会ハ大要左ノ決議ヲナセリ

(一) 加州土地法ハ正義人道ニ悖リ日米ノ親交ヲ害シ在米日本人ノ利益ヲ侵害スルモノナルニ付日本国政府ハ平和ノ状態ニ於テ極力其ノ利権ヲ擁護セラレンコトヲ望ム

三〇五 五月三十日 牧野外務大臣ヨリ
在米国珍田大使宛(電報)

加州土地問題ニ関スル我抗議及米国回答内容
漏洩ニ付措置方ノ件

第一四五号

土地問題ニ関スル我抗議及米国政府回答ノ内容多少世間ニ漏洩セル模様アリ昨今幾分東京ノ新聞ニ表ハレ米国ヘモ電報セラル、モノノ如シ右漏洩ノ途筋等ハ閣下本省在動中ノ御経験ニヨリ想像モセラル、コトナランガ或程度迄ハ米国筋ヨリ来ル新聞電報及ヒ当局者ノ態度等ヨリ想像ヲ逞フシタルモノナリ然ルニ萬一米国政府ニ於テ右ハ本邦政府筋ヨリ洩シタルモノト誤解スル如キコトアリテハ遺憾ニツキ必要ト御考アラハ序ノ節米国当局ヘ可然弁明シ置カレタシ

三〇六 五月三十日 在桑港沼野總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

日本人ノ借地権限縮ノ為「イニシアチヴ」提起又ハ借地ノ制限若ハ禁止法案加州議會ニ提出
豫想ノ件

第二〇七号

往電第二〇三号ニ関シ「レファレンダム」ニ関スル労働組

一 加州ノ外国人士地法案及日本政府ノ抗議關係 三〇五 三〇六 三〇七

(二) 該法ハ米国全体ノ意見ニ非ルニ付全体ノ希望ニ背馳シ其ノ感情ヲ害スルガ如キ行動ニ出ツルコトハ両国民ノ利益ニ非ズ

(三) 右ノ事情ニヨリ加州々会ニ於テ日本人ニ不利益ナル土地案討議中ニ拘ラズ帝國議會ガ桑港博覽会ニ賛同ノ意ヲ表シ其豫算案ヲ可決シタルハ其當ヲ得タルモノト認メ該博覽会ノ為其成効ヲ援助スベキコトヲ期ス

右決議ハ添田博士ヨリ渋沢男爵中野氏ノ手ヲ經テ農商務大臣ニ傳達スルト共ニ之ヲ内外新聞ニ公表スル手筈ナルガ此際直チニ之ヲ公表スルコトハ日米外交上何等差支ナキヤ至急何分ノ御電訓アリタシ

右決議ハ添田博士モ同意ニ付渋沢男中野氏ヘ御傳達セラレ度旨同博士ヨリ申出アリタリ

大使ヘ一九五ニテ電報シタリ

註 本件ニ関シ五月三十日牧野外務大臣発沼野總領事代理宛電報第五一号ヲ以テ此際発表差支ナキ旨回訓アリタリ

合ノ態度ハ二派ニ分レ居ルモ今後土地ニ関スル借地其他ノ權利ヲ日本人ニ対シ一層限縮セントノ点ニ付テハ兩派ノ意見一致セルノミナラス之ヲ貫徹スル方法トシテ「イニシアチヴ」ヲ提起スルコトアル場合ニハ日本人ハ其味方トシテ僅ニ一部地主アルノミニテ右等ノ運動阻止ノ見込極メテ少ナシ尤モ右等運動ハ今日迄ノ所何レモ単ニ議論ニ止マリ果シテ實際ニ提起セラルヘキコトアルヘキヤ否ヤ明ナラス但幸ニ「イニシアチヴ」又ハ「レファレンダム」ノ提起ナキ場合ニ於テモ次期州会ニ於テ借地ヲ更ニ制限又ハ禁止スルカ如キ法案ノ提出セラルヘキハ今ヨリ之ヲ豫想スルニ難カラス尚運動ニ関シテハ此後モ十分注意スヘシ
大使ヘ電報シタリ

三〇七 五月三十一日 牧野外務大臣ヨリ
在露国田付臨時代理大使
在独国杉村大使各宛

米国ニ於ケル排日運動ニ関シ内密注意方ノ件

機密送第七一号(露国)

六四(独国)(各通)

本件ニ関シ今般別紙写ノ通り在米珍田大使及在紐育桑港總

領事へ及訓令置候條閣下(大使へ)ニ於テモ御注意ノ上何等御聞込ノ点モ有之候ハバ本省并ニ在米大使へ御通報相成候様致度此段申進候 敬具(也)

註 別紙ハ五月二十八日附在米国珍田大使宛機密送第六四号字(前掲二九六文書)

三〇八 五月三十一日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

亞細亞人排斥同盟会解散提議新聞報道ノ件

第二〇九号

新聞紙ノ報スル所ニ依レハ亞細亞人排斥同盟会ハ今般總會ヲ開キ会長 Tviemoe ハ解散ヲ提議シ必要ナル手續完了次第解散ニ決シタル由同人ノ述フル所ニ依レハ今回ノ解散ハ各労働派ヨリ寄附金著ク減少シ到底維持ニ困難ナルノミナラス目下三百弗ノ負債アル為ナリ云々尚精探中
大使へ電報シタリ

講スルハ当然米国政府ノ責務ニ屬スルモノト思考スルコト及本使一己ノ私案トシテハ学童問題當時ノ先例ニ依リ米国自カラ進テ訴訟ヲ提起スルノ手段ヲ執ルヲ希望スルコトヲ英国大使ニ内話シ置キタル処同大使五月三十一日来談ニ依レハ国務長官ハ合衆国自カラ本問題ニ関シ訴訟当事者トナルコトハ当国ノ憲法及法制上其途ナキモノト思考スルモ為念一応大審院判事ノ意見ヲ問合スヘシトノコトニテ同大使ハ右ノ成行ニ顧ミ帝國政府ノ弁駁書提出モ此二三日延期スル方如何ナランカト云ヘリ尚本使ハ右合衆国力訴訟当事者トナル件ハ本使一己ノ希望ニ止マリ帝國政府トシテハ当国法廷ニ本問題ヲ主張シテ決定ヲ一任スルノ意ニアラサルカ故ニ帝國政府ノ要求トシテ之ヲ提議スル次第ニハアラサル旨ヲ英国大使ニ反覆説明シ置キタリ又「フッド」ヨリ聞ク所ニ依レハ国務長官ハ近日三四箇所ニ出張口演ノ先約アリシモ当地ニ於テ加州問題ニツキ用務ヲ生スヘキコトヲ豫期シ右先約ハ悉ク取消シタリトノコトナリ

三〇九 六月二日 牧野外務大臣ヨリ
在米国珍田大使宛(電報)

我弁駁書提出及大統領ニ謁見請求ニ付米国政府ニ豫告方訓令ノ件

第一四八号

英文覚書ハ近々電報スヘキモ弁駁書ノ提出此上遅延スルトキハ米国政府ニ於テ暫時ニテモ我態度ニ関シ誤解スル恐アリ面白カラサル影響ヲ来スコトナキニシモ限ラサルヘキニヨリ閣下ハ近々当方ヨリ弁駁書ヲ提出スヘキ旨并ニ本問題ニ関シ大統領ニ謁見ヲ乞フ覚悟ナル旨適當ノ方法ニヨリ米国政府へ通告シ置カレタシ

三一〇 六月二日 在米国珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

弁駁書提出豫告並英国大使トノ内話ニ関スル件

第一八九号

貴電第一四八号ニ関シ御訓示ノ通国務長官ニ豫告方取計フヘシ尤本使ハ英国大使ト絶ヘス接触ヲ保チ過日来到底米国政府五月十九日附回答ニ満足スル能ハサルコト本件日本人ニ対スル不正待遇ヲ除去センカ為メ必要且有効ナル方法ヲ

三一 六月三日 牧野外務大臣ヨリ
在米国珍田大使宛(電報)

加州問題ニ関スル米国政府宛弁駁書及大統領宛

覚書提出方訓令ノ件

別電 同日牧野外務大臣宛珍田大使宛電報第一五一

号

右大統領宛覚書

第一五〇号

英文覚書別電第一五一号ヲ以テ送附ス就テハ閣下ハ前電ノ趣意ニヨリ直チニ我弁駁書ヲ米国政府ニ提出セラルト同時ニ最近ノ機会ニ於テ大統領ニ謁見シ右覚書ノ趣意ヲ敷衍シテ述ヘラレ覚書ハ大統領ノ手許ニ残シ置カルヘシ

(別電)

六月三日牧野外務大臣宛珍田大使宛電報第一五一号

加州問題根本解決ノ前提ニ関スル大統領宛覚書

訓令案

The relations of geographic propinquity existing between Japan and the United States, coupled with the circumstance that both countries are steadily advancing along the same lines of peace and progress, make it entirely natural that the two

peoples should come into broader and closer contact with each other, commercially, industrially and socially. The relation of neighborhood is inevitable and cannot be changed, even though the contact give rise to occasional worry and misunderstanding. In the actual and unalterable situation, therefore, the maintenance of relations of genuine friendship and good accord between the two nations, will contribute to the common benefit and material well-being of both, and that result, it should be added, will be assured, so long as each Power extends to the other, fair and equitable treatment in the field of legitimate activities. But difficulties are sure to arise, from which both countries will equally suffer, economically and in all the various avenues of peaceful intercourse, if such treatment is withheld. In these circumstances the two neighboring countries owe it to themselves, to their traditions and aspirations, to find means by which all causes of irritation and discord shall be peacefully and permanently removed. For this purpose it is essential that the inhabitants of both lands, should meet and mingle

in a spirit of mutual esteem, courtesy and toleration, and in their various dealings with each other, should be governed always, by the broad rules and precepts of justice and fair play, and should also, be careful to avoid all discriminatory treatment tending to hurt or wound the sense of national dignity of a self-respecting people. The Japanese people, although differing by accident, in race, from the inhabitants of America and Europe, are, nevertheless, possessed of the same susceptibilities, inspired by the same aims and aspirations, and guided by the same principles, and they contemplate with full consciousness their high duty among the nations, to contribute their best efforts in the great work of advancing the world's civilization and betterment. They welcome with warm appreciation, the expression of the high value which the United States attach to the maintenance of relations of good understanding between the two nations, because in the full realization of all that is meant by that expression, the Japanese Government confidently look to America—the land of noble aims and high ideals—for cooperation and encouragement, in their endeavors in the

interest of general peace and harmony.

The Japanese Government fully appreciate the action taken by the Administration in the difficult question now under discussion between the two Governments and they earnestly hope that the President will be pleased to take the foregoing observations into favorable consideration.

(右和訳文)

畿カニ太平洋ヲ隔テ、相隣セル日米兩國民ノ經濟上社会上互ニ接触スルハ自然ノ現象ニシテ斯ノ相互ノ接触カ兩國國運ノ平和的發展ニ伴ウテ益々其度ヲ加フ可キハ必至ノ勢ナリト云フ可シ然ルニ斯ノ接触ニ際シ偶々何等不快ノ事態ヲ生シタレハトテ地理上兩國隣接ノ關係ハ之ヲ改ム可キニアラストセハ寧ロ交譲和協以テ永ク善隣ノ誼ヲ全ウスルコト相互ノ幸福タラスンハアラス而シテ之ヲ為スニ兩國民互ニ他ヲ遇スルニ礼ヲ以テスルニ在リ若シ然ラスシテ其ノ一方カ他ノ一方ニ与フルニ不公平ノ待遇ヲ以テスルカ如キコトアランカ其ノ間ニ物議ノ生スルハ必然ニシテ為メニ經濟上社会上兩者ノ均シク被ムル損害ハ少々ナラサル可シ果シテ然リトセハ兩國間ニ生スルコトアルヘキ一切ノ物議ヲ

排除シ得可キ平和的手段ヲ発見スルハ各自ノ利益、冀望及其ノ相互ノ伝來的關係ニ顧ミ兩國民ノ避ケント欲スルモ得可ラサル重大ノ義務ナリト言フ可シ而シテ斯ノ方法ヲ発見セントスルニハ兩國國民互ニ寛恕、友愛、恭敬ノ精神ヲ以テ相接シ其ノ間事ニ処スルニ当リテハ須ラク公明正大苟クモ他ノ威信ヲ損シ感情ヲ害スルカ如キ行動ハ力メテ之ヲ避ケサル可ラサルハ論ヲ俟タス日本人ハ偶々欧米人ト人種ヲ異ニスト雖而カモ同一ノ感覺ヲ有シ同一ノ志望抱負ヲ懷キ同一ノ主義ヲ奉スルモノニシテ其ノ期スル所ハ世界文明ノ進歩ニ応分ノ貢獻ヲ為サントスルニ在リ日本國民ハ米國力重キヲ兩國民親善關係ノ維持ニ措クヲ見テ歡喜措ク能ハサルモノナリ是レ蓋シ日本政府ヲシテ一般平和ノ確保上志望目的西ナカラ高尚ナル米國ニ對シ其ノ協力補助ヲ期待セシムル所以ナレハナリ

帝國政府ハ目下係争中ノ難件ニ関シテ米國政府ノ執リタル措置ヲ多トシ更ニ大統領ニ於テ叙上ノ次第ニ懇篤ナル考慮ヲ与ヘラレンコトヲ切望スルモノナリ

三二二 六月三日 在米田珍大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

我弁駁書提出予告並米田政府ノ起訴方希望及米
國憲法違反ニ付國務長官ニ申入ノ件

第一九〇号

貴電第一四八号ニ関シ六月二日國務長官ト会見御訓令ノ通
リ通告シタリ其節本使ハ往電第一六六号國務長官ノ提案第
二点ニ言及シ右ニ関シテハ本使限リ種々考量ヲ加ヘタルモ
単ニ訴訟ニ付諸事便宜ヲ与ヘラル、ノミニテハ本使ニ於テ
到底同意シ難ク是非米田政府ニ於テ起訴センコトヲ希望ス
ル次第ニシテ法律上果シテ米田政府力起訴シ得ルヤ否ヤノ
問題ニ関シテハ本使ニ於テ専門家ノ意見ヲ徵シタルモノ
アリト申述ヘ別電第一九一号中米田政府ノ起訴并参加人ト
ナル場合ニ関スル部分ノ要点ヲ認メタルモノヲ手交シ尚先
年学童問題ノ際「ロースヴェルト」氏ノ執リタル司法上ノ
措置ニ関スル事實ヲ指摘シ切ニ其考慮ヲ要望シ又加州土地
法ト米田憲法修正第十四條トノ關係ニ付テハ本使ニ於テ法
律家ヲシテ調査セシメタル結果本使過般ノ所論ヲ支持スヘ
キ一ノ意見書ヲ得タルニ付参照アリタシト述ヘテ該意見書
(Chapinノ調査ニ係リ当地弁護士 Mckenneyノ査閲ヲ經

三二三 六月三日 在米田珍大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

州法ト合衆國憲法トノ抵触ニ付米田政府ガ原告
又ハ参加人トナリ得ル場合ニ関スル件

第一九一号

Chapin 及 Mckenney 共同調査書ノ要領左ノ如シハ
当館ノ問合ノ諸点ニ對スル答申トシテハ未ダ不備ノ箇所ア
リ尚調査中ナルモ取敢ヘズ御参考迄

(一) 合衆國ハ州法ノ合衆國憲法ニ違反スルヤ否ヤヲ確定セ
ンガ為裁判所ニ起訴スルコトヲ得該訴訟ニ於テハ直接ニ
州ヲ被告トスルコトヲ得ズ州ノ官吏ヲ被告トシテ指示ス
ルヲ通常ノ手續トス本案ハ州裁判所及ビ合衆國裁判所執
レモ均シク其管轄權ヲ有スルモ實際ハ合衆國裁判所ニ起
訴スルヲ便トス

(二) 合衆國ハ州法ガ合衆國ノ條約締結權又ハ憲法上内外人
ニ保障セラレタル權利ヲ侵害スルコトヲ理由トシテ現ニ
繫屬中ノ訴訟ニ参加 (intervene) スルコトヲ得

(三) 合衆國政府ハ自ラ原告トナルト参加人トナルトヲ問ハ
ズ等シク大審院ノ判決ニ拘束セラレ

(四) 管轄權アル裁判所ニ於テ或ル法律ヲ憲法違反ト判決ス

タルモノニシテ本件類似ノ事件ニ関スル巨多ノ判決例ヲ舉
ケ結論トシテ加州土地法ハ米田憲法該條章ニ違反スルモノ
ナリト主張スルヲ得ト断定セルモノナリ其全文ハ往電第一
九一号調査報告書全文ト共ニ六月廿六日横濱着ノ便ニテ郵
送ス)ノ写ヲ手交シタルニ國務長官ハ篤ト研究ヲ遂ケ考量
ヲ加ヘント答ヘタリ尚本使ハ此序ヲ以テ貴電第一三一号ノ
趣旨ヲ申伝ヘタルニ國務長官ハ能ク我立場ヲ領承シ斯クア
ルヘシト豫期シ居リタル旨ヲ語レリ

註 米田憲法修正第十四條和訳文左ノ通

第一四條(一八六八年改正)

第一節(市民權)

合衆國ニ出生シ、或ハ歸化シ、ソノ管轄權ニ服ス
ルスベテノ人ハ、合衆國及ビソノ居住スル州ノ市民
デアル。如何ナル州モ、合衆國市民ノ特權或ハ免除
ヲ制限スル法律ヲ、制定若シクハ施行シテハナラナ
イ。マタ、如何ナル州モ、正當ナ法律ノ手續ニヨル
コトナクシテハ、何人ノ生命、自由或ハ財産モ、コ
レヲ奪ウコトハデキナイ、マタ、如何ナル州モ、ソ
ノ管轄權内ニアル何人ニ對シテモ、法律ノ平等ナ保
護ヲ拒ムコトハデキナイ。

ル時ハ其判決ハ上級裁判所ニ於テ破棄セラレザル限り当
然法律ト同一ノ効力ヲ有シ特ニ禁令 (injunction) 発布
ヲ申請スルノ要ナシ

三二四 六月三日 在桑港沼野總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

在米日本人会時局特別委員會決議公表見合ノ件

第二一〇号

往電第二〇五号ニ関シ当地日本人会幹部中其後同決議ヲ以
テ聊カ不自然ノ嫌アリトナシ且勞働派ノ態度未タ明確ナラ
サルニ付此ノ際直チニ之レヲ公表セラルルコトハ或ハ得策
ナラサルヘシトノ説起リ添田トモ協議ノ結果暫ク形勢ヲ觀
望スルコトトナリ右公表ハ一時見合シタリ大使ヘ電報ス

三二五 六月四日 在米田珍大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法ニ関シ米田政府ノ回答ニ對スル弁駁
書國務長官ニ手交ノ件

第一九四号

六月四日國務長官ニ会見弁駁書ヲ手交シ其ノ趣旨ヲ敷衍説

明シ尚米國政府回答書中ニ付注意ヲ加フヘキ点ヲ指摘シ且曩ニ土地法ノ加州議會繫屬中大統領ノ執リタル態度ヲ援用シテ米國ノ回答書ヲ駁撃シ長時間ノ談話ヲ交換シタルカ國務長官ハ該弁駁書ハ直チニ大統領ニ進達シ十分考慮ヲ加フヘシト述ヘ本使ノ駁論ニ對シテハ土地法ノ加州議會繫屬中米國政府ノ執リタル態度ハ該法ノ條約ニ違反ノ廉アルト否トニ關係ナク專ラ日本ノ感情ヲ重ンスル見地ヨリ出来得ヘクンバ州法ノ制定ヲ防止シ追テ外交上ノ手段ニヨリテ解決ヲ求メンコトヲ希望セル次第ナリ左レハ其ノ當時ノ態度ヲ援用シテ米國政府ヲ責ムルハ過酷ナラスヤト弁解シ又我ニ於テ本件ヲ國民的名譽ニ關スル問題トナス点ニ關シテハ之レヲ以テ甚シキ誤解ナリト論シ本件ハ全ク加州人民ノ衣食上必要已ムヲ得サルニ出テタル經濟問題ナリトノ趣旨ヲ反覆敷衍シ此ノ点ニハ最モ力ヲ込メテ切論シタリ右ニ對シテハ本使ヨリモ弁駁書所載ノ理由ヲ敷衍シ加州ノ実情ニ照ラシ且我ノ説述シタル所ヲ繰返シ極力駁論ヲ加ヘタルモ遂ニ何等ノ結論ヲ得ルニ至ラス尚同官ハ米國政府ノ目下ノ態度ヲ説明シ米國政府ニ於テハ土地法ノ條約又ハ憲法ニ違反シタル廉ヲ認ムルコト能ハスト雖若シ關係日本人ニシテ

大統領謁見ノ件ハ國務長官ニ於テ直ニ手續ヲ取り呉レタルモ大統領不在ニ付目的ヲ達スルコト能ハズ何レ明日ハ謁見ノ運ニ至ルベシト思考ス

三一六 六月 五日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

大統領ニ覺書手交ノ件

第一九五号

六月五日大統領ニ謁見貴電第一五一号覺書ヲ手交シタル上本使ハ篤ト説明ヲ加ヘ就中我ニ於テ本件ヲ重大視スル所以ニ付テハ特ニ重ヲ措キテ十分説明ヲ為シ本件ハ單リ在加州少數日本人ノ利權問題タルニ止マラス實ニ國家ノ威嚴ニ關スル問題トシテ真面目ナル國論ヲ喚起セルモノナルコトヲ説キ或ル新聞所報ノ如ク之ヲ以テ日本國ニ於ケル國內政争上反對派ノ煽動的議論ト為スハ全然無稽ニシテ實際ハ舉國一致深刻ナル憂慮ニ驅ラレツ、アル次第ナルコトヲ詳細縷述シタルニ大統領ニ於テモ日本國トノ國交ハ特ニ其ノ重要視スル所ナル旨言明セラレタル上抑モ本件ハ在加州日本人ノ産業上優勢ナル結果トシテ加州人民自衛上已ムヲ得サ

出訴スルモノアラハ出来得ル限り便宜ヲ与ヘントスル次第ナリ

然ルニ過日本使ヨリハ其私見トシテ憲法修正第十四條ニ抵触ストノ注意ヲ与ヘタルニ付折角研究中ナル処今ヤ日本國政府ノ弁駁書ニ依レバ日本國政府ニ於テハ飽ク迄條約違反ナリトノ意見ヲ保持セラル、ニ於テハ更ニ此点ニ就テモ篤ト講究ヲ遂グベシト述ベ日本國政府ノ趣旨ハ米國政府自ラ訴訟當事者タラシコトヲ求メラル、コト、了解シ差支ナキヤト質問シタリ右ニ對シ本使ハ日本國政府ハ具体的方法ニ付テハ何等要求スル次第ニ非ズト雖目下ノ事情ニ照ラシ米國政府自ラ進ンデ出訴手段ニ出テラル、ハ当然ノ順序ト思考シ居ル旨ヲ答ヘタルニ國務長官ハ米國政府ノ出訴要件ハ土地法ガ條約又ハ憲法ニ違反セル事實明確トナルニアリ然ルニ米國政府ハ現ニ該法ハ條約又ハ憲法違反ノ廉ナキモノナリトノ意見ヲ有スルコト前述ノ如クナルヲ以テ此上研究ノ結果其意見ヲ翻スベキ理由ヲ發見セサル限り到底米國政府ニ於テ出訴ノ手段ヲ執ル能ハザルベシ然レトモ日本人ニシテ該法實施ノ結果事實上損害ヲ蒙ルモノアラバ前述提案ノ通り議會ニ賠償ノ方法ヲ求ムルコトヲ辭セザル積ナリト云ヘリ右大要ノミ申進ス

ルニ出テタル次第ニシテ決シテ人種的見地ヨリ侮蔑ヲ加フル主旨ニ非ラス即チ純然タル經濟問題ニ外ナラスト雖日本國ニ於テ本件ヲ斯ノ如ク重大視セラル、ハ全ク感情問題ニ屬シ單ニ一片ノ理論ヲ以テ之ヲ律スヘカラス從テ米國政府ニ於テモ右ニ對シテハ尊敬ヲ以テ考量ヲ加フル所ナリト語ラレ尚本件ヲ單ニ經濟問題ナリトスル点ニ付テハ昨日國務長官ノ所論ト略ホ同種ノ趣旨ヲ縷述セラレタルガ本使ニ於テ我弁駁書ノ趣旨ヲ敷衍説明シタルニ對シテハ本使所論ノ理由アルヘキハ争ハサルモ一面加州ニ於テ日本人ヲ恐怖スル風潮ノ存在スル事實ハ枉クヘカサル所ニシテ政治家トシテハ之ヲ無視スルコト能ハスト弁解セラレ尤右風潮ハ單ニ「カリフォルニア」一州ニ限ラレ米國全体ニ非ラサルコトハ十分了解アリタシト云ハレタリ

又大統領ハ我カ弁駁書ニ就テハ折角今朝來研究中ナルカ米國政府ニ於テハ土地法ハ條約違反ノ廉ナシトノ意見ヲ有シ居ルコロ日本國政府ニ於テハ飽ク迄條約違反ヲ主張セララルニ付篤ト此点ヲ研究シツ、アル次第ナリ右研究ノ結果果シテ違反ノ廉ヲ認ムルニ至ラハ米國政府ハ其責任上当然之レカ除去ノ道ヲ講セサルヘカラス然ルニ其方法トシテハ當國政治機關組織上之ヲ法廷ニ訴フルノ外ナキヲ以テ其際

ニハ米國政府主トナリテ訴訟ノ手段ヲ執ルヘシ尤モ米國政府力訴訟ノ手段ヲ執ルコトナシトスルモ相當理由アルニ於テハ日本人ノ為メ實際ノ損害ニ對シテハ賠償ノ方法ヲ講スルヲ辭セサルヘシトノ趣ヲ開陳セラレ(脱)論トシテハ目下ノ先決問題ハ土地法ハ果シテ條約ニ違反スルモノナリヤ否ヤ研究ヲ遂クルニアリ追テ其結果ヲ俟チ米國政府ノ執ルヘキ手段ヲ決定スル旨ヲ申述ヘラレタリ交談ノ要點ハ以上ノ通ニシテ目下差迫リタル問題ハ土地法ノ條約違反ナリヤ否ヤノ點ニアルヲ以テ我ニ於テ飽ク迄主張スル論拠ニ関シ本使ヨリ説明ヲ試ミントセルニ對シ大統領ハ既ニ我力主張ハ二面ノ公文ニ依リ篤ト承知シ居ルトコロニシテ目下専門家ヲシテ研究セシメツ、アルニ付此際特ニ本使トノ間ニ法律上ノ議論ヲ交ユル要勿カルヘシトテ之ヲ避ケンコトヲ努メラレ話題ハ主トシテ本件ヲ經濟問題トナスノ點ニ差向ケラレタルニ付本使ニ於テモ自然此點ニ重キヲ措キ種々説明ヲ加ヘタル次第ナルカ本日大統領ノ所言ハ要スルニ國務長官昨日ノ談話ト大同小異ナルトコロ條約違反ノ廉ヲ認ムルトキハ米國政府自ラ出訴スヘキ旨言明セラレタルハ重要ナル相違ノ點ナリ

三二八 六月九日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛

加州土地法ニ関シ米國政府ノ回答ニ對スル弁駁書
書寫送付ノ件

附屬書 六月四日附右弁駁書寫

機密第二九号 (七月一日接受)

大正二年六月九日

在米

特命全權大使子爵 珍 田 捨 己(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯 殿

加州問題ニ関シ御電訓ニ依リ米國政府へ提出セル弁駁書ハ別紙寫ノ通りニ有之候間御査閲相成度為念右差進候追テ貴電第一三五号及第一四二号在加州本邦人所有地及借地面積ニ関スル計數ハ為念在桑港總領事代理ニ問合セタルモ登記濟面積以外ノ計數ハ確實ト認メ難ク從テ不精確ノ歩合ヲ公文中文ニ明示スルノ不得策ナルヘキヲ慮リ弁駁書ニハ之ヲ省略シ口頭ヲ以テ説明方取計置候間右御諒承相成度此段申進候 敬具

(附屬書)

加州土地法ニ関シ米國政府ノ回答ニ對スル弁駁

書寫

三二七 六月五日 在桑港沼野總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

亞細亞人排斥同盟會解散及加州土地法ノ「レフエレンダム」ニ関スル情報報告ノ件

第二二三号

往電二〇九号ニ関シ密偵ノ報告ニ依レハ東洋人排斥同盟ハ六月八日ノ集會ニ於テ其解散及土地案「レフエレンダム」ノ件ヲ決定スル由ナルカ「レフエレンダム」ニハ 桑港労働組合 San Francisco Labour Council, 桑港洗濯業同盟 San Francisco Laundry League 等ノ強硬ナル反對アリ旁排斥同盟自身ノ基礎堅カラサル今日仮令解散セサル場合ニ於テモ同會ハ「レフエレンダム」ヲ提起セサルヤモ難計又「イニシアチーブ」ニ関シテモ労働組合及ヒ洗濯業同盟等ハ東洋人排斥同盟ノ態度確定ノ上ナラデハ何等ノ行動ニ出テサルヘシトノコトナリ大使へ電報ス

IMPERIAL JAPANESE EMBASSY
Washington

June 4, 1913.

Sir:

I did not fail to transmit to my Government at once by cable a copy of the note which you did me the honor of addressing to me under date of the nineteenth instant in reply to mine of the ninth idem with regard to the law recently enacted by the State of California on the alien land tenure.

That reply did not, I regret to say, have the effect of lessening the sense of disappointment and grave concern experienced by the Imperial Government in consequence of the legislation to which it had reference. Having in view the attitude and action of deep sympathy expressed and taken by the American Administration in the matter, while the measure was still pending in the Legislature of California, the Cabinet at Tokio had good reason, it was thought, to expect some intimation of willingness, on the part of the American Government of Japan in the endeavor to find satisfactory solution of the problem, instead of the

suggestion that the courts of the United States were open to those of my countrymen who might feel themselves to have been deprived of treaty rights and guarantees.

The persons prejudicially affected by the enactment complained of are expressly limited to those aliens who are not eligible to citizenship. Considering that Japanese subjects are, as a nation, apparently denied the right to acquire American nationality, that they are the principle sufferers from that enactment, and that the avowed purpose of the law was to deprive my countrymen of the right to acquire and to possess landed property in California, the Imperial Government are unable to escape the conclusion that the measure is unfair and intentionally racially discriminatory, and, looking at the terms of the treaty between our two countries, they are equally well convinced that the Act in question is contrary to the letter and spirit of that compact, and they moreover believe that the enactment is at variance with the accepted principles of just and equal treatment upon which good relations between friendly nations must, in

doubt made to bring the measure into accord with the existing treaty stipulations, so far as that could be done consistently with the real purpose of the enactment. But having regard to the pronouncement contained in Section 7 of the Act, it may be doubted, whether the Legislature of California considered it absolutely essential to respect the treaty engagements bearing on the subject of alien land ownership, in so far as those engagements could not be reconciled with the wishes of the State in the matter.

In these circumstances, it becomes my duty, under instructions from my Government, to announce to you that the Imperial Government are compelled, much to their regret, to maintain, in its integrity, the protest contained in my previous note on this subject.

I beg to point out, in this connection, that my Government cannot regard as responsive to the actual situation the suggestion contained in your note to the effect that Japanese people are at liberty to appeal to the courts of the United States for the enforcement of their Constitutional and

the final analysis, so largely depend.

Nor can my Government find in the new law, as you have done, any declaration of the intention to respect and preserve all rights under existing treaties. It is quite true that Section 2 of the Act provides in effect that aliens not eligible to citizenship may acquire, possess, enjoy and transfer real property, or any interest therein, to the extent and for the purposes prescribed by any treaty now existing between the United States and the country of which such alien is a citizen or subject, and not otherwise. But, in the opinion of the Imperial Government, that provision cannot be reconciled with the treaty stipulations to which they appealed in my former note, and to which they again appeal in this communication. Japanese people own real property, and other interests therein, in California under the existing treaty, as well as in accordance with law. Such property, having been duly acquired, is unquestionably entitled, in virtue of the treaty, to the same "most constant protection and security" as similar property belonging to citizens of the United States. Efforts were no

legal rights. My countrymen who may suffer wrong in consequence of the enactment will no doubt look to those tribunals for relief. But I venture to make it entirely clear to your appreciation that the Imperial Government are firmly convinced that the phase of the controversy now under discussion is itself appropriately amenable to ordinary diplomatic processes. The question at issue is a question between the Government of Japan and that of the United States, as to the true intent and meaning of their existing treaty, and the extent to which the rules and principles of fair and equal treatment may, in comity and good conscience, be invoked in the present case. The wrong complained of is directed against my countrymen as a nation. It was committed by the authorities of a single State of the union, contrary to the expressed wishes and advice of the Federal Government. It is, nevertheless, to that Government alone, that Japan must look to have the wrong undone, since it is with that Government alone that the Imperial Government hold diplomatic intercourse.

The number of my countrymen actually affected by the discriminatory legislation complained of is small, and the quantity of landed property in California actually held by them, both as owners and leaseholders is very inconsiderable. On the other hand, it is a recognized fact that, as a result of a careful and conscientious enforcement of the existing understanding on the subject of labor emigration from Japan to America, the Japanese population in the United States has, since that understanding took effect, shown an annual decrease. Accordingly, if the object of the legislation in question was wholly economic, then the conclusion is natural, it seems to the Imperial Government, that the apprehensions, upon which the enactment was based, were unjustifiable and without sanction of good reason, and, I trust, I may be permitted in the present context to add the suggestion that the law under discussion does not concern itself exclusively with agricultural lands. But, even if the basis of the Act had been wholly economic, that fact could not, in the opinion of my Government, be advanced, as a valid and

sufficient reason, for annulling or abridging vested rights of property of my countrymen, and I beg to assure you that the Imperial Government have too high an opinion of the sense of right and justice of the American Government, to believe for a moment that that Government will permit a State to set aside the stipulations of the treaty or to impair the obligations of reciprocal friendly intercourse and good neighborhood.

In conclusion I beg, in pursuance of instructions from my Government, to invite your attention to the phase of the present question, to which, in the situation as it existed at the time my former note was addressed to you, it was not deemed either necessary or advisable to advert. I refer to the matter of Japanese naturalization in America in its relation to the question of Japanese land ownership. The provisions of law, under which it is held that Japanese people are not eligible to American citizenship are mortifying to the Government and people of Japan, since the racial distinction inferable from those provisions is hurtful to their just national susceptibility.

The question of naturalization, however, is a political problem of national, and not international, concern. So long, therefore, as the distinction referred to was employed in relation to rights of purely political nature, the Imperial Government had no occasion to approach the Government of the United States on the subject. But, when that distinction is made use of, as in the present case, for the purpose of depriving Japanese subjects of rights and privileges of a civil nature, which are freely granted in the United States to other aliens, it becomes the duty of the Imperial Government, in the interest of the relations of cordial friendship and good understanding between the two countries, to express frankly their conviction that the racial distinction, which at best is inaccurate and misleading, does not afford a valid basis for the discrimination on the subject of land tenure. Accept, Sir, the renewed assurances of my highest consideration.

Honorable W. J. Bryan,
Secretary of State.

三一九 六月十三日 在桑港沼野總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

時局ニ関シ在米日本人会代表者珍田大使ニ陳情

ノ為華府出張ノ件

第二一六号

往電第二〇四号ニ関シ在米日本人会代表者牛島安孫子兩人
ハ大使ニ対シ加州在留日本人ノ実情及代表者トシテノ希望
ヲ陳述スル為六月十二日当地發華盛頓ニ向ヘリ右希望ト称
フル所大略左ノ通

- (一) 多年米國ニ在留シ相當資格ヲ有スル日本人ニ限り帰化
ヲ許ス為日米兩國間ノ取極ヲ為スコト
- (二) 日本人ノ土地所有權ヲ確保スル為新ニ條約ヲ締結スル
コト
- (三) 差当リ以上二個ノ希望ヲ實現シ難キニ於テハ究極其目
的ヲ達スル為「キヤムペーン」ヲ「エデューケーシヨ
ン」ヲ開始シ帝國政府ノ補助ヲ得ルコト

三三〇 六月十四日 在米田珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

我弁駁書及特ニ帰化権問題ニ関シ國務長官ト討

議ノ件

附 記 加州問題經過梗要

第一九八号

六月十二日國務長官ト会見ノ際同官ハ往電第一九四号我弁駁書ニ関シテハ大統領トノ商議未タ完結ニ至ラス不日更ニ大統領ト面談ヲ遂ケ又「モーア」ノ意見ヲモ徴シタル上ニテ回答ノ答ナリト語り尚右弁駁書中ニハ帰化権問題ニモ言及シアル処日本人ノ帰化権ヲ認ムル法律ノ改正ハ其影響極メテ広汎ニシテ目下米國議會ノ形勢ニ顧ミ到底断念スル外ナク且「ウィルソン」氏ハ「ルーズヴェルト」氏ト(不明)ヲ異ニスル所アリ自ラ通過ノ望ナキヲ豫期シナガラ「メッセージ」ヲ發シテ法律改正ヲ唱道スルカ如キ無責任ナル行動ハ「ウィルソン」氏ノ取ラサル所ナル旨ヲ述ヘ元來日本ノ同盟國タル英國領地加奈陀及濠洲ニ於テサヘ齊シク日本人ヲ排斥スルニアラスヤト論シタルニ付本使ハ自己ノ記憶スル所ニテハ加奈陀又ハ濠洲ニ於テ日本人ニ帰化又ハ土地所有ヲ拒ムノ事實ナキコトヲ指摘シ執レニスルモ帰

化能力ノ有無ヲ標準トシテ私權許否ヲ決スルカ如キ不正法律一タヒ偏ヲ作ルニ於テハ追テ他州ノ之ニ倣フモノアルニ至ルヘク帝國政府ニ取リテハ此際帰化権問題ニ言及セサルヲ得サル次第ナル旨ヲ答ヘ置ケリ更ニ六月十三日國務長官ニ会見ノ機ヲ以テ本使ハ右加奈陀及濠洲ノ例ヲ説明シ前日ニ述ヘタル所ヲ繰返シ殊ニ加奈陀ハ過般日英條約ニ加入シタルヲ以テ日本人ハ同領地ニ於テ土地ヲ所有スルニ付日英條約第一條ノ保障ヲ受クルニ至リタルコトヲ説キ該條文ヲ示シタルニ國務長官ハ怪訝ノ色ヲ現ハシ篤ト考量ヲ尽スヘシト答ヘ尚同官ハ大統領及「モーア」トモ協議セル所アリタルガ目下伯刺西爾國答礼大使當地滞在中ナルカ為用務多ク自然我弁駁書ニ對スル回答ハ多少遲延スヘシト語レリ

(附 記)

加州問題經過梗要

本年加州議會ニ提出セラレタル諸排日法案中最モ重大ナル關係ヲ有スルハ外國人不動産所有法案ニシテ大同小異ノ土地案上下兩院ニ提出セラレタリ

抑モ本件排日法案ノ提起ハ既往屢次繰返サレタル問題ナル

局上院下院共ニ大多數ヲ以テ通過シ議會ハ五月十二日閉會ヲ告ゲタリ

右通過法案ノ主眼トスルトコロハ(一)帰化権アル外國人ハ市民同様不動産ノ所有權ヲ有シ(二)帰化権無キ外國人ハ單ニ條約規定ノ範圍内ニ於テノミ之ヲ許サルルモ不動産ノ相續ヲ禁セラレ(三)帰化権無キ外國人ガ過半数ノ株式ヲ有スル会社ハ帰化権ナキ外國人ニ準ズ(四)農業用借地年限ヲ三箇年ニ制限ス等ノ点ニアリテ條約違反ト認ムル理由ニ乏シカラス珍田大使ハ屢次當局ト会見論議ノ後五月初旬ニ至リ最早本案兩院通過ノ避クヘカラサル勢ヲ見タルヲ以テ遂ニ米國政府ニ對シ條約違反ノ点ヲ列挙シタル我正式抗議書ヲ提出シタルシガ其後間モナク本案ハ前述ノ如ク兩院ヲ通過シ五月十九日知事ハ之ヲ裁可ヲ了セリ其後米國政府ノ我抗議ニ對スル回答アリ我亦之ヲ弁駁シ目下本件ハ兩國政府折衝ノ裡ニアリ

抑モ本件ハ極テ複雑機微ナル問題ニシテ之ニ関シ我ニ有利ナル解決ヲ齎サントスルニハ慎重ナル思慮ト寛裕ナル忍耐トヲ要スルコトヲ記憶セサルヘカラス而シテ又如此排日の立法ヲナセルハ加州ニシテ他ノ諸州ハ依然トシテ我ニ同情アル友タルヲ以テ加州一州ノ行為ヲ非難セントシテ米國全

体ノ反感ヲ招ク如キ行為ニ出ツルノ無謀ナル論ヲ須タス要スルニ本件ハ其性質上其取扱ニ極テ周到ナル注意ヲ要スル問題ニシテ輕挙妄動激論暴説ハ本件ノ解決ニ何等ノ益ヲ与ヘサルノミナラス徒ラニ両国談判ノ進捗ヲ阻害シ且ツ排日派ノ為メニ利用セラル、ノ恐アルヲ以テ地方長官各位ハ深ク思ヒテ此点ニ致シ管下ニ於ケル集会新聞等ノ取締ニ関シ十分ノ注意アラントヲ希望ス

註 右ハ地方官會議ニ於ケル外務大臣演説ノ原稿トシテ大正二年六月十九日外務省ニ於テ作成セラレタルモノナリ

三三一 六月十六日 在桑港沿野總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

亞細亞人排斥同盟會、加州土地法ノ人民投票等
ニ関スル件

第二一七号

往電第二一三三号ニ関シ Asiatic Exclusion League 六月八日ノ集会ハ延期セラレ十五日開會ノコトナリ居タルモ同日ハ僅ニ二三來會者アリタルノミ役員等モ出席セス流會トナレリ同會ハ此儘消滅スルナラント又一時大ニ「レフエ

法律實施期日漸ク切迫シ來レルニ顧ミ速ニ本件ノ交渉歩ヲ進ムルニ至ランコトヲ希望スル旨ヲ述ベ我弁駁書ニ對スル回答ヲ更ニ促シタル所同官ハ本問題ノ攻究ハ目下著々進捗シツアルモ大統領ニ於テ過日來關稅法並貨幣制度改正問題ニ忙殺セラルル為篤ト本件ノ協議ヲ完結スルノ機會ヲ得ス遷延今日ニ至リ未タ回答發送期日ヲ豫定スルコト能ハサル次第ナルカ可成速ニ其運ニ至ランコトヲ努ムヘク要スルニ米國政府ハ當國ノ輿論ニ反セザル限り充分日本ノ希望ニ副ハン為百方苦辛中ナリト答ヘタリ本使ノ觀察ニ依レハ近來大統領ノ多忙ナルコトハ事實ナリトスルモ之ヲ以テ回答遷延ノ唯一ノ理由ト信スル能ハス惟フニ國務長官ハ其發送セントスル回答力到底我満足ヲ得難キコトヲ豫測シ從テ徐々ニ日本國ニ於ケル人心ノ鎮靜ヲ俟チテ之ヲ發送スルノ得策ナリト認ムルニアラスヤト疑ハル依テ本官ハ國務長官ニ對シ目下本邦世論漸ク鎮靜ニ向ヘルハ全ク米國政府ノ公正ナル態度ニ信賴シ満足ノ解決ヲ期待スルカ為ニ外ナラサルコトヲ繰返シ此事情ヲ斟酌シ可成速ニ回答ヲ与ヘラレコトヲ求メ置キタリ

レンダム」提起ヲ唱ヘタル「デモクラット」党「ベル」モ其後具體的行動ニ出テス「イニシアチヴ」ノ運動ハ他ノ労働団体ニ於テ多少考慮シツアルカ如キモ之ニ関シテモ亦未タ何等ノ措置ヲナセル模様ナシ
大使ヘ電報ス

三三二 六月二十五日 牧野外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛(電報)

加州問題ニ關スル我弁駁書ニ對スル米國政府ノ
回答遷延ノ理由問合ノ件

第一六一号

加州問題ニ關スル米國政府ノ回答ハ何時頃來ルヘキ御見込ナリヤ又斯ク回答ノ遷延スル理由ニツキ御聞込ノ儀モアラハ御意見ト共ニ電報アレ

三三三 六月二十七日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州問題ニ關スル我弁駁書ニ對スル米國政府ノ
回答ニ付國務長官ト會談ノ件

第二〇六号

貴電第一六一号ニ關シ六月二十六日國務長官ト面會ノ節新

三三四 六月二十八日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州問題ニ關スル米國政府ノ回答案ニ付同政府
部內協議ノ模様新聞報道ノ件

第二〇七号

六月二十七日紐育「トリビューン」ハ当地通信トシテ加州事件ニ關スル米國政府ノ回答ハ二十七日午後又ハ二十八日日本大使ニ交付セラルル見込ナリシモ「モーア」氏ノ議論ハ大統領及國務長官ノ州權ニ關スル觀念及土地法條約違反ニ非ストノ意見ト折合ハス又他ノ閣員ニモ異議ヲ述フルモノアリシ為訂正ヲ要スルコトナリ國務長官ハ二十七日更ニ訂正回答ヲ携ヘ大統領ニ協議シタルモ亦其ノ満足スル所トナラス再ヒ國務省ニ於テ訂正スルコトナレル旨ヲ報セリ御參考迄

三三五 六月三十日 牧野外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛(電報)

米國政府提訴ノ際起訴理由調査方ノ件

第一六五号

貴電第一六四号ニヨレハ「モーア」氏ハ米國政府ニ於テ起

訴スル場合ニ於テモ「アクチュアル、ケース」ニ基クヲ要スル旨英國大使ニ語リタル由ナルモ個人カ起訴スル場合ト異ナリ政府ノ場合ハ條約違反ノ立法其レ自身カ十分起訴ノ理由トナルモノト思ハル此点為念貴地ニ於テ「エキスパート」ニ調査セシメ置カレタシ

三二六 六月三十日 牧野外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛 (電報)

日本人土地所有ノ既得権保障ニ関シ米國政府ハ

注意方ノ件

No. 166

Larger part of land now owned by Japanese in California was acquired before July 17 1911, consequently such land was lawfully acquired while treaty 1894 was in force. Third paragraph Article I of that treaty guarantees in matter of disposal in any manner whatsoever, of lawfully acquired property of any sort, same privileges, liberties and rights as nationals and subjects of most favored nation. That guarantee still holds good although treaty abrogated. Upon latter point see Supreme Court Decisions, Chirac v.

三二八 六月三十日 牧野外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛 (電報)

加州問題提訴準備ノ為具體的事件調査方ノ件

第一六八号

訴訟提起ノ場合ニ供フル「アクチュアル、ケース」案出方桑港領事ヘ命令アリタキ旨義ニ電報セシガ当方ニ於テモ研究ノ結果旧日米條約実施中日本人ノ買入レタル不動産ヲ他ノ日本人ニ売却スルノ「ケース」ハ同條約第一條第三項ノ規定ノ關係上極メテ適切ナル「ケース」ト認メラルルモ右ハ貴方ニ於テモ為念専門家ヲシテ調査セシメ置カレタシ

三二九 七月一日 牧野外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛 (電報)

加州問題追加抗議ノ覚書米國政府ニ提出方ノ件

別電 同日牧野外務大臣發珍田大使宛電報第一七〇号

右追加抗議ノ覚書全文

附記 追加抗議ノ覚書中ニ援用ノ訴訟例

第一六九号

「エード・メモアル」別電第一七〇号ヲ以テ送附スルニシキ直ニ米國政府ヘ提出セラルヘシ尤モ別電中ニハ往々曩ニ

一 加州ノ外国入土地法案及日本政府ノ抗議關係 三二八 三二九

Chirac and other cases. I am making use of above contention in aide memoire which I am sending you. You should in meantime draw attention of Secretary of State to this very strong point in support of our claim.

Makino

三二七 六月三十日 牧野外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛 (電報)

加州問題ニ関シ第二抗議補足ノ「エード・メモアル」提出豫告ノ件

第一六七号

加州問題ニ関シ当方ニ於テモ其後引續キ研究ノ結果更ニ米國政府ノ注意ヲ促スヘキ論点ヲ發見セルニツキ先方ノ回答意外ニ遅延スルヲ利用シ右回答ノ發送セラルル以前右ノ論点ヲ「エード・メモアル」トシテ米國政府ニ提出セントス然ルニ過日回答ヲ促シタル關係アルニツキ貴官ハ單ニ近々我第二抗議ヲ補足スヘキ「エード・メモアル」ヲ提出スヘキ旨ヲ直ニ米國政府ヘ豫報セラルヘシ右「エード・メモアル」ハ一兩日ノ内電報スヘシ

論述セルモノノ繰返シニ過キサル個所モ有之ニ付若シ如此繰返シガ「エード・メモアル」ノ効力ヲ弱ムルノ嫌アラバ別ニ訓令ヲ須タス貴官ノ裁量ニヨリ可然省略ノ上提出セラハシ

(別電)

七月一日牧野外務大臣發珍田大使宛電報第一七〇号

加州問題第二次抗議補足ノ覚書全文

第一七〇号

Aide-Memoire

In explanation and support of Viscount Chinda's Notes of May 9th and June 4th

1. The existing Japanese-American treaty accords to Japanese subjects, in reciprocity, liberty, in the United States, to own and lease houses upon the same terms as citizens of the United States, and to lease land for residential and commercial purposes also upon the same terms as such citizens.

The words "to own" are words of the widest significance, and in the context in which they appear in said treaty, include, it is maintained, the right to acquire the real property in question,

by all ordinary lawful means, viz: by purchase, devise and descent, and those words, also, it is contended, cover the right to dispose of such real property when duly acquired, by all the various methods known to the law, viz: by sale, gift, bequest and transmission. In other words, ownership carries with it as a necessary incident the full right of alienation. But all doubts on the subject will be removed when it is considered, firstly, that the words "liberty to own" appearing in the treaty are supplemented by a parity engagement to the effect: "upon the same terms as American citizens," and secondly, that the liberty so enjoyed by such citizens, being full and complete, the corresponding liberty accorded to Japanese subjects, is equally without limitation or qualification. So too, liberty to Japanese subjects to lease land for residential and commercial purposes upon the same terms as American citizens, naturally carries with it the same freedom in the matter of acquiring and disposing of the leased property.

Again, under the existing laws of California, (the new alien land enactment does not take effect until August 10th) Japanese subjects have full right to take, hold and dispose of all kinds of real property and interest therein. That right carries with it the capacity to bequeath and transmit such property.

The treaty now in force, also guarantees to Japanese subjects, in reciprocity, the same most constant protection and security for their property in the United States that is there enjoyed by American citizens in respect of property belonging to them.

The treaty of 1894, which was superseded in 1911, by the present one, provided in Article I, that—

"In whatever relates to X X X the succession to personal estate by will or otherwise and to the disposal of property of any sort and in any manner whatsoever, which they may lawfully acquire, the subjects or citizens of each Contracting Party shall enjoy in the territories of the other the same privileges, liberties and

rights X X X as native subjects or citizens or subjects or citizens of the most favored nation".

Confidently relying upon the foregoing treaty and statutory provisions, Japanese subjects, have become owners and lessees of land and houses in California, and the real property so acquired has for all purposes become fully vested in such owners and lessees.

In the presence of this state of things, the new alien land law, was enacted. It, in effect, deprives all Japanese subjects, of capacity to bequeath and transmit their duly acquired real property or interest therein, and it also denies to such subjects, capacity to acquire any real property or interest therein, by devise and descent.

The measure also contains no less objectionable features concerning companies, associations and corporations, but as this Aide-Memoire is designed to deal exclusively with the provisions of the law which trench upon individual rights, the clauses relating to legal persons is for the present reserved.

It is the firm conviction of the Imperial Govern-

ment that the provisions of the Statute in question, which are intended either to abridge the treaty rights of Japanese subjects in the matter of the acquisition and disposition of real property and interest therein, or unsettle real estate titles already duly vested under the laws of California, are contrary to the express stipulations of the treaty now in force between Japan and the United States, in this—

a) That so far as the Act takes away from Japanese subjects the capacity, hitherto freely enjoyed by them, to acquire by devise and descent, houses for all purposes and leases of land for residential and commercial purposes, it is in conflict with Clause 1 Article I of said treaty, since that clause accords to Japanese subjects liberty to own houses and to lease land upon the same terms as American citizens, and it will not be contended that the liberty of such citizens in that respect has been annulled or abridged;

b) That so far as the Act deprives Japanese

subjects of capacity to bequeath and transmit to their devisees and heirs, real property and interest therein, duly acquired by them under the said treaty, it is inconsistent with clauses 1 and 3 of the said Article I, since, in addition to the guarantee of equal treatment which is contained in clause 1 above-mentioned, the property of Japanese subjects is, by clause 3 aforesaid, assured the same most constant protection, the same equal protection of equal laws, that is accorded to the property of American citizens, and it goes without saying, that the property rights of such citizens still remain complete and undisturbed; and

c) That so far as the Act takes away from Japanese subjects the capacity of bequeathing and transmitting real property and interest therein, already duly acquired by them under the laws of California, it is repugnant to the above-mentioned third clause of Article I of the treaty, since it

Chirac v. Chirac.

Orr v. Hodgson.

Society for the Propagation of the Gospel v. Town of New Haven.

Geoffroy v. Roggs.

The Chinese Exclusion Case.

In *Chirac v. Chirac*, Society for the Propagation of the Gospel v. Town of New Haven and Chinese Exclusion Case as well as in *Watson v. Donnelly*, (New York Supreme Court, 1859) the principle was clearly announced that rights, duly vested, acquired under a treaty, still continue, although the treaty itself is abrogated.

2. The Imperial Government are also equally well convinced that the provisions of the land legislation in question are, irreconcilable with the spirit and intent of the Japanese-American treaty, as well as unjust and inequitable and at variance with the generally accepted principles which regulate the commercial intercourse between friendly States, because such provisions discriminate against Japanese subjects not only as compared with American citizens but as compared with the

impairs the obligations of the contracts under which such property was acquired and is held and thus deprives Japanese subjects of that equal protection for their property which the treaty extends to them.

The Imperial Government are also of opinion that the Act in question, so far as it takes away from Japanese subjects the right to dispose in any manner whatsoever of the real property or interest therein, lawfully acquired by them prior to July 17, 1911, is in impairment of vested rights created under the treaty of 1894.

The foregoing propositions are advanced with the greater confidence, since it is found that the principles upon which they rest, are fully sustained by a line of Decisions of the Supreme Court of the United States, which have contributed to the just renown of that high Tribunal.

The Decisions to which, in the present relation, the Imperial Government especially refer, are found in the following Cases:

Fairfax's Devisee v. Hunters Lessee.

subjects of other countries, in a matter in which, internationally speaking, aliens are usually placed on a national or most favored nation footing.

While, in the relations between States, the principle of equal treatment is sometimes made amenable to exceptions and qualifications, this is the first instance, it is believed, in which a Power having in force a reciprocal commercial treaty, containing a clause guaranteeing most favored nation treatment "in all that concerns commerce and navigation," has ever been placed by the other Contracting State, at a disadvantage as compared with non-treaty countries, in matters which in such treaty are made the subject of reciprocal concession.

International discriminations are in any case obnoxious and if carried beyond the limits of actual and recognized necessity, are harmful to international good relations, independently of the question whether they are repugnant to treaty stipulations or not. In the definition of those permissible limits and in the establishment of the principle of equal opportunity, no country has

taken a firmer stand or exercised a more powerful influence than the United States.

Thus in 1879, the Secretary of State at Washington, in an Instruction addressed to the American Minister in Mexico, announced that "a Mexican Statute discriminating against citizens of the United States and other aliens in respect to capacity to hold real estate in Mexico, is in conflict with the treaty of 1831." (Moore's International Law Digest, vol. VI. p. 702.) The treaty so appealed to, contains no express provisions on the subject of the ownership of real estate. It reciprocally accords most favored nation treatment in respect of commerce and navigation and grants the right of residence; of hiring houses and warehouses for purposes of commerce, and of succession to personal estate, and it also extends protection to persons and property. Accordingly, it must be assumed that the discrimination complained of, was in disregard of the spirit and purpose, rather than the express words, of the treaty.

But unjust discriminations based upon race are still more objectionable. Russia's severe treat-

to denounce said treaty. Three days after the adoption of the above Resolution, the United States notified Russia of the termination of the treaty, saying that it had been recognized that the treaty was "no longer fully responsive in various respects to the needs of the political and material relations of the two countries."

The action of Russia was not directed against American Jews exclusively. It applied equally to all alien Israelites, and although resting largely upon race and religion, the discrimination complained of, was inspired in part at least so Russia declared by economic considerations. If in the presence of this state of things, the Government of the United States found sufficient reason to object to Russia's action,—and of that fact there can be no doubt—then the Imperial Government have much stronger grounds for protesting against the invidious discriminations of California, since those discriminations are not only irreconcilable with express treaty stipulations, but, being national as well as racial, are in clear disregard of national susceptibilities.

ment of Jews has been deeply resented by the United States, and on the 13th December, 1911, the House of Representatives, by the unusual vote of 301 to 1, passed a Resolution in strong condemnation of the action of Russia. The Resolution declared, "that the people of the United States assert as a fundamental principle that the rights of its citizens shall not be impaired at home or abroad because of race or religion; that the Government of the United States concludes its treaties for the equal protection of all classes of its citizens without regard to race or religion; that the Government of the United States will not be a party to any treaty which discriminates or which, by one of the parties thereto, is so construed as to discriminate between American citizens on the ground of race or religion; that the Government of Russia has violated the treaty between the United States and Russia of the 18th December, 1892, in refusing to honor American passports, duly issued to American citizens, on account of race and religion," and for these reasons, the Resolution called upon the President

3. In a number of the States the right of aliens to hold real estate has been made to depend upon the actual filing of declarations of intention to become citizens. That requirement as a condition precedent to the exercise of the right in question, cannot be said to be unreasonable or illogical. A relation is thereby established between said right and eventual citizenship, because the continued existence of the right depends upon the actual completion of the process of naturalization.

California is the only State, it is believed, in which the right of aliens to hold real property has been made to rest upon eligibility to citizenship. Such eligibility, in the context in which it is used, has no relation to the question of citizenship, since no action looking to ultimate naturalization is required. The formula appearing in the California enactment was employed as a convenient paraphrase, to express the firm intention to discriminate against Japanese subjects as compared with aliens belonging to the white and African races, in the matter of the ownership of land and houses.

A clear and important distinction may, therefore, be said to exist between the laws of such other States and of California, on the subject of alien land tenure, in this:

By the laws of such other States, actual steps looking to ultimate naturalization have to be taken before the right of real estate ownership, can be exercised;

Whereas, by the law of California, capacity to take such steps, is alone sufficient.

The discrimination complained of, is no less invidious and disregardful of the treaty rights of Japan, because of the indirect language in which it is expressed.

4. It has been suggested that the power to deal with the question of alien real estate ownership in the United States, belongs exclusively to the several States. Controlling decisions of the Courts of the United States might be cited in refutation of that suggestion, but it is sufficient to point out that the United States was a party to the first and third alines of Article I of the existing Japanese-American treaty, as well as to

to the person or property of a citizen of the United States, committed by the authorities of a province. The same rule would be applicable to the case of a Brazilian subject, who in this country, might be wronged by the authorities of a State," (Moore's International Law Digest, Vol. VI. p. 816).

So far as the California enactment injuriously affects the individual rights of Japanese subjects, the aggrieved parties will, no doubt, appeal to the Courts for redress. The question now under discussion between Japan and the United States involves the interpretation of treaties, and in the final solution of that question the two Powers have an equal voice and interest, and consequently the only appropriate recourse at this time is diplomatic. In analogous cases, however, the United States has instituted legal proceedings in defense of existing treaties. The cases in point to which reference is made are the California School and the Horcon Ranch Cases. In both instances suits were brought by the United States in the Circuit Courts of the United States.

Article I of the treaty of 1894, and that she could not have given her consent to those stipulations if the power to regulate the question of the ownership of real property by aliens was reserved to the States.

5. The Imperial Government, in concluding their present study of the question of the recently enacted alien land law of California, desire to invite attention to a Note from the Secretary of State to the American Minister in Brazil dated March 5, 1875, on the subject of the appropriate procedure in a case analogous to the present one. The language used in that Note, is so apposite and supports in such a striking manner, the position taken by the Viscount Chinda in his Note of the 4th June that indulgence is craved for quoting here the words of Mr. Fish:

"The reference of the claimant to the authorities of the Province for redress will not be acquiesced in. Those authorities cannot be officially known to this Government. It is the Imperial Government at Rio de Janeiro only which is accountable to this Government for any injury

(右和訳文)

覺書

曩ニ五月九日並ニ六月四日附ヲ以テ在米國珍田大使ヨリ國務長官ニ宛テタル公文ノ趣旨ヲ支持シ更ニ之ヲ敷衍シテ覺書ヲ調製スルコト左ノ如シ

一、現行日米條約ハ相互主義ニ基キ日本臣民ニ付与スルニ米国内ニ於テ同國人民ト同一ノ條件ニ依リ家屋ヲ所有又ハ賃借シ且住居及商業ノ目的ノ為土地ヲ賃借スルノ自由ヲ以テセリ右「所有」ナル語ハ最モ広汎ナル意義ヲ有シ其ノ該條約文中ニ於ケル前後ノ關係ヨリ考フヘバ普通ニ認メラレタル一切ノ適法手段即チ売買、遺贈及相続(註)遺言ナキ場合ニ於ケル財産ノ法定相続ヲ意味ス)ニ依リ件ノ不動産(即チ家屋)ヲ取得スルノ權利ヲ意味シ且右適法ノ手段ニ依リ取得シタル財産ヲ法律上ニ認メラレタル一切ノ方法即チ売買贈与遺贈及相続ニ依リ処分スルノ權利ヲ包含スルモノナリ換言スレハ財産所有權ハ其ノ必然附帶ノ事實トシテ財産ヲ自由ニ讓渡スルノ權利ヲ伴フモノナリ而シテ該條約中ニ表ハレタル「所有スルノ自由」ナル語ハ更ニ又「米國人民ト同一ノ條件ニ依リ」云々相互均等ノ規定ニ依リ補足セララルコト及米國人民

ノ享有スル右ノ自由ニシテ完全ナルモノタル以上右ノ規定ニ依リ日本臣民ニ付与セラレタル自由モ亦均シク無制限ノモノタルコトノ二点ヲ考量スルニ於テ本問題ニ関スル一切ノ疑惑ハ之ヲ一掃スルヲ得可シ如斯ニシテ又米国民ト同一ノ條件ニ依リ住居及商業ノ目的ノ為土地ヲ賃借スルコトヲ得ル日本臣民ノ自由モ亦賃借權ノ取得処分ニ関シ米国民ノ有スル所ト同一ノ自由ヲ伴フモノナルコトハ勿論ナリ

更ニ又加州現行法律ノ下ニ於テハ(新定外国人士地所有法ハ八月十日迄ハ効力ヲ生セス)日本臣民ハ一切ノ不動産及其ノ中ニ存スル利益ヲ取得シ所持シ及ヒ処分スルノ完全ナル權利ヲ享有ス右權利タル之ト共ニ這般ノ財産ヲ遺贈シ及ヒ法定相続ニ依リ移轉スルノ能力ヲ伴フモノナリ

現行日米條約ハ又相互のニ日本臣民ニ保證スルニ其ノ米国内ニ於ケル財産ニ對シ米国民ノ享受スル所ト同一ノ保護及保障ヲ与フルコトヲ以テセリ

又千八百九十四年ノ日米條約(即チ一昨年現行條約ニ依リ廢棄セラレタルモノ)第一條ニハ左ノ規定アリ

(前略) 動産ノ相続並ニ合法ニ得ル所ノ各種財産ヲ如何

動産所有權ノ安固ヲ脅サントスル該法ノ規定ハ左記ノ諸点ニ於テ現行條約ノ明文ニ違反スルモノナリ

イ、該法ハ日本臣民ノ從來自由ニ享有シタル所有家屋又ハ賃借地ヲ遺言又ハ相続ニ依リ取得スルノ能力ヲ奪フモノナルヲ以テ該條約第一條第一項ニ牴觸スルモノナリ蓋シ該項ハ米国民ト同一ノ條件ニ依リ一切ノ目的ノ為家屋ヲ所有シ住居及商業ノ目的ノ為土地ヲ賃借スルノ自由ヲ日本臣民ニ付与スレハナリ而シテ此ノ点ニ関スル米国民ノ自由ガ毀損セラレ又ハ消滅セシメラレタリト言フヲ得サル可シ

ロ、該條約第一條第一項ハ日本臣民ニ与フルニ米国民ト同一待遇ノ保證ヲ以テセルノミナラス日本臣民ノ財産ハ同條第三項ニ依リ米国民ノ財産ト同ク同一法律ノ同一保護ヲ享受スルモノナルヲ以テ米国民ノ財産權カ依然トシテ完全安固ナルニ反シ該法カ独リ條約ノ下ニ日本臣民ノ正当ニ取得シタル不動産又ハ其ノ中ニ存スル利益ヲ遺言ニ依リ受遺者ニ又ハ法定相続ニ依リ相続人ニ轉交スルノ能力ヲ褫奪スルハ前記兩條項ノ規定ト相容レサルモノナリ

ハ、該法ハ加州法律ノ下ニ日本臣民ノ既ニ正当ニ取得セ

ニ処分スルコトニ関シ兩締盟國ノ一方ノ臣民或ハ人民ハ他ノ一方ノ領土内ニ在リテ内國若ハ最惠國ノ臣民或ハ人民ト同様ノ特典自由及權利ヲ享有ス(後略)

日本臣民ハ叙上ノ條約及加州々法ノ規定ニ信賴シ加州ニ於テ土地及家屋ノ所有者トナリ賃借者トナリタルモノナリ而シテ如斯シテ取得シタル不動産ハ何レノ点ヨリ看ルモ這般所有者及賃借者ノ完全ナル既得權ヲ構成スルモノナリ

斯ル事態ノ下ニ於テ今次ノ外国人士地所有法ハ制定セラレタルモノニシテ實ニ日本臣民ノ正当ニ取得シタル不動産又ハ其ノ中ニ存スル利益ヲ遺贈又ハ法定相続ニ依リ処分シ又ハ斯ル財産又ハ利益ヲ遺言又ハ相続ニ依リ取得スルノ能力ヲ褫奪スルモノナリ

該法ハ又会社組合等ニ關シテモ同ク異議ヲ挾ム可キ規定ヲ存スルモ本覺書ノ目的ハ専ラ其ノ個人ノ權利ヲ侵害スル点ニ就テノミ論議ヲ試ムルニ在ルヲ以テ法人ニ關スル規定ニ就テハ暫ク研究ヲ留保ス可シ

帝國政府ノ確信スル所ニ抛レハ不動産及其ノ中ニ存スル利益ノ取得及処分ニ關シ日本臣民ノ有スル條約上ノ權利ヲ毀損シ或ハ加州法律ノ下ニ正当ニ取得シタル既得ノ不

ル不動産又ハ其ノ中ニ存スル利益ヲ遺言又ハ法定相続ニ依リ轉交スルノ能力ヲ褫奪スルモノナルカ故ニ前頭條約第一條第三項ノ規定ニ反スルモノナリ蓋シ右ハ斯ル財産ノ依テ以テ取得セラレ所持セラルル契約上ノ義務ヲ減損シ條約ノ与フル財産ニ對スル同一保護ノ保證ヲ日本臣民ヨリ奪フモノナレハナリ

帝國政府ハ又件ノ法律ハ一九一一年七月十七日以前即チ旧條約ノ有効期間ニ於テ適法ニ取得シタル不動産又ハ其ノ中ニ存スル利益ヲ隨意ニ処分スルコトニ關スル日本臣民ノ權利ヲ剝奪スルモノナルカ故ニ旧條約即チ一八九四年ノ條約ノ下ニ發生シタル既得權ヲ毀損スルモノナリトノ意見ヲ持スルモノナリ

夫ノ令名高キ米國高等法院ノ判決例中ニテ能ク叙上ノ論旨ヲ支持スルモノ少カラス益々以テ帝國政府ノ信念ヲ強固ナラシムル所以ナリ

当面ノ關係ニ於テ帝國政府カ特ニ援用セントスル判決例ハ左記ノ諸事件ニ關スルモノナリ

「フエーヤファックス」ノ受遺者對「ハンター」ノ賃借人事件

「シラック」對「シラック」事件

「オル」對「ホッチソン」事件

聖書伝道協會對「ニューヘブン」市事件

「ジョフロア」對「リッグス」事件

支那人排斥事件

右ノ「シラック」對「シラック」事件、聖書伝道協會對「ニューヘブン」市事件及支那人排斥事件并ニ「ワットソン」對「ドンネリ」事件（一八五九年紐育高等法院）ニ關スル判決例ニ於テ條約上一旦正当ニ取得セラレタル權利ハ條約其レ自身ノ廢棄セラレタル後ト雖尚存続スルモノナリトノ原則ハ明ニ宣明セラレタリ

二、更ニ又帝國政府ハ該土地法ノ規定ハ國際關係ニ於テ外國人ニ与フルニ内國民又ハ最惠國民ト同一待遇ヲ以テスルヲ通則トスル事柄ニ關シ日本臣民ニ對シ當ニ米國人民ト比較シテ劣レルノミナラス他ノ外國人ト比較スルモ尚劣レル待遇ヲ与フルモノナルヲ以テ日米條約ノ精神ト相容レス又友好國間ニ於ケル通商關係ヲ規律スル上ニ於テ一般ニ認メラレタル原則ニモ悖ルモノナリトノ信念ヲ有スルモノナリ

國際關係ニ於テ均等待遇ノ原則ニハ時ニ或ハ例外又ハ制限ナキヲ保セスト雖苟モ「通商及航海ニ關スル一切ノ事

國待遇ヲ与ヘ居住ノ權利商業ノ目的ノ為家屋及倉庫ヲ賃借シ及動産ヲ相続スルノ權利并ニ生命財産ノ保護ヲ供与スルノミナリ故ニ米國ノ異議ヲ唱ヘタルハ件ノ差別的待遇カ條約ノ明文ヨリハ寧ロ其ノ精神ヲ無視スル所アリタルカ為ナリト想定セサルヲ得ス

人種ニ基ク不當ノ差別的待遇ニ至リテハ其ノ非ヤ更ニ甚シキモノアリ露國ノ猶太人虐待ニ對シ米國ハ深ク憤ル所アリ千九百十一年十二月十三日米國議會下院ハ一對三百一ト言フ非常ノ多数ヲ以テ極力露國ノ行為ヲ批難セル決議案ヲ通過セリ該決議案ハ宣言シテ曰ク「米國ハ其ノ人民ノ權利カ人種又ハ宗教ノ為ニ國內又ハ国外ニ於テ傷害セラル可ラサルモノナルコトヲ根本原則トシテ主張スルモノナリ米國政府ハ人種又ハ宗教ノ異同ニ關スルコトナク其ノ人民全部ニ同一保護ヲ与フル為ニ條約ヲ締結スルモノナリ米國政府ハ人種又ハ宗教ノ異同ノ為ニ米國人民間ニ甲乙ノ差別ヲ設ケ又ハ設クルモノナリト締約國ノ一方ニ於テ解釈セラルルカ如キ條約ニ加盟スルモノニアラス露國政府ハ人種及宗教ノ理由ニ依リ米國政府ノ正當ニ米國人民ニ發給シタル旅券ヲ承認スルコトヲ拒絕シタルニ於テ千八百三十二年十二月十八日ノ米露條約ヲ侵犯

項ニ付」最惠國條款ヲ存スル通商條約訂盟國ノ一方カ這般條約ニ於テ相互交讓ノ主題トセル事柄ニ關シ他ノ一方ヨリ無條約國ヨリモ更ニ不利ナル地位ニ置カルハ蓋シ今回ヲ以テ嚆矢トス可シ（注、加州土地法ノ結果日本臣民ハ現下米國ノ無條約國タル露國臣民ヨリモ更ニ不利ナル地位ニ置カルナリ）

抑モ國際上差別待遇ノ如何ナル場合ニ於テモ忌ハシキモノタルハ言フ迄モナク若シ右ノ差別ニシテ實際ノ且普ク認識セラレタル必要ノ限界ヲ踰越スルニ於テハ其ノ條約上ノ規定ニ牴觸スルト否トニ論ナク國交ノ親善ヲ害スルモノナリ這般必要ノ限界ヲ一定シ機會均等ノ主義ヲ確立スルニ於テ米國以上ニ強硬ナル主張ニ出テ若クハ權威ヲ揮ヒタル國ハ未タ曾テコレアラサルナリ

例ヘハ千八百七十九年米國國務長官ハ其ノ在墨米國公使ニ与ヘタル訓令中ニ宣言シテ曰ク「墨國ニ於ケル不動産所有ノ能力ニ關シ米國人民及他ノ外國人ニ不利ナル差別的待遇ヲ与フル墨國法律ハ千八百三十一年ノ條約ニ牴觸スルモノナリ」ト（「モア」氏國際法規彙纂第六卷第七〇二頁）右援用ニ係ル條約ハ不動産所有ノ問題ニ關シ何等明確ノ規定ヲ存セス唯相互ノニ通商航海ニ關シ最惠

シタルモノナリ」ト而シテ該決議案ハ此等ノ理由ニ依リ該條約ヲ破棄センコトヲ大統領ニ迫レリ右ノ決議案通過確定後三日ニシテ米國ハ露國ニ通告スルニ米露條約ハ「今日ニ至リテハ種々ノ点ニ於テ兩國ノ政治及實益關係ノ須要ニ応スルニ足ラス」トノ理由ヲ以テ之ヲ終止ス可キ旨ヲ以テセリ

抑モ露國ノ行為ハ専ラ米國人民タル猶太人ノミヲ排斥シタルモノニアラス一切ノ外國人タル猶太人ニ對シテ一樣ニ仕向ケラレタルモノナリ而シテ件ノ異議ヲ招クニ至リタル差別的待遇タル人種及宗教ノ理由ニ因リタルコト少カラスト雖亦幾分ハ經濟上ノ考慮ニ基キタルモノナリトハ露國ノ弁明スル所ナリ若シ斯ル事態ノ下ニ於テ米國政府力露國ノ行為ニ對シ抗議スル十分ノ理由ヲ有ストセハ（而シテ其ノ之ヲ有スルヤ蓋シ疑ナキナリ）帝國政府ハ加州ノ忌ハシキ差別待遇ニ對シ抗議スルノ更ニ有力ナル理由ヲ有セスンハアラス蓋シ右ノ差別待遇タル當ニ條約ノ明文ト相容レサルノミナラス其ノ根底ニ於テ國民的且人種的ナルヲ以テ明ニ他國民ノ感情威信ヲ無視スルモノナレハナリ

三、米國內ノ諸州中外國人ニ對シテハ歸化法ノ規定ニ從ヒ

米国民トナルノ意思ヲ届出ルヲ以テ不動産所有權ヲ得ルノ條件トナスモノ数多アリ右ノ條件ハ必スシモ不当又ハ非論理的ノモノナリト言フ可カラス蓋シ之ニ依リテ件ノ權利ヲ獲得スル者ハ結局米国民トナル者ニシテ若又法定ノ期間ニ於テ米国民トナラサル時ハ右ノ權利ハ当然消滅ス可キカ故ニ該權利存続ト帰化行為完了トノ間ニ離ル可ラサル關係ヲ生スルモノナレハナリ

反之外国人ニ対シ單ニ其帰化能力ノ有無ノミヲ以テ不動産所有權許否ノ條件トナスハ独リ加州ノミナルカ如シ右能力ノ有無ナル語ハ其ノ加州法文ニ引用セラレタル前後ノ關係ヨリ之ヲ看ルニ外国人カ結局米国民トナリ又ハナラサルコトノ問題トハ何等ノ關係ヲ有セス唯土地及家屋ノ所有ニ関シ白人種又ハ亜非利加人種ニ屬スル外国人ニ比シ不利ナル差別待遇ヲ日本臣民ニ与ヘントスル加州ノ決意ヲ表明スル為ニ使用セラレタルモノナルニ過キス

故ニ外国人士地所有ノ問題ニ関シテハ加州ノ法律ト他ノ諸州ノ法律トノ間ニハ左ノ明白ニシテ重要ナル區別アルヲ見ル可シ

即チ他州ノ法律ニ依レハ不動産ヲ所有スルノ權利ヲ行使

宛テタル公文ニ言及セント欲ス右公文ニ用キラレタル文言ハ珍田子爵カ其ノ去ル六月四日附ノ公文ニ於テ演述シタル論旨ト恰モ符節ヲ合スルカ如キモノアルヲ以テ左ニ其ノ一節ヲ引用スルノ自由ヲ与ヘラレンコトヲ希望ス國務長官「フィッシュ」氏曰ク「要償者ノ請求ハ救済ノ為之ヲ当該州官憲ニ移牒ス可シトスル伯國ノ提議ニハ同意シ難シ如斯地方官憲ハ米國政府ノ公然認知スル限ニアラス州官憲ノ行為ニ依リ米國人ノ身命又ハ財産ニ及ホセル毀害ニ関シ米國政府ニ対シテ責任ヲ負フモノハ「リオ、デ、ジャネロ」ニ於ケル伯國政府ナリ同一ノ原則ハ米國ニ於テ州官憲ノ為ニ損害ヲ被ムリタル伯國人民ノ場合ニ於テモ適用セララル可シ」ト（「モーア」氏國際法規彙纂第六卷第八一六頁）

加州制定ノ法律カ日本臣民ノ個人トシテノ權利ヲ傷害スル場合ニ於テ被害者ハ勿論之カ救済ヲ裁判所ニ求ム可シ然ルニ今日米間ニ繫争ノ問題ハ條約ノ解釈ニ関スルモノナリ而シテ斯ノ問題ノ最終決定ニ就テハ兩國共ニ同等ノ發言權ト利害トヲ有スルモノナリ随テ之カ処弁ハ目下ノ処唯外交手段ニ依ルノ一アルノミ但シ同様ノ場合ニ於テ米國政府ハ現行條約ヲ支持スル為メニ自ラ訴訟ヲ提起

シ得ルニ先チ結局米国民トナルコトヲ誓盟スル實際ノ手續ヲ履マサル可ラサルニ反シ加州法律ニ於テハ單ニ斯ル手續ヲナシ得ルノ能力ヲ以テ足レリトセリ換言スレハ外国人カ結局米国民トナルモノナルヤ否ヤハ該權利ノ許否上加州ノ間ハサル所ナリ

右ノ差別タル又間接ノ用語ニ依リ日本ノ有スル條約上ノ權利ヲ無視スルノ点ニ於テ同ク批難ヲ免レサルモノナリ

四、世人或ハ米國ニ於テ外國人不動産所有問題ヲ処理スルノ權能ハ各州ニ專屬セリト論スルモノナキニアラス米國裁判所ノ權威アル判決例ニシテ右ノ議論反駁ノ為ニ引用セラル可キモノハ多々アリト雖今ハ唯米國カ現行日米條約第一條第一項及第三項并ニ旧日米條約第一條約定ノ當事者タルコト又若シ外國人不動産所有問題ヲ処理スルノ權能カ論者ノ言ノ如ク果シテ全然州ニ留保セラレタリトセハ米國カ右ノ約定ニ同意スル管ナカリシコトヲ指摘スルヲ以テ足レリトス可シ

五、帝國政府ハ茲ニ本問題ニ関スル其ノ研究ヲ止ムルニ臨ミ本件ト類似事件ノ処辦問題ニ関シ米國國務長官カ千八百七十五年三月五日附ヲ以テ伯刺西爾國駐在米國公使ニ

シタルコトアリ即桑港學童事件及「ホルコン、ランチ」事件ノ如キ是ナリ兩事件共ニ訴訟ハ米國ニ依リ米國巡回裁判所ニ提起セラレタルモノナリ

（附記）

追加抗議ノ覺書中ニ援用セラレタル訴訟例

フェアファックス対ハンター事件

シラック対シラック事件

オール対ホデソン事件

福音外國普及會對ニュー、ヘーヴン市事件

ゼフロイ対リッグス事件

支那人排斥事件

ワトソン対ドンネリー事件

ホルコン、ランチ事件

桑港學童問題事件

フェアファックス対ハンター事件

獨立戰爭當時「フェアファックス」卿英皇帝特許ノ下ニ「ヴァージニア」州ニ広大ナル土地ヲ保有セリ同卿一千七百八十一年死去シ英臣民「デニー、フェアファックス」其土地ヲ相続シタリ當時英米開戰中ニテ該土地ハ官沒サレ得

ベキモノトナリ數個ノ州法ハ該地ノ処分方ニツキ制定セラレタリシガ州ハ之ニ從リタル措置ヲ執ラザリシトイフ本訴訟ハ其後「デニー、フェアファックス」ノ相続権ニツキ一千七百九十一年ニ提起サレタルモノナリ一千七百九十四年ノ英米條約第九條ハ當時米國ニ於テ土地ヲ保有スル英國臣民ハ引續キ土地ヲ保有スルヲ得所有者ハ任意ニ売却、遺贈、処分ヲ為スヲ得ルコト恰モ自國市民ト同シト規定シアリ一千八百一十二年高等法院ハ「フェアファックス」卿遺產相続人ガ從來有シタル權利ヲ確保スルモノニシテ其相続人ハ相続ニヨリ該土地ヲ獲得スルコトヲ得ト判決セリ

シラック對シラック事件

一千七百九十六年仏人「ジョン、バプチスト、シラック」土地ヲ取得シ九十八年米國ニ帰化シ翌年死去シタリ該土地所在ノ「メリーランド」州ハ其土地ヲ「シラック」ノ私生児「ゼ、シ、エフ、シラック」ニ給付シタルガ一千八百九年三月「シラック」ノ相続人ニシテ仏國人タル「エ、エフ、シラック」等ハ該土地取戻ノ訴ヲ起シ其ノ勝訴ニ歸シタルニヨリ「ゼ、シ、エフ、シラック」ハ控訴シ一千八百一十五年高等法院ハ前判決ヲ正当ナリトセリ一千八百一十

八年ノ期間ヲ以テ滿了消滅シタルモ財産相続上仏人ハ同條約ニヨリ米人同様ノ地位ニ置カレタルガ為メ一旦該條約ニヨリ与ヘラレタル權利ハ條約期間滿了ノ影響ヲ蒙ラズ右相続人ノ相続権ハ依然存在ストノ理由ニテ原告ノ敗訴トナレリ

オール對ホデソン事件

英人「ジョン、パラダイス」ノ妻「ルーシー」其實父米人タリ一千七百九十六年夫死シタル後米國ニ於テ亡夫所有ノ土地ヲ保有シ居タリシガ一千八百一十四年死亡シタリ然ルニ同人ノ姪「ボルシア、ホデソン」及「コルネリア、ホプキンス」相続人トシテ其土地所有權ヲ承継シタルニ其權利ニ關シ爭議ヲ生ジタル訴訟事件ナリ

争点ハ「ルーシー、パラダイス」ハ英國人ニシテ実父遺產ノ相続権無シトイフニ溯ルモノナルガ高等法院ハ一千七百八十三年ノ英米條約第六條ニ於テ同人ノ所有權ハ州ニ沒收サルベキモノニ非ズト確保サレ且一千七百九十四年英米條約第九條ハ英國人ニシテ當時土地ヲ所有スルモノハ引續キ之ヲ所有シ且其処分ニ關シテハ内國人ト均等タルベシトアルニヨリ保障サレ同人ニ相続権アリト一千八百一十九年判決ヲ下セリ

福音外國普及會對ニュー、ヘーヴン市事件

英國臣民ノ組織スル同會ガ「ヴァモント」州ニ所有セル土地ヲ一千七百九十四年州法ニヨリ同會ヨリ徵收シ其地方ノ市ニ与フルコトトセリ「ニュー、ヘーヴン」市ハ其一部ヲ占有セルニ對シ原告同會ハ取戻ノ訴ヲ起セルモノニシテ高等法院ハ同會ノ權利ハ一千七百八十三年英米講和條約第六條ニヨリ保障セラレタレバ其條約消滅スルトモ會既得ノ權利ハ變更セラレズト判決セリ（一千八百二十三年判決）

ゼフロイ對リッダス事件

米國市民「リッダス」ノ遺産分配方ニ關シ同人ノ妹ニシテ仏人「ゼフロイ」ニ嫁シタル婦人ノ子即「リッダス」ノ甥モ亦米國市民タル「リッダス」ノ弟妹同様相続権アリトノ訴訟事件ニテ高等法院ハ相続権アリトナセリ一千八百五十三年ノ米仏條約第七條ノ解釈ニツキテノ疑義本訴訟主要争点ノ一ニシテ高等法院ハ條約ノ解釈ハ寛大ニ為スベク締約上互ニ希望セル對等互惠ノ待遇ヲ相互ニ与フルモノト為スヲ可トスベシトシ既ニ一千八百一十三年米仏條約ニ於テハ仏國人ハ米國人ヨリ土地ヲ相続スルヲ得タリ但シ同條約ハ八年ノ期間ヲ以テ滿了シタルモ一千八百五十三年米仏條約締結セラルルヤ同條約第七條ノ文字モ亦之ヲ正当ニ解説スレバ

締約國內ニ於テ外國人ニ土地所有ヲ許ス地方ニアリテハ其ノ土地ノ相続モ亦自由ナルベキモノナリト規定シアレバ「ゼフロイ」亦相続権アリトセリ（一千八百九十年判決）

支那人排斥事件

原告支那人ハ桑港ニ居住シタル後一千八百八十七年帰國シ更ニ翌年渡米シタルニ其ノ豫テ帰國ノ際發給ヲ受ケタル在留証明書（一千八百八十二年及八十四年ノ支那排斥法ニ依ル）ヲ提示セルニ拘ハラズ一千八百八十八年排斥法修正ニヨリテ上陸拒絶サレタレバ米國政府ヲ相手取り上陸許可ヲ要求セル訴訟事件ニシテ高等法院ノ判決趣旨ハ外國人入國許否ノ權ハ國家當然ノ權ニシテ原告ノ申立立タズ凡ソ條約ニヨリ發生セル權利利益ニシテ賣買其他讓渡シ得ベキ財産ニ關シタルモノハ條約ノ期間滿了廢棄等ニヨリ影響ヲ蒙ラザルモ屬人的ニシテ讓渡シ得ラレザルモノハ此限ニ非ズト論ジタリ（一千八百八十九年判決）

ワトソン對ドンネリー事件

英國人「リンチ」ナルモノ受遺者トシテ土地ヲ保有シ且之ヲ相続人ニ相続セシメ得ルヤ否ヤニ關スル訴訟事件ニシテ紐育州高等法院ハ一千七百九十四年英米條約ニヨリ「リンチ」ハ其權利ヲ有ス條約ハ一國永久ノ法タリ仮令締結者ニ

ヨリ解約サルルトモ両国民既得ノ権ハ依然存続スベキモノシテ一千八百二十五年ノ州法ハ些ノ影響ヲ外国人ノ既存條約ノ下ニ得タル相続權ニ及ボスモノニ非ズト論ゼリ

ホルコン、ランチ事件

「テキサス」州「アメリカン、リヨ、グラント」土地灌漑会社ハ米墨境界線ニ沿ヒタル土地ヲ保有シ土地ノ開墾ヲ始メ灌漑水ポンプ汲上場ヲ「リヨ、グラント」河堤ニ設ケタリ然ルニ同河ノ流水路其後方向ヲ變ジ揚水場地点ヨリ遠ザカラントセルヨリ会社ハ上流ノ一地点ニ開墾ヲ施シ河水ヲシテ其自然ノ新流路ニヨラズ本新設水路ヲ採リ揚水場ヲ沿ウテ流レシムル工事ヲ始メ千九百六年竣功シタリ然ルニ右工事ハ米墨條約特ニ一千八百八十四年十一月締結米墨境界條約第三條ニ違反スルノミナラズ墨国人耕地ニモ被害アリ墨国政府ハ本件管轄ノ権限アル國際境界委員會ノ注意ヲ喚起シ同委員會ハ事實踏査ノ上條約違反ナリトシ合衆國々務省ハ司法省ノ意見ヲ徵シタル後合衆國ガ其墨国トノ條約ヲ尊重シ且市民ヲシテ之ヲ遵奉セシムルニ懈怠無キノ実証ヲ示スハ重要ノ事ナリトノ意見ニテ「テキサス」州南区合衆國檢事ヲシテ右会社ヲ相手取り訴訟ヲ起サシメ本條約違反ニ對シ相當制裁ヲ会社ニ加ヘンコトヲ論ジタリシガ一千

三三一 七月三日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州問題追加抗議覺書ヲ國務長官ニ手交ノ件

第二一四号

七月三日國務長官ニ面会ノ節貴電第一七〇号覺書ヲ手交シ尚口頭ヲ以テ大体ノ説明ヲ加ヘ殊ニ旧條約時代ニ日本人ノ取得シタル不動産所有權ノ効力ニ関スル論点ニ付テハ大審院ノ判決例ニ掲クル判決要旨ノ字句ヲ援用シテ同官ノ注意ヲ喚起シ六月五日大統領カ本使ニ對シ若シ本件法律ニ條約違反ノ廉アルヲ認ムルニ至ラハ合衆國政府自ラ進ンテ起訴ノ手段ヲ執ルヘキ旨ヲ明言セラレタルヲ指摘シ(往電第一九五号)且該法實施ノ期日モ追々切迫ノ今日速カニ回答アラント求メタル所國務長官ハ右覺書ハ篤ト講究ヲ遂クヘク又可成速カニ回答センコトヲ努ムヘシト答ヘタリ

三三二 七月十一日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州問題ニ関スル米國政府ノ回答草稿内示セラ

レタルニ付國務長官ニ意見陳述ノ件

第二一九号

七月十日國務長官ハ本使ヲ招キ「カリフォルニア」州問題
一 加州ノ外国人土地法案及日本政府ノ抗議關係 三三一

九百十一年十二月右管轄ノ合衆國巡回裁判所ハ合衆國政府ノ主張ヲ正当ト為シ会社ニ數個ノ義務ヲ負ハシメ條約ノ遵守スベキモノナルコトヲ明ニシタリ

桑港學童問題事件

桑港ニ於ケル日本人學童隔離事件ノ際合衆國政府自ラ原告トナリ合衆國巡回裁判所ニ提起セル訴訟ハ桑港學務局學校監督並ニ各小學校長ニ對シ衡平法上ニテ提起セルモノニテ桑港學務局ノ決議ヲ日本兒童ニ適用スルヲ禁止スルノ命令ヲ發センコトヲ求メタルモノナリ

三三〇 七月一日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州問題追加抗議覺書提出予告済ノ件

第二一二号

貴電第一六七号ニ関シ六月三十日國務長官ト面会ノ節貴訓ノ趣旨ヲ告ケ米國政府ノ回答ハ追テ帝國政府ヨリ提出スヘキ覺書所載ノ論点ヲモ考量ニ加ヘラレンコトヲ求メタル所同官ハ之ヲ快諾シタリ

ニ付我弁駁書及追加覺書ニ對スル回答ノ草稿ヲ讀ミ聞カセタリ右回答案ハ頗ル長文ニシテ我カ指摘シタル諸点ヲ挙ケテ精細ニ論争セル上結局米國政府ハ本件救済策トシテハ第一日本人起訴ノ場合ニハ成ルヘク便宜ヲ与フヘキコト第二当然ノ被害ニ對シテハ賠償方法ヲ講スヘキコト第三日本人所有地ニシテ本法實施ノタメ價格ヲ減少スルモノアルヘキニ願ミ所有者ノ申請アルトキハ本法制定前ニ於ケル市価ヲ以テ買取スルノ方法ヲ設クヘキコトヲ提議シアリ國務長官ハ語ヲ繼ギ米國政府權限内ニ於テ執ルコトヲ得ル手段ハ十分之レニ努力スル覺悟ナルモ過日來特ト考慮ヲ尽シタル結果右提議實行以外ニハ遂ニ適當ナル考案ヲ發見セスト述ヘタリ本使ハ前記救済案第一ハ合衆國カ訴訟ニ参加スルコトモ包含スルノ趣意ナリヤト問ヒタルニ國務長官ハ合衆國自カラ訴訟原告又ハ参加人トナルハ到底行ハレ難キ旨ヲ斷言シタリ本使ハ右回答案ニ承服シ難キ論点ハ一々反覆弁駁シテ我カ主張ヲ支持シ殊ニ今回米國ノ提議セントスル救済策ハ我ニ於テ失望セサルヲ得ス其ノ第一ノ点及第二ノ点カ不満足ナルハ既ニ再三述ヘタル所ニシテ第三ノ点ニ至リテモ其趣旨ハ好意ニ出テタルモノナルヘキモ之レ偶々日本人カ土地ノ所有者トシテ「カリフォルニア」州ニ生計ノ根

抛ヲ求メントスル本来ノ目的ニ背馳スル結果ヲ来シ其ノ多年苦心シテ經營セル事業ハ茲ニ根底ヨリ破壊セラルルニ至ルヘシト説キ尚國務長官ニ於テハ他ニ米國政府ノ権限内ニ屬スル適當ノ解決ノ方法ナシト言ハルモ本使ノ所見ヲ以テセハ例ヘバ土地所有權ニ付キ日本人ニ歐洲人ト同一ノ待遇ヲ与フル目的ヲ以テ新協約締結モ一ノ方法ナラスヤト論シタル所國務長官ハ一州ノ輿論ハ合衆國政府トシテ之レヲ尊重セサルヘカラス若シ之レヲ無視シテ「カリフォルニア」立法ノ効果ヲ奪ハントスルトキハ益々地方ノ反抗ヲ挑発スヘキハ勿論目下幸ニ中立ノ態度ヲ持スル其ノ他ノ諸州モ加州ニ同情ヲ表スルモノヲ生シ延テ兩國國交上今日ニ倍スル難局ヲ醸スヘキハ疑ヲ容レスト答ヘタリ

又帰化権問題ニ付テハ回答案中ニハ本件カ國際交渉案件トスルコトヲ得ヘキ性質ノモノニアラサルコトヲ切言シアル所國務長官ハ日本國政府ノ希望次第ニ依リテハ今回回答中此ノ点ノ論争ヲ避クルコトトスルモ異議ナキ趣ヲ以テ豫メ之ニ関スル本使ノ意嚮ヲ問ヒタルニ付本使ハ之レニ答ヘ加州ハ今ヤ日本人ニ帰化権ナキノミノコトヲ理由トシテ私法上ノ權利ヲ褫奪セントスルモノナルカ故ニ我ニ於テハ此ノ

三三三 七月十一日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法ニ関シ提訴依頼ノ弁護士選定ニ付請

訓ノ件

第二二三号

加州土地法ニ関シ若シ米國政府ノ起訴又ハ参加ヲ待タス被害者自カラ訴訟當事者トナリテ救済ヲ求ムル外ナキニ至ル時ハ帝國政府之ニ後援ヲ与ヘ十分信頼スルニ足ル弁護士ヲ雇入ルル必要アリ從テ今ヨリ其場合ヲ豫想シテ適當ノ弁護士ヲ内定シ置キ往電第二一九号米國政府ノ回答接手ノ上愈々同政府ヲシテ起訴セシムル見込ナシト認ムル時ハ直チニ右弁護士ニ本件訴訟ヲ委任スルト共ニ總テ本使ト國務長官トノ往復公文ハ之ヲ内示シテ訴訟ノ準備ヲ整ヘシムルコト至当ト認メラルル処本使ノ所見ニ依レハ土地法事件ニ関シテハ右弁護士ハ豫テ加州方面ニ事務所ヲ有シ地方ノ実情ニ精通スル者ノ内ニ之ヲ求ムルコト便宜ナルヘク(例ヘバ在桑港總領事代理六月二十五日付機密信ニ掲ケタル Devlin 及 Webb ノ如キハ差当リ適當ノ候補者ト思ハル)尤モ帰化法解釈問題ノ如キ當國全般ニ影響ヲ及ホシ且結局合衆國大審院ノ判決ヲ必要トスル事件ニ関シテハ全國ニ威

問題ヲ默視スルコトヲ得サル立場トナリタル次第ヲ弁明シ尤モ我カ弁駁書ハ直接ニ帰化法改正ヲ要求シタルニハアラサルモ日本國論ハ本件ニ重キヲ措クモノト認メラルルヲ以テ追テ別ニ立論ノ形式ヲ整ヘテ本件ヲ提議スルコトモアルヘク其ノ節ハ更ニ篤ト意見交換シタキニ付今回ハ前述米國政府ノ態度ヲ断定セラレサルヲ希望スト述ヘ置キタリ尚國務長官ハ回答發送期日ニ関シテハ過日來米國大統領ハ避暑旅行中ニシテ十四日迄ニハ帰華ノ運ヒニ至ラサルタメ我追加覺書及之ニ對スル回答案ハ大統領ト協議ノ機ヲ得サルモ特ニ本使ノ希望アルニ於テハ大要電報ニテ大統領ノ裁可ヲ求メ回答發送ノ途ナキニアラスト思考スル旨ヲ述ヘタル所本使ハ右追加覺書ハ帝國政府ノ重ヲ措ク所ナルヲ以テ大統領ニ於テモ十分考量ノ猶豫ヲ与ヘンコトヲ希望スト答ヘタルニ然ラハ十五日頃迄ニハ大統領トモ熟議ヲ遂ケ回答ヲ發送スヘシト語レリ

望アル第一流ノ弁護士例ヘバ紐育 Spooner ノ如キニ委任スルヲ適當ト思考ス右意見御承認ヲ得ハ土地法事件担当者ニ関シテハ在桑港總領事代理ニ電報シテ可成速ニ内定セシムルコトト致度ニ付何分ノ義御電訓ヲ請フ

三三四 七月十六日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州問題我弁駁書ニ對スル米國政府ノ回答書受

領及請訓ノ件

第二二六号(至急)

往電第二一九号末段ニ関シ大統領ハ既ニ去ル十四日帰華セルニ付七月十六日國務長官ニ對シ回答書ノ督促ヲ試ミタルニ同長官ハ大統領ノ帰華匆匆極メテ多忙ナリシ為メ止ムヲ得ス遷延シタリトノ理由ヲ述ヘタル後漸ク完成セル回答書ヲ手交シタリ尚同官ハ本使ノ問ニ對シ大統領ハ我追加覺書ヲモ篤ト研究シ回答書ニ付テモ充分考量ヲ加ヘタル上確定シタル次第ニシテ回答書ノ趣旨ハ七月十日本使ニ誦聞セタル草案ト同一ナルカ只帰化ニ関スル点ハ大統領ト協議ノ結果多少調子ヲ和ラケ草案中ノ一部分ヲ残スコトトナリタ

ル趣ノ説明ヲ与ヘタリ回答書ハ我弁駁書及追加覚書ニ対シ別々ニ作成セラレタルモノニシテ全文六千語内外ヨリ成レル頗ル長文ナルカ右ハ其全文ヲ電報スヘキヤ又ハ多少省略シタルモノヲ電報シ全文ハ八月九日横浜著ノ郵便ニテ送附スヘキヤ折返シ何分ノ義返電アリタシ

三三五 七月十七日 牧野外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛（電報）

米國政府ノ回答書全文電報方回訓ノ件

第一八一号

貴電第二二六号ニ関シ回答書ハ全文電報セシメタシ

~~~~~

三三六 七月十七日 在米國珍田大使ヨリ  
牧野外務大臣宛（電報）

加州問題我弁駁書ニ対スル米國政府回答書全文

電報ノ件

附 記 右回答書訳文

No. 227

I have had the honour to receive and carefully

of a local character. I cannot help feeling that in the representations submitted by Your Excellency, the supposition of racial discrimination occupies a position of prominence which it does not deserve, and which is not justified by the facts. I am quite prepared to admit that all differences between human beings—differences in appearance, differences in manner, differences in speech, differences in opinion, differences in nationality, and differences in race—may provoke a certain antagonism; but none of these differences is likely to produce serious results, unless it becomes associated with an interest of a contentious nature such as that of the struggle for existence. In this economic contest, the division no doubt may often take place on racial lines, but it does so not because of racial antagonism, but because of the circumstance that the traditions and habits of different races have developed or diminished competitive efficiency. The contest is economic; the racial difference is a mere mark or incident of the economic struggle.

All nations recognize this fact; and it is for this reason that each nation is permitted to deter-

to consider the note which Your Excellency was so good as to address to me under date of the 4th June on the subject of the recent act of the legislature of California relating to the tenure of lands by aliens in that State.

I am pained to learn that the Imperial Government after reading the contents of my note of the 19th of May, in reply to their protest, continue to be of opinion that the act in question is not only unfair but "intentionally racially discriminatory"; that it is "contrary to the letter and spirit" of the treaty between the two countries; and that it is at variance with "the accepted principles of just and equal treatment upon which good relations between friendly nations must, in the final analysis, so largely depend".

In my note dated of the 19th of May, I did not omit to point out that the California statute far from being indicative of any national discriminatory policy was not even to be regarded as an expression of political or racial antagonism, but was rather to be considered as the emanation of economic conditions which were in this instance

mine who shall and who shall not be permitted to settle in its dominions and become a part of the body politic, to the end that it may preserve internal peace and avoid the contentions which are so likely to disturb the harmony of international relations.

That the Imperial Government of Japan accept and act upon these principles precise proof is not wanting.

By the Imperial Ordinance No. 352 of 1899, which is understood to be still in force, it is provided:

"Article I. Foreigners, even those who either by virtue of treaty or custom, have not freedom of residence, may hereafter reside, remove, carry on trade and do other acts outside the former settlements and mixed residence districts. Provided that in the case of laborers, they cannot reside or carry on their business outside the former settlements or mixed residential districts unless under the special permission of the administrative authorities.

The classes of such laborers (referred to in

preceding paragraph) and details for the operation of this Ordinance shall be determined by the Minister for Home-Affairs."

The Department is advised that this Ordinance was promulgated in order to prevent the immigration of Chinese laborers, who were attracted to Japan by the rise of wages which began in that country after the war with China, and has continued ever since. As a result of this rise in wages, conditions grew up not unlike those which have existed at certain places in the United States, the objection made in Japan to Chinese laborers being that they worked for lower wages than the natives. In the summer of 1907, as the Department is advised, two groups of Chinese laborers were excluded from Japan under the application of the Ordinance above mentioned, one of the excluded groups being composed of coolies, the other of skilled artisans such as mechanics. The Department is not advised that the Ordinance has been or is enforced as against laborers other than Chinese. The Department is, however, far from imputing to the Imperial Government in its en-

distinct and possibly inconsistent are introduced together; for, while it is readily conceivable that a question of treaty right and a question of fair and equal treatment may co-exist, yet, if the matter under consideration has by the contracting parties been made the subject of an express adjustment and agreement, it is hardly open to either party thereafter to say that the reciprocal measure of treatment which they have voluntarily concurred in establishing is not just and equal.

The treaty to which Your Excellency's note refers is that which was signed at Washington on February 21, 1911, by Mr. Knox, Secretary of State, representing the United States, and by Baron Uchida, your immediate predecessor, representing the Imperial Government.

This treaty was based upon a draft presented by the Imperial Government. In Article I of this draft there is found the following clause:

"3. They (the citizens or subjects, of the contracting parties) shall be permitted to own or hire and occupy houses, manufactories, warehouses, shops and premises which may be neces-

forcement of the Ordinance a design to make racial discrimination. On the contrary, the Department assumes that the question with which the Imperial Government were seeking to deal was in its essence economic and racial only incidentally, and that this would continue to the case even if the Ordinance, although it was no doubt originally designed to exclude Chinese laborers, should be applied to laborers of another race.

In certain statements in Your Excellency's note to which I have heretofore adverted, I am obliged to think that due weight has not been given to the provisions of the treaties between the two countries. Your Excellency is so good as to say that, "looking at the terms of the treaty between our two countries," the Imperial Government are convinced that the California statute "is contrary to the letter and spirit of that compact," and that they also believe that the statute is "at variance with accepted principles of just and equal treatment."

In these passages, two questions apparently

sary for them, and to lease land for residential, commercial, industrial, manufacturing and other lawful purposes."

It will be observed that in this clause which was intended to deal with the subject of real property, there is no reference to the ownership of land. The reason of this omission is understood to be that the Imperial Government desired to avoid treaty engagements concerning the ownership of land by foreigners and to regulate the matter wholly by domestic legislation.

In the treaty as signed, rights of citizens and subjects of the contracting parties with reference to real property were specifically dealt with (Article I) in the stipulation that they should have liberty "to own or lease and occupy houses, manufactories, warehouses and shops" and "to lease land for residential and commercial purposes." It thus appears that the reciprocal right to lease land was confined to "residential and commercial purposes," and that the phrase "industrial" and "other lawful purposes," which would have included the leasing of agricultural land, were omitted.

The question of the ownership of land was, in pursuance of the desire of the Japanese Government, dealt with by an exchange of notes in which it was acknowledged and agreed that this question should be regulated in each country by the local law and that the law applicable in the United States in this regard was that of the respective states. This clearly appears from the note of Baron Uchida to Mr. Knox of February 21, 1911, in which, in reply to an inquiry of the latter on the subject Baron Uchida said: "In return for rights of land ownership which are granted Japanese by the laws of the various states of the United States (of which I may observe, there are now about thirty) the Imperial Government will by liberal interpretation of the law be prepared to grant land ownership to American citizens from all the States, reserving for the future, however, the right of maintaining the condition of reciprocity with respect to the separate States."

In quoting foregoing passage I have italicized the last clause for the purpose of calling special illege and the measure of satisfaction for its denial were perfectly understood and accepted.

In connection with the question of land ownership Your Excellency refers to the subject of naturalization in the United States, and in this relation I observe Your Excellency's statement that "Japanese subjects are, as a nation, apparently denied the right to acquire American nationality." Your Excellency further declares that the provisions of law under which it is held that Japanese are not eligible to American citizenship, "are mortifying to the Government and people of Japan, since the racial distinction inferable from those provisions is hurtful to their just national susceptibilities." Your Excellency very properly acknowledged the fact that the question of naturalization "is a political problem of national and not international concern."

I gladly assume that Your Excellency, in saying that Japanese subjects are "as a nation" denied the right to acquire American nationality, has not intended to convey the impression that the naturalization laws of the United States make any

attention to the fact that the contracting parties distinctly understood that, in conformity with the express declaration of the Imperial Japanese Ambassador, the right was reserved to maintain as to land ownership the condition of reciprocity in the sense that citizens of the United States, coming from States in which Japanese might not be permitted to own land, were to be excluded from the reciprocal privilege in Japan.

From what has been pointed out it appears to result, first, that the California statute, in extending to aliens not eligible to citizenship of the United States the right to lease lands in that State for agricultural purposes for a term not exceeding three years, may be held to go beyond the measure of privilege established in the treaty which does not grant the right to lease agricultural lands at all; and, secondly, that, so far as the statute may abridge the right of such aliens to own lands within the state, the right has been reserved by the Imperial Government to act upon the principle of exact reciprocity with respect to citizens of the individual State. In a word, the measure of priv-

distinction that may be specifically considered as national either in terms or in effect. Nor would it appear, if the legal provisions in question were historically examined, that the Government and people of Japan have any ground to feel that any discrimination against them was intended. But, as the fact is acknowledged in Your Excellency's note that the question of naturalization "is a political problem of national and not international concern." I infer that Your Excellency is not instructed to press the matter, and I will forbear to enter into a more extended discussion of it on the present occasion.

In the note of Your Excellency an apprehension is expressed that in spite of the fact that the California statute purports to assure to aliens the right to hold real property in the manner and to the extent and for the purposes specified in any treaty, the terms of the law may be found to abridge not only rights of property falling within the terms of the existing treaty but also rights of property acquired in conformity with law theretofore. This Department, however, does not doubt

that full protection will be extended by the courts to all vested rights of property. And I desire to add that if a case should ever be disclosed in which it was maintained by the Imperial Government that the existing property rights of one of its subjects had been impaired by the statute, this Government would stand ready to compensate him for any loss which he might be shown to have sustained, or even, in order to avoid any possible allegation of injury, to purchase from him his lands at their full market value prior to the enactment of the statute.

In conclusion, I have the honour to assure Your Excellency that the subjects of His Imperial Majesty will, as stated in my previous note, find in the courts of the United States, in the manner provided by the Constitution of the United States, full protection for all their legal rights; and I desire further to assure you that this Government will through its proper officials stand ready at all times to use its good offices to secure prompt and efficacious determination of such suits. In this manner our Governments will cooperate for the preser-

vation of the traditional friendship and mutual consideration which have ever characterized the relations of amity and good will that have prevailed between the Governments and peoples of the two countries.

Accept, Excellency, the renewed assurances of my highest consideration.

(Signed) William Jennings Bryan

Chinda

(附記)

加州問題我弁駁書ニ対スル米國政府ノ七月十六

日附回答書訳文

書翰ヲ以テ啓上致候陳者曩ニ加州ノ制定ニ係ル同州外國人土地所有法ノ件ニ関シ六月四日附貴翰ヲ以テ御来示ノ趣篤ト閱悉致候

本官ハ去ル五月十九日附書翰ヲ以テ日本政府ノ抗議ニ対シ回答申進置候次第有之候処右回答ヲ査閲セラレタル上ニ於テ尚日本政府ハ件ノ法律ヲ以テ雷ニ不公平ナルノミナラス故意ニ人種の差別ヲ設クルモノニシテ又両國間條約ノ字句及精神ニ反シ且友好國間ニ於ケル親善關係ノ根本義タル公

正ニシテ均等ナル相互待遇ノ原則ニ悖ルモノナリトノ見解ヲ持續セララルモノナルコトヲ知ルハ本官ノ遺憾トスル所ニ有之候

加州ノ法律カ外國人ニ差別的待遇ヲ与ヘントスル何等國民的政策ノ存在ヲ示スモノニアラサルハ固ヨリ政治上又ハ人種上ノ敵意ヲ表現スルモノトモ看做ス可ラスシテ寧ロ本件ノ場合ニ於テハ地方的經濟的狀態ヨリ發生シタルモノナリト解ス可キモノタルハ本官ノ去ル五月十九日附書翰ニ於テ既ニ指摘シタル所ニ有之候然ルニ本官ハ閣下ノ示サレタル提言ハ該法律ハ人種の差別ヲ設クルモノナリトノ仮想ニヨリ支配セラレ居ルモノナリトノ感想ヲ禁スル能ハサルモノニ有之而シテ如此仮想ノ事實ノ立證ヲ有セサルハ申ス迄モナキ儀ニ有之候本官ハ人類間ニ於ケル一切ノ相違例ヘハ容貌作法言語意見國籍又ハ人種ノ相違カ時ニ或ル種類ノ敵意ヲ挑発スルコトアルヲ認ムルニ躊躇セサルモノニ有之候去リナカラ如何ナル相違ト雖仮令ハ生存競争ノ利害ノ如キ關争の性質ヲ有スル利害問題ト伴フニアラサレハ決シテ重大ナル結果ヲ生スルモノニアラサルカ如ク相見エ候尤モ斯ル經濟的關争ニ於テ人種ノ異同ニ依リ党派ノ分ルルハ勿論有リ得ヘキコトナリト雖如此ハ決シテ人種の敵意ノ為ニ然

此事實ハ各國ノ共ニ認ムル所ニシテ是レ何レノ國ト雖其國內ノ秩序ヲ保全シ兼テ國際關係ノ調和ヲ擾スノ虞アル論争ヲ避ケンカ為何人カ其ノ領土内ニ定住シ以テ其ノ政治的團結ノ一部ヲ構成スルコトヲ得ルヤ否ヤヲ決スルノ自由ヲ享有スル所以ニ有之現ニ日本帝國政府ハ自ラ此原則ヲ承認シ採用セルノ実例ヲ示シ居リ候即チ千八百九十九年(明治三十二年)勅令第三百五十二号(右勅令ハ今尚効力ヲ有シ居ル管ナリ)ハ規定シテ曰ク

第一條 外國人ハ條約又ハ慣行ニ依リ居住ノ自由ヲ有セサル場合ト雖從前ノ居留地及雜居地以外ニ於テ居住移転營業其ノ他ノ行為ヲ為スコトヲ得但シ勞働者ハ特ニ行政官庁ノ許可ヲ受クルニ非レハ從前ノ居留地及雜居地以外ニ於テ居住シ又ハ其ノ業務ヲ行フコトヲ得ス  
ム

ト  
 当省（國務省）ノ聞ク所ニ抛レハ右勅令ハ日清戰役後日本ニ於テ賃銀ノ昂騰シ初メタルヨリ之ニ誘ハレテ日本ニ来ラシコトヲ欲スルニ至リタル支那労働者ノ入國ヲ防止スル為ニ發布セラレタルモノナリトノコトニ有之蓋シ日本ニ於テ支那労働者ノ来住ニ故障ヲ唱フルハ其ノ内地人ヨリモ低廉ナル賃銀ニ甘シテ労働スルカ為ニシテ叙上ノ賃銀昂騰ノ結果トシテ合衆國ノ或ル地方ニ於ケルト同様ノ状態カ日本ニ於テ發生シタルニ由ルモノナリ当省ノ知ル所ニ抛レハ千九百〇九年（明治四十二年）ノ夏二団ノ支那労働者ハ前記勅令ノ適用ニ依リ日本ヨリ排斥セラレタルカ其ノ中一団ハ苦力ヨリ成リ他ハ熟練職工ヨリ成レルモノナリシト言フ而シテ右勅令カ支那人以外ノ労働者ニ對シテ曾テ適用セラレ又ハ現ニ適用セラルルモノナルヤ否ヤハ当省ノ知ラサル所ナリト雖当省ハ帝國政府カ右勅令ノ實施ニ於テ人種の差別ヲ設クルノ意趣ヲ藏スルモノナリトハ解セス却テ帝國政府カ処理セントシタル問題ハ其本質ニ於テ經濟的ニシテ唯附帶的ニ人種のナリシノミナリト想定セントスルモノニ有之尚ホ右ノ勅令（其ノ本来支那労働者排斥ニ出テタルハ疑ナシト雖）カ他人種ニ屬スル労働者ニ適用セラルル場合モ

三、締約國ノ臣民又ハ人民ハ必要ナル家屋製造所倉庫店舗及構造物ヲ所有又ハ賃借シテ之ヲ使用シ及住居商業工業製造業及他ノ適法ノ目的ノ為ニ土地ヲ賃借スルコトヲ得右ノ一節ハ不動産ノ問題ニ關シ規定スルヲ目的トセルモノナルニ拘ラス土地ノ所有ニ關シテハ何等言及スル所ナシ其ノ理由ハ帝國政府ニ於テ外國人ノ土地所有問題ニ關シテハ條約上ノ規定ヲ避ケ専ラ内國法ニ依リテ之ヲ處理セント欲シタルニ由ルモノト了解致サレ候

之ヲ調印ヲ經タル條約ニ就テ看ルニ不動産ニ關スル締約國双方ノ人民又ハ臣民ノ權利ニ就テハ右ノ人民又ハ臣民ハ「家屋製造所倉庫及店舗ヲ所有又ハ賃借シテ之ヲ使用シ」及「住居及商業ノ目的ノ為ニ」土地ヲ賃借ノ自由ヲ有ストノ特殊ノ規定アリ（第一條）即チ土地ヲ賃借スルコトヲ得ル相互の權利ハ「住居及商業ノ目的ニ限局セラレ農業地ノ賃借ヲ包含ス可キ「工業」及「他ノ適法ノ目的」ナル語ハ省略セラレタル饒ト承知被致候

抑モ土地所有ノ問題ハ日本政府ノ希望ニ随ヒ公文ノ交換ニ依リ之ヲ取極メタルモノニシテ右ノ取極ニ依レハ此問題ハ締約國各自ノ当該地法ニ依リテ規定セラル可ク而シテ此点ニ關シ合衆國ニ於テ適用セラル可キ法律ハ各州ノ州法ニ有

亦同様ナリト認ムル次第ニ有之候

前段本官ノ言及シタル閣下公文文中ノ或ル陳述ニ顧ミ本官ハ帝國政府ニ於テハ兩國間條約ノ規定ニ十分ノ注意ヲ払ハレサリシニアラスヤトノ感想ヲ起ササルヲ得サル次第ニ有之候御来示ノ一節ニ曰ク「之ヲ兩國間條約ノ規定ニ照シ」帝國政府ハ加州法律ヲ以テ「右條約ノ字句及精神ニ反シ」且「一般ニ承認セラレタル公正ニシテ均等ナル待遇ノ原則ニ悖ルモノナリ」ト確信スルモノナリト然ルニ右ノ語句中ニハ明ニ區別アリ而シテ恐ラク矛盾セル二個ノ問題カ同時ニ提起セラルルヲ見ル蓋シ條約上ノ權利ノ問題ト公正ニシテ均等ナル待遇ノ問題トカ併立シ得可キハ想像ニ難カラスト雖若シ問題ニシテ契約當事者間ノ明白ナル協定事項ナルニ於テハ當事者ノ何レノ一方タリトモ右協定ノ後ニ至リ其ノ任意ニ承諾シタル該協定中ノ相互の待遇方法ヲ以テ公正均等ナラスト言フノ權利ハナカルヘシ貴翰ニ採用セラレタル條約ハ千九百十一年二月二十一日華盛頓ニ於テ合衆國ヲ代表セル國務長官「ノックス」氏ト帝國政府ヲ代表セル内田男爵トノ間ニ調印セラレタルモノナリ此條約ハ帝國政府提出ノ草案ニ基キタルモノニシテ右草案ノ第一條ニハ左ノ一節アリ

之右ハ千九百十一年二月二十一日附「ノックス」氏宛内田男爵ノ書翰ニ明示セル所ニシテ其ノ中同男爵カ本問題ニ關スル「ノックス」氏ノ質問ニ答ヘタル一節ニハ実ニ左ノ言アリ

合衆國ノ諸州カ其法律ニ依リ日本人ニ土地所有權ヲ付与セルニ對シ（余（國務長官））ハ日本人ニ土地所有權ヲ付与スルモノ目下約三十州アルコトヲ茲ニ附記ス可シ）帝國政府ハ法律ノ寛大ナル解釈ヲ採リ合衆國內ノ總テノ州ヨリ来ル合衆國人民ニ對シ土地ノ所有權ヲ付与ス可シ但シ将来ニ亘リ各別個ノ州ニ關シ相互の條件ヲ支持スルノ權利ヲ保留ス

前記ノ一節ヲ引用スルニ當リ本官カ末段ノ数行ニ圈点ヲ付シタルハ締約國當事者カ日本帝國大使ノ聲明ニ随ヒ日本人ニ土地所有ヲ許サザル諸州（合衆國內ノ）ヨリ来ル合衆國ノ人民ハ日本ニ於テ土地ヲ所有スルノ權利ヲ拒否セラル可シトノ意味ニ於テ土地所有ニ關スル相互條件ヲ支持スルノ權利ヲ保留シタルモノナルコトヲ明白ニ了解シタリトノ事實ニ對シ特別ノ注意ヲ喚起センカ為ニ外ナラス候右ニ指摘シタル所ニ抛リ第一合衆國ニ帰化スルコトヲ得サル外國

人ニ対シ三ヶ年ヲ越ヘサル期限ヲ以テ農業上ノ目的ノ為ニ州内ノ土地ヲ賃借スルノ權利ヲ付与スル加州ノ法律ハ毫モ農業地賃借ノ權利ヲ与ヘサル日米條約ノ範圍以外ノ特權ヲ与フルモノト言フヲ得可ク第二合衆国内ノ州法カ帰化能力ナキ外国人ニ対シ当該州内ニ於テ土地ノ所有ヲ許ササル場合ニハ帝國政府ハ右各箇ノ州民ニ対シ嚴格ナル相互主義ヲ適用スルノ權利ヲ保留スルモノナリト称スルヲ得可シ一言以テ之ヲ蔽ヘハ特權付与ノ範圍ト特權拒否ニ対スル報復ノ範圍トハ締約国双方ノ完全ニ了解シ承諾シタル所ニ有之候

將又閣下ハ土地所有問題ト關聯シテ合衆国ニ於ケル帰化ノ問題ニ言及セラレ「日本臣民ハ国民トシテ合衆国々籍ヲ取得スルノ權利ヲ拒絶セラレタルモノナリ」ト述べラレ且日本臣民ハ合衆国々籍ヲ取得スル能ハストセル合衆国々法ノ規定ハ日本政府及人民ノ快トセサル所ナリ是レ右規定ノ根底ニ蟠マル人種上ノ差別力彼等ノ正当ナル国民的自負心ヲ損傷スルモノアレハナリト言明セラレタリ但閣下カ帰化ノ問題タル国内政治ノ問題ニシテ國際交渉ノ問題ニアラサルノ事實ヲ認メラレタルハ実ニ当然ノ儀ト思料致候  
本官ハ閣下カ日本臣民ハ「國民トシテ」合衆国々籍ヲ取得

為ニ毀損セラレタリト主張セラルル事件ノ發生シタル曉ニハ当國政府ハ右日本臣民ニ対シ其ノ被リタル損害賠償ノ責ニ任ス可ク或ハ又何等損害ノ言立ヲ避ケンカ為右法律制定以前ニ於ケル十分ノ市価ヲ以テ日本臣民ノ土地ヲ買受クルコトスラモ辭セサルヘキコトヲ附言セント欲スルモノニ有之候

終ニ臨ンテ本官ハ閣下ニ対シ日本皇帝陛下ノ臣民ハ其ノ一切ノ合法的權利ニ対シ本官前回ノ公文ニ陳ヘタルカ如ク合衆國憲法ノ規定スル所ニ依リ合衆國ノ裁判所ニ於テ十分ノ保護ヲ受ク可キヲ保證スルノ光榮ヲ有ス而シテ本官ハ更ニ進ンテ當國政府ハ斯ル訴訟ノ迅速且有効ナル決定ヲ期スル為其ノ相當官憲ヲ通シ斷ニス斡旋ノ勞ヲ辭セサル可キヲ閣下ニ保證セントスルモノニ有之如斯ニシテ我政府ハ由来兩國政府及人民間ニ於ケル修好關係ノ特色タル伝來的友誼及相互の尊敬ヲ永遠ニ持續スルコトニ協力セントスルモノニ有之候

右回答旁本官ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

千九百十三年七月十六日

註 右訳文ハ日本外務省ニ於テ作成シタルモノ

スルノ權利ヲ拒絶セラルルモノナリト言ハルルモソハ閣下カ合衆國ノ帰化法カ字句又ハ結果ニ於テ特ニ國民的ナリト思料セラル可キ何等ノ區別ヲ為スモノナリトノ感想ヲ表白セントセラルルカ為ニハアラサル可キヲ思フテ自ラ喜フモノナリ將又右法律ノ規定ヲ歴史のニ研究セハ日本ノ政府及人民ハ該法律カ彼等ニ対シ差別ヲ設ケンタルモノナリト感ス可キ何等ノ理由ヲ有セサルコトヲ明ニスルヲ得可ク而シテ帰化ノ問題タル国内政治ノ問題ニシテ國際交渉ノ問題ニアラサルノ事實ハ既ニ貴翰ニ於テ認メラレタル所ナルカ故ニ本官ハ閣下ハ此問題ニ関シ敢テ論究スルノ訓令ヲ有セラレサルモノト推定シ之ニ関シ更ニ多クノ論議ヲ試ムルコトハ暫ク差扣フルコトト可致候

更ニ又閣下ノ公文ニハ加州法律ノ趣旨カ條約上ニ定メラレタル方法範圍及目的ニ随ヒ不動產ヲ所有スルノ權利ヲ外国人ニ保障スルニ有ルニ拘ラス右法律ノ規定ハ舊ニ現行條約ノ規定ニ依リ与ヘラレタル財産權ノミナラス從來ノ法律ニ遵ヒ取得シタル財産權マテモ傷害スルニ至ル可シトノ掛念ヲ表白セラレタリト雖一切ノ既得財産權ニ対シ裁判所カ十分ノ保護ヲ与フルハ當省ノ疑ヲ容レサル所ニ有之加之本官ハ若シ帝國政府ニ於テ其臣民現有ノ財産權カ件ノ法律ノ

#### 参 考

明治二十七年八月五日勅令第百三十七号帝国内ニ居住スル清国臣民ニ関スル件

第一條 清国臣民ハ本令ノ規定スル所ニ從ヒ帝国内從來居住ヲ許サレタル場所ニ於テ身体財産ノ保護ヲ受ケ向後モ引續キ居住シ且其ノ地ニ於テ平和適法ノ職業ニ従事スルコトヲ得但帝國裁判所ノ管轄ニ服従スヘシ

第二條 前條ニ依リ帝国内ニ居住スル所ノ清国臣民ハ本令發布ノ日より二十日以内ニ其ノ居住地ノ府県知事ニ申出テ住所職業氏名ノ登録ヲ請フヘシ

第三條 府県知事ハ第二條ノ登録ヲ受ケタル清国臣民ニ対シ登録證書ヲ交付スヘシ

第四條 第二條登録済ノ清国臣民ハ其ノ居住地ヲ移転スルコトヲ得但此ノ場合ニ於テハ先ツ其ノ登録證書ニ原居住地府県知事ノ裏書ヲ受ケ新居住地へ到着後三日間ニ其ノ地府県知事ニ申出テ更ニ第二條ノ登録ヲ受クヘシ

第五條 府県知事ハ本令規定ノ登録ヲ請ハサル清国臣民ヲ帝國版図外ニ退去セシムルコトヲ得

第六條 清国臣民ニシテ帝國ノ利益ヲ害スル所為アル者犯罪ノ所為アル者秩序ヲ紊乱スル者又ハ以上ノ嫌疑アル者

ハ各法令ニ依テ処分スルノ外府県知事ハ仍之ヲ帝國版図外ニ退去セシムルコトヲ得

第七條 本令ハ帝國官庁並ニ臣民ニ雇用セラルル清國人ニモ適用ス

第八條 本令ハ交戦上ノ目的ノ為ニ帝國軍衙ヨリ在留清國臣民ニ對シ発スル命令処分ニ關係スルコトナシ

第九條 本令発布ノ後ニ於テ清國臣民ノ帝國版図内ニ入ルコトヲ許スハ府県知事ヲ經テ内務大臣ノ特許ヲ得タル者ニ限ル

第十條 本令ハ発布ノ日ヨリ施行ス

明治三十二年七月二十八日勅令第三百五十二号

條約若ハ慣行上居住ノ自由ヲ有セサル外人ノ

居住及營業ニ關スル制

第一條 外人ハ條約若ハ慣行ニ依リ居住ノ自由ヲ有セサル者ト雖從前ノ居留地及雜居地以外ニ於テ居住移轉營業其他ノ行為ヲ為スコトヲ得

但シ勞働者ハ特ニ行政官庁ノ許可ヲ受クルニ非サレハ從前ノ居留地及雜居地以外ニ於テ居住シ又ハ其ノ業務ヲ行フコトヲ得ス

Foreign Affairs. In this telegram the statement is made that the larger part of the land actually owned by Japanese in California was acquired before July 17th, 1911, the effective date of the existing treaty; and certain decisions of the Supreme Court of the United States, in *Chirac Vs. Chirac* 2 Wheaton, 259, and other cases are invoked as guaranteeing rights of property which were acquired by Japanese subjects in the United States, while the treaty of 1894 was in operation.

The Department, following the example set in the *Aide Memoire*, refrains from entering on the present occasion into a minute analysis of each of the judicial decisions thus cited. The Department, however, accepts the enunciation of principle, quoted from the decision in *Chirac v. Chirac*, "that a right once vested does not require, for its preservation, the continued existence of the power by which it was acquired;" and that "if a treaty or any other law, has performed its office by giving a right, the expiration of the treaty or law cannot extinguish that right." The Department has already observed, in its reply to Viscount

労働者ノ種類及本令施行ニ關スル細則ハ内務大臣之ヲ定ム

第二條 前條第一項但書ニ違背シタル者ハ百円以下ノ罰金ニ処ス

附 則

第三條 本令ハ明治三十二年八月四日ヨリ施行ス

第四條 明治二十七年勅令第三百三十七号ハ本令施行ノ日ヨリ廃止ス

三三七 二月十七日 在米國珍田大使ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

加州問題我弁駁書ノ追加覚書ニ對スル米國政府

ノ覚書電報ノ件

附 記 右米國政府ノ覚書訳文

No. 228

# Aide-Memoire

Viscount Chinda's Aide-Memoire is presented apparently in pursuance of the telegram received on June 30th from the Imperial Minister for

Chinda's note of the 4th of June, and now repeats, that it does not doubt that full protection will be extended by the Courts to all vested rights of property.

So far as the Aide-Memoire relates to rights secured by the existing treaty of 1911, the Department may again recur to the fact that by Section 2 of the California Statute, it is provided that aliens not eligible to citizenship under the laws of the United States "may acquire, possess, enjoy and transfer real property or any interest therein in this State in the manner and to the extent and for the purposes prescribed by any treaty now existing between the Government of the United States and the nation or country of which such alien is a citizen or subject." As this Clause in express terms requires the recognition of any rights secured by existing treaty, it is not to be assumed that any right so secured would not be fully protected.

The Aid-Memoire, however, appears to extend too far the theory that the ownership of property carries with it a vested right to dispose of such



property in all the way in which property may be transferred, by sale, by gift, by devise or by descent, without future limitation or restriction. Such a theory would render it impossible for a country to alter its laws with regard to the transmission of property. So far as the Department is advised, it has never been held that a right of ownership, vested either in a citizen or in an alien, would be impaired by a change in the law, denying to any and all aliens the right to purchase lands. Such changes in the law have not been infrequent either in the United States or elsewhere, and it is believed that they have not been held to impair vested rights. If such rights are not impaired by forbidding alienation or transmission to all aliens, they are obviously not impaired by the prohibition of alienation or transmission to particular classes of aliens. Attention may be in this relation drawn to numerous treaties between the United States and other Powers by which it is provided that where, on the death of the owner, real estate in the territories of the one Power would descend upon a citizen of the other who is disqualified by alienage from taking, the latter shall be allowed a

a few cases, perhaps not more than two or three, has alien ownership been conceded by means of a most-favored-nation clause. With these exceptions the right of alien ownership has been secured only special treaty stipulations with the result that the citizens of countries not having such treaty with the United States were unable to enjoy the right of ownership.

In this relation the Aide-Memoire quotes from Moore's Digest of International Law, Vol. 6, page 702, a summary to the effect that "a Mexican statute discriminating against citizens of the United States and other aliens in respect to the capacity to hold real estate in Mexico is in conflict with the treaty of 1831".

The department desires to deal with the subject to which the foregoing summary relates, as it does with all other matters, with entire candor. The Aide-Memoire correctly states that the treaty of 1831 contains no express provision on the subject of ownership of lands and that the most-favored-nation clause which it contains relates only to commerce and navigation and to certain other

period, varying according to the stipulations of the treaties, to sell the land and withdraw the proceeds. These stipulations clearly recognize the fact that the right of ownership is not regarded as carrying with it an unlimited and unalterable right of disposition or descent.

The Aide-Memoire, recurring to the "spirit and intent" of the existing treaty rather than to its particular stipulations, maintains that the provisions of California statute discriminates against Japanese subjects "in a matter in which, internationally speaking, aliens are usually placed on national or most favoured nation footing." The Department regrets that it is unable to admit that the assumption here made is well founded. Without entering minutely into an examination of conventional stipulations, the Department desires to point out that alien ownership of land has seldom been treated in the practice of the United States as a matter of most-favored-nation treatment. The most-favored-nation clauses in the treaties of the United States have almost universally related to matters of commerce and navigation. In only

matters in which holding of real estate is not included. Nevertheless, the Government of the United States then essayed to make same argument which is now so strongly urged in behalf of the Imperial Government, but was in the end obliged practically to abandon it. The facts are as follows:

The remonstrance or protest of the United States related to certain Mexican laws restricting the right of alien ownership of lands and particularly to the law of July 20, 1863 which contains the following article:

"2. Any inhabitant of the Republic has the right to denounce up to two thousand five hundred hectares, and no more, of public lands, with the exception of the natural born and naturalized citizens of nations adjoining the republic who, by no title whatever, can acquire public lands in the States bordering the said Nations".

That this Department on the occasion in question went the full length of the present Japanese contention is conclusively shown by the text of its instruction dated June 23, 1879, which reads as follows:

"The discrimination in this respect between those citizens and other foreigners, is still believed to be invidious, unnecessary, at variance with the treaty and quite incompatible with those friendly relations which the obvious interest of both countries requires should be maintained between them.

"The Mexican law of 1863 is specially invidious toward citizens of our border States, because it practically discriminates against them by name, and thereby stigmatizes them as unworthy to have privilege of holding real estate. This stigma can not be acquiesced in by this Government, which does not admit the right of any foreign power to discriminate between citizens of different States of this Union, who can only be known abroad as citizens of the United States. It may be said that the treaty of 1831 does not expressly confer upon citizens of parties the right to hold real estate in their respective territories, nor does it provide for an equality of rights in that respect between Mexicans and our own citizens. Although the equality between citizens of the United States and other foreigners in Mexico is by the 2nd and 3rd

Government on this subject will be so changed as to free it from the serious objections which have been pointed out."

The position of the Mexican Government was set forth in a note of its Minister for Foreign Affairs to the Minister of the United States in Mexico, dated May 26, 1879, which reads as follows:

"Having informed the President of the Republic of the contents of this note, by his direction I have the honor to make following reply:

"The right which a sovereign state has to concede or refuse to foreigners the privilege of acquiring real estate in its territory is indisputable and universally recognized, as well as to establish a limit to this right when it has been conceded. In the use of that right, in exercise of its sovereignty, Mexico has issued different laws upon the subject, among them that of the 11th of March 1842 which on permitting foreigners established and resident in the Republic to acquire and possess city and rural property in the territory, made exceptions of those departments adjoining or fronting other nations, determining that in these,

Articles of the Treaty literally restricted to matters of commerce and navigation, it may also fairly be construed to include a like equality in the privilege of acquiring and holding real estate. It cannot be doubted that if the construction now claimed had been anticipated, it would have been thwarted by an explicit provision. There is believed to be no such discrimination against Mexican citizens in any law in this country. There may be at least one effect of the Mexican act of 1863, which may have escaped the attention of that Government. Both the Treaty of Guadalupe Hidalgo and the Gadsen treaty guarantee to those Mexican citizens in the ceded territories who might become citizens of the United States, their full rights of property in those territories. It is understood that many of those persons were owners of real estate in the border Mexican states. The effect of the law adverted to may be to confiscate that property while the title to that of those in Texas or elsewhere who were formally Mexicans is guaranteed to them by Treaty. It is hoped, therefore, that the policy of the Mexican

foreigners could not acquire real estate without express permission from the Government; and that of the 20th of July 1863, which prohibits native or naturalized citizens of the adjoining countries to acquire public lands in the State of the Republic bordering on those countries.

"Mexico, upon issuing these laws, has not infringed the stipulations of Art. 3rd of the treaty of 1831, nor has it violated the spirit which prevails in that convention, because nothing is established in them which should be considered as contrary to the liberty, privileges and security guaranteed to North American citizens in order that they may go with their vessels and cargoes to any market, port or river of the Republic to which other foreigners are admitted, nor are said citizens prevented from renting houses and warehouses for the purposes of their commerce, nor are they prevented from dealing in all kinds of products, manufactures and goods, nor are they obliged to pay higher duties, imposts or emoluments than are paid by the citizens of the most favored nations, nor is there anything, in a word, conceded

to the latter with respect to navigation and commerce which is denied to North American citizens.

"On the other hand, the equality of privileges, exemptions and rights with the most-favored-nations, stipulated with the United States in Art. 3rd of the treaty of 1831 refers to navigation and commerce; but although it should extend to another subject (*capitulo*), that equality should be understood to be under circumstances also equal, and with reference to the acquisition of lands in the frontier States, it cannot be sustained that the United States which adjoin Mexico are in the same condition as the nations of Europe or of South America, for instance.

"I should at the same time call the attention of Your Excellency to the exception contained in the law of July 20th, 1863, which is the most pre-emptory disposition referred to by the clause of the contract which gave rise to this note, which should not be considered as referring exclusively to the citizens of the United States, as it also comprehends those of the neighboring Republic of Guatemala, having the same conditions of bound-

probable that no reply will be made thereto, neither have we any reason to expect that the policy of Mexican Government on the subject will be changed, as a result of the protest you have directed me to make."

The forecast of the American Minister proved to be correct and the remonstrance of June 23, 1879, remained unanswered. The law also remained unaltered.

The Aide-Memoire expresses the belief that the present instance is the first one in which a Power, being a party to a reciprocal commercial treaty guaranteeing most-favored-nation treatment "in all that concerns commerce and navigation", has ever been placed by the other contracting party at a disadvantage, as compared with non-treaty countries, "in matters which, in the treaty, are made the subject of reciprocal concessions". This passage seems to blend two questions which are by no means interdependent. As is observed in the Department's note of the 16th, instant, if the contracting parties have dealt with a certain subject by means of an express recip-

ary with Mexico; hence there is not nor can there be any justifiable motive for the Government of the United States to consider the prohibition established by the aforesaid law as an exclusion injurious to its citizens, and which refers to the nations bordering on the Republic."

It was in reply to this exposition of the law by the Mexican Government, which had been called forth by previous representations on the part of the United States, that the instructions above quoted, of subsequent date, were sent. They were duly communicated to the Mexican Government. On August 20, 1879, the Minister of the United States in Mexico wrote to the Department as follows:

"On the 17th ultimo, I communicated to the Mexican Foreign Office in a note of that date the substance of your dispatch No. 646, of June 23rd, relating to the prohibition to citizens of the United States from acquiring real estate and public lands in the Mexican border States.

"Up to this date I have received no acknowledgment of my note and I regard it as highly

rocal agreement, it is hardly open to either party to assert that the adjustment thus made is not fair and equal, or that it is open to objection because it falls short of most-favoured-nation treatment.

In the animadversion of the Aide-Memoire upon discriminatory legislation the Department desires to express a general concurrence. It must, however, be admitted that discriminations of one kind or another very widely prevail and that it is often necessary to deal with them in a tolerant spirit in order that greater causes of irritation may be avoided. Perhaps in no case is it more essential to take this moderate view than in that of the ownership of lands.

The Aide-Memoire quotes a resolution of the House of Representatives of the United States on December 13, 1911, calling for the termination of the then existing commercial treaty between the United States and Russia, because of the refusal of the Russian Government, as the resolution declared, to admit American Jews generally to that country. This resolution, it may be observed, was

never communicated to the Russian Government and never assumed international character. The passage quoted in the Aide-Memoire does not appear in the resolution adopted by Congress; and notice was, as the Aide-Memoire correctly states, given to Russia of the intention to terminate the treaty on the ground that it was "no longer fully responsive, in various respects, to the needs of the political and material relations of the two countries". The treaty was subsequently terminated, but, with this exception, the previous conditions continue and the discrimination complained of remains unchanged.

The Aide-Memoire refers to the California statute as discrimination against Japanese subjects "in the matter of ownership of lands and houses". The distinctions on this subject have been pointed out in the Department's Note of 16th instant in which the meaning and effect of the clauses of the existing treaty are fully set forth. It may be repeated that the statute contains no discrimination against Japanese subjects as such, but applies equally to all aliens not eligible to

treaty-making power, and that provisions of treaties on the subject has been upheld by the courts.

The Aide-Memoire quotes from an instruction of this Department of March 5, 1875, in which the Secretary of State of the United States declared, in a case arising in Brazil, that the Imperial Government at Rio de Janeiro must be held accountable for any injury to the person or property of a citizen of the United States committed by the authorities of a Province. The Department is not disposed to question correctness of this view, but would call attention to the fact that, in the instruction referred to, the statement was made that, as the Governors of the Provinces in Brazil were appointed by the Imperial Government, "the latter may be regarded as specially responsible for their acts in all cases where the law of nations may have been infringed, and justice may be unobtainable through the courts."

As is stated in Department's note of the 16th instant, the subjects of His Imperial Majesty will find in the courts of the United States, in the

citizenship.

The Department, following the example of Aide-Memoire, has forborne to enter into the discussion of various and sometimes intricate questions affecting corporations as compared with individuals. These are questions peculiarly appropriate for judicial examination; for, while it is held that a corporation is a "citizen" of, or has its "domicile" in, the State by which it was created, even though a majority of its stockholders may be citizens of other States or countries, yet these are matters more or less of legal regulation, and the rights, privileges and immunities of corporations are by no means coextensive in all matters with those of natural persons.

The Aide-Memoire refers to a suggestion that the question of alien ownership of land in the several States of the United States is beyond the reach of the treaty-making power. The Department desires only to say that such a suggestion has not come from the Government of the United States. The Aide-Memoire is correct in its statement that this subject has been dealt with by the

manner provided by the Constitution of the United States, full protection for all their legal rights, held under treaty or otherwise, and this Government will stand ready at all times through its proper officials, to use its good offices to secure the prompt and efficacious determination of such suits. Such appears to be proper and feasible course in the present matter, in which questions of various kinds may arise, in respect of which it is scarcely possible to forecast the appropriate forms of action. The courts of the United States as is well-known, deal only with actual questions, with actual infractions of rights, and not with infractions merely mooted or apprehended.

The California School Case and Horcon Ranch Case presented questions of a different order from those now under consideration. In the California School Case a single and actual treaty question, not relating to a matter of property, had arisen, and was ready for adjudication. In Horcon Ranch Case, a suit in equity was brought by the Government of the United States against an irrigation company for the purpose of preserving an inter-

national boundary to which the United States was directly a party. The United States is no doubt interested in the maintenance of all its treaties; but, as the numerous adjudicated cases cited in the Aide-Memoire clearly show, questions concerning private titles to land, whether such titles be assured by treaty or not, are adjudicated upon the suit of the parties in interest, without any interposition on the part of the Government of the United States.

Not only is this the practice, but it is greatly to the advantage of individual suitors that it is so. As Governments not infrequently differ in interpretation of treaties, the private individual, if dependent for judicial protection upon the motion of the Government within whose jurisdiction he asserts that his treaty rights are denied, might be deprived of an effective remedy altogether, in case that Government should hold that the treaty was not violated. Moreover, the individual suitor, in presenting his arguments and allegations, is not restrained by the responsibility which necessarily attaches to the declarations and contentions

of an immediate party to the international compact. His dependence upon the action of such a party would hamper his efforts and diminish opportunity for redress.

For these reasons judicial defence of private rights, and particularly of rights of private property, even where they may have vested under a treaty, is left to the suit of the individuals concerned. In the present instance, however, this Government has offered to go beyond the usual practice and to use its good offices to facilitate the progress of judicial procedure, out of deference to the susceptibilities of a friendly Power to whom this Government wishes ever to be bound by the closest ties of amity and respect.

Department of State,  
Washington, July 16, 1913.

China

(附記)

加州問題我弁駁書ノ追加覚書ニ対スル米國政府ノ七月十六日附覚書訳文

珍田子爵ノ覚書ハ明カニ六月三十日帝國外務大臣ヨリ接受

セラレタル電報ニ基キ提示セラレタルモノナリ該電報ハ加州ニ於テ日本人ノ現ニ所有スル土地ノ大部分ハ現行條約ノ実施期日タル千九百十一年七月十七日以前ニ取得セラレタルモノナル旨ヲ説述シ進テ「シラック対シラック」事件及其他ノ事件ニ関スル合衆國高等法院ノ判決例ヲ引證シ是等ノ判決例ハ日米旧條約有効期間中合衆國內ニ於テ日本臣民ノ取得シタル財産上ノ權利ヲ確保スルモノタル旨ヲ主張セルモノナリ

國務省ハ覺書ノ例ニ倣ヒ右引證ニ係ル各種判決例ニ関シ細密ナル解説ヲ試ムルコトハ姑ク之ヲ避ケ茲ニハ唯「シラック対シラック」事件ノ判決例ヨリ援用セラレタル「一旦取得セラレタル權利ハ之カ存続ノ為メ其權利ヲ付与シタル權原ノ繼續的存在ヲ必要トセス」トノ原則及「若シ條約又ハ法令ノ効果トシテ一旦權利ノ取得ヲナシタルトキハ該條約又ハ法令ノ廢棄ニヨリ該權利ノ消滅ヲ来ス事ナシ」トノ原則ノ宣明ヲ容認スト言ハント欲ス此点ニ関シテハ國務省ハ珍田子爵ノ六月四日附覚書ニ対スル回答ニ於テ既ニ説述スル処アリシモ尚財産上ノ凡テノ既得權カ我裁判所ニ於テ充分ナル保護ヲ受クヘキハ國務省ノ信シテ疑ハサル所ナル旨ヲ今茲ニ再言スルモノナリ

千九百十一年ノ現行條約ニヨリ保證セラルル權利ニ関シ覺書ニ記述セラレタル点ニ付テハ國務省ハ加州新土地法第二條ニ於テ「合衆國國法ニ依リ帰化シ得サル外國人ハ合衆國ト當該外國人ノ本國間ニ締結セラレタル條約ノ指示スル方法、範圍及目的ニ依リ加州ニ於テ不動産若ハ不動産上ノ各種權利ヲ取得、保有、使用及讓渡スルコトヲ得」トノ規定ヲ存スルノ事實ニ重テ言及セサルヲ得ス該條ハ明確ナル措辭ニヨリ權利ノ承認ハ都テ現行條約ノ保障ニ基クコトヲ要求スルカ故ニ苟モ條約ニ依リ保障セラレタル權利ニシテ充分ナル擁護ヲ受ケサルヘシトノ推定ハ斷シテ来リ得ヘカラスト信ス

然レトモ覺書ニ於テハ財産所有權ハ必スヤ其財産ヲ売却、贈与、遺贈、相続等如何ナル方法ニ依リテモ処分スルノ既得權ヲ随伴スルモノニシテ此既得權ハ将来ニ亘リ何等ノ制限拘束ヲ受クヘキモノニ非ストノ理論ヲ拡充セラルル事其度ヲ逸スルモノアルカ如シ如斯理論ニ從ハンカ一國カ財産ノ移転ニ関シ其法律ヲ變更スルハ不可能事タルニ至ルヘシ國務省ノ知ル限リニ於テハ所有權カ其内國人又ハ外國人ノ執レニ付与セラレタルニ論ナク法律ノ變更ニヨリ一部又ハ全部ノ外國人ニ土地ノ購買ヲ禁スルニ至リタル為メ未タ嘗

テ右ノ所有權ニ侵害ヲ及ホシタリト看做サレタルコトナシ  
如此法律ノ變更ハ由來合衆國及其他ノ諸國ニ於テ決シテ  
稀有ノ事ニ非スル變更ノ既得權ヲ侵害スルモノニアラス  
トハ一般ニ信セラルル所ナリ既ニ凡テノ外國人ニ對シ讓与  
移轉ノ權利ヲ拒否スルモ尚既得權ノ侵害ニ非ストセハ或種  
ノ外國人ニ對シ同様ノ權利ヲ禁止スルモ亦既得權ノ侵害  
ナリト言フヲ得サルヤ明ナリ此ノ点ニ關シテハ特ニ合衆國  
ト諸外國間ノ幾多ノ條約ニ關シ注意ヲ喚起セサルヘカラス  
即チ此等諸條約ニ依レハ締約國ノ一方ノ領土ニ在ル不動産  
カ其所有者ノ死亡ニヨリ他ノ締約國ノ人民ニ歸屬セントス  
ル場合アリトシ而モ該不動産所在地ノ法律ニヨリ其人民ハ  
外國人タルノ故ヲ以テ之ヲ取得スルノ能力ヲ有セサル場合  
ニ於テハ該人民ハ條約ノ取極ニヨリテ差違アルヘキ一定ノ  
期間内ニ於テ其土地ヲ売却シ其代金ヲ取得スヘキ事ヲ規定  
セラル是等ノ規定ニ徴スルモ所有權ハ其処分又ハ相統ニ關  
シ必シモ無限且不変ノ權利ヲ伴フモノニ非ルノ事實ヲ確認  
スルニ難カラサルナリ

覺書ハ現行條約ノ明文ヨリモ寧ロ其「精神」ニ依賴シ加州  
新土地法ノ規定カ「國際關係ニ於テ外國人ニ与フルニ内國  
人又ハ最惠國人民ト同一待遇ヲ以テスルヲ通則トスル事項

ナリ覺書カ千八百三十一年ノ條約ハ土地所有ノ問題ニ關シ  
何等明確ノ規定ヲ存セス又其規定スル最惠國民待遇ノ條款  
ハ單ニ通商航海及他ノ不動産所有ノ問題ニ關係ナキ或種ノ  
事項ニ關スルモノナル旨ヲ記述セルハ正ニ事實ヲ誤ラサル  
モノナリ然レトモ合衆國政府ハ當時之ニ對シ恰モ帝國政  
府ノ今日強硬ニ主張セラルルト同一ノ論弁ヲ試ミタルモ結  
局其主張ヲ事實上拋棄スルノ已ムヲ得サルニ至レルナリ其  
事歴下記ノ如シ

當時合衆國ノ提出セル抗議ハ墨國ニ於テ外國人ノ土地所有  
權ヲ制限セル或種ノ法律竝ニ特ニ左記ノ條項ヲ有セル千八  
百六十三年七月二十日ノ法律ニ關聯セルモノナリ

共和国(墨西哥)ニ在住スル者ハ何人タルヲ問ハス式千  
五百「ヘクタール」ヲ超ヘサル範圍ニ於テ官有地ヲ取得  
スルコトヲ得但シ共和国ニ接壤セル國ニ出生又ハ歸化セ  
ル人民ハ如何ナル名義ニ依ルニ拘ラス右接壤國ニ隣接ス  
ル墨國內ノ諸州ニ於テ官有地ヲ取得スルヲ得ス

其當時國務省カ恰モ今回日本政府ノ提起セラレタルカ如キ  
論弁ノ全幅ヲ提ケテ之ニ臨ミタルハ千八百七十九年六月二  
十三日附國務省訓令ノ文面ニ徴シ明ナリ即チ左ノ如シ

上記ノ合衆國人民ト他外國人民間ニ此種ノ區別ヲナスハ

ニ關シ日本臣民」ニ對シ不利ナル區別待遇ヲナスモノナリ  
ト主張スルモ國務省ハ遺憾ナカラ右ノ断定ヲ以テ正當ノ理  
由アルモノト看做スヲ得ス條約上ノ規定ニ對シ細密ノ調査  
ヲ試ムルハ姑ク之ヲ擱キ茲ニハ只タ國務省ハ外國人土地所  
有ノ問題カ最惠國民待遇ノ事項トシテ取扱ハレタルハ合衆  
國ノ慣行上稀有ニ屬スルノ事實ヲ指摘スルニ止メント欲  
ス合衆國ノ條約中最惠國民待遇ノ條項ハ殆ト總テノ場合ニ  
於テ通商及航海ノ事項ニ關ス唯僅少ノ場合(恐ク二又ハ三  
ヲ出テス)ニ於テ最惠國約款ニ依リ外國人ニ土地ノ所有ヲ  
許シシタル事ナキニアラサルモ如此ハ例外ニ屬シ通例外國  
人ノ土地所有權ハ特殊ノ條約規定ニヨリ保障セラレタリ故  
ニ合衆國ト如此條約關係ヲ有セサル國ノ人民ハ土地所有權  
ヲ享有スル能ハサルノ結果ヲ伴フハ當然ナリトス

此点ニ關シ覺書ハ「モータ」氏國際法規彙纂第六卷第七〇  
二頁中「墨國ニ於ケル不動産所有ノ能力ニ關シ合衆國人民  
及他ノ外國人ニ不利ナル差別的待遇ヲ与フル墨國ノ法律ハ  
千八百三十一年ノ條約ニ抵触スルモノナリ」トノ概論ヲ援  
用セリ

國務省ハ他ノ總テノ論点ニ對スル場合ト等シク右概論ノ關  
スル問題ニ就キ充分率直ニ解説スル所アラント欲スルモノ

當ニ嫌忌スヘク且不必要ナルノミナラス條約ニ抵触シ且  
ツ兩國ノ明白ナル利害ニ鑑ミ常ニ兩國間ニ維持セラルル  
ヲ要スヘキ友交的關係ト全然兩立セサルモノナリ

千八百六十三年ノ墨國法律ハ接壤諸州ノ我人民ニ取り特  
ニ嫌忌スヘキモノニ屬ス該法律ハ右諸州ノ人民ヲ指定シ  
テ之ヲ區別シ是等人民ヲ以テ不動産所有ノ特權ヲ与フル  
ニ足ラサルモノト極印スルモノニシテ我政府ハ斷シテ如  
此極印ヲ容認スルモノニアラス何トナレハ當共和国ノ各  
州ノ人民ハ對外關係ニ於テハ一ニ合衆國人民トシテ認識  
セラルヘキモノニシテ何レノ外國ニ對シテモ我政府ハ決  
シテ州ノ如何ニヨリ當國人民ヲ區別スルノ權利ヲ認ムル  
モノニアラサレハナリ或ハ言ハン千八百三十一年ノ條約  
ニハ締約國ノ人民ニ對シ互ニ他ノ一方ノ領土内ニ於テ不  
動產ヲ所有スルノ權利ヲ附与シタル明文ナク又該事項  
ニ關シ墨國人民ト我人民トノ間ニ同等ノ權利ヲ認ムルノ  
規定ナシト然レトモ單ニ條約第二條及第三條ノ字句ヲ以  
テセハ墨國ニ於ケル合衆國人民ト他外國人民トニ同等ノ  
待遇ヲ与フヘキハ通商及航海ノ事項ニノミ局限セラレタ  
ルカ如シト雖モ不動産ノ取得及所有ノ特權ニ關シテモ亦  
如上同等ノ待遇ヲ与フヘキモノトノ解釈ハ正當ノ理由ア

ルモノト言ハサルヘカラス何トナレハ若シ始メヨリ前記ノ如キ狭義ノ解釈ニシテ豫見セラレンカ我政府ハ必ス明文ヲ以テ之ヲ阻止シタルヘケレハナリ当国ノ法律ニ於テハ墨国人民ニ対シ決シテ如此區別の規定ナキヲ信ス千八百六十三年ノ墨国法律ノ効果中同国政府ノ注意ヲ逸シタルカ如キモノ少クトモ一アリ即チ「グアダループ、ヒダルゴ」條約及「ガドセン」條約ノ兩者ハ共ニ墨国ヨリ合衆國ニ割譲セル土地ニ於ケル墨国人民ニシテ将来合衆國人民ニ転スルノ運命ヲ有スルモノニ対シ右割譲地域内ニ於ケル財産上ノ完全ナル權利ヲ保障セリ而シテ是等人民ノ多数ハ接境墨国諸州ニ於テ不動産ノ所有者タリシヲ以テ元墨國人タリシモノカ「テキサス」其他ノ場所ニ於テ享有セル財産ハ前記條約ニヨリ保障セラルルニ拘ラス右墨国法律ノ効果ハ前記接境墨国諸州ニ於ケル財産ヲ褫奪セントスルノ奇觀ヲ呈スルモノナリ是ヲ以テ我政府ハ墨国政府カ此問題ニ関スル政策ヲ變更シ前段指摘セルカ如キ重要ナル故障ヲ除却センコトヲ希望セサルヲ得サルナリ

墨国政府ノ態度ハ其外務卿ヨリ在墨米国公使ニ宛テタル千八百七十九年五月二十六日附ノ書面中ニ記述セラレタリ即

國人ニ許サレタル墨国内ノ市場港湾河川ニ来往スル事ニ関シ同国人民ニ対シ保障セラレタル自由、特權、保護ニ違反スルモノト解釈セラルヘキ何等ノ規定ヲ設ケタルモノニアラス又該国民カ商業ノ目的ノ為メ家屋及倉庫ヲ賃借スルヲ妨害シタルモノニ非ス又該国民カ各種生産物、製造品又ハ貨物ヲ売買スルヲ禁シタルモノニ非ス又該国民ニ対シ最惠國人民ノ支払フ以上ノ關稅、課金又ハ報酬ヲ要求シタルモノニ非ス約言セハ通商及航海ノ關スル限り最惠國人民ニ許シタル何物ヲモ合衆國人民ニ拒否セントシタルモノニ非レハナリ

而シテ又千八百三十一年合衆國ト締結シタル條約第三條ノ規定中特權、免除及權利ニ関シ最惠國人民ト同一ノ待遇ヲ保障シタルハ単ニ通商及航海ノ事項ニ関スルノミナリ仮リニ一歩ヲ譲リ他ノ事項ニ之ヲ補充シ得ヘシトナスモ右同一ノ待遇ハ常ニ同一ノ情態ノ下ニ於テノミ之ヲ与ヘラルルモノト解釈セラルヘキモノニシテ從テ邊疆諸州ニ於ケル土地ノ取得ニ関シ墨国ト境ヲ接スル合衆國ヲ以テ仮令ハ歐洲又ハ南米諸國ト同一情態ノ下ニアリトナスハ首肯シ難キ所ナリトス

之ト同時ニ本官ハ千八百六十三年七月二十日ノ該法律ニ

チ左ノ如シ

本官ハ貴翰ノ趣ヲ共和国大統領ニ申報シ其命ヲ奉シ茲ニ次ノ如ク回答スルノ光榮ヲ有ス

國家カ外國人ニ対シ其領土内ニ於ケル不動産取得ノ特權ヲ附与又ハ拒否シ茲ニ仮令一旦附与シタル時ト雖モ其權利ノ行使ニ関シ制限ヲ設クルノ權力ヲ有スルハ論争ノ余地ナク一般ニ認識セラルル所ナリ墨国ハ上記ノ國權ヲ運用シ本件ニ関シ区々ノ法律ヲ發布セリ就中千八百四十二年三月十一日ノ法律ハ墨国ニ定著居住セル外國人ニ対シ墨国ニ於テ市内又ハ市外ノ財産ヲ取得又ハ所有スルヲ許容セルト共ニ外國ト接境セル諸州ニ於テハ外國人ハ政府ヨリ特別ノ許可ヲ受クルニ非レハ不動産ヲ取得スル事ヲ得サルノ例外ヲ設ケ又千八百六十三年七月二十日ノ法律ハ接境ノ外國ニ出生又ハ帰化セル人民ニ対シ是等諸國ニ接壤セル墨国内諸州ノ官有地ヲ取得スル事ヲ禁止セリ

墨国ハ如此嚴密ナル法律ヲ發布シタリト雖モ之カ為メ千八百三十一年ノ條約第三條ノ規定ニ違背シタルコトナク又該條約ノ精神ニ悖戾シタルコトモナキナリ何トナレハ該法律ハ北米合衆國人民カ其船舶又ハ貨物ヲ以テ他ノ外

規定セル除外例ニ就キ閣下ノ注意ヲ喚起セント欲ス該除外例ハ本書ノ起草ヲ誘起シタルモノニシテ最モ端嚴ナル性質ヲ有スルモ右ハ必シモ合衆國人民ニノミ関スルモノニ非スシテ均シク墨国ト接壤スル「グアダマラ」共和国ノ人民ヲモ意味スルモノナリ如此該法律ニ規定セラレタル禁令ハ墨国ニ接境スル凡テノ國民ニ適用セラルルモノナルヲ以テ合衆國政府カ之ヲ以テ特ニ自國ノ人民ニ対シテノミ有害ナル排斥ヲナスモノナリト看做スハ何等正當ナル論拠ヲ有セス又有シ得ヘカラサルモノナリ

上記墨国政府ノ同國法律ニ関スル弁明ハ之ニ先チ合衆國ノ提出シタル抗議ニ対スルモノニシテ曩ニ掲ケタル合衆國國務省ノ訓令ハ上記弁明ニ対スル回答トシテ其後發送セラレタルモノニシテ該訓令ハ千八百七十九年八月二十日ヲ以テ正ニ墨国政府ニ送致セラレタリ其後駐墨米国公使ハ下ノ如ク國務省ヘ稟報セリ

去月十七日本官ハ同日附書面ヲ以テ合衆國人民ニ対シ墨国接境州ニ於テ不動産及官有地取得禁止ノ件ニ関スル六月二十三日附貴信第六四六号ノ内容ヲ墨国外務省ニ申入レタリ

本日ニ至ル迄右書面ニ対シ単ニ受領セル旨ノ挨拶ニモ接



セス右ニ対シテハ遂ニ何等ノ回答モ来ラサルコト殆ト疑ナシ又墨国政府ノ本問題ニ関スル政策ハ貴命ニヨリ提示シタル我抗議ノ結果トシテ変更ヲ加ヘラルヘント期待スヘキ何等ノ理由ヲモ有セサルナリ

米国公使ノ前記豫言ハ的中シテ千八百七十九年六月二十三日ノ弁駁書ハ遂ニ何等ノ回答ニ接セス而シテ該法律ハ依然何等ノ変更ヲモ加ヘラレサリシナリ

覚書ハ「通商及航海ニ関スル一切ノ事項ニ付最惠国條款ヲ有スル相互の通商條約ノ締結国タル一方カ当該條約ニ於テ交譲ノ主題トセル事項ニ関シ訂約国ノ他ノ一方ニヨリ無條約国ヨリモ更ニ不利ナル地位ニ置カルルハ」今回ヲ以テ嚆矢トナスト信スル旨ヲ述フルモ右ノ一節ハ互ニ關係ナキ二個ノ問題ヲ混同シタルモノノ如シ七月十六日附國務省書翰中ニ説述セルカ如ク締約国間ニ於テ或問題ニ関シ明文ヲ以テ相互の協定ヲ遂ケタル以上ハ其孰レノ締約国ト雖モ右既定ノ取極ヲ目シ不公平不均等ナリト断論スルノ理由ヲ有シ得ヘキ筈ナシ又右取極カ最惠国民待遇ノ程度ニ達セサルノ故ヲ以テ俄ニ之ニ対シテ異議ヲ唱ヘ得ルノ理由モ亦コレアルヘキニアラサルナリ

区別的立法ニ関シ覚書ノ加ヘタル評論ニ対シテハ國務省ハ

覚書ハ加州新土地法ヲ以テ「土地及家屋ノ所有權ニ関スル事項ニ付キ」日本臣民ニ対シ不利ナル区別的待遇ヲ与フルモノナリトナスモ國務省ハ本月十六日附書翰ニ於テ仔細ニ現行日米條約ノ諸條項ノ意義及効果ヲ説明シ本問題ニ関シ識別ヲ要スヘキ点ヲ十分指摘セルヲ以テ茲ニハ單ニ該加州法ハ日本臣民ニ対シ如此区別的待遇ヲナスモノニ非ス市民トナリ得サル凡テノ外國人ニ対シ一様ニ適用セララルモノナル旨ヲ再言スルニ止メント欲ス

國務省ハ覚書ノ例ニ倣ヒ会社ト個人トノ比較ニ関スル多種ニシテ且ツ時ニ錯雜セル問題ノ論議ニ入ルヲ避ケタリ是等ノ問題ハ裁判所ニ於テ審議セラルルヲ適當トスル特殊ノ性質ヲ有ス蓋シ会社ハ其株主ノ大部分カ他州若ハ外國ノ市民タル場合ニ於テモ尚該会社ノ設立セラレタル州ノ市民若クハ其州ニ住所ヲ有スルモノナリト解釈セラルルモ斯ノ如キ事項ハ要スルニ法律ニ依テ定メラルヘキ問題ニシテ会社ノ權利特權及ヒ免除ハ決シテ凡テノ事項ニ関シ自然人ト同一ノ範圍ヲ有スルモノニ非サルナリ

覚書ハ合衆国内各州ニ於ケル外國人土地所有問題ハ條約締結權ノ範圍以外ニアリト唱フル者アルコトヲ引照セルモ右ニ対シテハ國務省ハ單ニ斯ノ如キ説ハ合衆国政府ヨリ出テ

大体ニ於テ賛意ヲ表セント欲スルモノナリ去リ乍ラ立法上時ニ多少ノ区別的待遇ヲ設クルハ世間普ク行ハルルノ事例ニシテ此問題ヲ処理スルニ當リテハ更ニ重大ナル刺戟ノ原因ヲ避ケンカ為メ寛裕ノ精神ヲ以テスルヲ必要トスル場合少シトセサルノ事実ヲ記憶セサルヘカラス蓋シ土地所有ニ関スル問題ノ如キ最モ這般穩和ノ見解ヲ以テ遇スルヲ必要トスルモノタラスンハアラサルナリ

覚書ハ露国政府カ米国人タル猶太人ノ入国ヲ一般ニ拒絶シタルノ故ヲ以テ當時存在セル米露間ノ通商條約ヲ廢棄セントスル千九百十一年十二月十三日ノ合衆国下院ニ於ケル決議案ニ言及スル所アリシカ茲ニ注意スヘキハ該決議案ハ未タ嘗テ露国政府ニ通告セラレタルコトナク随テ何等國際的性質ヲ帶フルニ至ラサリシ事はナリ尚覺書ニ引用セラレタル章句ハ合衆國議會トシテ採用シタル決議ニハ嘗テ記載セラレタルコトナク露国政府ニ与ヘタル條約廢棄通告ノ論拠ハ覺書ニ於テ正確ニ記述セラレタルカ如ク該條約ハ「種々ノ点ニ於テ十分ニ兩國ノ政治及実益關係ノ須要ニ応スルニ足ラス」ト言フニアリタリ而シテ該條約ハ間モナク廢棄セラレタルモ右ハ單ニ條約ノ廢棄ニ過キスシテ在来ノ事態ハ依然繼續シ苦情ノ主題タリシ区別的待遇ハ尚何等ノ変更ヲ見サルナリ

タルモノニ非スト言ハンノミ覺書カ本問題カ從來合衆国政府ノ條約締結權ニ依リテ処理セラレタルコト竝ニ斯ノ如キ問題ニ関スル條約ノ條項ハ裁判所ノ支持スル所ナルコトヲ記述セルハ正當ナリトイフヘシ

覚書ハ伯刺西爾ニ於テ發生セル事件ニ関シ合衆国國務長官カ伯国州官憲ノ行為ニ依リ合衆国人民ノ身命又ハ財産ニ及ホセル毀害ニ関シ責任ヲ負フモノハ独リ「リオ、デ、ヂャネロ」ニ於ケル帝國政府ナル旨ヲ聲明セシ千八百七十五年三月五日附ノ國務省訓令中ヨリ何等援用スル所アリタリ國務省ハ右ノ見解ノ正當ナルヤ否ヤヲ疑問トスルノ意ナシ然レトモ右ニ引用セラレタル訓令中ニハ伯刺西爾ニ於ケル各州知事ハ帝國政府ノ任命スル所ナルカ故ニ國際法蹂躪セラレ且ツ裁判所ニ於テ公平ナル判決ヲ得ルコト能ハサル場合ニ於テハ帝國政府ハ常ニ州知事ノ行為ニ対シ時ニ責任アリト看做サレ得ヘントノ記述アルノ事実ニ関シ注意ヲ喚起セシコトヲ欲ス

本月十六日附國務省ノ書翰ニ記述セルカ如ク日本皇帝陛下ノ臣民ハ合衆國裁判所ニ於テ合衆國憲法ノ規定スル方法ニ拠リ條約若クハ其他ニ拠リテ有スル凡テノ適法ノ權利ニ対シ充分ナル保護ヲ享クヘシ而シテ合衆國政府ハ如此訴訟



ヲシテ迅速ニシテ且ツ実効アル決定ヲ得セシメンカ為メ当該官吏ヲ用キテ何時ニモ斡旋ノ勞ヲ取ランコトヲ欲ス如此ハ本件ニ対シテ執ルヘキ適當ニシテ且ツ実行ノ方法ナリト思考セラル蓋シ本件ニ就テハ種々ノ問題發生スヘク且ツ其各個ノ問題ニ関シ如何ナル訴訟ノ形式ヲ以テ適當トナスヘキヤハ殆ント之ヲ豫見スルコトヲ得サレハナリ合衆國裁判所ハ世人ノ周知スル如ク權利ノ現實ナル侵害ヲ伴フ現實ノ問題ノミヲ審理シ單ニ理論上若クハ豫想ノ侵害ニ就テハ之ヲ審理セサルモノトス

加州学童事件及ヒ「ホルコン、ランチ」事件ハ本問題ト其種類ヲ異ニス加州学童問題ニ於テハ單純ニシテ且ツ財産ニ關係ナキ現實ノ條約上ノ問題發生シタルモノニシテ且ツ該事件ハ直ニ裁決ヲ求メ得ルノ状態ニアリシナリ「ホルコン、ランチ」事件ニ於テハ合衆國政府ハ合衆國力直接ニ其當事者ノ一方タル國境々界線維持ノ目的ノ為メニ一灌漑会社ニ対シ衡平法ニ拠ル訴訟ヲ提起シタルモノナリ合衆國ハ其ノ締結セル凡テノ條約ヲ維持スルニ留意スルハ勿論ナリト雖覺書ニ援用セラレタル多数ノ判決例ノ明示スルカ如ク私人土地所有權ニ關スル問題ハ其權利カ條約ニ依リ保障セラレ居ル場合ト否トヲ問ハス合衆國政府ニ於テ何等之ニ關

リスノ如キハ合衆國政府力常ニ親睦及ヒ恭敬ノ至親ナル關係ヲ維持センコトヲ冀テ止マサル友邦ノ自尊心ニ対シ敬意ヲ表セントスルモノタルニ外ナラサルナリ

千九百十三年七月十六日

註 右覺書訳文ハ日本外務省ニ於テ作成シタルモノ

三三八 七月十八日 在米國珍田大使ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

我追加覺書ニ対スル米國政府回答覺書中ニ引用  
セラレタル二点ニ付説明ノ件

第二二九号

往電第二二八号我追加覺書ニ対スル回答書冒頭ニ帝國政府ヨリノ電報ヲ引證シアル処右ハ當時本使ヨリ國務長官ニ「バラフレーズ」ヲ手交シ置キタル貴電第一六六号ヲ指スモノナリ又該回答書ノ後半ニ於テ会社ノ件ニ言及シアルハ六月二十五日附在桑港總領事代理機密各第二五号來信法律家ノ意見書中凡ソ会社ハ其株主過半数ガ外國人タルト否トニ關セス該会社ノ組織セラレタル州ノ市民タルコト竝ニ会社タル市民ト自然タル市民ノ間ニハ區別待遇ヲ為ス可ラ

係スルコトナク利害關係者ノ訴訟ニ依リテ判決セラルルモノタルナリ

斯ノ如キハ實際上ノ慣行ナルノミナラス政府ハ屢次條約ノ解釈ヲ相互ニ異ニスルコトアルヲ以テ如斯慣行アルハ私人タル訴訟提起者ニ取リテモ亦大ニ利益トスル所タラサルヘカラス一私人カ一國內ニ於テ其條約上ノ權利ヲ拒否セラレタリト主張スル場合司法上ノ保護カ其國政府ノ訴訟提起ニ待ツモノトセハ該政府カ條約違反ニアラサルコトヲ主張スル場合ニ於テハ右ノ一私人ハ全然有効ナル救済ヲ得ル能ハサルコトアルヘシ且ツ一私人タル訴訟提起者ハ其論弁及ヒ被害ノ陳述ヲ為スニ當リ國際條約直接當事者ノ為ス声明及ヒ主張ニ必然附随スル責任ニ依リテ拘束セラルルコトナシ故ニ若シ私人ニシテ國際條約ノ直接當事者タル政府ノ起訴ニ依頼スルニ於テハ其結果行動ヲ羈束セラレ救済ヲ得ルノ機會ヲ減少セシムルノ不利益ヲ免カレサルヘシ以上ノ理由ニ依リ私權殊ニ私有財産上ノ權利ニ係ル司法上ノ保護ハ右權利カ條約ニ依リ附与セラレタル場合ト雖都テ關係個人ノ訴訟ニ委セラルルヲ以テ通則トス然ルニ本件ノ場合ニ於テハ合衆國政府ハ普通ノ慣例ヲ超越シ司法手續ノ進行ヲ促進スル為メ斡旋ノ勞ヲ執ルコトヲ提言スルモノナ

サルモノナルコトハ數多ノ合衆國裁判所ノ判決例アル処ナリトノ一節ヲ抄録シテ過般本使一己ノ思付キトシテ提示セシ憲法修正第八十一條ニ關スル法律家ノ意見書ノ追補トシテ本月初「ムアー」氏ニ交付シ当局者ノ反省ヲ促シ置キタルニ対スルモノト認メラル然ルニ右ハ我追加覺書ト全然別個ノモノニシテ單ニ本使限リノ措置ニ過キササルコトハ其節特ニ念ヲ押シ置キタルニ拘ラス今回ノ回答書中ニ言及シタル次第ナリ右ニ御承知アリタシ

三三九 七月十八日 在米國珍田大使ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

加州問題訴訟提起ニ關スル調査ニ付報告ノ件

第二三〇号

貴電第一七五号ニ關シ御來示ノ二件其他本懸案ニ關スル諸法律問題ハ往電第一九〇号ノ Mc Kenney 及曩ニ國務省「ソリシトル」タリシ Clark ニ託シ調査中尙 Mc Kenney ノ推薦ニ依リ「シンシナッチ」ノ Lawrence Maxwell ニモ同様ノ調査ヲ囑託シアリ Maxwell ハ「ハリソン」大統領時代ニ「ソリシトル、ゼネラル」タリシコトアリ法律

家トシテ学識及経験ニ至リテハ差当リ其右ニ出ツルモノヲ得難カルヘシトノコトナリ右諸氏ノ調査ハ当方ヨリ充分督促ヲ加ヘツアリ完成次第電報スヘシ大体ニ於テ貴電第一六五号ノ件ハ幾分カ我ニ有利ナル最近判決例ナキニアラサルモ今日迄調査ノ結果ニ依レハ未タ確信シ得ス何レニモセヨ米国政府自ラ進テ起訴スルノ意嚮ナキハ今回ノ回答書ニ徴シ明瞭ナルカ故ニ結局本問題攻究ノ実益ナキニ至ルヘキヲ虞ル又貴電第一六八号ノ件ハ尠クトモ一部分有力ナル理由アルコト回答書中ニモ認ムル所ナルモ米国政府ノ(理論ニ)依レハ新法律ト私人既得權トハ抵触スルモノニアラス從テ新法律ハ憲法又ハ條約ニ違反スルヲ認メサルヲ以テ右ノ論点ハ米国政府起訴ノ理由トナラス從テ私人ヨリ起訴シテ救済ヲ求ムルノ外ナシト思考スルモノノ如シ本件ニ付テハ本使ハ國務長官ニ對シ十日及十六日会见ノ際反覆論争ヲ努メタルモ同官ハ此論点ヲ以テ米国政府ノ起訴ノ理由トナスヲ得サルコトヲ繰返シタリ

resident and receives from intending purchaser deposit and agreement to pay balance of purchase price upon production of good and valid deed. Broker reports transaction to owner who refuses to execute deed on the ground that Anti-Alien Law makes it impossible for him to give such deed. Intending purchaser thereupon brings action to require owner specifically to perform contract by executing such deed. Another case might be brought in which owner, broker and real estate would be as above and intending purchaser would be a company, association or corporation organized under law of California in which majority of members are Japanese or majority of issued capital stock is owned by Japanese. Foregoing remarks respecting test cases are mere suggestions for your assistance. You will carefully consider the question, taking best legal advice, and report results as soon as possible. Inform Consul-General at San Francisco of foregoing and also of your reply.

Makino

三四〇 七月二十二日 牧野外務大臣ヨリ  
在米国珍田大使宛(電報)

加州土地法ニ関シ條約及憲法兩問題ヲ惹起ス試  
訴提起ノ為ノ準備方訓令ノ件

No. 182

Decision of Japanese Government regarding replies reported in your telegram 227 and 228 will be communicated to you as soon as possible. Meantime you will make necessary arrangements for having private Japanese institute test case or cases raising both treaty and constitutional questions. Strongest case would undoubtedly be one involving question of transmission or inheritance, but in such case, action only possible upon actual death. Suit against Attorney-General of California to restrain him from taking steps to carry Anti-Alien Law into effect, would be sufficient, if such a suit is possible. Following facts would also present strong case: Japanese owner of real estate in California, consisting of land and house duly acquired by such owner prior to July 17, 1911, authorizes broker to sell said real estate. Broker finds purchaser in person of Japanese

三四一 七月二十二日 牧野外務大臣ヨリ  
在米国珍田大使宛(電報)

加州土地法ノ條約違反問題ニ付米国政府ノ決答  
要求ハ不得策ナル件

第一八四号

貴電第二二七号及二二八号ニヨリ米国政府ノ土地法ニ関スル態度ハ最早殆ント此上ノ交渉ヲ重ヌルノ要ヲ余マサス残ルハ単ニ條約違反ノ一点ナルモ此点ニ関シ我ヨリ更ニ彼ニ逼リテ明答ヲ促スハ問題ノ大体ニ鑑ミ果シテ我ニ利益ナリヤ疑ナキ能ハス本件ニ関スル米国政府ノ真意ハ姑ク擱キ未タ嘗テ公然條約違反ニ非スト断言セシコトナキニ今改テ彼ノ決答ヲ促サハ恐ク條約違反ニ非ストイフニ帰着スヘシ而シテ行政府ノ如此明答ハ隱約ノ間大審院ノ裁判上我ニ不利ナル影響ヲ与フルコトアルヘシ本件交渉ノ行掛リトシテハ今日我ヨリ此ノ点ニ関シ彼ノ決答ヲ求ムルハ必然ノ順序ト思考セラルルモ前述ノ理由ニヨリ仮令非公式ノ談話ヲ以テスルモ此際特ニ此点ヲ追究スルハ結局我ニ不利益ヲ招クノ虞アルニヨリ寧ロ此儘ニ附シ置ク方却テ得策ナリト思考スルモ貴官ニ於テ何等御異見アラハ承知致シタシ  
貴電第二二〇号帰化權要求ノ件及帰化ニ関スル起訴ノ件ハ

今少シク考慮ヲ要スヘシ又加州本邦人ノ土地ニ関スル金融ノ件ハ正金銀行ニ於テ絶対必要ノ十五萬弗ヲ限り融通ノコト承諾セリ貴電第二二三号ノ件ハ往電第一八二号ト相須テ取計フコトニイタシタシ

三四二 七月二十四日 牧野外務大臣ヨリ  
在米國珍田大使宛(電報)

米國政府ノ回答ニ對シ弁駁準備中ナル件

第一八六号

往電第一八四号條約違反ニ関スル決答ヲ促スト否トニ拘ラス米國政府今回ノ回答ニ對シテハ兎ニ角弁駁ヲナシ置ク管ニテ目下準備中ナリ為念

三四三 七月二十五日 在米國珍田大使ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法ノ條約違反問題ニ付米國政府ヲ追求

ノ不可並加州問題ノ解決案ニ関シ請訓ノ件

第二三二号

貴電第一八四号ニ関シ條約違反問題ニ付強テ米國政府ヲシ

意見ニ依レルモノナルコトヲ指摘シアルニ乗シ右解決案トシテ往電第二二二号ノ趣旨ニ由リ新協約ノ締結ヲ提議スルコトトシ此提議ハ米國政府ノ提議シタル前記三件ニ代フルノ意ニアラスシテ之ヲ補足スルノ意ナルコトノ説明ヲ適當ト思考スルモ右新協約締結ノ考案御採用ヲ得サルニ於テハ他ニ適當ナル解決案御訓示アリタシ

三四四 八月三日 在米國珍田大使ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

加州問題提訴ニ関シ法律上ノ根拠薄弱ナリトス

別 電 同日珍田大使宛牧野外務大臣宛電報第二三七号

右法律家ノ意見

附 記 加州土地法ニ関スル顧問法律家意見梗概

第二三六号

往電第二三〇号ニ関シ「マクスウェル」ハ七月三十一日当地ニ來リ「マッケンネー」「クラーク」「チーピン」ノ三名ト会合シ二日間ニ亘リテ討議ヲ尽シタル結果法律論トシテハ遺憾ナカラ我主張ノ根拠何レモ薄弱ナリトノ意見ニ一致シタリ先ツ帰化権ニ依リテ私権ノ範圍ヲ異ニスル法制ハ

一 加州ノ外国人士地法案及日本政府ノ抗議關係 三四四

テ其ノ見解ヲ明言セシメンコトヲ求ムルトキハ御來示ノ通り必然同政府ニ於テハ本法ノ條約ニ違反セサルコトヲ声明スルニ至ルヘク假令之カ為特ニ司法裁判ニ不利ナル影響ヲ及ホスノ虞ナシトスルモ今回米國政府ニ於テ損害ヲ補償スルコト及ヒ所有者ノ希望ニ因リ不動産ヲ買収スルコトヲ提議セルハ結局議會ノ協賛ヲ條件トスルモノニシテ此際右声明ハ行政部ニ於テ追テ本案協賛ヲ求ムルニ當リ困難ナル地位ニ陥ルコトアルヘク固ヨリ米國政府ノ提議シタル前記二件及訴訟ノ進行ニ便宜ヲ供スル件ハ我ニ取リテ不満足ナルモ多少利益アリテ何等損スルノ必要ナキノミナラス米國政府ヲシテ之ヲ撤回スルノ口実ナカランモ若クハ実行ニ困難ヲ來サザラシムルコトニ注意スルヲ得策ナリト思考ス將又本使ノ所見ヲ以テスレハ此上條約及法理ノ解釈ニ付當國政府ト論争ヲ重ヌルモ遺憾ナカラ本問題ノ解決ニ歩ヲ進ムル望ナカルヘク尤モ我從來主張シタル論點ハ飽迄之ヲ維持センカ為米國政府過般ノ回答ニ對シテ更ニ弁駁ヲ加フルハ必要ト信スルモ之ト同時ニ今ヤ我ヨリ具体的解決案ヲ提出スル時機ニ達セルモノト認メラル幸ニ米國政府ノ回答中現行條約締結談判ノ歴史ニ言及シ不動産ニ関スル保障ヲ省クハ米國政府ノ主張ニ基キタルニアラスシテ日本國政府ノ

立法論トシテハ穩當ナラサルヘキモ直ニ條約ノ精神ニ違反スルモノトシテ之ヲ法廷ニ争フニ十分ノ勝算アルヲ信シ難ク合衆國憲法ノ解釋論トシテハ多數ノ判決例ヲ精査スルモ之ヲ違憲ノ立法ト論斷スルノ理由ニ乏シキヲ認メサルヲ得ス次ニ我最モ重ヲ措ク相續權問題ニ付テモ不動産ノ相續遺贈ヲ禁スルハ既得權侵害ト論定シ難ク死亡者ノ不動産ヲ売却シテ其代金ヲ相續人又ハ受遺者ニ配与スル制度ハ當國ノ締結シタル多數ノ條約ノ認ムル所ナリ又日米旧條約存続中取得シタル不動産ニ関シテハ第一ニ其相續權ヲ包含セサルハ旧條約中特ニ動産ノミニ付相續ノ規定ヲ設ケタルニ徴シ明瞭ナリ第二ニ所有者カ帰化権ナキモノニ不動産ヲ讓渡スコトヲ得サル加州ノ法律ハ其所有者カ日本人タルト如何ナル外國人又ハ米國人タルトニ拘ラス均シク適用セラルルモノナルカ故ニ不動産ノ処分ニ関シテ旧條約ノ保障スル內國人又ハ最惠國待遇ニ違反スルモノト言ヒ難ク從テ旧條約ノ今日尚存続スル場合ニ於テモ加州法律ハ之ト牴觸スル所ナキカ如シ尚在桑港總領事代理報告同地方法律家ノ意見トシテ法人ト自然人トノ間ニ區別ヲ設クルヲ違法トスルノ議論ハ尠クトモ不動産所有權ノ問題ニ付テハ之ニ反對スル立法例及判決例頗ル多ク今ヤ此議論ヲ提出スルノ余地ナ

シ之ヲ要スルニ「マクスウェル」等ノ意見トシテハ此際日本人側ヨリ何等「テストケース」ヲ提起スルモ到底勝訴ノ見込ナク又得策ニアラス寧ロ具体的問題ノ自然ニ發生スル場合ニ至リ加州官憲ヨリ同法律ニ基キ当事者ニ対スル何分ノ処置ヲ執ルヲ待チ我ハ被告ノ地位ニ立チテ加州官憲ノ処置ニ応スル論争ヲ試ムル方利益ナルヘントノコトナリ右会合中本使及館員モ隨時立会日本側ノ主張ハ十分内示シテ法律家ノ腹藏ナキ意見ヲ求メ「マクスウェル」等ハ日本側ノ立場ニ対シテハ終始同情アル裁量ヲ加ヘタルモ法律問題トシテハ結局前述ノ如ク論断スルノ外ナシト言ヘリ尚法律家ノ一致シタル論結ハ別電第二三七号ノ通ニシテ之ニ関スル説明書ハ追テ「マクスウェル」起案シ他ノ三名ト協議ヲ經テ本使ニ提出スル筈ナリ

右御舎ノ上「テストケース」提出ニ関スル御方針御訓示アリタシ

(別電)

八月三日珍田大使宛牧野外務大臣宛電報第二三七号

加州問題ニ関スル法律家ノ意見

No. 237. Betsuden.

Upon assumption that Japanese subjects are not

forbidding non-eligible aliens to acquire real property in violation of the act are probably not repugnant to constitution of the United States.

Whether they are repugnant to provisions of Article I of Treaty of 1911 securing Japanese subjects most constant protection and security for person and property presents a debatable question upon which Counsel is not prepared to give us favourable opinion. Counsel is of the opinion that various questions can best be tested by raising them in defence of any action brought by California authorities to escheat or prosecute probate proceedings in derogation of rights of Japanese above stated. In the event of institutions of such proceedings by California authorities, all questions involving claimed protection of treaties, constitution and law of the United States and also that of the eligibility of Japanese to citizenship can be raised for decision. If any such suits should be decided adversely to us in the local courts, appeals can be taken to Supreme Court of the United States. Counsel is of the opinion that alien land law does not apply to real estate acquired by cor-

eligible to citizenship in the United States, Counsel is of the opinion that California alien land law does not affect or undertake to affect right of Japanese under the Treaty of 1911 to own or lease and occupy houses, manufactories, warehouses and shops, and to lease lands for residential or commercial purposes, but on the contrary that expressly recognizes and confirms all such rights. Japanese are free to acquire such property rights in future by purchases, devise or inheritance. No such property rights are subjected to escheat under Sections V and VI, or to sale in probate proceedings under Section IV of said alien land law. With respect to real property other than houses, manufactories, warehouses and shops and lands leased for residential or commercial purposes, acquired by Japanese under Treaty of 1894 or otherwise at any time prior to August 10th 1913, Counsel is of the opinion that, under the California statute, said property can not hereafter be sold or devised to Japanese or inherited by Japanese heirs, and that provisions of California statute to this effect and also its provisions

porations prior to August 10th 1913.

China

(附記)

加州土地法ニ関スル顧問法律家意見梗概

加州新土地法ノ日米通商條約及日合衆國憲法ニ適合スルモノナリヤ否ヤニ関シテハ当省並ニ在米帝國大使館ニ於テ委細攻究ヲ遂ゲツツアルハ勿論ナルモ尚ホ米國ニ於ケル大家ノ意見ヲ徴スルヲ以テ有益且ツ必要ト認メ在米珍田大使ヲシテ左ノ諸氏ニ本件ノ研究ヲ依頼セシメタリ。

「シエー、ルーベン、クラーク」氏 近頃迄國務省参事官(主トシテ法律取調ノ任ニ当ル)トシテ在職シ國際法、條約論ニ詳シ

「フレデリック、ディ、マッケニー」氏 大統領「ガーフィールド」内閣ニ検事総長タリシ「マックフィー」氏ト共同弁護事務所ヲ華府ニ有ス

「ローウレンス、マックスウェル」氏 現今「オハイヨ」州「シンシナタ」市ニアル學識経歴上著名ノ弁護士ナリ嘗テ一千八百九十三年ヨリ一二年間合衆國司法省参事官タリシ

「ウイリヤム、デイ、ガスリー」氏 紐育著名ノ弁護士法律家ニシテ憲法修正第十四條ノ解釈ニ関シ殊ニ大家トシテ仰ガル

右諸家各個ノ意見ハ後ニ略述スル如クナルガ左記顧問法律家合議決定ハ「マックスウエル」「マッケニー」「クラーク」ノ三氏ニ加フルニ大使館付弁護士「フレデリック、チェーピン」氏ヲ以テシニ日ニ亘リテ論議ヲ上下シタル結果調製セラレタル意見書ナリトス

### 顧問法律家合議決定意見

- 「マックスウエル」氏等ノ合議顧問ハ加州土地法ヲ以テ必シモ日米條約並ニ合衆國憲法ニ明確ニ抵触スルモノニ非ズトナシタリ同氏等ノ説ニヨレバ日本人ノ家屋、製造所、倉庫、店舗ニ関スル所有權ハ現行日米條約ニヨリテ保障セラレ日本人ハ合衆國ニ於テ將來此等財産ヲ売買遺贈相続ノ方法ニヨリ自由ニ取得処分スルコトヲ得ベシト雖其ノ他ノ種類ノ不動産ニ関シテハ條約上何等保障セラル、無ク從ツテ加州土地法ニ同州在留ノ日本人ハ売買遺贈相続ニヨリテ土地ヲ取得スルヲ得ズトスルモ毫モ條約ニ違反セザルモノニシテ其ノ旧日米條約ノ下ニ取得セラレタル土地法實施期日(千九百十三年八月十日)前現行條約ノ下ニヨリ取得
- (二記註外欄)
- (一記註外欄)

- 實ヨリ推シテ不動産ニ付テハ相続遺贈ノ權アラザルヲ知り得ベク又(二)所有者ガ帰化權無キモノニ不動産ヲ譲渡スルコトヲ得ザルノ條約違反ナラザルハ右ノ譲渡ヲ為スヲ得ザルハ日本人所有者ニ限リタルニ非ズ如何ナル外国人又ハ米國人ニテモ亦均シク之ヲ帰化無資格者ニ譲渡スルヲ得ザルモノナレバ日本人ハ同ジク國民待遇若クハ最惠國民待遇ヲ得タリト謂ヒツベク之ヲ以テ條約上ノ既得權ヲ侵害シタルモノト為スペカラズト
- (四記註外欄)

土地法ハ帰化資格ノ有無ニ依リテ私權享有ノ範圍ヲ異ニシ有資格者ハ土地ヲ所有シ得無資格者ハ然ラズト為シタルニ関シ合議顧問ハ該法ハ立法論トシテハ穩當ヲ失スルノ嫌アルベキモ直ニ之ヲ以テ條約ノ精神ニ違反スルモノトシ法廷ニ是非ヲ争フモ十分ノ勝算ヲ期シ難ク將又憲法論トシテモ多数ノ判決例ヲ精査スルニ之ヲ違憲ノ立法ナリト論斷スベキ理由乏シキガ如シト為シタリ

(五記註外欄) 尚ホ帝國政府若クハ日本人ガ試験訴訟ヲ提起シテ本件ニ對スル司法上ノ救済ヲ得ント欲セバ加州官憲ガ土地法ノ命ズル所ニ從ヒ日本人ノ土地所有權ニ對シ何等干涉ヲ加ヘタル實際ノ事件發生スルヲ待チ之ニ對シ自衛ノ地位ニ立チテ出訴シ官憲ノ処分ヲ阻止スルヲ求ムルハ最モ有利ナル時機方

セラレタルトノ差別ナク是等不動産ハ今後日本人間ニハ斷シテ譲渡遺贈相続セラルベカラザルモノナリトス

- 然レドモ日米條約第一條第三項ニ「両締約國ノ一方ノ臣民又ハ人民ハ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ其財産ニ對シテ常ニ保護及保障ヲ享受スベク内國臣民又ハ人民ト同一ノ條件ニ服スルニ於テハ本件ニ関シ内國臣民又ハ人民ニ許シ若ハ許与スルコトアルベキ所ト同一ノ權利及特權ヲ享有スベシ」トアルニヨリ土地法ニ於テ日本人ノ土地所有者ニ特種ノ制限ヲ加フルハ條約違反ニ非ズヤトノ議論アルベク右ニ對シ合議顧問ハ其間確ニ議論ノ余地アルベキヲ認ムルモ而モ條約ニ抵触ストノ積極的論斷ヲ下スニ躊躇シ寧ロ消極說ニ傾キタリ
- (三記註外欄)

土地法ニ於テ不動産ノ相続遺贈ヲ禁ジタルハ本邦人ノ既得權ヲ侵害シタルモノニ非ズヤトノ主張ニ對シ合議顧問ハ之ヲ否定シテ曰ク死亡者所有ノ不動産ヲ売却シテ其代金ヲ相続人又ハ受遺者ニ配与スル制度ハ米國ノ締結シタル多数ノ條約ノ認ムル所タリ且旧日米條約存続中取得シタル不動産ハ其條約中ノ國民又ハ最惠國民待遇ノ保障ニ依リ本邦人ノ譲渡相続遺贈自由タルベシト論ズルモノアルベキモ(一)旧條約中相続遺贈ニ関シテハ動産ノミニ付キ規定ヲ設ケタル事

法ナルベキヲ唱道セリ

### 顧問法律家各個ノ意見

「マッケニー」氏ノ意見

「マッケニー」氏ハ合議ニ參ジタル一人ニシテ土地法ハ日米條約ニ違反セズ合衆國憲法ニ抵触スルトコロ無シト為スモノナルガ同氏ガ單獨ニ提出シタル意見書ノ綱要ヲ略述スレバ左ノ如シ

凡ソ不合理ニシテ横暴ナル差別ニ非ル限リ州ノ政策上必要ト認メラルベキ制限ヲ設クルハ違法ノ準ニアラズ加之外國人ノ地位ナルモノハモト其在留國ノ國權ガ自由ニ上下シ得ル所ノモノナレバ條約ノ保障無キ限リ特定ノ外國人ヲ限リテ其自由ヲ拘束スルトモ同様ノ地位ニ在ルモノニ對シ偏頗無ク之ヲ行ウトキハ之ヲ不法ナル拘束トシテ非難シ得ベキモノニ非ズ故ニ土地法ノ如キハ日米條約第一條ニアル保障保護ノ規約ニ悖戾スルモノニ非ズ

(七記註外欄) 外國人ニ土地ノ相続ヲ許サルハ一般ノ原則ナルノミナラズ加州ハ土地ノ所有權ニ制限條件ヲ附スルノ自由ヲ有スルモノナレバ均等ナル保護ノ保障アルガ故ノミノ理由ニテ外國人ハ相続遺贈ヲ為スコトヲ為スコトヲ得ト為スハ根拠無キ立論ナリ

帰化資格有無ニヨリ權利ノ享有ニ差別ヲ立ルハ合衆國法制ニモ既に採用サレ居ル所ニシテ州モ亦之ニ倣ヒ之ニ拠ルヲ得ベシ

（八記註外欄）  
帰化無資格者ニ土地ノ讓渡ヲ為スヲ得ザルハ日本人ノミナラズ如何ナル外國人又ハ米國人ニモ適用サル、モノナレバ差別的待遇トイフヲ得ズ

尤モ條約ノ消滅ハ其條約ノ下ニ獲得セラレタル權利ニ何等影響スルコト無シ

「ガスリー」氏ノ意見

上記合議ニ与ラズ全然独立シテ意見ヲ提出セルヲ「ガスリー」氏ト為ス同氏ノ意見ヲ概括略叙スレバ下ノ如シ

現行日米條約ハ農業用地ノ所有權ヲ保障セズ

日本人ニ不動産ノ相続ヲ許サズ帰化無資格者ニ遺贈ヲ許サザル規定ハ現行條約ニ抵触セズ旧條約ノ下ニ得タル不動産ニ關シテモ亦然リ

会社ニ關スル土地法ノ規定ハ日米條約ニモ憲法修正第十四ニモ抵触セズ

日米條約ハ農業用地ノ取得、保有、処分ニ關シ最惠國民待遇ヲ保障セズ國際法上ヨリ論スルモ亦日本人ノ為メ此種ノ保障ヲ主張スルヲ得ズ

國民待遇ヲ与ウルモノニ非ルナリ何トナレハ米國人ニアリテハ其所有ノ土地ヲ自國人又ハ帰化有資格者ニ相続受遺セシメ其死亡ノ場合ニ没収セラルル危險ヲ有セザルニ反シ日本人ハ然ラサルヲ以テナリ

人種ニ依リ差別ヲ設クル法規ハ憲法修正第十四條ニ抵触スベシトノ主張ニ對シ說者或ハ曰ハン從來人種ニヨル區別ヲ違憲ナリト為ス判決ハ主トシテ職業ニ關スル差別的待遇ヲ異人種間ニ設ケタル法制ニ對スルモノニシテ土地所有ニ關スルモノニ非ズ土地所有ノ問題ガ職業ノ自由ト異リ「アングロサクソン」法系ノ下ニ特殊ノ取扱ヲ受ケ居ルハ論無キ所ニシテ外人ハ仮令職業ノ自由ハアリトモ土地所有權ニ在ツテハ必ズシモ其自由アリト論スルヲ得ズ原則トシテハ所有權無シトスベキモノナリ云々ト然ルニ翻ツテ方今文明國ノ通軌トスル所ヲ見ルニ土地所有權ニ關シテモ亦内外人平等異人種無差別ヲ以テ主義ト為スヲ常トス現ニ合衆國自身ニ於テモ多少ノ制限ハ附随スルモ多数ノ州ニ於テ之ヲ内外人平等ニ許可セリ且判決例ノ用語モ広汎ニシテ解釈上優ニ人種ニ基ク財産上ノ區別的法制ハ違憲ナリトノ論斷ヲ為シ得ルノ余地アリ苟クモ人種ニノミヨリテ差別ヲ設クルハ違憲ナリトハ判決例ノ一致スルトコロナルニ於テ土地法ハ

加州土地法ハ憲法修正第十四條ノ保障スル法律ノ均等保護ヲ日本人ニ与ヘサルモノニアラス

「クラーク」氏ノ意見

前頭ノ如ク爾余ノ法律顧問ガ土地法ヲ以テ條約違反ニモ憲法違反ニモアラズト為スニ反シ「クラーク」氏ハ別箇ノ意見ヲ表白セリ其意見ニ依レバ土地法ハ國際法上認メラレタル原則ニ反シ其不公平ナル待遇ニ對シテ当然抗議シ得ベキモノナルノミナラズ日米條約ニ違反シ又合衆國憲法ニ抵触スルモノナリトイフニアリ今同氏意見ノ綱要ヲ列述スレバ左ノ如シ

日米條約ハ其第一條ニ於テ日本人ガ合衆國ニ於テ其所有財産ニ對シ常ニ保護及保障ヲ享受シ國民待遇ノ取扱ヲ受クベキヲ明約シタルノミナラズ之ヲ他ノ諸條（第二、六、八、九、十一、十二、十三、十五條）ノ趣旨ニ徴スルモ明ナルガ如ク締約國民ニ均等ノ待遇ヲ与フルヲ以テ條約ノ根本主義トナセリ而シテ右均等ノ待遇ハ條約第一條第一項ニ掲グル財産ノミニ限ラズ現ニ所有スル財産ニモ及ブベキハ当然ナルニ土地法ハ日本人ニ對シ財産ニ關スル均等ノ保護ヲ与ヘス則チ其所有ノ土地ヲ相続遺贈ニヨリ移転スルヲ得セシメス換言スレバ土地法ハ日本人ニ

之ヲ違憲ナリト斷ズルヲ妨ゲズ

說者又或ハ曰ハン最高法院ノ此点ニ關スル態度近時復タ往日ノ如クナラズ人種ニ基ク差別ヲモ必シモ違憲ナリト為サザルガ如シト然レドモ說者ノ推論ハ未ダ正鵠ヲ得タルモノニアラズ何トナレバ更ニ仔細ニ判決例ヲ精査センカ其判決例タル例令バ警察上公安維持ノ法規ニ關スルモノ、財産ニ關係ナキ法規ニ關スルモノ、若クハ適用上異人種相互ニ均等ノ制限ヲ受クル法規ニ關スルモノ等ニツキ最高法院ガ近時其態度ヲ變ジタリト稱セラル、モ土地法ノ場合ニ於ケルガ如ク財産權ニ關スル爭訟ニ對シテ果シテ同一ノ態度ヲ採ルヤ否ヤハ未ダ俄ニ豫知シ難キモノアリ抑モ憲法修正第十四條ハ人種ノ差異ニヨリ差別法ヲ制定スルヲ州ニ禁ジタルモノニシテ土地法ノ如キハ明ニ加州ガ此禁令ヲ犯シタルモノナリトイハサルヘカラス

加州立法當局者ハ屢次土地法ニ於ケル差別標準ガ加州ノ新案ニアラズシテ聯邦法制ガ市民權ノ賦与ニ關シ既ニ用キタル所ノモノナリト唱フルモ後者ニ於テハ外國人ヲ参政ノ權利ヲ有スル市民ト為ス場合ニシテ前者ハ單純ニ不動産保有ノ權利ヲ外國人ニ与フルニ過キサレバ決シテ同日ノ論ニ非ズ又加州ガ土地保有ニ關シ差別ヲ設クルハ合衆國

法規ノ公有土地下付ニ関シ差別ヲ設クルト同ジカラズヤト唱フルモノアランモ両者ノ間性質上自ラ差異アルノミナラス憲法修正第十四條ハ州ノ差別法ヲ制定スルヲ禁ジタルモ合衆國議會ハ其ノ拘束ノ下ニアルモノナラザルヲ記憶セザルベカラズ

以上ハ「クラーク」氏ガ土地法ヲ條約違反并ニ違法ナリト為ス主タル理由ナリトス尚ホ同氏ハ土地法ノ所謂「市民トナリ得ル外国人」ト他州法制ノ所謂「帰化ノ意思ヲ表示シタル外国人」トノ間ニ存スル明截ナル區別ヲ認メ又タ土地法逐條ノ攻究ヲ為シ帰化資格者ニ「トランスミット」「インヘリット」ノ權ヲ許シ帰化資格缺如者ニハ「トランスファー」ノ權ノミヲ許スガ故ニ後者ハ遺贈又ハ相続ニヨリ土地ヲ授受スルコト能ハザルモノト認メラル、モ帰化資格缺如者ト雖モ「アックワイア」ノ權アルガ故ニ受遺相続ニヨリテ之ヲ取得シ得トモ解釈シ得ベキカト言及シタリ尚ホ旧條約ノ下ニ取得セル日本人ノ不動産ヲ他ノ日本人ニ売渡スヲ禁スルヲ條約違反ナリトノ議論ニ對スル他ノ専門家ノ日本人ニ讓渡シ能ハサルハ独リ日本人ノミナラス何人モ不可能ナレハ日本人ノミヲ區別待遇スルモノニアラストノ立論ニ對シ猛烈ニ攻撃ヲ加ヘ極テ非論理ナル論法ナリト

六 日本人ハ既得ノ財産保護、旧條約ノ下ニ取得セル土地ノ処分等ニ関シ條約ノ保障ヲ有ス  
七 條約及ヒ憲法アルヲ如何セン  
八 極端ナル非論理論法ナリ

註 右欄外註記ハ日本外務省係官ノ批評ナリ

三四五 八月 四日 牧野外務大臣ヨリ  
在米國珍田大使宛 (電報)

加州問題提訴ニ關連シ更ニ最高權威者ノ意見徴

シ方訓令ノ件

第一九〇号

貴電第二三六号ノ調査ハ反覆研究ノ結果ト見受ケラレ当方ニ於テモ十分重キヲ置ク所ナルモ本件ハ之ニヨリ政府ノ態度ヲ定ムヘキ極メテ重大ナル關係ヲ有スル儀ニツキ念ノ為メ更ニ他ノ Best available authority ノ意見ヲ徴セラレタシ尚ホ加州土地法第二條ハ帰化權ナキ外国人ニ不動産ノ相続權ヲ認メサルニ貴電第二三七号ニハ日本人ハ家屋其他ヲ devise or inheritance ニ依テモ自由ニ取得シ得トアリ右ノ矛盾ハ如何ニシテ説明シ得ルヤ又日米條約ニヨリ日本

喝破セリ  
之ヲ要スルニ「クラーク」氏ノ調査ハ該博ニシテ引證精細ニ亘リ最モ肯綮ニ當レル議論ヲ提唱セルモノト思考セラ

### 結 論

上記諸大家ノ議論ヲ比較考量ノ結果帝國政府ハ「ケース」ヲ構成シテ容易ニ試験訴訟ヲ提起スルコトヲナサス一面ニ於テ極テ適當ニシテ有力ナル「ケース」ヲ工夫スルト同時ニ主トシテ自然ノ事件ノ發生スルヲ待チ加州官憲ノ処分如何ニヨリ自衛ノ位地ニ立チテ出訴スルノ覺悟ヲ採ルヲ最モ適當ナル態度ナリト認ム

(欄外註記)

- 一 土地法ノ關スル限リ家屋ノ遺贈相続ハ之ヲ許サザルヘシ但條約上及ヒ憲法上合議顧問ノ意見ハ正當ナリ
- 二 旧條約ノ下ニ取得セル土地ヲ日本人ニ讓渡スルヲ禁スルハ合衆國大審院ノ判決例ニ照シ條約違反ト認ム
- 三 土地法制定前合法ニ取得セル土地ノ相続ヲ禁スルハ條約及憲法違反ト認ム
- 四 此議論非論理ノ極ナリ
- 五 條約ノ精神ニ反スルハ勿論憲法違反ト認ム

人カ米國ニ於テ家屋ヲ所有スル場合ハ家屋ト地所ハ離ルヘカラサルモノナルニヨリ右家屋ニ必要ナル地所ハ必然之ニ伴テ所有シ得トノ解釈ナリヤ「マクスウエル」氏等ノ意見ヲ徵サレタシ尚ホ最後ノ問題ニ關シテハ今回更ニ徵セントスル他ノ専門家ノ意見ヲモ求メラルヘシ

三四六 八月 五日 在米國珍田大使ヨリ  
牧野外務大臣宛 (電報)

加州問題提訴ニ關スル法律家ノ意見ニ對スル疑問ニ付解明ノ件

第二三九号

貴電第一九〇号御問合ノ第一点ニ付「マックスウエル」等ノ意見ニテハ土地法第二條ハ第一條ト字句ヲ異ニシ transmit inherit ナル語ヲ掲ケサルモ其明文ナキ事實ノミヲ以テ積極的ニ transmit inherit ヲ禁スルモノト論定スルコトヲ得ス他ノ一方ニ於テ建物所有權竝住居又ハ商業ノ目的ヲ以テスル土地賃借權ハ明カニ條約ノ保障スル所ニシテ又法律第一條ニ依レハ帰化權ナキ者ト雖右條約ノ保障スル特定財産權ヲ取得 (acquire) スルコトヲ認ムル以上ハ

反対ノ明文ナキ限売買相続遺贈等何レノ方法ニ依ルヲ問ハス前記特定財産権ヲ取得スルコトヲ妨ケサルモノト解釈セサルヘカラス換言スレハ條約ノ保障スル特定財産権ニ付テハ transmit inherit ハ法律中特ニ禁止ノ明文ナク却テ acquire ナル文字及法律ノ精神ニ徴スルモ之ヲ禁止セサル趣旨ト解釈スルヲ当然トストノコトナリ御問合ノ第二点ハ過般討論中最激論アリタル所ニシテ「マックスウエル」ハ家屋敷地 (land reasonably appertained to houses, warehouses, manufactories and shops) ハ当然家屋ト同一視スヘキモノナリトノ意見ヲ述ヘ「マッケンネー」ハ之ニ反対シ凡ソ條約ノ規定ニシテ締盟国間ニ法制ヲ異ニスル結果二個ノ異ナル意義ニ解釈スルノ余地アルモノハ條約締結談判當時規定ヲ提議シタル国ノ法制ニ依リテ解釈スヘキモノニシテ是レ大審院ノ採用シタル條約解釈ノ原則ナリ從テ日本国ニ於テ外国人ニ對シ現ニ家屋敷地ヲ所有スルコトヲ許ササル法制ナリトセハ日本国政府ノ提議ニ基ク本條約第一條ノ規定ハ敷地所有權ヲ包含セサル趣旨ト解スルノ外ナシト論シ幣原ハ然ラス家屋所有權ト其敷地ヲ本法第四條ノ probate sale ニ依リテ買取シタルモノ又ハ第五條ノ escheat ニ依リテ取得シタル州トノ關係ハ当國法制上

クスウエル」及「マッケンネー」ハ近來大審院ノ憲法第十四條ヲ解釈スル大体ノ意見及方針ニ顧ミ右違憲說ハ到底支持シ難キコトヲ切言シ長時間討論ヲ重ネタル末往電第二三七号意見書中段「マックスウエル」起草原案ニ are not repugnant to constitution トルヲ are probably not repugnant 云々ト改メ一同之ニ同意スルニ至レリ貴訓中「マックスウエル」等ノ外別ニ大家ニ諮問スルノ件ニ付テハ目下紐育 W. D. Guthrie ニ交渉中同氏ハ「コロンビヤ」大学教授ヲ兼ね殊ニ本件ニ關係アル憲法第十四條ノ解釈ニ関シテ著書アリ法律家トシテ技量ニ於テ名声高キ趣ナリ往電第二三七号意見書中 hereafter by ト or devised トノ間ニ sold ヲ脱セリ

三四七 八月十五日 在米國珍田大使ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

加州問題交渉經過ニ関シ機密保持方稟申ノ件

第二五三号

本邦新聞紙ヲ見ルニ加州問題交渉ノ經過ニ付從來本邦ニ於テ往々機密漏洩セルコトアルカ如ク八月十五日「アッソシ

如何ニシテ律セラルヘキヤト質問シタルニ「マッケンネー」ハ家屋ト敷地トハ當國法制上必スシモ絶対ニ不可分ト言フヘカラス家屋所有權ガ甲ニ屬スルコトノ條件附ヲ以テ乙カ其敷地ヲ取得所有スルコトモ实例渺カラス從テ前記ノ場合ニ買得者又ハ州ハ家屋ハ日本人ニ屬スルコトヲ條件附ニテ敷地ノ所有權ヲ有スルモノト解セラルル旨ヲ説明シ家屋カ焼失又ハ破壊スル場合ニハ其所有者ハ再ヒ建築スルコトヲ得ルヤトノ質問ニ對シテハ然リト答ヘタリ尚之ニ關聯シテ種々質問アリタルカ「マックスウエル」ハ右「マッケンネー」ノ指摘シタル家屋ト敷地トノ絶対的不可分ナラサル实例アルコトハ之ヲ認ムルモ本問題ニ付テハ前説ヲ固持シ結局意見ノ一致ヲ見ルニ至ラス唯所有權ノ問題如何ニ拘ラス渺クトモ家屋ハ日本人ニ所有ノ權能アルハ條約ノ保障スル所ナルカ故ニ加州法律之ヲ否認又ハ制限スルノ効果又ハ意志ナキモノト解釈スルニ於テ何人モ異議ナシ此点ハ往電第二三七号意見書前段ニ包含セラルルヲ以テ特ニ之ニ言及スル必要ナキモノトシ反對論アル敷地所有權問題ハ之カ明記ヲ省キタル次第ナリ尚「グラーク」ハ歸化權ノ有無ニ依リテ私權ノ範圍ヲ區別スルコトハ憲法第十四條ニ違反スルモノトナシ判決例ヲ挙ケテ詳論スルモ「マ

エーテッド、プレス」東京ヨリノ着電ハ米國政府ガ過日損害補償ヲ提議シタル事実ヲ報セリ然ルニ当地ニテハ政府当局者ニ於テ誠實ニ注意セルモノト見エ何等漏洩ノ形跡ヲ認メス往電第二四八号本使カ國務長官ト会見ノ際仮リニ協約案ニシテ直ニ調印セラルルモノトスルモ追テ適當ナル時機ニ達スル迄之ヲ機密ニ附スルコトハ本邦側ノ關スル限嚴重ニ実行セラルヘキ旨ヲ述ヘタルニ對シ同官ハ意外ノ色ヲ示シ恰モ之ヲ信セサルカ如キ口調アリタリ就テハ本件交渉經過ニシテ機密ヲ要スルモノ殊ニ協約案提議ノ如キハ目下萬一漏洩スルニ於テハ其成立ニ重大ナル障害ヲ及ボスヘキニ付申ス迄モナキ儀ナカラ十分機密保護ノ方法ヲ講セラレンコトヲ切望ス

三四八 八月十六日 牧野外務大臣ヨリ  
在米國珍田大使宛(電報)

加州問題交渉經過機密保持方ニ関シ回答ノ件

第二〇二号

貴電第二五三号ノ件ハ全然想像ヨリ出テタルモノニ過キスト信ス是迄モ真ノ想像ニ基ク新聞記事ナキニアラス



三四九 八月十六日 在米田珍大使ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

加州問題提訴ニ関スル「ガスリー」ノ意見未提

示ノ件

第二五四号

往電第二三九号末段ニ関シ Chapin ハ本使ノ意ヲ受ケハ  
月六日紐育ニ於テ Guthrie ニ面会シ関係書類ヲ内示シテ  
調査ヲ囑托シ置キ八月十四日再ヒ面会ノ上意見ヲ探リタル  
ニ Guthrie ハ過般來急務幅濫シテ未ダ本件ニ付充分ノ講  
究ヲ竭クス暇ヲ得ズ又近日避暑地ニ向フ豫定ナルモ旅行先  
ニ於テ調査ヲ続行シ来月上旬迄ニハ結論ノ要旨ヲ報告スル  
コトヲ得ルナラント言ヒ差当リ本問題ノ實質ニ立入りテ意  
見ヲ明示セズ只大体ニ於テ近來大審院ノ憲法第十四條ヲ解  
釈スル方針ハ昔日ノ如ク寛大ナラサル旨ヲ述ヘ暗ニ悲觀的  
語氣ヲ示シ此点ニ関スル同氏ノ所感ハ「マックスウエル」  
ノ述ベタル所(往電二三九号)ト符合セリトノコトナリ  
本使ハ更ニ Chapin ヲ經テ督促ヲ加ヘ置キタリ

三五一 八月二十三日 在桑港沼野總領事代理ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

加州在留邦人ノ試訴未提起ノ旨珍田大使宛返電

シタル件

第二四四号

本官発在米大使宛電報左ノ通り

第二三一号

貴電第一〇七号ニ関シ既ニ八月二十一日南加日本人会ニ  
電報シ事實ノ有無取調方ヲ命シ且ツ若シ事實ナラバ委細  
当館ト打合ノ上ニ非ザレバ何等ノ行動ニ出デザル様取計  
ヒ方申送リタル処八月二十二日同会ヨリノ返電ニ依レバ  
同会書記長ガ弁護士ニ面会シタル処本件ハ未ダ起訴セラ  
レ居ラズ又弁護士ハ特ニ応答ヲ避ケ依頼人ノ住所ヲモ告  
ケサルモ一兩日中ニハ詳細報告ヲナシ得ベキ見込ナル由  
右不取敢電報ス

三五二 八月二十三日 牧野外務大臣ヨリ  
在米田珍大使宛(電報)

加州問題ニ関スル米田政府第二回答ニ対スル我  
方弁駁書提出方ノ件

三五〇 八月二十二日 在米田珍大使ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

加州在留邦人ノ試訴提起ニ関スル新聞報ニ付

取調方竝外務大臣ニ請訓方沼野ニ指示ノ件

第二六〇号

本官発在桑港總領事代理宛電信左ノ通り

第一〇七号(八月二十一日發)

「ロサンゼルス」新聞電報ニ依レハ同地在留日本人谷口ナ  
ル者弁護士「チャムバレン」ニ依頼シテ土地法ニ対スル  
「テストケース」数日内ニ提起セントスル趣ノ処右果シテ  
事實ナリヤ御取調相成タク本件ノ起訴ハ在「カリフォルニ  
ヤ」州一般邦人ノ利害ニ多大ノ影響ヲ及ホスベキニ付十分  
ノ研究ト考量ヲ要スルハ勿論御承知ノ通折角政府ニ於テモ  
目下本件考慮中ナルニ付若シ此際關係邦人ニシテ单独ニ起  
訴セントスル者アラハ貴官ヨリ其ノ旨大臣ニ是非請訓ノ上  
必要ノ措置ヲ執ラルル様致シタシ

別電 同日牧野外務大臣発珍田大使宛電報第二二一  
号

右日本政府ノ弁駁書

第二二〇号

米田政府第二回答并ニ「エード・メモアル」ニ対スル当方  
弁駁書別電第二二一号ヲ以テ送附ス尤モ協約案提議中ノ事  
實ニ鑑ミ本弁駁書提出ノ時機ハ貴官ノ裁量ニ一任ス  
「ガスリー」氏ノ米田政府宛電報ハ十九日午後八時三十分  
發送セラレタリ

(別電)

八月二十三日牧野外務大臣発珍田大使宛電報第二二一号

加州問題ニ関スル米田政府第二回答ニ対スル日

本政府ノ弁駁

No. 211

Sir:

The two communications addressed to you by  
the Secretary of State, on the 16th ultimo, in  
further discussion of the question of the recently  
enacted anti-alien land law of California, has been  
received and carefully considered by the Imperial  
Government.

That act, by depriving Japanese subjects of the right of land ownership while freely continuing the right not only in favor of the subjects and citizens of all the other Powers with which the United States maintain reciprocal treaty relations, but in favor of many non-treaty aliens, has established a discrimination of the most marked and invidious character against Japan. The measure is, moreover, in the opinion of the Imperial Government unjust and inequitable and contrary to the letter and spirit of the Japanese-American Treaty as well as at variance with the accepted precepts governing and regulating the intercourse of good neighborhood and being admittedly ex industria discriminatory against this Empire as compared with other States, is also mortifying to the nation and disregarding of the natural susceptibilities of her people.

This is the gravamen of Japan's complaint. Mr. Bryan's Notes contain remarks in explanation and extenuation of the action of California but nothing in answer fundamentally to that complaint or tending to shake the conviction of the Imperial

it cannot be denied that, in its final manifestation, it is clearly indicative of racial antagonism; nor, in the opinion of the Imperial Government, can any justification for its enactment be found in the assertion that it was "the emanation of economic conditions".

It is the high office of modern treaties of commerce to prevent undue international discriminations and the most favored nation principle, which finds a place in nearly all such compacts, has had the effect in an international sense, of equalizing opportunities in all the various avenues of commercial and industrial life. It is true that special privileges are, in exceptional circumstances, sometimes granted by one nation in favor of another; but the present case stands out, it is believed, as the one single instance, without historical parallel, in which a State, maintaining by treaty, reciprocal most favored nation relations with another State, has ever in a matter such as that under discussion, essayed to discriminate against such other State, as compared with Third Powers with which no such relations exist. The action of Mexico in

Government regarding the main question.

If, as is confidently believed, the existing treaty between Japan and America has been violated, there is but one remedy and the Imperial Government are unable to escape the conviction, that the duty of applying that remedy devolves solely upon the Government of the United States.

As the measure complained of, has, despite the protests lodged by you, been permitted to go into operation, the Im. Govt. reserve for the present the further discussion of the question at issue. There are, however, some statements and conclusions advanced by Mr. Bryan which it is impossible to allow even temporarily, to remain unchallenged. This instruction is designed to answer those observations.

I hasten in the first place to say that the Imperial Government do not for a moment imagine that the discrimination complained of was the outcome of a national policy. They regard and have from the outset, regarded the action in question as of a local character. But whatever causes may have been responsible for the unfair measure,

1863, which was so strongly condemned by the United States, furnishes no such parallel since the law in that case, was based upon considerations of a geographic nature exclusively.

The Secretary of State denies the proposition advanced by you to the effect that the California Statute discriminates against Japanese subjects and that in the matter of land ownership, aliens are usually, internationally speaking, placed on a national or most favored nation footing. In support of that denial he cites the practice which prevails in the United States on the subject of alien land ownership and he adds; "that the citizens of countries not having such treaties with the United States (i.e. treaties granting either expressly or by transference under the most favored nation clause, the right of land ownership), were unable to enjoy the right of ownership".

This statement has naturally caused the Imperial Government great surprise and they confess their inability to understand it. It not only conflicts directly with the California law in question and is irreconcilable with the Statutes of

many of the States by which the right of alien ownership is accorded independently of treaty stipulations, but it declares in effect that the discrimination complained of, which has been repeatedly recognized as a fact, is without foundation.

In these circumstances it is quite sufficient for the Imperial Government to repeat their contention that by the California enactment, Japanese subjects are denied the right of real estate ownership in localities in which that right is freely conceded to aliens belonging not only to States which have no treaty engagements with the United States on the subject, but to Powers which have no commercial treaties whatever, with the United States.

Recurring to the subject of the Mexican incident, I desire to say, that the Imperial Government are unable, upon the record in the case, to concur with Mr. Bryan in the view that the United States was in the end obliged practically to abandon its contention. Reading, in natural sequence, the correspondence exchanged between the United

States and Mexico, the conviction, it seems to me, is irresistible that the quoted words of the Secretary of State on the occasion, instead of being regarded as an argument, must be accepted as the deliberate conclusion of the American Government of the subject, after being made acquainted with the facts of the case.

It is unnecessary, it seems to me, to follow Mr. Bryan in his remarks concerning the negotiations in connection with the conclusion of the treaty of 1911. It is sufficient to say that the reason why no stipulation regarding land ownership was inserted in the treaty, is because neither contracting country desired such a stipulation. The United States equally with Japan. The assurance contained in Viscount Uchida's Note of February 21, 1911, on the subject of the liberal interpretation of the Japanese land law, was given at the instance of the United States because of the condition of reciprocity contained in that law. The assurance was given as stated in the Note, "in return for rights of land ownership which are granted to Japanese by the laws of various States of the United States."

The laws of Japan on the subject of alien land tenure are not illiberal, but in any case, they contain no provisions discriminating in any manner whatever against citizens of the United States. On the contrary, in all that relates to land ownership as well as in the matter of all other civil rights, American citizens, without distinction and without condition, are accorded in Japan full and complete most favored nation treatment and there is no desire to modify this state of things. The Imperial Government ask for nothing more than fair and equal treatment.

The Secretary of State, it is observed, dwells at length upon the subject of labor immigration into the United States and in the same relation, he refers to the action of Japan in circumstances somewhat analogous to those existing in America. The reason or necessity for this exposition is not understood by the Imperial Government.

The question of immigration has nothing whatever to do with the present controversy, and any reference to it in this connection, only tends to obscure the real issue. This announcement I wish

to make very categorical. More than four years ago, the Imperial Government, willingly co-operated with the American Government in adoption suitable measures in regulation of labor movement from Japan to the United States. The steps thus taken were entirely efficacious, so that, during the past three years, considerably more Japanese laborers left the United States, than have entered that country. The United States Government has recognized and frankly admitted the sufficiency of the measures enforced by the Imperial Government in the matter. The Japanese Ambassador in Washington, at the time of the conclusion of the treaty of 1911, declared by authority of his Government, that the Imperial Government were fully prepared to maintain with equal effectiveness, the limitation and control which were then exercised in regulation of the immigration laborers to the United States.

Accordingly, in order to correct and finally dispel a popular error, I wish to say that there is no question whatever between Japan and the United States on the subject of Japanese labor immigration into the United States.

The present controversy relates exclusively to the question of the treatment of Japanese subjects who are now lawfully in the United States or may hereafter, consistently with existing regulation, lawfully become resident therein. So far as such subjects are concerned, the Imperial Government claim for them fair and equal treatment and are unable either to acquiesce in the unjust and obnoxious discriminations complained of, or to regard the question as closed so long as the existing state of things is permitted to continue.

You are requested to explain the substance of this instruction to the Secretary of State and deliver to him a copy.

I have the honor &c., &c.

&c., &c.

(右和訳文)

合衆国政府第二回答ニ対スル帝国政府ノ弁駁

(珍田大使宛電訓)

帝国政府ハ曩ニ制定セラレタル加州外国入土地所有法問題ニ関シ去ル七月十六日附ヲ以テ國務長官ノ復ヒ貴官ニ寄セラレタル二通ノ書面ヲ領シ篤ト之カ査閲ヲ了セリ

律ハ閣下ノ屢次提出セラレタル抗議ニ拘ラス今ヤ已ニ実施ヲ見ルニ至リタルヲ以テ帝国政府ハ本問題ニ関スル此上ノ詳論ハ暫ク之ヲ保留ス可シ然レトモ「ブライアン」氏ノ書柬中ニハ一時タリトモ黙過スルヲ許ササル所説及ヒ論定アルヲ以テ本電訓ハ右ノ所論ニ答フルヲ以テ目的トナスモノナリ

第一ニ本大臣ノ言ハント欲スル所ハ本件差別的待遇ヲ以テ合衆国ノ国家的政策ニ基キタルモノトナス如キハ帝国政府ノ夢想タモナササル所ナルコト是ナリ我政府ハ初ヨリ本件立法ヲ以テ地方の性質ノモノナリト解シ今尚爾ク解スルモノナリ唯タ如何ナル原因カスカル不当ノ法律ヲ制定セシメタルヤニ論ナク其ノ結局人種の敵意ヲ明示スルモノタルハ蔽フ可ラス將又帝国政府ノ所見ニ拠レハ右ノ法律ヲ以テ「經濟的狀態ヨリ発現セルモノ」ナリトノ断定ニヨリ該法制定ノ正当ナルヲ弁護セントスルモ亦決シテ得可ラサルナリ

抑モ国际上不当ノ差別待遇ヲ防止スルハ近世通商條約ノ要務ナリ而シテ遺般條約ニハ殆ント何レモ最惠国主義ヲ採用セサルナク之ニ依リテ国际上商工業ノ各方面ニ亘リ各国民ヲシテ均等ノ機会ヲ得セシムルノ結果ヲ生シ来レリ唯例外

該法ハ雷ニ合衆国カ相互の條約關係ヲ有スル總テノ他外国臣民又ハ人民ニ対シテノミナラス無條約国ニ屬スル多数ノ外人ニ対シテモ亦依然トシテ自由ニ土地ヲ所有スルノ權利ヲ享有セシムルニ拘ラス独リ帝国臣民ヨリノミ此權利ヲ褫奪スルモノニシテ日本ニ対シ極メテ顯著ニシテ且ツ厭フヘキ差別ヲ設定シタルモノナリ加之帝国政府ノ所見ニ拠レハ右ノ立法タル正義公道ニ反シ日米條約ノ字句及精神ニ悖リ并ニ國際間ニ認メラレタル修好善隣ノ通義通則ト相容レサルノミナラス明ニ我帝国ニ対シ故意ニ他国ニ比シテ不利ナル区别的待遇ヲ与フルノ結果帝国国民ノ面目ヲ損傷シ且ツ其ノ自然ノ感情ヲ無視スルモノニシテ我抗議ノ骨子ハ実ニ斯点ニ在リテ存スルナリ

「ブライアン」氏ノ書面ハ加州ノ行為ヲ弁疏スルニ力メタル幾多ノ所論ヲ含ムト雖上記我故障ノ存スル点ニ対シテハ何等根本的ニ答フル所ナク又問題ノ要点ニ関スル帝国政府ノ所信ヲ動スニ足ル可キ何等ノ言説ヲモ包含スルヲ見ス当方ノ確信スルカ如ク現行日米條約ニシテ一旦侵犯セラレタリトセハ之ニ対スル救済ノ途ハ唯タ一アルノミ而シテ斯ノ救済ヲ与フルノ義務ハ一ニ懸テ合衆国政府ノ雙肩ニアルハ帝国政府ノ信セサラント欲スルモ能ハサル所ナリ唯本件法

ノ場合ニ於テ一國カ他國ニ対シ時ニ或ル種ノ特權ヲ付与スルコトアルハ事實ナリト雖本件ノ場合ノ如ク條約ニ依リ他ノ一國ト相互の最惠國關係ヲ有スル一國カ現ニ論議ノ主題タルカ如キ事柄ニ関シ右締約ノ当事者タル他ノ一國ニ対シ全然遺般條約關係ヲ有セサル第三國ニ比スルモ尚且不利ナル差別待遇ヲ与フルヲ敢テスル如キハ蓋シ歴史ニ類例ナキ唯一ノ事例ナル可シト信セラル合衆國ノ極力抗議シタル夫ノ千八百六十三年ニ於ケル墨國ノ行為ハ未タ以テ本件ト比ス可クモアラス何トナレハ右ノ場合ニ於ケル墨國ノ法律ハ専ラ地理上ノ考慮ニ基キ制定セラレタルモノナレハナリ

國務長官ハ閣下ノ所論乃至本件加州法律ヲ以テ日本臣民ニ対シ不利ナル差別待遇ヲ設クルモノナリトシ又土地所有ノ問題ニ関シテハ外國人ハ内國民又ハ最惠國民待遇ヲ与ヘラルルヲ以テ今日國際上ノ通則トナストノ主張ヲ否認シ其理由トシテ外國入土地所有問題ニ関シ合衆國ニ於テ行ハル慣例ヲ援用シ且「合衆國ト遺般ノ條約(即明文又ハ最惠國條款ノ適用ニ依リ土地ヲ所有スルノ權利ヲ許スル條約)ヲ有セサル國ノ人民ハ合衆國內ニ於テ土地ヲ所有スルノ權利ヲ享受スルヲ得ス」ト附言セリ

右國務長官ノ所説ハ帝國政府ノ一驚ヲ喫シタル所ニシテ帝國政府ヲシテ到底何ノ意タルヤヲ了解スル能ハサラシムルモノナリ何トナレハ該所説タル當ニ本件ノ問題タル加州法律ト直ニ衝突シ且條約ノ規定ニ由ラスシテ外國人ニ土地ノ所有ヲ許ス合衆國中他ノ諸州ノ法律ト相容レサルノミナラス又実ニ合衆國政府力屢次事實トシテ承認シタル本件差別的待遇ヲ以テ不服ヲ唱フルノ理由ナシト宣言スルモノナレハナリ

如此事情ナルヲ以テ右ノ所説ニ對シテハ帝國政府ハ唯其ノ前來ノ主張即チ加州立法ノ結果當ニ不動產所有ニ關シ合衆國ト條約上ノ取極ヲ有セサル國ニ屬スル外人ノミナラス合衆國ト全然通商條約ヲ有セサル國ニ屬スル外人ニ對シテモ亦自由ニ不動產ヲ所有スルノ權利ヲ付与セラルル同一ノ地方ニ於テ日本臣民ハ独リ右ノ權利ヲ拒絶セラルルモノナリトノ論旨ヲ繰返ヘスヲ以テ足レリト信ス

次ニ本大臣ハ墨國事件ニ關シ合衆國ハ結局實際ニ於テ其ノ主張ヲ放棄スルノ不得已ニ至レリト「ブライアン」氏ノ所見ハ之ヲ該事件ノ記錄ニ照シ帝國政府ノ同意スルヲ得サルモノナルコトヲ言明セント欲ス合衆國ト墨西哥國トノ間ニ交換セラレタル公文ヲ自然ノ順序ニヨリ査閱スルニ於テ

私權ノ享有ニ關シ日本ニ於テ合衆國人民ニ与フルニ何等ノ區別モ條件モナキ完全ニシテ且ツ無缺ナル最惠國待遇ヲ以テス而シテ帝國政府ハ右ノ待遇ニ對シ何等ノ變更ヲモ加フルノ意思ヲ有スルモノニアラス帝國政府ノ要求スル所ハ一ニ公平ニシテ均等ナル待遇ニ在リ豈其ノ他ヲ望マンヤ

將又國務長官ハ合衆國ニ移住スル労働者問題ニ就テ縷説スル所アリ施テ合衆國ニ於テ存在スルト稍々類似セル事情ノ下ニ日本ノ執リタル措置ニ言及セラレタリト雖何カ故ニ斯ル解説ノ必要アルヤハ帝國政府ノ了解ニ苦ム所ナリ

移民問題ハ當面ノ爭議ト何等ノ交渉ナシ從テ茲ニ之ヲ援引スルハ徒ラニ問題ノ真相ヲ曖昧ナラシムルニ過キス斯ノ點ハ本大臣ノ極メテ的確ニ言明シ置カムト欲スル所ナリ今ヨリ四年有余以前帝國政府ハ日本ヨリ合衆國ニ移住スル労働者取締ノ為適當ノ措置ヲ執ルノ件ニ關シ快ク米國政府ニ協力スル所アリシカ右ノ措置ハ能ク其ノ効ヲ奏シ過去三ヶ年間ニ合衆國ヲ去レル日本労働者ノ數ハ同期間ニ入國シタル者ノ數ヨリ遙ニ大ナルモノアルノ事實ヲ示セリ而シテ右帝國政府ノ勵行セル米國行労働移民制限及取締ノ満足ス可キモノタルハ合衆國政府ノ明白ニ承認セル所ニシテ帝國政府カ斯卡ル制限及取締ヲ從來ト均シク有効ニ維持スルノ覺悟

ハ「ブライアン」氏ノ引用セル該事件當時ノ國務長官ノ所説ハ決シテ之ヲ以テ一旦ノ弁論ナリト解スベキニアラスシテ關係ノ事實ヲ知悉シタル後熟考ヲ經テ合衆國政府ノ到著シタル結論ナリト看做ササルヘカラストノ信念ハ到底動カシ得ヘキニアラサルナリ

又千九百十一年ノ條約（現行日米條約）締結當時ノ商議ニ關スル「ブライアン」氏ノ所言ハ傾聴スルノ必要ナキカ如シ右ニ對シテハ該條約中ニ土地所有ニ關スル規定ノ挿入セラレサリシハ日米兩國共ニ齊シク斯ル規定ノ挿入ヲ希望セサリシカ為メノミトイフヲ以テ十分ナリト信ス内田子爵カ千九百十一年二月二十一日附書面ニ於テ日本土地法ニ關シ其ノ寬大ナル解釈ニヨル保證ヲ与ヘタルハ該土地法中相互條件ノ規定アルノ故ヲ以テ合衆國ノ之ヲ請求シタルカ為ニシテ右ノ保證ハ同子爵ノ書面ニ記載セルカ如ク「合衆國內ノ諸州ノ法律ニ依リ日本人ニ付与セル土地所有權ノ代價トシテ」与ヘラレタルモノナリ

外國人土地所有ニ關スル日本法律ノ規定ハ必シモ寬大ナラストセス少クトモ如何ナル場合ニ於テモ又如何ナル方法ニ於テモ合衆國人民ニ對シ斷シテ不利ナル差別的規定ヲ存スルコトナク却テ土地所有ニ關スル總テノ問題并ニ爾余各種

ヲ有スルノ事實ハ曩ニ千九百十一年ノ條約締結ニ當リ華盛頓駐劄日本大使カ本國政府ノ委任ヲ受ケテ宣言シタル所ナリ故ニ世上ノ誤解ヲ匡シ且ツ之ヲ一掃センカ為本大臣ハ茲ニ日本労働者ノ合衆國移住ノ件ニ關シテハ日米兩國ノ間ニ何等ノ問題存在セサルコトヲ言明セント欲スルモノナリ

現下ノ爭議ハ專ラ現ニ適法ニ合衆國內ニ在住シ又ハ現行法規ノ範圍内ニ於テ將來適法ニ在住スルコトアル可キ日本臣民ノ待遇如何ノ問題ニ關ス而シテ上ニ述フル如キ帝國臣民ノ關スル限リ帝國政府ハ之ニ對シ公平ニシテ均等ナル待遇ヲ要求スルモノナリ從テ本件ノ問題タル不當ニシテ嫌疑スヘキ差別的待遇ニ服從スル能ハサルハ勿論苟モ現事態ノ存続スル限リ本問題ハ決シテ解決セラレタルモノニアラスト認ムルモノナリ

閣下ハ國務長官ニ對シ本電訓ノ趣旨ヲ説明シ且其ノ写ヲ交付セラル可シ

三五三 八月二十三日 在桑港沼野総領事代理ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

加州在留邦人ノ試訴提起ニ関スル新聞報ノ出所

ニ付査報ノ件

第二四五号

本官宛在米大使宛第二三二二号

往電第二三二二号ニ関シ南加日本人会ヨリノ続報ニ依レハ「デスト、ケース」ヲ提起スヘシト伝ヘラレシ谷口ナルモノノ所在ハ未タ突止メ得サルモ今回ノ新聞記事アリタル所以ハ弁護士カ同人ヲ伴ヒ郡役所ニ出頭シ日本人力為シタル土地売買登記ヲ受理スルヤ否ヤト質問ヲナシ居タルヲ其場ニ居合セタル某米國新聞探訪者カ誇張シ報道シタルニ由ルモノナルヘシトノコトナリ尚谷口ノ住所ハ Long Beachナリトノコトニテ日本人会ニテハ引続キ書記ヲ特派シ其所  
在搜索中

大臣ヘ電報ス

ナキモノト認メラルルヤト問ヒタルニ付本使ハ之ニ対シ今回ノ弁駁ハ米國政府ノ回答中差当リ默過シ難キ論点ヲ挙ゲタルモノニシテ右提案ニ関シテハ他日改メテ意見ヲ開陳スル所アルベク本使ノ感想ニ依レバ日本國政府ハ之ヲ全然拒絶スルノ意ニ非ザルモ該案ノミニテハ本件ヲ解決スルニ十分ナラズト認メ別ニ協約案ヲ提出シタルコトト察セラルル旨ヲ答ヘ右協約問題ニ移リ日本國政府ニ於テ此ノ上交渉ヲ久シク遷延ニ附スルコト能ハザル事情ヲ繰返シ國務長官ノ注意ヲ喚起シタルニ同官ハ近來墨西哥事件ニ関シ大統領ノ多忙ナルコトヲ述ベ尤モ可成速カニ機會ヲ見計ヒ大統領ト更ニ本案熟議ヲ遂ゲタル上ニテ米國政府ノ意向ヲ通報スベシト約セリ

三五五 八月三十日 牧野外務大臣ヨリ  
在米國珍田大使宛(電報)

加州問題ニ関シ米國政府ノ提案及仲裁裁判ニ付

訓令ノ件

第二一三号

貴電第二二二二号ニ関シ米國政府ノ提案ニ関スル國務長官ノ

一 加州ノ外國人土地法案及日本政府ノ抗議關係 三五五

三五四 八月二十六日 在米國珍田大使ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

加州問題ニ関スル我第三回抗議書提出並國務長

官ト会谈ノ件

第二六二号

八月二十六日國務長官ト会見シ貴電第二二二二号ノ旨ヲ開陳シ其享ヲ交シタル処同官ハ右閱讀ノ上前段ニ“in favor of the subjects and citizens of all the other powers with which the united states maintain reciprocal treaty relations”トアルヲ指摘シ日本政府ニ於テハ恰モ日本以外ニ本法ニ依リ不利益ノ地位ニ置カルル國ナキモノト思考セラルル如キモ本法ノ為ニ影響ヲ蒙ルハ単ニ日本ノミナラズ支那モ亦同一ナラズヤト論ジタルニ付本使ハ支那ハ米國ト相互條約關係ヲ有スルヤト反問シタルニ同官ハ能ク記憶セズト答ヘタルニ付本使ハ苟モ米國ト相互條約關係ヲ有スル國ニシテ本法ノ影響ヲ蒙ルモノハ事實上日本ノミニ止マル如ク日本國政府ノ見解モ亦此ニ在ルモノト察セラルル旨ヲ述ベ置キタリ國務長官ハ又右貴電ニハ米國政府前回ノ回答中ニ掲ゲタル本件解決ノ提案ニ関シ何等言及シタル所ナキヲ注意シ右提案ハ日本國政府ニ於テ考量ノ余地

間ヒニ対シテ貴官ノ答ヘラレタル所ハ当方ノ意見ナルニツキ今後本件ニツイテハ右ノ御含ニテ必要ノ場合ハ可然応答アリタシ  
將又加州問題ヲ「アービトレーション」ニ附スルノ件ハ政府ニ於テ何等詮議アル次第ニハアラサルモ加州問題ノ性質上之ヲ仲裁裁判ニ附スルハ米國政府ニ於テ好マサルトコロナルヘク去レハトテ之ヲ拒絕スルハ「ブライアン」氏ノ主張ニ矛盾スルヲ以テ日本政府ヨリ如此提議ヲナスニ於テハ不少「ブライアン」氏ヲ困惑セシムルナルヘク随テ米國政府カ当方提議ノ協約案ニ考量ヲ与フルノ時期ヲ幾分早ムルノ効果ナキニアラサルヘキカト思ハルル処貴官ニ於テ不同意ナクバ適當ノ機會ニ於テ全然貴官一個ノ私見トシテ加州問題ニ関シ萬一不幸ニシテ到底解決ノ望ナキニ於テハ日本政府ハ場合ニヨレハ本問題ヲ「アービトレーション」ニ附スルノ提議ヲナスヤモ難計旨ヲ述ヘラルベシ

三五六 九月 七日 在米国珍田大使ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

加州問題ニ関シ「ガスリー」ノ意見ノ結論要旨

報告ノ件

別 電 同日珍田大使宛牧野外務大臣宛電報第二六九  
号

右結論要旨

第二六八号

往電第二五四号ニ関シ九月六日「ガスリー」ヨリ結論ノ要旨ヲ報告シ来レルニ付殆ント原文ニ近キ摘要ニ改メ別電ニテ進達シ全文ハ郵送ス尚右ニ関スル説明書ハ同人頗ル多忙ノ為十月中ナラテハ提出ノ運ニ至ラサル趣ナリ  
在桑港総領事代理ノ郵送ス

(別 電)

九月七日珍田大使宛牧野外務大臣宛電報第二六九号

加州問題ニ関シ「ガスリー」ノ意見ノ結論要旨

No. 269. Betuden.

Counsel submits following summary what in his opinion would probably be adjudicated by the Courts of United States if litigation should be instituted on behalf of Imperial Government, or

of Japanese subject injuriously affected by operation of California statute:

"1. That Japanese subjects are not eligible to naturalization and citizenship under the present laws of United States and are not, therefore, within purview of section 1 of the California statute in question, although their children, if born within the jurisdiction of United States, will be citizens of United States.

2. That whatever rights, privileges or immunities are granted and secured to Japanese subjects under the Treaty of February 21, 1911, between the Empire of Japan and United States, will continue in every respect unimpaired and in full force and effect by virtue not only of the terms of California statute itself but of the Constitution of United States which provides that all treaties shall be part of supreme law of the land, anything in any state constitution or statute to the contrary notwithstanding.

3. That the treaty of 1911 does not grant or secure to the citizens or subjects of each of High Contracting Parties liberty, right or privilege of

dict with Treaty of 1911 or with Fourteenth Article of Amendment to Constitution of United States.

7. That the Treaty of 1911 does not secure to the citizens or subjects of respective High Contracting Parties equality of treatment or what is known as the most favoured nation treatment in respect of acquisition, holding, or disposition of real property used for agricultural purposes, and that no such right can be asserted or is to be implied under any established principle of international law.

8. That the provisions of California Statute do not deny to subjects of the Empire of Japan equal protection of the laws within the scope or in violation of Fourteenth Article of Amendment to Constitution in United States."

In reaching conclusions above summarized, Counsel has assumed that in any litigation that might be instituted, Government of United States, if a party, would contend, or if not a party, could be cited as asserting, that California statute does not conflict with the Treaty of 1911. Courts may

owning or leasing lands for agricultural purposes in the territory of the other, although it does grant and secure to them liberty, right or privilege of owning or leasing and occupying houses wherever situated.

4. That in so far as any subjects of the Empire of Japan have heretofore duly acquired vested interests in real property situated in State of California, these property interests cannot now be divested by the above or any similar state legislation.

5. That the provisions of California statute, in denying to Japanese subjects right or privilege of inheriting real property or of devising it to aliens not eligible to naturalization, do not conflict with provisions of Treaty of 1911, and are valid as to real property acquired by Japanese subjects in California, including real property heretofore acquired by Japanese subjects whether under the Treaties of 1894 and 1911, or otherwise.

6. That the provisions of California statute applicable to companies, associations, or corporations described in section 3 thereof do not con-

properly be influenced by the attitude of their own Government as one of the High Contracting Parties to said treaty, and as the United States Government cannot reasonably be expected to recede from position which it has hitherto maintained, it seems undesirable from Japan's standpoint that efforts should be to induce American Government to intervene in any litigation in which such treaty questions are at issue. In regard to procedure in courts, Counsel is not yet prepared to advise as to the various ways in which litigation might be instituted a State of United States or officers of a State to restrain enforcement of a State law alleged to be in violation of treaty provisions or of United States Constitution. If such suit were about to be brought by Japan, it would be advisable that the basis of litigation should be some threatened and immediate adverse action under the California statute by the Attorney General of that State. This would meet requirement of the rule which judicial power should act only upon real and pending subjects of controversy rather than upon moot questions which may never

arise in practical experience. In any case, policy of instituting litigation on behalf of Imperial Government or of aggrieved Japanese subject involves serious considerations concerning which Counsel does not venture to make any suggestions. Imperial Government will appreciate that the outcome of litigation would be doubtful if the United States Government contended that the Treaty had not been violated, and that redress might be more promptly and appropriately obtained by means of new treaty covering points of Japan's grievance.

Chinda

(右和訳文)(註 日本外務省作成)

## 第二六九号

弁護士「ガスリー」氏ノ鑑定ニ依レハ帝國政府又ハ加州土地法ノ実施ニ依リ損害ヲ被リタル日本人力訴訟ヲ提起シタリトセハ之ニ対スル合衆国裁判所ノ判決ハ多分左ノ如クナル可シ

一、合衆国ノ現行法ニ拠レハ日本臣民ハ帰化ニ依リ市民籍ヲ取得スルヲ得ス故ニ加州土地法第一條ノ範圍内ニ屬スルモノニアラス尤モ合衆国法境内ニ於テ出生シタル日本

臣民ノ子ハ合衆国ノ市民タルヘシ

二、千九百十一年二月二十一日ノ日米條約ノ下ニ日本臣民ニ許与シ享有セシメタル權利、特權又ハ免除ハ其ノ如何ナルモノタルヲ問ハス凡テ舊ニ加州法律ノ規定ニ依リテノミナラス併セテ一切ノ條約ヲ以テ国内ノ最高法律ノ一部分ナリトシ合衆国内各州ノ憲法又ハ法律中之ニ反スルモノハ凡テ無効ナリト規定セル合衆国憲法ノ力ニ依リ聊カモ減損セラルルコトナク且十分有効ニ保護セラルルモノナリ

三、千九百十一年ノ條約ハ締約国一方ノ人民又ハ臣民ニ他方ノ領土内ニ於テ家屋(其ノ所在ノ如何ヲ問ハス)ヲ所有シ又ハ賃借シ及占有シテ之ヲ使用スルノ自由、權利又ハ特權ヲ許与シ享有セシムト雖農業上ノ目的ノ為ニ土地ヲ所有シ又ハ賃借スルノ自由、權利又ハ特權ハ之ヲ許与シ又ハ享有セシメス

四、日本帝國臣民カ從來加州内ニ於ケル不動産ニ関スル既得權ヲ正当ニ取得シタル以上此等既得ノ財産權ハ上記加州土地法又ハ何等同様ノ州法ノ為ニ剝奪セラル可キモノニアラス

五、不動産ヲ相続シ又ハ帰化ヲ許サレサル外國人ニ之ヲ遺

贈スルノ權利又ハ特權ヲ日本臣民ニ対シ拒絶スル加州土地法ノ規定ハ千九百十一年ノ條約ノ規定ニ抵触スルモノ

ニアラスシテ加州ニ於テ日本臣民ノ取得シタル不動産(其千八百九十四年及千九百十一年ノ條約ノ下ニ取得シタルト又ハ別ニ取得シタルトヲ問ハス)ニ対シ有効ナルモノナリ

六、加州土地法第三條ニ掲クル会社ニ関スル規定ハ千九百十一年ノ條約又ハ合衆国憲法修正第十四條ノ何レニモ抵触スルモノニアラス

七、千九百十一年ノ條約ハ締約国各方ノ臣民又ハ人民ニ対シ農業上ノ目的ノ為ニ使用スル不動産ノ取得、占有又ハ処分ニ関シ均等待遇即チ所謂最惠國待遇ヲ保證スルモノニアラス而シテ國際法上ニ認メラレタル如何ナル原則ニ照ラスモ這般ノ權利カ其中ニ含蓄セラレ又ハ之ニ依リテ主張スルコトヲ得可シトハ考ヘラレサルナリ

八、加州土地法ノ規定ハ合衆国憲法修正第十四條ノ意義ニ於ケル法律ノ均等ナル保護ヲ日本帝國臣民ニ拒ムモノニアラス

叙上ノ結論ニ達スルニ付テハ「ガスリー」氏ハ本件ニ関シ提起セラル可キ如何ナル訴訟ニ於テモ合衆國政府ハ若シ自



ラ当事者タル時ハ必スヤ加州法律ノ千九百十一年ノ條約ニ抵觸スルモノニアラサルヲ主張ス可ク又自ラ当事者タラサル場合ニ於テモ尚右合衆国政府ノ見解ハ引用セラル可キヲ假定シタルモノナリ抑モ裁判所カ該條約締結一方ノ当事者タル自国政府ノ態度ニ依リ勸力サルルハ当然ノ事ニシテ又合衆国政府トシテハ其是迄支持シ来リタル地歩ヨリ退クコトヲ難シトス可キカ故ニ日本側ノ見地ヨリスレハ這般條約上ノ問題ヲ包含スル訴訟ニ関シテ合衆国政府ノ干渉ヲ誘致スルハ不得策ナルヘシ

訴訟手續ニ関シテハ條約又ハ合衆国憲法違反ノ廉ヲ以テ州法ノ実施ヲ妨止スル為合衆国内ノ一州又ハ州ノ官憲ニ對シ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ル種々ノ方法アルモノニ付「ガスリー」氏ハ未タ意見ヲ提出スルノ準備ヲ有セス尤モ若シ日本ニシテ近ク訴訟ヲ提起ス可シトセハ加州土地法ノ下ニ直ニ日本人ノ不利益トナル同州司法長官ノ処置ヲ提ヘテカ基礎トナスヲ以テ得策トス可シ是司法權ハ實際ニ於テハ決シテ起ルコトナカル可キ擬題ニ對シテ行使セラルルヨリハ寧ロ現實當面ノ事件ニ向テノミ行使セラル可シテフ原則ニ適合スルモノナレハナリ何レノ途本件ニ付帝國政府又ハ被害日本臣民ニ於テ訴訟ヲ提起セントスルノ方案ハ重大ナ

ナリトノ加州知事ノ意見モコレアルニツキ旁博覽會ノ參同ハ寧ロ見合ハスコト政府ニ取り利益且安全ナランカトモ思考セラルル処一方ニ於テハ近々米國政府ヨリ勸誘委員ノ渡来アル趣ナルノミナラス博覽會々社ニ對シテモ亦本邦出品者側ニ對シテモ最早政府ノ態度ヲ定ムルコト必要ナル処前陳ノ事情アルニツキ一ハ米國政府ヲシテ我政府ノ博覽會參同ニ関シ態度ヲ決定スルノ困難ナルヲ知ラシムル為メ一ハ幾分我態度決定ノ參考トモナサンカ為メ貴官ハ國務長官ニ面會ノ際可然前記困難ノ次第ヲ述ヘ明後年加州議會ニ於テ各種ノ問題ニ関スル排日案現出ノ有無ニツキ政府ノ見込ヲ尋ネ當局ノ態度ト共ニ電報アリタシ

三五八 九月二十一日 在米國珍田大使ヨリ  
牧野外務大臣宛（電報）

桑港博覽會參同問題ニ関連シ加州排日法案防止  
方ニ付國務長官ト會談ノ件

第二八二号

貴電第二二四号ニ関シ次回ノ加州議會ニ排日法案提出ノ有無ニ付國務長官ニ問合スモ同官ニ於テ何等見込ヲ立テ難カ

一 加州ノ外国人士地法案及日本政府ノ抗議關係 三五八

ル考慮ヲ要ス可ク「ガスリー」氏ノ何等助言ヲ敢テスルヲ欲セサル所ナリ但シ若シ合衆国政府ニシテ本件ヲ以テ條約違反ニアラスト抗論スルニ於テハ訴訟ノ結果ハ疑ハシキモノアル可ク而シテ日本ノ不服トスル所ノ諸点ヲ包括スル新條約締結ノ途ニ出ル方更ニ迅速且適當ナル救済方法タル可キハ帝國政府ノ了セラルル所ナラム

三五七 九月十九日 牧野外務大臣ヨリ  
在米國珍田大使宛（電報）

桑港博覽會參同問題ニ関連シ各種排日案現出有  
無ノ見込國務長官ニ尋ネラレタキ件

第二二四号

往電第二一六号并貴電第二七〇号前段ニ関シ協約案成立ノ見込確實ナレハ明後年加州議會排日案ノ件ハ土地所有ノ件ニ関シテハ問題トナラサルモ協約案目下ノ狀態ニテハ未タ的確ナル見込立タス隨テ其時ニ至リ又々排日案ノ提出ナキヲ保シ難キノミナラス仮ニ協約成立スルトモ條約ノ規定以外ノ事柄ニ関シ如何ナル排日案出現スルヤモ計ラレス加フルニ沼野領事ヨリ貴官ヘ電報ノ答ナル排日案ノ防止不可能

ルベク又假令其一己ノ見込ヲ内話スルモ我ニ於テ將來之ヲ米國政府ノ言質トシテ利用スルヲ得ザルベク何レニスルモ國務長官ノ見込ヲ信賴シテ博覽會ニ對スル態度ヲ決スルノ危險ナルハ言ヲ待タズ從テ貴電第二一六号結局ノ御趣意ハ日本國ニ於テ何等排日法案防止ノ保障ヲ得ザル限りハ博覽會參同ヲ實行スルニ困難ナル事情ヲ米國政府ニ了解セシムルニ外ナラサルコト察シ九月九日國務長官トノ會見ニ於テハ此趣旨ヲ以テ同官ノ注意ヲ促シタルコト既報ノ通りナル所今回御電訓ニ依レバ現ニ加州知事ニ於テ排日立法防止ノ見込ナキコトヲ斷言セルニ拘ハラス尚國務長官ノ見込ヲ突止ムベシトノ御趣意ナルガ如ク因テ本使ハ九月十一日國務長官ト會見ノ際更ニ本件ニ言及シ博覽會ニ對スル日本國政府ノ立場並ニ若シ日本國ガ博覽會ニ參同ヲ實行セル上排日法案ノ加州議會ニ顯ハルルガ如キコトアラバ日本國政府ハ國民ニ對シ極メテ困難ナル地位ニ陥ルベキ事情ニ関シ前回ノ談話ヲ繰返シ之ヲ豫防スルノ方法ニ関シ所見ヲ求メタルニ國務長官ハ此事情ハ深ク之ヲ諒トスル所ニシテ或ハ本使ノ顧慮スルガ如ク實際次回ノ加州議會ニ排日法案ノ提出ヲ見ルコトナキヲ必シ難ク米國政府ニ於テハ有効ニ之ヲ防止スルノ適法手段ヲ有セズ殊ニ加州議會ハ一九一五年

ノ会期迄ニハ議員改選新議會ノ形勢ハ今ヨリ豫測スル能ハスト答ヘタルニ付本使ハ目下交渉中ナル協約ノ締結ハ最も有効ニ之ヲ防止シ得ヘキコト言フ要セサルモ其差向ノ方法トシテハ第一聞ク所ニ依レハ加州ニ於ケル「デモクラット」黨首領ノ一人タル「ベル」ノ如キハ次回ノ会期ニ於テ現行法ヨリモ一層極端ナル排日法案ヲ提出スヘキコトヲ現ニ唱道シ居ル趣ナルカ同氏ニ對シテハ現政府ヨリ威圧ヲ加フルノ途アルヘク第二加州方面ニ於テハ歐洲諸國ニ對シ博覽會參同勸誘ノ為「ルーズヴェルト」氏ヲ推薦セントシ國務省ノ斡旋ヲ求メタルヤノ新聞報道アリ果シテ事實ナラハ國務省ニ於テハ此機會ヲ利用シ右斡旋ヲ承諾スルヲ條件トシテ排日法案ノ提出ヲ避クヘキコトヲ加州ニ求メラルルモ一方法ナラスヤト述ヘタル所國務長官ハ「ベル」ハ「デモクラット」党内ノ異分子ニシテ現政府ニ對シ反感ヲ抱キ國務長官ノ説諭ニ服スルモノニアラスト内情ヲ説明シ「ルーズヴェルト」氏ノ一件ニ就テハ過日博覽會会社ヨリ同氏ヲ歐洲ニ對スル勸誘委員ニ囑託セントテ交渉中ナルカ若シ同氏ノ応諾スルニ至ラハ國務省ニ於テ日本國ニ對スル勸誘委員ト同様ノ委任狀ヲ發給セラルヘキヤトノ問合アリタルヲ以テ國務省ハ異議ナキ旨ヲ（脱）タルニ止マリ中央政府

スル職業モ亦迫害ノ目標トナル處アリ而シテ前記ノ職業ニ從事スル在留本邦人鮮シトセサルニ付若シ之等ニシテ直接間接ヲ問ハス制限又ハ禁止セラルコトナラハ其實害ハ重大ナルモノアルヘシ就テハ出来得ヘクンハ將來土地ニ關スル所有、賃借其他ノ權利ノ外前記ノ職業ニ對シテハ包括的ニ最惠國待遇ヲ保障スル取極ヲナシ得ハ至極好都合ナルヘシト存ス

尚加州ニ於ケル在留日本人ノ実情トシテハ法人トシテヨリモ自然人トシテ土地ニ關スル權利ヲ享有スルモノ今尚多數且重要ナルニ付最惠國待遇ヲ渺クトモ現在土地ニ關スル權利ヲ享有スルモノ（法人自然人ヲ問ハス）全部トシテ普及セシムル模取極ヲナスコト甚タ必要ナリト存ス  
右心附ノ儘卑見申進ス  
大臣ヘ電報ス

三六〇 九月二十七日 在桑港沼野總領事代理ヨリ  
牧野外務大臣宛（電報）

亞細亞人排斥同盟會解散等ニ關シ報告ノ件

第二六〇号

九月二十六日博覽會々社長代理「ヘール」氏ノ請ニ応シ会见シタルニ同氏ハ亞細亞人排斥同盟會ヲ解散スルコトニ関

カ何等ノ條件ヲ加州ニ提出スヘキ余地アルニアラサル旨ヲ述ヘタリ之ヲ要スルニ國務長官ニ於テハ今日排日立法ノ防止ニ關シ何等適確ナル保障ヲ与フル意ナク又其方法モナキコトト思考ス博覽會參同実行ノ当否ニ就テハ追テ卑見稟申スヘシ

三五九 九月二十六日 在桑港沼野總領事代理ヨリ  
牧野外務大臣宛（電報）

加州議會ニ提出ノ排日法案豫測ニ關スル件

第二五八号

本官發在米大使宛電信左ノ通

第二四七号

閣下宛外務大臣來電第二二四号所載ノ明後年加州議會ニ提出セラルヘキ排日案ニ付本年州會ノ形勢其他ニ基キ愚考スルニ現行土地法ニ於テ許与セラルル農業借地權禁止ヲ初メ日本人ノ漁業洗濯業等禁止制限ヲ直接間接ヲ問ハス其目的トスル法案多分提出セラルヘク尚又現行日米通商條約第一條ノ保障アル商業以外ノ職業殊ニ旅館、飲食店、遊藝業、雇人口入其他ノ実業又ハ勤勞供給ヲ目的ト

スル卑見ヲ求メタルニ付本官ハ解散甚タ可ナリ然レトモ同會カ昨今萎靡不振ノ位置ニアリ其消滅亦遠カラサルヤニ伝聞シ居レハ同會解散ノ一事ノミニテハ本邦人心ノ満足ヲ買フ能ハサルヘシト答ヘタルニ同氏ハ更ニ勞働派ヲシテナサシムヘキ決議草案ヲ示シタルカ其要領ハ巴奈馬運河ハ米國勞働ノ紀念スヘキ大功績ナルヲ以テ其紀念ノ為ニ催サルル博覽會ニ來觀スル世界各國ノ「ヴキジター」ニ對シ米國勞働ヲ代表スル「ユニオン」ハ其名譽威嚴ノ為ニ十分ノ欲待ト尊敬トヲ以テ之ヲ遇スヘキコトヲ決議スト云フニアリ同氏ハ右ニ對シ卑見ヲ求メタルニ付本件ノ決議ハ甚可ナルモ本邦人カ果シテ斯ル漠然タル決議ニ満足スヘキヤハ決議ノ成立發表ニヨリ本邦人心ニ与フル影響ヲ見タル上ナラテハ斷言シ難シト答ヘタルニ同氏ハ更ニ博覽會々社トシテ右以外ニ果シテ如何ナルコトヲナシ得ヘキヤ妙案アラハ申入ラレタシト云ヘルニ付本官ハ差当リ何等申入ルヘキコトナシ唯加州ノ排日立法及待遇ニ對シ何等有効ナル證言ナクハ本邦人心ハ參同ニ躊躇スル方向ニ進ムヘシ尤モ本官ニ於テ思付ノコトアラハ他日申出ルコトアルヘシト答ヘ置ケリ  
大使ヘ電報ス

三六一 十月二十五日 在桑港沼野總領事代理ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

加州博覧会来觀者ノ待遇等ニ関スル亞細亞人排  
斥同盟会等ノ決議報告ノ件

第二七二号

十月十八日附ニテ博覧会々社長代理「ヘール」ヨリ左記ノ  
決議三通ヲ送越タリ(一)博覧会来觀者待遇ニ関スル Californian Exclusion League ノ決議ニシテ其要領左記同決議末  
段抜萃ノ通ナリ

Be resolved that as representatives and individual members of (脱字) organized by workers, we extend visitors of all nations and races the courtesy and hospitality demanded by the importance and dignity of the occasion and by the obligations naturally devolving upon those who act as hosts

(二)モ同シク Californian Exclusion League ノ決議ニシテ其要領ハ同会ハ其会員ノ見ル所ニ依レハ既ニ其目的ヲ達シタルモノニシテ将来其事業ヲ継続スルハ勞費ヲ償ハス依テ爾後其事業ヲ停止スル discontinue business activity コトトシ会ノ財産ハ一切債権者ニ交付スト云フニ在リ

(三) San Francisco Building Trade Council ノ決議ニ

愚考スルニ勞働派ハ土地法制定サヘモ之ヲ緩慢用ヲ為ササルモノナリト罵リ又日本ノ博覧会参同ト否トノ如キハ問題ニ非ラスト言明シ居レルモノナルニ今回上記ノ如キ決議ヲ採用シタルハ一見其意ヲ得サル次第ナルモノ之ヲ要スルニ「ヘール」等ノ運動ノ結果ナルヘシ(往電第二二六〇号参照)但シ右決議実行ニ関シテハ効力ヲ最現実ニ發生スヘキ博覧会開期迄ニハ未タ年月アルヲ以テ今ヨリ之ヲ豫測スルコト難シ又仮リニ右決議カ遵奉セラルルモノトスルモ之ニ依リ日本人カ如何ナル待遇ヲ受クヘキヤ決議ノ趣旨ハ前記ノ通り漠然タルノミナラス他ニ特別ノ「アンダースタンディング」アリヤ否ヤヲ知ラサレハ是亦豫測シ難シ  
大使ヘ郵報ス

三六二 十一月二十八日 牧野外務大臣ヨリ  
在米國珍田大使宛

加州土地法ト本邦人所有不動産処分權トノ抵触

ニ関スル件

通機密送第一五二号

北米合衆國ニ於テ條約ニヨリ一旦取得シタル權利ハ之カ存

シテ其趣旨文章共ニ前記(一)ト同シ

依テ右決議成立ノ事情ヲ内密探索セシメタルニ右決議中(一)及(二)ハ去ル九月二十九日前桑港市長ニシテ当地方勞働派首領タル MacCarthy 及博覧会一重役「ヘール」ノ事ナル

ヘシ)ノ依頼ニ依リ招集セラレタル Californian Exclusion League ノ提議ニ依リ殆ント何等議論ナク満場一致ヲ以テ採用セラレタルモノニシテ(三)ハ本月二日同シク MacCarthy 司会ノ下ニ開催サレタル San Francisco Building Trade Council 通常会ニ於テ何等議論モナク満場一致ヲ以テ通過シタルモノナル由ナリ

尚 Californian Exclusion League 会長タリシ Tyeitmoee ハ我内偵者ニ対シ上記決議ハ諸外國ニ対スル博覧会参同勸誘ヲ容易ナラシムルヲ目的トシテ勞働派カ其防害ヲ為ササルヘキ意ヲ明ニシタルモノニシテ又 Californian Exclusion League ノ事業停止ハ単ニ其活動ヲ止メタル意ニ過キス移民問題ハ依然其注意スル所ニシテ目下日米兩國間ニ存スル協約ハ十分ニ同会ノ目的ヲ達シツアルカ如キモ若シ必要ノ場合アラハ同会ハ何時ニテモ其活動ヲ再開シ得ヘシ尤モ差当リ斯ル目論見アルニアラス云々ト語レリト  
上記三決議ハ何故カ今日迄ノ処公表セラレ居ラス

続ノ為メ其權利ヲ付与シタル權原ノ繼續ノ存在ヲ必要トセサルハ幾多ノ判決例殊ニ「シラック対シラック」事件ニ於テ高等法院ノ断定シタル所ニ係リ自然日米旧條約ニ由リ保障セラレタル本邦人ノ不動産処分權ハ新條約ノ旧條約ニ替ハリタル今日ニ於テモ旧條約時代ニ本邦人ガ獲得シタル不動産ヲ他ノ本邦人ニ讓渡ス場合ニ於テ存続スルモノト認ムルハ当然ノ見解ナルベク而シテ旧條約ノ下ニ於ケル本邦人ノ不動産処分權ハ内國民待遇若クハ最惠國民待遇保障ノ下ニ内國民若クハ最惠國民ノ享有スルコト同等タルベキモノナレバ旧條約時代ニ本邦人ガ取得シタル不動産ニ関スル限り本邦人ハ今日ニ於テモ自由ニ之ヲ処分シ得ベキモノタルハ正当ニ推論サレ得ベキ所ナリト被相考候然ルニ加州土地法ノ規定ニ由レバ本邦人ハ旧條約ノ下ニ取得シタル不動産ヲ他ノ本邦人ニ讓渡スルコトヲ得ザルコト、相成居リ此点ニ関シ「マックスウェル」氏等法律顧問ハ日本人ニ不動産ヲ讓渡スコトヲ禁セラレタルハ独リ日本人ノミナラス如何ナル外國人又ハ米國人タルトニ拘ハラズ均シク禁セラレ居ル次第ナレハ其間毫モ区別的待遇ナシ從ツテ旧條約ニシテ良シ今日存続スルトモ加州土地法ハ之ト抵触スルトコロ無キガ如シト断シ去リタリ此議論一見論理ニ適フ

如ク見ユルモ其実極メテ不合理ナル断定ナルカ如シ何トナレハ苟モ本邦人ヲ區別シテ加州ニ於テ土地ヲ所有スル能ハストイハ、日本人ノミナラス何人モ同様本邦人ニ土地ヲ売渡ス能ハサルハ当然ノコトニシテ此事実其モノガ則チ區別の待遇ナレハナリ現ニ米国人又ハ他ノ外国人ハ加州ニ於テ其不動産ヲ自由ニ自国人ニ譲渡シ得ルニ反シ日本人ハ之ヲ自国人ニ譲渡スコト能ハス則チ旧條約ニハ不動産ノ処分方法ニ關シテハ全然内国民同様又ハ最惠国民ノ取扱ヲ受クヘキ規定ニテアリナガラ此場合本邦人ハ其不動産ヲ処分スルニ自国人ニ譲渡スノ一方法ヲ缺ク以上ハ加州土地法ハ断シテ日本人ニ對シ内国民又ハ最惠国民ノ待遇ヲ与フルモノトイフヲ得ス随テ該法律ハ直ニ旧條約ノ保障スルトコロニ悖戻シ條約違反タルヲ確證スルモノト思惟致サレ「クラーク」氏モ单独意見トシテハ前顯ノ断定ヲ以テ非論理ナリトシテ痛ク之ヲ駁撃シ其條約違反タル旨ヲ闡明致居候以上ノ次第ナルニヨリ加州土地法カ旧條約時代ニ取得セラレタル不動産処分ノ關スル限り條約違反タルコトヲ主張スルニ當リ前記ノ論拠ヲ以テスルニ於テハ猶ホ「シラック對シラック」事件ニ於テ米国高等法院カ仏国人タル相續者ガ仏国人ノ土地相續權ヲ認メタル米仏條約期間満了後ニ於テ尚

ヲ見サルナク米国政府ノ熱心ナル調停ト帝國官民ノ機宜ノ施措ト相須テ從來幸ニ事ナキヲ得タリシモ本年ニ至リ遂ニ土地法ノ形式ニ於テ排日の議案成立シ為ニ彼我兩國政府間ニ重大ナル交渉問題ヲ惹起スルニ至レリ依テ茲ニ本件ニ關スル經過ヲ叙述スルニ當リ先ツ該土地法ノ性質ニ就キ略言セント欲ス

本年一月ヲ以テ開會セル加州第四十議會ニ提出セラレタル幾多議案中本邦人ニ取り最モ重大ナル關係ヲ有シ排日の法案ノ象徵トシテ内外ノ耳目ヲ聳動シタルハ日本人ノ不動産所有禁止ヲ目的トセル數種ノ法案ナリトス該諸案ハ成規ニ依リ上下兩院共一旦各其委員會ノ審査ニ附セラレ同委員會ニ於テ各代表案ヲ作成セラレタリ先ツ下院代表案ノ要點ヲ挙クレハ(一)一般外国人ノ不動産所有ヲ禁ス但シ現所有者及其妻子ノ手ニ在ル間ハ本法ヲ適用セス(二)將來不動産ヲ取得シタル一般外国人ニハ一ヶ年間ニ限り之カ所有ヲ許シ之ニ違反スルトキハ該不動産ヲ公売ニ附ス但シ所有者カ右一ヶ年以内ニ歸化ノ意思ヲ表示シタルトキハ此限ニアラス(三)外国人ニ對スル五ヶ年以上ニ亘ル不動産賃貸契約ハ無効トス(四)歸化權ナキ外国人ヲ過半数株主トスル会社ハ外国人ト看做スト云フニアリテ該案ハ四月十五日下午院ヲ通過セリ而

右條約ノ保障セル土地相續權ヲ享有シ相續ノ權ヲ有スルモノト判決セルガ如ク加州土地法ニ對シ同法院ニ於テモ條約違反タルヲ宣明スルノ外無カルベクト思考致サレ候間貴官ニ於テモ更ラニ本点ニ熟考ヲ加ヘラレ尚ホ「マックスウェル」「マッケネー」等ノ意見ヲ徵シ電報ヲ以テ何分御回報相成様致度此段申進候也

三六三 十二月十二日 牧野外務大臣ヨリ  
在米国珍田大使宛

加州問題ニ關スル日米交渉顛末書送付ノ件

附屬書 右日米交渉顛末書

機密送第一六〇号

今般當省ニ於テ作製致候加州問題ニ關スル日米交渉顛末書茲ニ及御送付候條御査取相成度此段申進候也

追テ別紙添付文書ハ省略致シ置候ニ付為念申添候

(附屬書)

加州問題ニ關スル日米交渉顛末

(大正二年十一月三十日)

第一、土地法ノ性質

過去十數年間加州議會ニ於テハ毎期必ス排日の議案ノ提出

シテ上院ニ於ケル代表案ハ右ノ内(一)ノ但書ヲ存セス(二)ノ五ヶ年ヲ三ヶ年トセル外大体同様ニシテ四月十二日第二議會ヲ通過セシモ其後論議百出形勢變転シ屢々修正ヲ加ヘラレタル末終ニ加州檢事總長「ウェップ」氏ノ起草セル新法案ヲ該代表案ノ修正トシテ採用スルニ決シ同案ハ上院ニ於テハ五月二日下院ニ於テハ翌三日何レモ大多數ヲ以テ通過シ五月十九日知事ノ署名ヲ了シタルヲ以テ加州憲法ノ規定ニヨリ該法ハ議會閉會後則チ五月十二日ヨリ九十日ヲ經過シタル八月十日ヨリ實施セラルルニ至レリ該土地法ノ内容ハ別紙第一号訳文ノ如シト雖モ試ニ其規定ノ要點ヲ挙クレハ左ノ如シ

(一) 合衆国國法ニ依リ合衆国市民タルヲ得ル外国人ハ市民ト同様ニ不動産及之ニ關スル權利ヲ取得、保有、使用、讓渡、遺贈及相續スルコトヲ得

(二) 合衆国國法ニ依リ合衆国市民タルヲ得サル外国人ハ該外国人ノ本国ト合衆国間ニ締結セラレタル條約規定ノ範圍内ニ於テノミ不動産及之ニ關スル權利ヲ取得、保有、使用及讓渡スルコトヲ得

會員ノ多數カ此種外国人タル団体又ハ株式ノ過半カ此種外国人ノ所有ニ係ル会社ニ關シテモ亦同シ

(三) 本法ニ違反シテ取得シタル不動産又ハ之ニ関スル権利ハ州ニ没収セラル

(四) 第二項ニ該当スル外国人又ハ外国法人ト雖モ三ヶ年ヲ超ヘサル期間農業用ノ目的ヲ以テ土地ヲ賃借スルコトヲ得

然ルニ合衆国法上本邦人ハ同国ニ帰化スルノ権能ナシト認メラルルノミナラス日米條約ハ毫モ土地ノ所有ニ関シ規定スルトコロナク僅ニ住居及商業等ノ目的ノ為土地ノ賃借家屋ノ所有及賃借ニ関シ規定アルノミニシテ農業ノ目的ノ為ニハ土地ノ賃借ニツイテモ何等ノ規定ナキヲ以テ結局本法ハ日本人ニ対シ他ノ外国人ニ比シテ劣等ナル區別待遇ヲ与ヘ僅ニ條約ノ保障以外ノ事項タル農業用地ノ短期賃借權ヲ容認シタルノ外將來全然土地及之ニ関スル權利ノ取得、所有及ヒ相續ヲ禁スルモノナリトス而シテ本法ヲ以テ当初ノ下院代表案ニ比スルニ本邦人ニ対シ不動産所有ヲ禁止セントスルノ主旨ハ兩者其軌ヲ一ニスルモ下院案ニ於テハ一般外国人ト雖モ帰化ノ意思ヲ有効ニ表示セサル限り本邦人ト同様ノ地位ニ置カレ殊ニ賃借權ニ関シテハ日本人ト外國人間ニ何等ノ區別ヲ存セサリシモ本法ニ於テハ合衆国法上本邦人ニ帰化ノ権能ナシトノ解釈ヲ利用シ露骨ニ日本

等法案ニシテ成立スルカ如キ事アラハ其影響ノ重大ナル洵ニ寒心ニ堪ヘサルヲ以テ新行政部ニ於テモ從來ノ行政部ト同シク兩國ノ親交ニ顧ミ適當ノ手段ヲ尽シ右等諸法案ノ成立ヲ防止スルニ努力セラレン事ヲ切望スル旨縷述セシメタルニ大統領ハ大使ノ所言ヲ謝シ米國ノ国體上中央政府ハ各州固有ノ權利ニ干渉スルヲ得サルモ中央政府トシテ及フ限りノ勢力ヲ利用シ帝國政府ノ期待ニ副フ為メニ斡旋スルヲ辭セスト明言シ續テ三月十三日大使ハ更ニ國務長官「ブライアン」氏ニ面会シ同様ノ言明ヲ得タリ

加州方面ニ於テハ我領事ヲシテ当初ヨリ桑港博覽會其他ノ勢力ヲ利用シ本立法ノ防止ニ努力セシメタルノミナラス商業會議所其他ノ有力ナル団体ニシテ排日立法ニ反対スルノ決議ヲナシタルモノ少カラス又新聞紙中ニモ同様ノ意見ヲ發表セルモノ多ク州議會前半ノ会期ニ於テハ(本年ノ加州議會ハ一月六日開會二月四日一旦休会シ三月十日再開五月十二日ニ至リテ閉會セリ)形勢ノ帰趨容易ニ逆睹シ難キモノアリシモ其後半ノ会期ニ至リ院内ニ於ケル排日派議員ノ活動漸次旺盛ノ状ヲ呈シ形勢急轉シテ前述ノ如ク上下兩院均シク代表案ヲ作成シ各代表案ハ上院ニ於テハ四月十二日第二誂會ヲ通過シ下院ニ於テハ四月十五日第三誂會ヲ通

人タル字句ヲ用ヒスシテ一般外国人ヲ帰化ノ能否ニ依リ截然二種ニ區別シ以テ事實上当初ノ諸議案ニ比シ一層明白ニ排日ノ実ヲ擧ケ一層苛酷ニ本邦人ヲ區別ノ待遇ノ標のトナシタルモノニシテ日米兩國間交渉ノ主題トナリタルモ專ラ此區別ノ待遇ノ点ニアリトス

第二、本法成立ノ經過及成立前帝國政府ノ執リタル措置

帝國政府ハ当期加州議會開會ノ当初尚ホ米國政府ノ首長タリシ「タフト」氏並ニ國務長官「ノックス」氏ニ対シ前年來ノ事例ニ依リ排日立法ノ成立ヲ阻止スル為メ充分有効ナル処置ヲ採ラレン事ヲ要望シ其欣諾ヲ得シモ「タフト」氏ノ政府ハ時恰モ其末路ニ瀕シ何等積極ノ措置ヲ採ルニ至ラスシテ「ウキルソン」氏ノ政府ト交送スルニ至リシガ當時加州ニ於ケル形勢ハ固ヨリ樂觀ヲ許サザリシヲ以テ帝國政府ハ本件ニ関シ米國新政府ノ切実ナル注意ヲ喚起スルノ必要ヲ認メ「ウ」氏大統領就職後劈頭ノ機會三月五日ニ於テ珍田大使ヲシテ同大統領ニ謁見セシメ日本ハ米國ニ対シ終始友好親善ノ誠意ヲ表彰シテ渝ルコトナキニ拘ラス太平洋沿岸殊ニ加州議會ニ於テ現下幾多排日法案ノ繫屬スルアルハ帝國政府ノ深ク失望シ且ツ憂トスル所ニシテ萬一是

過スルニ至レリ

形勢ノ推移前述ノ如ク事態漸ク重大ヲ告グルニ至リタルヲ以テ珍田大使ハ帝國政府ノ訓令ニヨリ四月十二日國務長官ト会见シ更ニ四月十五日大統領ニ謁見シ孰レモ談ヲ日米兩國ノ伝統的親善關係ニ起シ帝國政府ガ多年兩國ノ親交ヲ維持増進スルヲ念トセルノ事實ヲ述ヘ例ヲ移民制限又ハ桑港博覽會率先參同等ニ採リ常ニ其誠意ヲ表示スルニ躊躇セザリシ事實ヲ縷説シ進テ加州ニ於ケル本邦人ノ發展ハ決シテ世上伝唱セラルルカ如キ顯著ノ進境ヲ呈セルモノニアラス其所有地積ノ如キ極メテ微少ニシテ何等嫌畏スヘキ事由ナキニ拘ラス不公平ナル立法ニ依リ本邦人ノ正常ナル權利ヲ侵害シ其發達ヲ阻害セントスルハ帝國政府ノ了解ニ苦ム処ニシテ為メニ日米ノ国交及通商上ニ悲ムヘキ影響ヲ招徠スルコトアルヘク帝國政府ハ國家トシテノ面目上極メテ本件ヲ重視スルモノナル旨反覆説述シ本法案防止ノ為メ中央政府ニ於テ一層ノ努力ヲ用ヒン事ヲ要望スル処アリシガ大統領及國務長官ハ何レモ深ク我力意ヲ諒トシ該土地法案ノ必シモ正義ニ適セサルヲ認ムルモ土地所有權ノ許可力州ニ專屬スルノ事實ハ中央政府ト加州當局者ト政派ヲ異ニスル事情ト相俟テ當面ノ解決ヲ困難ナラシムルモノアルヲ弁疏

シ尙我主張ニ対シテハ充分同情ヲ以テ考量シ之カ友好的解決ノ為メ全力ヲ尽スヘキ決心ナルヲ以テ此態度ハ宜シク日本政府ニ徹底スル様取計ハレタキ旨明言スル処アリタリ四月十八日ニ至リ大統領ハ國務長官ヲシテ加州知事ニ電照セシメ大統領ニ於テ加州立法権ノ独立ヲ充分ニ尊重スルハ勿論ナルモ東洋ニ於ケル友邦トノ親交ニ鑑ミ法案ヲ變更シ帰化権ノ有無ヲ以テ本件權利ノ標準トナサザランコトヲ勸告シ其後同月二十二日五月一日ノ兩度大統領ヨリ直接知事ニ電報シ同月十一日更ニ國務長官ヲシテ電照セシムル所アリ知事亦之ニ対シテ一々返電ヲ發シ自己ノ立場ヲ弁護スル所アリ珍田大使モ亦爾來屢次國務長官ト会见シ本法案ハ明カニ日本人ノ排斥ヲ目的トシタルモノニシテ只ニ條約ノ明文ニ違反スルノミナラス事實ニ於テ日本人ニ対シ劣等ナル区別的待遇ヲ与フルモノニシテ條約ノ主義精神ニ悖ルモノナル旨ヲ繰返シテ我主張ノ徹底ニ努メ法文ノ字句如何ニ拘ラス事實上日本人ニ区別的待遇ヲ与フルカ如キ立法ヲ見ルナカラン事ヲ要望シタルガ不幸ニシテ中央政府ノ勸告ハ毫モ加州議會ノ顧ル処トナラス形勢益々急ヲ告クルニ至ルヤ大統領ハ加州当局者ト直接協議ノ必要ヲ認メ加州知事及議會ノ同意ヲ得テ國務長官ヲ同州ニ急派スルニ決シ同長

如ク選舉場裡ニ何等勢力ヲ得ルノ望ナキモノハ動モスレハ政争ノ犠牲ニ供セラルルノ傾向アルコト等ノ事實ハ今回本法案ヲ比較の容易ニ成立セシメタル真因トモ称スヘキモノニシテ則チ從來ノ共和黨政府ハ中央集權ヲ唱テ特ニ東洋人排斥ヲ主張セス加フルニ加州議會ハ自黨議員多數ヲ占ムルヲ以テ排日法案ノ表ハルルコトアルモ「ルーズヴェルト」又ハ「タフト」氏ノ命令の調停ハ其都度超越スヘカラサル困難ニ遭遇スルコトナクシテ其効ヲ奏セシモ今回ハ其關係反對ニシテ民主黨ノ政府ハ自黨主張ノ州權獨立主義ヲ攻撃スル能ハサルノミナラス加州議會ノ反對黨議員ニ対シテハ共和黨政府ノ如ク交渉円滑ナル能ハサルノ不如意アル等ノ事實ニ想到セハ蓋シ思ヒ過クヘキナリ

第三、土地法ニ対スル我抗議及米國政府ノ弁明  
土地法力加州兩院ヲ通過シ知事ハ未タ裁可ヲ与ヘスト雖モ最早殆ト成立ニ疑ノ余地ヲ存セサルニ至リタルヲ以テ帝國政府ハ米國政府ニ対シ該立法ニ関シ正式ニ抗議ヲ提起スルノ必要ヲ認ムルニ至リ遂ニ五月十日ヲ以テ珍田大使ヲシテ我第一回抗議書ヲ國務長官ニ手交セシメタリ

該抗議書ノ内容ハ別添第二号訳文ニ就キ之ヲ知悉スルヲ得ヘキモ試ニ其要點ヲ挙クレハ先ツ該土地法力其本質ニ於テ

官ハ四月二十八日加州首都ニ著シ兩院協議會ニ臨ミ親シク中央政府ノ希望ヲ陳ヘ種々調停の提議ヲナシ極力立法ノ緩和ニ斡旋スル処アリシモ知事及其一派ノ議員ハ固ク州權不干涉説ヲ持シ國務長官ノ所言ニ耳ヲ藉サザルノミナラス却テ排日的色彩ノ最モ鮮明ナル「ウエップ」案ヲ通過確定スルニ至リタルハ前章記述セルカ如シ

如此帝國政府ニ於テハ米國政府ヲ促シテ本案ノ成立ヲ防止スル為メ努力余マス処ナカリシニ拘ラス遂ニ好果ヲ奏スル能ハス排日派力十數年來幾度力遂ケント欲シテ遂クル能ハザリシ処ヲ今期議會ニ於テ比較の容易ニ成就スルヲ得タルハ自ラ亦理由ナクンハアラス思フニ（一）今春中央ノ政權ヲ把握セル民主黨ハ從來其政綱ニ於テ州權ノ尊重ヲ標榜シ又嘗テ東洋人排斥ヲ主張シタルコト（二）加州ニ於ケル多數黨タル進歩黨（「ルーズヴェルト」氏ニ從テ）ハ其政敵タル民主黨ノ政府ガ州權尊重ト東洋人排斥ノ政策ニ反對シ得サルノ弱点ヲ看取シ國際上機微ノ關係アル日本人排斥問題ヲ提ケテ中央政府ヲ窘迫シ以テ自家黨勢ノ發展ニ資セントシタル事（三）加州州會議員ハ博覽會其他實業方面ノ利益ヲ代表スルモノ多カラス普通選舉制度ノ關係上寧ロ労働派ノ意向ニ阿ラントスルモノ多ク其影響トシテ東洋人ノ

不當且差別的ニシテ正義公道ノ大本ニ悖戾スルノミナラス日米現行通商條約ノ規定ニ牴觸シ且ツ兩國條約關係ノ基礎タル修好親善ノ精神及本義ト背馳スルモノタルヲ痛論シ、條約ノ明文ニ牴觸スル点ニ関シテハ本邦人カ從來適法ニ取得シタル土地ノ所有權ヲ其正当相続人ニ移轉スルノ權利ヲ奪フノ点ヲ始メトシ其他數種ノ事項ニ亘リ精細ニ本立法ノ不當ヲ論詰シ終リニ米國政府カ從來日本政府ニ対シテ与ヘタル懇篤ニシテ且ツ同情アル友好親善ノ表彰ニ顧ミ今次ノ問題モ亦兩隣邦間ニ存スル歴史の親交關係ニ適合スヘキ解決ヲ見コトヲ期待スル旨説述シタルモノナリ

國務長官ハ我抗議ニ接シタル後五月十一日ニ至リ大統領ノ命ニヨリ加州知事ニ電報ヲ發シ日本政府ヨリ熱烈ナル抗議ノ提出アリタルヲ告ケ大統領ハ内國人ト在住東洋人間不調ノ原因ヲ除去スルノ必要ヲ充分感知スルヲ以テ姑ク仮スニ時日ヲ以テスルニ於テハ外交の折衝ニヨリ加州ニ於ケル外國人士地所有問題ヲ処理スル為メ進シテ秩序の斡旋ヲナスヲ辭セストノ意ヲ致シ以テ知事ヲ反省セシメ一先ツ同法案ノ裁可ヲ中止セシメント試ミタルカ右ニ對シ知事ハ五月十四日返電ヲ發シテ本法制定ノ必要ト條約違反ニアラサル旨ヲ縷述シ仮ニ同法力條約違反又ハ区別的立法タリトスル

モ其備ヲ作りタルハ中央政府ヲ始メ他ノ数州ニ在リトシ極力同法ヲ弁護シ結局之ヲ裁可スルノ意思ヲ公表シ続テ十九日ニ至リ遂ニ署名裁可ヲ了スルニ至レリ此報ニ接スルヤ國務長官ハ豫テ準備セル我抗議書ニ対スル回答書ヲ珍田大使ニ手交シタリ右回答書ノ内容ハ別添第三号訳文ニヨリテ知悉シ得ヘキモ其要領ヲ摘記スレハ先ツ該法ノ尚加州議會繫屬中米国政府ハ之カ防止ノ為メ全力ヲ傾注セルノ事實ヲ拳ケ同法ノ成立ヲ遺憾トスルノ意ヲ表シ転シテ該立法タル何等政治の意味ヲ有スルニアラスシテ全然經濟的ノ必要ニ出テタルモノナルヲ切言シ我抗議書ニ於テ該法ノ規定ヲ以テ日米通商條約ニ違反セルモノトナスモ該法ノ意思カ條約上ノ權利ヲ尊重シ之ヲ支持スルニ存スルハ法文ノ明示スル処ニシテ若シ該法實施ノ結果條約違反ノ事實アリトセハ被害日本人ハ直ニ合衆國裁判所ニ出訴シ其權利ノ擁護ヲ請求シ得ヘキヲ述ヘ尚ホ我提起セル他ノ諸点ニ対シ夫々弁明ヲ加ヘ結論トシテ彼我兩國間ノ強固不變ナル好情ハ斯ル一種ノ財産ニ対スル一州ノ經濟政策ニヨリ左右セラルルモノニ非ルヲ信スル旨附言セルモノナリ

米國政府ハ当初本件ノ加州議會ニ繫屬中ニアリテハ之カ成立ヲ阻止スルタメ既述ノ如ク諸種ノ手段ヲ採リ遂ニ國務長

取リ以テ同政府ノ地位ニ及ホスヘキ將來ノ危險ヲ予防スルヲ以テ得策ナリトスルニ至リタルモノノ如シ

前顯米國政府ノ回答書ハ帝國政府ノ満足スル能ハサル処ノモノタルヤ勿論ニシテ政府ハ本件條約違反ノ点ヲ是正スルハ米國政府ノ義務ト認メ随テ米國政府自身ヲシテ「テスト、ケース」ヲ提起セシムルヲ至当ト信スルヲ以テ六月四日政府ハ珍田大使ヲシテ右ニ対スル弁駁トシテ第二回抗議書（別添第四号訳文ノ通り）ヲ國務長官ニ提出セシメ更ニ條約違反ノ点ヲ指摘細論シテ米國政府ノ注意ヲ喚起セシメタルガ國務長官ハ右抗議書ヲ受領セル際尚本件ニ対シ充分ノ考查ヲ加フヘキ旨并ニ本件ハ決シテ人種の僻見ニ出テタルモノニアラスシテ純然タル經濟問題ナリトノ趣ヲ繰返ヘセリ

此時ニ當リ帝國政府ハ日米兩國國交ノ大局ニ関シ米國大統領ニ對シ我衷心ヲ披瀝シ親シク其慎重ナル考量ヲ促スヲ以テ本件ノ解決上有利ナルヘキヲ思ヒ別ニ覺書ヲ作成シ珍田大使ヲシテ六月五日大統領ニ謁見ノ上右ノ趣旨ヲ述ヘ同時ニ我第二回抗議書ノ内容ニツキ詳述セシメ日本ハ本件ヲ以テ國家ノ面目威嚴ニ関スル重要問題ト認ムル旨ヲ縷説セシメタリ右覺書ハ別添第五号訳文ノ通り日米兩國ハ其地理的

官ヲ加州ニ簡派スル迄ニ至リタルハ明ニ帝國政府ノ立場ヲ諒トシ加州ノ行為ヲ以テ國際上重大ナル影響ヲ惹起スヘキモノトシ之ヲ抑制セントスルニ出テタル事勿論ナルノミナラス我珍田大使カ屢次國務長官ト面談ノ際交換セル問答ノ行掛リニ照スモ本法成立ノ上ハ米國政府ハ之カ効力ヲ消滅セシメンカ為メ自ラ進ンテ訴訟ヲ提起スルノ措置ニ出ツヘキハ自然ノ順序ナリト思考セラレタルニ拘ラス米國政府ノ回答ハ前述ノ如ク敢テ本法ヲ以テ條約違反ニ非ストハ明言セサルモ自ラ加州新法ノ曲直ヲ法廷ニ争ハントスルノ意向ヲ示サザルノミナラス其他何等ノ解決案ヲ提示セサルハ較ヤ意外ノ現象ナルカ如シト雖モ思フニ米國政府ニ於テハ（一）加州ニ於テ白人カ農業其他ノ經濟上日本人ニ圧倒セラルル傾向アリトノ排日派議員等ノ声言ニ顧ミ今ヨリ救済方法ヲ講スルノ必要ヲ感セル事（二）中央政府自ラ訴訟当事者トナリ本法ノ條約及憲法違反ノ点ヲ争フニ於テハ内外ニ對スル自己ノ責任益々重キヲ加ヘ之カ為メ党略上著敷不利ヲ蒙ルヘキハ勿論訴訟ノ勝負何レニ歸スルモ其結果中央政府ハ内政外交兩方面ニ於テ極テ困難ナル地位ニ陥ルヘキコト等ノ諸点ヲ考量シ該法案ノ議會ニ繫屬中コソ之ニ反對シタレ今日トナリテハ寧ロ我抗議ニ對シ加州ヲ弁護スルノ方針ヲ

關係上永久相隣ノ關係ニアルノ運命ヲ有シ居リ兩國國民カ將來經濟的并ニ社会的ニ益々相接觸スル事アルヘキハ必至ノ勢ニシテ之ニ對シテハ交譲和協以テ永ク善隣ノ好誼ヲ全フスルコト相互ノ幸福ナルヘク從テ互ニ他ヲ遇スルニ公明正大苟モ其威信ヲ傷ケ感情ヲ害スルカ如キ事アルヘカラサルヲ切言シタルモノナルカ之ヲ傾聴シタル大統領ハ日米國交ノ大局ニ関シテ特ニ同大統領ノ重キヲ措ク所ナル旨ヲ宣明シタル後國務長官ト均シク珍田大使ヲシテ本件ノ純然タル經濟問題ニシテ決シテ人種の僻見ニ基クモノニ非ル旨ヲ了解セシメンコトヲ勸メ尚本件ニ就テハ更ニ研究ヲ重ネ若シ條約違反ノ点ヲ発見スルニ於テハ政府自ラ訴訟ヲ提起スヘキ旨并ニ仮令訴訟ヲ提起スルコトナキ場合ニ於テモ相當理由アルニ於テハ日本人ノ為メ實際ノ損害ニ對シ賠償ノ方法ヲ講スルヲ辭セサルヘキ旨開陳セリ

其後帝國政府ハ加州土地法ノ日米通商條約ニ違反スル廉ニ関シ更ニ研究ヲ重ネ前記第二抗議書ノ補足トシテ追加抗議書ヲ作成シ別添第六号訳文ノ通り覺書トシテ七月三日珍田大使ヲシテ米國政府ニ提出セシメタリ

七月十日珍田大使ハ國務長官ノ招請ニヨリ國務省ヲ訪問シタルニ同長官ハ帝國政府ノ第二抗議書并ニ覺書ニ對スル回



答ノ草案ヲ朗読シタルカ右回答案ハ頗ル長文ニシテ我カ指摘シタル諸点ニ対シ精細ニ論弁ヲ試ミタル上結局米国政府ハ本件救済策トシテ(第一)日本人カ起訴スル場合ニハ訴訟ノ進行ニ関シ成クヘク便宜ヲ与フヘキコト(第二)当然ノ被害ニ対シテハ補償ノ方法ヲ講スヘキコト(第三)日本人ノ所有地ニシテ本法適用ノ為メ価格ヲ減少スルモノアルヘキヲ慮リ所有者ノ申請ニ応シ本法制定前ニ於ケル市価ヲ以テ該土地ヲ政府ニ買収スヘキ方法ヲ設クヘシトノ三点ヲ提議シ終リニ移民問題ニ論及シタルモノニシテ國務長官ハ米国政府ノ権限内ニ於テハ乍遺憾結局右ノ外適當ナル解決案ヲ発見スル能ハサル旨ヲ述ヘタルニヨリ大使ハ右回答ノ到底我ニ於テ承服シ難キモノナル旨ヲ述ヘ主要ノ点ニ関シ縷々弁駁ヲ加ヘテ引取りシガ同月十六日ニ至リ國務長官ハ内示ヲ經タル前記草案ニ少許ノ修正ヲ加ヘタル上第二回答書并ニ覺書トシテ正式ニ珍田大使ニ手交シタリ(別添第七号及第八号訳文ノ通り)

以上彼我兩國政府ノ応酬ニヨリ米国政府ノ加州土地問題ニ對スル態度自ラ明白トナリ此上論弁ヲ重ヌルモ格別ノ効果ナカルヘキハ豫測スルニ難カラサルモ前記米国政府ノ回答中擱キ難キ点少カラス之ヲ不問ニ附スルニ於テハ或ハ先方

我目的ヲ達スルコトノ不可能ナルヘキヲ思ヒ殊ニ條約違反ノ点ニ関シ強テ先方ノ確答ヲ促スニ於テハ結局條約違反ニ非ストノ言明ヲ招クヘキハ從來ノ行掛リニ徴シ明白ニシテ如此ンバ何等我ニ利益スル処ナキノミナラス却テ本件ノ將來ニ亙リ我ニ不利益ナル影響ヲ与フル事アルヘキヲ顧念シ同時ニ又仮リニ試験訴訟ニ於テ我方ニ勝ヲ制スルトスルモ其勝訴ノ關係ハ單ニ土地法中我方ノ條約ノ規定ニ照シテ異議ヲ唱ヘ居ル事項ノ除去セラルルニ止マリ日本人ヨリ土地所有權ヲ奪ハントスル該法ノ目的ハ依然トシテ達セラルヘク農業用土地ノ賃借權ノ如キ何時褫奪セラルルヤモ難計畢竟條約ノ不備ニ基クモノナレハ本問題ヲ根本的ニ解決セント欲セハ米国ニ於ケル日本人ノ立場ニ関シ將來ヲ確保スヘキ何等協約ヲ彼我ノ間ニ取結ヒ(同時ニ試験訴訟ヲ提起スルハ別問題トシテ)現行條約ノ欠陥ヲ補フヲ以テ極テ緊要且適切ナル措置ト認メ其方策ニ関シ反覆攻究ヲ重ネタルニ國務長官カ屢次珍田大使ニ陳ヘタルトコロ并其他ノ取調ニヨレハ此際帰化問題ヲ提出スルハ徒ニ米國一般ノ反論ヲ誘起スルノミニシテ到底妥商ノ途ヲ見出し難キヲ認メタルニヨリ乍遺憾此問題ハ姑ク考量ノ外ニ置キ先以テ不動産及之ニ關スル權利ノ取得及処分ニ関シ相互のニ一方ノ臣民

ノ主張ヲ默認セシ如キ嫌アルヘキヲ思ヒ更ニ弁駁トシテ第三回抗議書(別添第九号訳文ノ通り)ヲ草シ珍田大使ヲシテ八月二十六日國務長官ニ手交セシメタリ該抗議書ニ於テ帝國政府ハ土地法ハ米國ト相互の待遇ノ條約ヲ有スル日本臣民ヲ驅テ無條約國民以下ニ貶スルモノニシテ差別的待遇ノ甚シキモノナルコト及ビ帝國政府ハ本立法ヲ以テ人種的僻見ニ基クモノト認メ單ニ經濟的理由ニ基クモノト為スヲ得サルコトヲ述ヘ尚國務長官カ前頭回答ニ於テ移民問題ニ論及セルニ對シ該問題ハ既ニ數年前日米兩國政府間ニ解決セラレ本件ト何等ノ關係ナク本件ハ單ニ在米本邦人ニ對シ公正平等ナル待遇ヲ要求スルニ過キササル旨ヲ附言セリ右我政府ノ弁駁ニ對シテハ米國政府ヨリ何等ノ回答ナシ

#### 第四、土地所有問題ニ係ル協約締結ニ關スル

##### 交渉

加州土地法ニ對スル帝國政府ノ抗議及之ニ對スル米國政府ノ弁明ハ前章ニ詳記セシガ其經過ヲ通觀スルニ米國政府ハ本件ノ解決案トシテ唯損害補償其他二三ノ件ヲ提唱シタルニ過キス又該法カ條約違反ナリヤ否ヤニ關シテモ之ヲ法廷ノ裁決ニ譲リ自ラ何等責任アル断案ヲ下サザルヲ以テ帝國政府ハ同一ノ徑路ニ依リ類似ノ論弁ヲ幾度ヒ試ムルモ到底

又ハ人民ニ對シ最惠國民ノ待遇ヲ与フルノ協約ヲ締結スルヲ以テ当面ノ要務トナシ珍田大使ノ意見ヲ徴シタル上同大使ノ提言ニヨリ右最惠國民待遇ハ既得ノ不動産ノ場合ニ關スルモノノ外單ニ將來ニ關スルモノニシテ現行ノ法規ハ一切羈束セサルノ提案ヲナスコトニ決シ八月初旬同大使ニ訓令シ右ノ趣旨ニヨリ國務長官ト開談セシメタリ其際國務長官ハ該提案カ日本側ノ要求トシテハ穩當ノモノタルヲ認ムルニ躊躇セサルモ該案ハ民主黨ノ根本政策タル州權尊重ノ原則ト相容レサルヲ以テ上院ノ贊助ヲ得ル事困難ナルヘキヲ憂フルノ意向ヲ洩シタルモ追テ大統領ト熟議ノ上確答スル処アルヘシト述ヘタルカ其後八月十二日同月二十一日、九月九日并同月十二日珍田大使カ國務長官ト会見ノ際同長官ハ大統領ト合議ノ結果ニ關シ大使ニ向ヒ大統領ハ我提案ヲ以テ正理ニ合スルモノトナシ成ルヘク該提案ニ応セシコトヲ欲スルモ上院ニ於テ如此協約ヲ以テ州權尊重主義ニ反スルモノトシ協賛ヲ肯セサルヘキハ豫測スルニ難カラス從テ米國政府トシテハ依然トシテ損害補償其他ニ關シ曩ニ提議シタル趣旨ノ実行ニ努力スルノ外ハ一般ニ合衆國內ノ各州ニ於ケル日本人ニ對シ偏頗ノ嫌アル法律ノ制定ヲ防止セシカタメ及フ限りノ斡旋ヲナスコト并ニ加州議會ニ



対シ次会期ニ於テ現行土地法ニ改正ヲ加ヘ日本人所有ノ不動産ハ相続人一代ニ限り之カ相続ヲ認ムルノ立法ヲ勸奨スル等ノコトヲ約束スルノ外本締約ノ商議ニ応シ難キ旨ヲ語レリ依テ珍田大使ハ之ニ対シ米國政府ノ前頭ノ如キ斡旋又ハ勸奨ニ関スル好意ハ之ヲ諒トスルモ如此ハ從來ノ事例ニ徴シ何等具體的効果ヲ齎シ得ヘシト認メ難ク帝國政府カ此際此種實質ノミヲ以テ満足シ難キ立場ニアルハ米國政府ノ夙ニ承悉セラルル処ナルヘシ当方提出ノ協約案ハ州權干涉ノ譏アリト述ヘラルルモ既ニ米國ノ外交史上幾多同様條約ノ締結アリタルノミナラス我提案ハ各州ノ現行法ヲ強制セントスルモノニアラズシテ唯將來不動産ニ関スル權利ニ対シ日本人ノ地位ヲ最惠國民待遇ノ基礎ニ置カントスルニアルノミ加之行政部ニ於テ既ニ本案ノ正理ニ適合スルコトヲ認メララルル以上ハ議會ノ意向如何ハ姑ク別トシテ兎ニ角之カ商議ニ応セラルルハ行政部当然ノ責務ナリト云ハサルヘカラス若シ不幸ニシテ該協約案ガ上院ノ拒否スル処トナルモ行政部ニ於テ一旦調印ヲ了シタル上ハ其好意ハ日本國民ノ十分諒トスル処ナルヘク之ニ反シ該協約案ニシテ行政部ノ同意ヲモ得ル能ハストアリテハ兩國國交ノ將來ヲ思ヒ真ニ憂慮ニ堪ヘサルモノアリ云々ノ趣旨ヲ切言シタルニ

國務長官ハ大使ニ会见ヲ求メ前記第一考案ニ付テハ遺憾ナカラ保障ヲ与フル能ハサルモ第二考案ニハ同意スルコトニ決定セル旨ヲ告ケ尚外交委員ニ附議ノ時機ニ付テハ目下繫屬中ノ二大法案落着後タルヘキハ勿論協約案ノ内容ニ付テモ成ルヘク上院ノ同意ヲ容易ナラシムル為必要ノ改訂ヲ加ヘタシトノ趣意ヲ述ヘ以テ米國政府ニ於テ幾分交譲ノ意アルヲ示セルヲ以テ珍田大使モ之ヲ諒トシ爾來米國政界ノ動靜ヲ觀望シ交渉再開ノ時機ヲ注視シツツアリシカ其後關稅法案ハ議會ヲ通過シ殘ルハ貨幣制度改正法案ノミトナリシモ不幸之下相前後シテ墨西哥問題急ヲ告ケ來リタルヲ以テ米國政府ハ爾來對墨外交ニ忙殺セラレ殆ト他ヲ顧ミルノ暇ナキモノノ如ク我交渉問題ニ関シ珍田大使ハ時々米國政府ノ注意ヲ喚起スルコトヲ怠ラサルニ拘ラス何等的確ナル応答ヲ得スシテ今日ニ至レリ本件ニ関スル我提案ハ別添第十号訳文ノ如シ

添付書類

- 第一号 加州土地法訳文
- 第二号 帝國政府第一回抗議書訳文
- 第三号 米國政府第一回回答書訳文
- 第四号 帝國政府第二回抗議書訳文

國務長官ハ上院議員ノ何人ニモ未タ本件ヲ内議セサルヲ以テ目下議會繫屬中ノ關稅幣制ニ大法案ノ運命確定ノ上ハ上院有力議員ヲ招キ本協約案カ國交ノ大局上機宜ニ適シタルモノナルコトヲ指摘シテ説得ヲ試ムルヲ辞セサルモ不幸ニシテ自黨政綱ニ基キ上院議員ノ強硬ナル反對アルニ於テハ之ヲ無視シテ協約ニ調印スルカ如キハ到底政府ノナシ能ハサル処ナル旨ヲ述ヘタルカ蓋シ其真意ハ篤ト上院ニ於ケル他ノ緊急問題ニ関スル形勢ヲ考察シタル上本件ニ関スル態度ヲ確定セントスルニ存シタルモノノ如シ

先是八月十九日我外務大臣ハ在本邦米國大使ト会见シ本問題ノ兩國國交ノ大局ニ及ホス影響并ニ日本ノ立場ニ関シ縷々説述スル所アリ本協約成立ノ為メ切ニ米國大使ノ助力ヲ求メ越ヘテ九月十八日珍田大使ハ大統領ニ謁見シ前記外務大臣所述ノ趣意ト略々類似ノ陳述ヲ試ミ尚特ニ(一)上院通過ノ見込アルト否トニ拘ラス一旦協約ニ調印シテ上院ノ議ニ付スルノ考案并ニ(二)先ツ兩國行政部限リ商議ヲ完結シ其結果ヲ上院外交委員ニ提出シ大体其同意ヲ得タル上ニテ正式ニ調印スルノ考案ノ何レカヲ執ラレタキ旨提議セシガ大統領ハ逐一大使ノ所言ニ傾耳シ充分國務長官ト協議ヲ遂ケ同官ヲ經テ回答スヘキ旨答ヘタリ其後九月二十二日ニ至リ

- 第五号 日米國交ニ関スル帝國政府覚書訳文
- 第六号 帝國政府第二回抗議書追加覚書訳文
- 第七号 米國政府第二回回答書訳文
- 第八号 米國政府第二回回答書追加覚書訳文
- 第九号 帝國政府第三回抗議書訳文
- 第十号 土地所有問題協約案訳文

註 右添付書類第一号乃至第十号ハ總テ前ニ掲載セラレタリ

三六四 十二月十八日 在米國珍田大使ヨリ  
加州土地法中不動産ノ相続又ハ遺贈ニ関スル  
疑義ノ件

附屬書 右疑義ノ点ニ関スル珍田大使ノ意見  
機密公第六四号 (大正三年一月十六日接受)

大正二年十二月十八日  
在米

特命全權大使子爵 珍 田 捨 己(印)  
外務大臣男爵 牧野伸顯 殿

日本臣民ハ加州ニ於テ不動産ヲ相続シ又ハ不動産ノ遺贈ヲ

受クルノ權利ヲ有スルヤ否ヤノ問題ニ対スル加州土地法ノ解釈ニ付義ニ本使ノ諮問ニ答ヘ諸法律家ノ提出セル意見書中論結ノ一致セサル所アルモ右相続人又ハ受遺者ニシテ米國ニ出生シ從テ米國法ニ依リ米國人ト認メラルハモノナル場合ニ関シテハ前頭意見書ハ何レモ直接ニ論及スル所ナク本使一己ノ意見ハ往電第二九七号ヲ以テ及稟報置候処其後別紙写ノ通右本使ノ意見ト共ニ各法律家ノ論結一致セサル諸点ヲ摘記シ「クラーク」氏ノ過般当地帰着ヲ待テ之ヲ示シ更ニ調査セシメタルニ同氏ハ篤ト講究ヲ遂ケタル上全然本使ノ意見ニ同意ヲ表シ本使ノ諒解スル通ニテ誤ナキコト、信スル旨答申致来候御参考迄此段申進候 敬具  
本信写送附先

在桑港総領事代理

(附屬書)

加州土地法中不動産ノ相続又ハ遺贈ニ関スル疑点ニ対スル珍田大使ノ意見

The memorandum prepared by counsel on August 1, 1913, concludes that the California alien land law does not preclude Japanese subjects from acquiring houses, manufactories, warehouses and

the authority to make any valid devise. As regards the right of Japanese subjects to inherit real property (land or buildings), Mr. Clark does not believe that the statute is intended to grant such right to ineligible aliens, unless it be that the word "acquire" appearing in Section 2 of the Act is broad enough to cover the case of inheritance.

Some discrepancies are thus noticeable between the concurrent views of counsel and the independent opinion of Mr. Clark, in regard, at least, to the right of Japanese subjects to take houses, manufactories, warehouses and shops, by devise or by inheritance.

There is nothing, however, either in the joint memorandum of counsel or in Mr. Clark's separate opinion, which calls in question the right of American citizens or of eligible aliens to inherit any real property owned by Japanese subjects. On the contrary, the express terms of Section 1 of the Act seem to accord to eligible aliens full authority to acquire such property by inheritance, without regard to the ineligibility of the deceased, and it is taken for granted that the same au-

shops in California by purchase, devise or inheritance. That conclusion is not circumscribed by any limitation respecting the status of persons from whom such property rights may be acquired, and it is presumed to be the opinion of counsel that Japanese subjects are permitted to take such property from other aliens ineligible to citizenship, as well as from American citizens or eligible aliens. With respect to real property, other than that of the kind above specified, counsel are of opinion that Japanese subjects are denied the right to take such property by devise or inheritance.

On the other hand, Mr. Clark, in his independent memorandums of August 5 and August 8, declares in effect that there is no authority whatever in the statute under examination, permitting ineligible aliens to devise their real property. It seems to follow from Mr. Clark's assertion that no persons, whether Japanese or otherwise, can legally acquire by devise any real property owned by Japanese subjects, since such Japanese owners, by reason of their non-eligibility, are deprived of

thority is invested in American citizens. It is further understood that all persons born in this country of Japanese parentage are, by the Constitution of the United States, American citizens, and, as such, stand on an equal footing with other citizens in the matter under discussion, as well as in all other matters affecting civil rights of the people.

Turning to the question of the right of American citizens (including those who, by reason of their birth in the United States, have acquired such citizenship) or eligible aliens to take real estate devised to them by Japanese subjects, the matter is not specifically treated in the joint memorandum of counsel, but, in view of the opinion therein expressed that Japanese subjects are free to acquire houses, manufactories, warehouses and shops by devise, it will no doubt be admitted by counsel that American citizens or eligible aliens enjoy the same freedom of taking real estate by devise from Japanese subjects, in so far, at least, as houses, manufactories, warehouses and shops are concerned. That conclusion, however, is not

likely to be shared by Mr. Clark. Following the line of arguments adopted by him, it will probably be contended, as has already been alluded to, that any devise of real property, (whether land or buildings), by Japanese subjects to aliens, eligible or ineligible, or even to American citizens, should be regarded as wholly null and void, because of the absence of necessary authority on the part of the devisors. In any case, it is believed that the property so devised is not subject to probate sale under Section 4, or to escheat under Sections 5 and 6, of the statute, since the terms of those Sections clearly indicate that such proceedings are applicable only in case the property is to be acquired by ineligible aliens, whereas, in

the given instance, the devisees are either American citizens or eligible aliens. Accordingly, if Mr. Clark's opinion is accepted, it should be concluded, it seems, that real property (land or buildings) devised by Japanese subjects to American citizens or to eligible aliens will not be transmitted to the devisees, but will pass to legal heirs. In case such heirs are American citizens or eligible aliens, they will be permitted to inherit the property in question, but, if they are Japanese subjects, the provisions of Section 4 of the Act will apply and a probate sale of such property will be ordered.

## 事項二 土地問題ニ関スル日米協約締結交渉

三六五 七月十一日 在米国珍田大使ヨリ  
牧野外務大臣宛、電報)

加州問題善後策トシテ日米間ニ土地所有権ニ関

スル相互の條約締結方提案ニ付稟申ノ件

別 電 同日珍田大使宛牧野外務大臣宛電報第二二二  
号

右条約案

### 第二二〇号

「カリフォルニア」州問題善後策ニ対スル國務長官ノ態度  
(註)ハ往電第二一九号ノ通り我ニ満足ヲ与フルコト能ハサルハ  
申迄モナク本使ニ於テハ極力我論点殊ニ追加覚書ノ論点ヲ  
主張シ置キタルモ結局同官ノ回答草案ハ大統領ノ認可ヲ得  
ルニ至ルヘク仮令萬一彼ニ於テ幾分我ガ主張ヲ容レテ自カ  
ラ起訴ノ手續ニ出ツルト仮想スルモ其効果ハ部分的ニ止マ  
リ土地法自身ヲ無効ニ帰セシムルガ如キハ到底之レヲ期待  
スルコト能ハサル所ナリ形勢斯ノ如キ以上ハ此際速カニ満  
足ノ解決ヲ得ルコトハ遺憾ナカラ断念セサルヲ得ス此上

二 土地問題ニ関スル日米協約締結交渉 三六五

彼我ノ間ニ條約解釈論ノ弁難ヲ重ヌルモ何等現実ノ効果ヲ  
収ムルコト能ハサルヘキニ付此際我ヨリ進ンテ具体的解決  
案ヲ提出シ何トカ本件ノ局ヲ結ブヘキ方法ヲ講スルコト最  
モ緊要ナリト思考ス右提案ニ関シ本使ノ卑見ニ依レハ此際  
幾分交渉ノ価値アリト認ムヘキモノハ別電第二二一号ノ如  
キ相互的條約締結方ヲ提案スルコトナリ但シ貴電第一二二  
号帰化権ノ有無ニ依リテ生シ得ヘキ将来ノ疑義ヲ防カンカ  
為メ本案ニ於テハ殊更ニ最惠國約款ノ形式ヲ避ケタリ尚  
右新條約ノ締結ハ「カリフォルニア」州土地法ニ対シ我ヨ  
リ提起セントスル訴訟ニ関シ不利益ノ影響ヲ蒙ムルノ虞レ  
之レナキヲ保シ難キニ付斯ノ如キ誤解ヲ避ケンカ為メニハ  
別ニ文書交換ヲ為シ置ク必要アリト思考ス然ルニ該案ハ直  
接効果ヨリ見レバ加州問題ニ対スル根本的解決タラサル事  
言フ要セサレトモ加州ニ於ケル本邦人既得權ノ現狀ヲ維持  
スルノ実利アルヘキト同時ニ同州其他各州ニ於テ将来排日  
的土地法ヲ防止スルコトヲ得ヘク又加州土地法ト雖将来州